

栃木県埋蔵文化財調査報告第 386 集

栗宮宮内遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査—

2017.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

あわ の みや みや うち い せき

栗宮宮内遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査—

2017.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

粟宮宮内遺跡は、栃木県南部の小山市粟宮地内に位置しています。

この度、主要地方道小山環状線建設に先立ち、路線内に所在する遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。すでに、平成19～20年に1次調査が行われ、古代の鍛冶関連遺物、中世以降の土坑、遺物が確認されています。

今回の2次調査・3次調査では、密集する長方形の土坑群、地下式坑、方形竪穴遺構、井戸跡及びこれらを区画する溝状遺構などを確認しました。中世以降の土師質土器、瓦質土器、陶磁器、鉄製品などが出土し、地域の歴史解明に資する成果が得られました。

本報告書は、平成27年度（2次調査）、平成28年度（3次調査）に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

本書が県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、小山市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

栃木県教育委員会

教育長 宇田 貞夫

例言

- 1 本書は、栃木県小山市粟宮地区内に所在する粟宮宮内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、平成27年及び平成28年度栃木県県土整備部道路整備課事業のうち、快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線中工区に伴う発掘調査に伴う記録調査である。
- 3 調査は、栃木県より財団法人とちぎ未来づくり財団へ業務委託され、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、実施したものである。
- 4 本遺跡の現地調査及び整理報告作業期間は以下の通りである。

平成27年度 発掘調査（発掘）

期 間	平成27（2015）年9月1日～平成27（2014）年11月30日
担当者	整理課課長 藤田典夫 調査課副主幹 後藤信祐 整理課副主幹 津野 仁 調査課嘱託調査員 大木丈夫

平成28年度 発掘調査（発掘・整理・報告）

期 間	（発掘） 平成28年（2016）年6月1日～平成28（2016）年11月30日 （整理・報告） 平成28年（2016）年8月1日～平成29（2017）年 3月30日
担当者	（発掘） 整理課課長 塚本師也 調査課嘱託調査員 大木丈夫 （整理・報告） 調査課副主幹 篠原浩恵

- 5 本書の執筆・報告書作成は篠原浩恵が行った。
- 6 粟宮宮内遺跡の調査にあたり、以下の事業を委託した。
基準点測量及び基準杭設定・航空写真撮影・遺構実測図：中央航業株式会社
岩石肉眼鑑定：バリノ・サーヴェイ株式会社
- 7 発掘調査における遺構の写真撮影は担当者が行った。遺物写真は報告書印刷に伴い株式会社松井P・T・O・印刷が行った。
- 8 金属製品の保存処理・X線撮影は埋蔵文化財センター調査部資料普及課副主幹車塚哲久が行った。
- 9 発掘調査・報告書作成にあたっては、次の方々から御指導・御協力を賜った。
栃木県県土整備部 栃木県教育委員会事務局文化財課 小山市教育委員会
- 10 発掘調査の参加者は、次の通りである。

平成27年度

荒井和子 海老原一夫 山本賀津子 山本照子 大橋ひさい 鈴木勇 阿部孝志 阿久津慧
横山政雄 片野廣 佐藤常幸 小崎重男 澤田照子 澤田福華 小崎俊也 澤田光央 小泉トモ子

平成28年度

荒井和子 天野崇弘 海老原一夫 山本照子 大橋ひさい 鈴木勇 阿部孝志 阿久津慧 横山政雄
片野廣 佐藤常幸 小崎重男 澤田照子 澤田福華 小泉トモ子 鈴木英男

- 11 整理・報告書作成作業の参加者は次の通りである。

和田恵美・佐藤愛・熊谷早苗・長道子・鈴木知子 図版データ化 佐藤愛

- 12 本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書をもって正式報告とする。
- 13 本遺跡の出土遺物・図面写真等資料については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

凡 例

1 遺跡

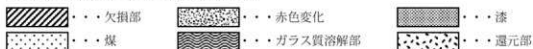
- (1) 遺跡の略号は OY-AW (OYamashi-AWanomiya) である。1次～3次調査の別を明示するため、第2次調査に「2」(OY-AW 2)、第3次調査に「3」(OY-AW 3)の枝番を伏す。

2 遺構

- (1) 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いる SA (塀・欄列)・SD (溝)・SE (井戸)・SK (土坑)・SX (性格不明遺構) に準拠する。地下式坑・方形竅穴については、現地調査を踏襲し「SK」とする。
- (2) 遺構図の縮尺は原則として 1/80 を用いる。これ以外の縮尺を用いる場合は挿図中にスケールで示す。
- (3) セクション図の「L.H.」は線上が標高を示す。
- (4) 方位は国土方眼座標に拠っている。
- (5) 土層堆積図の番号は堆積の順序を示すものではない。
- (6) 遺構図中の点線の示すものは本文に記載する。

3 遺物

- (1) 実測図の縮尺は原則として 1/4 を用い、これ以外の縮尺を用いる場合は挿図中にスケールで示す。
- (2) 挿図中の遺物番号は、遺構毎の出土番号及び遺物観察表並びに写真図版に対応する。
- (3) 縄土器の断面図に網掛けしたものは、胎土中に繊維を含む。
- (4) 須恵器の断面図は黒塗りで示す。
- (5) 土器実測図のスクリーントーンは以下を示す。



- (6) 遺物実測図・拓影図で内外面を示したものは、左側に外面、右側に内面を基本に表示した。
- (7) 石器・礫の左右面は任意であり、観察表中の表面は左面、裏面は右面を指すが、使用状況を示すものではない。
- (8) 図版・観察表及び本文の番号は一致する。
- (9) 事実記載及び観察表中の () 付き数値は残存値、[] 付き数値は推定値を示したものである。
- (10) 胎土の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修 1996年版)を参照した。
- (11) 土器類・陶磁器類の胎土については、以下に区分した

〈土師器・須恵器〉

A: きめ細かい B: ややきめ細かい C: やや粗い D: 粗い

1: 白色粒子 2: 黒色粒子 3: 灰白色粒子 4: 赤褐色粒子 5: ガラス質粒子

6: 砂粒 7: 小礫

〈土師質土器〉

- 胎土A：きめ細かい。混入物が目立たない。
- 胎土B：ややきめ細かい。混入物（細粒等）を少量含む。
- 胎土C：ややきめ細かい。混入物（細粒等）をやや多く含む。

〈瓦質土器〉（内耳土器は胎土C・Dにより区分する）

- 胎土A：きめ細かい。混入物が目立たない。
- 胎土B：ややきめ細かい。白色細粒・細砂粒を少量含む。
- 胎土C：若干きめが粗い。混入物をやや多く含む。雲母粒子を含まない。
- 胎土D：若干きめが粗い。混入物をやや多く含む。雲母粒子を含む。

〈陶器〉

- 胎土A：極めてきめ細かい。（精緻）混入物が目立たない。
- 胎土B：きめ細かい。（精緻）混入物が目立たない。
- 胎土C：きめ細かい。混入物を少量含む。
- 胎土D：ややきめ細かい。混入物を含む。
- 胎土E：若干きめが粗い。混入物をやや多く含む。

〈磁器〉

- 胎土A：きめ細かい。（精緻）混入物が目立たない。
- 胎土B：きめ細かい。（精緻）混入物を少量含む。
- 胎土C：きめ細かい。混入物を含む。
- 胎土D：ややきめ細かい。混入物を含む。
- 胎土E：若干きめが粗い。混入物を少量含む。
- 胎土F：若干きめが粗い。混入物を含む。

参考文献：2010 池田敏広 栃木県埋蔵文化財調査報告書第330集『下陰遺跡Ⅱ（遺物編）』

- 02 石製品・礫の○付き数字は附章石材肉眼鑑定結果表に対応する。
- 03 遺構・遺物の縮尺は不統一である。
- 04 実測図に同時掲載する遺物の縮尺は任意である。

目次

序	
例言	i
凡例	ii
目次	iv
第1章 調査にいたる経緯と経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	4
第2章 遺跡の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	9
第3章 確認された遺構と遺物	13
第1節 調査の概要	13
1. 基本土層	13
第2節 2次調査	13
1. 調査の概要	2. 地下式坑 (1) 調査の概要 (2) 地下式坑
3. 方形竪穴遺構 (1) 調査の概要 (2) 方形竪穴遺構	
4. 土坑 (1) 調査の概要 (2) 土坑	5. 井戸跡 (1) 調査の概要 (2) 井戸跡
6. 溝状遺構 (1) 調査の概要 (2) 溝状遺構	7. 柵列 (1) 調査の概要 (2) 柵列
8. ビット (1) 調査の概要 (2) ビット	9. 2次調査遺構外出土遺物
第3節 3次調査	144
1. 調査の概要	2. 地下式坑 (1) 調査の概要 (2) 地下式坑
3. 土坑 (1) 調査の概要 (2) 土坑	4. 井戸跡 (1) 調査の概要 (2) 井戸跡
5. 溝状遺構 (1) 調査の概要 (2) 溝状遺構	6. ビット (1) 調査の概要 (2) ビット
7. 性格不明遺構 (1) 調査の概要 (2) 性格不明遺構	
8. 3次調査遺構外出土遺物 (1) 調査の概要 (2) 遺構外出土遺物	
第4節 金属器・鉄滓・陶磁器	277
1. 金属器	2. 鉄滓
3. 陶磁器	
第4章 まとめ	294
第1節 調査の概要	294
第2節 遺構	294
1. 地下式坑	2. 土坑
3. 井戸跡	4. 溝状遺構
5. ビット	6. 遺構配置
第3節 出土遺物	299
1. 出土遺物の概要	2. 遺物の出土状況
3. 出土遺物	
第4節 粟宮宮内遺跡2次・3次調査	303
附章 自然科学分析	304
粟宮宮内遺跡発掘調査に係る岩石肉眼鑑定業務	304

挿図目次

第1図	栗宮宮内遺跡位置図	3	第33図	第74・75・81・82・84・641号土坑・第89・642号溝状遺構実測図	93
第2図	1～3次調査区配置図	5	第34図	第83・86・90・91・96・97・134号土坑・第88・708号ピット実測図	94
第3図	栗宮宮内遺跡遺構配置図	6	第35図	第98・99・103・104・135・136号土坑実測図	95
第4図	栃木県地形区分図	7	第36図	第108・110・112・115・137～139・735・736号土坑・第145号井戸跡・第140・146～151号ピット実測図	96
第5図	周辺地形区分図	8	第37図	第111・116・154～159・591・592号土坑・第593号ピット実測図	97
第6図	周辺遺跡分布図	11	第38図	第113・117・119・598・601・602号土坑・第594～597号ピット実測図	98
第7図	基本土層図	14	第39図	第121・152・589・590・625・628号土坑実測図	99
第8図	2次調査Ⅰ区遺構配置図	20	第40図	第76・78・79・85号土坑実測図	99
第9図	2次調査Ⅱ区遺構配置図	21	第41図	第94・711～714・716～733号土坑・第715号ピット実測図	100
第10図	2次調査Ⅲ-1区遺構配置図	22	第42図	第94・711～714・716～733号土坑・第342号ピット重複模式図	100
第11図	2次調査Ⅲ-2区遺構配置図	23	第43図	第94・711～714・716～733号土坑実測図	101
第12図	2次調査Ⅲ-3区遺構配置図	24	第44図	第4・8・23・28・35・37・41号土坑出土遺物実測図	103
第13図	第1号地下式坑・第2・3・15～17・122・123号土坑実測図	29	第45図	第42～44・46～48・51・54・69・71・73・75号土坑出土遺物実測図	104
第14図	第9・10号地下式坑・第5～8・18・125～131号土坑実測図	30	第46図	第78・79・82・83・94・104・107・113・115号土坑出土遺物実測図	105
第15図	第9・10号地下式坑・第5～8・125～131号土坑実測図実測図	31	第47図	第613・626号土坑出土遺物実測図	106
第16図	第11号地下式坑・第565号方形竪穴遺構・第132号土坑実測図	31	第48図	第26・27・30・77・100・118・566号井戸跡実測図	116
第17図	第705号地下式坑・第707号方形竪穴遺構・第87・92・93号井戸跡・第95・704・706号土坑実測図	32	第49図	第77・92・93号井戸跡出土遺物実測図	117
第18図	第106・114号地下式坑・第25・153号土坑・第154・155号ピット実測図	33	第50図	第19・21号溝状遺構・第142号土坑・第143号井戸跡・第141号ピット実測図	122
第19図	第1・10・106・114・565号埋地下式坑出土遺物実測図	34	第51図	第19・21号溝状遺構・第142・144号土坑実測図	123
第20図	第24・109号方形竪穴遺構・第567号土坑・第603・604号井戸跡実測図	37	第52図	第64・72・633号溝状遺構・第33・35・39・44・52・69・626・627・737号土坑実測図	124
第21図	第105号方形竪穴遺構・第101・102・107・133号土坑実測図	38	第53図	第19・21号溝状遺構出土遺物実測図	125
第22図	第24・105号方形竪穴遺構出土遺物実測図	38	第54図	第21号溝状遺構出土遺物実測図(1)	126
第23図	第4・20・22・23・29・31・32号土坑実測図	85	第55図	第21号溝状遺構出土遺物実測図(2)	127
第24図	第28・40・47・48・50・53・55・599・600・649～651号土坑実測図	86	第56図	第120号櫛列・第200・574～588号ピット実測図(1)	130
第25図	第37・51・643～648号土坑実測図	87	第57図	第120号櫛列・第200・574～588号ピット実測図(2)	131
第26図	第38・41・45・46・49・635～639・738・739号土坑・第600～610・740～744号ピット実測図	88	第58図	第120号櫛列出土遺物実測図	132
第27図	第56・58・60・63・65・66・73号土坑・第611・624・634・640号ピット実測図	89	第59図	第34～37・39・605・629～632号ピット実測図	133
第28図	第42・43・54・613～619号土坑実測図(1)	90	第60図	第57・59・62・652～677号ピット実測図	134
第29図	第42・43・54・613～619号土坑内ピット配置図	90	第61図	第678～703・734号ピット実測図	135
第30図	第42・43・54・613～619号重複模式図	90	第62図	遺構外出土遺物実測図	142
第31図	第42・43・54・613～619号土坑実測図(2)	91	第63図	D-Ⅱ区全体図	145
第32図	第61・67・68・70・71・80・612・620～623・710号土坑・第709号ピット実測図	92	第64図	第214号地下式坑・第217・249・258号土坑・第760・761号ピット実測図	149

第 65 図	第 338 号地下式坑・第 385 号土坑 実測図 ……………150	第 85 図	第 410～415・419・420・806 号土坑・ 第 500・556・558・559・832～835 号ビット実測図 ……………210
第 66 図	第 370 号地下式坑・第 371 号溝状遺構 実測図 ……………151	第 86 図	第 421～426・432～440・444・451・ 452 号土坑・第 441～443・492・830 号ビット実測図 ……………211
第 67 図	第 374 号地下式坑・第 364・376 号溝状 遺構・第 340 号井戸跡・第 328・343・ 344・348～350・354・366・372・373・ 375・383・386・852 号土坑・第 853～ 860 号ビット実測図 ……………152	第 87 図	第 446～450・484・841・843～846 号土坑・第 840・842 号ビット実測図 ……212
第 68 図	第 374 号地下式坑・第 364・376 号溝状 遺構・第 340 号井戸跡・第 328・343・ 344・348～350・354・366・372・373・ 375・383・386・852 号土坑・第 853・ 854・856・857・860 号ビット実測図 ……153	第 88 図	第 453・454・456～459・461～465・ 467～469・810・811・814・818 号土坑・ 第 812・813・815～817・819 号ビット 実測図 ……………213
第 69 図	第 214・338・374 号土坑出土遺物 実測図 ……………155	第 89 図	第 470・485・487～490・519・522・561・ 836 号土坑・第 518 号ビット実測図 ……214
第 70 図	第 374 号土坑出土遺物実測図 (1) ……156	第 90 図	第 220・221・239・249・250・254・ 259・266・332 号土坑出土遺物実測図 ……216
第 71 図	第 374 号土坑出土遺物実測図 (2) ……157	第 91 図	第 332・375 号土坑出土遺物実測図 ……217
第 72 図	第 204・205・211・242～248・250～ 254・268・762～766 号土坑・第 767～ 781 号ビット実測図 ……………194	第 92 図	第 381・386・410・447・469・489 号 土坑出土遺物実測図 ……………218
第 73 図	第 202 号溝状遺構・第 206・207・213・ 230・231 号井戸跡・第 215・219・228・237・ 240 号土坑・第 785 号ビット実測図 ……196	第 93 図	第 485 号土坑出土遺物実測図 ……………219
第 74 図	第 208・212・216・220・241・259・270 号 土坑・第 218・746 号ビット実測図 ……198	第 94 図	第 203・265・269・337・339・353・ 862 号井戸跡・第 861 号ビット実測図 ……228
第 75 図	第 221～227 号土坑・第 782～784 号 ビット実測図 ……………199	第 95 図	第 380・399・405・445 号井戸跡 実測図 ……………229
第 76 図	第 209 号井戸跡・第 236・239・257 号 土坑・第 229・232～235・747～759 号ビット実測図 ……………200	第 96 図	第 207・209・263・269・445 号井戸跡 出土遺物実測図 ……………230
第 77 図	第 19 号溝状遺構・第 255・256・266・ 271 号土坑実測図 ……………201	第 97 図	第 243 号井戸跡出土遺物実測図 ……231
第 78 図	第 263・788 号井戸跡・第 260～262・ 264・272・273 号土坑実測図 ……202	第 98 図	第 12・201 号溝状遺構・第 786・787 号 ビット実測図 ……………243
第 79 図	第 274・275・315・317・322・324～327・ 336 号土坑・第 321 号井戸跡実測図 ……203	第 99 図	第 13・14 号溝状遺構・第 277～287 号 ビット実測図 ……………244
第 80 図	第 333 号井戸跡・第 341・342・345～ 347・351・367・381 号土坑・第 867～ 869 号ビット実測図 ……………204	第 100 図	第 13 号溝状遺構・第 795・799 号ビット 実測図 ……………245
第 81 図	第 387・396・400～404・406～408・ 416～418・837 号土坑・第 507・560 号 ビット実測図 ……………205	第 101 図	第 114 号溝状遺構実測図 ……………245
第 82 図	第 409 号土坑・第 466・471～475・477・ 479～482・502・520・552・847～851 号ビット実測図 ……………206	第 102 図	第 276 号溝状遺構・第 341 号土坑 実測図 ……………246
第 83 図	第 379・393 号溝状遺構・第 368・369・ 378・384・389・390・862 号井戸跡・ 第 332・352・365・377・382・391・ 392・394・395・398・863・865 号 土坑・第 864・866 号ビット実測図 ……207	第 103 図	第 12～14 号溝状遺構出土遺物実測図 ……248
第 84 図	第 379・393 号溝状遺構・第 368・369・ 378・384・389・390・862 号井戸跡・ 第 332・352・365・377・382・391・ 392・394・395・398・863 号土坑・ 第 864 号ビット実測図 ……………208	第 104 図	第 14 号溝状遺構出土遺物実測図 (1) ……249
		第 105 図	第 14 号溝状遺構出土遺物実測図 (2) ……250
		第 106 図	第 19 号溝状遺構出土遺物実測図 ……251
		第 107 図	第 201・202・364 号溝状遺構出土遺物 実測図 ……………252
		第 108 図	第 371・376・393 号溝状遺構出土遺物 実測図 ……………253
		第 109 図	第 329～331・355～363 号ビット 実測図 ……………260
		第 110 図	第 483・486・493～498・501・503～ 505・523・524・551・554・555・562・ 563・820～823 号ビット実測図 ……261
		第 111 図	第 499・506・508～517・525～532・ 534～550・824～829 号ビット実測図 ……262
		第 112 図	第 334・491 号性格不明遺構・第 335・ 807・870 号ビット実測図 ……………270
		第 113 図	遺構外出土遺物実測図 ……………276
		第 114 図	金属器実測図 ……………278

第115图	古銭実測図	279	第121图	3次調査区出土陶磁器実測図(4)	288
第116图	2次調査区出土陶磁器実測図(1)	283	第122图	3次調査 A区 遺構配置図	291
第117图	2次調査区出土陶磁器実測図(2)	284	第123图	3次調査 B区 遺構配置図	292
第118图	3次調査区出土陶磁器実測図(1)	285	第124图	3次調査 C区 遺構配置図	293
第119图	3次調査区出土陶磁器実測図(2)	286	第125图	3次調査 D区 遺構配置図	294
第120图	3次調査区出土陶磁器実測図(3)	287	第126图	2次・3次調査遺構配置図	298

表 目 次

表1	周辺遺跡一覧表	12	表48	遺構外(Ⅱ区)出土遺物観察表	143
表2	粟宮宮内遺跡遺構一覧表	15	表49	遺構外(Ⅲ-1区)出土遺物観察表	143
表3	第10号地下式坑出土遺物観察表	35	表50	遺構外(第2次調査区内)出土遺物観察表	143
表4	第12号地下式坑出土遺物観察表	35	表51	第214号土坑出土遺物観察表	157
表5	第106号地下式坑出土遺物観察表	35	表52	第338号土坑出土遺物観察表	157
表6	第114号地下式坑出土遺物観察表	35	表53	第374号土坑出土遺物観察表	157
表7	第24号方形竪穴遺構出土遺物観察表	39	表54	第220号土坑出土遺物観察表	218
表8	第105号方形竪穴遺構出土遺物観察表	39	表55	第221号土坑出土遺物観察表	218
表9	第4号土坑出土遺物観察表	107	表56	第239号土坑出土遺物観察表	218
表10	第8号土坑出土遺物観察表	107	表57	第249号土坑出土遺物観察表	218
表11	第23号土坑出土遺物観察表	107	表58	第250号土坑出土遺物観察表	220
表12	第28号土坑出土遺物観察表	107	表59	第254号土坑出土遺物観察表	220
表13	第35号土坑出土遺物観察表	107	表60	第259号土坑出土遺物観察表	220
表14	第37号土坑出土遺物観察表	107	表61	第266号土坑出土遺物観察表	220
表15	第41号土坑出土遺物観察表	107	表62	第332号土坑出土遺物観察表	220
表16	第42号土坑出土遺物観察表	108	表63	第375号土坑出土遺物観察表	221
表17	第43号土坑出土遺物観察表	108	表64	第381号土坑出土遺物観察表	221
表18	第44号土坑出土遺物観察表	109	表65	第386号土坑出土遺物観察表	221
表19	第46号土坑出土遺物観察表	109	表66	第410号土坑出土遺物観察表	221
表20	第47号土坑出土遺物観察表	109	表67	第447号土坑出土遺物観察表	221
表21	第48号土坑出土遺物観察表	109	表68	第469号土坑出土遺物観察表	221
表22	第51号土坑出土遺物観察表	109	表69	第489号土坑出土遺物観察表	221
表23	第54号土坑出土遺物観察表	109	表70	第485号土坑出土遺物観察表	221
表24	第69号土坑出土遺物観察表	109	表71	第207号井戸跡出土遺物観察表	232
表25	第71号土坑出土遺物観察表	109	表72	第209号井戸跡出土遺物観察表	232
表26	第73号土坑出土遺物観察表	109	表73	第243号井戸跡出土遺物観察表	232
表27	第75号土坑出土遺物観察表	110	表74	第263号井戸跡出土遺物観察表	232
表28	第78号土坑出土遺物観察表	110	表75	第269号井戸跡出土遺物観察表	232
表29	第79号土坑出土遺物観察表	110	表76	第445号井戸跡出土遺物観察表	232
表30	第82号土坑出土遺物観察表	110	表77	第12号溝状遺構出土遺物観察表	254
表31	第83号土坑出土遺物観察表	110	表78	第13号溝状遺構出土遺物観察表	254
表32	第94号土坑出土遺物観察表	110	表79	第14号溝状遺構出土遺物観察表	254
表33	第104号土坑出土遺物観察表	111	表80	第19号溝状遺構出土遺物観察表	256
表34	第107号土坑出土遺物観察表	111	表81	第201号溝状遺構出土遺物観察表	256
表35	第113号土坑出土遺物観察表	111	表82	第202号溝状遺構出土遺物観察表	256
表36	第115号土坑出土遺物観察表	111	表83	第364号溝状遺構出土遺物観察表	257
表37	第613号土坑出土遺物観察表	111	表84	第371号溝状遺構出土遺物観察表	257
表38	第626号土坑出土遺物観察表	112	表85	第376号溝状遺構出土遺物観察表	257
表39	第77号井戸跡出土遺物観察表	117	表86	第393号溝状遺構出土遺物観察表	258
表40	第92号井戸跡出土遺物観察表	118	表87	3次調査区確認ピット表	263
表41	第93号井戸跡出土遺物観察表	118	表88	遺構外出土遺物観察表	277
表42	第21号溝状遺構ピット一覧表	123	表89	2次調査区出土金属器観察表	280
表43	第19号溝状遺構出土遺物観察表	127	表90	3次調査区出土金属器観察表	280
表44	第21号溝状遺構出土遺物観察表	127	表91	2次調査区出土鉄滓観察表	282
表45	第120号欄列出土遺物観察表	132	表92	3次調査区出土鉄滓観察表	282
表46	2次調査区確認ピット表	136	表93	2次調査区出土陶磁器観察表	288
表47	遺構外(Ⅰ区)出土遺物観察表	142	表94	3次調査区出土陶磁器観察表	289

図版目次

図版一	遺構 調査区遠景・思川をのぞむ(3次調査A区)・ (南上空から) 調査区遠景・安房神社をのぞむ(3次調査 D区)・(南上空から)	図版八	遺構 SD-19・21(南東から) SD-21 遺物出土状況(西から) SD-21 遺物出土状況(東から) SD-64(北東から) 3次調査区A区調査風景(南西から) 3次調査D区全景(西から) SK-214(地下式坑)(南東から) SK-370(地下式坑)(北東から)
図版二	遺構 1～3次調査区全景	図版九	遺構 SK-338(地下式坑)(北東から) SK-338(地下式坑)(南東から) SK-374(地下式坑)・SD-364(北東から) SK-204・762(北東から) SK-208(西から) SK-216(西から) SK-219(南から) P-19 グリッド SK-221 付近土坑群(北から)
図版三	遺構 2次調査Ⅲ-2区全景(北西から) 2次調査Ⅲ-3区全景(北西から) SK-1(地下式坑)・SK-2・3・16・122・123 (東から) SK-9・10(地下式坑)(南から) SK-15・17(地下式坑)(西から) SK-25(地下式坑)(北東から) SK-106(地下式坑)(北西から) SK-114(地下式坑)(北東から)	図版一〇	遺構 SK-241・259(南西から) Q-19 グリッド SK-211 付近土坑群(北東から) Q-19 グリッド SK-247 付近土坑群(北から) SK-255・256・264・266・SD-19(北から) SK-258(南西から) SK-260～262・SE-263(北西から) SK-314(南東から) SK-322・SE-321(北東から)
図版四	遺構 SK-142(地下式坑)・SK-144・SD-19(南から) SK-565(地下式坑)(西から) SK-705(地下式坑)・SK-707(方形竪穴)・ SK-95・706(北から) SK-24(方形竪穴)・SE-603・604(南西から) SK-105(方形竪穴)・SK-101(西から) SK-109(方形竪穴)(南西から) SK-567(方形竪穴)(南から) SK-4・104(北東から)	図版一一	遺構 SK-325・326(西から) SK-343(北から) SK-348～350(北西から) SK-365(西から) C区 L-11 グリッド付近 SK-418 周辺(北西から) SK-438 周辺(南東から) SK-485(南西から) SK-487 周辺(南西から)
図版五	遺構 SK-20(南から) SK-23(南から) SK-33・35・44・52・SD-64(北東から) SK-41(南から) SK-42・43 付近(南から) SK-42・43 付近遺物出土状況(南から) SK-46(南から) SK-47(南から)	図版一二	遺構 SE-203(北から) SE-209(北西から) SE-243(東から) SE-337(北から) SE-380(南西から) SD-13・14 全景(北東から) SD-14 湧水状況(北東から) SD-14 調査風景(北東から)
図版六	遺構 SK-61(北西から) SK-82(北東から) SK-85(北から) SK-107(南西から) SK-111・155～159(東から) SK-113・228・229・P-189(北から) SK-115・137～139(南東から) SK-121(北東から)	図版一三	遺構 SD-12 全景(西から) SD-19(北から) SD-202(南西から) SD-276(北から) SD-364・376(南東から) SD-379・393(北から) SX-491(南から) P-229 遺物出土状況(南東から)
図版七	遺構 Ⅲ-3区 L-10 グリッド付近土坑群(北東から) SE-13(北東から) SE-26(南から) SE-87(西から) SE-93(南西から) SE-118(北東から) SK-145・SE-110(北東から) SA-120(北東から)		

図版一四	遺物	
	SK-106 (地) .5	SK-42.5
	SK-54.1	SE-77.1
	SE-77.2	SE-93.3
	SD-21.15	SD-21.18
	SD-21.25	SD-21.28
	SK-374 (地) .18	SK-374 (地) .19
	SK-374 (地) .24	SK-374 (地) .34
	SK-374 (地) .39	SK-374 (地) .36
	SK-374 (地) .37	SK-374 (地) .38

図版一五	遺物	
	SK-239.1	SK-239.2
	SK-332.1	SK-332.3
	SK-332.4	SK-332.5
	SK-332.6	SK-332.7
	SK-485.2	SK-375.3
	SK-485.3	SK-485.4
	SE-445.1	SD-19.7・8
	SD-19.6	SD-14.29
	SD-376.5	
	整理作業状況 (遺物洗浄)	
	整理作業参加者	

図版一六	遺物	
	遺構外 .16	遺構外 .17
	遺構外 .19	SD-14.37
	SD-19.15	SE-243.1

第1章 調査にいたる経緯と経過

第1節 調査の経緯

粟宮宮内遺跡2次・3次調査は、栃木県県土整備部の行う「快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査」に伴う記録保存のための発掘調査として実施された。

小山市は栃木県南部に位置する。人口165,000人を超える県下第二の都市であり、県南地域の中心である。また、東京から60km圏内にあり、東西南北に走る鉄道（JR東北新幹線・宇都宮線、両毛線・水戸線）、国道（4号国道・新4号国道、50号国道）の結節地として、首都圏の一角を形成する。市街は、市域中央部を南流する思川東岸に広がる。縁辺部は、思川や市域東・西部を南流する田川・巴波川の水利に沃する農業集散地であるとともに、工業団地が造成され、工業地としての発展も目覚ましい。

主要地方道小山環状線（栃木県道33号）は、市街地・農村部・工業地域を結ぶ外周路であり、結節点は本遺跡の東側の至近に位置する4号国道粟宮南交差点である。交差点付近は、旧来の道路の狭小さや、屈曲の多いルートなどから、交通量の増大に対応できない状況にあったことに加え、思川に架かる旧間中橋が沈下橋であることが、円滑な通行の妨げとなっていた。このため、間中橋を永久橋に架け替え、新たな取り付け道路を整備することが急務となった。路線区内に位置する粟宮宮内遺跡については、平成9・12年度に所在分布調査、平成18年度に確認調査を行い、平成19年度の発掘調査、平成20年度に立ち会い調査をもって1次調査とし、平成22年度に栃木県埋蔵文化財調査報告第336集『千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡』が上梓された。未調査の区域については、用地買収の進捗に併せ、発掘調査を実施し、成果を報告書として刊行する記録保存を行う計画となった。

この計画に則り、平成26年9月に栃木土木事務所と栃木県教育委員会事務局文化財課との間で、埋蔵文化財打合せが行われ、用地買収の進捗がみられた工区について、平成27年度から発掘調査を再開する方向で調整が開始された。

2次調査は、平成27年6月1日付け道整号外「平成27年度埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」にて、県土整備部長から教育委員会教育長あて、発掘作業の依頼がなされた。これを受け、平成27年7月1日付け文財号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、発掘調査の費用見積もりが依頼され、同日付けとち埋文号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積について（回答）」にて費用見積もりの回答を行った。次いで、平成27年8月3日付け文財号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、委託契約締結の依頼がなされ、同日付けとち埋文号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について」にて、これを受諾、平成27年8月3日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、栃木県知事と公益財団とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託契約が取り交わされ、委託業務の契約が締結された。

3次調査は、平成28年5月16日付け道整号外「平成28年度埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」にて、県土整備部長から教育委員会委員長あてに、発掘作業、整理作業・報告書刊行作業の依頼がなされた。これを受け、平成28年5月25日付け文財号外「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、

第1章 調査にいたる経緯と経過

発掘調査の費用見積もりが依頼がなされ、同日付けとち埋文第20号「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積もりについて（回答）」にて費用見積もりの回答を行った。次いで、平成28年6月1日付け文財号外「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あて、委託契約締結の依頼がなされ、同日付けとち埋文第44号「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について」にて、これを受諾、平成28年6月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、栃木県知事と公益財団とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託契約が取り交わされ、委託業務の契約が締結された。発掘調査着手後、現地調査の進捗、調査成果に併せ、調査費用について、県土整備部との間で調整が行われ、平成29年2月1日付け文財号外「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の変更委託契約の締結について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、変更委託契約締結の依頼がなされ、同日付けとち埋文第126号「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について」にて、これを受諾、平成29年2月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、栃木県知事と公益財団とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託契約が取り交わされ、委託業務の変更契約が締結された。

以上の契約を執行した結果、平成29年3月30日に本書が上梓され、粟宮宮内遺跡発掘調査（快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査）は終了した。

この間、平成28年11月29日午後14時、1次・2次調査区を含む主要地方道小山環状線（第1図実線）の一部開通に至り、同日午前10時より開通式が行われた。



開通間近の主要地方道小山環状線間中工区と3次調査B区（東から）

第2節 調査の経過

粟宮宮内遺跡2次・3次発掘調査は、平成27・28年度に現地調査を行い、平成28年度に整理作業・報告書作成作業を行った。以下に調査の概略を記す。

平成27年度 現地調査

調査範囲	3,601.5㎡
調査費用	18,066,000円（うち消費税及び地方消費税の額1,338,222円）
契約期間	平成27年8月3日～平成27年3月30日の4ヶ月間
調査期間	平成27年8月3日～平成27年11月30日
調査の経過	平成27年8月4日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議 平成27年8月28日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議 平成27年8月3日～9月11日 発掘諸準備 平成27年9月7日～11月30日 発掘作業 平成27年11月30日 機材・現地事務所撤収

平成28年度 現地調査 整理作業・報告書刊行作業

調査範囲	2,559㎡
------	--------



第1図 粟宮宮内遺跡位置図

第1章 調査にいたる経緯と経過

調査費用	当初 45,256,000円（うち消費税及び地方消費税の額3,352,296円） 変更後 42,477,000円（うち消費税及び地方消費税の額3,146,444円）
契約期間	平成28年6月1日～平成29年3月30日 現地調査6ヶ月間 整理作業・報告書刊行作業8ヶ月間
調査期間	現地調査 平成28年6月1日～平成28年11月30日 整理作業・報告書刊行作業 平成28年8月1日～平成29年3月30日
調査の経過	現地調査 平成27年8月4日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議 平成27年8月28日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議 平成28年6月1日～6月24日 発掘準備 平成28年6月27日～11月22日 発掘作業 平成28年11月24日～11月28日 現地埋め戻し 平成28年11月29日 機材・現地事務所撤収 整理作業・報告書作成 平成28年8月1日～平成29年3月30日 栃木県埋蔵文化財センターにて実施 平成29年3月30日 栃木県埋蔵文化財調査報告第386集 『粟宮宮内遺跡-快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山 環状線間中工区に伴う発掘調査-』刊行

第3節 調査の方法

【現地調査】

遺構・遺物の調査は、以下の手順・手法で行った。

- 1 重機による表土除去後、遺構確認作業及び国家座標に基づくグリッド杭建植。
グリッドは10m四方とし、端数にあたる地区にはm単位で杭を建植。
グリッド・グリッド番号は1次調査に依る。グリッドは東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットを付し、西方向および北方向に昇順する。グリッド番号は西辺グリッドラインのアルファベットと南辺グリッドラインのアラビア数字の組み合わせで表記する。
- 2 遺構・遺物については、以下を基本に行った。
 - ① 遺構の中央に土層観察用のベルト（セクションベルト）を設定、これを残し、覆土の除去。
この間に出土した遺物のついては、遺構ごとに記録した。
 - ② 覆土除去後土層堆積状況を記録（セクション図作成）・写真撮影。
 - ③ セクションベルト除去後、出土遺物の位置・出土高さを記録（遺物出土状況図作成）。
写真撮影後、遺物取り上げ。
 - ④ 遺構全体の平面図作成、レベルング（遺構内の高さを記録）及び写真撮影。
 - ⑤ 平面図・遺物出土状況図の作成については、2次調査は平板測量及び専門業者への委託、3次調査は専門業者への委託による写真図化を行った。
 - ⑥ 諸作図については、1/20の縮尺を基本に行った。
- 3 遺構写真撮影はデジタルカメラ・35mmリバーサルフィルムを用いた。

【整理作業】

整理作業は栃木県埋蔵文化財センターで行った。

現地作成の実測図及び写真撮影図化による実測図は、事実確認後、第二原図を作成、センターにおいてコンピュータートレースで図版化し、報告書印刷時に修正・補正を行った。

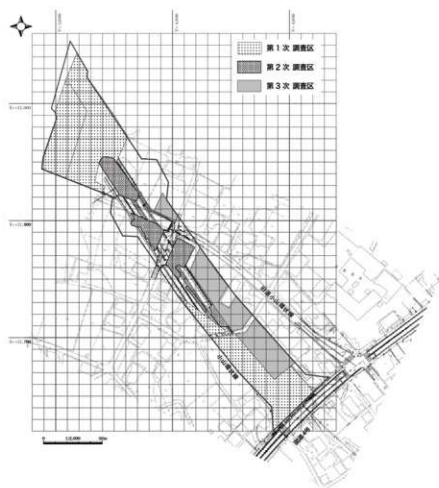
出土遺物は、洗浄・注記作業後接合作業を行い、欠失部分についてはクレイテックスを充填し、復元及び補強、遺物実測図作成を行った。図化した実測図は浄書（トレース）し、専門業者への委託によるスキャン・編集を行いデジタルデータ化し図版とした。

上記の作業に併行して、遺構・遺物の事実記載等の原稿執筆、遺物観察表等の表作成・執筆を行うとともに、遺物の写真撮影を行った。

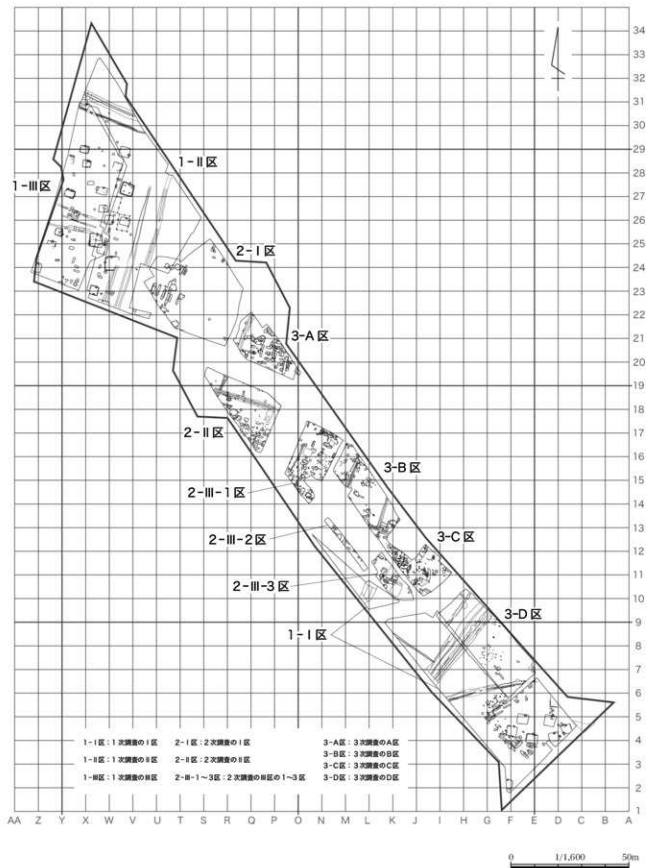
【報告書作成作業】

報告書刊行に必要な実調査以外の原稿執筆・図版作成を行い、遺構・遺物図版、原稿等と併せ割付し、印刷・校正後、刊行となった。

本報告書に係る遺物、遺構・遺物実測図・写真、空中写真等の成果品、各種台帳の整理を行い、収蔵庫・記録保管室に収納し、粟宮宮内遺跡発掘調査の全ての作業を完了した。



第2図 1～3次調査区配置図



第3図 粟宮宮内遺跡遺構配置図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

【位置】

粟宮宮内遺跡は栃木県小山市粟宮宮内に所在する。

栃木県は関東平野の最北にあり、東は茨城県、西は群馬県、南は埼玉県、北は福島県に隣接する内陸県である。東・西側の山塊と中央部に開けた細長い平地帯とに三分でき、各々は東部山地・西部山地・中央部平野と呼称される。中央部平地は南に開け、北は福島県中通へと続く地形的特徴から、古来より、関東地方と東北地方を結ぶ交通路とされてきた。

小山市は栃木県南東部にあり、東～南東境は茨城県と接する。県庁所在地である宇都宮市からは南方向約30kmに位置する。古くから交通の要衝として栄え、戦国時代には関東・東北地方を繋ぐ路上にあって「小山評定」の舞台となった。現在でも、鉄道・幹線道路が縦横に走る結節地であり、東京から60km圏内の首都圏に含まれる。平成17年には人口16万人を超え、文字通り県下第二の都市であり、県南地域の中心である。

市域の中央部は城下町の名残を残す市街地、緑辺部は旧来の農村地に加え、交通網の結節地である利点を活かし、工業団地が造成される。

本遺跡の現況は、日光街道沿いに形成された集落を中心とする。

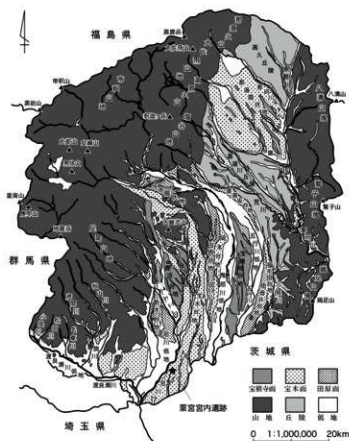
【地形】

本遺跡周辺は、思川東岸、中央部平地西縁辺の南端部にあたる。

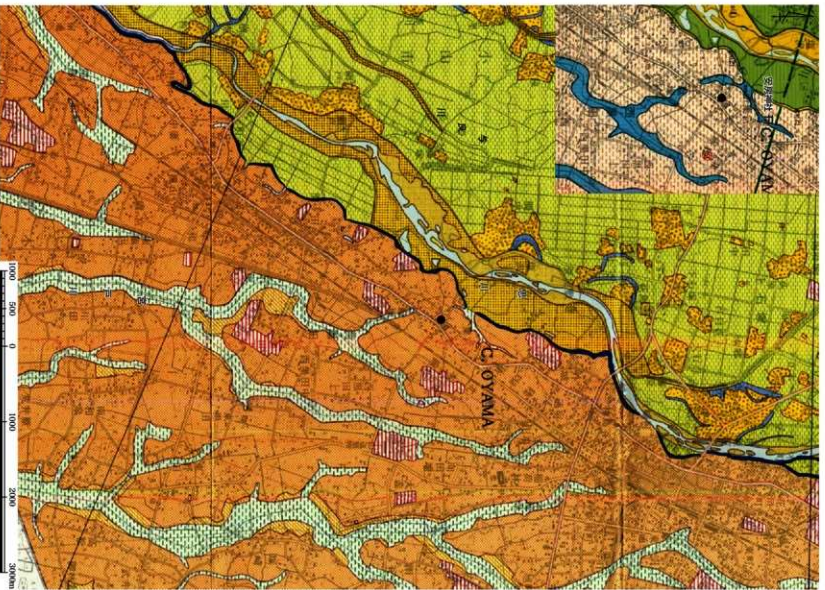
思川は、西部山地の前日光山地を源流とし、波瀬遊水池を経て渡良瀬川に注ぐ。河岸段丘を形成し、本遺跡をはじめ、多くの遺跡が存在する。

中央部平地は、主として、南流する河川の浸食によってもたらされた細長い沖積低地と河岸段丘面とからなり、堆積した火山灰層（関東ローム層）の層序関係等によって、宝積寺面→宝木面→田原面→絹島低地（沖積低地）に形成時期が区分される。台地は概ね平坦で南北に延び、南に向かって緩やかに傾斜する。

本遺跡はローム層中位の宝木面が形成する小山台地の西縁辺部に位置する。西側の思川低地とは明瞭な崖線によって区分される。小山台地は南流する複数の河川が形成する浸食谷が発達し、台地面を開析する。浸食谷は幅100m前後であり、谷底は水田としての利用が多い。



第4図 栃木県地形区分図



第5図 周辺地形区分図

本遺跡は、遺跡東方約1.25kmの小山市神鳥谷付近から発する宮戸川に続く小支谷の北端部東側に位置する。本遺跡と西側に位置する千駄塚浅間遺跡とを分かち小支谷である。本遺跡は小支谷に遮られ、台地端部への広がりには確認されないが、思川に面する台地端部は僅かに張り出す地形である。

表層の土壌堆積状況は黒ボク土壌米神統である。風積の黒ボク土壌であり、台地の谷間に沿って分布する。表層腐植はやや淡く、下層は黄褐色である。土性は壤土である。

粟宮宮内遺跡の標高は31.0～31.9 m、西側の思川低地面の標高は15.0 m前後、比高15.0 m前後である。

【参考文献】

- 1986年 栃木県企画部資源対策課 『土地分類基本調査 深谷・古河・小山』 栃木県
 1997年 小山市教育委員会編 『小山市遺跡分布図・地名表』 小山市教育委員会
 栃木県埋蔵文化財調査報告第233集 栃木県教育委員会

第2節 歴史的環境

遺跡の位置する小山市内の埋蔵文化財包蔵地の分布状況については、小山市教育委員会刊行『小山市遺跡分布図・地名図(改訂版)』(1997年)にて詳細な調査が行われており、市内419カ所の遺跡の報告がなされている。本遺跡一次調査報告である栃木県埋蔵文化財調査報告第336集『千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡』第2章第2節「周辺の遺跡」はこれらを元に思川東岸域の本遺跡周辺遺跡の記載がなされており、本節は既刊の抜粋を中心とする。

【縄文時代】

調査区内からは、前期から後期の土器片が出土する。

本遺跡周辺においては、本調査同様、前期から後期にかけての遺物の分布が広範囲にわたり確認されている。粟宮宮内遺跡(2)を含め、千駄塚浅間遺跡(1)、下国府塚屋宮遺跡(3)、外城遺跡(13)、神鳥谷遺跡(16)、神鳥谷殿治町遺跡(19)、粟宮宮内東遺跡(26)、間々田牧ノ内遺跡(31)、西黒田遺跡(38)羽貫遺跡(39)などがあげられる。また、粟宮宮内北遺跡(22)では、前期黒浜式の竪穴住居跡2軒が調査されている。

【古墳時代】

本調査区からは、僅少ではあるが、6世紀代の可能性のある土師器や須恵器の小片が出土する。

周辺域の主な集落遺跡としては、千駄塚浅間遺跡(1)、神鳥谷遺跡(16)、間々田牧ノ内遺跡(31)などがあげられる。千駄塚浅間遺跡(1)は昭和61・62年、平成3・4・19年に調査が行われ、前期から後期の竪穴住居跡160軒以上が確認される。神鳥谷遺跡(16)は昭和57年に調査が行われ、前期の竪穴住居跡6軒が確認される。間々田牧ノ内遺跡(31)は平成2年に調査が行われ、竪穴住居跡16軒が確認される。

周辺の主な古墳群としては、外城古墳群(14)、宮内古墳群(25)、千駄塚古墳群、間々田牧ノ内古墳群(32)、間々田八幡古墳群(33)などがあげられる。思川東岸の河岸段丘上に、南北に連続して古墳群が形成される。これに比し、思川西岸は下国府塚周辺に、妙見古墳跡(6)、国府神社古墳(7)、天神古墳(8)、下国府愛宕塚神社古墳(9)などが散見される程度である。

【奈良・平安時代】

本調査区からは須恵器の小片が出土する。

周辺の遺跡分布から特筆されるのは、本遺跡と小枝谷を挟んだ近距離に位置する千駄塚浅間遺跡(1)である。平成3・4年に実施された発掘調査において大型孤立柱建物跡35棟、基壇建物跡3基、「寒川」・「厨」・「寒厨」の黒書土器が確認されている。同時期の竪穴住居が確認されないこと、区画溝内に複数時期におよぶ掘

立柱建物跡が整然と配置されることなどから、官衙関連遺跡の可能性が指摘され、正倉城、もしくは「郡倉別院」と考えられている。

主な集落遺跡としては、外城遺跡(13)、粟宮宮内北遺跡(22)、粟宮宮内東遺跡(26)などがあげられる。外城遺跡(13)は、11次にわたる発掘調査において、竪穴住居跡10軒が確認されている。粟宮宮内北遺跡(22)は竪穴住居跡2軒が確認される。粟宮宮内東遺跡(26)は竪穴住居跡9軒が確認される。

【中世】

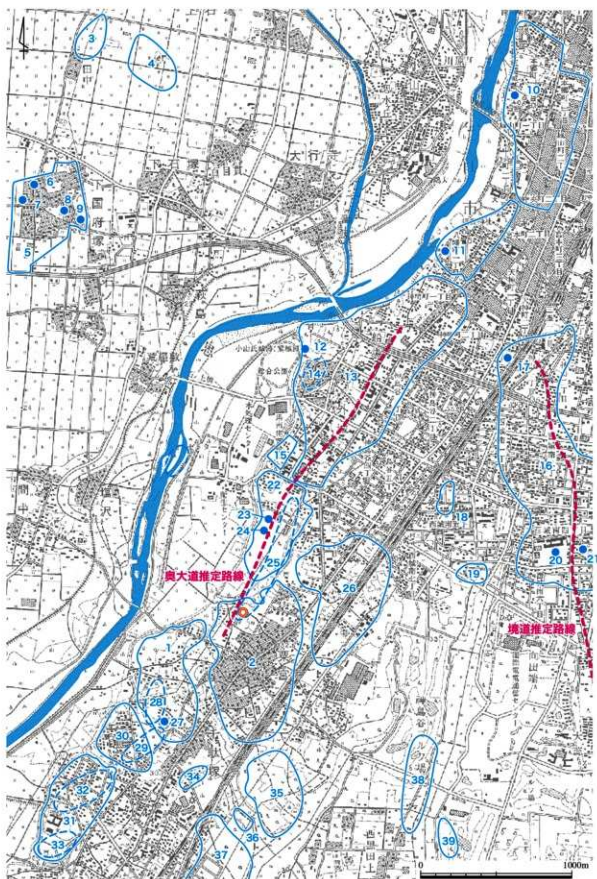
本調査区においては、古瀬戸などの陶器片、「康暦元年」とみられる銘を持つ板碑片、「洪武通宝」・「至大通宝」・「永楽通宝」などの銭貨が出土する。時期を明瞭に推定し得る遺構はないが、近世後半とともに本調査区における主体的な時期を構成するものとみられる。

本遺跡周辺においては、小山氏関連の城跡や館跡が数多く確認される。小山氏は、平安時代中頃に平将門の乱(935年)を鎮圧したうちの一人である藤原秀郷の流れをくみ、6代後の政光から小山性を名乗る。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、神鳥谷遺跡(16)内に所在する神鳥谷曲輪跡(17)に本拠地をおいたとされる。小字名「曲輪」・小名名「百間四面」が残り、規模は一辺200m程度の方形単廓と推定され、東側には土塁が残る。平成19年には、中央部分の発掘調査が行われ、道路跡・掘立柱建物跡・井戸跡などが確認されている。道路跡の道幅は両側の側溝を含め7.0m前後である。南南東方向に走る現在の境街道の道筋に向かうと推定され、小山義政の乱(1380年)の際に、陣取り合戦が行われた大正寺跡(20)・大型寺跡(21)に至る。小山氏の主な居城としては、神鳥谷曲輪跡(17)の他に、国指定史跡である祇園城跡(10)・鷲城跡(11)の他、長福寺城跡(12)があげられる。いずれも、河岸段丘上に立地する平城であり、数次の調査が実施されている。祇園城跡は(10)は、小山氏・御北條氏らが在成した14～17世紀初頭にかけての城郭である。北側の市民病院では約400基もの板碑が出土し、小山氏関連の墓域である可能性が指摘される。また、宮内1号土塁(23)・宮内2号土塁(24)は祇園城下への出入り口である四ヶ口(南口)の一部とされている。鷲城跡(11)は小山義政の乱(1380年)において、義政が本城として立て籠もった城郭であり、長福寺城跡(12)は「新城」に比定される。小山氏に関連する氏族に由来すると推定される居館には、千駄塚浅間遺跡(1)内に所在する仮称「十二所館」、祇園城の西側、思川低地に所在する、粟宮氏の一族である石塚氏の館跡である石塚館跡(4)などがあげられる。

奥大道の調査は、粟宮宮内北遺跡(22)A・B地点発掘調査、外城遺跡(13)第10・4・8次調査区で実施される。外城遺跡(13)第10次調査では、南北約30mにわたり両側に側溝を持つ幅約12.5mの道路跡が確認される。北は祇園城東側、南はお銅塚北側グラウンド内まで迫ることができる。お銅塚墓地(◎)には、凝灰岩製の層塔2基や、板碑、五輪塔などの中世石遺物が現存する。現在の地割りからも、更に南に延びるものと推定される。

【近世】

本調査区においては、近世後半から近代初頭の陶磁器の出土が多く確認される。時期を明瞭に推定し得る遺構はないが、本調査区における主体的な時期とみられる。本遺跡は、日光街道の間々田宿と小山宿の中間点にあたり、街道沿いに集落が形成されていたものと考えられる。また、小山評定の舞台となったとされる祇園城跡(10)内の小山御殿周辺は、平成15年から発掘調査が継続して実施され、様相が明らかになつた。



第6圖 周辺遺跡分布圖

表1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	主な参考文献・備考
1	千駄塚浅間遺跡	粟宮字宮内・千駄塚字浅間前、小火山・間々田字牧ノ内	官衙・集落・跡	縄文(前～後期)・古墳(中～終末期)・奈良・平安・中世	『小山市遺跡分布図・地名表』(改訂版)(以下『市分布図』)、『小山市史』史料編 原始・古代(以下『市史・原古』)、小山市文化財調査報告書 第33-35-41・43-46-51・59集(以下『市№集』)※太子は本報告・細字は年報、栃木県埋蔵文化財調査報告 第113-129-139-153-183-198-231-233-242-298-298-315-326-327-336集(以下『市№集』)※太子は本報告・細字は年報
2	粟宮宮内遺跡	粟宮字宮内、西添、西道上	集落	縄文(前～後期)・古墳(後～終末期)・奈良・平安・中世・近世	『市分布図』、『市41集』、『集198-326-327-336集』
3	下国府塚屋宮遺跡	上国府塚字萩原・国府塚字田中	散布地	縄文(中～後期)	『市分布図』、『市史・原古』
4	石塚館跡	下石塚字屋宮	館跡	中世(南北朝)	『市分布図』、『小山市史』史料編 中世(以下『市史・中世』)
5	下国府塚遺跡	下国府塚字国府	散布地	古墳～中世	『市分布図』
6	妙見古墳跡	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』
7	国府神社古墳	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』
8	天神山古墳	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』、『小山市立博物館報 第12号』
9	下国府塚愛宕神社古墳	下国府塚字塚越	古墳	古墳	『市分布図』
10	祇園城跡	城山町1丁目	城跡	中世(室町)	『市分布図』、『市史・中世』、『市12-23-33-41-42-43-46-51-52-54-55-59-60-65-67集』、『集88-183-198-217-231-233-242-262-268-278-285-288-298-306-315-326-327集』、国指定史跡
11	長福城跡	八幡町1丁目	城跡	中世(南北朝)	『市分布図』、『市史・中世』、『集158-183集』
12	豊城跡	外城字外城	城跡	中世(南北朝)	『市分布図』、『市史・中世』、『市25-42-43-52-59集』、『集129-191-217-231集』、国指定史跡
13	外城遺跡	外城字上台	縄文(前期)～近世	『市分布図』、『市41-46-51-60-64-65-68-72-78集』、『集105-139-198-233-242-278-285-298-315-326-327集』	
14	外城古墳群	外城字外城	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『集33集』、市指定史跡
15	外城中台遺跡	外城字中台	集落	古墳～中世	『市分布図』、『市72集』、『集298-306-326集』
16	神鳥谷遺跡	神鳥谷	集落	縄文～平安	『市分布図』、『市41集』、『集37-81-88-198-298-315-326-327集』
17	神鳥谷曲輪跡	神鳥谷字曲輪	館跡	中世(鎌倉初期)	『市分布図』、『市史・中世』、『市77集』、『集326集』
18	神鳥谷田端遺跡	西城南7丁目	散布地	平安	『市分布図』、『集37集』
19	神鳥谷殿治町遺跡	神鳥谷字殿治町	散布地	平安	『市分布図』
20	大正寺跡	西城南4丁目	寺院跡	中世	『市分布図』
21	大聖寺跡	西城南4丁目	寺院跡	中世	『集327集』
22	粟宮宮内北遺跡	粟宮字宮内	集落	縄文(前期)・平安	『市分布図』、『小山市史』通史編1 史料補遺編、『市16集』、『集53-81-326集』
23	宮内1号土塁	粟宮字宮内	土塁	不明	『市分布図』、『市史・原古』
24	宮内2号土塁	粟宮字宮内	土塁	不明	『市分布図』、『市史・原古』
25	宮内古墳群	粟宮字宮内	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『小山市立博物館報 第10-11号』、『集53-153集』、市指定史跡
26	粟宮宮内東遺跡	粟宮字宮内	集落	縄文(中期)～平安	『市分布図』、『市19-20-39-41-42-43-51-65集』、『集81-153-198-231-242-285-306集』
27	千駄塚古墳	千駄塚字浅間前	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『市46-60-65集』、『集233-278集』、県指定史跡
28	千駄塚小火山古墳群	千駄塚字小火山	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』
29	間々田牧ノ内北古墳群	間々田字牧ノ内	古墳	古墳	『市分布図』
30	間々田牧ノ内北遺跡	間々田字牧ノ内	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』、『集315集』
31	間々田牧ノ内遺跡	間々田字牧ノ内	集落	縄文(前～中期)・古墳(後期)～平安	『市分布図』、『市史・原古』、『市40集』、『集298-326-327集』
32	間々田牧ノ内古墳群	間々田字牧ノ内	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『市33-40集』、『集105-129-139-153-183集』
33	間々田八幡古墳群	間々田字八幡	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』
34	道より東遺跡	千駄塚字雷電前	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
35	中洗辺遺跡	粟宮字中洗辺	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
36	谷千合遺跡	千駄塚字谷千合	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
37	五科遺跡	間々田字五科	集落	古墳・奈良～平安	『市分布図』、『集139-153-210-298-306-326-327集』
38	西黒田遺跡	西黒田字正地	散布地	縄文(前期)～奈良	『市分布図』、『市27集』、『集105集』
39	羽貫遺跡	神鳥谷字羽貫	散布地	縄文(前期)～平安	『市分布図』、『市27集』

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 基本土層

1. 基本土層

本遺跡は、思川東岸にあり、標高31.0m前後の河岸段丘上に位置する。遺跡東方約1.25mの小山市神鳥谷付近から発する宮戸川が形成する枝葉状の小支谷に面する。

2次調査Ⅰ～Ⅲ区・3次調査A～D区とも、現況は市街地であり、調査区最上層は客土に覆われる。特に、3次調査B区は調査区全体を覆う広範囲かつ深さ1.0mに及ぶ掘乱穴によって上層は失われる。

2次調査Ⅲ-1区は最上層には客土である砂利層が確認される。砂利層下には、調査区南西壁東半部SK-51付近では礫やロームを含むガレ層、調査区東壁中央部SK-45付近では稲田の床土状の還元土層が確認される。

3次調査B区SK-374（地下式坑）・SD-371付近では、掘乱下に黒褐色土、暗褐色土、暗灰褐色土、暗黄褐色土などの自然堆積層が確認される。しかし、SD-371付近の層序は不整であり、人為的な堆積層の可能性が残る。

遺構の掘り込みは、Ⅲ-1区SK-51付近では客土-Ⅰ・Ⅱ層下のⅢ層、SK-45付近では客土-Ⅰ層下のⅢ層に確認される。SK-51付近のⅢ層はローム層であるが、ローム漸移層の堆積は確認されない。明確な所見はないが、SK-45付近のⅢ層・B区SD-371付近⑤層がローム漸移層あるならば、SK-51付近のローム漸移層は失われた可能性を考え得る。Ⅲ-1区Ⅰ・Ⅱ層とB区掘乱下の土層との関係は明瞭にできなかったが、ローム漸移層、或いは、ローム層の欠失後、Ⅲ-1区Ⅰ・Ⅱ層とB区掘乱下の土層が堆積したと考えられるならば、遺構の上位面は、Ⅲ-1区Ⅰ・Ⅱ層とB区掘乱下の土層の堆積前に失われたと判断できよう。

第2節 2次調査

1. 調査の概要

2次調査は粟宮宮内遺跡当該事業調査区の南西辺に沿った2-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-Ⅰ・Ⅲ-2・Ⅲ-3区の5区の調査を実施した。

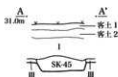
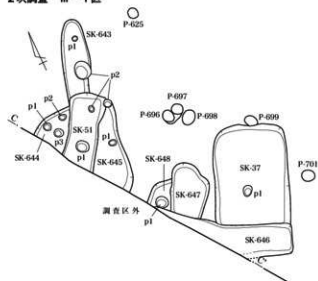
2-Ⅰ区は1次調査Ⅰ-Ⅱ区南東にあたる。図上において予想された1次調査Ⅰ-Ⅱ区SD-222の延長部分の確認しなかった。

2-Ⅱ区は3次調査A区の南西側にあたる。SD-19は3次調査SD-19に連繋する遺構とみられ、位置・形状・主軸が似る。但し、底面の傾斜は、2次調査区SD-19では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区SD-19の底面レベルからは傾斜は読み取れない。

2-Ⅲ-1区は3次調査B区北側、2-Ⅲ-2は3次調査B区南西側、2-Ⅲ-3区は3次調査C区南西側にあたる。確認された遺構は、地下式坑10基、方形竪穴遺構5基、土坑185基、井戸跡14基、溝状遺構7基、櫛列1基、小穴154基である。

出土遺物は遺物収納箱（小）50箱が出土する。縄文時代以降近・現代の遺物が出土するが、主体となるのは土師質土器小皿、内耳土器、陶磁器など、中・近世～近代の遺物である。また、鉄製品、銭貨、鉄滓などの金属製品の出土も確認される。SK-106からは瓦質の硯や国内産青磁とみられる小片が出土する。銭貨はSK-24（方形竪穴）から「至道元宝」、SK-37から「洪武通宝」、SD-19から「元豊通宝」、Ⅰ区遺構外から「至元通宝」、2次調査区内から「開元通宝」の出土が確認される。

2次調査 Ⅲ-1区



SK-45 周辺
 客土1 砂利
 客土2 還元土 (床土状)
 I 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子含む。
 II 黄褐色土 ロームブロック主珠、しまりなし。

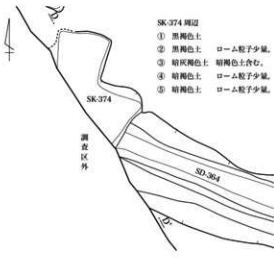
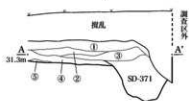
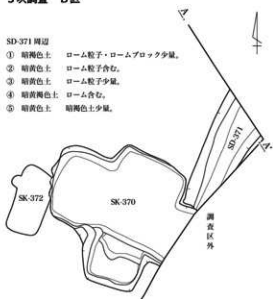


SK-51 周辺
 客土1 砂利
 客土2 ローム・還元土
 I 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子微量、しまりあり。
 II 暗褐色土 1層よりローム粒子多量、しまりあり。
 III 黄褐色土 ローム地山。

3次調査 B区

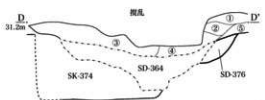
SD-371 周辺

- ① 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。
- ② 暗褐色土 ローム粒子含む。
- ③ 暗褐色土 ローム粒子少量。
- ④ 暗黄褐色土 ローム含む。
- ⑤ 暗褐色土 暗褐色土少量。



SK-374 周辺

- ① 黒褐色土
- ② 黒褐色土 ローム粒子少量。
- ③ 暗灰褐色土 暗褐色土含む。
- ④ 暗褐色土 ローム粒子少量。
- ⑤ 暗褐色土 ローム粒子少量。



0 1:80 2m

第7図 基本土層図

遺構から出土する遺物は総じて少ない。小片での出土であることや、時期幅のある遺物構成などから、遺構への帰属は判然としない。このため、遺構の重複関係については、土層の堆積状況を記す。

陶磁器・金属製品・銭貨の挿図・観察表は第4節に記載する。

表2 粟宮宮内遺跡遺構一覧表

遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
SK	1	2次	地下式坑	SK	51	2次	土坑	SK	101	2次	土坑
SK	2	2次	土坑	SK	52	2次	土坑	SK	102	2次	土坑
SK	3	2次	土坑	SK	53	2次	土坑	SK	103	2次	土坑
SK	4	2次	土坑	SK	54	2次	土坑	SK	104	2次	土坑
SK	5	2次	土坑	SK	55	2次	土坑	SK	105	2次	方形竪穴
SK	6	2次	土坑	SK	56	2次	土坑	SK	106	2次	地下式坑
SK	7	2次	土坑	P	57	2次	ビット	SK	107	2次	土坑
SK	8	2次	土坑	SK	58	2次	土坑	SK	108	2次	土坑
SK	9	2次	地下式坑	P	59	2次	ビット	SK	109	2次	方形竪穴
SK	10	2次	地下式坑	SK	60	2次	土坑	SK	110	2次	土坑
SK	11	2次	土坑	SK	61	2次	土坑	SK	111	2次	土坑
SD	12	3次	溝状遺構	P	62	2次	ビット	SK	112	2次	土坑
SD	13	3次	溝状遺構	SK	63	2次	土坑	SK	113	2次	土坑
SD	14	3次	溝状遺構	SD	64	2次	溝状遺構	SK	114	2次	地下式坑
SK	15	2次	土坑	SK	65	2次	土坑	SK	115	2次	土坑
SK	16	2次	土坑	SK	66	2次	土坑	SK	116	2次	土坑
SK	17	2次	地下式坑	SK	67	2次	土坑	SK	117	2次	土坑
SK	18	2次	土坑	SK	68	2次	土坑	SE	118	2次	井戸跡
SD	19	2次・3次	溝状遺構	SK	69	2次	土坑	SK	119	2次	土坑
SK	20	2次	土坑	SK	70	2次	土坑	SA	120	2次	欄列
SD	21	2次	溝状遺構	SK	71	2次	土坑	SK	121	2次	土坑
SK	22	2次	土坑	SD	72	2次	溝状遺構	SK	122	2次	土坑
SK	23	2次	土坑	SK	73	2次	土坑	SK	123	2次	土坑
SK	24	2次	方形竪穴	SK	74	2次	土坑		124		欠番
SK	25	2次	地下式坑	SK	75	2次	土坑	SK	125	2次	土坑
SE	26	2次	井戸跡	SK	76	2次	土坑	SK	126	2次	土坑
SE	27	2次	井戸跡	SE	77	2次	井戸跡	SK	127	2次	土坑
SK	28	2次	土坑	SK	78	2次	土坑	SK	128	2次	土坑
SK	29	2次	土坑	SK	79	2次	土坑	SK	129	2次	土坑
SE	30	2次	井戸跡	SK	80	2次	土坑	SK	130	2次	土坑
SK	31	2次	土坑	SK	81	2次	土坑	SK	131	2次	土坑
SK	32	2次	土坑	SK	82	2次	土坑	SK	132	2次	土坑
SK	33	2次	土坑	SK	83	2次	土坑	SK	133	2次	土坑
P	34	2次	ビット	SK	84	2次	土坑	SK	134	2次	土坑
SK	35	2次	土坑	SK	85	2次	土坑	SK	135	2次	土坑
P	36	2次	ビット	SK	86	2次	土坑	SK	136	2次	土坑
SK	37	2次	土坑	SE	87	2次	井戸跡	SK	137	2次	土坑
SK	38	2次	土坑	P	88	2次	ビット	SK	138	2次	土坑
SK	39	2次	土坑	SD	89	2次	溝状遺構	SK	139	2次	土坑
SK	40	2次	土坑	SK	90	2次	土坑	P	140	2次	ビット
SK	41	2次	土坑	SK	91	2次	土坑	P	141	2次	ビット
SK	42	2次	土坑	SE	92	2次	井戸跡	SK	142	2次	地下式坑
SK	43	2次	土坑	SE	93	2次	井戸跡	SE	143	2次	井戸跡
SK	44	2次	土坑	SK	94	2次	土坑	SK	144	2次	土坑
SK	45	2次	土坑	SK	95	2次	土坑	SE	145	2次	井戸跡
SK	46	2次	土坑	SK	96	2次	土坑	P	146	2次	ビット
SK	47	2次	土坑	SK	97	2次	土坑	P	147	2次	ビット
SK	48	2次	土坑	SK	98	2次	土坑	P	148	2次	ビット
SK	49	2次	土坑	SK	99	2次	土坑	P	149	2次	ビット
SK	50	2次	土坑	SE	100	2次	井戸跡	P	150	2次	ビット

第3章 確認された遺構と遺物

遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
	P 151	2次	ビット	SK 211	3次	土坑	SK 271	3次	土坑		
SK	152	2次	土坑	SK 212	3次	土坑	SK 272	3次	土坑		
SK	153	2次	土坑	SE 213	3次	井戸跡	SK 273	3次	土坑		
SK	154	2次	土坑	SK 214	3次	地下式障	SK 274	3次	土坑		
SK	155	2次	土坑	SK 215	3次	土坑	SK 275	3次	土坑		
SK	156	2次	土坑	SK 216	3次	土坑	SD 276	3次	溝状遺構		
SK	157	2次	土坑	SK 217	3次	土坑	P 277	3次	土坑		
SK	158	2次	土坑	P 218	3次	ビット	P 278	3次	ビット		
SK	159	2次	土坑	SK 219	3次	土坑	P 279	3次	ビット		
P	160	2次	ビット	SK 220	3次	土坑	P 280	3次	ビット		
P	161	2次	ビット	SK 221	3次	土坑	P 281	3次	ビット		
P	162	2次	ビット	SK 222	3次	土坑	P 282	3次	ビット		
P	163	2次	ビット	SK 223	3次	土坑	P 283	3次	ビット		
P	164	2次	ビット	SK 224	3次	土坑	P 284	3次	ビット		
P	165	2次	ビット	SK 225	3次	土坑	P 285	3次	ビット		
P	166	2次	ビット	SK 226	3次	土坑	P 286	3次	ビット		
P	167	2次	ビット	SK 227	3次	土坑	P 287	3次	ビット		
P	168	2次	ビット	SK 228	3次	土坑	P 288	3次	ビット		
P	169	2次	ビット	P 229	3次	ビット	P 289	3次	ビット		
P	170	2次	ビット	SE 230	3次	井戸跡	P 290	3次	ビット		
P	171	2次	ビット	SE 231	3次	井戸跡	P 291	3次	ビット		
P	172	2次	ビット	P 232	3次	ビット	P 292	3次	ビット		
P	173	2次	ビット	P 233	3次	ビット	P 293	3次	ビット		
P	174	2次	ビット	P 234	3次	ビット	P 294	3次	ビット		
P	175	2次	ビット	P 235	3次	ビット	P 295	3次	ビット		
P	176	2次	ビット	SK 236	3次	土坑	P 296	3次	ビット		
P	177	2次	ビット	SK 237	3次	土坑	P 297	3次	ビット		
P	178	2次	ビット	238	欠番		P 298	3次	ビット		
P	179	2次	ビット	SK 239	3次	土坑	P 299	3次	ビット		
P	180	2次	ビット	SK 240	3次	土坑	P 300	3次	ビット		
P	181	2次	ビット	SK 241	3次	土坑	P 301	3次	ビット		
P	182	2次	ビット	SK 242	3次	土坑	P 302	3次	ビット		
P	183	2次	ビット	SE 243	3次	井戸跡	P 303	3次	ビット		
P	184	2次	ビット	SK 244	3次	土坑	P 304	3次	ビット		
P	185	2次	ビット	SK 245	3次	土坑	P 305	3次	ビット		
P	186	2次	ビット	SK 246	3次	土坑	P 306	3次	ビット		
P	187	2次	ビット	SK 247	3次	土坑	P 307	3次	ビット		
P	188	2次	ビット	SK 248	3次	土坑	P 308	3次	ビット		
P	189	2次	ビット	SK 249	3次	土坑	P 309	3次	ビット		
P	190	2次	ビット	SK 250	3次	土坑	P 310	3次	ビット		
P	191	2次	ビット	SK 251	3次	土坑	P 311	3次	ビット		
P	192	2次	ビット	SK 252	3次	土坑	P 312	3次	ビット		
P	193	2次	ビット	SK 253	3次	土坑	P 313	3次	ビット		
P	194	3次	ビット	SK 254	3次	土坑	SK 314	3次	土坑		
P	195	2次	ビット	SK 255	3次	土坑	SK 315	3次	土坑		
P	196	2次	ビット	SK 256	3次	土坑	316	欠番			
P	197	2次	ビット	SK 257	3次	土坑	SK 317	3次	土坑		
P	198	2次	ビット	SK 258	3次	土坑	P 318	3次	ビット		
P	199	2次	ビット	SK 259	3次	土坑	P 319	3次	ビット		
P	200	2次	ビット	SK 260	3次	土坑	P 320	3次	ビット		
SD	201	3次	溝状遺構	SK 261	3次	土坑	SE 321	3次	井戸跡		
SD	202	3次	溝状遺構	SK 262	3次	土坑	SK 322	3次	土坑		
SE	203	3次	井戸跡	SE 263	3次	井戸跡	P 323	3次	ビット		
SK	204	3次	土坑	SK 264	3次	土坑	SK 324	3次	土坑		
SK	205	3次	土坑	SE 265	3次	井戸跡	SK 325	3次	土坑		
SE	206	3次	井戸跡	SK 266	3次	土坑	SK 326	3次	土坑		
SE	207	3次	井戸跡	267	欠番		SK 327	3次	土坑		
SK	208	3次	土坑	SK 268	3次	土坑	SK 328	3次	土坑		
SE	209	3次	井戸跡	SE 269	3次	井戸跡	P 329	3次	ビット		
	210	欠番		SK 270	3次	土坑	P 330	3次	ビット		

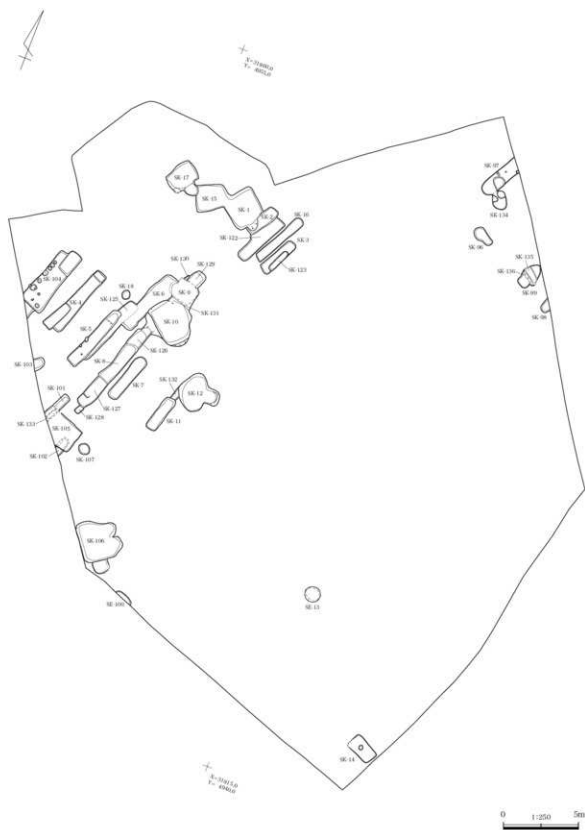
第2節 2次調査

道標	番号	調査区	種別	道標	番号	調査区	種別	道標	番号	調査区	種別
P	331	3次	ビット	SK	391	3次	土坑	SK	451	3次	土坑
SK	332	3次	土坑	SK	392	3次	土坑	SK	452	3次	土坑
SE	333	3次	丹戸跡	SD	393	3次	溝状遺構	SK	453	3次	土坑
SX	334	3次	性格不明遺構	SK	394	3次	土坑	SK	454	3次	土坑
P	335	3次	ビット	SK	395	3次	土坑		455	欠番	
SK	336	3次	土坑	SK	396	3次	土坑	SK	456	3次	土坑
SE	337	3次	丹戸跡		397	欠番		SK	457	3次	土坑
SK	338	3次	地下式坑	SK	398	3次	土坑	SK	458	3次	土坑
SE	339	3次	丹戸跡	SE	399	3次	丹戸跡	SK	459	3次	土坑
SE	340	3次	丹戸跡	SK	400	3次	土坑		460	欠番	
SK	341	3次	土坑	SK	401	3次	土坑	SK	461	3次	土坑
SK	342	3次	土坑	SK	402	3次	土坑	SK	462	3次	土坑
SK	343	3次	土坑	SK	403	3次	土坑	SK	463	3次	土坑
SK	344	3次	土坑	SK	404	3次	土坑	SK	464	3次	土坑
SK	345	3次	土坑	SE	405	3次	丹戸跡	SK	465	3次	土坑
SK	346	3次	土坑	SK	406	3次	土坑	P	466	3次	ビット
SK	347	3次	土坑	SK	407	3次	土坑	SK	467	3次	土坑
SK	348	3次	土坑	SK	408	3次	土坑	SK	468	3次	土坑
SK	349	3次	土坑	SK	409	3次	土坑	SK	469	3次	土坑
SK	350	3次	土坑	SK	410	3次	土坑	SK	470	3次	土坑
SK	351	3次	土坑	SK	411	3次	土坑	P	471	3次	ビット
SK	352	3次	土坑	SK	412	3次	土坑	P	472	3次	ビット
SE	353	3次	丹戸跡	SK	413	3次	土坑	P	473	3次	ビット
SK	354	3次	土坑	SK	414	3次	土坑	P	474	3次	ビット
P	355	3次	ビット	SK	415	3次	土坑	P	475	3次	ビット
	356	欠番		SK	416	3次	土坑		476	欠番	
P	357	3次	ビット	SK	417	3次	土坑	P	477	3次	ビット
P	358	3次	ビット	SK	418	3次	土坑		478	欠番	
P	359	3次	ビット	SK	419	3次	土坑	P	479	3次	ビット
P	360	3次	ビット	SK	420	3次	土坑	P	480	3次	ビット
P	361	3次	ビット	SK	421	3次	土坑	P	481	3次	ビット
P	362	3次	ビット	SK	422	3次	土坑	P	482	3次	ビット
P	363	3次	ビット	SK	423	3次	土坑	P	483	3次	ビット
SD	364	3次	溝状遺構	SK	424	3次	土坑	SK	484	3次	土坑
SK	365	3次	土坑	SK	425	3次	土坑	SK	485	3次	土坑
SK	366	3次	土坑	SK	426	3次	土坑	P	486	3次	ビット
SK	367	3次	土坑		427	欠番		SK	487	3次	土坑
SE	368	3次	丹戸跡		428	欠番		SK	488	3次	土坑
SE	369	3次	丹戸跡		429	欠番		SK	489	3次	土坑
SK	370	3次	地下式坑		430	欠番		SK	490	3次	土坑
SD	371	3次	溝状遺構		431	欠番		SX	491	3次	性格不明遺構
SK	372	3次	土坑	SK	432	3次	土坑	P	492	3次	ビット
SK	373	3次	土坑	SK	433	3次	土坑	P	493	3次	ビット
SK	374	3次	地下式坑	SK	434	3次	土坑	P	494	3次	ビット
SK	375	3次	土坑	SK	435	3次	土坑	P	495	3次	ビット
SD	376	3次	溝状遺構	SK	436	3次	土坑	P	496	3次	ビット
SK	377	3次	土坑	SK	437	3次	土坑	P	497	3次	ビット
SE	378	3次	丹戸跡	SK	438	3次	土坑	P	498	3次	ビット
SD	379	3次	溝状遺構	SK	439	3次	土坑	P	499	3次	ビット
SE	380	3次	丹戸跡	SK	440	3次	土坑	P	500	3次	ビット
SK	381	3次	土坑	P	441	3次	ビット	P	501	3次	ビット
SK	382	3次	土坑	P	442	3次	ビット	P	502	3次	ビット
SK	383	3次	土坑	P	443	3次	ビット	P	503	3次	ビット
SE	384	3次	丹戸跡	SK	444	3次	土坑	P	504	3次	ビット
SK	385	3次	土坑	SE	445	3次	丹戸跡	P	505	3次	ビット
SK	386	3次	土坑	SK	446	3次	土坑	P	506	3次	ビット
SK	387	3次	土坑	SK	447	3次	土坑	P	507	3次	ビット
	388	欠番		SK	448	3次	土坑	P	508	3次	ビット
SE	389	3次	丹戸跡	SK	449	3次	土坑	P	509	3次	ビット
SE	390	3次	丹戸跡	SK	450	3次	土坑	P	510	3次	ビット

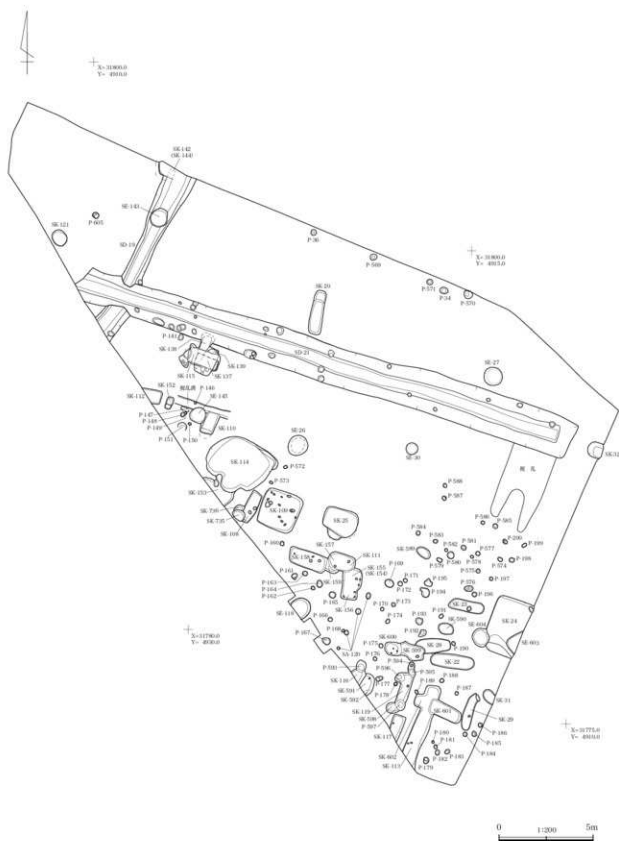
第3章 確認された遺構と遺物

遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
P	511	3次	ビット	P	571	2次	ビット	P	631	2次	ビット
P	512	3次	ビット	P	572	2次	ビット	P	632	2次	ビット
P	513	3次	ビット	P	573	2次	ビット	SD	633	2次	溝状遺構
P	514	3次	ビット	P	574	2次	ビット	P	634	2次	ビット
P	515	3次	ビット	P	575	2次	ビット	SK	635	2次	土坑
P	516	3次	ビット	P	576	2次	ビット	SK	636	2次	土坑
P	517	3次	ビット	P	577	2次	ビット	SK	637	2次	土坑
P	518	3次	ビット	P	578	2次	ビット	SK	638	2次	土坑
SK	519	3次	土坑	P	579	2次	ビット	SK	639	2次	土坑
P	520	3次	ビット	P	580	2次	ビット	SK	640	2次	土坑
P	521	3次	ビット	P	581	2次	ビット	SK	641	2次	土坑
SK	522	3次	土坑	P	582	2次	ビット	SD	642	2次	溝状遺構
P	523	3次	ビット	P	583	2次	ビット	SK	643	2次	土坑
P	524	3次	ビット	P	584	2次	ビット	SK	644	2次	土坑
P	525	3次	ビット	P	585	2次	ビット	SK	645	2次	土坑
P	526	3次	ビット	P	586	2次	ビット	SK	646	2次	土坑
P	527	3次	ビット	P	587	2次	ビット	SK	647	2次	土坑
P	528	3次	ビット	P	588	2次	ビット	SK	648	2次	土坑
P	529	3次	ビット	SK	589	2次	土坑	SK	649	2次	土坑
P	530	3次	ビット	SK	590	2次	土坑	SK	650	2次	土坑
P	531	3次	ビット	SK	591	2次	土坑	SK	651	2次	土坑
P	532	3次	ビット	SK	592	2次	土坑	P	652	2次	ビット
	533	欠番		P	593	2次	ビット	P	653	2次	ビット
P	534	3次	ビット	P	594	2次	ビット	P	654	2次	ビット
P	535	3次	ビット	P	595	2次	ビット	P	655	2次	ビット
P	536	3次	ビット	P	596	2次	ビット	P	656	2次	ビット
P	537	3次	ビット	P	597	2次	ビット	P	657	2次	ビット
P	538	3次	ビット	SK	598	2次	土坑	P	658	2次	ビット
P	539	3次	ビット	SK	599	2次	土坑	P	659	2次	ビット
P	540	3次	ビット	SK	600	2次	土坑	P	660	2次	ビット
P	541	3次	ビット	SK	601	2次	土坑	P	661	2次	ビット
P	542	3次	ビット	SK	602	3次	土坑	P	662	2次	ビット
P	543	3次	ビット	SE	603	2次	井戸跡	P	663	2次	ビット
P	544	3次	ビット	SE	604	2次	井戸跡	P	664	2次	ビット
P	545	3次	ビット	P	605	2次	ビット	P	665	2次	ビット
P	546	3次	ビット	P	606	2次	ビット	P	666	2次	ビット
P	547	3次	ビット	P	607	2次	ビット	P	667	2次	ビット
P	548	3次	ビット	P	608	2次	ビット	P	668	2次	ビット
P	549	3次	ビット	P	609	2次	ビット	P	669	2次	ビット
P	550	3次	ビット	P	610	2次	ビット	P	670	2次	ビット
P	551	3次	ビット	P	611	2次	ビット	P	671	2次	ビット
P	552	3次	ビット	SK	612	2次	土坑	P	672	2次	ビット
	553	欠番		SK	613	2次	土坑	P	673	2次	ビット
P	554	3次	ビット	SK	614	2次	土坑	P	674	2次	ビット
P	555	3次	ビット	SK	615	2次	土坑	P	685	2次	ビット
P	556	3次	ビット	SK	616	2次	土坑	P	676	2次	ビット
	557	欠番		SK	617	2次	土坑	P	677	2次	ビット
P	558	3次	ビット	SK	618	2次	土坑	P	678	2次	ビット
P	559	3次	ビット	SK	619	2次	土坑	P	679	2次	ビット
P	560	3次	ビット	SK	620	2次	土坑	P	680	2次	ビット
SK	561	3次	土坑	SK	621	2次	土坑	P	681	2次	ビット
P	562	3次	ビット	SK	622	2次	土坑	P	682	2次	ビット
P	563	3次	ビット	SK	623	2次	土坑	P	683	2次	ビット
	564	欠番		P	624	2次	ビット	P	684	2次	ビット
SK	565	2次	地下式坑	SK	625	2次	土坑	P	685	2次	ビット
SE	566	2次	井戸跡	SK	626	2次	土坑	P	686	2次	ビット
SK	567	2次	方形窆穴	SK	627	2次	土坑	P	687	2次	ビット
SK	568	2次	土坑	SK	628	2次	土坑	P	688	2次	ビット
P	569	2次	ビット	P	629	2次	ビット	P	689	2次	ビット
P	570	2次	ビット	P	630	2次	ビット	P	690	2次	ビット

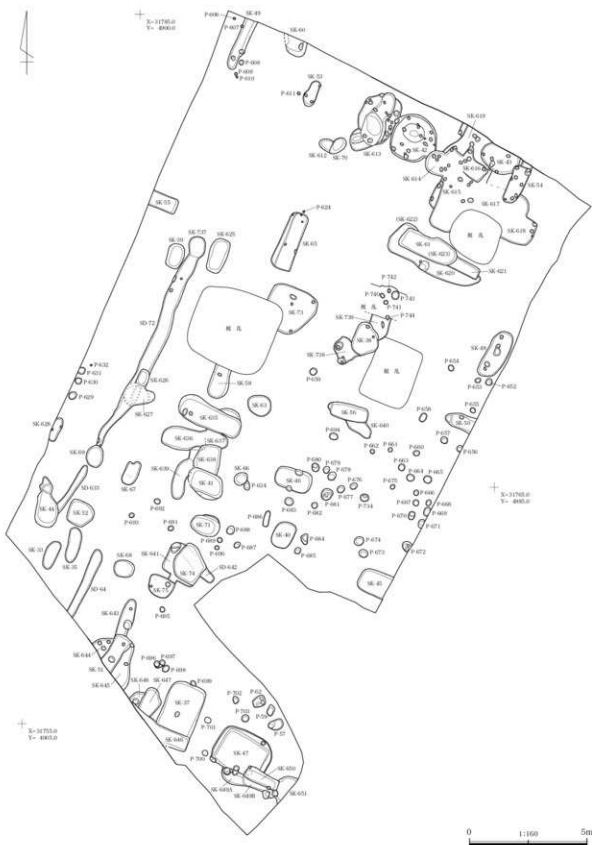
遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
P	691	2次	ビット	P	751	3次	ビット	SK	811	3次	土坑
P	692	2次	ビット	P	752	3次	ビット	P	812	3次	ビット
P	693	2次	ビット	P	753	3次	ビット	P	813	3次	ビット
P	694	2次	ビット	P	754	3次	ビット	SK	814	3次	土坑
P	695	2次	ビット	P	755	3次	ビット	P	815	3次	ビット
P	696	2次	ビット	P	756	3次	ビット	P	816	3次	ビット
P	697	2次	ビット	P	757	3次	ビット	P	817	3次	ビット
P	698	2次	ビット	P	758	3次	ビット	SK	818	3次	土坑
P	699	2次	ビット	P	759	3次	ビット	P	819	3次	ビット
P	700	2次	ビット	P	760	3次	ビット	P	820	3次	ビット
P	701	2次	ビット	SK	761	3次	ビット	P	821	3次	ビット
P	702	2次	ビット	SK	762	3次	土坑	P	822	3次	ビット
P	703	2次	ビット	SK	763	3次	土坑	P	823	3次	ビット
SK	704	2次	土坑	SK	764	3次	土坑	P	824	3次	ビット
SK	705	2次	地下式坑	SK	765	3次	土坑	P	825	3次	ビット
SK	706	2次	土坑	SK	766	3次	土坑	P	826	3次	ビット
SK	707	2次	地下式坑	P	767	3次	ビット	P	827	3次	ビット
P	708	2次	ビット	P	768	3次	ビット	P	828	3次	ビット
P	709	2次	ビット	P	769	3次	ビット	P	829	3次	ビット
SK	710	2次	土坑	P	770	3次	ビット	P	830	3次	ビット
SK	711	2次	土坑	P	771	3次	ビット	SK	831	3次	土坑
SK	712	2次	土坑	P	772	3次	ビット	P	832	3次	ビット
SK	713	2次	土坑	P	773	3次	ビット	P	833	3次	ビット
SK	714	2次	土坑	P	774	3次	ビット	P	834	3次	ビット
P	715	2次	ビット	P	775	3次	ビット	P	835	3次	ビット
SK	716	2次	土坑	P	776	3次	ビット	SK	836	3次	土坑
SK	717	2次	土坑	P	777	3次	ビット	SK	837	3次	土坑
SK	718	2次	土坑	P	778	3次	ビット		838	欠番	
SK	719	2次	土坑	P	779	3次	ビット	SK	839	3次	土坑
SK	720	2次	土坑	P	780	3次	ビット	P	840	3次	ビット
SK	721	2次	土坑	P	781	3次	ビット	SK	841	3次	土坑
SK	722	2次	土坑	P	782	3次	ビット	P	842	3次	ビット
SK	723	2次	土坑	P	783	3次	ビット	SK	843	3次	土坑
SK	724	2次	土坑	P	784	3次	ビット	SK	844	3次	土坑
SK	725	2次	土坑	P	785	3次	ビット	SK	845	3次	土坑
SK	726	2次	土坑	P	786	3次	ビット	SK	846	3次	土坑
SK	727	2次	土坑	P	787	3次	ビット	P	847	3次	ビット
SK	728	2次	土坑	SE	788	3次	井戸跡	P	848	3次	ビット
SK	729	2次	土坑	P	789	3次	ビット	P	849	3次	ビット
SK	730	2次	土坑	P	790	3次	ビット	P	850	3次	ビット
SK	731	2次	土坑	P	791	3次	ビット	P	851	3次	ビット
SK	732	2次	土坑	P	792	3次	ビット	SK	852	3次	土坑
SK	733	2次	土坑	P	793	3次	ビット	P	853	3次	ビット
P	734	2次	ビット	P	794	3次	ビット	P	854	3次	ビット
SK	735	2次	土坑	P	795	3次	ビット	P	855	3次	ビット
SK	736	2次	土坑	P	796	3次	ビット	P	856	3次	ビット
SK	737	2次	土坑	P	797	3次	ビット	P	857	3次	ビット
SK	738	2次	土坑	P	798	3次	ビット	P	858	3次	ビット
SK	739	2次	土坑	P	799	3次	ビット	P	859	3次	ビット
P	740	2次	ビット	P	800	3次	ビット	P	860	3次	ビット
P	741	2次	ビット	P	801	3次	ビット	P	861	3次	ビット
P	742	2次	ビット	P	802	3次	ビット	SE	862	3次	井戸跡
P	743	2次	ビット	P	803	3次	ビット	SK	863	3次	土坑
P	744	2次	ビット	P	804	3次	ビット	P	864	3次	ビット
	745	欠番			805	欠番		SK	865	3次	土坑
P	746	3次	ビット	SK	806	3次	土坑	P	866	3次	ビット
P	747	3次	ビット	P	807	3次	ビット	P	867	3次	ビット
P	748	3次	ビット	SK	808	3次	土坑	P	868	3次	ビット
P	749	3次	ビット	SK	809	3次	土坑	P	869	3次	ビット
P	750	3次	ビット	SK	810	3次	土坑	P	870	3次	ビット



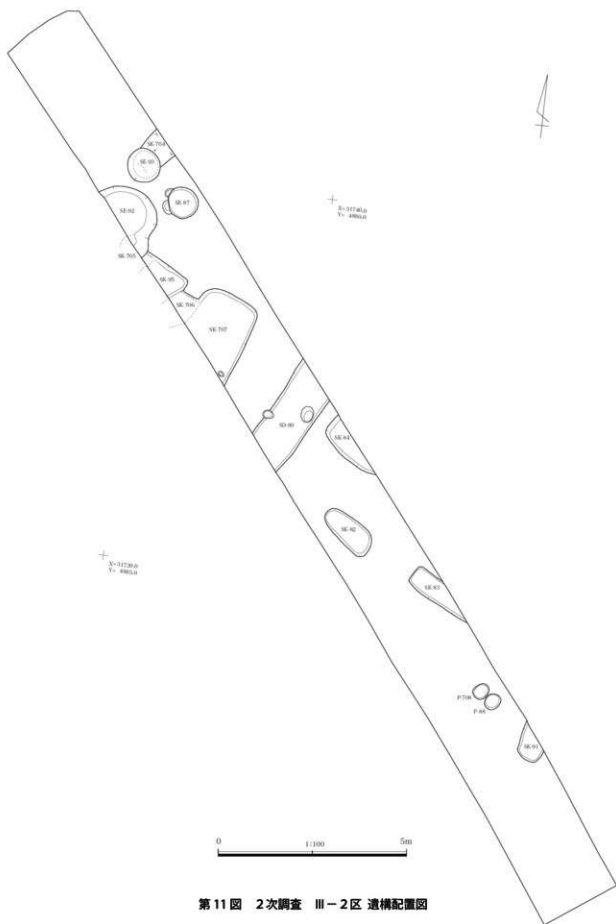
第8図 2次調査 I区 遺構配置図



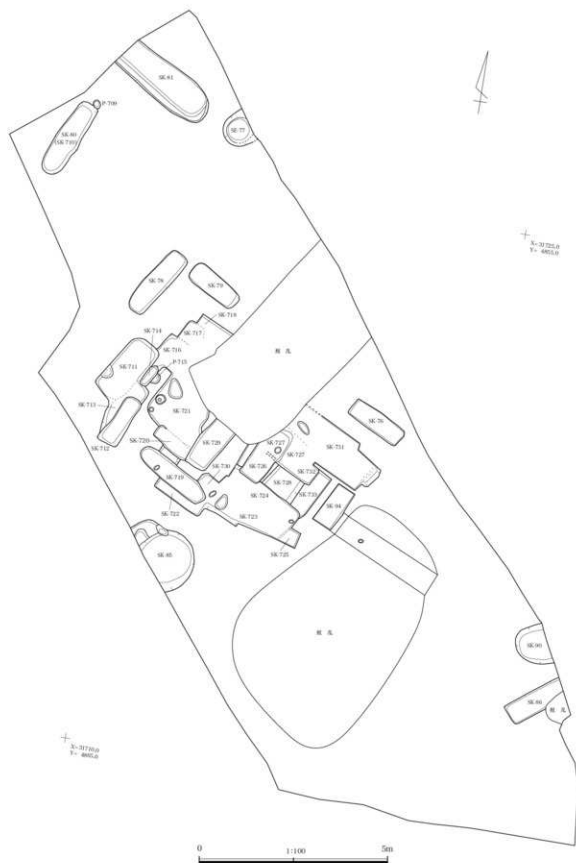
第9図 2次調査 II区 遺構配置図



第10図 2次調査 III-1区 遺構配置図



第11図 2次調査 III-2区 遺構配置図



第12図 2次調査 III-3区 遺構配置図

2. 地下式坑

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は10基である。

I区からはSK-1・9・10・17・106・565の6基が確認される。

SK-1は明確な竪坑の確認はないが、東壁の膨らみから竪坑を想定し、本節で記載する。

SK-1と重複するSK-15については、木根の可能性や平面形の不明瞭さから4.土坑に記載するが、東壁の膨らみ形状が推定され、SK-1同様の形状の地下式坑である可能性を指摘しておきたい。

SK-9は湧水が確認され、底面を確認し得ず、詳細は不明である。オーバーハングする壁面やローム主体の堆積層などから天井部の想定が可能であり、本節で記載するが、方形竪穴遺構の可能性も否めない。

I区から確認される5基のうち、SK-106を除く5基は、主軸を同様にする長方形の土坑と重複する。特に、SK-1・17は地下式坑の可能性の残るSK-15を挟み、同様の主軸で掘り込まれる。SK-106は、現状では単独で掘り込まれるが、調査区南西際であり、他遺構との関連は不詳である。

II区からはSK-25・114・142の3基、III-2区からはSK-705の1基が確認される。

III-2区-SK-705は遺構の大部分が調査区外にあり詳細不詳であるが、現地調査の所見に従い、本節で報告する。

その他、III-3区-SK-85に地下式坑の可能性が考えられるが、明確にし得ず、4.土坑に記載する。

確認された10基のうち、SK-142やSK-705は、重複や調査区外に遺構があり、全容を確認し得なかった。これ以外の8基のうち、SK-1・10・17・106・114の5基は、竪坑とみられる突出部が平明形状では観察されるものの底面の境が不明瞭であったり、平面形状の竪坑の観察が不明瞭あり、定型的な地下式坑の形状が観察されない点留意される。また、SK-114-15層は天井部、或いは、構築時の埋め戻し土の可能性が考え得る。天井部とした場合、突出部のある南側の天井がまず崩落、崩落した天井の開口部から13層が堆積、天井材を含む14層・11・12層堆積後、残りの天井(10層)が崩落したと推測される。構築の際の埋め戻し土とした場合、主室と突出部(竪坑)は高低差0.2m前後の緩やかな傾斜をもつ。

SK-25・565は竪坑の壁面にオーバーハングが観察される。4.土坑に記載したSK-110・115は、長方形の短辺にポケット状の小土坑を穿つが、SK-25・565の壁面の挟り込みは、或いは、この類の掘り込みの可能性も考えられようか。

出土遺物は、土師質土器、瓦質土器、陶磁器等が出土する。金属器はSK-705から小片1片が出土する。各遺構とも総じて少なく、小片が多い。SK-1のように縄文時代の打製石斧のみの出土も観察される。埋没等に伴う混入である可能性が高く、遺構への帰属は判断としない。

陶磁器の一部は第4節 金属器・鉄滓・陶磁器に記載する。

(2) 地下式坑

第1号地下式坑 (SK-1) (第13・19図 図版三)

位置 I区U-24グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-2より新しい。西側に重複するSK-15との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 方形の部分が主室、南東壁中央部の半円形状の膨らみは竪坑か。主室と竪坑の堺部は明瞭でなく、竪坑は主室にむかって緩やかに傾斜する。主室とみられる方形部底面の規模は、北東壁約0.62m・南東壁約1.74m、南西壁・北西壁は重複するSK-15により不明瞭であるが、南西壁約1.8m・北西壁約2.08mである。底面は北西壁から竪坑にむけて緩やかに傾斜する。

確認面から底面の深さは、最も深い北西端部付近で約0.66 m、竪坑付近で約0.54 m、底面レベルは28.95 m前後である。竪坑は外側にむけて弓なりに膨らむ南東壁の中央部、幅約0.9 m・奥行約0.43 mの部分と推定される。主軸はN-54°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。底面中央部より壁際が8 cmほど高い皿状となる。竪坑はなだらかに主室に取り付き、レベル差は確認されない。**覆土** 5層を確認した。褐色土とロームブロック層が交互に堆積する。竪坑部に堆積する最下層5層以外に底面に間層を挟まずロームブロック主体の4層が堆積し、3層を挟んでロームブロック主体の2層が堆積する。2・4層を天井部に相当する堆積土と推測するならば、土坑上面を覆うように堆積することから、廃絶時における開口部は少なかったものと判断される。天井部は、竪坑の空間から5層が堆積した後、短時間で天井部が2度にわたり崩落したのか。**遺物出土状況** 竪坑とみられる膨らみ部の西側床面から打製石斧1点が出土する。埋没時に混入したものと判断される。

出土遺物 1は片側弧状、片側尖状の打製石斧である。周縁部に欠損が観察される。図上左面は自然面が残る。弧状の端部の左右を剥離により成形か。図上右面は中央部に左右からの剥離が磨滅する。整形に関わる剥離であるか判然としない。挟り部は磨滅する。長さ14.8 cm・刃部幅8.2 cm・挟り部幅5.5 cm・最大厚3.3 cm・重さ435.1 gである。

第9号地下式坑 (SK-9) (第14・15図 図版三)

位置 1区U-23グリッドに位置する。**重複関係** 南西側にSK-10、或いは土層断面で確認されるSK-129底面と同レベルの掘り込みが重複する。本遺構が新しい。**形状・規模・主軸** 竪坑はSK-129の可能性が考慮されるが判然としない。或いはSK-10の重複により失われたか。方形竪穴遺構の可能性も残る。主室は南西方向に長い方形の部分とみられる。西壁はオーバーハングする。天井部等が崩落した可能性が考えられよう。底面の長軸約1.8 m・短軸約1.38 mである。主軸はN-20°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。湧水のため、レベル28.6 m付近で掘り下げを中止した。確認面からの深さ約0.92 m付近である。

覆土 8層を確認した。6・8層はローム主体層である。天井部の崩落層か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第10号地下式坑 (SK-10) (第14・15・19図 表3 図版三)

位置 1区U-23グリッドに位置する。**重複関係** 北側に重複するSK-131より新しい。西側に重複するSK-6、南側に重複するSK-126との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 方形の部分の主室とみられる。東西に長い方形であるが、SK-9と重複する北壁付近の詳細は不明瞭である。底面の規模は、長軸約2.55 m・短軸2.0 m前後、主軸はN-50°-Wである。竪坑は判然としないが、緩やかに傾斜する東壁・南壁のいずれかの可能性があろうか。底面との高低差・レベルは、東壁0.27 m・29.958 m、南壁0.48 m・29.184 mである。**底面** ローム層を掘り込む。南西隅部が中央部より約10.0 cm高い。確認面から中央部の深さ約0.65 m、レベル28.691 mである。**覆土** 8層を確認した。8層はロームブロック主体層である。天井部崩落層とすれば、間層を挟まず、早い段階で埋没したか。3層の帰属は不詳である。**遺物出土状況** 覆土中から9点が出土する。うち6点の注記はSE-10であり、遺構を誤認する可能性も残る。6点いずれも確認面付近から出土する。

出土遺物 1は土師器環。SK-10から出土する。2は瓦質土器播鉢小片である。

図示し得なかったSK-10出土の遺物は、土師質の土器器体部小片1片、内耳土器とみられる小片1片である。内耳土器とみられる小片は胎土にガラス質粒子を含む。SE-10出土の遺物は、土師器環とみられる微細片1片、土師器裏頸とみられる小片2片、土師質土器小皿微細片1片、胎土D群の内耳土器小片1片である。

第17号地下式坑 (SK-17) (第13図 図版三)

位置 1区U-24グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-15より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い方形状の部分が主室、南東壁中央部の円形状に張り出す部分が竪坑と考えられる。主室と竪坑の底面は3.0cmほど竪坑が低い明瞭な境部は確認されない。主室の底面の規模は北東壁：約1.15m・南東壁約1.42m・南西壁約0.8m・北西壁約1.8mである。竪坑は直径0.7m前後である。主軸はN-53°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。主室は南西壁から南東壁に向けて傾斜がみられる。遺構確認面からの深さ・レベルは、南西壁付近：約0.58m・28.864m、南東壁付近：約0.75m・28.729mである。竪坑は皿状で中央部の確認面からの深さ・レベルは約0.78m・28.697mである。主室と竪坑との境部は明瞭ではないが、竪坑中央部とは3.0cmほどの段差となる。**覆土** 竪坑部分の5層を確認した。ロームブロックを主体とする層が水平気味に堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、陶器大甕口縁部小片1片が出土する。詳細は不明である。

第25号地下式坑 (SK-25) (第18図 図版三)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形状の部分が主室、南壁中央部の円形状に張り出す部分が竪坑と考えられる。主室と竪坑の底面は約0.25mの高低差が確認される。主室の底面の規模は東西1.8m前後・南北1.0～1.25mであり、西側から東側に広がる形状であり、南東隅部がオーバーハングする。竪坑は東西約0.7m・南北(0.22)mであり、南側はオーバーハングする。主軸はN-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み概ね平坦である。遺構確認面からの深さ・レベルは、主室：約1.2m・約29.9m、竪坑：約0.85m・30.15mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 図示し得なかった出土遺物が、古瀬戸広口壺片とみられる小片、内耳土器1片、土師質土器小片1片である。土師質土器口クロ成形の皿形或いは小皿口縁部小片である。

第106号地下式坑 (SK-106) (第18・19図 表5 図版三・一四)

位置 1区U-21グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 不整な方形状の部分が主室、南東壁南東隅部寄りの半円形状の膨らみが竪坑か。主室と竪坑の境部は明瞭でなく、竪坑は主室にむかって傾斜する。主室とみられる方形状部は不整形であり、特に北東壁は二コブ状である。主室の底面の規模は、北東壁約2.1m・南東壁約1.6m・南西壁約2.2m・北西壁約2.2mである。竪坑の規模は、張り出した部分約0.8m・幅約0.9mである。主軸はN-33°-Wである。**底面** 主室の底面はローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.63m、レベル約28.81mである。竪坑は、掘り出した南東壁際の約29.26mのレベルから傾斜し、約6.0cmの不明瞭な段をもって主室に至る。**覆土** 14層を確認した。6層はローム主体であり、天井部の崩落層か。6層に続く2層はロームブロックの集中箇所がみられ、6層に関連する層か。14層は11・12層分層線付近より北側にロームブロックの堆積が目立つ。

遺物出土状況 覆土中から15点が出土する。

出土遺物 1～3は縄文土器。胎土に白色粒子・白色小礫・ガラス質微粒子・繊維を含む。黒浜式か。3は縄文を羽状に配する。結節部がみえるか。4は内耳土器である。5は瓦質の硯か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土師質土器小皿5片、内耳土器とみられる微細片3片、陶磁器2片である。

土師質土器小皿は口クロ成形、内耳土器の胎土は瓦質土器D群である。陶磁器は、常滑産大甕1片、青磁とみられる微細片1片である。常滑産とみられる大甕片は体部片である。内外面とも木口状工具で整形さ

れる。青磁片はオリーブ色釉を内外面に施す。素地は灰色である。青磁か。国内産と判断されるが、時期・産地等は不明である。

第114号地下式坑 (SK-114) (第18・19図 表6 図版三)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-153より新しい。重複関係にはないが、北東方向に位置するP-572・573との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 南東-北東に長い長方形である。北東隅部には深さ約0.08m、レベル約29.98mの浅いテラス状の掘り込みが確認される。帰属等については不明である。南東壁南寄りの円形の突出部は竪坑か。主室の底面規模は、南東壁約0.7m・北東壁約0.35m・南西壁約1.4m・北西壁約0.98mである。突出部は、南東壁を幅約1.0m・奥行き約0.7m掘り込む。主軸は、竪坑を主軸とする場合N-35°-E、主室の長軸を主軸とする場合N-46°-である。**底面** ローム層を掘り込む。主室と突出部に段差はなく、総じて平坦である。遺構確認面からの深さ約1.2m、レベル約28.86mである。**覆土** 15層を確認した。5・6層はロームブロックが多量に観察され、天井或いは壁面の崩落土と推定される。10・14・15層はロームを主体とし、現地調査時においては、天井の崩落土と推定した。その際、南側の天井崩落後(15層)、南側の開口部から13層が堆積、暗褐色土と天井部材のロームブロックとが徐々に崩落(14層)、12・13層堆積後、天井部(11層)が崩落した可能性が考えられる。或いは、14層の分層線が直立気味であることから、竪坑との関連を考慮すべきか。その際、15層が構築時の埋め戻し土であり底面であった可能性も考慮されるが、硬化面等の観察はない。11層の堆積が遺構下半であり、早い段階での崩落が考えられる。**遺物出土状況** 覆土中から8点が出土する。

出土遺物 1はロクロ成形の土師質土器、器面は磨滅し、詳細は不明である。2は陶器喪体部。3は円形状の小礫。碁石の可能性はあるうか。SK-4-2と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、1と同一個体とみられる小片1片、羽口とみられる粘土塊2片、小礫2点である。

粘土塊は羽口の孔とみられる部分が僅かに残る。外面の整形は丁寧に平滑に仕上げられるか。同一個体か。

小礫はススの付着や被熱による赤色変化がみられる。何れもやや平坦な形状である。

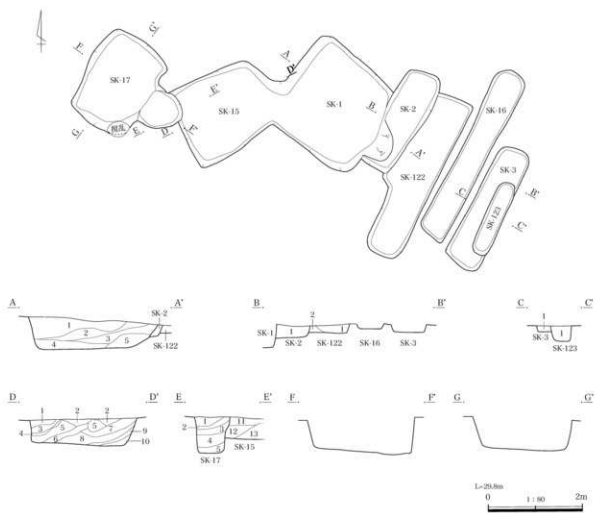
第142号地下式坑 (SK-142) (第50・51図 図版四)

位置 II区S-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-144・SD-19より古い。**形状・規模・主軸** SD-19との重複により東側を失っており、詳細は不明である。主室は方形か。東西(1.08)m・南北(0.9)mである。**底面** 主室の底面はローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.7m、レベル約29.05mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第565号地下式坑 (SK-565) (第16・19図 図版四)

位置 I区T-22グリッドに位置する。**重複関係** 西側に重複するSK-132との新旧関係は不明である。

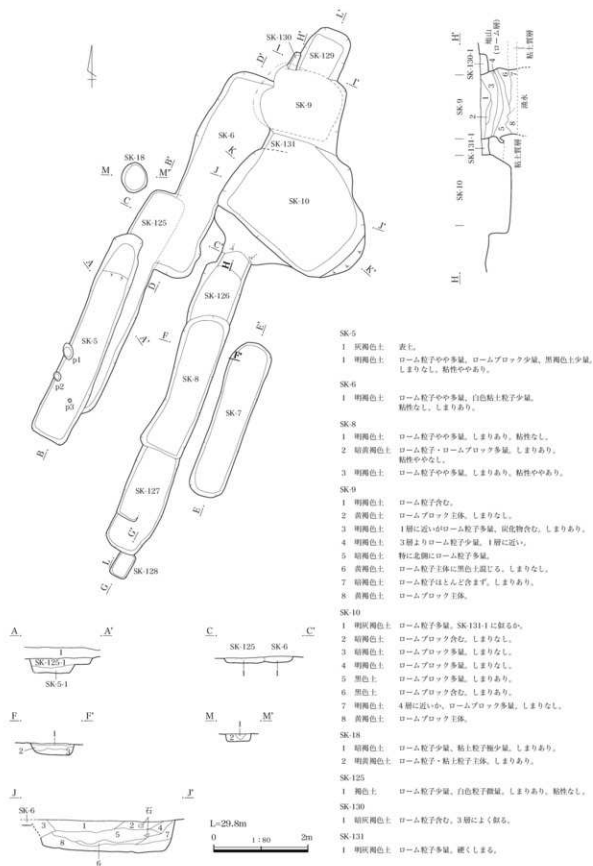
形状・規模・主軸 長円形状の部分が主室とみられる。竪坑は東壁中央の隅丸形状の突出部とみられるが判然としにくい。底面に段差ない。東壁の屈曲部が竪坑の痕跡を想定させるが、覆土はオーバーハングして堆積しており、突出部にも天井部が存在した可能性が考慮される。主室とみられる南北に長い長円形状の底面の規模は、長軸約2.3m・短軸1.3m前後、主軸はN-3°-Wである。竪坑の可能性のある突出部は東西約0.7m・南北約0.8mである。**底面** ローム層を掘り込む。主室の遺構確認面から深さ1.0m前後、レベル28.368mである。突出した東壁の屈曲部は、遺構確認面から約0.55m下位のレベル28.8m付近である。**覆土** 9層を確認した。6層は堆積土中、唯一の黒色土であり、焼土を含む。7層は焼土・炭化物を多量に含む。9層はロームブロック主体層である。天井部であるか判然としにくい。**遺物出土状況** 覆土



- SK-1**
- 1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック・褐色土ブロック少量。しまりなし。粘性なし。
 - 2 黄褐色土 ローム粒子少量。ロームブロック主体。褐色土ブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややなし。粘性ややなし。
 - 4 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 5 灰褐色土 ローム粒子少量。灰色粘土粒子やや多量。しまりなし。粘性ややあり。
- SK-15**
- 1 黒色土 ローム粒子少量。しまりあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
 - 4 黒色土 しまりあり。
 - 5 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
 - 6 暗褐色土 ローム粒子少量。黒色土主体。しまりなし。
 - 7 暗黄褐色土 3・4層と同じ。しまりなし。
 - 8 暗黄褐色土 ローム粒子少量。黒色土主体。しまりなし。
 - 9 黒色土 ローム粒子少量。しまりなし。
 - 10 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
 - 11 黒色土 2層に相当か。
 - 12 暗褐色土 6層に相当か。
 - 13 暗黄褐色土 7層に相当か。

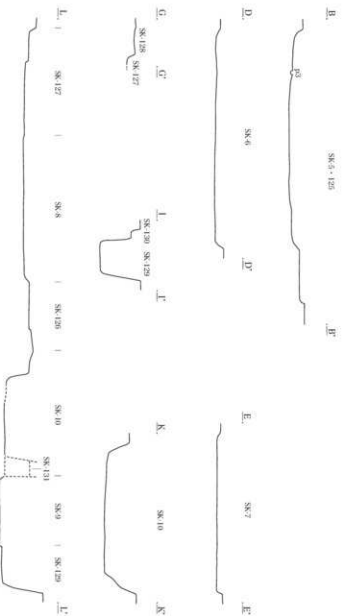
- SK-2**
- 1 明褐色土 ローム粒子・灰色粘土やや多量。しまりなし。粘性あり。
- SK-3**
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。褐色土粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-17**
- 1 明褐色土 ローム微粒子主体。しまりなし。
 - 2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。
 - 3 明褐色土 ローム微粒子主体。1層より黒色土多量。しまりなし。
 - 4 明褐色土 ローム微粒子主体。3層より黒色土少量。1層と似た。しまりなし。
 - 5 暗褐色土 ローム微粒子主体。4層より黒色。しまりなし。
- SK-122**
- 1 黄褐色土 ロームブロック主体。褐色土粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。
 - 2 明褐色土 ローム粒子少量。ロームブロック微量。しまりあり。粘性ややあり。
- SK-123**
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。ロームブロックやや多量。褐色土粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。

第13図 第1号地地下式坑・第2・3・15～17・122・123号土坑実測図

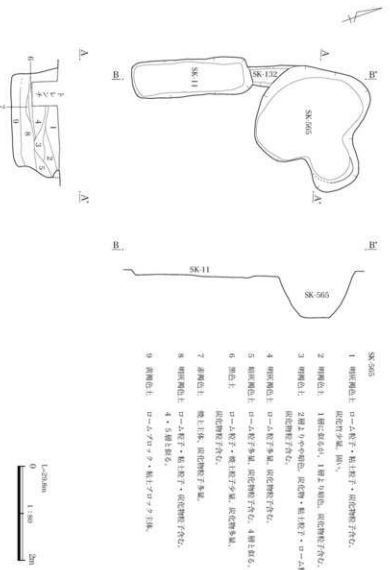


第14図 第9・10号地下式坑・第5～8・18・125～131号土坑実測図

- SK-5
- 1 灰褐色土 表土。
 - 1 明褐色土 ローム粒子のやや多量、ロームブロック少量、黒褐色土少量、しまりなし。粘性ややあり。
- SK-6
- 1 明褐色土 ローム粒子のやや多量、白色粘土粒子少量、粘性なし。しまりあり。
- SK-8
- 1 明褐色土 ローム粒子のやや多量、しまりあり。粘性なし。
 - 2 結核褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりあり。粘性ややなし。
 - 3 明褐色土 ローム粒子のやや多量、しまりあり。粘性ややあり。
- SK-9
- 1 明褐色土 ローム粒子含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロック主体、しまりなし。
 - 3 明褐色土 1層に近いローム粒子多量、炭化物含む、しまりあり。
 - 4 明褐色土 3層よりローム粒子少量、1層に近い。
 - 5 結核褐色土 物に北側にローム粒子多量。
 - 6 黄褐色土 ローム粒子主体に黒色土混じる、しまりなし。
 - 7 結核褐色土 ローム粒子ほとんど含まず、しまりあり。
 - 8 黄褐色土 ロームブロック主体。
- SK-10
- 1 明褐色土 ローム粒子多量、SK-131-1に似るが、
 - 2 結核褐色土 ロームブロック含む、しまりなし。
 - 3 結核褐色土 ロームブロック多量、しまりなし。
 - 4 明褐色土 ロームブロック多量、しまりなし。
 - 5 黒色土 ロームブロック多量、しまりあり。
 - 6 黒色土 ロームブロック含む、しまりあり。
 - 7 明褐色土 4層に近いが、ロームブロック多量、しまりなし。
 - 8 黄褐色土 ロームブロック主体。
- SK-18
- 1 結核褐色土 ローム粒子少量、粘土粒子極少量、しまりあり。
 - 2 明黄褐色土 ローム粒子・粘土粒子主体、しまりあり。
- SK-125
- 1 褐色土 ローム粒子少量、白色粘土粒子少量、しまりあり。粘性なし。
- SK-130
- 1 結核褐色土 ローム粒子含む、3層によく似る。
- SK-131
- 1 明褐色土 ローム粒子多量、硬くしまる。

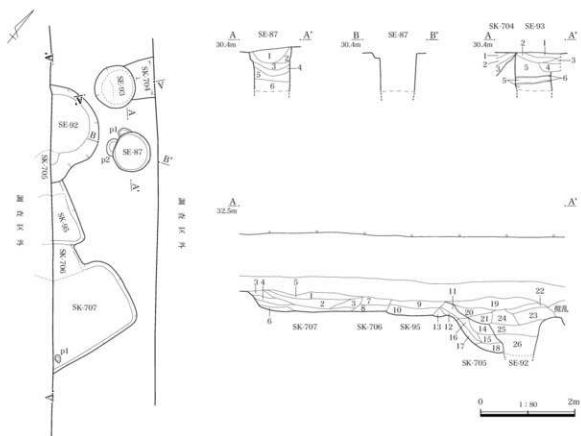


第15圖 第9・10号地下式坑・第5～8・125～131号土坑実測圖



第16圖 第11号地下式坑・第565号方形竪穴遺構・第132号土坑実測圖

第3章 確認された遺構と遺物



SE-87

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む、しまりあり。
- 2 暗褐色土 1層と似る、しまりあり。
- 3 灰白色土 粘土含む、しまりあり。
- 4 明褐色土 1・2層より大きなローム粒子含む、しまりあり、粘性あり。
- 5 明褐色土 4層よりローム粒子少量、しまりあり、粘性あり。
- 6 明褐色土 5層よりローム粒子多量、しまりあり、粘性あり。

SE-92

- 19 黄褐色土 ロームブロックに粘土少量、黒色土混じる、しまりなし。
- 20 黄褐色土 19層と似る。
- 21 黄色土 19・20層よりローム少量、黒色土多量、しまりなし、粘性あり。
- 22 黄褐色土 ロームブロック含む、しまりあり。
- 23 暗灰褐色土 24層より暗色、混入物は同じ、しまりあり。
- 24 灰褐色土 ローム土・粘土粒子・炭化物少量、しまりあり。
- 25 明灰褐色土 23・24層より明色、混入物は同じ。
- 26 暗灰褐色土 23層より暗色。

SE-93

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む、しまりなし。
- 2 明黄褐色土 ローム粒子・粘土含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック・白色粘土粒子少量。
- 4 黒褐色土 3層より黒色強い、3層と似る。
- 5 灰白色土 灰白色の粘土ブロック主体、しまりなし。
- 6 黒色土

SK-95

- 9 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量、しまりあり。
- 10 暗褐色土 9層よりローム粒子多量、しまりあり。

SK-704

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。
- 3 明褐色土 2層よりローム粒子多量、しまりあり。

SK-705

- 11 暗褐色土 粘土粒子含む。
- 12 暗褐色土 11層より粘土粒子少量。
- 13 明褐色土 ローム粒子少量。
- 14 黄褐色土 ロームブロック主体、粘土少量、しまりなし。
- 15 黄褐色土 14層よりしまりなし。
- 16 黄褐色土 ローム主体、上はしまるが、下はしまりなし。
- 17 黄褐色土 ローム主体、上はしまるが、下はしまりなし。
- 18 黄褐色土 ローム主体、硬い。

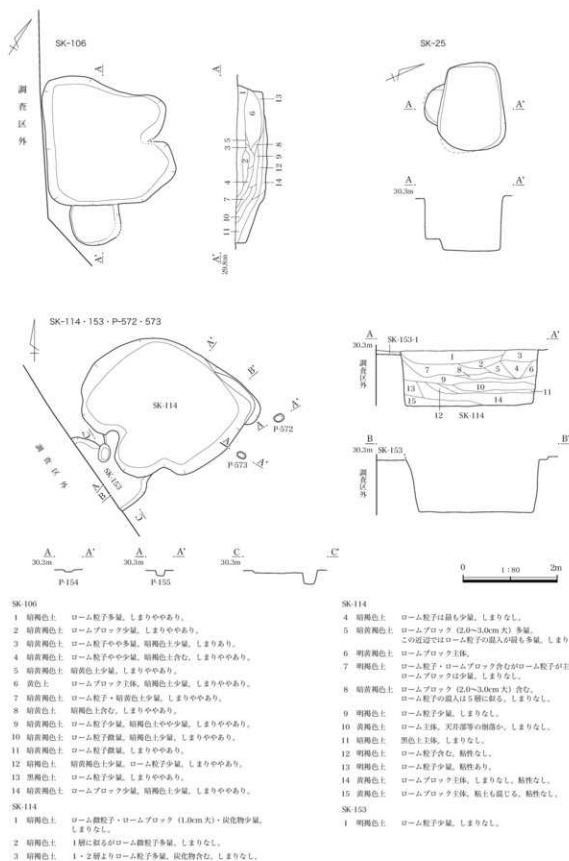
SK-706

- 7 明褐色土 ローム粒子少量、しまりあり。
- 8 明褐色土 7層よりローム粒子多量、しまりあり。

SK-707

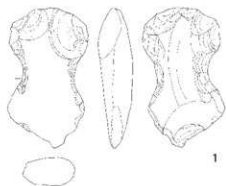
- 1 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりあり。
- 2 明褐色土 1層よりローム多量、しまりあり。
- 3 明褐色土 ロームは1層と似る、しまりなし。
- 4 明褐色土 3層よりローム多量、しまりなし。
- 5 暗褐色土 ローム少量、しまりあり。
- 6 明褐色土 ロームは3層と似る。

第17図 第705号地下式坑・第707号方形竪穴遺構・第87・92・93号井戸跡・第95・704・706号土坑実測図



第18図 第106・114号地下式坑・第25・153号土坑・第572・573号ピット実測図

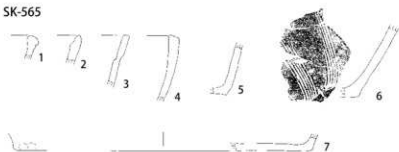
SK-1



SK-10



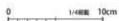
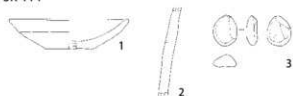
SK-565



SK-106



SK-114



第19図 第1・10・106・114・565号地下式坑出土遺物実測図

表3 第10号地下式坑出土遺物観察表

番号 図類	寸法	特徴	[単位:cm・g]			
			色調	胎土 構成	形状 状況	備考
1 土師器 鉢	口径: [12.6] 底径: 一 図高: 5.69	内 白緑-体部: ココナゲ 外 ヘラナゲ型 → 体部: ヘラナゲ → 口縁部: ココナゲ 底部にヘラナゲ型残る	内 灰 外 赤褐色	灰褐色・土師器 目野+2-6 片	小片	01482 58-10 跡山
2 瓦質土器 器鉢	口径: 一 底径: 一 図高: 7.2	内 ナゲ 内 裡らに磨りを施す 磨りは3本単位か	内 灰 外 灰	瓦質土器A群 片	小片	58-10

表4 第106号地下式坑出土遺物観察表

番号 図類	寸法	特徴	[単位:cm・g]			
			色調	胎土 構成	形状 状況	備考
4 内耳土器 小皿	口径: 一 底径: 一 図高: 5.63	内 ココナゲ 内耳縁合部: 上端 ココナゲ鋭く、 胎土部が明確に残る 内 口縁部: ココナゲ 体部: ヘラナゲ → オゾガ付着物	内 黄褐色 外 褐色	瓦質土器C群 片	小片	01482 58-106
5 瓦質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 図高: 1.12	上 ヘラナゲ 下 凸状 周縁部にヘラナゲ 凸部はヘラナゲ型 周縁部部、底辺のニス付着物	内 黄褐色 外 灰	瓦質土器A群 片	小片	58-106

表5 第114号地下式坑出土遺物観察表

番号 図類	寸法	特徴	[単位:cm・g]			
			色調	胎土 構成	形状 状況	備考
1 土師器土器 小皿	口径: [12.6] 底径: [4.9] 図高: 3.1	體部 コトコ成形か 底辺切り磨し磨滅	内 灰 或黄褐色	土師器土器A群 片	小片	01482 58-114
2 陶磁器 壺	口径: 一 底径: 一 図高: 9.52	内 外 ヘラナゲ	内 青褐色 外 にがい黄色	陶磁器群 片	小片	01482 58-114
3 小皿	長: 3.2 幅: 1.2 幅: 2.5 重: 16.69	断面 扁平な三角形状 表面 中々磨りか 裏面 小さな凸のあり	表裏 にがい黄緑色	6瓦質器	底片	01482 58-113a

表6 第565号地下式坑出土遺物観察表

番号 図類	寸法	特徴	[単位:cm・g]			
			色調	胎土 構成	形状 状況	備考
1 陶器 壺・口縁 部	口径: 一 底径: 一 図高: 5.52	口縁部は角形に成形 内外面自然磨りかふる	内 灰 にがい褐色	陶磁器群 片	小片	58-12
2 瓦質土器か 内耳土器	口径: 一 底径: 一 図高: 7.51	内 口縁部: ココナゲ 体部: ヘラナゲ 内 口縁部に筋を付す 外 口縁部: 磨滅 体部: ヘラナゲか	内 黄褐色 外 灰黄色	瓦質土器A群 片	小片	58-12
3 内耳土器	口径: 一 底径: 一 図高: 5.41	内 口縁部: ココナゲ 体部: ヘラナゲ 外 口縁部: ココナゲ 体部: ヘラナゲ 口縁部に筋を付す 口縁部下磨りかふる	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器A群 片	小片	58-12
4 内耳土器	口径: 一 底径: 一 図高: 5.99	内 ヘラナゲ 外 オゾガ付着	内 灰 にがい褐色	瓦質土器B群 片	小片	01482 58-12
5 内耳土器	口径: 一 底径: 一 図高: 5.12	内 外 口縁部: ココナゲ 体部: ヘラナゲ型 外 オゾガ付着	内 灰 にがい褐色	瓦質土器B群 片	小片	01482 58-12
6 瓦質土器 器鉢・底面	口径: 一 底径: 一 図高: 7.45	内 ナゲ 6本一単位とする磨りを裡らに施す 外 ナゲ	内 黄褐色 外 灰黄色	瓦質土器C群 片	小片	58-12
7 内耳土器	口径: 一 底径: [10.6] 図高: 1.80	内 ヘラナゲ 外 ヘラナゲ型 底周縁部磨滅 特徴の粗粒体部片・底辺部が出土する	内 灰赤色 外 黄褐色	瓦質土器A群 ゾラス製口多量 片	底面 1/12	58-12

中から18点が出土する。

出土遺物 1は陶器壺類口縁部とみられる。常滑産か。2は内耳土器口縁部か。瓦質土器としては胎土が粗いか。3は内耳土器口縁部か。口縁部から屈曲して体部に至る。4・5・7は内耳土器小片。4・5は同一個体か。図示し得なかった体部小片1片も同一個体か。7は平底の内耳土器である。似た特徴の体部片2片が出土する。6は摺鉢である。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

瓦質土器体部小片が1片出土する。内面に指頭痕が残る。胎土は瓦質土器A群である。内耳土器体部片5片・底部片2片が出土する。胎土は瓦質土器D群で似た特徴を持つ。同一個体か。

第705号地下式坑 (SK-705) (第17図 表89 図版四)

位置 Ⅲ-2区N-12グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705 (地下式坑) → SE-92 → SK-706 → SK-707の順に重複するか。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられる。また、SE-92との重複により北側を失っており、詳細は不明である。地下式坑ではない可能性が残るが、現地調査の所見に従い、地下式坑とする。SP-Aによれば、表土下であるレベル30.5m付近以下に確認される。長さ[1.4]m、表土下約0.3m・レベル30.2m付近で段付近の長さ[1.0]mである。底面の長さ[0.5]mである。**底面** ローム層を掘り込む。表土からの深さ約1.1m、レベル29.4mである。このうち、中段部までの深さ約0.3m、中段部から底面までの深さ約0.8mである。**覆土** 11～18層を確認した。中段部以下の14～18層はロームを主体とする黄褐色土である。**遺物出土状況** 覆土中から鉄製品1片が出土する。詳細は不明である。表89に記載する。

3 方形竪穴遺構

(1) 調査の概要

現地調査において方形竪穴遺構の可能性が考慮された遺構は5基である。

I区からはSK-105・567、Ⅱ区からはSK-24・109、Ⅲ-2区からはSK-707が確認される。

平面形が長方形や正方形であり、底面にピットを穿つ。ただし、SK-105にピットが確認されない。SK-567は長方形の掘り込みの中央にピットを穿つが方形竪穴遺構とした4基に比し小型である。SK-24は遺構東側が調査区外にあり、全容は確認し得なかったが、平面形等の特徴から方形竪穴遺構の可能性が考慮される。

出土遺物は、各遺構とも総じて少なく、小片が多い。土師質土器、瓦質土器、陶磁器の出土が主体であるが、SK-24からは銭貨「至道元宝」、SK-105からは鉄滓の出土が確認される。また、SK-105からは縄文土器・土師器・須恵器・瓦質土器・土師質土器など、時代幅の大きな遺物の出土も確認される。何れの遺構についても、埋没等に伴う混入である可能性が考えられ、遺構への帰属は判然としない。

(2) 方形竪穴遺構

第24号方形竪穴遺構 (SK-24) (第20・22・115図 表7 図版四)

位置 Ⅱ区Q-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SE-603より古い。SE-604とは判然としないが、本遺構が新しいか。**形状・規模・主軸** 東側が調査区外にあり、詳細は不明である。東壁は段をもって内側に膨らむが、SE-603に起因する可能性も捨て切れない。底面の規模は、東西(1.85)m・南北(1.2)m、主軸はN-80°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.94m、レベル29.16mである。

付属施設 北東隅部にピット1基を確認した。帰属等は不明である。底面における規模は、東西約0.22m・南北約0.34m、深さ約0.2m、レベル29.05mである。覆土は確認し得なかった。**覆土** 9層を確認した。5層は粘性の強いロームブロック層であり、天井部の崩落層とみられる。全体的にしまりない。6～9層はSE-603覆土である可能性も残り、帰属は判然としない。現地調査では、9層は天井部の崩落層との所見がある。**遺物出土状況** 本遺構、及び、SE-603、SE-604を含む覆土中から21片が出土する。

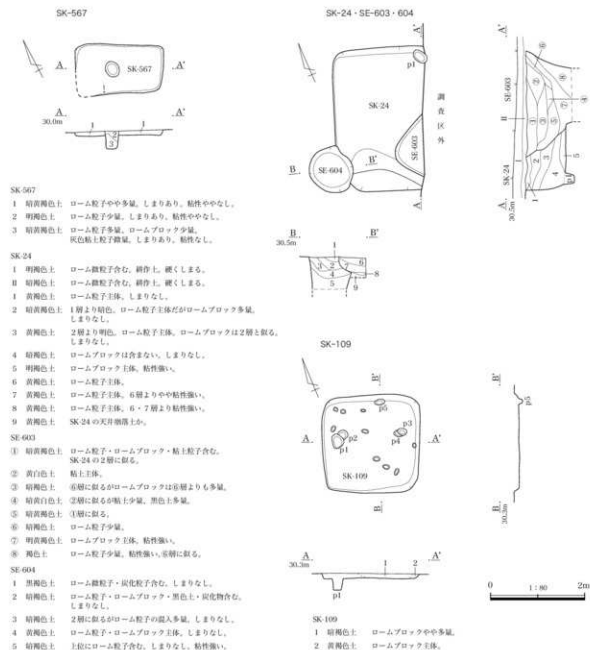
出土遺物 1～3は内耳土器、4・5は土師質土器、5は砥石とみられる。4の器種は判然としない。第115図-6は銭貨「至道元宝」である。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土師質の土器は2片が出土す。うち1片は器壁が厚く、1片は微細片である。内耳土器は10片が出土する。ガラス質粒子を含む小片4片、含まない小片6片である。含まない小片のうち3片は同一個体とみられ、平底片1片を含む。1片は内耳、2片は体部小片である。瓦質土器は1片が出土する。器壁が厚く、外面は剝離する。火鉢等の可能性はあろうか。陶器は1片が出土する灰類か。施釉は観察されない。緑色片岩微細片1片は板碑片か。

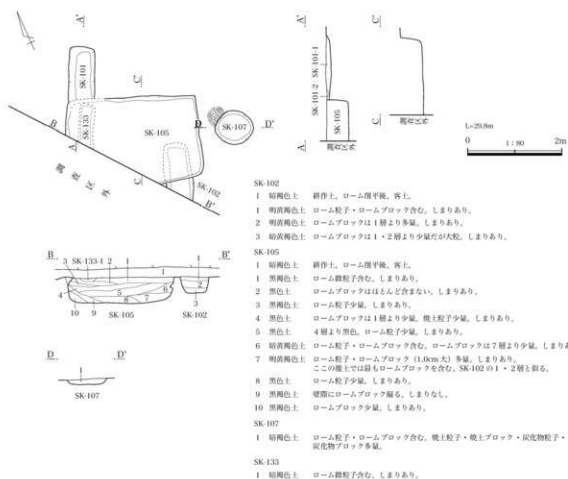
第105号方形竪穴遺構 (SK-105) (第21・22図 表8 図版四)

位置 1区U-22グリッドに位置する。**重複** 南東隅部に重複するSK-102より古い。西壁に重複するSK-101・133より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。西方から東方にやや窄む形状か。底面の規模は、東壁約1.55m・西壁約0.70m・南壁約0.85・北壁約2.5m、主軸N-68°-Wである。



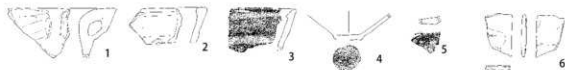
第20図 第24・109号方形竪穴遺構・第567号土坑・第603・604号井戸跡実測図

第3章 確認された遺構と遺物

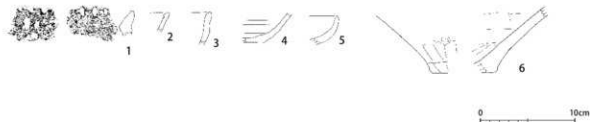


第21図 第105号方形竪穴遺構・第101・102・107・133号土坑実測図

SK-24



SK-105



第22図 第24・105号方形竪穴遺構出土遺物実測図

表7 第24号方形竪穴遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	内: ヘラナゲ 外: 口縁部: ヨコナゲ 内耳部合部下方のみ、胎痕あり	内: にごい・黄褐色 外: 黒褐色	灰質土器C群 瓦	小片	SK-24
2 内耳土器	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	内: 口縁部: ヨコナゲ 胎痕: ヘラナゲ 外: 口縁部: ヨコナゲ 胎痕あり 胎痕彩色部に整形	内: にごい・黄褐色 外: 黒褐色	灰質土器C群 瓦	小片	SK-24
3 内耳土器	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	内: 口縁下に出歯 口縁: ヨコナゲ 突出部下: ヘラナゲ 外: ヨコナゲ 口縁部の胎痕は溝い角形に整形される	内外: 緑褐色	灰質土器C群 瓦	小片	SK-24
4 土師質土器 小皿	口径: 1.1 底径: 2.7 器高: (2.5)	口クロ成形 胎痕溝い、底面: 胎痕未切り未磨削 胎痕小さく、後面に向けて大きく開く 底面ではなごい可成色あり	内外: にごい・黄褐色	土師質土器A群 瓦	底面	SK-24
土師質土器 煎餅	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	胎痕: 胎痕未切り未磨削 底面: 胎痕小さく平部	内: 黄褐色 外: にごい・黄褐色	土師質土器A群 瓦	小片	SK-24
6 磁石	長: 4.5 厚: 0.6 幅: 2.7 重: 8.35	面: 上: 右面の一端、側面片断のみ残存 底面 胎痕 右面 胎痕溝の一部分小	内: にごい・黄褐色 外: 黄褐色	黄鉄鉱小 瓦	小片	SK-24

表8 第105号方形竪穴遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
2 須恵器 鉢細片	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (2.0)	内面口縁の外面 自然軸か	内: 暗灰黄色 外: 灰黄色	須恵器・土師器 B群+1-2-6 瓦	小片	01482 SK-105
3 土師器 煎餅	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	内: ヨコナゲ 外: ヘラナゲ/口縁部: ヨコナゲ スス付着	内: 黄褐色 外: 黄褐色	須恵器・土師器 C群+1-2-6 瓦	小片	01482 SK-105
4 土師器 煎餅	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	口クロ成形 内外面 スス付着 底面 胎痕未切り後、ヘラナゲ小	内外: オリーブ黒	須恵器・土師器 C群+1-2-4-7 瓦	小片	01482 SK-105
5 土師質土器 小皿	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	口縁部: ヨコナゲ 胎痕: ヘラナゲ	内外: にごい・黄褐色 瓦	土師質土器B群 瓦	小片	01482 SK-105
6 家産 大甕	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: (1.5)	内: ヘラナゲ (口付) 外: ヘラナゲ小 (底面ヤケ小)	内: にごい・黄褐色 外: 緑褐色	陶器B群 瓦	小片	01482 SK-105

底面 ローム層を掘り込む。北壁から南壁にかけては約7.0cmの傾斜がみられる。付属施設 確認されなかった。覆土 8層を確認した。東壁は壁面が丸みのあるオーバーハングとなる。平面図中では確認面崩落後を図示した。西壁中央部の「く」図状の段差もオーバーハングに起因するものか。遺物出土状況 覆土中から35点が出土する。

出土遺物 1は縄文土器片。先端の尖った工具で刺突を施す。阿玉台式前半か。2は須恵器小片。口縁部に自然軸がかかる。3は土師器片か。4は口クロ成形の土師器か。5は非口クロ成形の土師質土器小皿である。6は常滑窯産の大甕か。

この他、図示し得なかった出土遺物は須恵器1片、土師器23片、搦鉢1片、粘土塊1片、鉄滓2片、小礫1片である。

須恵器は底部小片である。土師器は、坏口縁部片1片、口縁部2片を含む坏微細片9片、裏頸2片、器種不明11片である。坏口縁部片は9～10世紀代か。搦鉢は3条以上の摺り目を疎らに施す。鉄滓は表91に記載する。小礫はSK-94-8に似る小片である。

第109号方形竪穴遺構 (SK-109) (第20図 図版四)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。重複 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 方形状である。底面の規模は、約0.9m四方、主軸N-22°-Eである。底面 ローム層を掘り込み、概ね平坦である。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル29.91mである。付属施設穴 p1～5の他、9基の小ピットを確認した。p1・2、p3・4は重複するが詳細は不明である。各々の遺構底面を基準とした規模は、p1は東西約0.25m・南北約0.3m・深さ約0.24m・底面レベル約29.67m、p2は径0.2m前後・深さ・レベル

不詳、p 3は東西約0.2m・南北約0.16m・深さ約0.18m・レベル約29.83m、p 4は径0.14m前後・深さ・レベル不詳、p 5は東西約0.22m・南北約0.12m・深さ・レベル不詳である。これ以外の9基は、長軸0.15m前後・短軸0.1m前後、深さ・レベルは不詳である。覆土 2層を確認した。1層は暗褐色土、2層は黄褐色土であり、色調が明確に異なる。ピットの覆土は確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第567号方形竪穴遺構（SK-567）（第20図 図版四）

位置 1区D-10グリッドに位置する。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 南東-北西に長い長方形である。南東隅部を削平により失っている。底面の規模は、長軸約1.6m・短軸約0.94m、主軸はN-62°-Wである。底面 ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さは約0.3m、レベルは29.6m前後である。底面中央部にピットが穿たれる。覆土の堆積状況を確認し得ず、詳細は不明である。径約0.23m、底面からの深さ約0.3m、底面のレベル約29.28mである。覆土 3層を確認した。1層は遺構覆土、2・3層はピット覆土である。1層を切るように2・3層が堆積する。遺物出土状況 覆土中から銅銭を確認した。南西壁際の底面から1.0cm上位から出土する。

出土遺物 銅銭の詳細は不明である。

第707号方形竪穴遺構（SK-707）（第17図 図版四）

位置 III-2区N-12グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。重複関係 SK-705→SK-95→SK-706→SK-707（方形竪穴遺構）の順に重複する。形状・規模・主軸 遺構の大部分は調査区外にあるとみられ、詳細は不明であるが、北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西(2.0)m・南北1.5m前後、主軸N-20°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.45m・レベル約30.25mである。覆土 1～6層を確認した。付属施設 p 1を確認した。幅員等は不明である。径や東西約0.18m・南北約0.13m、表土下からの深さ約0.62m・底面からの深さ約0.17m、レベル30.08mである。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

4 土坑

(1) 調査の概要

現地調査において確認された土坑は185基である。

I区からは37基が確認される。調査区西半部に集中する傾向にあり、西側に位置する1次調査区東端部に位置するSD-200・222との関連が留意される。

SK-14は底面中央付近にピットを穿つ。方形竪穴遺構の可能性も考えられる。

SK-15は覆土の堆積状況から木根の可能性も残るが形状等から本節で報告する。

II区からは40基が確認される。遺構の密集する南半部に集中する。南東に位置するIII-1区との関連が留意される。

III-1区からは69基が確認される。総じて調査区南東部に群在する。

SK-42 以東SK-614～619の遺構の配置については不詳な点が多い。平面プラン、覆土の堆積状況から遺構番号を付したが、遺構数、重複関係等判然としない点が多い。

III-2区からは7基が確認される。北東に位置する3次調査B区との関連が留意される。

SK-85は地下式坑の可能性、SK-331は井戸跡の可能性が残る。

SK-78・79は中央土坑群の北西側に直交して位置する。また、SK-76は中央土坑群の北東部付近にあ

り、SK-79の延長線上にあたる。SK-76・78・79を結ぶラインは中央土坑群の北辺を囲う配置となるが、SK-79-76間には視乱穴があり詳細は不詳である。

SK-76は、深さはSK-79同様0.2mほどであるが、遺構確認面の高さは約0.2m高いレベルにある。旧地表の高さに起因するか。

Ⅲ-3区からは32基が確認される。北東に位置する3次調査C区との関連が留意される。

調査区中央部付近にSK-711～733が重複する。重複する土坑群の北西隅部付近にSK-78・79、北東隅部付近にSK-76・94が位置する。これらの土坑群は、主軸によって2つに大別される。北西・南東に主軸を持つ、概ね東西に長い土坑、及び、北東・南西に主軸を持つ、概ね南北に長い土坑である。東西軸の土坑の磁北との傾きは、N-59～72°-Wがみられ、N-59～63°-Wに集中する傾向にある。南北軸の土坑の磁北との傾きは、N-24～35°-Eがみられ、N-24～29°-Eに集中する傾向にある。東西軸と南北軸の主軸は概ね直交する。SK-76・78・79・94は重複する土坑群の外周を方形に囲う位置にある。

形状は長形、長円形状、長方形、方形などがみられる、長形であるものが多い。大きさが明確である土坑は、東西軸の土坑では、長軸0.3～2.12m・短軸0.3～1.7mが確認される。長軸には大きさの傾向は見いだせない。短軸は0.5m前後に纏まる傾向にある。南北軸の土坑では、長軸0.3～1.7m、短軸0.18～0.6m前後が確認される。東西軸同様、長軸には大きさの傾向は見いだせないが、短軸は0.5～0.6mを中心に纏まる傾向にある。東西軸・南北軸を総じてみると、目立った傾向のみられないが、長軸に0.3m・0.5m前後・1.5m前後の3大別を考え得る。

底面レベルをみると、東西軸では31.4～30.4m、南北軸では30.7～30.22mが確認される。大きな傾向はみられないが、30.5m前後のレベルのものが多い。

また、p1～10が重複する。SK-711 p1のように遺構下位の覆土が堆積するピットもあるが、帰属等、詳細は不明である。

調査区を総じて、平面形が長方形で、主軸が同方向、或いは、直交する位置関係にあるものの近接、重複が目立つ。

平面形については、定形的な長方形のものが多い。Ⅱ区-SK-31・589・590などほぼ同様の形状・規模をもつものが少なくないが、長軸が広がる形状であるもの（北東から南西に広がる形状：Ⅰ区-SK-4・5・15、南西から北東に広がる形状：Ⅰ区-SK-6・7等）、短辺が方形・円形で2辺の形状が異なるもの（Ⅰ区-SK-5・7等）などが散見される。

主軸については、北東・南西方向、及び、これに直交する方向に主軸を持つ土坑が主体となる。反対に、先述のⅡ区-SK-31・589・590など、平面形・規模をほぼ同じくするものの、主軸を異にする土坑もみられる。

位置関係については、①同様の形状・規模・主軸を持つ土坑の近接、②土坑の重複、③小土坑の重複、④掘り直し状に分割される覆土の堆積状況、など、遺構間の距離の有無に差異はあるものの、群在する傾向が看取される。重複、掘り直しについては、主軸や形状を異にする各遺構番号を付し、同様の形状・底面レベル・主軸を持つ土坑は遺構番号にアルファベット等の枝番を付した。

①については、Ⅰ区-SK-5周辺、Ⅰ区SK-3周辺、Ⅱ区SK-22・23・28（158）・601・602などにみられる。

Ⅱ区SK-22・23・601・602は、約3.0mの距離をもって南北に位置する。ただし、SK-158はやや深いこと、SK-23・158は底面のピットが穿たれることなど、異なる点については留意される。

②については、Ⅰ区SK-8・126～128、SK-5・6・125、SK-41・635～639、Ⅲ-3区-SK-94・711～714・716～733などにみられる。主軸や形状の似るものが群在する。

Ⅱ区 SK-111・154～159 は底面レベル 29.8 m 前後の土坑が重複する。同一遺構を含む可能性は残るが、主軸の異なる土坑については、各々に遺構番号を付した。

③についてはⅠ区-SK-3・123、SK-4・124、SK-104 などにみられる。何れも、小土坑が深く、新しい。

④については、Ⅰ区-SK-104 等にみられる。SK-104 は西壁沿いに位置する小ピットを含め、掘り直された可能性を考え得る。

Ⅰ区-SK-9-10間の浅い掘り込みに同一遺構の可能性が残る。その際、SK-8・126～128に主軸が添うことから、掘り直し等の関連を考慮すべきか。

他遺構との位置関係を見ると、溝状遺構や直線的な配置が考慮される位置関係のピットも、土坑同様の主軸のものが多い。

調査区内での位置を見ると、Ⅰ区では調査区西端部、Ⅱ区では調査区南半部に集中する傾向が見て取れる。この他、Ⅰ区-SK-104の底面に観察される焼土や、Ⅱ区-SK-110・115 平面形の短辺に確認されるポケットの状の小土坑などが留意される。また、Ⅲ-Ⅰ区-SK-73-2層下にp1の覆土の堆積がみられるが、掘方埋土か。

出土遺物は、土師質土器、瓦質土器、陶磁器が主体となるが、縄文時代～近現代まで時間幅の大きい遺物が確認される。自然軸のかかる須恵器、ガラス製品小片・工業化製品の釘などである。また、鉄製品、鉄滓の出土が確認される。鉄製品は小片が多く、詳細は明らかではないものが多いが、SK-37から銭貨「洪武通宝」が出土する。また、SK-41・42・46・47からは鉄滓が出土する。挿印中、遺構確認面は任意の高さである。また、Ⅰ区北西部を中心に削平が著しく、遺構確認面は旧地形を反映するものではない。

(2) 土坑

第2号土坑 (SK-2) (第13図 図版三)

位置 Ⅰ区 T-23 グリッドに位置する。**重複関係** 西側に重複する SK-1より古い。東側に重複する SK-122より新しい。が、同一遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西 0.7 m 前後・南北 1.14 m 前後である。主軸は N-25°-E である。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約 0.25 m、底面レベル 29.16 m 前後である。**覆土** 1層を確認した。ローム粒子や灰色粘土ブロックを含む。人為堆積か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第3号土坑 (SK-3) (第13図 図版三)

位置 Ⅰ区 T-23 グリッドに位置する。**重複関係** 東壁付近に位置する SK-123より古い。が、同一遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西 0.6 m 前後・南北 2.57 m 前後である。主軸は N-28°-E である。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約 0.12 m、レベル 29.29 m 前後である。**覆土** 1層を確認した。人為堆積か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第4号土坑 (SK-4) (第23・44図 表9 図版四)

位置 Ⅰ区 U-23 グリッドに位置する。**重複関係** 西隅部付近の小土坑、北東側の段差は別遺構である可能性が残るが明確にし得なかった。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い長方形である。南西壁付近は傾乱により判然としにくい。西隅部に小土坑、北東部に段差を持つ。底面の規模は、北東側の段差を含めた長軸 4.6 m 前後・段差を除く長軸 4.15 m 前後、短軸 0.8 m 前後で北東から南西にかけ狭まる形状にある。

西隅部の小土坑は、底面の長軸約1.9m、短軸は、SK-4同様に北東から南西にかけ狭まる形状にあり、0.5～0.65mである。主軸はN-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ0.38m前後、レベル28.95m前後である。北東部の段差部分の確認面からの深さは約0.25m、レベル29.07m前後であり、10.0cmほどの段差である。西隅部の小土坑の確認面からの深さは約0.4m、レベルは28.83mである。**覆土** 北東部の段差部分の堆積土を除く9層を確認した。人為堆積か。西隅部の小土坑とは時期差が想定される。**遺物出土状況** 覆土中から7点を確認した。

出土遺物 1は黒浜式の縄文土器片である。内削ぎの口縁部から附加条縄文を施す。胎土はやや緻密で、白色粒子、ガラス質粒子、繊維を含む。焼成は良好で、色調(内・外)にふい赤褐色・にふい褐色である。

2は小礫である。扁平な長円形でやや黄色がかった白色である。礫石等の可能性はあろうか。SK-114・3と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、1と似る縄文土器小片、土師質土器皿あるいは小皿とみられる微細片、薄手の土師質土器小片、土師質土器微細片2片である。

第5号土坑 (SK-5) (第14・15図)

位置 1区U-22グリッドに位置する。**重複関係** SK-125と重複し、同一遺構の可能性も残るが明確にし得なかった。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い方形形状である。北東壁付近は丸みを持ち、南西から北東に向けて狭まる。北東部は底面より8.0cmほど高いテラス状であり、底面にむけて緩やかに傾斜する。南西部の底面は北東部底面とほぼ同レベルであるが段差の確認はない。遺構の長軸は約4.9m・北東の段差部を除いた長さは約3.78m、短軸は北東部0.7m前後・南西部0.8m前後である。N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。北東部のテラス状の段差と南西部のレベルは同様の高さであり、皿状に近い。確認面からの底面までの深さ・レベルは、北東部の段差部分0.26m前後・29.07m、遺構中央部0.32m・29.16m、南西部0.22m前後・29.09mである。**覆土** 1層を確認した。北東部のテラス部分や南西部の堆積状況は確認し得なかったが、SK-104同様に分割して覆土が堆積する可能性も考えられようか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第6号土坑 (SK-6) (第14・15図)

位置 1区U-23グリッドに位置する。**重複関係** SK-9・10・129と重複する。新旧関係は明らかにし得なかった。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い方形形状である。南西から北東方向へ広がるが、本来の形状を示すものか判然としない。底面の長軸約4.34m・短軸0.8m前後である。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。南西部はSK-125との重複により不明瞭な点が多いが、概ね平坦とみられる。確認面からの深さ約0.18m、レベル29.20m前後である。**覆土** 1層を確認した。人為土上か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第7号土坑 (SK-7) (第14・15図)

位置 1区U-22グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い形状である。南西壁は方形に近く、北東部は丸みを持つ。南西から北東方向へ広がる。底面の長軸約3.26m・短軸南西部約0.63m；北東部約0.74mある。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦とみられる。確認面からの深さ0.1m前後、レベル29.26m前後である。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第8号土坑 (SK-8) (第14・15・44図 表10)

位置 1区U-22グリッドに位置する。**重複関係** 北東側にSK-126、南西側にSK-127・128が重複す

る。同一遺構である可能性も残る。SK-126より8.0cmほど、SK-127より3.0cmほど低い。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い形状である。遺構中央部に緩い屈曲がみられる。底面の長軸約2.92m・短軸(遺構中央部)約0.67m・両端部0.77m前後である。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦とみられる。確認面からの深さ約0.24m、レベル29.09m前後である。**覆土** 3層を確認した。2層はロームブロックの堆積が目立つ。特に、南側のSK-127重複部から60.0cmほど北側にかけては地山と見紛うロームブロック主体層である。人為埋土か。**遺物出土状況** 覆土中から2点を確認した。1を図示する。また、重複するSK-126～128を含む覆土中から3片が出土する。2を図示する。

出土遺物 1は土師器甕類体部小片である。この他、内耳土器とみられる体部小片2片が出土する。胎土にガラス質粒子を含む。

2は土師器甕類口縁部小片である。口径25cm前後か。図示し得なかった1片は、土師器甕類口縁部微細小片である。

第11号土坑 (SK-11) (第16図)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複関係** 北側にSK-132が重複する。新旧関係は不明である。SK-132底面とは、重複部付近で約40cmの段差を持つが、本遺構の底面は南から北へ傾斜しており、総じて同様のレベルとなるため、同一遺構である可能性も残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北向に長い方形である。底面の長軸約2.3m・短軸約0.6mある。主軸はN-17°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。南から北へ5.0cmほどの傾斜が確認される。確認面からの深さ・レベルは、南側約0.1m・レベル29.26m、北側約0.14m・29.21mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第15号土坑 (SK-15) (第13図 図版三)

位置 I区U-24グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-1との新旧関係は不明である。西側に重複するSK-17より古い。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。SK-1と重複する東壁の外側に膨らむ形状や、西から東に狭まる形状は本来の形状を示すものか判断しない。底面の規模は、東西約1.8m、南北の西壁付近約1.52m・東壁付近約1.3mである。主軸はN-21°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦であるが、西から東に向けた傾斜が確認される。確認面からの深さ・底面レベルは西壁付近で約0.16m・29.051m前後、西壁付近で約0.48m・29.0m前後である。**覆土** 9層を確認した。黒色土層とロームブロック層が北から南に向けて斜方向に堆積する。木根跡である可能性も考慮したが、方形の平面形や平坦な底面などから土坑と判断した。東壁の膨らみは、SK-1と同様に整坑の可能性を考慮し得るか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第16号土坑 (SK-16) (第13図 図版三)

位置 I区T-23グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西0.47m前後・南北3.76m前後である。主軸はN-28°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.1m、レベル29.36m前後である。**覆土** 図化し得なかったが、1層を確認した。人為堆積か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第18号土坑 (SK-18) (第14図)

位置 I区U-23グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、東西約0.41m後・南北約0.34mである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.16m、レベル29.18m前後である。**覆土** 2層を確認した。2層はロームブロックや粘土ブロックを多量に含み、1層とは明確に分層される。確認面での1層は抜き穴状に確認され

る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第20号土坑 (SK-20) (第23図 図版五)

位置 II区 R-18 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。SD 21 中央部付近の北壁に近接する。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い。北側に、8.0cmほどの傾斜のあるテラス状の段差を持つが、遺構確認面の状況等から同一遺構と判断される。底面の規模は、長軸の総長約2.02 m・テラス状の部分を除く長さ約1.62 m、短軸0.45 m前後である。主軸はN-10°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。底面には凹凸が認められる。確認面からの深さは0.25 m前後、レベル29.79 m前後である。テラス状の部分の深さは、壁際約0.06～0.14 m、レベル30.0～29.92 mである。 **覆土** 5層を確認した。総じてロームブロックの混入が目立つ。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第22号土坑 (SK-22) (第23図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約2.13 m・南北0.6 m前後m、主軸はN-82°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.1 m、レベル29.97 mである。 **覆土** 1層を確認した。SK-23-1層と似る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第23号土坑 (SK-23) (第23・44図 表11 図版五)

位置 II区 Q-17 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.75 m・南北0.5 m前後m、主軸はN-80°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.1 m、レベル29.98 mである。底面中央部南壁寄りに小ピットが確認される。扇風等は不明であるが、本遺構覆土堆積以前の開口と判断される。 **覆土** 2層を確認した。SK-22-1層と似る。 **遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 1は播鉢である。

第28号土坑 (SK-28) (第24・44図 表12)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-599より新しい。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。SK-599との重複により西側は不明瞭である。底面の規模は、土層断面の東西約1.72 m、南北0.45～0.7 m、主軸はN-84°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.13 m、レベル29.97 mである。 **覆土** 2層を確認した。2層は黒色土であり、西側の底面に直上に薄く堆積する。 **遺物出土状況** SK-28・599・600を含む覆土中から13点が出土する。

出土遺物 1～4は同一個体の片口か。推定される高さは約20.0cm。5は土釜、6・7は内耳土器である。図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

6と同一とみられる小片1片、7と同一とみられる小片1片、器面赤褐色の内耳土器4片、土師質の土器微細片3片である。器面赤褐色の内耳土器のうち、1片は内耳、3片は体部小片であり外面にスズ状の付着物が観察される。

第29号土坑 (SK-29) (第23図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い不整形である。底面の規模は、東西0.4 m前後・南北約1.97 m、主軸はN-23°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。確認面からの深さ約0.08 m、レベル29.9 mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **付属施設** p1・2が確認される。扇風等、詳細は不明である。p1は北壁に穿たれる。東西約0.16 m・南北約0.28 m、遺構確認面からの深さ約0.2 m、底面レベル29.9 mである。p2は底面

中央南寄りに穿たれる。径0.11 m前後である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第31号土坑 (SK-31) (第23図)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。東壁は調査区外に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 東西に長い長円形状である。底面の規模は、土層断面の東西(0.66) m・南北約0.47 m、主軸はN-51°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.13 m、レベル29.94 mである。 **覆土** 確認しなかった。 **遺物出土状況** 覆土中からスレート1片が出土する。

第32号土坑 (SK-32) (第23図)

位置 II区P-17グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 詳細は不詳であるが、概ね東西に長い長方形と推察される。遺構確認面下0.15 m付近で狭くなるが、特に、南壁は抉れるように屈曲する。底面の規模は、長軸(0.45) m・短軸約0.52 mである。主軸はN-67°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さは0.42 m前後、レベル29.69 m前後である。 **覆土** 5層を確認した。総じてロームブロックの混入が目立つ。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第33号土坑 (SK-33) (第52図 図版五)

位置 III-1区P-15グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.47 m・南北約1.17 mである。主軸はN-23°-Eである。
底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.15 m、レベル29.76 mである。 **覆土** 1層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第35号土坑 (SK-35) (第44・52図 表13 図版五)

位置 III-1区P-15グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.45 m・南北約1.42 mである。主軸はN-10°-Eである。
底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.18 m、レベル29.71 mである。 **覆土** 2層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 1は播鉢底部片である。

この他、図示しなかった出土遺物は、内耳土器口縁部1片・体部1片である。いずれも胎土は瓦質土器D群(多)である。

第37号土坑 (SK-37) (第25・44図 表14・89)

位置 III-1区O-14グリッドに位置する。 **重複関係** SK-647→SK-648→SK-646→SK-37の順に重複する。P-44と近接するが、帰属や新旧関係等不詳である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約2.0 m・南北約1.4 mである。主軸はN-22°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.52 m、レベル29.44 mである。 **覆土** 18～20層を確認した。 **付属施設** 中央部付近にp1が確認される。帰属等は不詳である。径約0.2 m・深さ約0.7 m・レベル29.31 mである。 **遺物出土状況** 覆土中から18点が出土する。

出土遺物 1は砥石片である。第115図-3は銭貨「洪武通宝」である。

図示しなかった出土遺物は、土師器とみられる小片3片、土師質土器2片、内耳土器体部6片、瓦質土器微細片1片、播鉢1片、小礫3点である。

土師質土器はロクロ成形の小皿口縁部1片・体部1片である。内耳土器の胎土は5片は瓦質土器C群、1片はD群である。播鉢は4条以上一単位の摺り目のみが見える小片である。小礫のうち1片⑤は凝灰質シル

ト岩片で、部分的にススが付着する。1片④は石器石材、1片は破砕小片である。

第38号土坑 (SK-38) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-738・739→SK-38の順に重複する。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。底面の規模は、東西約1.03m・南北約1.26mである。主軸はN-27°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.34m、レベル29.8mである。

覆土 1～6層を確認した。4・5層は遺構東・西側で層序が逆転する。4層は特徴の似た2層分の堆積である可能性が残る。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は東西約0.16m・南北約0.14m、SK-38底面からの深さ約0.09m、底面レベル29.71mである。p2は径0.08m前後である。**遺物出土状況** 覆土中から10片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片、内耳土器体部7片(胎土C5片・D2片)・底部1片、土師質土器微細片1片である。

第39号土坑 (SK-39) (第52図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-626→SK-627→SD-72→SK-39の順に重複する。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.47m・南北約0.86mである。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.33m、レベル29.56mである。**覆土** 1～3層を確認した。上層に炭化物の堆積が観察される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片、内耳土器口縁部片1片である。内耳土器の胎土は瓦質土器C群である。

第40号土坑 (SK-40) (第24図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い隅丸方形形状である。底面の規模は、東西約0.83m・南北約0.19mである。主軸はN-26°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.18m、レベル29.82mである。**覆土** 2層を確認した。ロームブロックが目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片・体部1片、内耳土器体部1片である。内耳土器は、外面にオコゲ状の付着物が残る。胎土は瓦質土器C群である。

第41号土坑 (SK-41) (第26・44・116図 表15・91・94 図版5)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸方形形状である。底面の規模は、東西約0.27m・南北約0.75mである。主軸はN-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.41m、レベル29.52mである。**覆土** 12～14層を確認した。

遺物出土状況 SK-41・638・639を含む覆土中から77点が出土する。また、スレート片の出土も確認される。

出土遺物 1は須恵器甕体部小片である。埋没時に混入か。2～7は土師質土器小皿である。2は灯明皿か。2・7は器壁が薄手、3～6は器壁が厚手である。底径は小さい。8～13は内耳土器である。9は口縁部に段を持つ。8は深鍋。10・11の底部は丸みを帯びるか。12・13は平底である。14は摺鉢である。15は石窯未製品か。白斑が混入する黒曜石製である。高原山産とみられる。長さ2.7cm・幅1.8cm・厚さ0.7cm・重さ2.8g。16は大きさや形状から石窯未製品か。斑や石目から作成を断念か。長さ2.5cm・幅1.8cm・厚

さ 1.3cm・重さ 4.6 g。17 は平坦な小礫。礫石の可能性はあるか。第116図-1は磁器半筒碗である。

この他、図示し得なかった出土遺物は須恵器裏体部2片、須恵器堀類体部1片、土師器裏とみられる口縁部微細片1片、土師質土器小皿10片、土師質の土器7片、内耳土器24片、播鉢1片、陶磁器5片、石材1片、陶磁器6片、鉄滓2点である。

土師質土器小皿のうち1片は口縁部片、6片は器壁が厚手、1片は薄手、2片は微細片である。厚手の小片は口縁部1片・底部4片・体部1片である。体部片には金属器による切削痕跡の痕跡が観察される。砥石等への転用か。

内耳土器のうち、胎土にガラス質粒子を含まない小片は11片が出土する。うち1片は8回様に口縁部下に段差を持つ。1片は9の同一個体か。ガラス質粒子を含む破片は13片が出土する。7片は多量に、4片は少量含む。これ以外の2片は同一個体か。

播鉢は、5本以上一単位の磨り目を疎らに施す体部小片である。

陶磁器は、灰釉に似たオリブ色の釉を薄く施す陶器2片、鉄釉を施す陶器2片、染付を施す磁器2片が出土する。オリブ釉の2片はロクロ成形の瓶頸頭部片・体部片。体部片はココ方向の沈線が一条残る。鉄釉の2片は微細片。1片は小型で浅い皿状か。体部微細片は緑色を帯びる黒褐色である。染付は内面幾何学文・外面無文の口縁部小片、体部は外面幾何学文・内面無釉の体部微細片である。

鉄滓は表91に記載する。

第42号土坑 (SK-42) (第28・29・30・31・45図 表16・90 図版五・一四)

位置 III-1区O・N-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SK-613と接するが新旧関係は不明である。遺物の出土状況を見ると、内耳土器4は本遺構下層出土の破片とSK-613上層出土の破片が接合する。本遺構が新しい可能性を考え得る。**形状・規模・主軸** 円形状であり、テラス状の中段部を持つ。径約1.8mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは約0.35m・29.79、中段部までの深さは0.2m前後・29.9～29.99mである。**覆土** 15～21層を確認した。18～20層はローム主体の黄褐色土層である。21層は遺物の出土が密であり、詳細な観察をし得なかったが、18～20層、特に、19層に似る。18～21層の堆積を掘り直して13・14層が堆積したか。**付属施設** 底面にp19～33が確認される。帰属等詳細は不明である。SK-614 p34・39同様、堆積土を掘り込む可能性も考えられる。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりであるが、深さを確認し得たピットはp25のみである。p19:約0.1m、p20:0.16m前後、p21:0.18m前後、p22:0.1m前後、p23:0.14m前後、p24:約0.08m、p25:約0.2m・約0.47m・29.63m、p26:0.18m前後、p27:約0.07m、p28:0.15m前後、p29:約0.07m、p30:0.11m前後、p31:0.12m前後、p32:約0.1m、p33:約0.09mである。**遺物出土状況** 覆土中から13点が出土する。1・10・11は確認面付近、6・9・2は覆土上層、6・7・1はテラス部分の覆土下層、3は遺構中位、4・5は遺構下位から出土する。19層付近からは内耳土器がまとまって出土する。

出土遺物 1は須恵器裏体部破片。確認面付近出土の1片とテラス部分出土の1片が接合する。2～5は内耳土器である。3は内耳が確認される。5は深鍋の内耳土器である。本遺構下層出土の口縁部・内耳を含む土器上半4片・18層出土破片とSK-613上面から出土する体中位のSK-613-19・体下半の12の2片が接合する。本遺構出土破片が下位からの出土であるため、本遺構で報告する。本遺構出土の4片内耳は約8.0cm間隔の2個体がセット関係となるか。4は内耳土器の平底片である。6は古瀬戸か。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

7～11は内耳土器小片である。7・8は同一個体とみられる体部小片、胎土は瓦質土器D群。9からは体部小片2片、胎土は瓦質土器D群少量。10は口縁部小片、胎土は瓦質土器D群。11は器壁の厚い体部小片、胎土は瓦質土器C群。鉄滓1片は表91に記載する。

第43号土坑 (SK-43) (第28・29・30・31・45図 表17・89 図版5)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-619より新しい。SK-54とは不明であるが、本遺構が新しいか。**形状・規模・主軸** 東西に長い円形状である。底面の規模は、東西1.8m・南北(1.0)mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.28m前後、レベル29.88mである。

覆土 38～44層を確認した。**付属施設** 底面にp 64～67を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。p 64:0.1m前後、p 65:0.16m前後、p 66:0.2m前後・約0.52m・29.63m、p 67:0.12m前後である。**遺物出土状況** 覆土中から18片が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿口縁部片。2は鏝鉢。

この他、図示し得なかった出土遺物は内耳土器6片、土師質の体部微細片2片、小碟2片、陶磁器5片、鉄製品1片である。

内耳土器は3片は口縁部、2片は体部、1片は底部であり、胎土は瓦質土器D群である。鏝鉢微細片は砥石微細片か。チャート塊③は石器石材か。

陶器は4片が出土する。天目碗とみられる体部片1片、灰釉の口縁部微細片・体部微細片、淡褐色釉のロクロ成形の体部微細片である。磁器は1片が出土する。西洋呉須の染付で、内面口縁部6本の条線・外面植物文を施す。近代以降か。

鉄製品は刀子状の小片が出土する。表89に記載する。

第44号土坑 (SK-44) (第45・52図 表18 図版5)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** SD-633と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い不整形である。覆土の堆積状況から3時期が想定される。重複であるか、掘り直しであるか等判然としない。便宜的にA・B・Cを付す。底面の規模は、東西の総長約0.72m、南北の総長約1.25m・A[0.5]mである。**主軸** N-3°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。3時期ともほぼ同レベルである。遺構確認面からの深さは約0.3m、レベル29.56mである。**覆土** A覆土:17・18層、B覆土:19～21層、C覆土:22・23層を確認した。**付属施設** 北側にピット状の掘り込みが確認される。帰属等、詳細は不明である。径約0.44m・遺構確認面からの深さ約0.32m・レベル29.53mである。**遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。

出土遺物 1は常滑産狭口縁部。14世紀代(常滑8型式)か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土師質土器小皿1片。ロクロ成形とみられる。磨滅が著しい。内耳土器6片。口縁部2片・体部1片は胎土C群、胎土1片・底部片は胎土D群である。

第45号土坑 (SK-45) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 調査区外に延びるため詳細は不明であるが、東西に長い方形か。底面の規模は、東西(0.22)m・南北約0.89m、主軸N-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下の深さは約0.26m、レベル29.82mである。**覆土** 1層を確認した。埋め戻し土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第46号土坑 (SK-46) (第26・45・116図 表19・91・94 図版五)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸形状である。底面の規模は、東西約0.46m・南北約0.74mである。主軸はN-72°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.2m、レベル29.81mである。**覆土** 2層を確認した。炭化物を含む。**付属施設** 南北壁際中央部にp1・2が確認される。帰属等、詳細は不明であるが、対にみえる位置に穿たれることなどから、本遺構に伴う可能性が高いか。p1は東西約0.25m・南北約0.34m、遺構確認面からの深さ約0.53m・底面からの深さ約0.31m、レベル29.5mである。p2は東西約0.22m・南北約0.25m、遺構確認面からの深さ約0.4m・底面からの深さ約0.18m、レベル29.63mである。**遺物出土状況** 覆土中から11点が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿か。2は石礫末製品か。第116図-2・3は古瀬戸か。器種は判然としない。口縁部端部～内面口縁部のみ灰土を施す。小片のため、体部の立ち上がりは不明確である。2・3は同一個体とみられる。4はピット内から出土するが、p1・2の何れであるか不明である。

この他、図示し得なかった土出土遺物は土師質土器3片、内耳祖器2片、土師質の土器微細片1片、鉄滓1片である。

土師質土器はいずれもロクロ成形の口縁部片内耳土器は体部片で胎土C群である。鉄滓は表91に記載する。

第47号土坑 (SK-47) (第24・45図 表20・91 図版五)

位置 Ⅲ-1区O-14グリッドに位置する。**重複関係** SK-47→SK-649・SK-651→SK-650の順に重複する。SK-47:SK-650・SK-649:SK-650の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状である。方形の掘り込みの周囲三方(北・東・西壁)はテラス状に掘り込まれる。張り出し部を含む規模は、東西約2.4m・南北約1.8mである。方形の掘り込み部の規模は、底面の東西約1.9m・南北約1.46mである。主軸はN-60°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面から張り出し部の深さは、約0.1m、レベル29.9mである。方形の掘り込み部の深さは約0.4m・レベル約29.6mである。**覆土** 2～4層を確認した。3層は遺構確認面付近から遺構中位に堆積する。張り出し部・方形の掘り込み部は同時に廃絶か。p3上部に4層の堆積が観察される。**付属施設** p1～5が確認される。帰属等、詳細は不明である。p3は上部に4層が堆積する。本遺構に伴う可能性が高いか。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p1:東西約0.3m南北約0.14m・約0.85m・29.15m、p2:約0.15m・約0.18m・29.82m、p3:約0.2m・約0.67m・29.33m、p4:約0.14m、p5:約0.1mである。**遺物出土状況** 覆土中から14点が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿口縁部小片。小片からの推定であるが、体部が大きく開く器形か。2は内耳土器口縁部小片。小片からの推定ではあるが、体部は直立気味に立ち上がるか。

この他、図示し得なかった土器片は土師質土器小皿1片、内耳土器6片、陶器1片、鉄製品3片、鉄滓1片である。

土師質土器微細片1片はロクロ成形の小皿か。内耳土器体部6片の胎土は、6片は瓦質土器C群、3片はD群多量である。胎土C群の1片は内面にスガが付着する。

陶器は灰の内外面に灰土が薄く施される。器面には光沢が強い。近世後半以降か。

鉄製品は釘状の小片が出土する。表89に記載する。鉄滓は1片が出土する。表91に記載する。

第48号土坑 (SK-48) (第24・45図 表21)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南

北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.8m・南北約2.0mである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が認められる。遺構確認面からの深さは0.2m前後、レベル29.98m前後である。**覆土** 2層を確認した。**付属施設** 底面にp1~4を確認した。判然としなが、2層が堆積するとみられ、本遺構に伴うか、本遺構以前とみられる。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。p1:0.4m前後、p2:約0.15m・約0.4m・29.74m、p3:0.3m前後・約0.16m・29.88m、p4:0.2m前後・約0.29m・29.84m、p5:0.1m前後である。**遺物出土状況** 覆土中から4点が出土する。

出土遺物 1は縄文土器体部小片。色調は明黄褐色・明赤褐色、胎土の白色粒子を含む。前期か。2は土師質土器小皿口縁部片。ロクロ成形を施す。

この他、図示し得なかった土器片は以下のとおりである。

ロクロ成形の土師質土器小皿小片1片、内耳土器体部とみられる微細片1片である。内耳土器小片の胎土は瓦質土器C群である。

第49号土坑 (SK-49) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-17グリッドに位置する。北側は調査区配に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 南北に長い長円形状である。覆土の堆積状況から、3時期の掘り直しが観察される。3遺構の重複の可能性も否めないが、形状を一つにすることから、掘り直しとして報告する。便宜上、古い堆積土からA→B→Cを付す。底面の規模は、全長東西約0.22m・南北約2.17mである。Cは南北約1.3mである。主軸はN-22°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約A・B約0.2m・C約0.16m、レベルはA・B29.7m、C29.72mである。**覆土** 3層を確認した。1層はC、2層はB、3層はCの堆積層である。何れもロームを主体とする黄褐色土である。**付属施設** C底面にp1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。周辺に位置するP-233~237に類するピットの可能性も考えられる。p1は径0.2m前後・深さ約0.31m・レベル29.56m、p2は径0.18m前後・深さ約0.3m・レベル29.57mである。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、2点は内耳土器体部小片である。胎土は、1片は瓦質土器C群、1片はD群である。1点は流紋岩小片。残存面・破砕面はタール状の付着物が観察される。砥石片か。

第50号土坑 (SK-50) (第24図)

位置 Ⅲ-1区N-15グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 東西に長い形状であり、西側はテラス状の段差となる。規模は、東西の総長約0.28m、東側の部分の底面約0.97m・南北0.5m前後、テラス部分の底面約0.18m・南北約0.28mである。主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.38m・レベル29.82m、テラス部分の深さ約0.24m・レベル29.95mである。**覆土** 2層を確認した。粒形の大きいロームブロックを含む。埋め戻し土か。**付属施設** 底面にp1を確認した。帰属等是不詳である。径約0.19m・深さ約0.52m・レベル29.68mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第51号土坑 (SK-51) (第25・45図 表89)

位置 Ⅲ-1区P-14グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-643・644・645→SK-51の順に重複する。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西0.56m前後、南北(1.42)mである。主軸はN-35°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.37~0.52m・レベル29.64~29.42mであり、p1以南は浅い。**覆土** 1~7層を確認した。1・2層はp1以北、3~7層はp1以南に確認される。**付属施設** 底面にp1・2を確認した。帰属等

は不詳である。p 1 は径0.24 m前後・遺構確認面からの深さ約0.57 m・レベル29.35 m、p 2 は径約0.12 m・遺構確認面からの深さ約0.47 m・レベル29.45 mである。 **遺物出土状況** 覆土中から11点が出土する。

出土遺物 1は須恵器小片。斐類か。2は土師器斐底部片か。

この他、図示し得なかった土器片は以下のとおりである。

内耳土器口縁部小片1片、内耳片1片、体部片4片、底部片1片、砥石片1片、鉄製品1片である。内耳土器7片のうち、体部1片・底部1片は胎土D群、残る5片は胎土C群である。砥石片は粘板岩製で、現状で長さ約26cm・幅2.5cm・厚さ0.5cm・重さ4.03 g、側面とみられる底面の一部のみが残る。鉄製品は釘状の小片が出土する。表89に記載する。

第52号土坑 (SK-52) (第52図 図版五)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西0.1 m前後・南北約0.92 mである。主軸はN-30°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.34 m、レベル29.58 mである。 **覆土** 3層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第53号土坑 (SK-53) (第24図)

位置 Ⅲ-1区O-17グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い楕円形である。底面の規模は、南側の東西約0.5 m・北側の東西約0.24 m、南北約1.0 mである。主軸はN-26°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.24 m、レベル29.76 mである。 **覆土** 2層を確認した。 **付属施設** p 1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。西側に位置するP-611に類するビットの可能性も考えられる。p 1は径0.1 m前後、p 2は径0.15 m前後・底面からの深さ約0.16 m・遺構確認面からの深さ約0.3 m・レベル29.57 m、p 3は径0.15 m前後である。 **遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部片とみられる。外面にオコゲ状の付着物が残る。胎土は瓦質土器C群である。

第54号土坑 (SK-54) (第28・29・30・31・45図 表23 図版一四)

位置 Ⅲ-1区O-N-16・17グリッドに位置する。北側は調査区に延びる。 **重複関係** SK-43より古いか。SK-617・618とは不明である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。北側は0.18 m前後高くなる。規模は、東西0.7 m前後、南北の総長(1.9) mである。北側の部分の東西約0.5 mである。主軸はN-25°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.28 m前後、レベル29.86 mである。北側部分の遺構確認面からの深さ約0.11 m・レベル30.03 mである。 **覆土** 45～47層を確認した。47層は埋め戻し土か。 **付属施設** 底面にp 68～76を確認した。何れも南側の部分に確認される。帰属等不詳であるが、p 75は本遺構覆土を掘り込む。p 69・70は重複するが詳細は不明である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。p 68:0.15 m前後、p 69:0.16 m前後・0.4 m・29.75 m、p 70:0.24 m前後、p 71:0.13 m前後、p 72:0.08 m前後、p 73:約0.14 m・約0.27 m・29.88 m、p 74:0.15 m前後、p 75:約0.03 m、p 76:約0.08 mである。 **遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 1は陶器押し皿、古瀬戸か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器体部小片とみられる。胎土は、1片は瓦質土器C群、1片はD群である。

第55号土坑 (SK-55) (第24図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。西側は調査区に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 東西に長い形状か。底面の規模は、東西(1.06)m・南北約0.54mである。主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m、レベル29.843mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。また、スレート片の出土も確認される。

出土遺物 図示し得なかったが、土師質の体部小片である。胎土に雲母粒子は含まない。

第56号土坑 (SK-56) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-640より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状である。西側の掘り込みは掘りすぎの部分があるか。底面の規模は、東西約1.52m・南北約0.57mである。主軸はN-78°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.62m、レベル29.46mである。**覆土** 5層を確認した。埋め戻し土か。**遺物出土状況** 覆土中から7片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、土師質土器小皿小片1片、内耳土器片5片、播鉢片1片である。土師質土器小皿はコクロ成形である。内耳土器は、胎土瓦質土器C群が体部片1片・底部片1片、D群は体部片3片である。播鉢は摺り目を疎らに施すが詳細は不明である。

第58号土坑 (SK-58) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北側を掘乱しにより失う。南北に長い形状か。底面の規模は、東西0.6m前後・南北(1.32)mである。主軸はN-20°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.46m、レベル29.54mである。

覆土 3層を確認した。埋め戻し土か。**付属施設** 底面にp1が確認される。径0.1m前後・深さ約0.59m・レベル29.41mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第60号土坑 (SK-60) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-17グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 不整形である。西側はテラス状に張り出すが、帰属等は判然としなない。底面の規模は、東西約0.7m、テラス部分約0.25m、南北(0.62)m・テラス部分0.25m、主軸はN-20°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.38m、レベル29.66m、テラス部分は約0.3m、29.73mである。**覆土** 3層を確認した。何れも黄褐色土である。**付属施設** p1が確認される。帰属等詳細は不明である。径0.2m前後、深さ約0.16m・底面からの深さ約0.16m・遺構確認面からの深さ約0.5m・レベル29.5mである。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器口縁部片である。外面にオコゲ状の付着物が残る。胎土は瓦質土器C群である。

第61号土坑 (SK-61) (第32図 図版六)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からはSK-620→SK-61→SK-621・SK-622→SK-623とみられる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西約2.26m、南北0.72～0.86mである。覆土の堆積状況からは遺構確認面の規模はこれよりも大きいか。主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.28m前後、レベル29.85mである。

覆土 4～7層を確認した。7層はロームブロック主体に黄褐色土であり、別遺構の可能性も残る。遺

物出土状況 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部1片・底部1片である。体部は外面にオコゲ状の付着物、底部は外面底周部が被熱により赤色変化する。胎土はともに瓦質土器C群である。

第63号土坑 (SK-63) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 不整な円形状である。底面の規模は、東西約0.9m、南北約0.8mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.07m、レベル29.96mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第65号土坑 (SK-65) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。西側はテラス状の段差となる。規模は、東西の総長約0.85m、東西約0.85m・テラス部分の東西0.14m前後。南北の底面約2.42mである。主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.3m前後、レベル29.74m、テラス部分の深さ約0.12m・レベル29.9mである。

覆土 3層を確認した。埋め戻し土か。**付属施設** 底面にp1～5が確認される。p5はテラス状の部分に位置する。帰属等は不詳である。北側に近接するP-624との関連、また、これらを総じた関連も考え得る。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p1:約0.06m、p2:0.06m、p3:0.08m前後・0.14m・29.9m、p4:0.15m前後、p5:約0.08mである。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、掘鉢小片である。5条以上一単位の摺り目の部分が残る。

第66号土坑 (SK-66) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** P-634より古い。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、東西約0.44m、南北約0.36mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.34m、レベル29.65mである。**覆土** 5層を確認した。総じて、ロームを含む黄褐色土である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第67号土坑 (SK-67) (第32図)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。覆土の堆積状況から2時期と想定されるが、重複であるか、掘り直しであるか判断としない。便宜的にA・Bを付す。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西の総長約0.5m、南北の総長約1.0m・A約0.6m・B約0.4mである。主軸はN-38°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。A・Bともほぼ同レベルである。確認面からの深さは約0.1m、レベル29.87mである。**覆土** A:1層、B:2層を確認した。総じて、ロームを主体とする。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第68号土坑 (SK-68) (第32図)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** やや東西長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.74m・南北約0.64mである。主軸はN-78°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.13m、レベル29.84mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第69号土坑 (SK-69) (第45・52図 表24)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** SD-72と重複するが、新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.79mである。主軸はN-10°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.16m、レベル29.56mである。

覆土 15・16層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から19点が出土する。

出土遺物 1は大形であるが土師質土器小皿か。2は内耳土器。

図示し得なかった出土遺物は、土師質土器小皿2片、内耳土器14片、陶器甕1片である。

土師質土器は口縁成形の口縁部片である。内耳土器は、胎土C群が口縁部2片・体部7片・底周部2片、胎土D群が体部微細片3片である。体部の1片は外面にオコゲ状の付着物、底部の1片は外面底周部が被熱により赤色変化する。陶器甕は底部片である。常滑産か。

第70号土坑 (SK-70) (第32図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。 **重複関係** SK-612より古い。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.59m・南北約0.37m、主軸はN-41°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.63m、レベル29.47mである。 **覆土** 3層を確認した。図中、破線部以下の堆積は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から4点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部片4片が出土する。外面にスズ状・オコゲ状の付着物が顕著に観察される。同一個体とみられる。

第71号土坑 (SK-71) (第32・45図 表25)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い円形状である。北側の掘り込みは掘りすぎの部分もあろうか。底面の規模は、東西約0.98m・南北約0.58m、主軸はN-70°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.23m、レベル29.7mである。 **覆土** 1～5層を確認した。1・2層・3～5層の上下2層に大別できようか。 **遺物出土状況** 覆土中から12片が出土する。

出土遺物 1は古瀬戸碗類か。

この他、図示し得なかったが、土師質の土器片1片、内耳土器9片、陶器1片が出土する。

土師質の土器片は体部片1片が出土する。内耳土器は口縁部小片1片・体部小片8片である。口縁部片はSK-75-1に似る。口縁部1片・体部3片の胎土は瓦質土器C群、体部5片は胎土D群である。陶器は器厚の薄い甕類の体部小片で胎色の釉がかかる。

第73号土坑 (SK-73) (第27・45図 表26)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南西隅部を視乱により失う。方形か。底面の規模は、東西1.85m前後・南北約0.87mである。主軸はN-30°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.14～0.24m前後、レベル29.86～29.76mである。 **覆土** 4層を確認した。2層下にp1が堆積する。3・4層は掘り方埋土か。

付属施設 底面にp1～4が確認される。p1は2層下に堆積する。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p1：東西約0.29m・南北約0.17m・約0.44m・29.56m、p2：0.08m前後、p3：0.12m・0.32m・29.68m、p4：0.1mである。 **遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 1は土師質土器か。器種不明である。

第74号土坑 (SK-74) (第33図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** SK-641→SK-75→SD-642の順に重複する。

形状・規模・主軸 不整な台形状である。底面の規模は、東西約1.2m・南北1.2m前後である。主軸はN-52°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.3m、レベル29.67mである。

覆土 2層を確認した。炭化物を含む。 **遺物出土状況** 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器1片、瓦質土器1片である。内耳土器は底周部小片で、外面にオコゲ状の付着物が観察される。胎土はC群。瓦質土器は外面は灰色、内面はススが吸着する。胎土はC群。

第75号土坑 (SK-75) (第33・45図 表27)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** SD-642→SK-75→SK-641の順に重複する。

形状・規模・主軸 覆土の堆積状況から南・北側の2基の遺構が重複するとみられるが詳細は不明である。便宜的に、南側の新しい掘り込みをA、北側をBとする。底面の規模は、東西1.0m前後・南北約0.8mである。主軸はN-66°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.2m、レベル29.75mである。

覆土 5層を確認した。A:1・2層、B:3~5層である。 **付属施設** p1が確認される。Bの範囲内とみられるが、帰属等は不詳である。径約0.22m・遺構確認面からの深さ約0.32m・レベル29.62mである。 **遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。

出土遺物 1は内耳土器口縁部小片である。SK-71出土の内耳土器口縁部小片と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器体部1片であり、胎土はD群である。

第76号土坑 (SK-76) (第40図)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。SK-78と直交するSK-79の延長線上に位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約1.5m・南北約0.45mである。主軸はN-63°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.2m、レベル30.8mである。 **覆土** 3層を確認した。3層は極めて脆い。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第78号土坑 (SK-78) (第40・46・116図 表28・94)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。土坑群の北西側、SK-79と直交する位置にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.55m・南北約1.9mである。主軸はN-33°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.2m、レベル30.56mである。 **覆土** 2層を確認した。上層ほどロームブロックの堆積が多い。 **遺物出土状況** 覆土中から6点が出土する。

出土遺物 1は火鉢片か。第116図-4は碗類か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器体部小片2片、陶器1片、磁器1片が出土する。

内耳土器は胎土は瓦質土器C群である。陶器は灰軸を施す口縁部小片碗類か。磁器は内面に疎らに文様が施されるか。陶磁器は江戸時代中期以降か。

第79号土坑 (SK-79) (第40・46図 表29)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。土坑群の北西側、SK-76延長線上、SK-78と直交する位置にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約1.36m・南北0.53m前後である。主軸はN-59°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.52m、レベル30.32mである。 **覆土** 2層を確認した。2層は底面の埋め戻し土か。その際、深さ約0.38m・レベル30.46mである。 **遺物出土状況** 覆土中から6点が出土する。

出土遺物 1は内耳土器小片である。同一個体とみられる1片が出土する。1と同一個体とみられ平底の

体部片の外面は被熱による器面の劣化が著しい。1は小孔が穿たれる。部位は不明である。残存する周縁部に欠損等は観察されない。補修孔か。

この他、図示し得なかったが陶器2片、磁器2片が出土する。陶器は鉄軸を施す微細片1片、灰軸を施す微細片1片である。いずれも江戸時代中期以降か。磁器は外面に草花文を施す小片1片、外面に茄子紺色の軸を施す1片が出土する。草花文は江戸時代中期以降、茄子紺軸は近・現代か。

第80号土坑 (SK-80) (第32図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-710より古い。P-709との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い形状である。底面の規模は、東西約1.82m・南北0.5m前後である。主軸はN-25°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.28m、レベル29.38mである。**覆土** 3層を確認した。3層はロームを含まず堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部微細片か。胎土は瓦質土器C群である。

第81号土坑 (SK-81) (第33図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長円形状か。東壁から北壁にかけて、底面に向けて傾斜する中段部を持つ。底面の規模は、東西(1.5)m・南0.65m前後、中段部幅0.13m前後、主軸はN-58°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.4m・レベル29.26m、中段部までの深さ0.13m前後・レベル29.55m前後である。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内湾する体部小片である。火鉢片か。胎土は瓦質土器C群である。

第82号土坑 (SK-82) (第33・46図 表30 図版六)

位置 Ⅲ-2区M-12グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長円形状か。底面の規模は、東西約1.4m・南北0.5m前後、主軸はN-58°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.28m、レベル30.14mである。

覆土 2層を確認した。埋め戻しか。**遺物出土状況** 覆土中から4点が出土する。

出土遺物 1は焙烙片か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器とみられる底周部小片1片、磁器2片が出土する。内耳土器は胎土は瓦質土器C群の範疇であるが、緻密である。磁器は茶碗類か。近・現代産か。

第83号土坑 (SK-83) (第34・46図 表31)

位置 Ⅲ-2区M-12グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長方形形状か。底面の規模は、東西(1.77)m・南北約0.5m、主軸はN-61°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.23m、レベル30.2mである。

覆土 2層を確認した。埋め戻しか。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 1は残存部は僅かであるが破片か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器・小礫が出土する。内耳土器は体部であり、胎土は瓦質土器C群である。小礫は破砕片。石表面は滑らか。砥石等の道具の可能性はあるか。

第84号土坑 (SK-84) (第33図)

位置 Ⅲ-2区M-12グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長方形形状か。底面の規模は、東西(1.5)m・南北(0.5)m、主軸

はN-57°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m前後、レベル30.37m前後である。底面は凹凸を伴う。**覆土** 3層を確認した。1層に後世の掘り込みの可能性が考えられる。底面の凹凸に起因するか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第85号土坑 (SK-85) (第40図 図版六)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。土坑群の南東側にあり、西側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 円形状の掘り込みの北西部の中段部を持つ。底面の規模は、東西約1.04m・中段部0.2m前後・南北約1.23m・中段部約0.45m・全長約2.0mである。中段部を含めた主軸はN-50°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。底面には凹凸がみられるが、SP-Aにみられるピット状の落ち込みのよるものか。確認面からの深さは約0.48m・レベル30.63mである。ピット状の落ち込みまでの深さは約0.62m・出張る30.48m、中段部までの深さや0.2m前後・レベル30.83m前後である。

覆土 6層を確認した。3・5層の堆積の整合性に疑問が残る。底面にみられるピット状の落ち込みには4層が堆積する。中段部に堆積する5・6層は、南東側への堆積が観察される。掘り込みの周囲に中段部が設けられた可能性も考慮されよう。**付属施設** 中段部にp1・2が確認される。帰属等は不詳である。p1は東西約0.4m・南北約0.6m、遺構確認面からの深さ約0.7m、レベル30.32である。p2は径(0.3)m、深さ約0.22m、レベル30.83mである。SP-Aにみられるピット状の掘り込みに類する可能性も考えられる。

遺物出土状況 覆土中から1点を確認した。

出土遺物 図示し得なかったが陶器1片が出土する。底部に数カ所の高台を貼り付けるとみられる。高台は指で摘み整形か。内・外面に胎色釉を施す。江戸時代中期以降か。

第86号土坑 (SK-86) (第34図 表89)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 東壁、調査区境付近を視乱により失う。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長方形か。底面の規模は、東西(1.58)m・南北約0.52m、主軸はN-52°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.4m、遺構確認面からの深さ約0.28、レベル31.76mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から7点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部1片、器壁の薄い土師質の土器片1片、器壁の厚い土師質の土器1片、器壁の薄い施釉のない陶器1片、鉄製品3片である。

鉄製品は釘状の小片3片が出土する。表89に記載する。

第90号土坑 (SK-90) (第34図)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西(0.72)m・南北約0.8m、主軸はN-70°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.5m、遺構確認面からの深さ約0.28、レベル31.85mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第91号土坑 (SK-91) (第34図)

位置 Ⅲ-2区M-11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。西から東方向へ斜方向に掘り込まれる。底面の規模は、東西(0.8)m・南北0.6m前後、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.73m・遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.2mである。**覆土** 6層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第94号土坑 (SK-94) (第41・42・43・46・116・117図 表32・89・94)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない **形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長方形状である。底面の規模は、東西約0.5m・南北約1.13m、主軸N-26°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.44m、レベル30.6mである。**覆土** 1～3層を確認した。埋め戻しに伴う土層か。**遺物出土状況** 覆土中から182点が出土する。土器類44片、石製品等6片、陶磁器117片、仏具関連2点、鉄製品10片、ガラス片2片、工業化製品の釘1片である。

出土遺物 9は石蔵未製品か。上半部が欠損する。1は須恵器甕小片。2は焙烙等の口縁部小片か。器壁は厚い。3は焙烙か。4・5は火鉢類か。6は内耳土器補修孔か。7は土器転用の砥石か。器壁の厚さから火鉢類か。8は小礫である。10は素焼きの大黒神像か。欠損部はあるが、長めの球形であり、表面は滑らか。11は仏像とみられる。

第116・117図・5～10は陶器。5は貿易陶磁か。9は瓶型の小型器。7～9は磁器である。7・8は蓋か。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

内面のスの付着する体部片1片は3に似る。器壁の厚い小片1片は1の器種か。内耳土器或いは焙烙とみられる小片1片。内耳土器体部片16片。器種不明2片。

内耳土器のうち、口縁部1片・体部13片の胎土は瓦質土器C群、口縁部1片・体部1片はD群(少)である。器種不明の1片は6に似る。残る1片は土師器片か。

砥石1片、小礫2点が出土する。砥石は欠損部はあるが形状を留める。使用の結果小さくなったか。小礫2点のうち1点◎は砥石片か。1点は破砕片◎。

陶磁器は114片が出土する。

無釉陶器は23片。時期・産地不明の陶器摺鉢は体部の摺り目は密・見込みは疎らに施す。これ以外は近・現代産か。柿軸蓋1点。陶器甕11片のうち10片は同一個体か。徳利8片は同一個体。鉄軸の菊皿片は菊花形の小型の脚が付く。鉄軸の豆皿1片。

施釉陶器は46片。何れも近・現代産か。鉢類・皿類などが。光沢のあるオリーブ色釉、光沢のないオリーブ釉、灰釉に似た色調の釉、オリーブ色の釉などがみられる。

磁器は45片が出土する。江戸時代中期以降とみられる淡藍で文様を描く小片23片、近・現代産とみられる藍色の文様を描く小片など45片である。

鉄製品は小片10片が出土する。刀子状、釘状のものもみられるが不詳である。第114図、表89に記載する。ガラス瓶片2片は工業化製品か。

第95号土坑 (SK-95) (第17図)

位置 Ⅲ-2区N-12グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705(地下式坑)→SE-92→SK-706→SK-707(方形竈穴遺構)の順に重複するか。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられ、詳細は不明である。底面の規模は、東西(0.6)m・南北約0.9m、主軸は、N-40°-W、或いは、N-59°-Wか。**底面** ローム層を掘り込む。表土からの深さ約0.32m、レベル29.18mである。**覆土** 9・10層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第96号土坑 (SK-96) (第34図)

位置 Ⅰ区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に傾く瓢箪形である。底面の規模は、長軸約1.32m、北西半部の短軸約0.64m・南東半部の短軸約0.4mである。主軸はN-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸がみられる。確認面からの深さ約

0.3 m、レベル 29.37 m前後である。**覆土** 1層を確認した。ロームブロックを多量に含む暗褐色土である。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第97号土坑 (SK-97) (第34図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 南東隅部にSK-134が重複する。新旧関係は不明である。覆土や底面の状況がSK-134と良く似ており、同一遺構の可能性も残る。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長円形状である。北側は調査区外に延び、全容は不明である。底面の規模は、長軸(1.82)m・短軸0.9m前後である。主軸はN-28°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.05m前後、レベル29.60m前後である。凹凸が著しく、特に、南壁付近が落ち込む。また、小ピット状の落ち込みも認められる。何れも、底面からの深さ10.0cm前後。レベル29.48m前後である。SK-134重複部付近の小土坑状の落ち込みは、底面からの深さ15.0cm前後、レベル29.45m前後である。掘方底面の可能性もあろうか。

覆土 1層を確認した。SK-134-1層と似る。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿体部片1片、土師質の微細片1片、陶器1片である。陶器は器壁が薄く、外面に光沢のない暗褐色の釉を施す。近・現代産か。

第98号土坑 (SK-98) (第35図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北側は調査区外に延びるが、南西-北東に長い形状か。底面の規模は、長軸約(0.6)m、短軸0.5m前後である。主軸はN-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.17m、レベル29.42m前後である。**覆土** 1層を確認した。圧縮されたように硬くしめる。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する出土する。

出土遺物 図示し得なかったが器壁の厚い底部付近の小片である。焙烙か。

第99号土坑 (SK-99) (第35図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** SK-99→SK-135→SK-136の順に重複する。同一遺構の埋没状況を示すものとも考えられるが現地調査の所見に従い、別遺構とする。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長円形状である。底面の規模は、長軸約1.75m、短軸SK-135北側約0.75m・SK-135南側約0.7m、主軸N-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。本遺構より深いSK-135の重複により底面の状況は判然としなない。確認面からの深さは、SK-135北側が深く約0.15m、レベル約29.4m、SK-135南側は約0.05m、レベル約29.52mである。**覆土** 2層を確認した。SK-135南側に2層の堆積は確認されなかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第101号土坑 (SK-101) (第21図)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複関係** SK-105・133より古い。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形形状であるが、南側は調査区外にあり、全容は不詳である。底面の規模は、長軸(1.10)m・短軸約0.32m前後である。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.1m前後、レベル29.26m前後である。**覆土** 2層を確認した。2層は土坑状の平面プランが確認されており、別遺構である可能性も考えられる。平面図に破線で位置を示した。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、土師器環口縁部下か。口縁部ヨコナデ・体部ミガキか。整形・胎土は緻密であり、工具痕は観察されない。

第102号土坑 (SK-102) (第21図)

位置 1区U-22グリッドに位置する。**重複関係** SK-105より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形であるが、南側は調査区外にあり、全容は不詳である。底面の規模は、長軸(1.1)m・短軸約0.4mである。主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.35m、レベル29.0m前後である。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかった土が土師器片か。1片は口縁部付近の小片とみられる。口縁部下に沈線が巡る。2片は赤褐色の土器片で胎土は緻密である。坏、丸底壺も想定し得る。

第103号土坑 (SK-103) (第35図)

位置 1区V-22グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南西側は調査区外にあり、全容は不詳である。北東-南西に長い形状か。底面の規模は、長軸(0.6)m・短軸約0.52mである。主軸はN-50°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。やや凹凸がみられる。確認面からの深さ約0.16m、レベル約29.3mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが土師器長胴壺体部片か。

第104号土坑 (SK-104) (第35・114・117図 表33・89・94)

位置 1区V-23グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い方形である。床面の深さから3つの部分に大別でき、便宜上、A・B・Cと呼称する。C部は調査区外に延びることなどから詳細を明らかにし得なかった。平坦な掘り込みではなく、別遺構或いは攪乱の可能性も残る。B部は覆土の遺構確認面の平面プランや覆土の堆積状況から4つの部分に区別が可能である。B部-1・2はA部の堆積により判然としないが、同様の覆土が堆積する可能性が残るが明確にし得なかった。B部の南西から北東にむけて狭まる平面形状はこの4部分に起因するものか。遺構の規模は、A-C部の全長5.0m以上、A部の長軸約1.44m・短軸約0.8m、B部の長軸4.0m前後・短軸B部-2:約1.32m・B部-3:約1.42m・B部-4:約1.55mである。主軸はN-22°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、A部約0.64m・28.67m、B部はB部-1が北東へむけて僅かな傾斜が認められるが概ね平坦であり、B部-1南西部約0.3m・29.03m、B部-1北東部より北側は0.38m前後・28.9m前後である。B部-4 p 10・11北側にかけて焼土が散見される。**覆土** 13層を確認した。1～3層はB部-4に堆積する。ロームブロックの堆積が目立つ。C部の覆土は確認し得なかったが、2層はC部からB部-4へ堆積するか。底面に散見される焼土上の3層に焼土の堆積は認められない。4～6層はB部-3に堆積する。7・8層はB部-2に堆積する。B部-1も同様の堆積である可能性が考えられる。9～13層はA部に堆積する。最下層の13層はロームブロックを多量に含む。13層上面はB部底面と同レベルであり、あるいは、13層には底面を埋め戻して平坦とする意図があったか。**特徴** 底面にp 1～11が穿たれる。小ピットはいずれも円形状である。各々の大きさ・遺構底面からの深さ・底面レベル(約、m)は、p 1東西0.22;南北0.20・0.11・28.82m、p 2東西0.35;南北0.24・0.07・28.86m、p 3径0.25m前後・0.07・28.86m、p 4東西0.32;南北0.39・0.12・28.81m、p 5東西0.24;南北0.28・0.12・28.81m、p 6径0.42、p 7径0.16、p 8径0.18・0.18・28.85m、p 9径0.16・0.13・28.80、p 10東西0.12;南北0.17・0.03・28.90m、p 11東西0.31;南北0.26・0.13・28.80mである。p 6・7の詳細は明確にし得なかった。深さはp 10が3.0cmほど浅いが、底面レベルは28.80～28.86mであり、ほぼ一定の深さに穿たれる。配置をみると、p 1～7は北西壁に、p 10・11はB部南東辺に、p 4・5・8・9はB部-3の遺構確認面のプランに沿うように位置する。また、p 9・10はB部の中軸線上に沿うように位置し、鉤の手状にp

7～9が続く配置にみえる。南東辺には明確なピットは確認されなかったが、壁際の底面の凹凸は図版四においても確認できる。内部施設に関わる柱穴である可能性はあるうか。**遺物出土状況** 覆土中から33片が出土する。

出土遺物 1は埴輪片か。2は碁石か。第117図-10は天目茶碗か。

この他、図示し得なかったが、土師器の可能性のある微細片2片、ロクロ成形の土師質土器小皿2片、瓦質土器5片、内耳土器5片、焙烙の可能性のある微細片1片、詳細不明の土器微細片7片、陶磁器6片が出土する。

土師器の可能性のある小片は、1片は頸部付近とみられ、スガが付着する。ロクロ成形の土師質土器のうち1片は口縁部小片である。瓦質土器の器種は不明である。内耳土器は3片が胎土C群、2片がD群である。焙烙片は体部片であり、外面にスガが吸着する。

陶器は4片が出土する。内面無軸・外面灰軸の口縁部微細片、片面無軸・片面灰軸の体部微細片、内外面光沢のない褐色軸の口縁部微細片、内面褐色軸・外面灰軸の体部微細片である。時期・産地等、詳細は不明であるが、江戸時代中期以降か。磁器は1片が出土する。内外面に明緑色軸を施す。近・現代産か。

鉄製品は3片が出土する。釘状の小片である。表88に記載する。

第107号土坑 (SK-107) (第21・46図 表34 図版六)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** やや南東-北西に長い円形である。底面の規模は、長軸約0.7m・短軸約0.66mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.1m前後、レベル約29.29mである。**覆土** 1層を確認した。焼土ブロック・炭化物ブロックを含むが、中央部は焼土が目立つ。**特記事項** 底面や壁面に焼土や炭化物が残る。また、周囲の遺構確認面に焼土・炭化物が認められる。遺構北側は特に顕著であり、不整な円形状に広がる。焼土や炭化物と同レベルのロームに火熱の痕跡は薄く、主体的に遺構内外での燃焼の可能性は低いと判断される。**遺物出土状況** 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 1は土師器小形壺頸部か。

図示し得なかった土1点は、同一個体とみられる頸部小片である。

第108号土坑 (SK-108) (第36図)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-108→SK-735の順に覆土が堆積する。SK-735との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね、南北に長い長方形である。底面の規模は、東西0.6m前後・南北約1.5mである。主軸はN-31°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.05m、レベル約29.97mである。**覆土** 暗黄褐色土の1層を確認した。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等、詳細は不明である。p1のSK-108底面における規模は、東西約0.17m・南北約0.2m、SK-108底面からの深さ約0.1m、底面レベル約29.87mである。p2は径約0.15mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第110号土坑 (SK-110) (第36図)

位置 II区R-18グリッドに位置する。**重複関係** SE-145より新しい。北側は複乱溝により上部が失われる。**形状・規模・主軸** 概ね南方に長い長方形である。北側は複乱溝により上部が失われる。南側は底面より約0.18m掘り込み、南壁を約0.33mに抉り込み、ボケット状の小土坑を穿つ。土層断面では西側の底面付近に段が確認されるが、平面形では明確し得なかった。SE-145との重複に起因するものか。底面の規模は、オーバーハング部分を含む長軸約1.42m(底面約0.92m・抉り込み部約0.5m)、短軸0.65m

である。主軸はN-19°-Eである。底面 ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.5m、レベル約29.6mである。底面からオーバーハング部分の深さ約0.18m、レベル約29.42mである。覆土 2層を確認した。ロームブロックの堆積が目立つ。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第111号土坑 (SK-111) (第37図 図版六)

位置 II区R-17グリッドに位置する。重複関係 SK-154・157より古い。SK-159より新しい。SK-156との新旧関係は不明である。形状・規模・主軸 平面形は遺構の重複により判然とし難い。底面の規模は、東西(0.45)m・南北(0.75)mである。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.21m、レベル約29.81mである。底面に小ピット1基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。覆土 2層を確認した。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第112号土坑 (SK-112) (第36図)

位置 II区S-18グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びる。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 西側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね東西に長い長方形状か。底面の規模は、長軸(1.0)m・短軸約0.62mで、主軸N-87°-Wであり、概ね磁北に直交する。底面 ローム層を掘り込む。遺構中央を擾乱により失っており、詳細は不明である。確認面からの深さ約0.22m、レベル約29.85mである。

覆土 2層を確認した。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第113号土坑 (SK-113) (第38・46図 表35 図版六)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。南側は調査区南西端部に延びる。重複関係 SK-601より古い。SK-602より新しい。形状・規模・主軸 南側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね南北に長い長方形状か。底面の規模は、長軸(4.0)m・短軸0.65m前後、主軸N-21°-Eである。底面 ローム層を掘り込み、大きな凹凸が認められる。確認面からの深さ0.26～0.36m、レベル約29.81～29.68mである。SK-602底面とほぼ同レベルである。覆土 1層を確認した。SK602-1層と似る。遺物出土状況 SK-113・602・602を含む範囲の覆土中から13点が出土する。取り上げはSK-113a・b・cで行ったが、帰属は不詳であるが、本遺構に記載する。

出土遺物 1は土師質土器小皿。SK-113aから出土する。2は碇石の可能性があろうか。3次調査SD-19出土-第107図-7・8と似る。

その他、図示し得なかった出土遺物は、SK-113a出土2点、b出土6点、c出土3点である。a出土はロクロ成形の土師質土器小皿微細片1片・胎土D群の内耳土器小片1片である。b出土はロクロ成形の土師質土器微細片3片・内耳土器とみられる胎土C類の微細片2片、焙烙の可能性が考えられる器壁の厚い体部小片1片である。c出土は、ロクロ成形の土師質土器小皿微細片1片・胎土C類の内耳土器とみられる小片2片である。

第115号土坑 (SK-115) (第36・46図 表36 図版六)

位置 II区R-18グリッドに位置する。重複関係 SK-137→SK-115→SK-138・139の順に重複する。P-140より新しい。北側に重複するSD-121との新旧は不明である。また、南西隅部に小ピット2穴を伴う掘り込みについては帰属、新旧関係等不明である。形状・規模・主軸 概ね東西に長い。SK-137・138・139の重複により、平面形状は不整であるが、本来は長方形状か。北壁東寄り・西壁中央部付近に壁面を挟む小土坑を穿つ。小土坑上の壁面は傾斜しつつ確認面に至るが、本来は小土坑下の壁面ラインに連続するもので、現形は崩落状況を示すか。底面の規模は、東壁約0.8m・西壁約0.7m・南壁約1.4m・北壁約1.5mである。主軸はN-70°-Wである。底面 ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.8

m、レベル約28.33 mである。**付属施設** 北壁東寄りの壁面を挟る小土坑は、現状で遺構確認面下約0.2 m、レベル29.78 m付近から掘り込まれる。底面での開口部幅約0.56 m、奥行き約0.3 m、底面からの深さ約0.1 m、レベル約29.26 mである。西壁中央部付近の壁面を挟る小土坑は、現状で遺構確認面下約0.28 m、レベル29.7 m付近から掘り込まれる。底面での開口部幅約0.6 m、奥行き約0.4 m、底面からの深さ約0.15 m、レベル約29.22 mである。なお、南西隅部の掘り込みの小ピット2基は、確認面からの深さ約0.34 m、レベル約29.66 mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 1は須恵器甕体部片である。

この他、図示し得なかったが、陶器口縁部微細片が出土する。碗類か。内外面にオリーブ色の釉を施す。時期・産地等不明である。

第116号土坑 (SK-116) (第37図)

位置 II区R-16グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びる。**重複関係** SK-591より新しい。P-593と重複するが同一遺構である可能性も残る。新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 西側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.57) m・南北約(0.52) mである。主軸N-38°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.2 m、レベル約29.9 mである。**覆土** 1層を確認した。重複するSK-218・219と堆積するロームに多少はあるが似た特徴が観察される。**遺物出土状況** 覆土中から5点が出土する。

出土遺物 第117図-11は陶器碗類か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器2片、器壁の厚い小片1片、陶器甕体部1片である。内耳土器のうち、体部小片1片は外面にオコゲが付着する。胎土はC群。1片は胎土C群の底部付近の小片である。器壁の厚い小片は焙烙か。陶器甕体部片は無釉。

第117号土坑 (SK-117) (第38図)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。南側は調査区南西端部に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.45 m・南北約(1.2) mである。主軸N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.19 m、レベル約29.84 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第119号土坑 (SK-119) (第38図)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。**重複関係** P-595・597古い。P-596より新しい。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。北西隅部の形状はP-596との重複に起因するか。底面の規模は、東西約0.4 m・南北約(1.4) mである。主軸N-16°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.03～0.1 m、レベル約30.0～29.92 mである。**付属施設** 東壁中央寄りに小ピットが認められる。幅員等は不明である。径約0.1 m、SP-A中央部付近の底面の落ち込みが相当するならば、深さ約0.02～0.05 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第121号土坑 (SK-121) (第39図 図版六)

位置 II区S-19グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.76 m・南北約0.66 mである。主軸N-37°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.5 m、レベル約29.5 mである。**覆土** 3層を確認した。1・2層は攪乱層か。3層は地山と見紛うロームブロック層である。壁等の前落層、或いは人為的な堆積層か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第122号土坑 (SK-122) (第13図 図版三)

位置 1区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-2より新しい。が、同一遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い。西壁が中央部付近で突出するが、SK-2との重複により詳細は不明である。また、覆土の堆積状況から遺構の重複である可能性が考慮されるが明らかにし得なかった。底面の規模は東西約0.65m・突出部では約0.96m、南北：約3.56mである。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.20m、レベル29.26m前後である。**覆土** 2層を確認した。1層はロームブロック主体の層であり、天井に相当する層との調査時の所見があるが詳細は明らかにし得なかった。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第123号土坑 (SK-123) (第13図 図版三)

位置 1区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 東壁に重複するSK-3より新しい。が、同一遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形で、底面の規模は、東西0.3m前後・南北1.5m前後である。主軸はN-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。ほぼ平坦であるが、南から北へ5.0cmほどの傾斜がみられる。確認面からの深さ南側で約0.27m・レベル29.13m、北側で約0.32m・29.09mである。**覆土** 1層を確認した。人為堆積か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第125号土坑 (SK-125) (第14図)

位置 1区D-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-5と重複し、同一遺構の可能性も残るが明確にし得なかった。SK-6と重複する。いずれの遺構より本遺構が新しい。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い長方形である。南西隅部から南西壁をSK-5に、北東隅部をSK-6により失っている。平面図中の破線はセクション図からの推定線である。長軸[4.1]m・短軸[0.85]mである。主軸N-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。残存する底面は概ね平坦である。確認面からの深さ約0.1m、レベル29.244mである。**覆土** 1層を確認した。SK-5覆土を掘り直すか。

第126号土坑 (SK-126) (第14図)

位置 1区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 北東側にSK-11、南西側にSK-8が重複する。新旧関係は明らかにし得なかった。SK-8は同一遺構の可能性が残る。SK-1より50.0cm、SK-8より8.0cmほど高い。**形状・規模・主軸** 平面形は、重複により多くの部分を失うが北東-南西方向に長い。北東部は緩やかに傾斜し、僅かな段差をもって底面に至る。底面の長軸(1.44)m・短軸約0.75m：段差部分0.55m前後である。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、北東壁付近約0.08m・29.266m、遺構底面約0.17m・29.19m、北東部との段差は4.0cmである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第127号土坑 (SK-127) (第14図)

位置 1区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 北東側にSK-8、南西隅部にSK-128が重複するが新旧関係は明らかにし得なかった。SK-8より3.0cmほど高く、SK-128より8.0cmほど低い。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い長方形である。南西部はやや窄まる。西壁付近の底面に若干の段差がみられるが詳細は不明である。底面の長軸約2.2m・短軸0.8m前後：段差部分0.6m前後である。主軸はN-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、北東壁付近約0.23m・29.19m、

段差部分0.15 m前後・29.09 mである。**覆土** 図示し得なかったが、2層を確認した。上下2層にほぼ水平に堆積する。上層は15.0cmほど、下層は8.0cmほどの厚さの堆積である。上層は明褐色土、下層は暗褐色土で、ローム粒子、1.0cm大のロームブロックを含む、しまりのある土層である。**遺物出土状況** SK-8西半で取り上げた遺物が本遺構に伴うか。土師器甕類体部小片2片、内耳土器とみられる体部小片2片が出土する。内耳土器とみられる小片は胎土に金雲母を含む。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

第128号土坑 (SK-128) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 北東壁にSK-127が重複する。新旧関係は明らかにし得なかった。SK-128より8.0cmほど高い。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向の長方形形状である。底面の長軸[0.5]m・短軸0.23m前後である。主軸はN-29°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15m前後・29.33mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第129号土坑 (SK-129) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 南側にSK-9が重複する。本遺構が古い。西側に重複するSK-130との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い方形形状とみられる。底面の長軸(0.8)m・短軸約0.68mである。主軸はN-29°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15m前後・29.60mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第130号土坑 (SK-130) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 南側にSK-9が重複するより本遺構が古い。東側に重複するSK-129との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 方形形状とみられる。SK-9・10間のSK-131は、本遺構の底面レベルと同様である。また、SK-9・10間の西壁の直線的なラインが本遺構の延長線上にあることから、同一遺構である可能性が考えられる。その際、本遺構はSK-9・10に先行する。更に、中軸線を等しくするSK-8・126～128との関連が考慮されよう。底面の東西(0.16)m・南北(0.33)mである。主軸はN-28°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15m前後・29.60mである。**覆土** 1層を確認した。SK-9・10間の1層に似るが、より暗色である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第131号土坑 (SK-131) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 南側にSK-10、北側にSK-9が重複する。本遺構が古い。SK-130の底面レベルと同様であり、本遺構西壁の可能性が考えられるSK-9・10間西壁の直線的なラインがSK-130の延長線上にあることから、同一遺構である可能性も考えられる。その際、本遺構はSK-9・10に先行する。更に、中軸線を等しくするSK-8・126～128との関連が考慮されよう。**形状・規模・主軸** SK-10土層断面での確認であり詳細は不明である。SK-9・10間の西壁の直線的なラインは本遺構西壁か。**底面** SK-10土層断面の観察によれば、ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15m前後・29.20mである。**覆土** 1層を確認した。SK-130・1層に似るが、より明色である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第132号土坑 (SK-132) (第16図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 南側にSK-11、北側にSK-565が重複する。新旧関

係は不明である。SK-11 南側底面とは、重複部付近で約40cmの段差を持つが、SK-11の底面は南から北へ傾斜しており、総じて同様のレベルとなるため、同一遺構である可能性も残る。**形状・規模・主軸** 平面形は重複により不詳であるが、南北に長い形状とみられる。底面の長軸(1.4)m・短軸約0.35mある。主軸はN-17°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦とみられる。確認面からの深さ・レベルは、約0.1m・29.25mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第133号土坑(SK-133)(第21図)

位置 1区U-22グリッドに位置する。**重複関係** SK-105・133より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形であるが、南側は調査区外にあり、全容は不詳である。底面の規模は、長軸(0.85)m・短軸約0.20m前後である。主軸はN-29°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.08m、レベル約29.32mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第134号土坑(SK-134)(第34図)

位置 1区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 北西隅部にSK-97が重複する。新旧関係は不明である。覆土や底面の状況がSK-97と良く似ており、同一遺構の可能性も残る。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い円形状である。底面の規模は、長軸約1.2m・短軸0.85m前後である。主軸はN-39°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が著しく、壁際が低く、中央部が高い。掘方底面の可能性もあろうか。中央部の確認面からの深さ0.05m前後、レベル29.60m前後である。壁際のレベルは29.55m前後であるが、南・北壁際は小ピット状の掘り込みみとなる。何れもレベルは29.49m前後である。**覆土** 1層を確認した。SK-97-1層と似る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第135号土坑(SK-135)(第35図)

位置 1区S-24グリッドに位置する。**重複関係** SK-99→SK-135→SK-136の順に重複する。同一遺構の埋没状況を示すものとも考えられるが現地調査の所見に従い、別遺構とする。**形状・規模・主軸** 北西-南南に長い長円形状である。南壁に続く緩い傾斜部は、土層の堆積状況から本遺構の一部と考えられる。底面の規模は、長軸1.06m前後、短軸約0.36m、傾斜部を含む短軸は約0.6m、主軸N-50°-Wである。

底面 ローム層を掘り込み、やや凹凸がみられる。確認面からの深さは約0.28m、レベル約29.3mである。

覆土 1層を確認した。図中の①層である。粒形の大きいロームブロックを含む。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第136号土坑(SK-136)(第35図)

位置 1区S-24グリッドに位置する。**重複関係** SK-99→SK-135→SK-136の順に重複する。同一遺構の埋没状況を示すものとも考えられるが現地調査の所見に従い、別遺構とする。**形状・規模・主軸** 土層観察の際、平面プランを確認したため、形状等は不明であるが、北西-南南に長い長円形状か。確認面の規模は、長軸0.9m前後、短軸0.6m前後か。主軸N-31°-Wである。**底面** SK-135覆土を掘り込むため、詳細は不明である。確認面からの深さは約(0.1)m、レベル約29.68mである。**覆土** 1層を確認した。図中の1'層である。ロームブロックを含む。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第137号土坑(SK-137)(第36図 図版六)

位置 Ⅱ区R-18グリッドに位置する。**重複関係** SK-137→SK-115→SK-138・139の順に重複する。

形状・規模・主軸 SK-115東壁中段の段差(レベル約28.472m)、SK-115南壁中段の僅かな段差(レベル約28.534m)が本遺構の痕跡と考えられる。推定される形状は、概ね東西に長い形状で、長軸約1.2m・短軸約0.6m、主軸N-66°-Wか。**底面** 底面の状況は不詳である。確認面からの深さ0.47m程度か。

覆土 1層を確認した。SK-115 底面への堆積がみられるが、SK-115 掘削或いは埋没に関わるものか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第138号土坑 (SK-138) (第36図 図版六)

位置 II区 R-18 グリッドに位置する。**重複関係** SK-137→SK-115→SK-138・139の順に重複する。SD-121との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判断としないが、概ね南北に長い形状か。長軸はSK-115北壁以北に残る部分の長軸は約0.9mであるが、SP-Aに覆土の堆積が確認されるため1.4m以上の長形であったとみられる。短軸0.45m前後、主軸N-20°Eである。**底面** 底面の状況は不詳であるが、残存する底面は概ね平坦である。確認面からの深さ0.18m程度、レベル29.67mか。**覆土** 2層を確認した。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第139号土坑 (SK-139) (第36図 図版六)

位置 II区 R-18 グリッドに位置する。**重複関係** SK-137→SK-115→SK-138・139の順に重複する。SD-121との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判断としないが、SK-115北壁に張り出す部分の中段(レベル29.76m)からSK-115南側に張り出す部分(レベル29.81m)までが本遺構か。SK-115南側に張り出す部分の東側は若干落ち込むが(レベル29.72)、SP-Aに見える最下部のレベルが29.8mであることを鑑み、SK-115南側の張り出し部西側を想定しておきたい。また、SK-115北壁以北-SPA概ね南北に長い形状とみられる。想定される長軸は約1.5mである。残存する短軸は北側0.64m・南側0.9mであり、北側-SPA-南側を結ぶラインは南側に大きく開く形状となる。主軸N-26°Eである。

底面 底面の状況は、重複、下部にSK-115挟り込み部があるための底面の崩落等により不詳であるが、確認し得た底面は概ね平坦である。確認面からの深さ0.12～0.20m程度、レベル29.80m前後か。**覆土** 2層を確認した。1層に炭化物を含む。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第144号土坑 (SK-144) (第51図 図版四)

位置 II区 S-19 グリッドに位置する。**重複関係** SK-142・SD-19より新しい。**形状・規模・主軸** SK-142・SD-19覆土中に掘り込まれ、SD-19SP-Aに確認される。平面形等不詳である。表土下の大きさ約1.04mである。**底面** SK-142・SD-19覆土中に掘り込まれ、底面の状況は不詳であるが、掘り鉢状か。表土下の深さ約0.36m程度、レベル29.62mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第152号土坑 (SK-152) (第39図)

位置 II区 S-18 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形で、南北で段差を持つ。遺構の重複である可能性も残るが判断としない。遺構確認面の総長は約0.66m、北側底面の長軸約0.34m・短軸約0.27m、南側底面の長軸約0.2m・短軸約0.27mである。主軸はN-21°Eである。**底面** ロームを掘り込む。北側の深さ約0.28m、レベル29.75mである。南側は確認し得なかった。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第153号土坑 (SK-153) (第18図)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。調査区南西端部に位置し、調査区外に延びる。**重複関係** SK-114より古い。**形状・規模・主軸** 平面形は不明であるが不整形か。底面の規模は、東西(0.8)m・南北約1.68mである。**底面** ロームを掘り込む。深さ約0.8m、レベル29.95mである。北西壁寄りにピットが穿たれる。幅等は不明である。ピットの規模は、東西約0.16m・南北約0.26m、遺構底面からの深さ約0.3m、レベル約29.73mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認され

ない。

第154号土坑 (SK-154) (第37図)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-111より新しい。SK-155との新旧関係は明瞭ではないが、本遺構が新しいか。**形状・規模・主軸** 平面形は遺構の重複により判然としなない。

規模は、東西(0.45)m、南北は不明である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.18m、レベル約29.84mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第155号土坑 (SK-155) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-154との新旧関係は明瞭ではないが、本遺構が新しいか。SK-111との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判然としなないが、隅丸形状か。底面の規模は、東西(1.2)m、南北(0.83)mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.18m、レベル約29.82mである。底面に小ピット4基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第156号土坑 (SK-156) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-155より古い。**形状・規模・主軸** 平面形は重複により判然としなない。底面の規模は、東西(0.66)m、南北(0.27)mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.15m、レベル約29.88mである。底面に小ピット2基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第157号土坑 (SK-157) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-111・159より新しい。**形状・規模・主軸** 重複により判然としなないが円形状か。底面の規模は、東西(0.86)m、南北(0.9)mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.20m、レベル約29.75mである。底面に小ピット1基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。立ち上がりがSP-Cに僅かに観察される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第158号土坑 (SK-158) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-159より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形か。底面の規模は、東西約1.87m、南北約0.82mである。主軸はN-73°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.3m、レベル約29.78mである。底面に小ピット4基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。立ち上がりがSP-Cに僅かに観察される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第159号土坑 (SK-159) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-111・159より新しい。**形状・規模・主軸** 平面形は重複により判然としなない。底面の規模は、東西(0.52)m、南北(0.5)mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.11m、レベル約29.9mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第589号土坑 (SK-589) (第39図)

位置 II区 Q-17 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東方向に長い長円形状である。底面の規模は、主軸約0.67m・短軸約0.38m、主軸N-52°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.08m、レベル約29.92mである。**覆土** 確認し得

なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第590号土坑 (SK-590) (第39図)

位置 II区Q-16・17グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、主軸約0.69m・短軸約0.5mである。主軸はN-52°-Wであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.07m、レベル約29.98mである。

覆土 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第591号土坑 (SK-591) (第37図)

位置 II区R-16グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びる。 **重複関係** SK-116・592より古い。 **形状・規模・主軸** 西側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.5)m・南北約(0.82)mである。主軸N-27°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。東壁際に小ピット状の凹凸が認められる。確認面からの深さ約0.1m、レベル約29.94mである。 **覆土** 1層を確認した。重複するSK-116・592と堆積するロームに多少はあるが似た特徴が観察される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第592号土坑 (SK-592) (第37図)

位置 II区R-16グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びると推定される。 **重複関係** SK-591より新しい。 **形状・規模・主軸** 掘り込みが浅く、土層断面に確認した。このため、詳細は不詳である。土層断面に確認される規模は、東西(1.0)mである。 **底面** ローム層を掘り込み、底面は大きな凹凸があるか。確認面からの深さ約0.05m、レベル30.0～30.04mである。 **覆土** 1層を確認した。重複するSK-116・591と堆積するロームに多少はあるが似た特徴が観察される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第598号土坑 (SK-598) (第38図)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。 **重複関係** P-597より古い。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.5)m・南北約0.38mである。主軸N-85°-Eであり、磁北にはほぼ直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.1m、レベル約29.9mである。 **覆土** 1層を確認した。P-597-1層とやや似る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第599号土坑 (SK-599) (第24図)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。 **重複関係** SK-28より古い。SK-600とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。重複により不詳であるが、底面の規模は、東西(1.14)m、南北0.5～0.67m、主軸はN-87°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.25m前後、レベル29.85mである。SK-600底面とは0.02m前後の段差が観察されるが、判断としない。東壁よりに小ピットが確認される。掃風、新旧関係等は不明である。底面における径0.13m前後、深さ約0.21m、レベル29.66mである。 **覆土** 2層を確認した。 **遺物出土状況** SK-28・599・600を含む覆土中から16点が出土する。SK-28に記載する。

第600号土坑 (SK-600) (第24図)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。 **重複関係** SK-599とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸形状である。底面の規模は、東西約0.64m、南北0.54m、主軸はN-86°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.25m前後、レベル29.86mである。SK-599底面とは0.02m前後の段差が観察されるが、判断としない。底面南東部に3基の小ピットが確認さ

れる。帰属、新旧関係等は不明である。何れも径 0.05 m 前後である。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 SK-28・599・600 を含む覆土中から 16 点が出土する。SK-28 に記載する。

第 601 号土坑 (SK-601) (第 38 図)

位置 II 区 Q-16 グリッドに位置する。重複関係 SK-113・602 より新しい。形状・規模・主軸 概ね東西に長い長方形状か。底面の規模は、長軸約 1.6 m・短軸約 0.64 m、主軸 N-65°・W である。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.42 m、レベル約 29.62 m である。覆土 5 層を確認した。5 層は水平な堆積が観察される。底面を埋め戻した可能性が考えられよう。遺物出土状況 SK-113・601・602 を含む範囲の覆土中から 12 点が出土する。取り上げは SK-113a・b・c で行ったが、帰属は不詳である。SK-113 に記載する。

第 602 号土坑 (SK-602) (第 38 図)

位置 II 区 Q-16 グリッドに位置する。重複関係 SK-113・601 より古い。形状・規模・主軸 概ね SK-113 との重複により平面形は不詳である。底面の規模は、東西 (0.45) m・南北 0.5 m 前後である。主軸は N-65°・W か。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.2 m、レベル約 29.8 m である。底面は緩やかな掘鉢状か。覆土 2 層を確認した。1 層は SK-113-1 層と似る。遺物出土状況 SK-113・601・602 を含む範囲の覆土中から 12 点が出土する。取り上げは SK-113a・b・c で行ったが、帰属は不詳である。SK-113 に記載する。

第 612 号土坑 (SK-612) (第 32 図)

位置 III-1 区 O-16 グリッドに位置する。重複関係 SK-70 より新しい。形状・規模・主軸 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約 0.45 m・南北約 0.36 m、主軸は N-65°・W である。底面 ローム層を掘り込み、大きな凹凸が認められる。確認面からの深さは約 0.09～0.17 m、レベル 29.98～29.9 m である。覆土 2 層を確認した。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第 613 号土坑 (SK-613) (第 28・29・30・31・47 図 表 37)

位置 III-1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。重複関係 SK-42 と接するが新旧関係は不明である。覆土の堆積状況から複数時期が考えられるが、重複であるか掘り直しであるか判然としない。遺物の出土状況を見ると、SK-42-5 内耳土器は本遺構上層出土の破片と SK-42 下層出土の破片が接合する。本遺構が古い可能性を考え得る。形状・規模 3 時期とみられるが、底面の状況等からこれ以上の時期である可能性が残る。便宜的に、堆積の早い順から A から C を付す。遺構の全長は A～C の南北方向であり約 2.84 m である。底面には 18 基の小ピットが認められる。SK-614 の小ピットが覆土を穿って堆積することから、本遺構の帰属ではない可能性が考えられる。

(A)

形状・規模・主軸 南側の西方向に張り出した部分とみられる。東側は B との重複により不詳である。底面の規模は東西 (0.5) m・南北 (0.75) m である。主軸は N-77°・E であり、ほぼ磁北に直交する。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.08 m、レベル 30.02 m である。付属施設 底面中央部に p1 を穿つ。東西 (0.46) m・南北約 0.39 m、底面からの深さ約 0.09 m・遺構確認面からの深さ約 0.18 m、レベル 29.93 m であり、ピットではなく底面形状であるとも考えられる。覆土 12 層が堆積する。A・B・C とも黄褐色土を主体とする。

(B)

形状・規模・主軸 南北に長い長円形とみられ、中央部南側に土坑状、北側に溝状の掘り込みを有する。

東西約2.4m・南北約1.6m、南側の掘り込みは約1.4m・約0.86m、北側の掘り込みはCとの重複により判然とし、東西約0.7m・南北(0.5)mである。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.1～0.2m、レベル30.0～29.9mである。南側の土坑状の掘り込みは、底面からの深さ約0.4m・確認面からの深さ約0.5m、レベル29.6m前後である。北側の溝状の掘り込みは、底面からの深さ約0.2m、確認面からの深さ約0.35m、レベル29.95m前後である。C底面との段差はないが緩やかな傾斜があり、B・Cの底面には最大0.12mほどのレベル差がある。付属施設 底面にp2～17が確認される。p2・3は南側の掘り込みに伴うか。p8の帰属はB、Cどちらか判然とし、また、p12はB、SK-42どちらの帰属であるか判然とし、各々のピットの径・深確認面からの深さ・レベルは、p2:0.19m前後、p3:0.15m前後、p4:0.16m前後、p5:0.1m前後、p6:0.15m前後・約0.25m・29.85m、p7:約0.1m、p8:約0.1m・0.25m・29.85m、p9:0.1m前後、p10:0.15m前後、p11:約0.22m・約0.4m・29.7m、p12:約0.2m・約0.46m・29.64m、p13:0.08m前後、p14:0.08m前後、p15:0.12m前後、p16:0.08m前後、p17:0.15m前後・約0.41m・29.69mである。p5・6、p15・16は重複するが新旧関係は不明である。覆土 1～11層が堆積する。A・B・Cとも黄褐色土を主体とする。

(C)

形状・規模・主軸 SP-Bに観察される。平面形等は判然とし、南北約0.76mである。底面 SK-613B覆土を掘り込む。確認面からの深さ0.2～0.3m、レベル30.1～30.0mである。付属施設 底面にp18が確認される。遺構確認面からの深さ0.1m前後である。覆土 13・14層が堆積する。A・B・Cとも黄褐色土を主体とする。

遺物出土状況 覆土中から26点が出土する。本遺構及びSK-42を含む範囲の北半部で取り上げた遺物が16と接合する。本遺構の帰属の可能性を考慮し、本遺構で記載する。

12・16はB或いはCに伴うか判然とし、15～19・22・23・24・13・25・14・21は南側の掘り込みに伴うか。18はA或いはBに伴うか判然とし、18・27・15・28・29は確認面付近、12・16・24・19・21は覆土上層、22・13・25・14は5層中、18・17は7層中、20・23は8層中からの出土か。

出土遺物 1～10は内耳土器。1・2・8・9は内耳の付かない口縁部破片であり、外面にオコゲ状の付着物が顕著である。8は口縁部下の僅かに作出される稜に沈線が巡る。1は口縁部下が緩やかに屈曲する。2・9は同一個体か。9は口縁部下に稜を持つ。2の口縁部下は図示した直線的な立ち上がり部分と9のような稜と成る部分が接合する。3は同位置から同一個体とみられる体部破片2片、北半部出土の1片が接合する。4は内耳から約9.0cmの間隔に内耳基部が観察される。5・10は同一個体か。内耳土器深胴。6は内耳土器体部。深胴か。6・7は内耳土器の平底。11は石製紡錘車である。

その他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

28は内耳土器口縁部小片、胎土は瓦質土器D群である。24・26・29は内耳土器体部小片、胎土は24・29はD群少量、26はC群である。25・27は内耳土器平底。25の胎土は瓦質土器C群。27は22と同一個体か。北半部から出土する2片は21と同一個体か。北半部からロクロ成形の上師質土器小皿小片が出土する。

第614号土坑(SK-614) (第28・29・30・31図)

位置 III-1区O・N-16・17グリッドに位置する。重複関係 SK-42より新しい。SK-615、p36・39より古い。形状・規模・主軸 円形状か。規模は、東西[0.82]m・南北約0.88mである。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.3m、レベル29.88mである。覆土 22～25層を確認した。

19・22層はローム主体の黄褐色土である。付属施設 底面にp 34～39が確認される。p 39はSK-615との重複部に確認される。p 34・39は26層・27層の堆積状況から本遺構埋没後に穿たれる。p 34など本遺構底面に観察されるピットやSK-42・613底面の小ピットも同様か。p 34～39の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりであるが、深さを確認し得たピットはp 34・39のみである。p 34:約0.14 m・約0.67 m・29.53 m、p 35:約0.14 m、p 36:約0.14 m、p 37:0.16 m前後、p 38:約0.14 m、p 39:約0.12 m・約0.6 m・29.6 mである。

遺物出土状況 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 30は図示し得なかったが、内耳土器平底2片である。胎土は瓦質土器D群である。

第615号土坑 (SK-615) (第28・29・30・31図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。重複関係 SK-619より新しい。SK-614より古い。

形状・規模・主軸 p 47東側の段差を北壁と想定されるが、SK-616等との重複により不詳である。南北に長い長方形状か。規模は、東西[1.1] m・南北[3.3] m、主軸はN-22°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.3 m、レベル29.9 mである。覆土 28～30層を確認した。付属施設 底面の範囲内にp 40～45を確認した。SK-616重複部に位置するp 46～50を併せて記載するが、何れも、本遺構への帰属等不詳である。或いは、SK-614 p 34・39同様、本遺構覆土を掘り込むか。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりであるが、p 43・50以外の深さは確認し得なかった。p 40:0.13 m前後、p 42:約0.08 m、p 42:約0.15 m、p 43:0.18 m前後・0.19 m・29.66 m、p 44:約0.14 m、p 45:約0.12 m、p 46:0.1 m前後、p 47:0.16 m前後、p 48:0.13 m前後、p 49:0.11 m前後、p 50:約0.18 m・約0.53 m・29.62 mである。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第616号土坑 (SK-616) (第28・29・30・31図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。重複関係 SK-614・615・617・619との関連は不詳である。

形状・規模・主軸 底面の段差から推定されるが、不詳な点が多い。東西に長い長方形状か。p 47東側の段差を北壁西半、p 46付近を西壁と想定できるか。規模は、東西最大1.85 m・南北[0.75] m、主軸はN-60°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは確認し得なかったが、深さ0.3 m、レベル29.9 mのSK-615とほぼ平坦である。覆土 確認し得なかった。付属施設 底面の範囲内にp 51を確認した。帰属等不詳である。径0.1 m前後、底面レベルは不詳である。推定範囲内のp 45～50についても判然としな。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第617号土坑 (SK-617) (第28・29・30・31図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。重複関係 SK-54・615・618との関連は不詳である。

形状・規模・主軸 平面プラン、セクション等から推定されるSK-615-SK-618に挟まれた部分、及び、SK-615西側の部分と判断されるが、不詳な点が多い。東西に長い長方形状か。規模は、[4.0] m・南北[2.0] m、主軸はN-71°-Wか。底面 ローム層を掘り込み、凹凸が認められる。遺構確認面からの深さは0.08～0.15 m、SK-615寄りのレベルは30.01 m、SK-618寄りの部分は30.02～30.08 m、SK-615西側は30.02 mである。覆土 31～34層を確認した。付属施設 底面にp 52、及びp 53・54を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりであるが、p 52以外の深さは確認し得なかった。P52:0.12 m前後・約0.35 m・26.69 m、p 53:0.15 m前後、p 54:0.15 m前後である。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第 618 号土坑 (SK-618) (第 28・29・30・31 図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SK-617との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 平面プラン等から推定されるが、不詳な点が多い。東西に長い長方形状か。規模は、[1.4]m・南北[1.2]m、主軸はN-28°Eか。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.09m、レベル30.06mである。**覆土** 確認し得なかったが、炭化物やロームブロックを含む。**付属施設** 底面にp 61～63を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりであるが、p 61以外の深さは確認し得なかった。P61:0.18m前後・約0.32m・26.83m、p 53:0.15m前後、p 54:0.07m前後である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第 619 号土坑 (SK-619) (第 28・29・30・31 図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SK-43より古い。SK-616との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 平面プラン、セクション等から推定されるが、不詳な点が多い。方形状か。規模は、2.0m前後・南北(1.8)mである。西壁がテラス状の張り出す。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.1m前後、レベル30.2mである。テラス状の部分は遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.1mである。**覆土** 35～37層を確認した。**付属施設** 底面にp 56～60を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。P56はテラス状の部分にある。p 56:0.16m前後、p 57:約0.19m前後・約0.41m・29.74m、p 58:約0.14m、p 59:約0.2m・0.46m・26.69m、p 60:0.08m前後である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 620 号土坑 (SK-620) (第 32 図)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からはSK-620→SK-61→SK-621・SK-622→SK-623とみられる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。SK-61との重複のより西側が判然としない。遺構として残る西壁を本遺構とするならば、底面の規模は、東西約4.15m、南北最大1.32mである。主軸はN-65°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.13～0.2m、レベル29.98～29.93mである。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面にp 1を確認した。帰属等不詳である。p 1は径約0.4m・遺構確認面からの深さ約0.54m・レベル29.61mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 621 号土坑 (SK-621) (第 32 図)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からはSK-620→SK-61→SK-621・SK-622→SK-623とみられる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西約1.2m、南北約0.43mである。主軸はN-65°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.3m、レベル29.84mである。**覆土** 3層を確認した。覆土の状況から視乱である可能性が残る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 622 号土坑 (SK-622) (第 32 図)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からはSK-620→SK-61→SK-621・SK-622→SK-623とみられる。**形状・規模・主軸** SP-A・Bに確認した。規模は、東西[1.3]m、南北[1.3]mである。**底面** SK-61覆土を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.11m、レベル30.0mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第623号土坑 (SK-623) (第32図)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からはSK-620→SK-61→SK-621・SK-622→SK-623とみられる。**形状・規模・主軸** SP-Aに確認した。規模は、東西1.3mである。

底面 SK-61覆土を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.05m、レベル301mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第625号土坑 (SK-625) (第39図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.26m・南北0.54m前後である。主軸はN-22°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.44m、レベル29.48mである。**覆土** 3層を確認した。総じてロームブロックの混入が目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から5片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、土師器裏底部とみられる小片1片、内耳土器体部4片である。内耳土器は、2片が胎土C群、2片が胎土D群である。

第626号土坑 (SK-626) (第47・52図 表38)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-626→SK-627→SD-72→SK-39の順に重複する。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.54m・南北0.32m前後である。主軸はN-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.25m、レベル29.6mである。**覆土** 11～14層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から7片が出土する。

出土遺物 1は内耳土器口縁部片。仕上げは精緻で痕跡は薄い。

この他、図示し得なかった出土遺物は内耳土器口縁部1片、体部5片である。体部の1片は胎土D群、この他はC群である。

第627号土坑 (SK-627) (第52図)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-626→SK-627→SD-72→SK-39の順に重複する。**形状・規模・主軸** 中段部を持ち、底面は南北に長い溝状である。中段部の規模は、東西約1.0m・南北約0.8m・深さ0.3m前後・レベル29.7mである。底面の規模は、東西約0.26m・南北0.63m前後である。主軸はN-22°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.48m、レベル29.52mである。**覆土** 7～10層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から陶器2片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

陶器2片は何れも微細片である。1片は天目碗体部微細片か。1片は内外面に白濁釉を施す。碗類か。

第628号土坑 (SK-628) (第39図)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西(0.33)m・南北約0.94m、主軸はN-27°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.1m、レベル29.73mである。

覆土 確認し得なかった。**付属施設** p1・2が確認される。附属等は不明である。何れも、径0.1m前後である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第635号土坑 (SK-635) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。北壁東寄りの掘り込みの詳細は不詳である。底面の規模は、東西約2.62m・南北0.8m前後である。主軸

はN-66°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.28 m、レベル 29.76 mである。

覆土 1～5層を確認した。**付属施設** 南壁西寄りにp 1・2を確認したが、帰属等、詳細は不明である。p 1は東西約0.2 m・南北約0.3 m・深さ約0.13 m・レベル 29.52 m、p 2は径約0.15 m・深さ約0.45 m・レベル 29.5 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第636号土坑 (SK-636) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。SK-637との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、南北約0.8 mである。東西はSK-264との重複により不明であるが、南北の幅が狭まる付近、[1.5] mほどか。主軸はN-80°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-637の底面とほぼ同レベルである。確認面からの深さは約0.18 m、レベル 29.8 mである。**覆土** 6・7層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第637号土坑 (SK-637) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。SK-636との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 円形状か。北側は掘りすぎた部分があるか。底面の規模は、南北(0.5) mである。東西はSK-636との重複により不明であるが、南北の幅が狭まる付近、[2.2] mほどか。主軸はN-76°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-636の底面とほぼ同レベルである。確認面からの深さは約0.15 m、レベル 29.84 mである。**覆土** 8層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第638号土坑 (SK-638) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 南北に長い方形形状である。10層の堆積状況から掘り直しや別遺構の可能性を考え得るが、明瞭にし得なかった。底面の規模は、東西約0.87 m・南北約1.08 mである。主軸はN-11°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.32 m、レベル 29.68 mである。**覆土** 9・10層を確認した。ロームを多量に含む黄褐色土である。**遺物出土状況** SK-41・638・639を含む覆土中から59点が出土する。SK-41に記載する。

第639号土坑 (SK-639) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。北側は掘りすぎた部分があるか。底面の規模は、東西[1.64] m・南北約0.46 mである。主軸はN-14°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.1 m、レベル 29.88 mである。**覆土** 11層を確認した。**遺物出土状況** SK-41・638・639を含む覆土中から59点が出土する。SK-41に記載する。

第640号土坑 (SK-640) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-56より古い。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い不整形である。底面の規模は、東西0.44 m前後m・南北(1.1) mである。主軸はN-37°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.14 m、レベル 29.96 mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第641号土坑 (SK-641) (第33図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SD-642→SK-75→SK-641の順に重複する。

形状・規模・主軸 南壁に方形の突出部を持つ不整形である。SK-74 との重複により不詳であるが、底面の規模は、東西 [1.4] m、南北 [1.38] m・突出部 (0.26) mである。主軸は N-56°-W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.11 m、レベル 29.84 m である。 **覆土** 突出部の 1 層を確認した。

付属施設 p 1 が確認される。南側にテラス状の張り出し部がみられる。帰属等詳細は不明である。東西約 0.44 m、南北約 0.24 m・張り出し部まで約 0.46 m、遺構確認面からの深さ約 0.45 m、レベル 29.5 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 643 土坑 (SK-643) (第 25 図)

位置 Ⅲ-1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-643・644・645 → SK-51 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-51 との重複により判然としなが、南北に長い長方形である。底面の規模は、東西 0.36 ~ 0.46 m、南北 (0.54) m である。主軸は N-16°-E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ 0.1 m 前後・レベル 29.89 m である。 **覆土** 8 ~ 10 層を確認した。ローム主体の黄褐色土である。9・10 層は p 1・2 覆土である。p 1・2 堆積後本遺構の覆土が堆積する。

付属施設 底面に p 1・2 を確認した。帰属等は不詳である。p 1 は径約 0.11 m・遺構確認面からの深さ約 0.48 m・レベル 29.73 m、p 2 は径 0.37 m 前後・遺構確認面からの深さ約 0.37 m・レベル 29.5 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 644 土坑 (SK-644) (第 25 図)

位置 Ⅲ-1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-643・644・645 → SK-51 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-51 との重複、区外に延びることから不詳な点が多い。SK-51 西側、及び、SK-51 東側南半部にあたとみられる。底面の規模は、東西 (0.6) m、南北 (0.88) m である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m・レベル 29.74 ~ 29.8 m である。

覆土 11 ~ 15 層を確認した。ローム主体の黄褐色土である。13 ~ 15 層は p 3 覆土であり、本遺構堆積後に穿たれたか。 **付属施設** 底面に p 1 ~ 3 を確認した。覆土の堆積状況から p 1 は本遺構に伴うか。p 3 は堆積後の掘り込みか。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは、p 1 : 約 0.15 m・約 0.29 m・29.67 m、p 2 : 約 0.15 m・約 0.4 m・29.54 m、p 3 : 0.18 m 前後・約 0.36 m・29.6 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 645 土坑 (SK-645) (第 25 図)

位置 Ⅲ-1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-643・644・645 → SK-51 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-51 との重複、区外に延びることから不詳な点が多い。SK-51 東側北半部にあたとみられる。底面の規模は、東西 (1.47) m、南北 (0.75) m である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.18 m・レベル 29.75 m 前後である。 **覆土** 16・17 層を確認した。ローム主体の黄褐色土である。 **付属施設** 底面に p 1 を確認した。覆土の堆積状況から本遺構に伴うか。径 0.15 m 前後・遺構確認面からの深さ約 0.14 m・レベル 29.68 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 646 号土坑 (SK-646) (第 25 図)

位置 Ⅲ-1 区 O-14 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-647 → SK-648 → SK-646 → SK-37 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** 概ね東西に長い。底面の規模は、東西 (2.6) m・南北 0.5 m 前後である。主軸は N-67°-W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.54 m、レベル 29.42 m である。 **覆土** 21 ~ 23 層を確認した。24 層も本遺構の覆土か。ロームを主体とす

る黄褐色土である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 647 号土坑 (SK-647) (第 25 図)

位置 Ⅲ-1区O-14グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-647→SK-648→SK-646→SK-37の順に重複する。 **形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。底面の規模は、東西0.55～0.68m・南北(1.0)mである。主軸はN-31°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.34m、レベル29.6mである。 **覆土** 25・26層を確認した。27層も本遺構の覆土か。ロームが多く堆積する黄褐色土である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 648 号土坑 (SK-648) (第 25 図)

位置 Ⅲ-1区P-14グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-647→SK-648→SK-646→SK-37の順に重複する。SK-271より新しい。 **形状・規模・主軸** 重複により不詳な点が多い。底面の規模は、東西約0.46m・南北(0.6)mである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.13m、レベル29.8mである。 **覆土** 27・28層を確認した。 **付属施設** p1を確認した。帰属等詳細は不明である。径約0.26m・深さ約0.54m・レベル29.34mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 649 号土坑 (SK-649) (第 24 図)

位置 Ⅲ-1区O-14グリッドに位置する。 **重複関係** SK-47→SK-649・SK-651→SK-650の順に重複する。SK-47:SK-650・SK-649:SK-650の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状である。東・西側は底面の高さに差異が認められる。便宜的に、西側の高い部分をA、東側の低い部分をBとする。底面の全長は約2.3mである。Aの東西約0.87m・南北約0.3m、Bの東西(1.4)m・南北(0.2m)である。主軸はN-68°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。Aの深さは約0.18m・レベル約29.82mである。 **覆土** 1層を確認した。 **付属施設** p6～8が確認される。帰属等、詳細は不明である。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p6:約0.28m・約0.54m・29.46m、p7:約0.13m、p8:東西約0.3m南北約0.34m・約0.55m・29.45mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 650 号土坑 (SK-650) (第 24 図)

位置 Ⅲ-1区O-14グリッドに位置する。 **重複関係** SK-47→SK-649・SK-651→SK-650の順に重複する。SK-47:SK-650・SK-649:SK-650の新旧関係は不明である。5層は後出するピットである可能性も考えられるが、詳細は不明である。 **形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約1.25m・南北約0.35mである。主軸はN-62°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.43m・レベル約29.59mである。 **覆土** 5～10層を確認した。5層は後出するピット覆土か。8層の堆積状況から掘り直し、重複等が考えられるが判然としない。6～8層は似た特徴が観察される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 651 号土坑 (SK-651) (第 24 図)

位置 Ⅲ-1区O-14グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-47→SK-649・SK-651→SK-650の順に重複する。SK-47:SK-650・SK-649:SK-650の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複等により判然としないが、円形状か。底面の規模は、径(1.04)mである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.14m・レベル約29.88mである。 **覆土** 11層を確認した。5層は後出するピット覆土か。8層の堆積状況から掘り直し、重複等が考えられるが判然としない。6～8層は似

た特徴が観察される。**付属施設** p 9が確認される。帰属等、詳細は不明である。径約0.24 m・遺構確認面からの深さ約0.5 m・レベル29.5 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第704号土坑 (SK-704) (第17図)

位置 Ⅲ・2区N-13グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** SE-93より新しい。**形状・規模・主軸** 判然としなが、北東-南西に長い形状か。或いは井戸跡の可能性も残る。現状の遺構確認面の規模は、幅(0.8) mである。**底面** ローム層を掘り込む。現状で遺構確認面からの深さ約0.5 m・レベル約29.62 mまでを確認したが、底面は調査区外にあるとみられる。**覆土** 1～3層を確認した。詳細は不詳である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第706号土坑 (SK-706) (第17図)

位置 Ⅲ・2区N-12グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705(地下式坑)→SK-95→SK-706→SK-707(方形竈穴遺構)の順に重複する。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられ、詳細は不明である。底面の規模は、東西(0.74) m・南北(0.65) m、主軸N-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.32 m・レベル約30.28 mである。**覆土** 7・8層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第710号土坑 (SK-710) (第32図)

位置 Ⅲ・3区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-80より新しい。**形状・規模・主軸** SK-80-SP-Aに確認した。詳細は不明である。底面の規模は、南北(0.4) mである。**底面** SK-80覆土を掘り込む。確認面からの深さは約0.18 m、レベル30.5 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第711号土坑 (SK-711) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ・3区L-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-711→SK-713、SK-713→SK-712、SK-713→SK-714、SK-716→SK-714の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.75 m・南北約1.67 mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.35 m、レベル30.53 mである。**覆土** 1～5層を確認した。5層はp 1から壁面付近に堆積する。**付属施設** 南西隅部付近にp 1が確認される。帰属等は不詳であるが、壁面付近に堆積する5層が観察される。径約0.35 m、遺構確認面からの深さ約0.32 m・底面からの深さ約0.06 m、レベル30.47 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第712号土坑 (SK-712) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ・3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-711→SK-713、SK-713→SK-712、SK-713→SK-714、SK-716→SK-714の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714の新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 平面図はSK-713・9層が地山ローム層を掘り込んだ可能性を反映する。ロームを主体とする黄褐色土が堆積する本遺構15～17層を誤認したものと判断され、本遺構平面形は、図示した北東-南西方向に長い形状と推定される。底面の規模は、東西[0.4] m・南北[1.3] m、主軸はN-25° Eである。

底面 SK-340・9層を掘り込む。前述のとおり、9層には地山ローム層を掘り込んだ可能性が残る。確認面からの深さは約0.22～0.43 m、レベル30.63～30.46 mである。底面には凹凸が観察されるが、ビット状の15層に起因するか。**覆土** 11～15層を確認した。11～14層は暗褐色土、15～17層はローム主体の黄褐色土であり、上・下層で大きく二分される。16・17層はビット状の15層の埋土状に堆積する。

本来の底面は15～17層上面である可能性も考えられる。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第713号土坑 (SK-713) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-711→SK-713、SK-713→SK-712、SK-713→SK-714、SK-716→SK-714の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714の新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 重複により判然としなが、北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西[0.6]m・南北[1.4]m、主軸N-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。9層は地山ローム層を掘り込む可能性が残る。確認面からの深さは約0.5m・レベル30.4m、9層を地山とした場合の深さは約0.4m・レベル30.5mである。**覆土** 6～10層を確認した。9層は地山ローム層を掘り込む可能性が残る。セクション図中に破線で示した。10層は壁面等の崩落土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第714号土坑 (SK-714) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-711→SK-713、SK-713→SK-712、SK-713→SK-714、SK-716→SK-714の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714の新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 北東-南西に長い形状である。底面の規模は、東西約1.6m・南北約0.52m、主軸N-27°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m・レベル30.42mである。

覆土 18～21層を確認した。18・19層は後世の掘り込みである可能性も考え得る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第716号土坑 (SK-716) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-716→SK-714・717、SK-716→SK-717の順に重複する。SK-711-712、SK-713-714の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。西側は平面形状から推定されるが、東側は底面もほぼ同レベルであり、判然としない。北東-南西に長い形状とみられる。底面の規模は、東西(0.3)m・南北(0.88)m、主軸N-(27)°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m・レベル30.44mである。**覆土** 22～24層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第717号土坑 (SK-717) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-716→SK-714・717、SK-716→SK-717の順に重複する。SK-711-712、SK-713-714の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。西側は平面形状から推定されるが、東側は底面もほぼ同レベルであり、判然としない。北東-南西に長い形状とみられる。底面の規模は、東西(0.5)m・南北(0.52)m、主軸N-(29)°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m・レベル30.44mである。**覆土** 25～27層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第718号土坑 (SK-718) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-716→SK-714・717、SK-716→SK-717の順に重複する。SK-711-712、SK-713-714の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。西側は平面形状から推定されるが、東側は底面もほぼ同レベルであり、判然としない。北東-南西に長い形状とみられる。底面の規模は、東西(0.22)m・南北(0.36)m、主軸N-(28)°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.4m・レベル30.45mである。**覆土** 28～30層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第719号土坑 (SK-719) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722→SK-716→SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。SK-730とはSP-DにSK-730が観察されないことから、本遺構が新しい可能性が考えられるか。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状とみられる。底面の規模は、東西[2.06]m・南北(0.46)m、主軸N-60°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.5m・レベル30.48mである。**覆土** 31～34層を確認した。**付属施設** p2が確認される。東西約0.1・南北約0.14m、遺構確認面からの深さ約0.42m・底面からの深さ0.1m前後、レベル30.52mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第720号土坑 (SK-720) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722→SK-719→SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判然としにくい。北西隅部の屈曲部を西壁とする北東-南西に長い形状か。南側のテラス状の中段部は37～39層が堆積する。本遺構に伴うか。底面の規模は、東西[1.06]m・南北(1.55)m、主軸N-(29)°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.52m・レベル30.44mである。中段部は、SP-Fから、遺構確認面からの深さ約0.48m・レベル30.58mとみられる。**覆土** 35～43層を確認した。SP-E(35～40層)・SP-F(41～43層)は暗褐色土を基本とする。層序からは、35層-41層、36・37層-42層、38・39層-43層が対応関係にあるが、ローム粒子・ロームブロックの堆積状況に差異がみられる。別遺構である可能性も僅かながら残る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第721号土坑 (SK-721) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722→SK-719→SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 詳細は不明である。遺構掘削状況からp1のある屈曲部を南西隅部とする方形が推定可能か。底面の規模は、南北(1.2)m、主軸N-(30)°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。詳細は不明である。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** p3～5が確認される。帰属等詳細は不明である。p5は三角形に掘り込まれる。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは、p3:約0.2m、p4:約0.25m(底面の径約0.07m)・遺構確認面からビット底面まで約0.6m・30.36m、p5:東西約0.36m南北約0.54m・約0.57m・30.39mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第722号土坑 (SK-722) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722→SK-719→SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明であるが、北西-南東に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約1.35m・南北[0.25]m、主軸N-62°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.22m・レベル30.74mである。**覆土** 44層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第723号土坑 (SK-723) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722→SK-719→SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。SK-730とはSP-DにSK-730が観察されないことから、本遺構が新しい可能性が考えられるか。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状である。南壁中央部、SP-H西側の屈曲部の詳細は不明である。SK-730南東隅部の可能性も考え得る。底面の規模は、東西約2.25m、

南北SP-I付近 [0.4] m、主軸 N-63° Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.56 m・レベル 30.45 mである。覆土 45～48層を確認した。48層は45～47層に対応か。付属施設 p 6・7が確認される。帰属等詳細は不明である。p 6は東西約0.14 m・南北約0.22 m、p 7は東西約0.3 m・南北約0.42 m、遺構確認面からの深さ約0.7 m・底面からの深さ約0.12 m、レベル 30.34 mである。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第724号土坑 (SK-724) (第41・42・43図)

位置 III-3区 L-10 グリッドに位置する。重複関係 SK-722→SK-719→SK-723→SK-724、SK-724→SK-728→SK-727、SK-724→SK-723→SK-727→SK-732の順に重複する。形状・規模・主軸 北西-南東に長い形状である。西壁の屈曲部の詳細は不明である。底面の規模は、東西(2.12)m、南北0.63～0.7 m、主軸 N-61° Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.6～0.68 m・レベル 30.4 mである。覆土 49～56層を確認した。49層-53層、50層-54・55層、51・52層-56層に対応か。概ね、堆積土の特徴は似る。付属施設 p 8が確認される。帰属等詳細は不明である。東西約0.14 m・南北約0.07 mである。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第725号土坑 (SK-725) (第41図)

位置 III-3区 K-10 グリッドに位置する。重複関係 SK-725→SK-723→SK-724の順に重複する。形状・規模・主軸 重複により判断としないが、北西-南東に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.45) m、南北約0.37 m、主軸 N-72° Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.4 m・レベル 30.46 mである。覆土 57～59層を確認した。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第726号土坑 (SK-726) (第41・42・43図)

位置 III-3区 L-10 グリッドに位置する。重複関係 SK-723→SK-724→SK-728→SK-727→SK-726、或いは、SK-732→SK-731とすれば、SK-723→SK-724→SK-728→SK-732→SK-731→SK-727→SK-726の順に重複するか。形状・規模・主軸 西側の掘り込みは帰属等不詳である。平面図は北西-南東に長い長方形の掘り込みを指示するが、SP-Gからは北半部の掘り込みは観察されない。地山ロームを掘り込む可能性があろうか。本遺構の形状は、現状の東・西・南壁及びSP-Gに観察されるSK-727との分層部を北壁とする、やや北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西0.65 m前後・南北(0.8) m、主軸 N-26° Eである。底面 ローム層を掘り込む。SK-727-p 9の深さは、SK-727底面から約0.2 m、本遺構底面から約0.03 mである。平面図北側はp 9の深さを誤認し地山ロームを掘り込んだか。遺構確認面からの深さは約0.8 m・レベル 30.22 mである。覆土 60～62層を確認した。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第727号土坑 (SK-727) (第41・42・43図)

位置 III-3区 L-10 グリッドに位置する。重複関係 SK-723→SK-724→SK-728→SK-727→SK-726、或いは、SK-732→SK-731とすれば、SK-723→SK-724→SK-728→SK-732→SK-731→SK-727→SK-726の順に重複するか。形状・規模・主軸 重複のため詳細は不詳である。本遺構西側底面となるSK-726北側の掘り込みはSP-Gには観察されない。地山ロームを掘り込む可能性があろうか。本遺構の形状は、SP-G・H、SK-728との底面の差異から、やや北西-南東に長い長方形か。底面の規模は、東西1.0 m程度・南北 [0.8] m、主軸 N-58° Wか。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.62 m・レベル 30.6 m前後である。覆土 63～65層を確認した。付属施設 p 9が確認される。帰属等は不詳である。径約0.17 m、遺構確認面からの深さ約0.83 m・本遺構底面からの深さ約0.2 m、レベル 30.19

mである。SK-728 底面からの深さは約0.03 mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第728号土坑 (SK-728) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-723→SK-724→SK-728→SK-727→SK-726、或いは、SK-732→SK-731とすれば、SK-723→SK-724→SK-728→SK-732→SK-731→SK-727→SK-726の順に重複するか。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西約0.7 m・南北(0.65) m、主軸N-28°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.29～0.33 m、レベル30.74～30.68 mである。 **覆土** 66・67層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第729号土坑 (SK-729) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-720とは不明である。 **形状・規模・主軸** 遺構北側は掘乱穴によって失う。北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西約0.6 m・南北(1.28) m、主軸N-28°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.76 m、レベル30.26 mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第730号土坑 (SK-730) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-719・722・723とは新旧不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。北西隅部が確認される。SK-723南壁の屈曲部が南東隅部である可能性を考え得る。北西-南東に長い形状か。底面の規模は、東西(0.35) m・南北(0.6) mである。SK-723南壁屈曲部を南東隅部とした場合、東西[1.5] m・南北[0.6] m、主軸N-60°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。深さレベルは不詳であるが、SK-723同様、遺構確認面からの深さ[0.67] m、レベル30.34 mか。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第731号土坑 (SK-731) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-723→SK-724→SK-728→SK-727→SK-726、或いは、SK-732→SK-731とすれば、SK-723→SK-724→SK-728→SK-732→SK-731→SK-727→SK-726の順に重複するか。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。東壁、北壁東側の屈曲は不詳である。遺構が重複する可能性も考え得る。SP-Jによれば、東壁端部は図中の破線部と想定され、東壁南側のラインとほぼ一致する。北西-南東に長い形状か。底面の規模は、東西[1.65] m・南北(東端部付近約0.88 m・SP-H付近約1.07 m)、主軸N-61°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.6 m、レベル30.4 m前後である。 **覆土** 68～78層を確認した。SP-G・Hは70・71・73・75層、SP-Iは68・70・71・73・75層、SP-Jは69～75層、SP-Kは70・71・73・75～78が堆積する。各セクションの交点の土層は多少の差異がみられるが、概ね、70・71・73・75層に纏められる。 **付属施設** p 10が確認される。帰属等は不詳である。東西約0.4 m・南北約0.16 m、遺構確認面からの深さ約0.71 m・底面からの深さ約0.11 m、レベル30.27 mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第732号土坑 (SK-732) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-727・728・733との新旧は不詳である。 **形状・規模・主軸** 重複により判然としないが、北西-南東に長い形状か。底面の規模は、東西[0.3] m・南北(0.45) m、主軸N-62°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.62 m、レベル30.45 mである。 **覆土** 79～82層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第733号土坑 (SK-733) (第41・42・43図)

位置 III-3区K-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-724・728・732との新旧関係は不詳である。

形状・規模・主軸 北東-南西に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.47)m・南北(1.2)m、主軸N-26°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.3m、レベル30.7mである。

覆土 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第735号土坑 (SK-735) (第36図)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-108→SK-735の順に覆土が堆積する。SK-736との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね、東西に長い円形状である。底面の規模は、東西約0.56m・南北約0.5mである。南壁はオーバーハングする。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が確認される。確認面からの深さ約0.35m、レベル約29.7mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第736号土坑 (SK-736) (第36図)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-108→SK-735の順に覆土が堆積するが本遺構との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね、南北に長い円形状である。底面の規模は、東西(0.24)m・南北(0.48)mである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。SK-108ほどの深さ・底面レベルか。

覆土 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第737号土坑 (SK-737) (第52図)

位置 III-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SD-72→SK-737の順に覆土が堆積する。**形状・規模・主軸** 概ね、南北に長い円形状とみられる。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.82mである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.04m、底面レベル29.84である。SD-72底面より0.02mほど高い。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第738号土坑 (SK-738) (第26図)

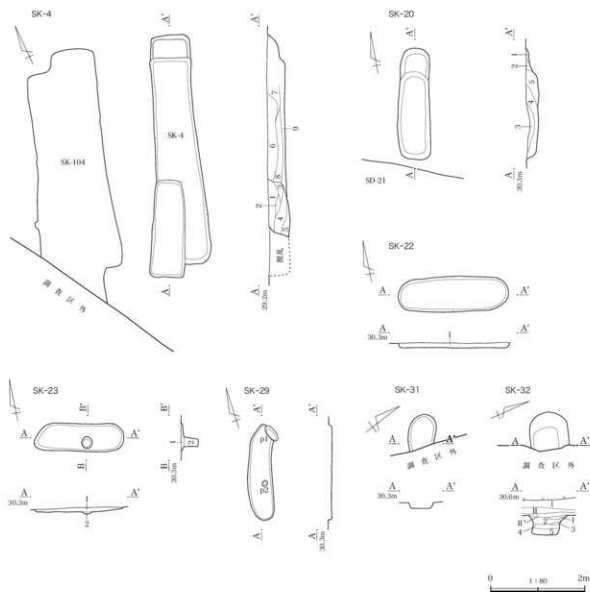
位置 III-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SK738・739→SK-38の順に重複する。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い不整形である。底面の規模は、東西(0.9)m・南北約1.0mである。主軸はN-36°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.06m、レベル29.93mである。

覆土 SP-A-7層を確認した。**付属施設** 底面にp1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。p2・p3は重複するが詳細は不明である。p1は、SK-738底面の東西約0.24m・南北約0.36mであり、中段をもって底面に至る。底面の規模は東西約0.12m・南北約0.08mである。SK-378底面からの深さ約0.15m、底面レベル29.78mである。SK-365底面の東西約0.036m・南北約0.28mであり、段をもって底面に至る。底面の径0.08m前後である。p3のSK-738底面の東西約0.1m・南北(0.1)mである。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片、内耳土器口縁部片1片である。内耳土器の胎土は瓦質土器C群である。

第739号土坑 (SK-739) (第26図)

位置 III-1区O・N-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-738・739→SK-38の順に重複する。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い不整形である。南側はSK-38との重複により、北側は覆乱により失う。底面の規模は、東西約0.74m・南北(1.0)mである。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.1m、レベル30.02mである。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面にp1



SK-4

- 1 黄褐色土 ロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 1層よりロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 2層よりロームブロック少量。
- 4 黄褐色土 ロームブロック主体、しまりなし。
- 5 黒褐色土 ローム粒子少量。
- 6 暗褐色土 1層よりロームブロック少量、しまりあり。
- 7 灰褐色土 粘土含む、しまりなし。
- 8 暗褐色土 6層よりロームブロック少量。
- 9 暗褐色土 ロームブロック少量、しまりあり。

SK-20

- 1 黄褐色土 ローム粒子主体、しまりなし。
- 2 黄褐色土 1層同様ローム主体であるが、1層より黒色土含む。
- 3 明褐色土 ロームブロック (0.5~1.0cm 大) 主体、しまりなし。
- 4 暗褐色土 3層よりローム少量、やや暗色、しまりなし。
- 5 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量、しまりなし。

SK-22

- 1 黄褐色土 ロームブロック多量、しまりなし。

SK-23

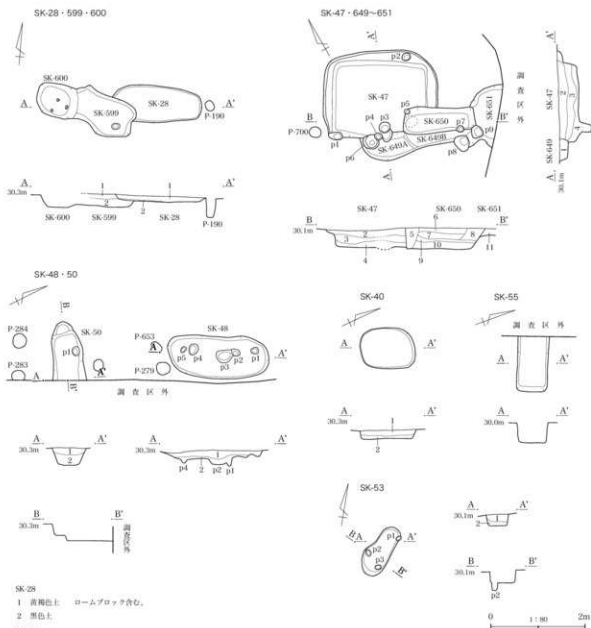
- 1 黄褐色土 ロームブロック多量、しまりなし。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり。

SK-32

- 1 表土 明褐色土。
- II' 表土 暗褐色土。
- II'' 表土 黒色土、ローム粒子・泥少量。
- 1 黄褐色土 雑土ブロック含む、しまりなし。
- 2 黄褐色土 ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む、しまりなし。
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む、しまりなし。
- 4 暗褐色土 ローム多量、しまりなし。
- 5 暗褐色土 大粒のロームブロック含む、しまりなし。

第23図 第4・20・22・23・29・31・32号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-28

- 1 黄褐色土 ロームブロック含む。
- 2 黒色土

SK-40

- 1 明褐色土 ロームブロック (2.0~4.0cm 大) をまだらに含む。しまりあり。粘性あり。
- 2 暗褐色土 1層よりロームブロック少量。しまりあり。粘性あり。

SK-47

- 2 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 3 明黄褐色土 ロームブロック多量。
- 4 明褐色土 2層にわたるが、ローム粒子少量。ロームブロック多量。

SK-48

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (2.0~4.0cm 大) 含む。
- 2 明褐色土 1層よりローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-50

- 1 暗褐色土 ロームブロック (2.0cm 大) 少量。
- 2 明褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。

SK-53

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。
- 2 黄褐色土 ローム主体。しまりなし。

SK-599

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 1層よりローム粒子多量。

SK-649

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。

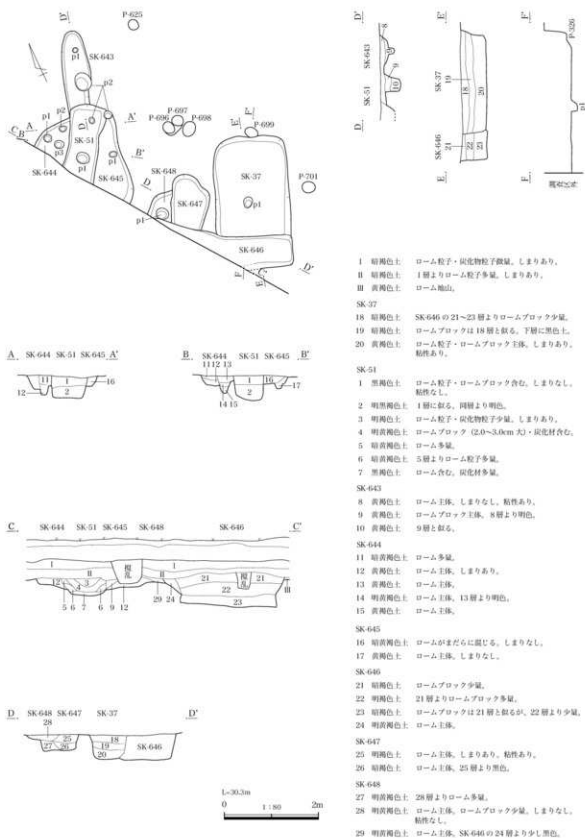
SK-650

- 5 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。
- 6 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。
- 7 暗褐色土 ロームブロックは6層より多量。しまりなし。
- 8 暗褐色土 7層にわたる。
- 9 暗褐色土 7層よりやや少額。
- 10 暗褐色土 同層よりロームブロック少量。しまりなし。
- 11 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-651

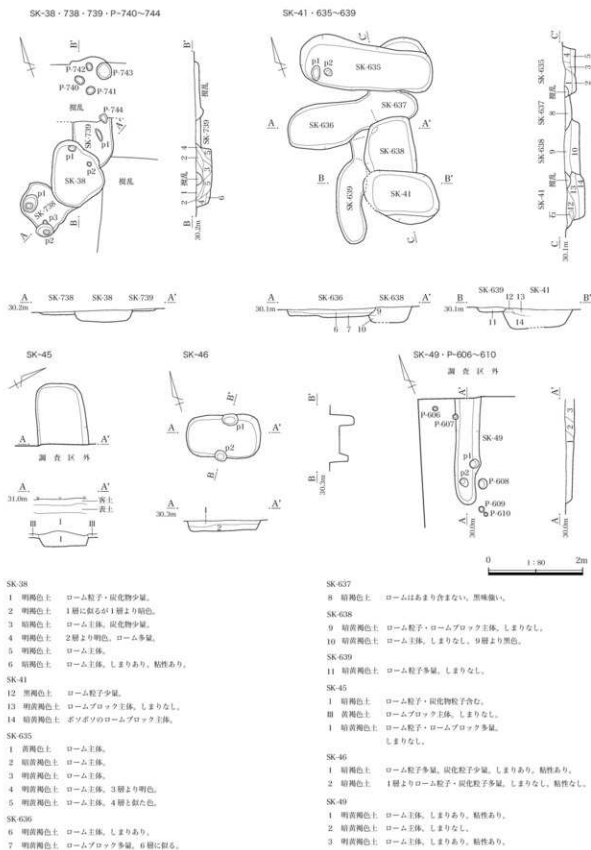
- 11 暗褐色土 ローム少量。

第24図 第28・40・47・48・50・53・55・599・600・649～651号土坑実測図

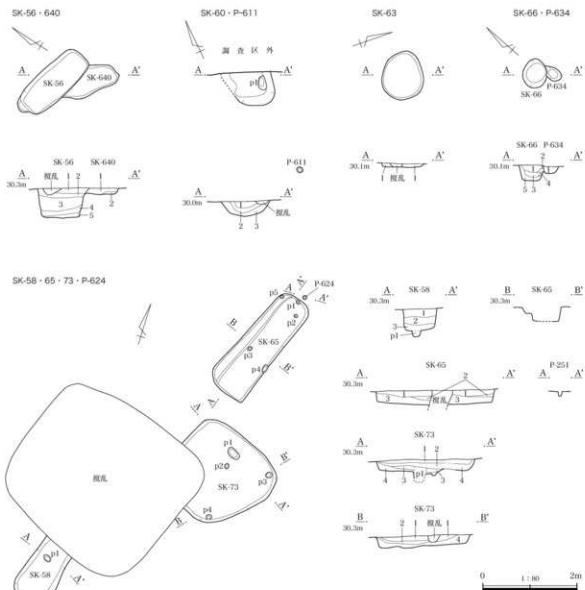


第25図 第37・51・643～648号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



第26図 第38・41・45・46・49・635・639・738・739号土坑・第606~610・740~744号ピット実測図



SK-56

- 1 暗褐色土: ローム粒子・ロームブロック含む,
- 2 暗褐色土: 1層よりローム粒子・ロームブロック多量,
- 3 明褐色土: 2層よりローム粒子・ロームブロック多量,
- 4 明褐色土: 2層に似る,
- 5 明褐色土: ローム粒子・ロームブロック少量,

SK-58

- 1 明褐色土: ロームブロック多量, しまりなし,
- 2 明褐色土: 1層よりロームブロック少量, しまりなし,
- 3 明褐色土: ロームブロックは1層と似る, しまりなし,

SK-60

- 1 明黄褐色土: ローム主体, しまりなし,
- 2 暗黄褐色土: 1層より暗色, ローム主体, しまりなし,
- 3 暗黄褐色土: 2層に似るが, より暗色,

SK-63

- 1 黄褐色土: ローム多量, しまりなし,

SK-65

- 1 暗黄褐色土: ローム粒子・ロームブロック (1.0cm大) 多量, しまりなし,
- 2 暗褐色土: ロームはあまり含まない,
- 3 暗黄褐色土: 1層よりローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm大) 多量,

SK-66

- 1 暗黄褐色土: ローム多量,
- 2 暗黄褐色土: ローム含む, 1層より明色,
- 3 明黄褐色土: ローム主体, しまりなし,
- 4 明黄褐色土: ローム含む, 3層より明色,
- 5 明黄褐色土: ロームブロック主体, しまりなし,

SK-73

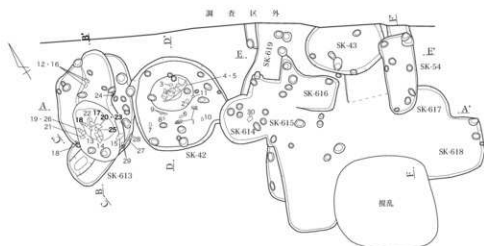
- 1 暗褐色土: ローム粒子少量, しまりあり,
- 2 暗褐色土: ローム粒子多量, しまりなし,
- 3 暗黄褐色土: ローム粒子・ロームブロック主体, しまりなし,
- 4 明黄褐色土: ロームブロック主体, しまりあり,

SK-640

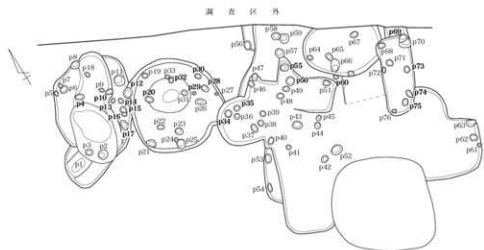
- 1 暗褐色土: SK-56の1層よりローム粒子少量,
- 2 黄褐色土: ロームブロック含む,

第27図 第56・58・60・63・65・66・73号土坑・第611・624・634・640号ピット実測図

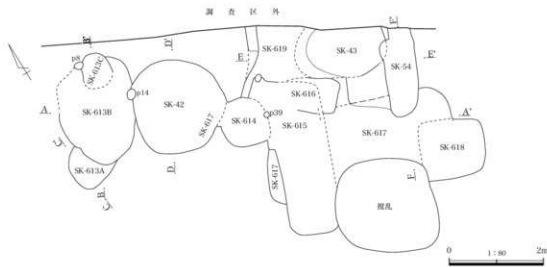
第3章 確認された遺構と遺物



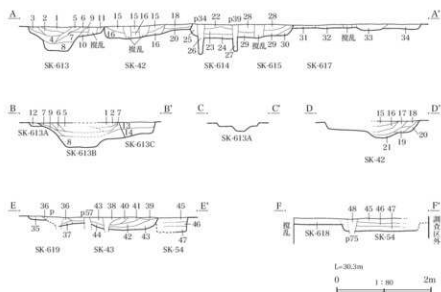
第28図 第42・43・54・613～619号土坑実測図(1)



第29図 第42・43・54・613～619号土坑内ビット配置図



第30図 第42・43・54・613～619号重複模式図



- SK-42
- 15 暗褐色土 ローム粒子少量。
 - 16 暗褐色土 15層より明色。
 - 17 暗褐色土 16層に黒色土混じる。
 - 18 明黄褐色土 ローム粒子主床、しまりなし。
 - 19 明黄褐色土 黒色土混じる。
 - 20 明黄褐色土 ローム粒子主床、18層より明色、しまりなし。
 - 21 遺物の面上により不明。

- SK-43
- 38 黒褐色土 ロームブロック少量。
 - 39 暗褐色土 ローム粒子少量。
 - 40 黒褐色土 38層よりローム粒子多量。
 - 41 黒褐色土 40層よりローム粒子多量。
 - 42 暗黄褐色土 41層よりローム粒子多量。
 - 43 黄褐色土 ローム粒子主床、しまりなし。
 - 44 黄褐色土 ロームブロック主床。

- SK-54
- 45 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。
 - 46 暗褐色土 45層よりローム粒子少量。
 - 47 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック主床、しまりなし。

- p75
- 48 黄褐色土 ローム粒子少量。

- SK-613A
- 12 明黄褐色土 ローム粒子主床。

- SK-613B
- 1 暗褐色土 炭化物少量。
 - 2 暗褐色土 1層より黒色。
 - 3 明黄褐色土 ローム粒子多量。
 - 4 暗褐色土 ローム粒子少量。
 - 5 明黄褐色土 ローム粒子多量。
 - 6 明黄褐色土 ローム粒子多量。
 - 7 明黄褐色土 ローム粒子多量。
 - 8 明褐色土 1~4層より明色、しまりなし。
 - 9 明黄褐色土 ローム粒子少量。
 - 10 明黄褐色土 ローム粒子多量。
 - 11 明黄褐色土 ローム粒子主床。

- SK-613C
- 13 明黄褐色土 ローム粒子含む。
 - 14 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。

- SK-614
- 22 暗黄褐色土 ローム粒子少量。
 - 23 暗黄褐色土 22層よりローム粒子多量。
 - 24 黄褐色土 ローム粒子主床。
 - 25 黄褐色土 ローム粒子主床。

- SK-614・p04
- 26 暗褐色土 ローム粒子含む。

- SK-614・p09
- 27 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。

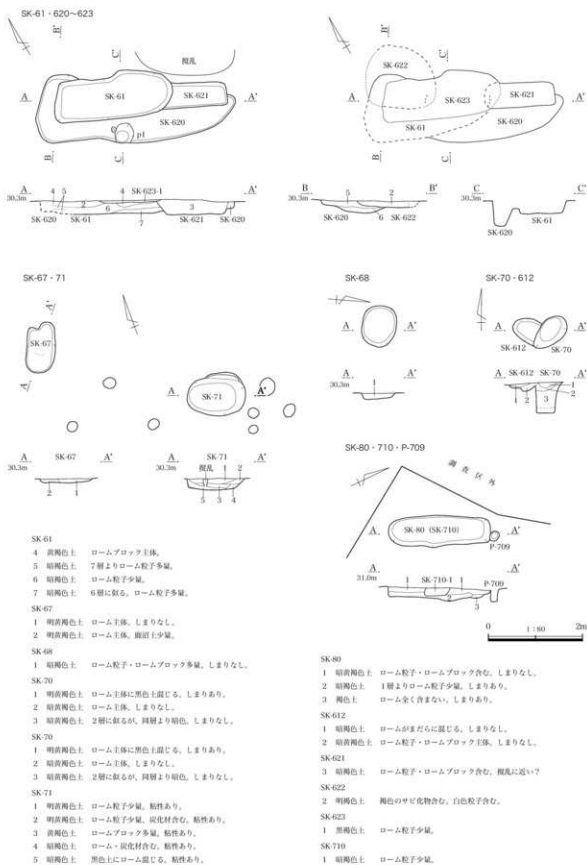
- SK-615
- 28 暗褐色土 ローム粒子少量。
 - 29 暗褐色土 28層より明色。
 - 30 黄褐色土 ローム粒子主床。

- SK-617
- 31 明褐色土 ローム粒子少量。
 - 32 暗褐色土 31層よりローム粒子少量。
 - 33 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。
 - 34 暗褐色土 33層よりローム粒子多量。

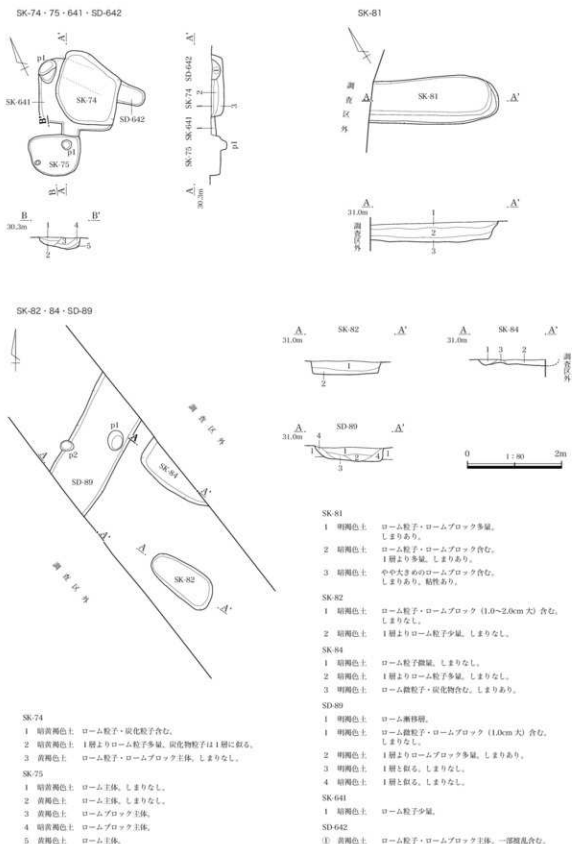
- SK-619
- 35 黄褐色土 ローム粒子主床。
 - 36 暗褐色土
 - 37 黄褐色土 ローム粒子主床。

第31図 第42・43・54・613～619号土坑実測図(2)

第3章 確認された遺構と遺物

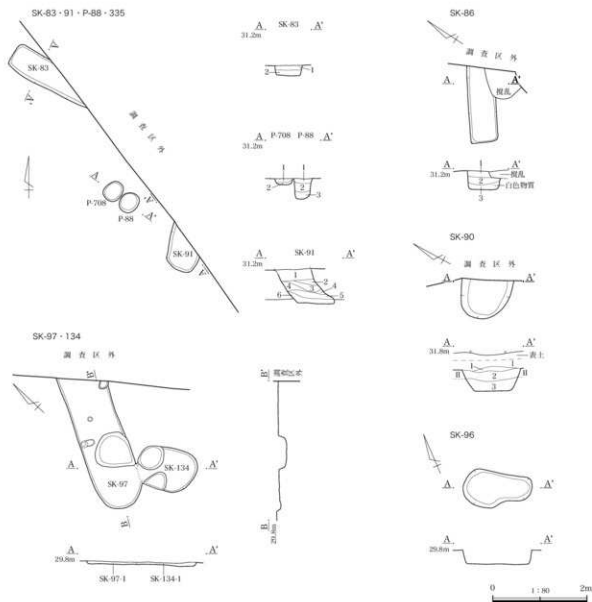


第32図 第61・67・68・70・71・80・612・620~623・710号土坑・第709号ピット実測図



第33図 第74・75・81・82・84・641号土坑・第89・642号溝状遺構実測図

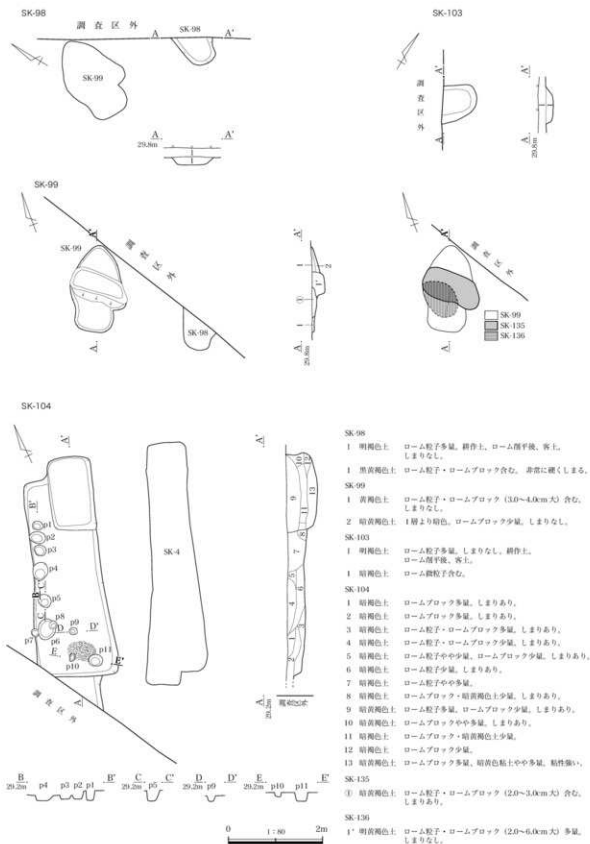
第3章 確認された遺構と遺物



- SK-83
- 1 暗褐色土 ロームブロック (2.0cm 大) を含む。しまりなし。
 - 2 明褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。
- SK-86
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。炭化物含む。
 - 2 暗黄褐色土 1層よりローム粒子やや少量。しまりなし。
 - 3 暗褐色土 2層よりローム粒子少量。しまりなし。
- P-88
- 1 明黄褐色土 ロームブロック (3.0cm 大) を含む。しまりなし。
 - 2 明黄褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。
- SK-90
- 1 褐色土 ローム粒子少量。
 - 2 黄褐色土 ローム細砂層
- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量。しまりあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
 - 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。

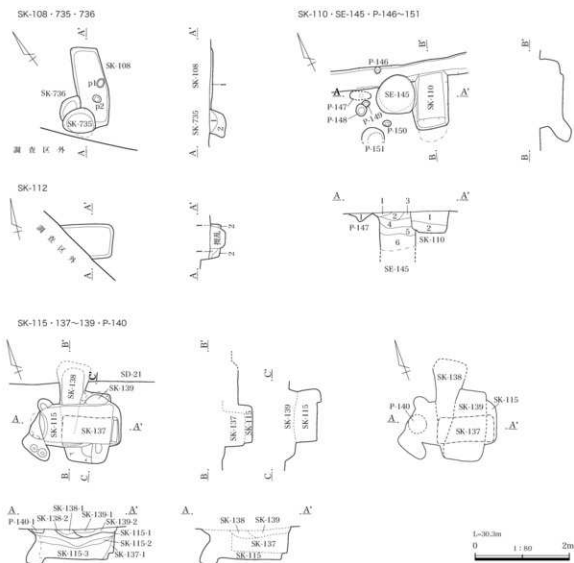
- SK-91
- 1 暗褐色土 ローム微粒子少量。しまりなし。
 - 2 暗褐色土 1層より明色。1層よりローム粒子多量。しまりなし。
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
 - 5 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
 - 6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
- SK-97
- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。
- SK-134
- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。SK-97の1層とよく似る。
- P-708
- 1 明褐色土 ロームはほとんど含まない。しまりなし。
 - 2 明黄褐色土 ロームブロック含む。しまりなし。

第34図 第83・86・90・91・96・97・134号土坑・第88・708号ピット実測図



第35図 第98・99・103・104・135・136号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-108

1 黄褐色土： しまりなし。

SK-110

1 明黄褐色土： ローム粒子・ロームブロック (1.0cm 大) 含む、しまりなし。

2 明黄褐色土： 1層よりローム粒子の混入多量、しまりなし。

SK-112

1 暗褐色土： ローム粒子少量、しまりあり。

2 暗褐色土： 1層よりローム粒子少量、しまりあり。

SK-115

1 暗褐色土： ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりなし。

2 暗褐色土： ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりなし。

3 暗褐色土： ロームブロックは1・2層より少量、しまりなし。

SK-137

1 明黄褐色土： ロームブロックはSK-115の2・3層より少量、しまりなし。

SK-138

1 暗黄褐色土： ロームブロックはSK-139の上層より少量、SK-138の2層より多量、しまりなし。

2 明黄褐色土： ローム粒子・ロームブロック多量、しまりなし。

SK-139

1 黒褐色土： ローム粒子・炭化物少量、しまりなし。

2 暗黄褐色土： ローム粒子・ロームブロック (1.0cm 大) 含む、しまりなし。

P-140

1 暗褐色土： ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む、しまりなし。

SE-145

1 明黄褐色土： ローム粒子・ロームブロック主層、しまりなし。

2 暗黄褐色土： ローム粒子・ロームブロックは1層より少量、しまりなし。

3 明褐色土： ローム粒子の混入少量、しまりなし。

4 暗褐色土： ローム粒子少量、しまりなし。

5 暗褐色土： 4層よりローム粒子少量、しまりなし。

6 暗褐色土： 4層よりローム粒子少量、しまりあり、粒状あり。

P-147

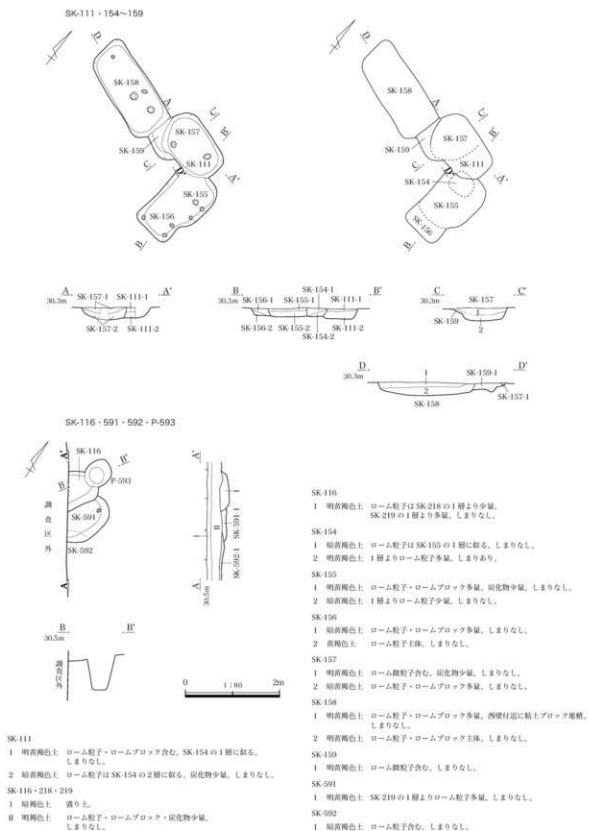
1 明黄褐色土： ローム粒子・ロームブロック多量、しまりなし。

SK-735

1 暗褐色土： ローム粒子・ロームブロック少量、しまりなし。

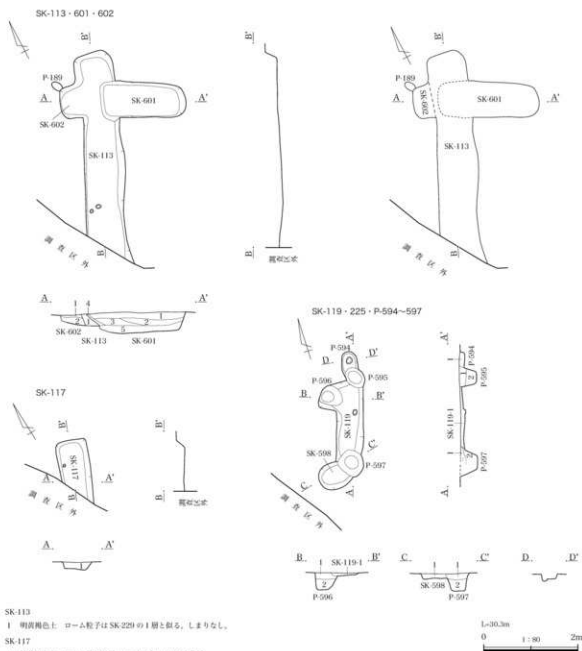
2 暗黄褐色土： ローム粒子・ロームブロック (3.0~5.0cm 大) 多量、しまりなし。

第36図 第108・110・112・115・137~139・735・736号土坑・第145号井戸跡・第140・146~151号ヒット実測図



第37図 第111・116・154～159・591・592号土坑・第593号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-113

1 明褐色土：ローム粒子はSK-229の1層と似る、しまりなし。

SK-117

1 暗褐色土：ローム粒子多量。ロームブロックや少量。

SK-119

1 明褐色土：ロームブロック主体、しまりなし。

P-594

1 暗褐色土：ローム粒子・炭化物含む。

P-595

1 明褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体、しまりなし。

2 暗褐色土：ローム粒子・ロームブロック混じる。1層より少量。

P-596

1 明褐色土：ロームブロック（1.0～2.0m大）含む、しまりなし。

2 暗褐色土：ロームブロックは1層と似る、しまりなし。

P-597

1 明褐色土：ローム微粒子多量、しまりなし。

2 黒褐色土：下にローム粒子多量、しまりなし。

SK-598

1 暗褐色土：ローム粒子・ロームブロック・炭化物含む。
P-224の1層よりローム粒子多量、しまりなし。

SK-601

1 明褐色土：ローム粒子・ロームブロック多量。葉室跡が多い、炭化物含む、しまりなし。

2 明褐色土：ローム粒子・ロームブロック多量。1層よりローム粒子多量。炭化物含む、しまりなし。

3 褐色土：ローム粒子・ロームブロック少量、しまりなし。

4 黄褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体、しまりなし。

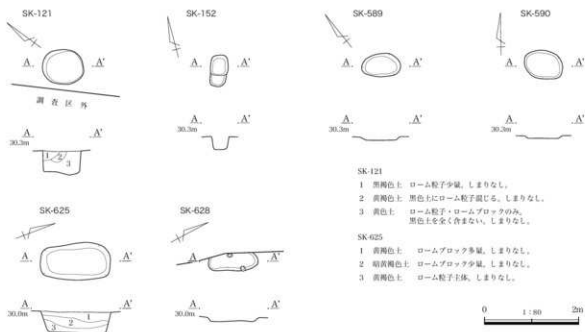
5 暗褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体、しまりなし。

SK-602

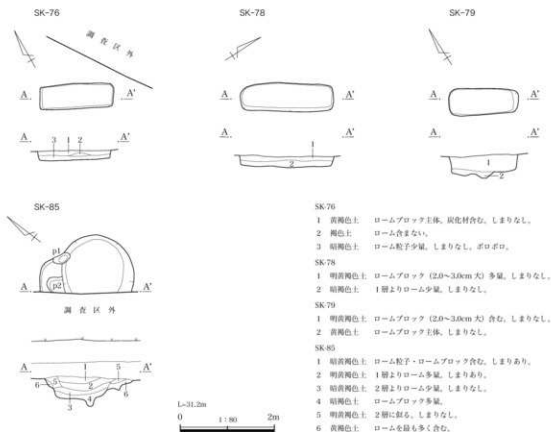
1 明褐色土：ローム粒子・ロームブロック多量、しまりなし。

2 明褐色土：ローム粒子は1層より少量、炭化あり、しまりなし。

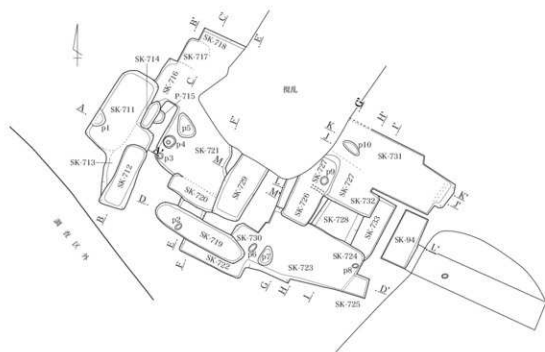
第38図 第113・117・119・598・601・602号土坑・第594～597号ピット実測図



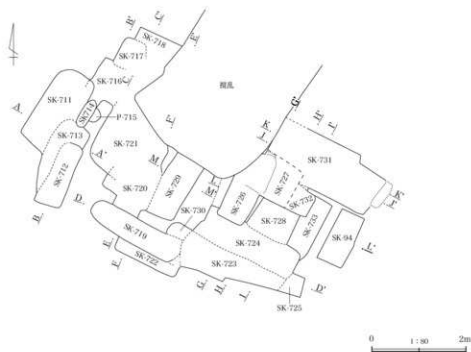
第39図 第121・152・589・590・625・628号土坑実測図



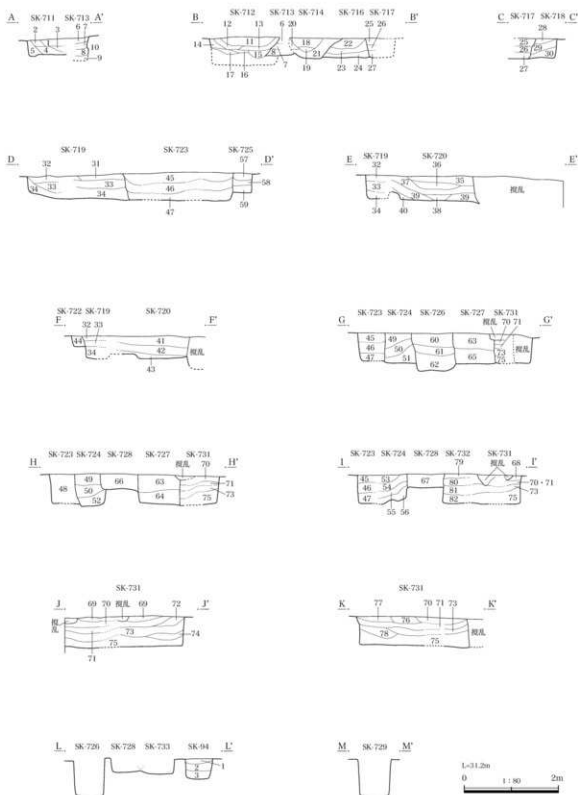
第40図 第76・78・79・85号土坑実測図



第41図 第94・711～714・716～733号土坑・第715号ピット実測図



第42図 第94・711～714・716～733号土坑・第715号ピット重複模式図



第43圖 第94・711～714・716～733号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物

SK-94

- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
- 2 黄褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。
- 3 黄褐色土 1・2層よりロームブロック少量。しまりあり。

SK-711

- 1 暗褐色土 ローム少量。
- 2 暗褐色土 1層よりローム多量。
- 3 暗褐色土 ローム少量。
- 4 褐色土 ローム少量。
- 5 明褐色土 ローム微量。

SK-712

- 11 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック少量。11層より暗色。
- 13 暗褐色土 ロームブロック少量。12層よりローム多量。
- 14 暗褐色土 ローム含まない。しまりなし。
- 15 暗褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 16 明褐色土 17層に似るが、同層より明色。
- 17 明褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。

SK-713

- 6 暗褐色土 ローム含む。
- 7 暗褐色土 ローム含む。
- 8 暗褐色土 ローム含む。
- 9 暗褐色土 ローム主体。硬い。地山の可能性あり。
- 10 黄褐色土 ローム主体。

SK-714

- 18 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 19 暗褐色土 18層よりローム含む。しまりあり。
- 20 暗褐色土 ローム少量。しまりあり。
- 21 明褐色土 ロームブロック主体。しまりあり。

SK-716

- 22 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 23 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 24 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。23層よりしまりなし。

SK-717

- 25 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。
- 26 暗褐色土 25層よりローム少量。
- 27 暗褐色土 ロームは25層と似る。

SK-718

- 28 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 29 明褐色土 28層よりローム粒子多量。しまりあり。
- 30 明褐色土 29層よりローム粒子多量。しまりあり。

SK-719

- 31 明褐色土 32層よりやや暗色。
- 32 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりあり。
- 33 暗褐色土 32層よりローム多量。
- 34 暗褐色土 33層よりローム多量。しまりなし。

SK-720

- 35 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 36 暗褐色土 ローム粒子少量。35層より多量。しまりあり。
- 37 暗褐色土 ローム粒子少量。36層より多量。
- 38 暗褐色土 ローム粒子少量。37層より大粒のローム含む。
- 39 暗褐色土 ロームは38層より多量。
- 40 暗褐色土 ロームは最も少量。しまりあり。
- 41 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む。
- 42 明褐色土 41層より大粒のロームブロック含む。
- 43 暗褐色土 ロームブロック主体。42層より多量。

SK-722

- 44 明褐色土 ローム粒子含む。

SK-723

- 45 明褐色土 ローム微粒子含む。しまりなし。
- 46 暗褐色土 45層よりローム多量。
- 47 暗褐色土 ローム少量。しまりなし。
- 48 明褐色土 ローム少量。

SK-724

- 49 明褐色土 ローム粒子含む。
- 50 暗褐色土 49層よりローム少量。暗色。
- 51 暗褐色土 ロームブロック (2.0~5.0cm 大) 含む。
- 52 暗褐色土 ローム少量。
- 53 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 54 明褐色土 ロームブロック多量。
- 55 暗褐色土 ローム少量。
- 56 暗褐色土 55層よりローム多量。

SK-725

- 57 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 含む。
- 58 明褐色土 57層よりローム多量。
- 59 暗褐色土 58層よりローム多量。しまりなし。

SK-726

- 60 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。しまりあり。
- 61 暗褐色土 60層よりローム少量。
- 62 暗褐色土 ローム極少量。しまりあり。

SK-727

- 63 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。
- 64 暗褐色土 63層より暗色。ロームは同層に似る。しまりなし。
- 65 暗褐色土 大粒のロームブロック含む。63層より少量。

SK-728

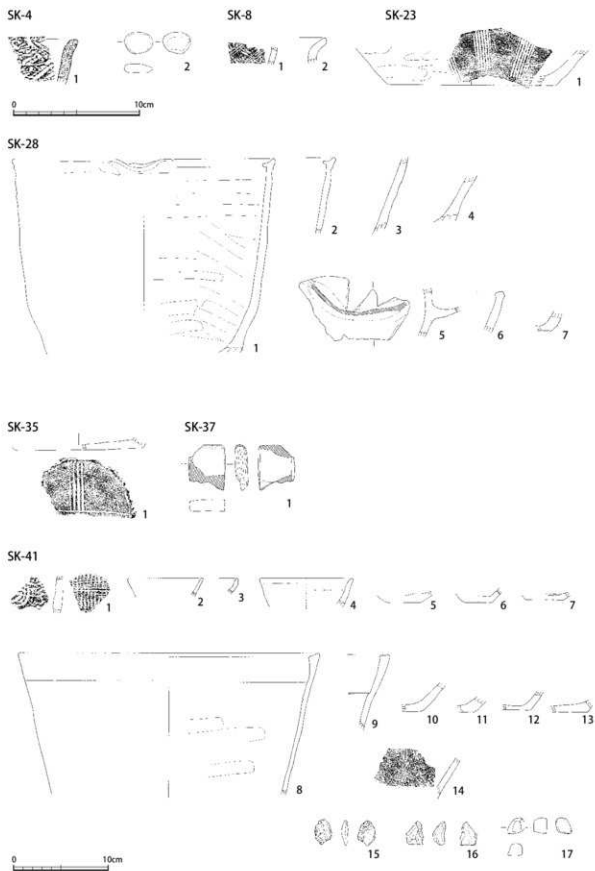
- 66 黄褐色土 ローム多量。この層内では最も多量。
- 67 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック (2.0~5.0cm 大) 含む。

SK-731

- 68 明褐色土 ローム多量。
- 69 明褐色土 ローム少量。
- 70 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 71 暗褐色土 70層より大粒のローム含む。
- 72 暗褐色土 ローム少量。
- 73 暗褐色土 71層よりローム多量。
- 74 暗褐色土 ローム少量。
- 75 暗褐色土 73層よりローム多量。
- 76 暗褐色土 70層よりローム多量。
- 77 明褐色土 ロームは76層と似る。
- 78 褐色土 ロームは73層と似る。

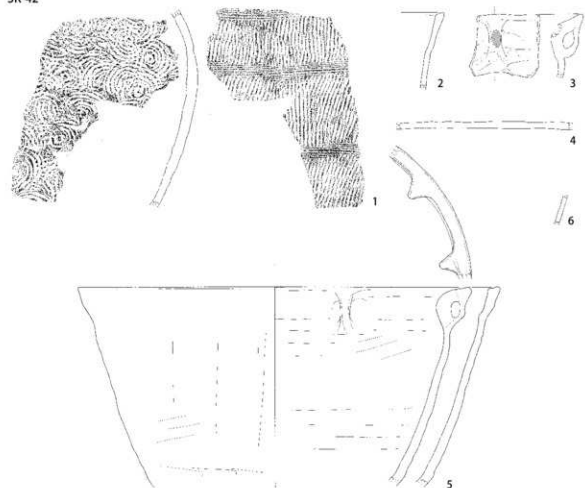
SK-732

- 79 暗褐色土 ローム粒子多量。
- 80 暗褐色土 ロームブロック多量。
- 81 暗褐色土 80層よりローム少量。しまりあり。
- 82 暗褐色土 81層よりローム少量。しまりあり。



第44图 第4・8・23・28・35・37・41号土坑出土物实测图

SK-42



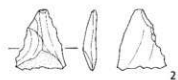
SK-43



SK-44



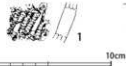
SK-46



SK-47



SK-48



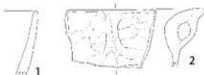
SK-51



SK-54



SK-69



SK-71



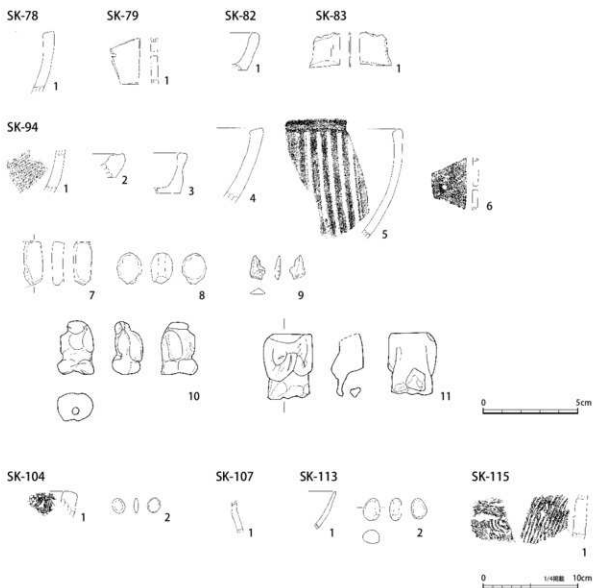
SK-73



SK-75

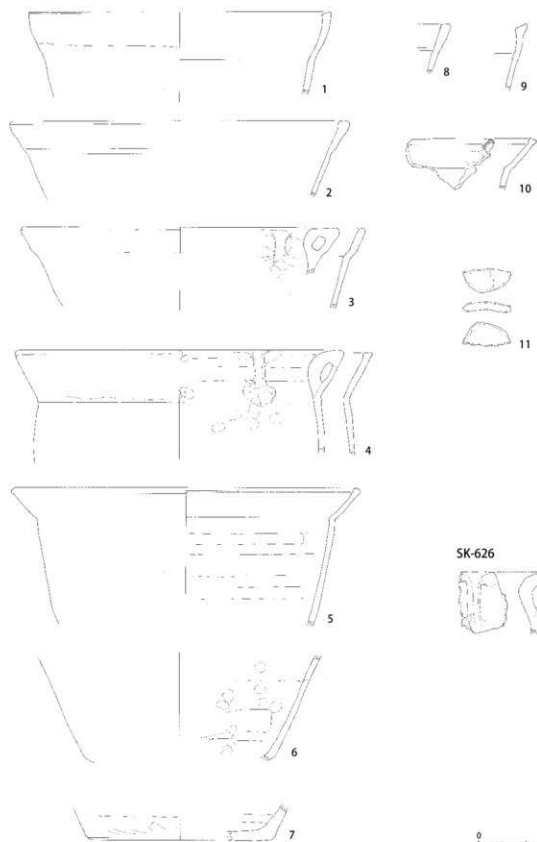


第45図 第42～44・46～48・51・54・69・71・73・75号土坑出土遺物実測図



第46図 第78・79・82・83・94・104・107・113・115号土坑出土遺物実測図

SK-613



SK-626



第 47 図 第 613・626 号土坑出土遺物実測図

0 1/4 10cm

表9 第4号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
2 小瓶	高：2.3 厚：1.9 幅：3.0 重：4.19	長円形鉢。扁平で中央部凹 窪。右側縁縁部は研ぎか	内赤 明黄褐色	灰石・クサイト	ほぼ完整	SK-4

[単位：cm, g]

表10 第8号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
2 土師器 壺・土師 器類	口径：一一 底径：一一 器高：(3.7)	内 口縁部：ココナデ 外 口縁部：ココナデ 下斜方向にナデる	内赤・黄褐色	新築部・土師器 目野：1-2-5 目	小片	SK-9・B No.1

[単位：cm, g]

表11 第23号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師器 膳鉢	口径：一一 底径：一一 器高：(3.5)	内 ナデ 7条半位の横線を斜めに施す 外 胎土は粗粒とし研ぎ ナデ 胎土は粗粒を	内 赤・黄褐色 外 黄褐色	灰質土師A群 目	小片	SK-23 No.1

[単位：cm, g]

表12 第28号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰質土師 鉢類 (口径)	口径：一一 底径：一一 器高：(6.8)	内 ヘラナデ・口縁部：ココナデ 外 ヘラナデ 工具の本口縁部を 口縁部は角形に整形	内 オリーブ褐色 外 灰色	灰質土師C群 目	小片	SK-28
2 灰質土師 鉢類 (口径)	口径：一一 底径：一一 器高：(6.4)	1-412同一個体か	内 赤・黄褐色 外 黄褐色	灰質土師D群 目	小片	SK-28
3 灰質土師 鉢類 (口径)	口径：一一 底径：一一 器高：(6.5)	内 ヘラナデ 外 割傷するか 割傷か	内赤 褐色	灰質土師D群 目	小片	SK-28
4 灰質土師 鉢類 (口径)	口径：一一 底径：一一 器高：(6.5)	内 ヘラナデ 外 割傷を	内 赤・黄褐色 外 赤・黄褐色	灰質土師D群 目	小片	SK-28
5 灰質土師 土師	口径：一一 底径：一一 器高：(3.2)	内 ヘラナデ 外 スズメの付着物除去 ヘラナデか 肥子器古部はヘラナデか 割傷残る 器先部は欠損する	内 赤・黄褐色 外 黄褐色	灰質土師D群 目	小片	SK-28
6 内赤土師	口径：一一 底径：一一 器高：(6.4)	内 口縁部：厚を形成 ヘラナデ 口縁部下2.5cm以下 単色剥離 外 口縁部：スズメ付着 ヘラナデか 同 割傷とみられる1片は土師 同 割傷とみられる1片は土師	内 黄褐色 外 オリーブ褐色	灰質土師C群 目	小片	SK-28
7 内赤土師	口径：一一 底径：一一 器高：(2.6)	内 ヘラナデ 工具の本口縁部を 外 ヘラナデ 研ぎ；スズメ付着 平気気味の底部から両端気味に縁部が立ち上がる 同 割傷とみられる1片は土師	内赤 灰色	灰質土師D群 目	小片	SK-28

[単位：cm, g]

表13 第35号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰質土師 膳鉢	口径：一一 底径：(3.4)	内 器口を文字に染すか 外 器口は染す一部分か	内 黄褐色 外 黄褐色	灰質土師B群 目	小片	SK-35

[単位：cm, g]

表14 第37号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 小瓶 磁器	高：4.8 厚：1.5 幅：3.9 重：35.36	胴・土上縁部の一部・蓋・蓋・足の裏面内分 土師器に剥離 左側は赤黄褐色に染みとみられる赤黄 褐色のみ 右側は黒黄褐色とみられる切縁部が残る	内 オリーブ褐色 外 黄褐色	灰質土 目	小片	SK-37

[単位：cm, g]

表15 第41号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師器 壺・土師 器類	口径：一一 底径：一一 器高：(3.4)	内 同心円状突起 外 平直部	内 灰黄褐色 外 黄褐色	新築部土師A群 目	小片	SK-41
2 土師器土師 小瓶(竹原器)	口径：(2.4)	コナデ成形 胎土は外縁と中心部縁部に立ち上がる	内赤 赤・黄褐色	土師器土師A群 目	小片	SK-41
3 土師器土師 小瓶	口径：一一 底径：一一 器高：(3.9)	コナデ成形 口縁部下1/4で「く」字状に研ぎ、内赤気味に立ち上がる 腹片縁部は底部との接合部	内赤 赤・黄褐色	土師器土師B群 目	小片	SK-41

[単位：cm, g]

第3章 確認された遺構と遺物

[単位: cm, g]						
番号 遺構	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
4 土師瓦土器 小皿	口径: 116.41 底径: 一 器高: 13.61	ロクロ成形。下部は底面に近い部分の内外両面に立ち上がる	内外 濃い黄褐色	土師質土器A群 良	小片	図4-1
5 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 5.6 器高: 11.31	ロクロ成形 底部: 内側に立ち上がる	内外 灰白色	土師質土器A群 良	小片	図4-1
6 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 5.9 器高: 11.41	ロクロ成形 内外両面成形 底部: 中央や外縁を待って立ち上がる	内 浅黄褐色 外 濃い黄褐色	土師質土器A群 良	小片	図4-1
7 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 14.01 器高: 10.81	ロクロ成形 底部 成形	内 浅黄褐色 外 濃い黄褐色	土師質土器A群 良	小片	図4-1
8 西京土器 小皿	口径: 129.41 底径: 一 器高: 18.61	内 口縁部: ココナダ 形造り改良 底部: ココナダ 外 口縁部: ココナダ 底部: ヘラナダ 全面にスス付着	内 緑黄色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	図4-1 遺構とみられる
9 西京土器	口径: 132.01 底径: 一 器高: 135.41	内 口縁部: ココナダ 底部: ヘラナダ 外 口縁部以下は成形せず 口縁部以下にオコウザの付着物	内 緑黄色 外 濃い黄褐色	瓦質土器C群 良	1/8	図4-1
10 西京土器	口径: 一 底径: 一 器高: 13.31	内外両面 成形 外 ヘラナダ 底部 中央や外縁を待てる	内 浅黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	図4-1
11 西京土器	口径: 一 底径: 一 器高: 11.71	内 成形: ヘラナダ 外 ヘラナダ 底部のヘラナダ成形 外 全面にスス付着	内 浅黄褐色 外 濃い黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	図4-1
12 西京土器	口径: 一 底径: 一 器高: 12.61	内外 ヘラナダ 外 オコウザ付着物 底部 成形	内 濃い黄褐色 外 浅黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	図4-1
13 西京土器	口径: 一 底径: 一 器高: 11.41	外 ヘラナダ 底部 成形	内外 緑黄色	瓦質土器C群 良	小片	図4-1
14 瓦質土器 縁鉢	口径: 一 底径: 一 器高: 14.51 径: 2.0 厚: 1.2 幅: 1.6 重: 5.21	器口を縁に以て 器口は10cm以上一単位小	内外 褐色	瓦質土器A群 良	小片	図4-1
17 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: 一	切取による煎煎形。縁部小	表面 濃い黄褐色	灰緑質 良	残存	図4-1

表 16 第 42 号土坑出土遺物観察表

[単位: cm, g]						
番号 遺構	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 硬直煎 壺	口径: 一 底径: 一 器高: 120.31	内 同心円状で両面 外 平行円さ 3段以上のキキ目 (10cm単位小)	内 濃い黄褐色 外 黄褐色	硬直煎、土師質 土師質土器B群 良	鏡片	図4-2 No. 23
2 西京土器	口径: 132.61 底径: 一 器高: 18.21	内 口縁部: ココナダ 底部: ヘラナダ 成形 口縁部下、中央「く」字状の溝 外 底部: ヘラナダ (キキ) → 口縁部: ココナダ	内外 黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	図4-2 No. 24
3 西京土器	口径: 一 底径: 一 器高: 16.91	内 内口縁部: 野ナダ 外 内口縁部以下は: 煎煎形により部付	内 濃い褐色 外 褐色	瓦質土器B群 多量 良	小片	図4-2 No. 26
4 西京土器	口径: 141.41 底径: 一 器高: 121.41	内 底部: ヘラナダ → 口縁部: ココナダ 口縁部下に段差を持つ ココナダは段差まで築かれる 外 口縁部: ココナダ 底部: ヘラナダ (キキ) 底下部 ココ 底縁部 編織の工具でココ 口縁部下、中央「く」字状に煎煎 縁上下を中心にオコウザ付着物 同一個体とみられる1片あり	内 褐色 外 黒褐色	瓦質土器B群 良	1/4	図4-2 No. 27 図4-2-1 図4-2-10
5 西京土器	口径: 一 底径: 一 器高: 16.91 厚さ: 6.9	内 オコウザ付着物 底部 成形 ところどころ円形状の煎煎	内 緑褐色 外 濃い黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	図4-2 No. 22
6 陶器 土師瓦	口径: 一 底径: 一 器高: 13.11	内外両面 成形	内 黄褐色 外 濃い黄褐色	陶器B群 良	小片	図4-2 図4-2 左半

表 17 第 43 号土坑出土遺物観察表

[単位: cm, g]						
番号 遺構	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: 13.71	ロクロ成形 口縁部 内外両面: 煎煎形により赤色変化	内外 濃い黄褐色	土師質土器B群 良	小片	図4-2 図4-3
2 瓦質土器 縁鉢	口径: 一 底径: 一 器高: 12.21	器口を縁に以て 器口は9cm以上一単位小 器口 内側に煎煎形があるがほぼ等距離	内 緑褐色 外 褐色	瓦質土器A群 良	小片	図4-2 図4-2-14

表 18 第 44 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 海部 堂母 壺	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	口縁部：内外面コナテ	内外：二色・黄褐色	海部胎土・C群 Ⅱ	小片	03482 56-44

表 19 第 46 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小瓶か	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	コナテ成形 底面：ヘラ刮りか・磨削あり	内外：黄褐色	土師質土器B群 Ⅱ	小片	03482 56-46

表 20 第 47 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小瓶 (2件共通)	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	コナテ成形 内：スス付痕か	内：黄褐色 外：黄褐色	土師質土器A群 Ⅱ	小片	03482 56-47
2 西耳土器	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	口縁部：コナテ	内外：黄褐色	瓦質土器B群 少量 Ⅱ	小片	03482 56-47

表 21 第 48 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小瓶	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	コナテ成形	内外：二色・黄褐色	土師質土器B群 Ⅱ	小片	03482 56-48

表 22 第 51 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 海部 堂母壺 か	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	内面に泡痕み出る	内：灰色 外：灰白色	海部胎・土師胎 B群・I・Ⅱ	小片	03482 56-51
2 土師質土器 壺	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	内：染指状剥離 外：底面部(ヘラ刮りか)あり	内外：黄褐色	海部胎・土師胎 B群・I・Ⅱ	小片	03482 56-51

表 23 第 54 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 古瀬戸 煎じ壺	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	内：先端内側の工具で削り目を引く 外：素材に染指のたれがみられる 底：磨削痕み出るか	内：黄褐色 外：二色・黄褐色	海部B群	小片	03482 56-54

表 24 第 69 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小瓶	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	コナテ成形 内：内面に毛髪痕 内面：スス付痕	内：灰褐色 外：黄褐色	土師質土器A群 Ⅱ	小片	03482 56-69
2 西耳土器	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	内：口縁部、コナテ 内耳縁部部：割テ 外：内耳縁部部部：磨滅	内：黄褐色 外：褐色	瓦質土器B群 多量 Ⅱ	1/3以下	03482 56-69

表 25 第 71 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 海部 古瀬戸 煎じ壺 か	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	コナテ成形 内：灰緑を染平 外：体部灰緑、底下部染緑なし・ツツケ痕み 内一外：中位：灰緑	内外：黄褐色	海部胎土B群 中々層	小片	56-71-1 古瀬戸中瀬戸煎じ壺

表 26 第 73 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土師質土器か 平皿	口径：一 底径：一 器高：(A,B)	内外面：磨滅 口唇部：肥厚	内外：褐色	土師質土器C群 Ⅱ	小片	03482 56-73

第3章 確認された遺構と遺物

表 27 第 75 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 内瓦土器	口径：— 底径：— 器高：18.31	内外面 磨蝕 口縁部：ヘラナゲカ	内 白 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	09K2 SK-75

表 28 第 78 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 磁器 染付 皿	口径：— 底径：— 器高：13.11	手取跡カ 内 夏島小に五弁花文 外 菊花文カ	内 灰白色 外 黒青	磁器粘土胎 良	小片	SK-78 1777中期以降小

表 29 第 79 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 内瓦土器	口径：— 底径：— 器高：18.81	内面化粧茶 内面木付茶 小孔は埋め残カ 残存する孔周囲に欠損等なし	内 白 外 赤褐色	瓦質土器C群 良	小片	09K2 SK-79

表 30 第 82 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 瓦質土器 煎餅カ	口径：— 底径：— 器高：11.07	内外面 ココナゲカ	内 灰オリーブ色 外 灰色	瓦質土器A群 良	小片	09K2 SK-82

表 31 第 83 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 石製品 鏡カ	長：3.7 厚：0.1 幅：3.3 重：3.96	面 左面ののみ残存	内 灰色	粘板岩 良	小片	09K2 SK-83

表 32 第 94 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 磁器器 壺	口径：— 底径：— 器高：13.71	内 自然釉カ 外 草行短カ 部分的に自然釉カ	内 灰オリーブ色 外 緑褐色	灰蒸器・土器器 白群1-2-6	小片	09K2 SK-94 1177
2 瓦質土器 磁器 器	口径：— 底径：— 器高：12.53	内外面 磨蝕 赤色変化及び器表面 剥離 焼跡カ	内 緑褐色 外 赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	09K2 SK-94
3 土師瓦土器 煎餅カ	口径：— 底径：— 器高：14.31	内外面 ココナゲ	内 白 外 白	瓦質土器C群 良	小片	09K2 SK-94 1177
4 瓦質土器 土師カ	口径：— 底径：— 器高：17.91	内外面 口縁部：ココナゲ 條部：ヘラナゲ(タテ)	内 赤褐色 外 赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	09K2 SK-94
5 瓦質土器 土師カ	口径：— 底径：— 器高：11.43	内 手轆竹管加工でテケ方向に加工 外 口縁部：ココナゲ 條部：ヘラナゲカ(タテ)	内 緑褐色 外 赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	09K2 SK-94
6 内瓦土器	口径：— 底径：— 器高：18.61	煎餅平群 埋め残カ 赤丸跡の跡部はみられるが計った欠損なし	内 白 外 白	瓦質土器C群 良	小片	09K2 SK-94
7 瓦質土器カ	長：4.7 厚：1.3 幅：2.9 重：13.37	砥石製用カ 上下端 片側側面研磨 器底の厚さカの跡部カ	内 赤褐色 外 赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	09K2 SK-94 1177
8 小皿 平皿	長：3.3 厚：2.3 幅：2.9 重：23.23	部分的に欠損するが表面は埋め残カ	内 緑色 外 白	磁器器 良	完好	09K2 SK-94 1177
10 染付カ 壺	長：2.8 厚：1.6 幅：1.9 重：5.54	砥石製用カ 磨蝕 径6.3cm程の輪をカに付製カ	赤黄 緑褐色 良	磁器 良	ほぼ完好	09K2 SK-94
11 磁器器 煎餅	長：3.5 厚：1.7 幅：2.6 重：16.18	釜縁カ 腹中心部から背面中心に貫通孔 背面貫通孔下 磁器底のカコナゲカ	内 赤褐色 外 赤褐色	磁器器 良	ほぼ完好	SK-94 トロンテ 泥・覆代カカ

表 33 第 104 号土坑出土遺物観察表

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	存在 状況	備考
1 陶輪小 底高：(5.4)	口径：一 底径：一 底高：(5.4)	内 ヘナダ 外 ヘナダ	内 赤褐色 外 褐色	白色胎土 貝	小片	05402 SK-104
2 石製品 蓋石か	長：1.6 厚：0.4 幅：1.4 重：1.19	扁平で底面を削つ	内赤 緑褐色	灰質 貝	発見	05402 SK-104

表 34 第 107 号土坑出土遺物観察表

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	存在 状況	備考
1 土師器 小壺形 底高：(5.4)	口径：一 底径：一 底高：(5.4)	内 口縁部：ヨコナダ 底部：ヘナダ (2コ) 外 口縁部：ヨコナダ 底部：ヘナダ (2コ)	内赤 赤褐色	灰質胎土 貝	小片	05402 SK-107

表 35 第 113 号土坑出土遺物観察表

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	存在 状況	備考
1 土師器土師 小壺 底高：(4.0)	口径：一 底径：一 底高：(4.0)	口縁部成形	内赤 赤褐色	土師器土師A群 胎土	小片	05402 SK-113a
2 小壺	長：2.4 厚：1.3 幅：1.7 重：4.35	長方形の小壺 表面 黒褐色 器口土 黒山緑-14に似る	赤褐色 赤褐色	スコリア質山岳胎土	発見	05402 SK-113a

表 36 第 115 号土坑出土遺物観察表

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	存在 状況	備考
1 赤褐色 壺 底高：(4.0)	口径：一 底径：一 底高：(4.0)	内 同色の赤褐色 外 平均厚	内 内面に赤褐色 外 灰色	灰質胎土 貝	小片	05402 SK-115

表 37 第 613 号土坑出土遺物観察表

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	存在 状況	備考
1 内耳土師	口径：一 底径：一 底高：(5.5)	内 口縁部：ヨコナダ 底部：黒山 口縁部下：わずかに厚くなり足縁が凸る	内 内面に赤褐色 外 赤褐色	灰質土師C群 胎土	小片	SK-42-1
2 内耳土師	口径：(10.4) 底径：一 底高：(5.4)	内 口縁部：ヨコナダ 底部：ヘナダ 口縁部の割線	内赤 赤褐色	灰質土師C群 胎土	小片	SK-42-4
3 内耳土師	口径：(10.4) 底径：一 底高：(5.4)	内 ヘナダ 口縁部下：受口状の溝 割線 外 ヘナダ	内 赤褐色 外 赤褐色	灰質土師C群 胎土	少量 1/5以下	SK-42-9
4 内耳土師	口径：(10.4) 底径：一 底高：(5.4)	口縁部：オコグ付付着物跡 内 口縁部：ヨコナダ 底部：黒山 外 口縁部：ヨコナダ 口縁一部：オコグ付付着物跡	内 内面に赤褐色 外 赤褐色	灰質土師C群 胎土	少量 1/5以下	SK-42 No.13
5 内耳土師	口径：(10.4) 底径：一 底高：(5.4)	内 口縁部：ヨコナダ 底部：ヘナダ 内耳縁部合流部 割線 外 底部：ヘナダ 口縁部：ヨコナダ 口縁部下：「C」字状に凸る	内 オリーブ褐色 外 内面に赤褐色	灰質土師C群 胎土	少量 1/5以下	SK-42-1 2
6 内耳土師	口径：(14.4) 底径：一 底高：(14.3)	内 口縁部：ヨコナダ 底部：内耳縁部合流部 割線 外 口縁部：ヨコナダ 「C」字状に凸る 内耳：丸縁を帯びる 底部：黒山 口縁部の割線で内耳が結合	内 褐色 外 内面に赤褐色	灰質土師C群 胎土	小片	SK-42-5
7 内耳土師	口径：(16.4) 底径：一 底高：(16.4)	内 口縁部：ヘナダ 口縁部下：厚くし足縁が凸る	内 赤褐色 外 赤褐色	灰質土師C群 胎土	小片	SK-42-4 No.12 SK-240 9と同-10
8 内耳土師	口径：一 底径：一 底高：(5.7)	内 内耳土師 上部：黒山の凸る 口縁部：黒山 底部：ヘナダ 内耳縁部合流部 割線 口縁部下：「C」字状に凸る 内耳縁部 外 口縁部：ヘナダ 口縁部：ヘナダ オコグ付付着物	内 褐色 外 赤褐色	灰質土師C群 胎土	小片	SK-42-10

第3章 確認された遺構と遺物

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	保存 状況	備考
9 内耳土器	口径：一 底径：一 器高：11.23	内 ヘウナダ 断面縦向き 底周部：スズに彩紋有る 外 ヘウナダが、オコゾが付着物	内 黄灰色 外 黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42-7
10 内耳土器	口径：一 底径：116.41 器高：9.31	内 縦溝 外 ヘウナダ 底周部は輪郭の工具使用 ヘウナダ明瞭 底面：平底	内 黄褐色 外 赤い黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK42 SK-42 No. 11
11 石製品 煎餅敷小	長：5.1 厚：1.1 幅：2.5 重：17.15	丸の形跡は不詳 上面は手盛表面割落 両側部は平底 下面は中凹溝 断面凹状	内 緑灰色 外 黄褐色	砂質 良	1/2	SK42 SK-42-7

表 38 第 626 号土坑出土遺物観察表

番号 記号	寸法	特徴	色調	胎土 構成	保存 状況	備考
9 内耳土器	口径：一 底径：一 器高：11.23	内 内耳器合部：胎土が 断面は特巧で仕上げの痕跡薄い 外 内耳器合部凹状 オコゾが付着物	内外 黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-34b

が確認される。帰属等詳細は不明である。p 1 は、SK-739 底面の東西約 0.1 m・南北約 0.08 mで、SK-739 底面からの深さ約 0.02 m、底面レベル 31.04 mである。SK-366 底面からの深さが浅いことから、周辺に位置する P-740～744 同様、別遺構の可能性が考えられる。遺物出土状況 覆土中から 2 片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロケ成形の土師質土器小皿口縁部片 1 片、内耳土器口縁部片 1 片である。内耳土器の胎土は瓦質土器 C 群である。

5. 井戸跡

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は 13 基である。

I 区からは SE-26・27・30・100・143 の 5 基が確認される。

SE-100 については、現地調査時の所見に従い本節に記載したが、底面が確認されていることや、湧水等がみられないことから、井戸跡以外の遺構である可能性も残る。井戸跡であれば、北西約 1.5 m に位置する地下式坑 SK-106 との関連が考慮される。

II 区からは SE-118・145・603・604 の 4 基、III -2 区からは SE-87・92・93 の 3 基、III -3 区からは SE-77 の 1 基が確認される。

SE-100 以外は、湧水、及び、作業の安全のため、掘削を中止した。

湧水のため掘削を中止した井戸跡及び湧水レベルは、I 区 SE-26：29.25 m・SE-27：29.25 m・SE-30：29.25 m、II 区 SE-118：29.84 m・SE-231：29.4 m、III -2 区 SE-93：29.3 mである。概ね 28.3 m 前後が湧水レベルとみられる。

作業の安全のため掘削を中止した井戸跡および掘削中止レベルは、I 区 SE-143：29.15 m、II 区 SE-145：29.2 m、III -2 区：SE-92：29.35 m、III -3 区 SE-77：29.35 mである。

遺物の出土は SE-92・93 などに確認される。縄文土器、内耳土器、磁石、陶磁器などであり、出土量は僅少である。陶磁器の中には近・現代と判断される破片もあり、時間幅は大きい。

SE-603・604 は SK-24 重複部から遺物が出土しており、出土遺物は SK-24 に記載する。

(2) 井戸跡

第26号井戸跡 (SE-26) (第48図 図版七)

位置 II区 R-17・18 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 1.05 m前後である。**底面** 湧水のため掘削を中止した。遺構確認面からの深さ約 0.88 m、図中破線で示したレベル 29.25 m付近が湧水レベルである。**覆土** 5層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第27号井戸跡 (SE-27) (第48図)

位置 II区 Q-18 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 1.0 m前後である。**底面** 湧水のため掘削を中止した。遺構確認面からの深さ約 0.78 m、図中破線で示したレベル 29.25 m付近が湧水レベルである。**覆土** 7層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第30号井戸跡 (SE-30) (第48図)

位置 II区 Q-17 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 0.64 m前後である。**底面** 湧水のため掘削を中止した。遺構確認面からの深さ約 0.78 m、図中破線で示したレベル 29.25 m付近が湧水レベルである。**覆土** 5層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第77号井戸跡 (SE-77) (第48・49図 表39 図版一四)

位置 III-3区 L-11 グリッドに位置する。東側は調査区外に位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。遺構確認面の規模は径 [0.9] m、井筒 [0.65] m である。**底面** 表土下約 1.7 m、遺構確認面下約 1.45 m、レベル 29.35 m付近で掘削を中止した。**覆土** 6層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 1は天目茶碗である。2は石臼である。上白か。

第87号井戸跡 (SE-87) (第17図 図版七)

位置 III-2区 N-12 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。p1・2は別遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 0.83 m前後である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 0.9 m、図中破線で示したレベル 29.3 m付近で掘削を中止した。**覆土** 6層を確認した。3層は黄白色粘土が堆積する。**付属施設** p1・2が確認される。帰属等不詳である。p1は3層が堆積する。本遺構に伴うか。p2は浅く不整形であり、掘り過ぎ等の可能性も残る。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは、p1は約 0.23 m・約 0.2 m・29.95 m、p2は約 0.38 m・約 0.12 m・30.02 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第92号井戸跡 (SE-92) (第17・49図 表40)

位置 III-2区 N-12 グリッドに位置する。**重複関係** SK-705 (地下式坑) より新しい。SK-95とは不明である。北側は溝状の掘り込みに切られる。SE-93-1~4層が本遺構覆土とすれば、SE-92より新しい。

形状・規模・主軸 井筒は円形状とみられる。土層断面にみえる最上部はレベル 30.5 m付近であり、幅約 (2.0) m、井筒上端部の径はレベル約 30.0 m付近で約 1.08 mである。SE-93-1~4層が本遺構覆土とすれば、現状の最大径は、SE-93-1・2層まで (2.0) m、SE-93-3・4層まで (1.5) mである。**底面** 表土下約 1.2 m、遺構確認面からの深さ約 0.8 m、図中破線で示したレベル 29.35 m付近で掘削を中止した。

覆土 19~26層を確認した。19・20層はロームを主体とする黄褐色土である。**遺物出土状況** 覆土

中から4点が出土する。

出土遺物 1は砥石である。使い減り後破損或いは破砕後、金属器等の研磨用に転用か。

この他、図示し得なかった出土遺物は土師器壺類とみられる微細片1片、摺鉢微細片1片、磁器1片である。磁器は灰軸を内外面に施す体部微細片である。貫入が顕著。時期・産地等詳細は不明である。

第93号井戸跡 (SE-93) (第17・49図 表41 図版七・一四)

位置 III-2区N-13グリッドに位置する。**重複関係** SK-704より古い。覆土1~4層がSE-92に伴うとすれば、SE-92より古い。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径0.9m前後である。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.8m、図中破線で示したレベル29.3m付近で掘削を中止した。底面には水分が滲む。**覆土** 1~6層を確認した。1~4層はSE-92覆土の可能性が考えられる。4層下面のレベル30.0m付近はSE-92井筒上端部のレベルと同レベルである。5・6層は本遺構覆土と判断できる。5層は粘性のある黄白色のロームを主体とし、1.0~2.0cmほどの厚さの黒褐色土の6層を挟んで堆積する。

遺物出土状況 覆土中から7点が出土する。

出土遺物 1・2は内耳土器。器高は浅いか。3は土鍾か。

この他、図示し得なかったが、縄文土器1片、内耳土器1片、陶磁器2片が出土する。縄文土器は口縁部に列点が沿い、列点下部に帯状区画とみられる辻線が巡る小片である。称名寺式か。内耳土器は口縁部小片であり、胎土は瓦質土器D群である。陶磁器は、鉄軸を施す瓶類微細片1片、灰白色軸で連続文を施す高台付きの碗類とみられる1片である。近・現代か。

第100号井戸跡 (SE-100) (第48図)

位置 I区T-21グリッドに位置する。北西約1.6mに地下式坑SK-106が位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南半部は調査区外に延びるが、井筒は円形状であろうか。底面の規模は、径約(1.18)mである。**底面** ロームを掘り込む。深さ約0.6m・レベル約29.00mである。**覆土** 3層を確認した。上層に粘土ブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第118号井戸跡 (SE-118) (第48図 図版七)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 西側は調査区外に延びるが井筒は円形状とみられる。遺構確認面の規模は、径1.05m前後である。**底面** 湧水のため、遺構確認面からの深さ約1.15mで掘削を中止した。図中破線で示したレベル28.94m付近が湧水レベルである。**覆土** 10層を確認した。1・2・4層は掘り直し等の堆積か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第143号井戸跡 (SE-143) (第50図)

位置 I区S-19グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、東西約0.92m・南北約1.02mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル29.15m付近で掘削を中止した。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第145号井戸跡 (SE-145) (第36図 図版七)

位置 II区R-18グリッドに位置する。**重複関係** SK-110より新しい。P-147と西側が接するが新旧関係は不明である。遺構上部は、北側を掘乱溝、東側に一部をSK-110によって失う。重複関係にはないが、周囲にはP-146~151が位置する。明確なビットではなく、本遺構との関連も判然としませんが、西半部に沿う位置にあり、付記する。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。遺構確認面の規模は径[0.9]mで

ある。底面 遺構確認面からの深さ約0.8m、図中破線で示したレベル29.2m付近で掘削を中止した。

覆土 6層分を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第566号井戸跡 (SE-566) (第48図)

位置 Ⅰ区S-21グリッドに位置する。周辺に遺構は少なく、Ⅰ区・Ⅱ区の遺構密集部の中間部にあたる。Ⅰ区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。底面の規模は、東西約0.9m・南北約0.78mである。**底面** 29.0m付近で湧水のため掘り下げを中止した。

覆土 3層分を確認した。1・2層はロームブロック、粘土ブロックを主体とする。周辺の視乱の盛り土層か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第603号井戸 (SE-603) (第20図)

位置 Ⅱ区Q-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-24より新しい。SE-604とは重複関係を含め不詳である。**形状・規模・主軸** 東側が調査区外にあり、詳細は不明である。段をもって内側に膨らむSK-24東壁は、本遺構に起因する可能性も捨て切れない。平面形は方形であり、規模は、東西(1.0)m・南北(0.8)mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約1.0m、図中破線で示したレベル29.1m付近で掘削を中止した。

覆土 8層分を確認した。2層は黄白色粘土を主体とする。SK-24・6～9層は本遺構覆土である可能性も残り、帰属は判然としない。現地調査では、9層はSK-24天井部の崩落層との所見がある。**遺物出土状況** SK-24、及び、SE-603、SE-604を含む覆土中から21片が出土する。SK-24に記載する。

第604号井戸 (SE-604) (第20図)

位置 Ⅱ区Q-16・17グリッドに位置する。**重複関係** 判然としないが、SK-24・SE-603より古い。

形状・規模・主軸 井筒は円形状であり、規模は、東西約0.9m・南北約1.0mである。**底面** 湧水のため、遺構確認面からの深さ約0.7m、図中破線で示したレベル29.4m付近で掘削を中止した。**覆土** 5層分を確認した。2層は黄白色粘土を主体とする。全体的にしまりなし。SK-24・6～9層は本遺構覆土である可能性も残り、帰属は判然としない。現地調査では、9層はSK-24天井部の崩落層との所見がある。**遺物出土状況** SK-24、及び、SE-603、SE-604を含む覆土中から21片が出土する。SK-24に記載する。

6. 溝状遺構

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は7条である。

Ⅱ区からはSD-19・21、Ⅲ-Ⅰ区からはSD-64・72・633・642、Ⅲ-Ⅱ区からはSD-89が確認される。何れも調査区外に延び、確認し得たには遺構の一部である。

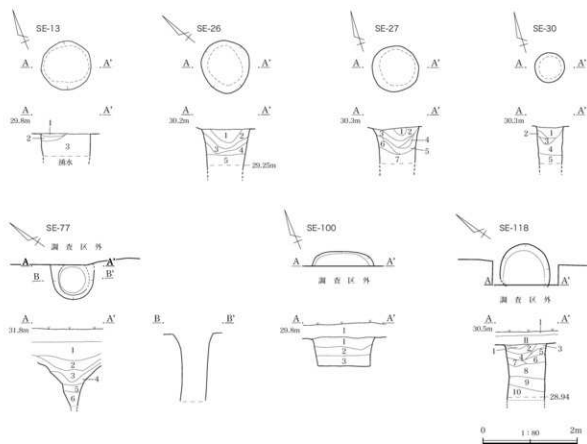
SD-19は3次調査A区SD-19に繋がるものと判断される。

SD-21については、東側が立ち上がる。調査区東端部に近く、土橋状となり更に東側へ連続するか、遺構端部であるか、明確ではない。

遺構の主軸は、SD-19・64・72・89・633の北東-南西方向に延びる溝状遺構と、SD-21・642の概ね東西に延びる溝状遺構とに大別される。SD-19・21の重複関係から明らかのように、2方向の主軸は概ね直交する。また、SD-19・21は群在する長方形土坑群と同様の主軸である点、留意される。

底面の傾斜をみると、明確な傾斜が観察されるのはSD-19(南→北)のみである。SD-64・89・642のように、傾斜は確認されるものの僅かな高低差であるもの、溝長が短いもの、SD-21・633のように傾斜が観察されないものが主体をなす。SD-19についても、調査区外の状況は計り知れない。

第3章 確認された遺構と遺物



SE-13

- 1 黄褐色土 ローム土。硬くしめる。粘性なし。周辺の掘戻土。
- 2 明褐色土砂質土 粘土と砂の混合層。しまりなし。粘性なし。
- 3 明褐色土 ローム粒子多量。灰色粘土粒子少量。しまりあり。粘性中あり。

SE-26

- 1 明褐色土 ローム酸粒子含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土 1層よりローム多量。しまりなし。
- 3 暗褐色土 2層よりローム粒子多量。しまりなし。
- 4 黄褐色土 ローム土体。粘土粒子少々。
- 5 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。

SE-27

- 1 黒褐色土 ローム粒子 (0.5~1.0cm 大) 含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 1層と同様のローム粒子・炭化物含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子 (0.5~1.0cm 大) 含む。1・2層より明色。しまりなし。
- 4 暗褐色土 大きいローム粒子含む。しまりなし。
- 5 黄褐色土 ローム粒子主体。
- 6 黄褐色土 ローム粒子主体。5層より明色。
- 7 明褐色土 ロームあまり含まない。しまりなし。

SE-30

- 1 暗褐色土 ローム少量。しまりなし。
- 2 明褐色土 ローム多量。しまりなし。
- 3 暗褐色土 ローム少量。しまりなし。
- 4 明褐色土 ロームほとんど含まず。しまりなし。
- 5 暗褐色土 ロームほとんど含まず。しまりなし。

SE-77

- 1 暗褐色土 塵土・粘土粒子等含む。
- 2 暗褐色土 塵土・粘土粒子等含む。1層より少量。
- 3 暗褐色土 塵土・粘土粒子等含む。2層より多量。
- 4 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 5 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
- 6 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。

SE-100

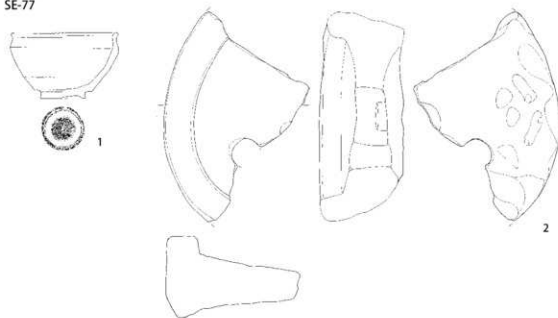
- 1 明褐色土 ローム粒子多量。耕作土。ローム層平後。著土。しまりなし。
- 1 灰褐色土 上部にロームブロック。下部に粘土ブロック含む。硬くしめる。
- 2 黄褐色土 ロームブロック多量。粘土ブロック少量。しまりあり。
- 3 黄褐色土 ロームブロック主体。粘土は含まない。しまりあり。

SE-118

- 1 暗褐色土 表土・盛り土。
- 2 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量。しまりなし。
- 1 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。
- 3 暗褐色土 まだら状にローム粒子含む。しまりなし。
- 4 黒褐色土 2層より黒色。粘土粒子少量。しまりなし。
- 5 暗褐色土 3層に似るがローム粒子多量。しまりなし。
- 6 黒褐色土 粘土ブロック含む。しまりなし。
- 7 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量。しまりなし。
- 8 暗褐色土 粘土ブロック含む。ここが最も多い。
- 9 黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量。
- 10 暗褐色土 9層よりローム粒子多量。この層で掘水。

第28図 第26・27・30・77・100・118・566号井戸跡実測図

SE-77



SE-92



SE-93



0 10cm

第49図 第77・92・93号井戸跡出土遺物実測図

表39 第77号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	出土 状況	保存 状況	備考
1 陶器 文付茶碗	口径：11.2 底径：4.4 器高：6.9	口寸口成形 内：鉄軸車輪子 外：口一箇下位鉄軸。器下位層線。底割部より出。	内：茶褐色 底：黒	陶器跡土台型 中心線型	1/2残存	SE-77 実態系(1)
2 石臼	長：22.4 厚：9.6 幅：15.5 重：2287.30	上臼石 上面に肥料鉄軸孔（径13.0cm）。 下面中央部に軸受（径13.0cm）跡のみ	内：緑灰色 外：黄灰色	解石空山型 石	1/3	05182 SE-77

表 40 第 92 号井戸跡出土遺物観察表

番号 遺構	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 破石	長：8.4 厚：2.1 幅：2.9 重：30.65	両面凹凸状 図 上：表裏・左右の4面が粗面 残存する土3cmの幅は使用の結果の大きさ 図 上：左側面の凹凸は本遺物取壊後につけられたものか 表面右側・裏面左側に土質との痕跡あり	内 暗灰褐色 外 黄褐色	灰泥質 良	摩滅時使用 状態か	09A02 08-07

表 41 第 93 号井戸跡出土遺物観察表

番号 遺構	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 内瓦土器	口径：一 底径：一 器高：5.7	内 ヘクサゲ 内耳縁台座：わずかに割ナゲ 外 オコガ付着	内 暗褐色 外 黄色	瓦質土器に群	小片	09A02
2 内瓦土器	口径：一 底径：一 器高：13.43	内 割ナゲ 外 オコガ付着物	内 濃い褐色 外 褐色	瓦質土器に群	小片	09A02 08-03
3 土埴	長：6.8 幅：2.0 重：18.45	丸縁 ヘクサゲ（クワ）か 乳縁は図・上 下縁より上縁が広い・ 口縁はやや三角形状	内 黄褐色	白色粘土台付 良	ほぼ完好	09A02 08-03

SD-21については、遺構内に、深さ60cmを超える小ピットが穿たれる。特に、p 9・10、p 14・15、p 16・17は、深さ60cmを超えるピットが溝状遺構中段部を挟む位置にある。付属施設の設定等に関わるピットも想定が可能であろう。

出土遺物は、各遺構とも総じて少なく、小片が多い。SD-21は2次調査・3次調査の遺構の中で最も多い137点が出土するが、SD-21を切る攪乱内の遺物を含む。SD-21と重複するSD-19と併せ、縄文時代～近・現代とみられる遺物の出土が観察される。SD-19から出土する2点の銭貨も「元豊通宝」とニッケル硬貨「一銭」である。各遺構とも埋没等に伴う混入である可能性が高く、遺構への帰属は判然としにくい。

(2) 溝状遺構

第 19 号溝状遺構 (SD-19) (第 50・51・53・114 図 表 89・91・94 図版八・一三・一六)

位置 II区 S-18・19 グリッドを概ね南北に延びる。**重複関係** SD-21・SK-142・144より新しい。SE-143との新旧関係は不明である。**形状** 南・北側は調査区外に延びる。断面形状は「V」字状であるが壁面に段を有する。**規模・主軸** 長さ(9.3)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、SK-142重複部南側約1.4m・SP-B付近約0.96m・調査区北端部付近約1.65m、中段部の溝幅は、調査区南端部付近約0.9m・SP-B付近約0.62m・SK-142重複部南側付近約1.2mであり、幅には狭い広いがみられる。中段部の遺構確認面からの深さ、底面までの深さは各所で区々である。遺構確認面からの深さ・レベルは、SD-21重複部北側付近約0.2m・29.8m、SP-B付近約0.12m・29.88m、SK-142重複部南側約0.34m・29.66mである。主軸はSD-21南側N-40°・E、SD-21北側N-26°・Eである。**底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さ・レベルは、調査区南端部付近約0.29m・29.706m、SD-21重複部南側付近約0.42m・29.578m、SD-21重複部北側付近約0.46m・29.543m、SP-B付近約0.6m・29.4m、SK-142重複部南側付近約0.8m・29.2mであり、南側から北側に向けた傾斜が認められる。**覆土** 19層を確認した。1～5層はSP-A、6～12層はSP-B、13～19層はSP-Cで観察される。第一次堆積土は19層とみられる。1層・6層・13層、2層・9層、3層・10層、4層・11層、5層・12層・18層は相互に対応するか。3・4層と7層は不自然ともみえる層序であり、掘り直し等を考慮すべきか。**付属施設** 遺構内には2穴の小ピットが確認されたが、帰属・埋没の新旧関係等は不明であり、便宜的に本遺構内での番号を付す。SD-19に沿って、ピット状の凹凸が確認されるが、p 1・2以外は判然とせず、図示しなかった。p 1は東

西約0.7m・南北約0.24m・遺構確認面からの深さ約0.358m・底面レベル29.642m、p2は東西約0.36m・南北約0.26m・遺構確認面からの深さ約0.332m・底面レベル29.668mである。遺物出土状況 覆土中から50点が出土する。土器類22点、粘土塊1片、石製品19点、陶磁器類3点、銅製品1片、銭貨2点、鉄滓2片、である。

出土遺物 1は須恵器底部。壺類か。回転系切りの外縁が磨滅しており、高台が欠落した可能性も残る。2は土師質土器小皿。3は内耳土器口縁部片。補修孔とみられる小孔を穿つ。4～6は播鉢。異個体とみられる。7は平滑な粘土塊。8は磨石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土師質土器小皿2片、内耳土器5片、瓦質土器3片、器種不明2片、土器微細片4片である。

内耳土器の胎土は瓦質土器C類2片・D類3片である。瓦質土器は口縁部2片・体部1片である。胎土はC類である。内耳土器か。器種不明の1片は甕類体部1片、焙烙等体部1片である。

石は緑色凝灰岩片18片が出土する。板碑片か。

陶器は、甕類口縁部1片、播鉢体部1片、器種不明1片である。

甕類口縁部は胎色軸がかかる。常滑産か。播鉢は全面に摺り目か。器種不明の1片は内外面に胎軸を施すか。

銅製品は垂飾品か。銭貨のうち1点は5片に破断するが「元豊通宝」か。一点はニッケル硬貨「一銭」である。表89に記載する。鉄滓は表91に記載する。

第21号溝状遺構 (SD-21) (第50・51・53・54・55図 表42・44 図版八・一四)

位置 II区P～S-18グリッドを概ね東西に延びる。重複関係 SD-19より古い。SK-138との新旧関係は不明である。

形状 西側は調査区外に延びる。東側は立ち上がりが確認されるが、調査区東端部に近く、遺構が連続するかは不明である。また、延長線上に位置するSK-32との関連も不詳である。断面形状は「V」字状であるか壁面に段を有する。p23以東は攪乱により、中段部以上の覆土・形状は失われる。東端部の遺構立ち上がり部分についても同様の状況であるが、土層断面からは、辛うじて、本来の立ち上がりラインが残るか。

規模・主軸 長さ(27.5)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、西側端部約1.8m・SD-19東側付近約1.72m・SP-A付近約1.8m・p14付近約2.22m・p16付近約2.05m・SP-B付近約2.05m・p21付近約2.2m・p23付近約2.2m・東端部約2.0mである。p23以東については、攪乱穴によって原形状は失われているものとみられるが、西側から東側(立ち上がり部分)にむけて、幅が広がる形状である可能性も考え得る。中段部の溝幅は、西側端部約0.96m・SD-19東側付近約0.72m・SP-A付近約0.74m・p14付近約0.74m・p16付近約0.82m・SP-B付近約0.75m・p21付近約0.8m・p23付近約0.95m・東端部約0.95mである。また、中段部のレベルは29.38m前後であり、遺構確認面から深さ0.65m前後、底面までの深さ0.25m前後である。p23以東については、攪乱の影響は少ないと判断され、西側から東側へ幅の広がる形状か。主軸はN-71°-Wである。

底面 ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦であるが、1.0～5.8cmの凹凸が認められる。浅深の最大差は約8.0cmである。遺構確認面からの深さは0.9m前後である。底面のレベルは、西側端部約29.084m・SD-19東側付近約29.048m・SP-A付近約29.058m・p14付近約29.03m・p16付近約29.06m・SP-B付近約29.12m・p21付近約29.06m・p23付近約29.1m・東端部約29.11mである。底面の明らかな傾斜は認められない。

覆土 6層を確認した。掘り直し等の痕跡は観察されない。

付属施設 遺構内には24穴の小ピットが確認されたが、帰属・埋没の新旧関係等は不明であり、便宜的に本遺構内での番号を付す。各々の規模・深さ・底面レベルは表42に記載する。概ね、深さは30cm以上であり、深さ50cm以上のピットが主体となる。最も深いピットは深さ約

107cmのp 7、p 15は96cm、p 2・5・9・17・22・24は80cm以上の深さを持つ。p 3・8、p 4・5・p 9・10、p 11・13、p 14・15、p 16・17・18は溝に直交する軸線上にピットが位置する。特に、p 9・10、p 14・15、p 16・17は、深さ60cmを超えるピットが溝状遺構中段部を挟む位置にある。**遺物出土状況** 覆土中・掘乱内から137点を確認した。p 23以東については、掘乱により失われた可能性が考えられる。3は確認面付近、34は1-2層境目付近、12・15・18・19・22は2層中、16・32は3層中、33は3層中位、4・36は3層下位、35・38は3-4層境目付近、10・37は4-5層境目付近、9は5層中から出土する。

2(須恵器)、9・14(内耳土器)、19・20(播鉢)、1(不明土器)・23(女瓦)・25(石皿)29(古瀬戸)・31(陶器播鉢)や内耳土器片、板碑片などは掘乱内から出土する。

出土遺物 1～22は土器類である。

1は微細片である判然としないが、弥生時代～古墳時代前期の土師器片か。先端の細い工具で網目状の文様を施す。2は須恵器裏体部片。3は土師器坏か。4は土師器高坏。5～8は土師質土器小皿。5は器壁が厚く内湾しつつ立ち上がるか。6は器壁が薄く体部が開く器形か。7はやや丸底気味。8の底部は小さい目か。9～12は灰色の色調、胎土C類の内耳土器。13は体部片か。9同様に深めの器形か。9～11は立ち上がりの短い口縁部下が屈曲し稜が巡る。10の頸部は「く」字状か。9～12は何れも異個体であり、少なくとも5個体が出土する。36は9の同一個体か。14～17は赤褐色の色調の内耳土器。14は胎土C類、15～17は胎土D類。19～22は瓦質土器播鉢。19は片口か。20・21は播鉢。35は20の同一個体か。23・24は土製品類。23は女瓦片、24は羽口片である。

25～27は石製品である。25は石皿、26・27は砥石である。

28～33は陶磁器類である。28は小壺体下半、内外面とも漆の付着が顕著にみられる。29・30は古瀬戸。31・32は陶器播鉢。32は常滑製品か。33は陶器裏類。常滑製品か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類では、土師器とみられる微細片2片、土師質土器小皿3片、色調が灰色の内耳土器13片、色調が赤褐色の内耳土器21片、瓦質土器播鉢1片(35)、土器微細片2片、が出土する。

土製品類では、24と同一とみられる粘土小塊1片が出土する。

石製品関連では、板碑とみられる緑色凝灰岩1片、破砕礫2片(うち1片は38)が出土する。

陶磁器では、須恵系陶器裏類体部1片、常滑産産とみられる裏類体部4片・底部1片、裏類体部5片、古瀬戸1片、瀬戸系の碗・皿類1片、近現代磁器1片が出土する。

土師器は頸部片・体部か。土師質土器はロクロ成形の小片。色調が灰色の内耳土器は、8と同一個体とみられる口縁部2片・頸部1片、9と同一個体とみられる口縁部1片(36)、10と同一個体とみられる口縁部1片、13同様の体部片4片・体部小片2片・体～低部1片・平底1片である。色調が赤褐色の内耳土器は、胎土C類の口縁部5片(37を含む)・体部1片・平底片1片、胎土D類の口縁部5片(うち2片は同一個体か)・内耳基部2片・体部7片である。胎土C類は器壁が平底片を除き厚手である。瓦質土器播鉢は19と同一個体か。

石製品関連の破砕礫は、流紋岩で、光沢をもって滑らかな表面であるが、ススの付着や赤色変化がみられる。

古瀬戸片は内面ヘラナデ・外面に灰釉を施す体部小片である。瀬戸系の碗・皿類は灰釉に横縞状の鉄釉を施す微細片である。江戸時代中期以降。

第64号溝状遺構 (SD-64) (第52図 図版八)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状** 北東-南西方向に延び、南側は調査区外に延びる。**規模・主軸** 長さ(2.72)m・幅0.35m前後、主軸はN-26°Eである。

底面 ロームを掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルは、SP-A付近:約0.03m・29.84m、SP-AB付近:約0.07m・29.8mである。北から南に0.04mほどの傾斜が確認されるが、浅いことや、調査区外に延びることから不詳な点が多い。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第72号溝状遺構 (SD-72) (第52図)

位置 Ⅲ-1区P-15～O-16グリッドを北東-南西方向に延びる。**重複関係** SK-626→SK-627→SD-72→SK-39・SK-637の順に掘り込まれる。SK-69との新旧関係は不明である。**形状** 北東-南西方向に延びる。南端部の溝幅は狭い。**規模・主軸** 長さ(9.78)m・0.5m前後である。南端部の幅は約0.12mである。主軸はN-27°Eである。**底面** ロームを掘り込み、凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ・レベルは、北端部:約0.08m・29.82m、SP-A付近:約0.08m・29.82m、SP-B付近:約0.2m凹状・29.74m、SO-C:約0.1m・29.82m、SP-D:約0.12m・29.84mである。目立った傾斜は観察されない。

覆土 4～7層を確認した。総じて、ロームを主体とする黄褐色土である。掘り直し等の痕跡は観察されない。**付属施設** 遺構内にはp1～5が確認されたが、帰属・埋没の新旧関係等は不明であり、便宜的に本遺構内での番号を付す。深さを確認し得たものはp2のみである。各々の規模・深さ・底面レベルは以下のとおりである。p1:約0.08m、p2:東西約0.12m南北約0.3m・約0.23m・29.64m、p3約0.14m、p4東西約0.08m・南北約0.2m、p5:約0.1mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第89号溝状遺構 (SD-89) (第33図)

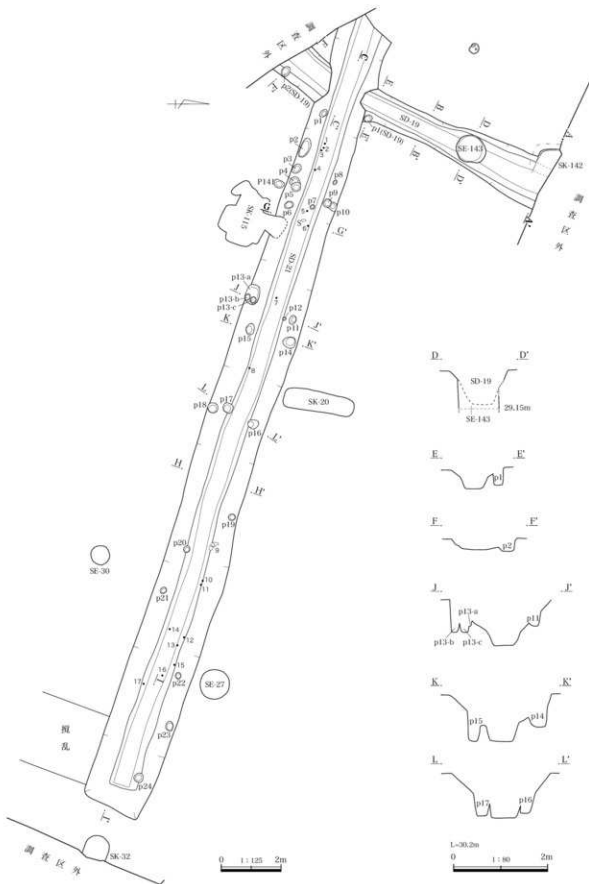
位置 Ⅲ-2区N・M-12グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状** 北東-南西方向に延び、南・北側は調査区外に延びる。**規模・主軸** 長さ(1.4)m・幅1.05m前後、主軸はN-30°Eである。**底面** ロームを掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルは、調査区北壁付近:約0.25m・30.23m、p2付近:約0.16m・30.32m、調査区南壁付近:約0.09m(表土下約0.3m)・30.39mである。北から南に0.16mほどの傾斜が確認されるが、浅いことや、調査区外に延びることから不詳な点が多い。**覆土** 4層を確認した。**付属施設** p1・2を確認したが、帰属等は不詳である。p1は、東西約0.32m・南北約0.42m、遺構確認面からの深さ約0.39m、レベル30.09mである。p2は、径約0.24m、遺構確認面からの深さ約0.5m、レベル29.95mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第633号溝状遺構 (SD-633) (第52図)

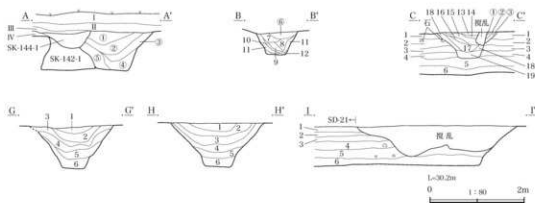
位置 Ⅲ-1区P-15グリッドを北東-南西方向に延びる。**重複関係** SK-44との新旧関係は不明である。**形状** 北東-南西方向に延びる。SD-72の延長線上にあり、同一遺構である可能性が考えられるが判然としない。**規模・主軸** 長さ(2.15)m・幅0.25m前後である。主軸はN-34°Eである。**底面** ロームを掘り込み込む。遺構確認面からの深さは約0.03m・レベルは29.82mである。浅く、目立った傾斜は観察されない。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第642号溝状遺構 (SD-642) (第33図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドを北西-南東方向に延びる。**重複関係** SD-642→SK-75→SK-641の順に重複する。**形状** 南東部は立ち上がる。北西部は全容を確認し得なかった。視乱の可能性も残る。**規模・主軸** SK-74との重複により不詳である。南東端部からSP-Aまでの長さ(1.8)m・幅0.3m前後である。主軸N-47°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、南端部:約0.06m・



第50図 第19・21号溝状遺構・第142号土坑・第143号井戸跡・第141号ビット実測図



SD-19

- Ⅰ 明褐色土 ローム微粒子含む。耕作上、破くしまる。
 Ⅱ 暗褐色土 ローム微粒子含む。耕作上、破くしまる。
 Ⅲ 明褐色土 ローム粒子 (1.2mm・1.0cm 大) 含む。しまりなし。
 Ⅳ 明褐色土 ロームブロック (1.5cm 大) 含む。
 ① 暗褐色土 SK-144の1層に比べ、ロームブロックの混入少ない。しまりなし。
 ② 明褐色土 ローム粒子主部。しまりなし。
 ③ 明褐色土 ロームブロック主体であるが、2層よりロームブロック少量。しまりなし。
 ④ 明褐色土 ロームブロック主体であるが、2層よりロームブロック少量。2層よりしまりなし。
 ⑤ 暗褐色土 ②～5層に比べ、黒色が強い。ロームブロック主体。しまりなし。
 ⑥ 暗褐色土 ①層に相当。

SK-142

- Ⅰ 黄色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。

SK-144

- Ⅰ 暗褐色土 黒色土にローム粒子・ロームブロック多量含む。

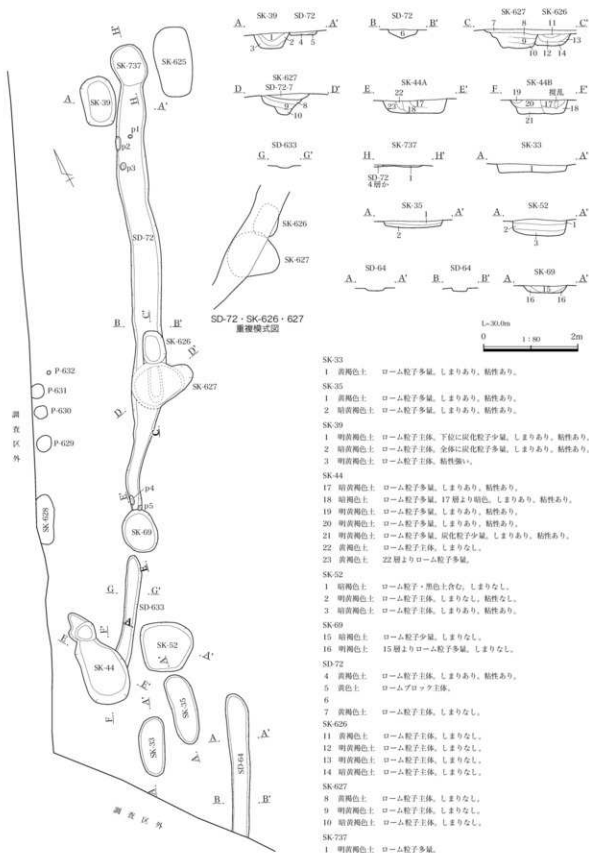
SD-21

- Ⅰ 明褐色土 ローム粒子含む。しまりあり。
 Ⅱ 暗褐色土 ローム粒子少量。
 Ⅲ 明褐色土 2層より明色。ロームブロック含む。
 Ⅳ 暗褐色土 2層に相当。
 Ⅴ 暗褐色土 粘土粒子・ローム粒子含む。
 Ⅵ 明褐色土 ローム粒子含む。
 Ⅶ 暗褐色土 ロームブロック多量。
 Ⅷ 暗褐色土 7層よりロームブロック多量。しまりなし。
 Ⅸ 明褐色土 2層に相当。
 Ⅹ 明褐色土 3層に相当。
 Ⅺ 明褐色土 4層に相当。
 Ⅻ 暗褐色土 5層に相当。
 Ⅼ 暗褐色土 ③層・⑥層に相当。
 Ⅽ 暗褐色土 ②層・⑨層に相当。
 Ⅾ 明褐色土 ロームブロック・炭化物・粘土粒子含む。8層に相当か。
 Ⅿ 明褐色土 15層に近いが、ロームブロック多量。8層に相当か。
 ⅰ 明褐色土 15・16層に近いが、粘土粒子を最も多量含む。8層に相当か。
 ⅱ 暗褐色土 ⑤層・12層に相当。
 ⅲ 黄色土 ロームブロック・ローム粒子主体に少量。第一次堆積土。

第51図 第19・21号溝状遺構・第142・144号土坑実測図

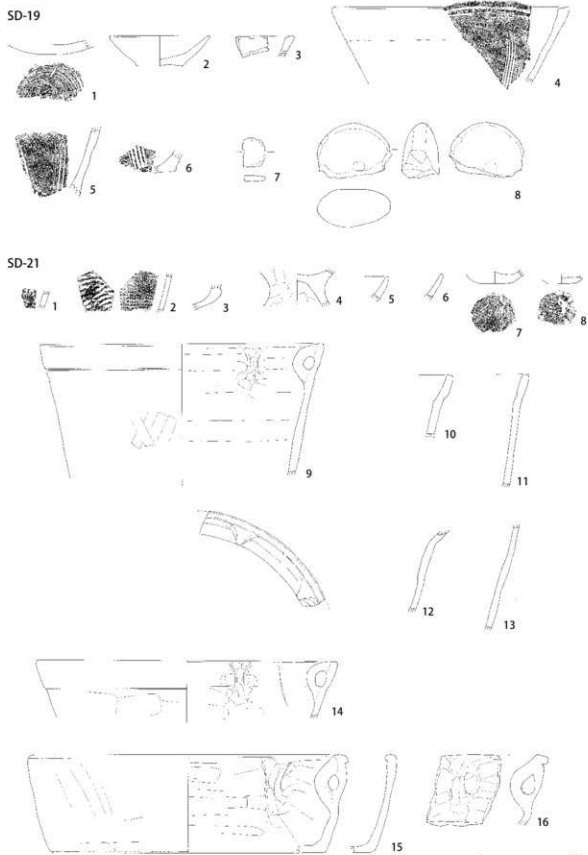
表42 第21号溝状遺構ビット一覧表

No.	形状	規模	深さ	底面レベル	特記	[単位:約 m]				
						No.	形状	規模	深さ	底面レベル
1	やや東西	東西 0.3 南北 0.2	0.37	29.628						
3	東西	東西 0.67 南北 0.3	0.81	29.189						
3	やや東西	東西 0.34 南北 0.25	0.55	29.448						
4	円	0.3	--	--	p5と補填・新旧不明					
5	円	0.32	0.8	29.196	p4と補填・新旧不明					
6	やや南北	東西 0.24 南北 0.3	0.52	29.478						
7	円	0.15	0.107	28.93						
8	やや東西	東西 0.19 南北 0.11	0.64	29.26						
9	円	0.23前後	0.85	29.143	p10と補填・新旧不明					
10	円	0.3前後	--	--	p9と補填・新旧不明					
11	やや東西	東西 0.3 南北 0.22	0.52	29.478						
12	やや南北	東西 0.12 南北 0.1	--	--						
13a	東西	東西 0.66 南北 0.45	0.52	29.478	p13b-cと補填・新旧不明					
13b	やや東西	東西 0.23 南北 0.18	0.69	28.31	p13a底面に穿たれる					
13c	円	東西 0.22 南北 0.18	0.6	28.36	p13a底面に穿たれる					
14	円	0.4前後	0.62	29.384						
15	やや東西	東西 0.38 南北 0.28	0.96	29.04						
16	やや南北	東西 0.3 南北 0.38	0.68	29.32						
17	円	0.32	0.69	29.108						
18	円	0.34	0.47	28.528						
19	円	0.24	0.42	29.58						
20	円	0.23	0.74	29.26						
21	円	0.22	0.57	29.428						
22	円	0.2	0.86	29.14						
23	やや東西	東西 0.3 南北 0.24	0.6	28.4						
24	円	0.3	0.84	29.382						

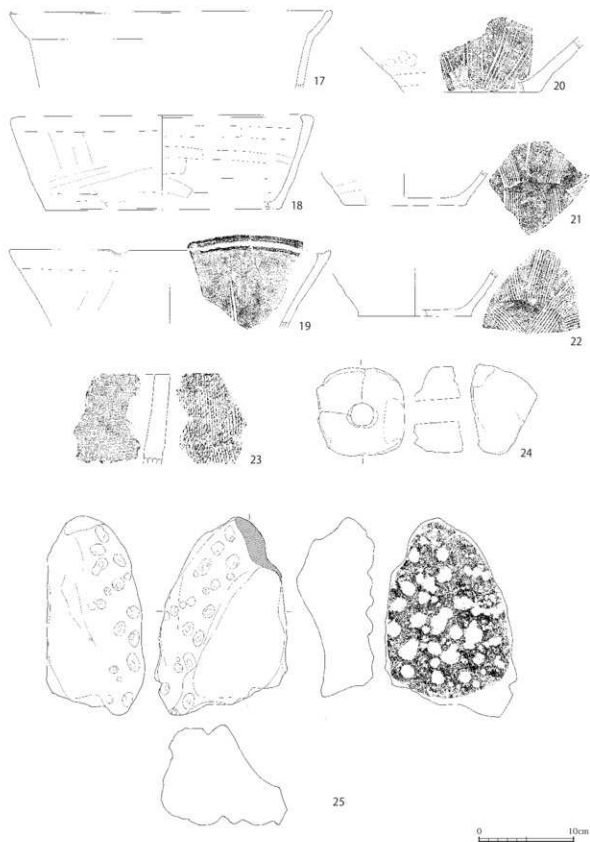


- SK 33
1 黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性あり。
- SK 35
1 黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性あり。
2 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性あり。
- SK 39
1 明黄褐色土 ローム粒子主体。下部に炭化粒子少量。しまりあり。粘性あり。
2 暗黄褐色土 ローム粒子主体。全体に炭化粒子多量。しまりあり。粘性あり。
3 明黄褐色土 ローム粒子主体。粘性強い。
- SK 44
17 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性あり。
18 暗褐色土 ローム粒子多量。17層より暗色。しまりあり。粘性あり。
19 明黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性あり。
20 明黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。
21 明黄褐色土 ローム粒子多量。炭化粒子少量。しまりあり。粘性あり。
22 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
23 黄褐色土 22層よりローム粒子多量。
- SK 52
1 暗褐色土 ローム粒子・黑色土含む。しまりなし。
2 明黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。粘性なし。
3 暗黄褐色土 ローム粒子主体。しまりあり。粘性あり。
- SK 69
15 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。
16 明褐色土 15層よりローム粒子多量。しまりなし。
- SD-72
4 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりあり。粘性あり。
5 黄色土 ロームがロウ状主体。
6
7 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
- SK-626
11 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
12 明黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
13 明黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
14 暗黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
- SK-627
8 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
9 明黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
10 暗黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
- SK-737
1 明黄褐色土 ローム粒子多量。

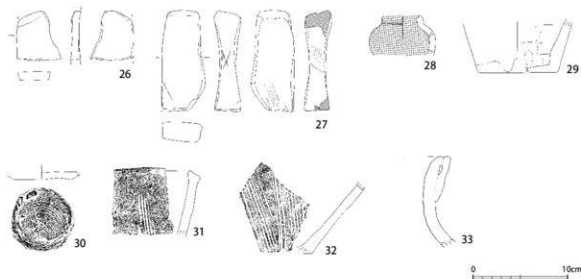
第52図 第64・72・633号溝状遺構・第33・35・39・44・52・69・626・627・737号土坑実測図



第53図 第19・21号溝状遺構出土物実測図



第54図 第21号溝状遺構出土遺物実測図(1)



第55図 第21号溝状遺構出土遺物実測図(2)

表43 第19号溝状遺構出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 組成	残存 状況	備考
1 陶器部 裏面付片 器高: 1.5 器高: 1.5	口径: 1— 底径: 1— 器高: 1.5 (右)	底面 羽衝成形の瓦器物 断面が薄く自然としなび。裏面がほかの瓦器物に似る。	内側 灰色	灰褐色・土師器 目群+2-4-7 片	底面1/2	0382 SP-19
2 土師質土器 小皿	口径: 10.4 底径: 5.2 器高: 0.60	コウナギ形 底面 羽衝成形の瓦器物 内外面とも底面3-3片装	内側 濃い黄褐色	土師質土器A群 色	小片	0382 SP-19
3 内耳土器	口径: 1— 底径: 1— 器高: 1.5	内外面 口縁部: コウナギ 縁部孔を穿つ。内面 孔周囲にわずかな欠損がみられる。	内側 暗灰黄色	瓦質土器A群 色	小片	0382 SP-19
4 瓦質土器 楕圓	口径: 124.82 底径: 1— 器高: 1.5	内 4条以上一帯位の磨目を施す 外 口縁部: コウナギ 断面観察	内側 黄褐色	瓦質土器B群 色	小片	0382 SP-19
5 瓦質土器 楕圓	口径: 1— 底径: 1— 器高: 1.5	内 4条以上一帯位の磨目を施す 外 縁目上げ痕跡あり。ヘラナギ (30%)	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器A群 色	小片	0382 SP-19
6 瓦質土器 楕圓	口径: 1— 底径: 1— 器高: 1.5	内 4条以上一帯位の磨目を施す 外 ヘラナギ (30%)	内 黄褐色 外 暗灰黄色	土師質土器A群 色	小片	0382 SP-19
7 粘土質 不明	径: 3.1 幅: 2.5 厚: 0.6 重: 5.93	平厚な粘土質 断面は断面によるしじり状で焼成さ	内側 灰黄色	練土 白色粒子含む 色	断面欠損	0382 SP-19
8 磨石	長: 7.9 厚: 4.9 幅: 5.7 重: 234.18	両面磨面顕著 両面とも平表面中に多数の凹孔あり	内側 濃い黄褐色	黒石(ギキイト) 片	1/2	0382 SP-19

表44 第21号溝状遺構出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 組成	残存 状況	備考
2 陶器部 壺	口径: 1— 底径: 1— 器高: 14.23	内 同心円状の溝痕 外 弁形片あり	内 灰黄色 外 暗灰黄色	灰褐色・土師器 目群+2-4-7 白色粒子 白色小礫 片	小片	0382 SP-21 37%
3 土師器 杯	口径: 1— 底径: 1— 器高: 11.90	内 コウナギ 断面観察 外 縁部: ヘラナギ (30%) 口縁部: コウナギ	内 黄褐色 外 濃い黄褐色	灰褐色・土師器 目群+2-6 片	小片	0382 SP-21 No. 11
4 土師器 高杯	口径: 1— 底径: 1— 器高: 14.61	断面 結合部のみ残存 内 磨面 ヘラナギのみ 断面全体断面 内 磨面: ヘラナギ (30%) 縁部: ナギ 外 断面: ヘラナギ (30%) → 脚底: ヘラナギ (30%) → 結合部: ヘラナギ (30%) 断面面以内一帯のみの磨面 断面外縁部観察あり。口縁部観察あり。	内側 濃い黄褐色	土師質土器B群 白色小礫	小片	0382 SP-21 No. 14

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
6 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: (2.7)	コクロ成形	内 灰黄色 外 濃い黄色	土師質土器B群 良	小片	03K2 SP-21
8 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: 一	コクロ成形	内外 濃い黄褐色	土師質土器B群 良	小片	03K2 SP-21
7 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: (3.6) 器高: (1.5)	コクロ成形	内外 濃い黄色	土師質土器B群 良	小片	03K2 SP-21
8 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 3.9 器高: (0.8)	底面 回転成形の浅盤	内 黄褐色 外 黄褐色	土師質土器B群 良	小片	03K2 SP-21
9 内瓦土器	口径: (20.6) 底径: 一 器高: (13.4)	内 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ 内耳縁合部: 動物ナデ 外 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ (上下ココ) ナツガ付着物	内 黄灰色 外 黄褐色	瓦質土器C群 良	1/43下	03K2 SP-21 No. 16
10 内瓦土器	口径: 一 底径: 一 器高: (6.6)	内 口縁部: ココナデ 係部: 陶織 ヘラナデか 動物痕跡心	内 灰色 外 オリーブ褐色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 No. 4
11 内瓦土器	口径: 一 底径: 一 器高: (12.4)	内 口縁部: ココナデ 係部: 陶織 動物痕 外 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ 部分別にナツガ付着物	内 黄灰色 外 黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 375
12 内瓦土器	口径: 一 底径: 一 器高: (8.6)	内 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ (タツ) 係部: ナツガ付着物	内外 灰オリーブ色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 No. 11
13 内瓦土器	口径: 一 底径: 一 器高: (11.5)	内 ヘラナデ (ココ) 外 ヘラナデ (体下部: ココ 係部: タマカ)	内 灰オリーブ色 外 黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 375
14 内瓦土器	口径: (21.6) 底径: 一 器高: (6.6)	内 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ 内耳縁合部: 動物ナデ 内口縁部: ココナデ 係部: 陶織の土器1セットか 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ 口縁部: ココナデ 係部: ココナデ	内 濃い黄色 外 黄褐色	瓦質土器C群 良	1/9	03K2 SP-21
15 内瓦土器	口径: 一 底径: 一 器高: (7.5)	内 係部: ヘラナデ 口縁部: ココナデ 内耳縁合部: 動物ナデ 外 口縁部: ココナデ 係部: 陶織 スス付着	内 濃い赤褐色 外 黄褐色	瓦質土器D群 多量 良	小片	03K2 SP-21 No. 10
16 内瓦土器	口径: (23.6) 底径: (28.4) 器高: (9.4)	内 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ 内耳縁合部: 動物ナデ 外 係部: ヘラナデ (器) 底面部: ヘラナデ (ココ) → 口縁部: ココナデ ナツガ付着物 底面に埋没した 底面付着物の痕跡か	内 赤褐色 外 黄褐色	瓦質土器D群 多量 良	小片	03K2 SP-21 No. 9
17 内瓦土器	口径: (24.6) 底径: 一 器高: (8.2)	内 陶織 口縁部: ココナデ 外 口縁部: ココナデ 係部: 陶織 スス付着 陶織: 「く」字状に立ち上がる	内 褐色 外 黄褐色	瓦質土器D群 良	小片	03K2 SP-21
18 内瓦土器	口径: (26.2) 底径: (24.4) 器高: (9.9)	内 係部: ヘラナデ → 口縁部: ココナデ 外 底面部: ヘラナデ 係部: ヘラナデ (器) → 口縁部: ココナデ 底面に埋没した 底面付着物の痕跡か	内 赤褐色 外 黄褐色	瓦質土器D群 多量 良	1/43下	03K2 SP-21
19 瓦質土器 鉢鉢(片口)	口径: (23.4) 底径: 一 器高: (9.1)	内 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデか 5条一帯位の帯目を中心に施す 外 口縁部: ココナデ 係部: ヘラナデ (タツ) 陶織	内外 灰オリーブ褐色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 No. 6
20 瓦質土器 鉢鉢	口径: 一 底径: (14.4) 器高: (5.8)	内 ヘラナデ (ココ) か 8条一帯位の帯目を放射状に施す (同一帯目と交差する 平面的に1行目と重なる) 外 外 底面部: ヘラナデ (ココ)	内 黄灰色 外 黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 375
21 瓦質土器 鉢鉢	口径: 一 底径: (12.4) 器高: (5.6)	内 ヘラナデ (ココ) 7~8条一帯位の帯目を施す 外 底面部: ヘラナデ (ココ)	内 黄褐色 外 濃い黄色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 375
22 瓦質土器 鉢鉢	口径: 一 底径: (12.4) 器高: (4.4)	内 係部: ヘラナデ (ココ) 10条一帯位の帯目を施す 外 底面部: ヘラナデ (ココ) か	内外 灰色	瓦質土器C群 良	小片	03K2 SP-21 No. 5
23 瓦	口径: 一 底径: 一 器高: (9.6)	上 陶織か 下 木目肌	内 濃い黄褐色 外 黄褐色	今令備前 1-2-6-7 良	小片	03K2 SP-21 375
24 石瓦	長: (6.4) 幅: 7.4×8.8 口径: 2.6	割口先端 (断面斜口) 先端部1/4中底状に浅く凹ませる 外面は平直で断面は1/4部 又は縁部を伴って彎曲する	内外 濃い黄色 陶織	スチ 良	埋没残存	03K2 SP-21
25 石瓦	長: (6.9) 厚: (6.4) 幅: (4.1) 重: (267.04) 表面 平直で丸	断面 四角形(厚部 両縁半丸 側面 縁部斜口(厚部半丸 裏面 平直で丸	内 濃い黄色 外 灰オリーブ色	埋没山面 良	1/43下	03K2 SP-21 375

番号 図例	寸法	特徴	色調	土質 構成	残存 状況	備考
26 縦石	長：3.2 厚：1.1 幅：4.6 重：32.79	上：上・下・左側面存在 左縦面：上下面 上 草席 上端部：両側の角 縦面：凹面状 内れ打着 下 草席 縦面：中々凹面状 側 中々草席	内 灰黄色 外 淡黄色	凝灰岩 頁	1/20+	01802 SP-21
27 縦石	長：10.8 厚：2.8 幅：4.6 重：183.46	両側面欠落 縦面は上・下・左・右 4面 上下面とも凹状に欠落 左縦面は上面か	表 濃い赤褐色 裏 褐色	凝灰岩 頁	残存欠陥	01802 SP-21 No. 16
28 陶器か 小皿	口径：(5.8) 底径：1— 器高：(5.1)	内 ヘラナゲ部分的に灰緑 外 赤褐色 底面一部は黒色の付着であるが、輪郭が小さい 内外面とも厚さ約0.8mm程度 うち一部が付着する 経路に凹凸を呈す、少量の黒色顆粒の存在か	内 濃い赤褐色 外 灰黄色	陶器白磁 硬質	1/40以下	01802 SP-21 古瀬戸中期 全体の1/5を占
29 陶器 古瀬戸 甕・底面	口径1— 底径：(7.2) 器高：(5.6)	内 ヘラナゲ 灰緑と黒色 外 底面部：黒色 底面：灰緑か赤	内 赤黄色 外 淡黄色	陶器白磁 頁	底面1/4以下	SP-21 117
30 陶器 (古瀬戸) 不詳	口径1— 底径：(5.8) 器高：(6.6)	底面 赤褐色か黒い黒褐色 トタン残存 内外面部、表面立ち上がり部に灰緑残存	内 濃い赤黄色 外 灰黄色	陶器白磁 頁	底面残存	01802 SP-21
31 陶器 埴輪	口径1— 底径1— 器高1—	内 口縁部：コウナゲ 底面：ヘラナゲか 5番一帯位の磨目を残りに残す 外 ヘラナゲ(200) 赤	内 濃い赤褐色 外 赤黄色	陶器白磁 頁	小片	01802 SP-21 117
32 陶器 埴輪	口径1— 底径1— 器高：(6.7)	内 ヘラナゲ(200) 2番一帯位の磨目を残りに残す 外 底面部：ヘラナゲ(200) 底面部：ヘラナゲ(200)	内 灰黄色 外 濃い赤褐色	陶器白磁 頁	小片	01802 SP-21 No. 11
33 陶器 甕	口径1— 底径1— 器高：(9.6)	内外面とも口縁部：コウナゲ 底面：ヘラナゲ(200) 赤 底面か	内 濃い赤褐色 外 褐色	陶器白磁 頁	小片	01802 SP-21 No. 15

29.89 m、SP-A 付近：約 0.18 m・29.74 m である。南から北方へ向けての傾斜が確認されるが、詳細は不明である。 **覆土** 1層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

7. 柵列

(1) 調査の概要

本調査区においてはⅡ区 R-SA-120 を確認した。土層断面に柱痕状の堆積が観察されることなどから、現地調査において杭列と確認したものである。SA-120 以外にも、直線的なピットの配列は、P-161-162 (主軸 N-39°-W)、P-163-164-165 (主軸 N-49°-W)、P-165-166-167 (主軸 N-8°-E)、P-172-173-174-175-176 (主軸 N-99°-E) などがみられる。また、直交する軸線上の配列が P-161-162 (SA-120 p 2) にみられる。主軸は SA-120 と同様である。

ピット間の距離は、柱間は柱痕の観察される遺構は柱痕間、その他は掘り込みの中心部で計測する。

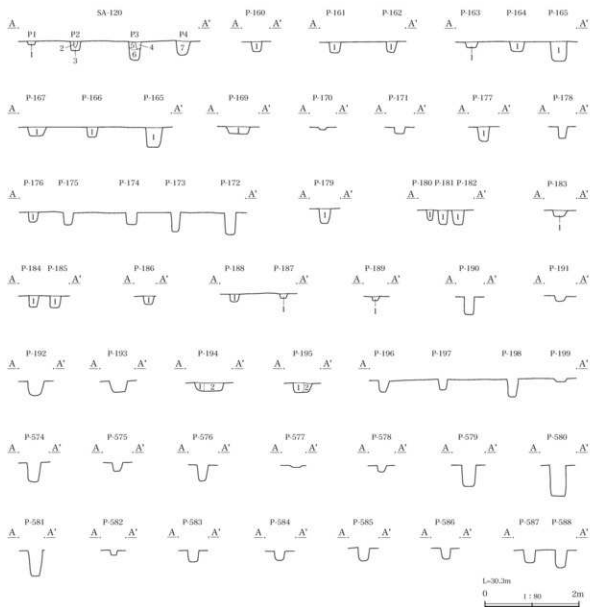
(2) 柵列

第120号柵列 (SA-120) (第56・57・58図 表45 図版7)

位置 Ⅱ区 R-16・17 グリッドに位置する。 **重複** 重複する遺構はない。 **形状・規模** 北東-南西方向の一直線上に p 1～4 が位置する。p 1 は径約 0.15 m・深さ約 0.08 m・レベル 29.95 m、p 2 は径約 0.25 m・深さ約 0.2 m・レベル 29.84 m、p 3 は径約 0.3 m・深さ約 0.4 m・レベル 29.62 m、p 4 は東西約 0.24・南北約 0.32 m・深さ約 0.3 m・レベル 29.72 m である。各々の深さは区々であり、不均等である。いずれもロームを掘り込む。主軸は N-30°-E である。 **柱間** p 1-2 間約 0.95 m、p 2-3 間約 1.33 m、p 3-4 間約 0.94 m、p 1-4 間約 3.16 m である。 **覆土** p 1 は 1 層、p 2 は 2・3 層、p 3 は 4～6 層、p 4 は 7 層を確認した。総じてロームブロックを多量に含み、土層にしまりが無い。p 2-2 層・p 3-4 層は柱痕状、p 2-3 層・p 3-5 層は掘方土状に堆積し、似た特徴が観察される。柱痕であるならば、p 2-2 層・p 3-4



第56図 第120号櫛列・第160～200・574～588号ピット実測図(1)



P-160 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-161 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-162 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-163 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-164 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-165 1 暗黄色土 暗褐色土やや多量、白色粒子少量。

P-166 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや多量。

P-167 1 暗黄色土 ロームブロック少量。

P-168 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-169 1 黒褐色土 ローム粒子・暗黄色土少量。

P-176 1 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土少量。

P-177 1 暗黄褐色土 ロームブロック・黒褐色土少量。

P-179 1 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-180 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや多量。

P-181 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量、黒褐色土微量。

P-182 1 暗黄褐色土 ローム粒子微量、黒褐色土少量。

P-183 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや多量。

P-184 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-185 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや多量。

P-186 1 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土少量。

P-187 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-188 1 暗黄色土 ローム粒子やや多量。

P-189 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-194 1 暗褐色土 ローム粒子多量、しまりなし。

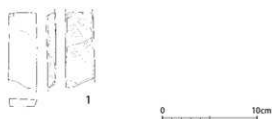
2 黄褐色土 ロームブロック主体、しまりあり。

P-195 1 暗褐色土 ロームブロック主体。

2 黄褐色土 1層より黒色土多量。

第57図 第120号欄別・第160～200・574～588号ビット実測図(2)

SA-120



第58図 第120号柵列出土遺物実測図

表45 第120号柵列出土遺物観察表

番号 遺構	寸法	特徴	色調	出土 状況	残存 状況	備考
1 砥石	長：8.9 厚：1.0 幅：3.1 重：34.77	両短辺欠落 砥面は残存する4面 土砥面は頂上表面のみ 平面に光沢を持って研磨 表面 両短辺に細かな点状の痕跡	内 黄褐色 外 濃い黄褐色	既詳同前	砥石欠損	図382 5-120 P-2

(単位：cm、g)

層がロームブロックを主体とする黄褐色土であることから、柱を抜き取り廃絶した可能性が考えられる。また、土層にしまりのないことから、堅固な柱の想定は難しいと思われる。特記 p 2に近接するP-168との関連等の詳細は明らかにし得なかった。p 2はP-161・162の延長線上から直交する軸線上に位置するが、詳細は不明である。遺物出土状況 p 2から1点が出土する。

出土遺物 1は砥石である。

8. ビット

(1) 調査の概要

本調査区からは151基のビットを確認した。遺構内に穿たれたビットについては当該遺構で記載したが、遺構に帰属せず、本節記載のビット同様の性格のビットがあるものと想定される。

また、Ⅱ区-P-154・155と西側に近接するSK-114、南側に近接する109のように、周辺に位置する遺構との関連を明らかにし得たものはない。

Ⅱ区からは75基が確認される。遺構の密集する南半部に集中する。南東に位置するⅢ-1区のビットは、現状では、調査区東半部に集中する傾向にあり、Ⅲ-1区確認遺構を挟んだ位置関係となる。

P-146～151は、何れも、平面形・断面形は明瞭でなく、深さも0.2m前後と浅く、遺構ではない可能性も残るが、SE-145西半部に沿うように位置することから、遺構番号を付した。

Ⅱ区で確認されたビットは、南半部に多く、SD-19・21に囲まれた南側に部分に56基が確認される。概ね円形状であり、長円のものには北東-南西を主軸とするものが多い。大きさは、径0.2～0.3m、深さ0.2～0.3mのビットを主体に、径0.1m～0.4m、深さ0.02m～0.65mまでが確認される。深さSA-120が杭列であるとすれば、その深さは0.08m～0.4mであり、何れも柱穴の可能性が考えられる。

直線的な配列を考え得るものは11列ある。

北西-南東方向に主軸を持つ

① P-161・162 (・187・188) (主軸 N-39°-W)

② P-163・164・165 (主軸 N-49°-W)

③ P-585・586 (主軸 N-73°-W)

⑩ P-192・595・597 (主軸 N-17°-E)

北東-南西方向に主軸を持つ

SA-120(主軸 N-30°-E)

④ P-165・166・167 (主軸 N-8°-E)

⑤ P-172・173・174・175・176 (主軸 N-19°-E) などがみられる。

⑥ P-196・197・198・199 (主軸 N-45°-E)

⑦ P-579・580・581 (主軸 N-33°-E)

⑧ P-587・588 (主軸 N-4°-E)

直交する軸線上の配列がみられる

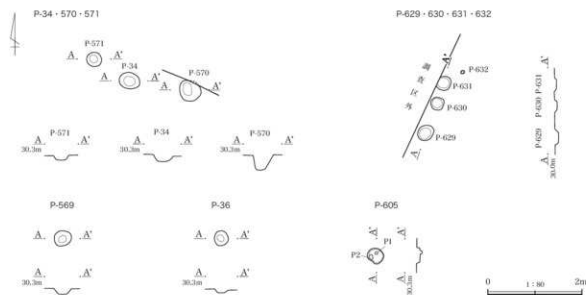
⑨ P-161-162・(187・188) × P-166

⑪ P-174・176・222・188・190・192

である。深さ 0.3 m 以上のピットが多く、特に、⑤は深さ 0.54 m・0.48 m・0.33 m・0.35 m・0.2 m、⑦は深さ 0.45 m・0.65 m・0.53 m であり、深さのあるピットが直線上に並ぶ。主軸の共通性は薄いが、⑨の南北軸は N-30°-E であり、SA-120 にはほぼ一致する。

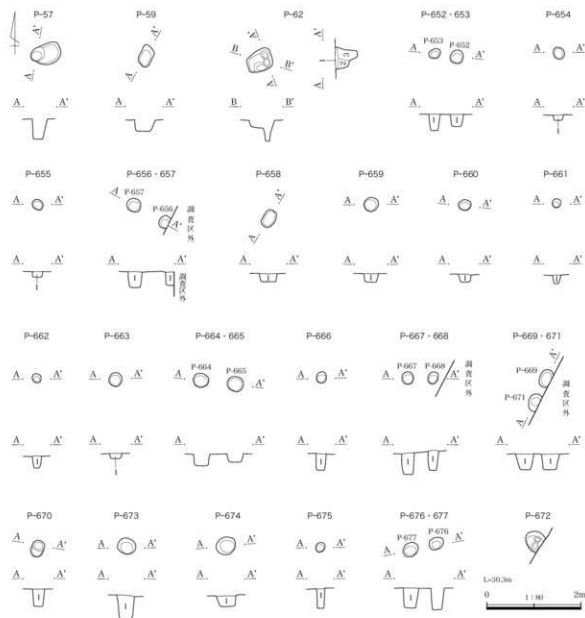
ピット間の距離は、① 1.2 m (延長線上の P-178・188 は 1.1 m)、② 1.0 m、③ 0.7 m、④ 1.0 m、⑤ 1.2 m・1.0 m・1.3 m・0.8 m、⑥ 1.2 m・1.5 m・1.1 m、⑦ 1.7 m・0.8 m、⑧ 0.7 m、⑩は 2.0 m、1.9 m、⑪南北軸 1.0 m、⑪ P-222・188、P-190・192 が 1.7 m である以外は 2.0 m である。0.7 m・1.0 m・1.2 m・1.6 m 前後・2.0 m 前後を中心とした距離のまとまりが看取されようか。覆土を確認し得たピットでは、P-160・162・163・164・184・187・189、P-166・182・183・185・186、P-177・181 に似た特徴が観察される。直線上に位置する P-163・164・187、調査区南端部の P-183・185・186 の特徴が似る点、留意される。

出土遺物は、P-185 覆土中から内耳土器が出土するのみである。



第59図 第34～37・569～571・605・629～632号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



P-62

- 1 黄褐色土 ローム主体。
- 2 暗黄褐色土 ローム主体。
- 3 暗黄褐色土 ローム主体。

P-652

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量。

P-653

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。

P-654

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-655

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-656

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-657

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-658

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。
ロームブロックやや多量。

P-629

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。黒褐色土少量。

P-660

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量。黒褐色土少量。

P-661

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-662

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-663

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-666

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-667

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量。

P-668

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量。ロームブロック少量。

P-669

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-670

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子混じる。

P-671

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土少量。

P-673

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-674

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量。

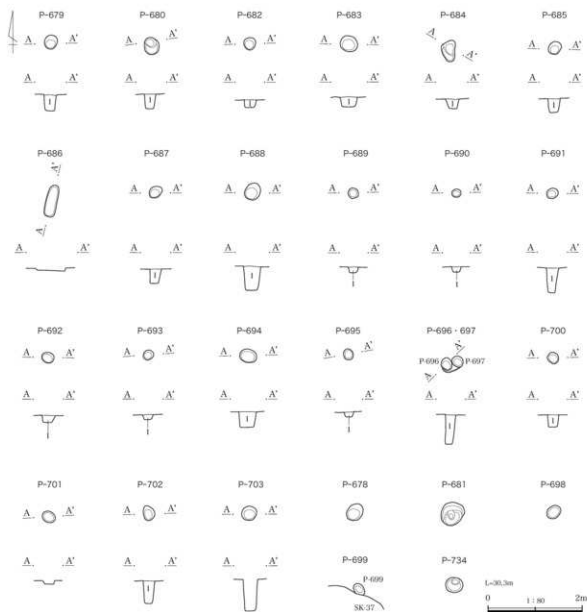
P-675

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-677

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

第 60 図 第 57・59・62・652～677号ピット実測図



P-679

I 暗黄褐色土 ローム粒子微量。

P-680

I 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-682

I 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-683

I 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量、暗褐色土少量。

P-684

I 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量。

P-686

I 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-687

I 暗黄褐色土 ローム粒子微量、黒褐色土少量。

P-688

I 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。

P-689

I 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-690

I 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-691

I 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土少量。

P-692

I 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。

P-693

I 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-694

I 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量。

P-695

I 暗黄褐色土 ローム粒子微量、暗褐色土少量。

P-696

I 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-700

I 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。

P-702

I 暗黄褐色土 ローム粒子含み、黒褐色土やや少量。

第 61 図 第 678 ～ 703 ・ 734 号ピット実測図

図示し得なかったが、体内内面にオコゲ状着物が観察される。胎土D類である。

Ⅲ-1区からは72基が確認される。多くはN・O-15グリッドに位置する。調査区東辺にあたり、3次調査B区に隣接する。3次調査B区西辺N-15グリッドにはピットが散見される。

P-606～610はSK-49 p1・2に、P-611はSK-53 p1～3に関連するとみられる。

各ピットの深さをみると、0.5 m以上のピットはP-672・678・688・696・702・703の6基、0.4 m以上のピットはP-667・668・675・676・677の5基、0.3 m以上のピットはP-62・653・657・666・669・670・671・679・680・685・687・6941の12基、0.2 m以上のピットはP-652・656・662・664・684・699の6基である。0.5 m以上、0.2 m以上の深さのピットはばらつきが見られるが、0.3 m以上・0.4 m以上の深さのピットはN-15ラインの東西に位置する傾向にある。

覆土の観察からは、堆積するロームなどの多少によって、①ローム粒子多量、②ローム粒子含む、③ローム粒子少量、④ローム粒子・ロームブロック少量、⑤ロームブロック少量、⑥ローム粒子少量・黒褐色土少量、⑦ローム粒子少量・暗褐色土少量の7つの特徴に大別が可能である。N-15ライン東西に特徴の似た土層の堆積がみられるが、位置的条件による可能性も高い。

土層と深さとの関連性はみられず、柵列や掘立柱建物跡の推定は難しい。

出土遺物は、P-669・671・677・679・681・704 覆土中から小片が出土する。

1はP-669からは出土する土師質土器小皿底部片である。灯明皿か。

P-674・677・679・681・704 出土遺物は図示し得なかった。

P-674からは須恵器裏体部片が出土する。外面にカキ目を施す。

P-677 出土からは土師質土器小皿口縁部片が出土する。ロクロ成形で、器壁は薄い。高さ3.0cmほどか。

P-679 出土からは瓦質の播鉢片が出土する。内面はススが吸着する。6条一単位の摺り目を放射状に施す。

P-681 出土からは土師質土器小皿口縁部片が出土する。ロクロ成形で、器壁はやや厚く、内湾しつつ立ち上がるか。高さは4.0cm弱か。内面にススが付着する。灯明皿とすれば使用頻度を低いか。

P-704からは内耳土器体部小片・瓦質土器播鉢が出土する。内耳土器は胎土C類。播鉢は3条以上の摺り目を施す。

Ⅲ-2区からは2基、Ⅲ-3区からは2基が確認された。遺構の詳細や周辺遺構との関連は不詳である。

表 46 2次調査区確認ピット表

〔注:東西・南北・深さ・遺構確認面 単位:m〕

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重現	特記	所蔵
34	Ⅱ	Q-18	0.42-0.36	0.1	29.94	-	-		59
36	Ⅱ	R-18	0.3	0.09	29.93	-	-	白色須恵器微細片出土	59
62	Ⅲ-1	O-14	0.55-0.48前後	底:0.13	底:29.87	3層	-	表面に3穴 南:径0.26・0.19 中:径0.46・深さ0.13・レベル29.57 北:約0.16・深さ20.3	60
59	Ⅲ-1	O-14	0.28-0.42	0.14	29.78	-	-		60
57	Ⅲ-1	O-14	0.6-0.44 穴:0.28	穴:0.42	穴:29.61	1層	-	表面に1穴	60
88	Ⅲ-2	M-11	0.44	0.44	29.97	3層	-	P-708と近接	34
140	Ⅱ	R-18	[0.4]	0.08	29.90	1層	SK-115 新旧不明	SK-115西側確認面付近堆積層中に確認	36
141	Ⅱ	S-18							50
146	Ⅱ	R-18	[0.14]	0.4	29.60	-	-	覆土内に確認	36
147	Ⅱ	R-18	0.46-0.17	0.38	29.84	-	SD-145 新旧不明		36

第2節 2次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構幅員 単位:m]

ピット	区	グラッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	評説
148	II	R-18	0.18×0.14	—	—	—	P-149 新旧不明	P-149と重複する 同一遺構の可能性あり	36
149	II	R-18	—	—	—	—	—	—	36
150	II	R-18	0.18×0.12	0.09	29.91	—	—	—	36
151	II	R-18	0.5	0.12	29.88	—	—	南半部の形状不詳	36
160	II	R-17	0.2	0.2	29.80	1層	—	—	36
161	II	R-17	0.2	0.2	29.80	1層	—	東側の掘り込み不詳	36
162	II	R-17	0.2	0.2	29.80	1層	—	—	36
163	II	R-17	0.2	0.11	29.89	1層	—	—	36
164	II	R-17	0.3×0.4	0.19	29.81	1層	—	—	36
165	II	R-17	0.34	0.30	29.61	1層	—	—	36
166	II	R-17	0.24	0.19	29.81	1層	—	—	36
167	II	R-18	0.44×0.37	0.16	29.84	1層	—	—	36
168	II	R-18	0.1×0.2	—	—	1層	SA-120p2近接 詳細不明	暗黄褐色土:ロームブロック少量	36
169	II	Q-17	0.5×0.42	0.12	29.88	1層	—	—	36
170	II	Q-17	0.18	0.03	29.97	—	—	—	36
171	II	Q-17	0.22	0.22	29.88	—	—	—	36
172	II	Q-17	0.25	0.54	29.97	—	—	—	36
173	II	Q-17	0.23	0.46	29.62	—	—	—	36
174	II	Q-17	0.1×0.26	0.33	29.77	—	—	—	36
175	II	R-16	0.24×0.22	0.35	29.75	—	—	—	36
176	II	R-16	0.2	0.2	29.81	—	—	—	36
177	II	R-16	0.22	0.3	29.71	1層	—	—	36
178	II	Q-16	0.2	0.23	29.78	—	—	—	36
179	II	Q-16	0.3×0.2	0.3	29.79	1層	—	—	36
180	II	Q-16	0.13	0.21	29.84	1層	—	—	36
181	II	Q-16	0.18×0.23	0.29	29.76	1層	—	—	36
182	II	Q-16	0.12×0.3	0.29	29.76	1層	—	—	36
183	II	Q-16	0.20×0.14	0.12	29.93	1層	—	—	36
184	II	Q-16	0.23	0.23	29.81	1層	—	—	36
185	II	Q-16	0.26×0.23	0.24	29.80	1層	—	内耳土即片出土	36
186	II	Q-16	0.23	0.17	29.87	1層	—	—	36
187	II	Q-16	0.17×0.2	0.08	29.99	1層	—	P-188とともCP-161・162-SA-120p2延長線上	36
188	II	Q-16	0.23	0.16	29.91	1層	—	P-187とともCP-161・162-SA-120p2延長線上	36
189	II	Q-16	0.15×0.23	0.1	29.94	1層	SK-113 新旧不明	—	36
190	II	Q-16	0.2×0.23	0.38	29.65	—	—	—	36
191	II	Q-17	0.2×0.24	0.1	29.93	—	—	—	36
192	II	Q-16	0.33×0.46	0.28	29.76	—	—	—	36
193	II	Q-17	0.30×0.36	0.23	29.81	—	—	—	36
194	II	Q-17	0.44×0.6	0.16	29.99	—	—	—	36
195	II	Q-17	0.42	0.19	29.80	—	—	—	36

第3章 確認された遺構と遺物

[括弧内:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グランド	径	深さ	レベル	層土	重複	特記	検出
196	Ⅱ	Q-17	0.25	0.22	29.81	-	-		56
197	Ⅱ	Q-17	0.19	0.22	29.86	-	-		56
198	Ⅱ	Q-17	0.38・0.24	0.37	29.71	-	-		56
199	Ⅱ	Q-17	0.19・0.28	0.05	30.03	-	-		56
200	Ⅱ	Q-17	0.28・0.22	0.09	29.99	-	-	テラス状の中段部あり	56
569	Ⅱ	R-18	0.38・0.32	0.12	29.94	-	-		59
570	Ⅱ	Q-18	0.44	0.3	29.76	-	-	白色陶磁器微細片出土	59
571	Ⅱ	Q-18	0.31	0.1	29.96	-	-		59
572	Ⅱ	R-18	0.22・0.16	0.02	29.99	-	SK-114・109 詳細不明		18
573	Ⅱ	R-18	0.22・0.12	0.11	29.90	-	SK-114・109 詳細不明		18
574	Ⅱ	Q-17	0.25・0.2	0.39	29.69	-	-		56
575	Ⅱ	Q-17	0.24	0.18	29.90	-	-		56
576	Ⅱ	Q-17	東:0.24・0.3 西:0.23・0.26	西:0.33	西:29.7	-	-	東・西側の2穴 東側詳細不明	56
577	Ⅱ	Q-17	0.24	0.02	30.01	-	-		56
578	Ⅱ	Q-17	0.17	0.12	29.91	-	-		56
579	Ⅱ	Q-17	0.32・0.22	0.45	29.58	-	-		56
580	Ⅱ	Q-17	0.38	0.65	29.38	-	-		56
581	Ⅱ	Q-17	0.32・0.22	0.53	29.50	-	-		56
582	Ⅱ	Q-17	0.16	0.09	29.94	-	-		56
583	Ⅱ	Q-17	0.26・0.2	0.25	29.78	-	-		56
584	Ⅱ	Q-17	0.24・0.2	0.17	29.82	-	-		56
585	Ⅱ	Q-17	0.26	0.26	29.82	-	-		56
586	Ⅱ	Q-17	0.2	0.22	29.82	-	-		56
587	Ⅱ	Q-17	0.24	0.25	29.78	-	-		56
588	Ⅱ	Q-17	0.2	0.36	29.67	-	-		56
593	Ⅱ	R-16	0.52・0.65	0.73	29.30	-	SK-116 新旧関係不明	SK-116は同一遺構の可能性があるが、深さレベル状であることから、ピット番号を付した。	37
594	Ⅱ	Q-16	0.3・(0.4)	0.1	29.92	2層	SK-119,29占イ	北壁上部の小ピット 径約0.12m・底面0mの深さ約0.04m・レベル29.88	38
595	Ⅱ	Q-16	0.36・0.49	0.37	29.71	2層	SK-119,29新しいイ		38
596	Ⅱ	Q-16	0.48・0.4	0.44	29.70	2層	SK-119,29占イ	1層はP-597と似る	38
597	Ⅱ	Q-16	0.6	0.37	29.67	2層	SK-119-SK-598,29占イ	SK-598-1層と似る	38
605	Ⅱ	S-19	0.3前後	0.07	29.98	-	-	直前に小ピット2基 p1:径約0.06m・深さ約0.05m・レベル29.23 p2:詳細不明	38
606	Ⅲ-1	O-17	0.1前後	-	-	-	-		59
607	Ⅲ-1	O-17	0.12前後	-	-	-	-		26
608	Ⅲ-1	O-17	0.2前後	-	-	-	-		26
609	Ⅲ-1	O-17	0.12前後	-	-	-	-		26
610	Ⅲ-1	O-17	0.08前後	-	-	-	-		26
611	Ⅲ-1	O-17	0.12前後	-	-	-	-		27
624	Ⅲ-1	O-16	0.08	0.1	29.91	-	-		29
629	Ⅲ-1	P-15	0.33	0.06	29.79	-	-	P-630-632と接続 関係不詳	59
630	Ⅲ-1	P-15	0.26	0.05	29.80	-	-	P-630-632と接続 関係不詳	59

第2節 2次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構跡面 単位:m]

ピット	区	グラッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	跡深
631	Ⅱ-1	F-15	0.29	0.04	29.81	—	—	F-630→632定礎 関連不詳	59
632	Ⅱ-1	F-16	0.07	—	—	—	—	F-630→632定礎 関連不詳	57
634	Ⅱ-1	O-15	0.26+0.4	0.16	29.82	1層	SK-66より新しい		27
632	Ⅱ-1	N-15	0.28	0.27	29.88	1層	—		60
653	Ⅱ-1	N-15	0.23前後	0.34	29.80	1層	—		60
654	Ⅱ-1	N-16	0.24	0.1	29.81	1層	—		60
655	Ⅱ-1	N-15	0.24	0.1	29.81	1層	—		60
656	Ⅱ-1	N-15	0.28	0.29	29.84	1層	—		60
657	Ⅱ-1	N-15	0.3	0.32	29.80	1層	—		60
658	Ⅱ-1	N-15	0.26+0.4	0.17	29.93	1層	—		60
659	Ⅱ-1	O-15	0.3	0.16	29.93	1層	—		60
660	Ⅱ-1	N-15	0.26	0.16	29.92	1層	—		60
661	Ⅱ-1	N-15	0.18	0.18	29.88	1層	—		60
662	Ⅱ-1	O-15	0.17	0.25	29.82	1層	—		60
663	Ⅱ-1	N-15	0.28	0.1	30.00	1層	—		60
664	Ⅱ-1	N-15	0.3	0.23	29.87	—	—		60
665	Ⅱ-1	N-15	0.34	0.18	29.92	—	—		60
666	Ⅱ-1	N-15	0.24	0.33	29.76	1層	—		60
667	Ⅱ-1	N-15	0.24	0.44	29.68	1層	—		60
668	Ⅱ-1	N-15	0.24	0.4	29.76	1層	—		60
669	Ⅱ-1	N-15	[0.3]-0.4	0.32	29.76	1層	—	土師質土器小皿底面片出土 灯明皿か	60
670	Ⅱ-1	N-15	0.26+0.36 南:0.2 北:0.26	北:-0.37	北:29.72	1層	—	南・北側の2穴 北側詳細不明	60
671	Ⅱ-1	N-15	[0.3]-0.38	0.32	29.37	1層	—		60
672	Ⅱ-1	N-15	[0.4] 南:0.16+ 0.2 北:0.16+0.1	南:-0.23 北:29.25	南:29.7 北:29.72	1層	—	暗黄褐色土:ロームブロック少量、暗褐色土や中多量 南・北側の2穴	60
673	Ⅱ-1	O-15	0.35	0.52	29.45	1層	—		60
674	Ⅱ-1	O-15	0.38	0.13	29.72	1層	—	須恵器甕片出土か	60
675	Ⅱ-1	N-15	0.37+0.32 底:0.14	0.4	29.67	1層	—	底面に1穴	60
676	Ⅱ-1	O-15	0.3	0.42	29.68	1層	—		60
677	Ⅱ-1	O-15	0.32	0.46	29.65	1層	—	土師質土器小皿片・瓦質土器榑鉢片出土	60
678	Ⅱ-1	O-15	0.36	0.52	29.63	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子・暗褐色土少量	61
679	Ⅱ-1	O-15	0.26	0.34	29.70	1層	—	瓦質土器榑鉢底面片出土	61
680	Ⅱ-1	O-15	0.32+0.38 底:0.2	0.3	29.75	1層	—		61
681	Ⅱ-1	O-15	0.5 縁0.3+0.25 穴:0.14	穴:-0.16	穴:29.84	1層	—	黄褐色土:ローム粒子含む 土師質土器小皿片出土	61
682	Ⅱ-1	O-15	0.26	0.15	29.79	1層	—		61
683	Ⅱ-1	O-15	0.34	0.22	29.78	1層	—		61
684	Ⅱ-1	O-15	0.3+0.12 南:0.3 北:0.2+0.4	北:-0.2	北:29.74	1層	—	南・北側の2穴	61
685	Ⅱ-1	O-15	0.28	0.29	29.66	1層	—		61
686	Ⅱ-1	O-15	0.24+0.68	0.04	29.93	—	—		61
687	Ⅱ-1	O-15	0.24	0.3	29.65	1層	—		61
688	Ⅱ-1	O-15	0.34	0.52	29.50	1層	—		61

第3章 確認された遺構と遺物

[区:東西・南北 深さ:遺構埋込部 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	層土	重複	特記	検出
609	Ⅱ-1	O-15	0.22	0.12	29.88	1層	-		61
600	Ⅱ-1	O-15	0.17	0.11	29.89	1層	-		61
601	Ⅱ-1	O-15	0.21	0.52	29.43	1層	-		61
602	Ⅱ-1	O-15	0.22	0.16	29.91	1層	-		61
603	Ⅱ-1	P-15	0.2	0.1	29.87	1層	-		61
604	Ⅱ-1	O-15	0.38-0.3	0.34	29.70	1層	-	内耳土器片・瓦質土器磁鉢片出土	61
605	Ⅱ-1	O-14	0.22	0.1	29.92	1層	-		61
606	Ⅱ-1	O-14	0.24	0.6	29.55	1層	-	P-607と同一遺構か	61
607	Ⅱ-1	O-14	0.22	-	-	1層	-	P-606と同一遺構か	61
608	Ⅱ-1	O-14	0.27	-	-	1層	-	埋黄褐色土:ローム粒子少量, 埋褐色土微量	61
609	Ⅱ-1	O-14	0.22	0.25	29.73	1層	-	SK-37直後 埋黄褐色土:ロームブロック少量	61
700	Ⅱ-1	O-14	0.22	0.17	29.73	-	-		61
701	Ⅱ-1	O-14	0.24	0.08	29.91	-	-		61
702	Ⅱ-1	O-14	0.24-0.32	0.49	29.52	1層	-		61
703	Ⅱ-1	O-14	0.3	0.68	29.36	-	-		61
708	Ⅱ-2	M-11	0.4	0.14	30.26	2層	-	P-88と直接	34
709	Ⅱ-3	L-11	0.18	0.27	29.37	-	SK-80とは不明	SK-80と直接	32
715	Ⅱ-3	L-10	-0.2	-	-	-	SK-540とは不明		41
724	Ⅱ-1	O-15	0.35	-	-	-	-	北側の小ピットのレベルは29.81m・深30.00m	60
740	Ⅱ-1	N-16	0.23-0.17	-	-	-	-	SK-739北側掘込内	26
741	Ⅱ-1	N-16	0.18	0.04	30.06	-	-	SK-739北側掘込内	26
742	Ⅱ-1	N-16	0.12-0.16	-	-	-	-	SK-739北側掘込内	26
743	Ⅱ-1	N-16	0.33前後	0.19	29.91	-	-	SK-739北側掘込内	26
744	Ⅱ-1	N-16	0.14-0.2	0.36	29.74	-	-	SK-739北側掘込内	26

9. 2次調査遺構外出土遺物(第115・117図 表90・91・94)

2次調査区内から出土する遺構に伴わない遺物は207点である。種別毎の内訳は、土器類81点・石製品類8点・陶磁器103点、金属製品12片、銭貨3点、鉄滓2片などである。調査区ごとの内訳は、I区からは52点、II区からは13点、III-I区からは20点、III-2区からは21片、III-3区からは24片、第2次調査区内から36点が出土する。

I区からは1～6、第114図-9・第115図-6など52点が出土する。

1は須恵器裏体部片。SK-42出土-1より硬い焼成である。2～4は内耳土器。4は浅鍋である。5は砥石。6は陶器裏である。部片片であるが、器厚や残存径から大形と推定される。第114図-9は煙管片、第115図-6は「至元通宝」、その他詳細不明の銭貨が出土する。

この他、図示し得なかったが、土師器とみられる破片3片、土師質土器小皿4片、内耳土器13片、播鉢1片、詳細不明土器片7片、緑色凝灰岩1片、陶器裏4片、陶磁器7片、鉄製品5片、銭貨1片、鉄滓1片である。

土師器片は1片は口縁部～部片。器壁は厚手で、内面ヘラナデ・外面ヘラミガキ(ヨコ)を施す。1片は口縁部小片、1片は部小片である。土師質土器小皿はロク口成形か。内耳土器は胎土C類8片・D類5片。緑色凝灰岩は板状微細片か。陶器は8片が出土する。裏片4片のうち片は6と同一個体か。鉄軸を施す口縁

部微細1片・体部微細1片の磁器・産地は不明。黄色の軸を施す1片・白濁色の軸を施す1片は近代以降か。磁器は3片が出土する。胡荽草を描く体部片は肥前系か。江戸中期以降か。無文の鏡子口縁部微細片・西洋呉須で文様を描く体部微細片は近代以降か。

鉄製品は表89、鉄滓は表91に記載する。

Ⅱ区からは7～9など13点が出土する。

7の器面は赤褐色であるがは須恵器か。8は土師質土器小皿。9は砥石。

この他、図示し得なかったが、土師器体部とみられる小片1片、胎土C類内耳土器体部2片、胎土D類口縁部1片・体部1片、陶磁器4片が出土する。陶器は鉄軸・錆軸・灰白色釉の体部微細片、磁器は無文の体部微細片が出土する。何れも近代以降か。

Ⅲ-1区からは10～12など20点が出土する。

10は灰色の色調の内耳土器。11は須恵系陶器か。12は石製品未製品か。第114図-10は刀子か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器10片、瓦質土器播鉢1片、粘土小塊1片、陶磁器4片が出土する。

内耳土器は、灰色の内耳土器は内耳部1片・口縁部1片・体部2片が出土する。胎土はC類。赤褐色の内耳土器は、胎土C類の口縁部片1片・体部2片、胎土D類の口縁部1片・体部2片が出土する。陶器は3片が出土する。褐色の軸がかかる大甕口縁部小片・暗褐色の軸がかかる大甕口縁部小片は近代以降か。柿軸に似た褐色軸を掛け分ける体部小片1片は詳細不明。磁器はコバルト色の濃みが施される1片が出土する。近代以降か。

播鉢は8条以上一単位の摺り目を施す。

Ⅲ-2区からは第117図-12・13など21片が出土する。

12は陶器。内面口縁部～外面に黒色の軸が均一にかかる。13は磁器染付の皿類。

この他、図示し得なかったが土師器とみられる小片2片、内耳土器1片、陶磁器16片が出土する。

土師器とみられる小片は、壺類体部1片・長胴甕体部1片か。内耳土器は体部片で、胎土D(少)。陶器は11片が出土する。播鉢2片は内面全面に摺り目を施すか。1片は内面に灰軸、1片は内外面に錆軸状の軸がかかる。時期・産地不明。大甕体部片1片・甕体部1片は内外面柿軸か。江戸時代中期以降とみられるが詳細不明。無軸の甕口縁部2片・体部2片、器種不明の灰軸がかかる口縁部2片・底部1片は近代以降か。磁器は5片が出土する。赤絵染付の急須とみえる注口部片1片、コバルト色の呉須で文様を描く4片である。近代以降か。

Ⅲ-3区からは第114図-11など24片が出土する。

第114図-11は煙管である。

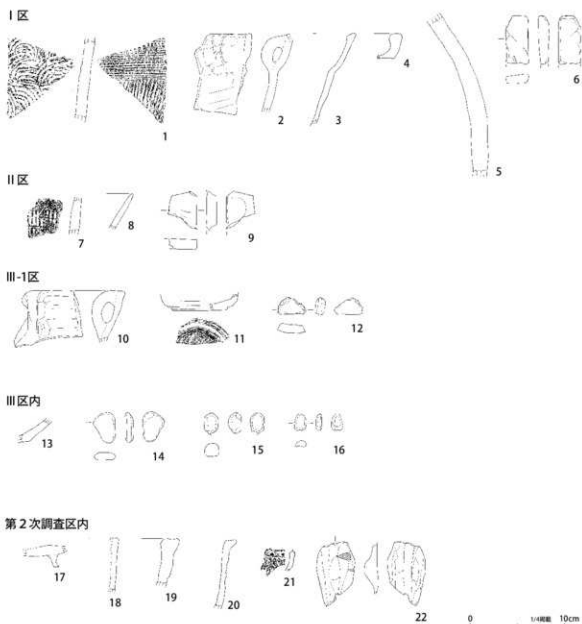
図示し得なかった出土遺物は、土師器とみられる小片2片、土師質土器小皿1片、内耳土器3片、砥石の可能性のある礫片1片、陶磁器14片、鉄製品2片である。

土師器は長胴甕体部片1片と詳細不詳の1片である。土師質土器小皿はロクロ成形の体部小片。内耳土器は、胎土C類体部片2片、D類口縁部1片である。

陶器は11片が出土する。内面灰軸・外面鉄軸の甕類底部1片は江戸時代中期以降か。錆軸の播鉢1片、無軸の甕体部片1片は時期不明。内外面に灰軸を施す口縁部4片、周縁に灰軸を施す耳皿片1片、内面無軸・外面灰軸の口縁部微細片1片、体部片1片、錆軸を施す鉢類1片は近代以降か。

磁器は3片が出土する。肥前系とみられる染付口縁部1片・底部1片は江戸時代中期以降か。プリントの染付は現代とみられる。

第3章 確認された遺構と遺物



第 62 図 遺構外出土遺物実測図

表 47 遺構外 (I 区) 出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 底盤部 壁	長: 7.4 幅: 1.5 厚: 1.5	内 同心円状あて瓦版 外 平行線あて、赤瓦目	内 灰色 外 緑灰色	灰泥部・土質部 目録: I-4-7	小片	013K2 01-2
2 内瓦上部	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: 0.9, 0.7	内 ヘラナガ 内瓦筒合部: 器ナガ 断面痕有る 外 磨減 断面: ヘラナガ	内外 濃い黄褐色	灰質土質C層 瓦	小片	013K2 1-2
3 内瓦上部	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: 0.9, 0.8	内外面 口縁部: ココナゴ 断面: ヘラナガ (コゴ) 外面スリ付者	内外 黄褐色	灰質土質B層 白色粘土 黄褐色子 瓦	1/4以下	013K2 1区-1部
4 内瓦上部	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: 1.1, 0.9	コゴナガ 外 オコガ取付者	内 濃い黄褐色 外 黒色	灰質土質C層 瓦	小片	013K2 1-2
5 底盤部 壁	口径: 1.1 底径: 1.1 器高: 1.1, 0.7	内外面実地 内 水卑にランジ状のしる 濃い粘土の付着部を挟んで 色調変化 断面痕有	内 明赤褐色 外 濃い赤褐色	灰質D層	鏡片	013K2 1-2部

番号 図例	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
6 磁石	長：3.2 幅：1.1 厚：1.0	土質・裏・胎・底 全面残存	内側 じい・黄褐色	黄緑色 黄	1/43 下	05482 I

表 48 遺構外 (II区) 出土遺物観察表

番号 図例	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
7 内瓦部 壺	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	内 ヘラナブ 外 厚さ目	内 じい・黄褐色 外 じい・黄褐色	須恵系・土師系 目野+2-5 黄	小片	05482 II
8 土師質土器 小皿	口徑：1— 胎高：(5.40)	コソロ成形	内 じい・黄褐色	土師質土器白胎 黄	小片	05482 III 跡土内
9 磁石	長：4.0 厚：1.1 幅：3.0 重：16.71	上・下・右側面残存 左側面は右側面から	内外 灰オリーブ色	黄緑 黄	小片	05482 IV 跡土内

表 49 遺構外 (III-1区) 出土遺物観察表

番号 図例	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
10 内瓦土器	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	内 内瓦部古型は胎ナブとみられるが胎縁薄く、 外 口縁部：コソナブ 口縁部：ヘラナブ等 胎分厚にスリ付着	内 黄褐色 外 黄褐色	須恵系・土師系 黄	1/43 下	05482 I-II
11 地盤部が露出か 陶器か	口徑：1— 底径：(5.40) 胎高：(5.40)	コソロ成形か 胎+胎分を伴出 胎縁 胎分剥き残り後、胎縁部をヘラナブか	内外 灰黄色	須恵系・土師系 目野+2-6 黄	小片	05482 I-II

表 50 遺構外 (第2次調査区内) 出土遺物観察表

番号 図例	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
13 土師質土器 小皿	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	コソロ成形 胎縁 胎分剥き残り未調整	内 灰黄色 外 じい・黄褐色	土師質土器白胎 黄	小片	05482 III 跡土内
14 碁石か	長：3.2 厚：0.9 幅：2.3 重：1.34	やや三角形状 黄白色 胎+土質を伴	表裏 黄褐色 黄白色	スロリア質胎山部 黄	ほぼ完全	器区
15 碁石か	長：2.3 厚：1.4 幅：1.4 重：0.18	扇形状の碁石の小破 胎+113と似る	表裏 褐色	胎質	ほぼ完全	器区
16 碁石か	長：1.9 厚：0.7 幅：1.3 重：1.81	円形状の小碁 碁石の可能性あるか	表裏 じい・黄褐色	黄緑色	ほぼ完全	器区
17 陶器 高杯	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	コソロ成形 内外面 内れ付着	内外 灰黄色 外 褐色	須恵系・土師系 目野+2-6 黄	小片	05482 IVa
18 土師質土器 瓶類か	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	内 胎高 外 コソナブか	内 褐色 外 じい・黄褐色	土師質土器白胎 黄	小片	05482 IVb
19 陶器 鉢類か	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	コソロ成形 口縁部：コソナブ 胎厚か	内 じい・黄褐色 外 褐色	黄緑色 黄	小片	05482 5.6
20 陶器 壺	口徑：1— 底径：1— 胎高：(5.40)	内 口縁部：コソナブ 下底：胎縁部 外 口縁部：コソナブ 胎縁剥落	内 じい・黄褐色 外 褐色	黄緑色 黄	小片	05482 IVc
21 灰褐色 陶器か	長：5.2-4 幅：1.8	横方向の胎土層部に内側の付文を胎材 基状の文様を伴す 方向不明 胎縁部剥落か	内外 黄褐色	今や線系 黄	小片	05482 6
22 灰褐色 陶器	長：6.9 幅：4.6	胎高か 胎+胎縁が胎材の縁の胎縁に胎土を胎り付けて作製か	内外 褐色	今や線系+16 黄	表裏一面	05482 8

鉄製品は釘状の小片である。表 90 に記載する。

III区内からは 13～16 の 4 点が出土する。

13 は土師質土器小皿片である。体部が開く器形か。14～15 は碁石の可能性があらうか。14 は SK-113 と似る。16 は SK-4・SK-114 と似る。

第2次調査区内からは 17～22、第115図-2、陶磁器など 76 点が出土する。17～22 は器種は判然としない。

17 は須恵系の可能性もあるが判然としない。18 は土師質の可能性が残る。19 は瓶類か。21・22 は塑像の一部とみられる。不掲載ではあるが、折縁皿とみられる破片、縁線が施される破片、内面灰赤、外面鉄軸の破片、碗類の高台などが出土する。第115図-2 は「開元通宝」である。

この他、図示し得なかったが、土師器2片・内耳土器6片・不明土器7片・粘土塊1片・砥石片2片・板碑とみられる凝灰岩片1片、陶磁器47片、鉄製品4片、鉄滓1片が出土する。

土師器は坏体部・底部か。内耳土器は、胎土C類体部3片・底部1片、胎土D類口縁部1片・体部1片が出土する。粘土塊は焼成は良好ではなく脆い。砥石は㊦・㊧。

陶器は22片が出土する。甕類は5片が出土する。何れも口縁部小片である。香炉口縁部の可能性のある口縁部微細片は内外面に灰軸を施す。連房式登窯期か。在地系の練鉢とみられる口縁部微細片は内外面に灰白軸を施す。時期不明。内外面に灰軸を施し陰刻の一部が観察される体部微細片は近世か。志野様式とみられる口縁部小片・体部小片は詳細不明。灰軸を施す微細片7片、灰軸及び鉄軸を施す微細片2片、内面灰軸・外面踏軸を施す微細片2片、踏軸を施す微細片1片、柿軸を施す微細片1片は詳細不明。近代以降の可能性も残る。

磁器は20片が出土する。8片は淡藍色の染付。江戸時代中期以降の肥前系とみられる。西洋呉須の染付3片、ペロ藍の印判手1片、無文6片、色絵2片は近代以降か。

鉄製品・鉄滓は表89・91に記載する。

第3節 3次調査

1. 調査の概要

3次調査は粟宮宮内遺跡調査区の北東辺部にあたるA・B・C・D・2区の5地区の調査を実施した。A・B・C区は、主に、溝状遺構・井戸跡・直交方向に重複する方形の土坑群、散在する地下式坑が確認される。D区は溝状遺構、ピット群を主体とする遺構分布である。

A区は、2次調査2-II区北東側にあたる。SD-19は2次調査SD-19に連繋する遺構とみられ、位置・形状・主軸が似る。但し、底面の傾斜は、2次調査区SD-19では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区SD-19の底面レベルからは傾斜は読み取れない。

B区は2次調査2-III-1区南東側・2-III-2区北東側、C区は2次調査2-III-3区北東側にあたる。

D区は1次調査1-I区北半部の北東側にあたる。SD-12・13・14は1次調査SD-12・13・14に連繋する遺構とみられ、位置・形状・主軸・底面の傾斜などの特徴が似る。

D-2区は、粟宮宮内遺跡調査区南東端部にあり、1次調査1-I区南半部の北東側にあたる。道標設置の際、工事立会調査を行った。精査の結果、遺構・遺物の確認はなく、本記載をもって報告とする。

第63図覆土1～3層は自然堆積層である。

A～D区出土の遺物は小片、かつ、時期幅の大きく、帰属等是不詳である。このため、遺構の重複関係については、土層の堆積状況を記す。

2. 地下式坑

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は4基である。A区1基、B区3基である。

A区SK-214については、テラス状の部分が竪坑とは判断しづらいが、現地調査の所見から本節に記載する。

B区SK-SK-374は間層を挟まず、天井崩落層とみられる5層が堆積する。廃絶後早い段階で崩落、或いは、埋め戻された可能性が考えられようか。

B区SK-338は竪坑状の突出部が2箇所確認されるが、何れも壁面はオーバーハングする。また、主室と

みられる方形の掘り込みも壁面のオーバーハングの痕跡が認められる。

3. 土坑に記載するC区SK-485は袋状の地下空間が穿たれる。地下式に類する遺構の可能性もあろう。

出土遺物は総じて少ないが、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、鉄製品等が出土する。また、他遺構の遺物の出土状況は、後世の混入等による可能性が指摘でき、地下式坑についても、同様

の判断が可能と考えられる。このため、出土層位等は確認し得ず、遺構に帰属する資料であるが判断としない。

遺物の出土状況は不詳な点が多いが、A区SK-214からは古瀬戸中期とみられる瓶類底部が出土する。SK-374からは凝灰岩片32片が出土する。切石状のものを含み、被熱による赤色変化・ススの付着が認められる。何らかの石材が廃棄されたものか。

B区SK-374については、SD-364との重複が確認される。出土遺物については、SD-374接合遺物にSD-364出土破片が接合する遺物があるなど、多くは後出するSD-364に帰属する可能性が高い。また、出土する磁器の中に、廉価品或いは粗拙とみられる同文様の染付が複数組確認される。SD-364出土の陶器坏も粗拙とみられ、遺物の出土状況からもSD-364への帰属の可能性が指摘される。

(2) 地下式坑

第214号地下式坑 (SK-214) (第64・69図 図版八)

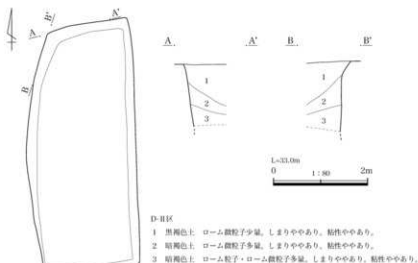
位置 A区R-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-214→SK-217か。**形状・規模・主軸** 円形状の掘り込みの南側がテラス状に掘り込まれる。南北の全長(3.0)m、円形の掘り込み部の径1.36m前後・深さ1.15m前後・レベル28.4m前後m、南側のテラス状部の東西約0.76m・南北(0.8m)・深さ0.4m前後・レベル29.2m前後である。主軸はほぼ磁北に沿う。**覆土** 12層を確認した。図中SP-Bトーン部の覆土は確認し得なかった。7・11層は黒色土層。テラス状部底面レベルに相当する10層以下はローム主体の堆積層である。崩落層か。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。石製品・礫2片、陶器1片である。

出土遺物 1は陶器瓶類。古瀬戸中期か。底部は厚く台状に開く。

この他、図示し得なかった出土遺物は石製品・礫は2片である。このうち1片は緑色石岩小片である。板碑片か。

第338号地下式坑 (SK-338) (第65・69図 表52 図版九)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SK-385→SK-338の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東辺は円形状、西片は方形の東西に長い形状である。北壁中央部、南壁東寄り突出する。長形の部分は主室、突出部は竪坑か。主室の壁面は30.7m付近で緩やかに屈曲する。竪坑の壁面はオーバーハ



第63図 D-II区全体図

グして立ち上がる。底面は概ね同レベルであり、主室と竪坑の境に段差や傾斜はなく、平坦に繋がる。主室の規模は東西約2.0m、南北は東片約1.1m・西辺約0.7m、主軸N72°・Wである。竪坑の規模は、北壁突出部の幅(東西)約0.5m・奥行き(南北)約0.4m、南壁突出部の幅(東西)約0.5m・奥行き(南北)約0.37mであり、概ね、同大・同形状である。**底面** ローム層を掘り込む。主室と突出部の底面に高低差は観察されない。遺構確認面からの深さは、主室・竪坑とも約1.2m、レベル29.44mである。**覆土** 主室部分の11層が確認される。底面・竪坑部分の層序は確認し得なかった。11層の暗黄褐色土は天井等の崩落土か。**遺物出土状況** 覆土中から7片が出土する。土器類5片、陶磁器2片である。

出土遺物 1は須恵器甕体部片、2・3は土師質土器小皿である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類3片、陶磁器1片である。

土器類は、内耳土器2片が出土する。口縁部(胎土D)1片・体部(胎土C)である。体部片はオコゲが付着する。

陶磁器は2片が出土する。陶器類1片、磁器1片である。陶器類は無釉。近世後半以降か。磁器は朱色釉で文字や文様を施し、体上半は螺鈿状の光沢を持つ。近代以降か。

第370号地下式坑(SK-370) (第66図 図版八)

位置 B区K-13グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** SD-371→SK-370の順に掘り込まれる。SK-372とは不詳である。**形状・規模・主軸** 北壁中央部が突出する「T」字状の部分は主室、南壁中央部の方形状の突出部は竪坑か。主室と竪坑の堺部は約0.25mの高低差を持つが、竪坑下段の傾斜によって区画は緩やかである。主室とみられる「T」字状の部分東西に長い方形状である。底面の規模は、東西(2.9)m以上、南北1.1～1.3m、突出部を含めた南北約1.7m、突出部の東西約1.5m・南北約0.6m、主軸N66°・Wである。竪坑とみられる方形状の部分は東西に長く、2段に掘り込まれる。下段は緩やかに傾斜する。上・下段を含めた規模は、東西約1.0m・南北約0.8mである。上段部の東西は約0.5m、下段部の東西は0.2m前後である。**底面** ローム層を掘り込む。主室と突出部の底面に高低差は観察されない。遺構確認面からの深さ約0.95m、レベル30.05mである。竪坑上段までの深さは0.7m前後、レベル30.3m前後、下段までの深さは0.8m前後、レベル30.2m前後である。**覆土** 主室部分の9層が確認される。9層はローム塊の堆積が目立つ。主室突出部、竪坑部の覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第374号地下式坑(SK-374) (第67・69～71・114・118図 表53・90・92・94 図版九・一四)

位置 B区M-13グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-374→SD-364の順に掘り込まれる。SD-376とは不詳である。**形状・規模・主軸** 現状、「L」字状の掘り込まれる。主室・竪坑は重複により判然としにくい。底面レベルは、北側の方形状の部分の北壁際で29.638m、南側の長方形の部分で29.592～29.51mであり、0.05～0.13mの高低差が認められる。底面に明確な区画は確認されないが、南側の長方形の部分は主室、北側の方形状の部分は竪坑と考えられる。西壁北寄りの破綻で示した突出部は主室に関連するか。主室は東西に長い形状か。底面の規模は東西(1.8)m・南北(1.0)m、遺構確認面からの深さ1.35～1.44m、底面レベル29.592～29.51m、主軸N67°・Wである。竪坑とみられる方形状部の底面の規模は東西(1.0)m・南北(1.0)m、遺構確認面からの深さ約1.3m、底面レベル29.638mである。**底面** ローム層を掘り込む。主室と竪坑は0.05～0.13mの傾斜によってなだらに取り付く。**覆土** SP-D:1～5層が確認される。5層はロームブロックを多量に含み、天井崩落層と判断される。間層を挟まず天井は崩落か。**遺物出土状況** 覆土中から718片が出土する。SK-374は後出する

SD-364により覆土の多くを失っており、これらはSD-364に帰属する可能性が極めて高いが、残存する本遺構覆土から出土する遺物を伴う可能性が残されており、本遺構に記載する。SD-364-15はSD-364・374重複部からの出土が確認されておりSD-364に記載する。

出土遺物は、土器類271点、石製品・礫79片、製鉄関連遺物7片、陶器164片、磁器81片、金属製品21片、鉄滓7片、その他88片である。

第69図-19はSD-364出土の破片が接合する。接合破片の1片を除きSK-374出土であり、SK-374に記載する。 **出土遺物** 1～3は縄文土器。1は山形の口縁部か。阿玉台式か。胎土に近金雲母を含む。2は無文に沈線で文様を描出か。後期初頭か。3は地縄文に集合沈線と波状沈線が垂下する。堀之内式か。4は須恵器裏体部片。外面に自然軸がかかる。5は須恵器高台付き坏か。器面は黄褐色。6は土師器高坏。7は土製品、或いは、手捏ね土器か。口縁部は不整であり、端部は細くなる。手捏ね土器口縁部とみられるが、土師器鉢類の積み上げ痕の可能性も残る。器高は低く、土製品口縁部とすれば皿形か。10は土師器か。3個前後で脚の役割を果たすか。上面・裾端部は磨滅する。上面は一方へ傾斜する。複数個で使用の場合、傾斜の下方が内側を向くか。8・9は土師質土器小皿。11～20は内耳土器。11以外は器高5.0cm前後。12～14は内耳が残存する。内耳の位置は、12・14は口縁部下、13は口縁端部下である。15は補修孔が穿たれる。17～19は出土遺物中接合状況が良好な破片である。19はSD-364の破片が接合する。20は底部。中央部付近に花卉文を刻印する。17～19は何れも器高5.0cm前後である。器高5.0cm前後のものは口径30.0～35.0cm前後が主体とみられる。口縁部の残る12～19のうち、15・17以外は口縁端部が角形状。16は胎土D、16以外は胎土Cである。21・22・24・25は瓦質土器鉢類か。22は器高浅い。24・25は手焙りか。26は粘土塊。扁平な小片である。27～31は砥石片。33は環状の不明石製品、34は小礫。形状が礫石に似る。34はこね鉢か。22は陶器裏口縁部。35は陶器鉢鉢。同一個体とみられる2片が出土する。図上で復元図示する。36・37は陶器盃。何れも内外面に灰釉を施す。36はグレーがかかった色調であり、同様の形状・軸調の破片13片が出土する。36他、3個体分か。37はオリーブ色あり、同様の形状・軸調の破片4片が出土する。4個体分とみられる。38は陶器皿。39は片口鉢。第118図-1～6は磁器である。1は小丸碗。肥前系と判断されるが判然としなない。2・3は中丸碗。2はSK-489不掲載遺1片、SD-374出土の14片と同柄とみられる。近世末葉～近代初頭か。3は西洋呉須の印判手。近代か。4は半筒碗。5・6は皿類である。第114図-5は鉄製品刀子か。第114図-6は煙管である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類251片、石製品・礫71片、製鉄関連遺物7片、陶器158片、磁器78片、鉄製品17片、煙管片1片、20世紀の工業化製品とみられる87片が出土する。

土器類は、縄文土器1片、須恵器3片、土師器1片、土師質土器小皿18片、土師質土器9片、内耳土器195片、瓦質土器79片、粘土塊22片が出土する。

縄文土器は、地縄文に複数の沈線を施す小片。後期初頭～後期前葉か。須恵器は裏面部1片・体部2片であり、何れも外面に平行叩きを施す。土師器は長胴裏体部片か。土師質土器小皿は微細片が多く、小皿形以外を含む可能性は否めない。体部17片・底部1片であり、磨滅する。体部はロク口成形、底部は回転糸切り未調整か。土師質土器は体部9片。詳細は不明である。内耳土器は口縁部35片（胎土C29片・D6片）・口縁部～体部14片（胎土C9片・D5片）・口縁部～体部の内耳付着部6片（うち2片は内耳剥落 胎土C5片・胎土D1片）・内耳1片（胎土C）・体部14片（胎土C10片・D4片）・体部～底部17片（胎土C10片・D7片）・底部108片（胎土C102片・D6片）である。接合関係のない同一個体片が含まれよう。器高の判別が可能であるのは54片である。54片とも器高5.0cm前後である。また、54片中、胎土C42片・胎土

D12片である。内耳の残存する6片は13同様、内耳は口縁部下に付く。瓦質土器は、第70図-22と同一とみられる2片、擂鉢2片、裏口縁部2片、小片・微細片69片が出土する。擂鉢はすり目が重複する1片、5本以上一組のすり目1片である。粘土塊のうち1片は第70図-26状の扁平で端部を持つ小片である。26とは接合しない。

石製品・礫は、剥片3片、砥石8片、硯1片、凝灰岩片36片、小礫4点、破砕礫14片、スレート・コンクリ5片が出土する。

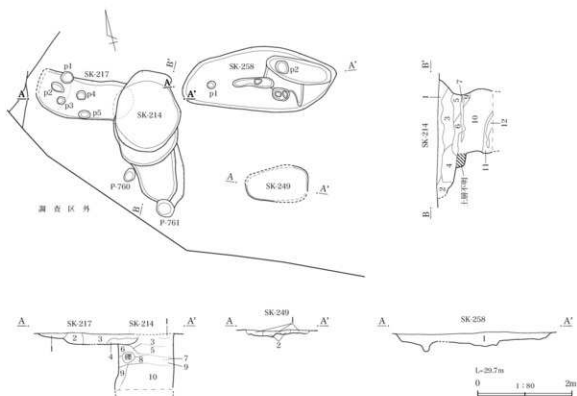
剥片のうち1片は玉階である。凝灰岩片のうち4片は切石状であり、径3.0cm前後の未貫通孔を持つ被熱により赤色変化する1片、上面波状に成形しススの付着顕著な2片、ススの付着する1片である。この他、被熱し赤色変化するもの17片、ススが付着するものは1片である。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品が7片出土する。1片は端部片であり、溶解したガラス質の付着がみられる。3片は微細片である。器厚は1.0cm前後・1.5cm前後・2.0cm前後である。

陶器は、陶器158片が出土する。無軸の破片は9片であり、これ以外は施軸陶器である。何れも近世後半以降とみられる。

無軸の陶器は、すり鉢体部片9片、大裏体部1片である。すり鉢片は外面ヘラナデ、大裏片は粘土組織み上げ後ヘラナデを施す。

施軸の陶器は、擂鉢9片、盃類21片、盃・碗・皿類41片、皿類17片、鉢類29片、壺・甕類19片、瓶類3片、徳利5片、詳細不明の微細片5片である。すり鉢は、9本以上一組のすり目（すり目間0.3cm前後）を施す6片、7本以上一組のすり目（すり目間0.3cm前後）2片、8本以上一組のすり目（すり目間0.2cm前後）2片は同一個体か。この他、第70図-35同様の見込みの1片が出土する。盃は、第71図-36に似た口縁部8片、体部2片、底部3片が出土する。3個体分以上の破片とみられる。第71図-37に似た口縁部3片・底部1片は4個体分。数個一揃えか。この他、内外面白濁軸1片、内面白濁軸・外面灰軸1片、内面灰軸・外面～口端部白濁軸3片、内外面灰軸2片が出土する。盃・碗・皿類は小片11片・微細片31片が出土する。小片は、灰軸に鉄絵を施す1片、内面白濁軸・外面灰軸に鉄絵を施す1片、貫入の顕著な灰軸1片、内面灰軸・外面鉄軸を縞状に施す4片、内面灰軸・外面鉄軸1片、内面白濁軸・外面灰軸1片、灰軸に鉄軸を直す1片である。微細片は、内外面灰軸（口縁部7片・体部14片・底部5片）、灰軸に鉄絵を施す2片、灰軸に灰褐色釉で文様を施す1片、灰軸に外面鉄絵の1片、内面白濁色釉・外面淡褐色釉1片である。皿類は、灰軸を施す口縁部2片・体部3片・底部1片、灰軸に貫入が著しい口縁部4片、灰軸と鉄軸をかき分ける2片、内面緑色オリーブ釉・外面灰軸を施す口縁部2片、外面口縁部に稜を持つ灰軸片2片、見込みに稜を持つ灰軸片1片である。鉢類は、3片は香炉、2片はこね鉢、9片は片口鉢、3片は鉢類か。香炉とみられる3片は、灰軸を施す口縁部片、灰軸に口縁端部に鉄軸を施す口縁部片、藍色釉の底部片である。こね鉢は、灰軸が垂下し、外面口縁部下に稜を持つ小片、灰軸1片である。片口鉢は、黄褐色釉の口縁部片・体部片9片、暗黄褐色釉の口縁部・体部片3片である。第71図-39に口縁部の形状が似るが香炉の可能性も否めない。鉢類は黒褐色釉を施す底部2片、藍色釉を施す体部1片、玉縁状の口縁部片7片が出土する。口縁部は、灰軸を施し体下位無軸の3片（うち2片は同一個体か）、灰軸を施す2片（同一個体か）である。壺・甕類のうち18片は小型品か。外面灰軸（緑色オリーブ）を施し肩部に3条の沈線が巡る3片、柿軸を施し肩部に鋭角な稜を持ち器壁の薄い13片、内面灰軸・外面鉄軸の2片である。この他、底部回転ヘラナデ後高台を付す黄褐色釉片1片である。瓶類は内面白濁軸・外面灰軸の3片が出土する。徳利は外面柿軸び鉄軸が垂下する5片が出土する。詳細不明の微細片は底部2片、灰軸の見える1片を含む。



SK-214

- 1 褐色土 ローム微粒子・ローム粒子含む。同化物粒子少量。しまりなし。粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム微粒子多量。ローム粒子少量。しまりなし。粘性なし。
- 3 暗褐色土 ローム微粒子中や多量。ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。粘性なし。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。粘性なし。
- 5 暗黄褐色土 ローム微粒子・ロームブロック含む。ローム粒子少量。しまり強い。粘性強い。
- 6 黄褐色土 ローム微粒子中や多量。ロームブロック多量。しまり強い。粘性強い。
- 7 黒色土 ローム粒子少量。しまり強い。粘性強い。
- 8 暗褐色土 ローム微粒子少量。しまり強い。粘性強い。
- 9 暗黄褐色土 ローム微粒子多量。ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。
- 10 黄褐色土 ロームの地山崩落部か。しまりなし。粘性強い。
- 11 黒色土 ローム微粒子少量。しまりなし。粘性強い。
- 12 黄褐色土 ロームの地山崩落部か。しまりなし。粘性強い。

SK-217

- 1 褐色土 ローム微粒子多量。ローム粒子少量。しまり強い。粘性強い。
- 2 暗黄褐色土 ローム微粒子多量。ローム粒子含む。しまりなし。粘性強い。
- 3 暗褐色土 ローム微粒子含む。ローム粒子少量。しまりなし。粘性なし。
- 4 暗黄褐色土 ローム微粒子含む。ロームブロック少量。しまりなし。粘性なし。

SK-249

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりあり。粘性中やあり。
- 2 黒色土 泥丸。

SK-258

- 1 暗褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック多量。しまり強い。粘性なし。

第64図 第214号地下式坑・第217・249・258号土坑・第760・761号ピット実測図

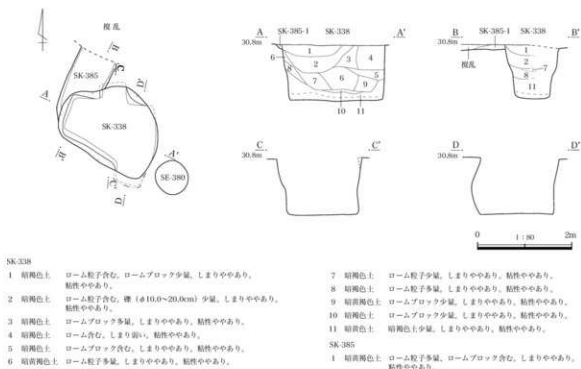
磁器は染付78片が出土する。

肥前系は64片が出土する。小丸碗2片、中丸碗20片、丸碗類とみられる細片15片、半筒碗18片、碗・皿類4片、皿類5片である。

小丸碗は、無文1片、外面に簡素な文様を施す1片である。何れも近世後半以降か。

中丸碗は20片が出土する。近世後葉とみられる破片は3片である。格子目に篋文様を描き見込みに崩れた五弁花文を配する1片、竹・笹・菊・人物を描き見込みに五弁花文を配する2片である。近代末葉とみられる破片は1片である。見込みに卒うじて五弁花文とみえる文様を配する底部片である。近世後葉～近代初頭とみられる破片15片である。このうち14片は第118図-2とで同柄である。口縁部～底部2片・口縁部3片・体部5片・体～底部4片である。このうち、1片は底面に文様を付さない。1片は網目文様を描き、

第3章 確認された遺構と遺物



見込みは無文である。近世後半以降とみられる 1 片は、網目文様を配し、見込みを欠損する。

丸縁類とみられる細片は口縁部 5 片・体部 2 片・底部 3 片が出土する。何れも近世後半以降とみられる。口縁部片は第 118 図-2 と同柄とみられる 2 片・篋文様 1 片・網目文様 1 片・文様不詳 1 片である。体部片のうち 1 片は網目文様か。底部片のうち 1 片は見込みに文様を配す。近世後半か。

半筒碗は第 118 図-4 の他 18 片が出土する。近世後半とみられる破片は 5 片が出土する。見込みの五弁花文を配する。何れも草花文であるが、4 片は同柄か。近世末葉～近代初頭とみられる破片は 5 片が出土する。見込みに文様を付さない。3 片は網目文様を施す。2 片はダミで草花文を描く。近世後半以降とみられる破片は 8 片が出土する。口縁部 2 片、体部片・底部 2 片である。口縁部片のうち 1 片は外面無軸、内面上位の帯状に巡る斜格子文の中に間隔をおいて花菱文を配する。四方禪を意図か。3 次調査区内出土第 121 図-25 と同種か。体部片の内 1 片は草花文か。

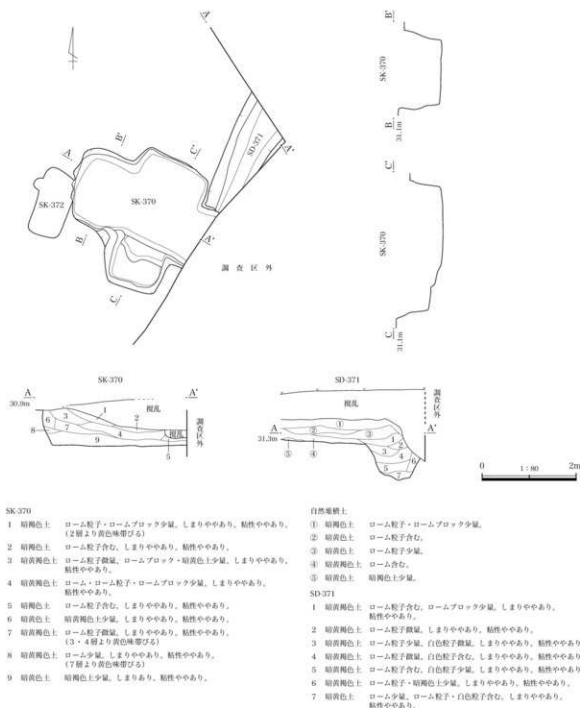
碗・皿類細片は、口縁部 1 片、底部 3 片が出土する。口縁部は無文部とみられる。底部は見込みにダミで五弁花文状の文様を配する。近世末葉～近代初頭か。

皿類は 5 が出土する。近世後半以降とみられるのは 2 片であり、第 118 図-5、2 次調査区遺構外第 117 図-13 と同柄の口縁部片 1 片である。近世末葉～近代初頭とみられる破片は 2 片である。第 118 図-6 の他、文様不詳の 1 片である。近代以降とみられる 1 片は無軸である。

瀬戸・美濃系とみられる破片は 1 片である。小型の碗類で、外面に山水図風の文様を描き、見込みは無文である。近代初頭か。

産地不明の破片は 14 片である。半筒碗 1 片、碗・皿類 7 片、皿類 3 片、瓶類 3 片である。

半筒碗は蛸唐草を施す。近代か。碗・皿類のうち 4 片は近世後半以降か。内面に半円形の菊花文様を描く 1 片を含む。3 片は近代か。2 片はコバルト呉須の印判手である。皿類は近代か。西洋呉須の草花文 1 片、



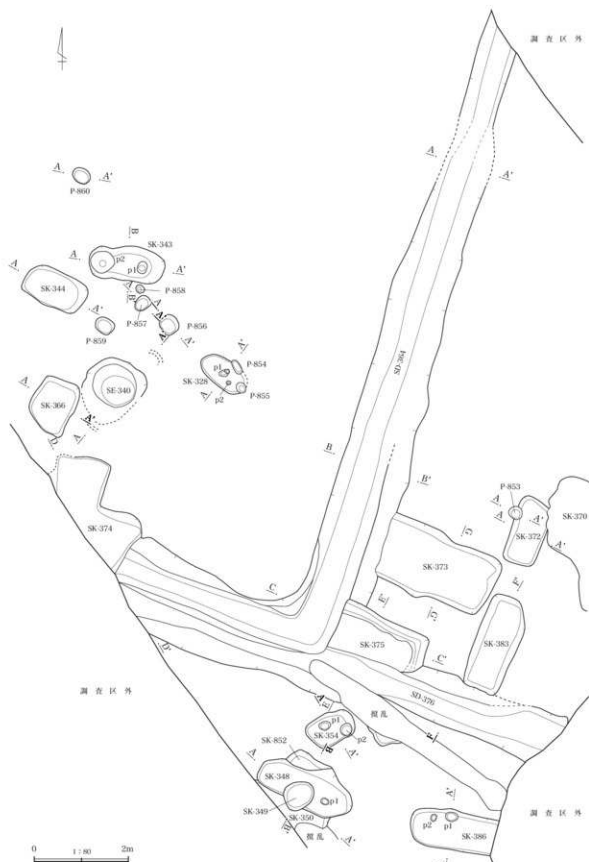
第 66 図 第 370 号地下式坑・第 371 号溝状遺構実測図

コバルト呉須の印判手 2 片である。瓶類は近世後半以降、或いは、近代以降か。3 片のうち 2 片は簡素な文様を施す。同一個体か。

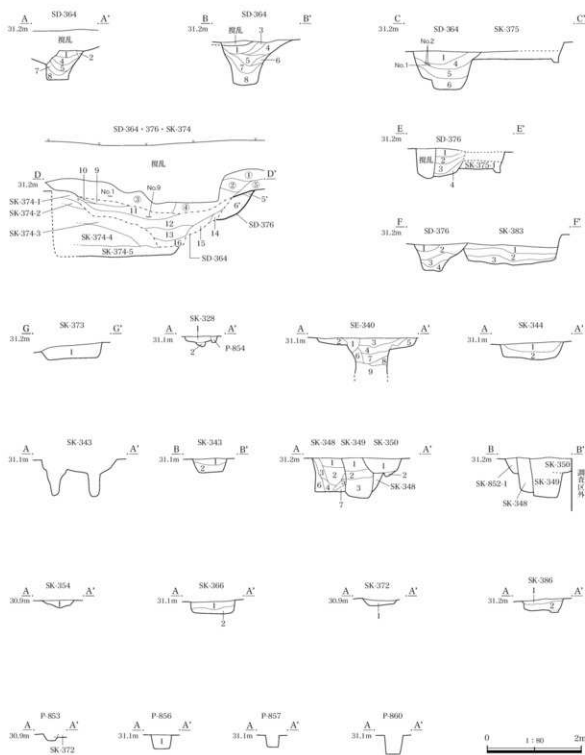
鉄製品は詳細不明な小片 17 片が出土する。煙管片は微細片である。表 90 に記載する。

鉄滓 7 片は表 92 に記載する。

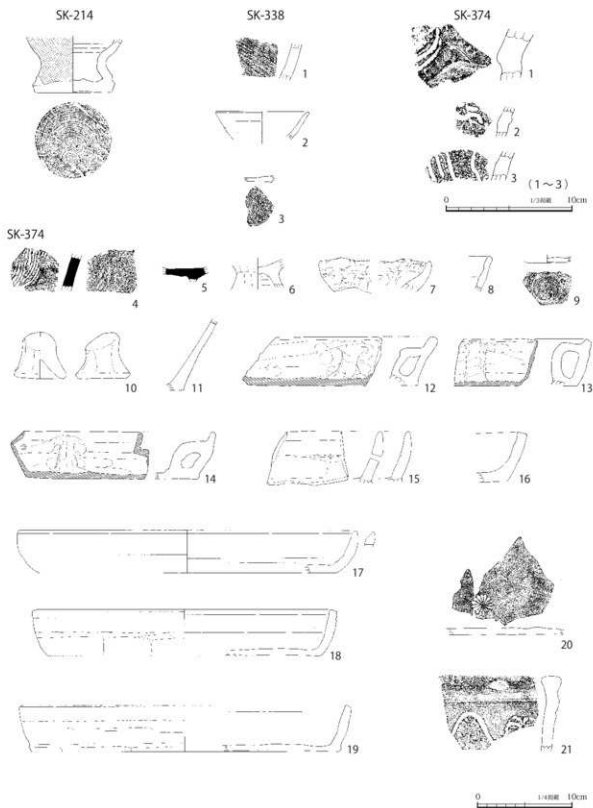
その他、20 世紀の工業化製品とみられる 88 片が出土する。巴文の小型の瓦 1 片、陶器鉢類 15 片 (同一



第 67 図 第 374 号地下式坑・第 364・376 号溝状遺構・第 340 号井戸跡・第 328・343・344・348～350・354・366・372・373・375・383・386・852 号土坑・第 853～860 号ビット実測図実測図

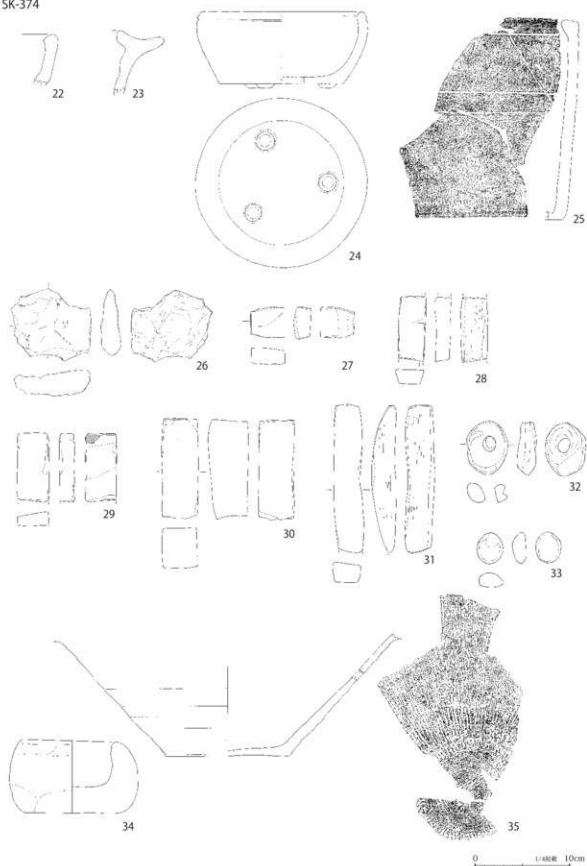


第68図 第374号地下式坑・第364・376号溝状遺構・第340号井戸跡・第328・343・344・348～350・354・366・372・373・375・383・386・852号土坑・第853・854・856・857・860号ピット実測図



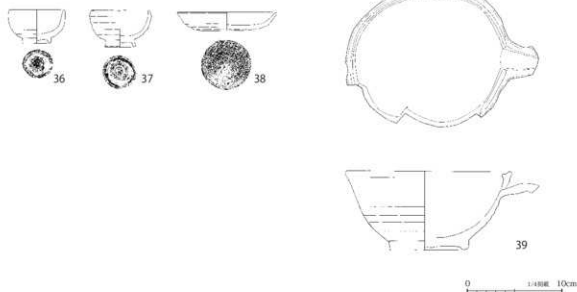
第 69 図 第 214・338・374 号土坑出土遺物実測図

SK-374



第70図 第374号土坑出土遺物実測図(1)

SK-374



第71図 第374号土坑出土遺物実測図(2)

表51 第214号地地下式坑出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 陶器 破片	口径：— 底径：8.2 器高：15.7	内面 オリーブ色の灰緑色の灰土層上まで感下する。磨かれた硝 面は多い。露する露物は白色変化する。 内面 底面に灰緑色の磨り跡がある。底面：加輪未切り。引き跡が 4行目に灰緑色の付着がみられる。	内外 灰白色	陶器土群 Ⅱ	底面残存	05183 SK214

表52 第338号地地下式坑出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 陶器 壺	口径：— 底径：— 器高：14.6	内 ヘラナダ 外 平打向き	内 黄灰色 外 灰色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	小片	05183 R05SK338
2 土師質土器 小皿	口径：10.6 底径：— 器高：13.8	口の口上上げ 内面 磨滅顯著	内 じい・黄褐色 外 黄褐色	土師質土器A群 Ⅱ	小片	05183 R05SK338
3 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：10.7	口の口上上げ 底面 加輪未切り	内外 じい・黄褐色	土師質土器土群 Ⅱ	小片	05183 R05SK338

表53 第374号地地下式坑出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	残存 状況	備考
1 陶器 壺	口径：— 底径：— 器高：14.6	内 木口加工によるヘラナダ一回心内状みて直線 外 平打向き 自然磨り中心	内 黄灰色 外 じい・黄褐色	灰土部・土器部 C+1群+1+2+6+7 Ⅱ	小片	05183 SK274
2 灰土部 黄打付土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	口の口上上げ 内面 加輪ヘラナダ 磨滅顕著	内外 じい・黄褐色 Ⅱ	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	小片	05183 SK274
3 土師質土 器高：13.2	口径：— 底径：— 器高：13.2	外 脚縁合部 内 ヘラナダ (9.3)	内外 じい・黄褐色 Ⅱ	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	片・脚 縁合部片	05183 SK274
4 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：13.8	底面に灰土を若干塗りあげて作成か。内面にじい状の磨滅が残る。 口縁部には不要で内面磨滅顯著。外面平磨	内 黄褐色 外 褐色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	1/4以下	05183 SK274
5 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：13.8	口の口上上げ	内外 褐色	土師質土器土群 Ⅱ	小片	05183 SK274
6 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：14.9	口の口上上げ 底面 加輪未切り土器部 磨滅	内外 褐色	土師質土器土群 Ⅱ	小片	05183 SK274
7 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	上面：磨滅し平磨 磨滅部 磨滅 内 ヘラナダ (9.3) か 外 ヘラナダ (9.3) か 内外面に土器磨滅顯著	内 赤褐色 外 褐色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374
8 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	内 ヘラナダ 外 加輪未切り土器部 磨滅	内 黄褐色 外 褐色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374
9 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	内 ヘラナダ 外 加輪未切り土器部 磨滅	内 黄褐色 外 褐色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374
10 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	内 ヘラナダ 外 加輪未切り土器部 磨滅	内 黄褐色 外 褐色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374
11 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	内 ヘラナダ 外 加輪未切り土器部 磨滅	内 黄褐色 外 褐色	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374
12 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	内 以縁部：コウツダ 内耳縁合部：磨滅部 外 以縁部：コウツダ 係部：ヘラナダ 内外面 スス材質	内外 じい・黄褐色 Ⅱ	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374
13 土師質土 器高：14.9	口径：— 底径：— 器高：14.9	内 以縁部：コウツダ 内耳縁合部：磨滅部 外 以縁部：コウツダ 係部：ヘラナダ 内外面 スス材質	内外 じい・黄褐色 Ⅱ	灰土部・土器部 I群+2+6 Ⅱ	ほぼ全存	05183 SK-374

第3章 確認された遺構と遺物

(単位:cm, 尺)

番号 遺構	寸法	特徴	色調	加工 状況	残存 状況	備考
14 西耳	口径: 一 底径: 一 器高: (15.0)	内 口縁部: ココナダか、内耳縁部部 附縁部 外 口縁一部厚部部: ココナダ 体部: ヘラナダ 縦線孔1個付着 孔左側に斜に付るとみられる孔を縦線状の痕跡にスズ付着 内表面 スズ付着	内 じい・黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器土器 片	1/6	01A0 0B74
15 西耳	口径: 一 底径: 一 器高: (15.0)	内 ココナダ 外 口縁部: ココナダ 体部: ヘラナダか 外縁部部: 硬化 縦線孔右側に付るとみられる孔を縦線状の痕跡にスズ付着	内 灰褐色 外 黒色	瓦質土器土器 片	小片	01A0 0B74
16 西耳	口径: 一 底径: 一 器高: (15.0)	内 ココナダ 外 口縁部: ココナダ 体部: ヘラナダ スズ付着	内 じい・褐色 外 灰褐色	瓦質土器土器 片	小片	01A0 0B74
17 西耳	口径: (15.4) 底径: (11.4) 器高: 15.3	内 ココナダ 外 口縁部: ココナダ 体部: ヘラナダか、硬化 欠陥部に付着する。縦線孔上部に付着	内 じい・黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器土器 片	1/2	01A0 0B74
18 西耳	口径: (16.0) 底径: (12.6) 器高: (15.5)	内 ココナダ 外 口縁部: ココナダ 体部: ヘラナダ	内 じい・褐色 外 じい・黄褐色	瓦質土器土器 片	1/2	01A0 0B74
19 西耳	口径: (13.4) 底径: (10.4) 器高: 14.9	内 ココナダ 外 口縁部: ココナダ 体部: ヘラナダ 附縁部	内 灰褐色 外 じい・黄褐色	瓦質土器土器 片	1/3	01A0 0B64 0B74
20 西耳	口径: 一 底径: 一 器高: (16.0)	縦部中央付近にみられる 短年の花草文を彫刻	内外 灰褐色	瓦質土器土器 小片	01A0 0B74	
21 瓦質土器 鉢蓋	口径: 一 底径: 一 器高: (18.0)	外縁 直線の文様部に花草文を彫刻する	内 褐色 外 オリーブ色	瓦質土器土器 片	小片	01A0 0B74
22 瓦質土器 鉢蓋	口径: 一 底径: 一 器高: (15.5)	ココナダか 小片2片 同一個体か	内外 赤褐色	瓦質土器土器 小片	01A0 0B74	
23 陶器 壺	口径: 一 底径: 一 器高: (16.7)	口縁部: ココナダ 体部: ヘラナダか	内 灰褐色 外 じい・赤褐色	陶器土器 片	小片	01A0 0B74
24 瓦質土器 鉢蓋	口径: (17.0) 底径: (13.0) 器高: 18.1	口縁部: ココナダ 体部: ナダか 内縁内面: スズ付着 外縁口縁部部に赤褐色を塗る	内外 灰褐色	瓦質土器土器 片	1/2	01A0 0B74 0B74
25 瓦質土器 鉢蓋	口径: 一 底径: 一 器高: (20.2)	口縁部: 体中にココナダの無状部 内面は赤褐色 褐色・灰色を付与し 無状部内には数箇所に横リ ナダ方向の孔を施すココナダに施す 底面はナダコップ状の垂線となる 工具の非赤褐色 内面・縦線部 汚れ	内 黄褐色 外 じい・黄褐色	瓦質土器土器 片	1/3以上 01A0 0A-124	
26 粘土板	長: 12.0 厚: 2.8 幅: 18.5 重: 111.31	端部の残存する部分 残存する端部は縦線部 横リ赤色硬化 スズ付着痕	内外 じい・褐色	今令焼物	ほぼ完好	01A0
27 粘土板	長: 13.0 厚: 1.9 幅: 15.7 重: 31.59	中央部のみ残存か 縦線は赤褐色を塗る3箇所か 赤褐色 体中に赤褐色を塗る痕跡	内外 じい・黄褐色	赤褐色	小片	01A0 0B74
28 粘土板	長: 16.0 厚: 1.8 幅: 21.8 重: 53.20	両端部欠損 縦線は赤褐色 赤褐色・両側部: 平行する赤線状の痕跡 赤褐色を付与	内外 じい・黄褐色	赤褐色	端部欠損	01A0 0B74
29 粘土板	長: 21.0 厚: 1.7 幅: 31.5 重: 53.03	下部欠損 上面はじい・平か凸形表面 縦線は赤褐色 縦線は赤・右側部 赤褐色・やがて赤褐色 赤褐色: 欠けて黄褐色	内外 灰褐色	赤褐色	端部欠損	01A0 0B74
30 粘土板	長: 18.0 厚: 4.5 幅: 13.9 重: 207.23	下部欠損 上面はじい・平か凸形表面 縦線は赤・黒・右側部か 赤褐色 縦線は赤褐色 金銀色の痕跡か	内外 じい・黄褐色	赤褐色	端部欠損	01A0 0B74
31 粘土板	長: 15.7 厚: 2.8 幅: 3.0 重: 148.10	下部欠損 縦線は赤・左側部か 赤褐色・右側部: 平行する赤線状の痕跡 平行な欠陥部あり 焼い痕跡か	内外 灰褐色	赤褐色	ほぼ完好	01A0 0B74
32 工型石製品	長: 16.0 厚: 2.0 幅: 4.4 重: 37.71	縦状 文様部 面 上→右半部部: 溝状 下面: 今令焼物 赤・黄褐色 褐色 汚れあるじい・スズか	内外 オリーブ褐色	空白部	ほぼ完好	01A0 0B74
33 小銅	長: 13.3 厚: 1.5 幅: 2.7 重: 16.90	下面平坦 金銀塗	内外 暗灰黄色	砂金	ほぼ完好	01A0 0B74
34 こお鉢	口径: (16.4) 底径: (10.9) 器高: 17.4 重さ: 317.94	外縁内溝 上・中・下3段で成形 上・下段 わざかに切取部	内外 暗灰黄色	スズア質土器	1/2	01A0 0B74
35 陶器 鉢蓋	口径: 一 底径: (13.0) 器高: (16.0)	同一個体とみられる4片を縦線部 縦線とみられるが、内外面の一部に自然焼付着 縦線部は上・下・横。ココナダか 内 部目を縦線部で 日本土一組で部分的に垂線する 体中に自然焼 痕跡: 同心円状の部目内部に平行する部目 外 部目上部に自然焼 粘土痕跡み上げ痕跡	内 赤褐色 外 赤褐色	陶器土器 片	1/9	01A0 0B74
36 陶器 蓋	口径: (6.0) 底径: (3.0) 器高: (3.5)	灰褐色 縦線は赤褐色	内外 灰白色	陶器土器 片	ほぼ完好	01A0 0B74
37 陶器 蓋	口径: (8.2) 底径: (5.2) 器高: (3.9)	灰褐色 縦線は赤褐色・口縁部: 3、底面: 1の4個体分	内外 オリーブ褐色	陶器土器 片	ほぼ完好	01A0 0B74
38 瓦質土器 片	口径: (10.8) 底径: (5.0) 器高: (2.0)	ナダ成形 底面: 縦線部不明 内外 陶器土器	内 灰褐色 外 じい・赤褐色	陶器土器 片	3/4	01A0 0B74
39 瓦質土器 片	口径: (17.0) 底径: (8.0) 器高: 18.4	ナダ成形 厚く灰褐色を塗 口縁部 内面に突出し、上面部に灰褐色を 底面: 汚れ 縦線: 縦線ヘラナダ 内面: 見込部 片割れ	内外 黄褐色	陶器土器 片	ほぼ完好	01A0 0B74

個体か)、陶器皿類(釉薬ガラス質化)1片、陶器碗類(明緑色釉で文様)1片、陶器注口(灰釉)1片、陶器仏しょう具(竈燭立てか)1片、壺身部1片、磁器35片、土管17片、レンガ1片、タイル7片、スレート1片、コンクリート5片が出土する。磁器は、染付プリント碗類9片・皿類3片、陰刻の鉢類1片、香炉5片、仏しょう具10片(うち3片は線香立てか、1片ミニチュア碗か)、器種不明白色片7片、釘1片である。

3. 土坑

(1) 調査の概要

3次調査区からは186基の土坑が確認される。A区53基、B区41基、C区84基、D区8基である。

各区において留意される点は以下のとおりである。

A区ではSD-19-202間に、主軸の直交する方形土坑の重複・近接が確認される。

SK-214は南側のテラス状の部分が竪坑とは判断しづらいが、地下式坑に記載する。

SK-239は不定形の掘り込みであり、詳細は不明である。部分的に表土の堆積が確認され、遺構と攪乱が入り組んだ状態にある可能性があろうか。

SK-250・251・252は同様の主軸をもって掘り込まれる。掘り直しとも判断されるが、同じ場所への掘り込みが重なったものと判断し、遺構番号を付した。

B区は、調査区全般にわたり、上面を攪乱土が覆う。このため、遺構上層を失う遺構が多く、掘り込み自体が曖昧で全容を把握出来ない遺構もある。また、遺構確認面の高さは区々である。

遺構分布はSD-378・393、SD-364に重複・近接する配置にある。

SK-343はビット2基の重複の可能性も残る。

SK-365は、底面東側、北壁に沿って6基以上小ビットが穿たれる。2次調査区SK-104同様か。

SK-375は、SD-364・376との重複、攪乱により形状等詳細は不明である。残存する東・北壁に沿って周溝が確認される。SD-364・376・攪乱を挟んだ遺構の確認はなく、規模は東西3.0m・南北0.2mの範囲内と推察される。小型の住居跡、方形竪穴遺構等の可能性が考えられるが、現地調査の所見に従い本節に記す。

SK-382・SK-865は遺構間約1.6mに位置する。重複関係にはないが、主軸を同じくし、形状・深さ・大きさを等しくする。方形土坑の共通性が目立つが、長円形状の土坑にも同様の特徴がみられる。

C区はB区と分断部なく隣接する。東西に長い形状のSK-436-SK-410・411(主軸N-46・47°-W)、南北に長い形状のSK-488・490(N-17・18°-E)、同様の主軸で重複するSK-446・484・SK-841 SK-447・448・SK-843などが確認される。

調査区西半部のK-11グリッドは遺構密集区であり、直交方向に重複する方形土坑とビットの分布が重なる。P-441・442・830・SK-432-p1・SK-433-p1・SK-434-p1・SK-439-p1・SK-440-p1・SK-444-p1など、遺構内に位置するビットは、遺構に附属するものでは無く、ビット群に付随する可能性も考えられる。また、K-11グリッド東側のSK-432付近は、主軸の直交する方形土坑SK-438・444と、浅い掘り込みであるP-443・SK-437・439・440、ビット状のP-441・442は前後して掘り込まれる。近い時期の遺構とみられるか。

また、J-11グリッドSK-400・403・404・416・417は形状・大きさの似た土坑が集中する。深さは0.1m前後と浅めの土坑が多いが、SK-400は深さ約0.5m、SK-417の底面はビット状に掘り込まれ、深さ約0.26mである。SK-418は深さ約0.05mと浅い方形形状、同様の性格の土坑・ビットが繰り返し掘り込まれたか。

SK-406は方形竪穴の可能性も残るが、重複や区外のため不詳である。SK-412・SK-844東側にテラス

状の掘り込みやSK-409東・西側にテラス状の掘り込みについては、別遺構、或いは、遺構形態のひとつであるか、明瞭にし得なかった。

SK-467・468・470 468の底面ビット状に深くなる。風倒木等の可能性が高いか。

SK-485については、掘削底面東西4.1m前後・南北3.1m前後の袋状の土坑 深さ約1.9m・レベル29.8m付近で掘削を中止したが、遺構東側の袋状の起点は西側よりレベルが高く、空間が広い。遺構東側に覆土の堆積はみられず、袋状の部分は地下空間だったものと推察される。廃絶後、閉塞状態で覆土の堆積が遅れたか。遺構確認面と旧地表との差異は判然としなが、開口部のテラス状の部分は閉塞部か。纏まった遺物の出土はなく、他遺構同様、埋没の際の混入と判断されるが、貯蔵穴として利用が考慮できようか。また、地下式坑の可能性も考慮したが、本節に記載する。出土遺物は、磨石から工業製品の陶磁器までが出土する。また、羽口とみられる筒状の土製品の出土も確認される。これらの中で、第93図・1・2・不掲載4片の内耳土器、不掲載陶器摺鉢3片に同一個体の可能性が考えられる。一遺構内における同一個体とみられる破片の出土は、2次・3次調査区内の遺構としては珍しい。

SK-839は焼土の堆積が確認される。重複するSK-845の硬化面との関連は考えられようか。SK-845の硬化面については、現地調査の過程から、調査区内から出土する製鉄関連遺物（羽口・鉄滓等）を鑑み、鍛冶施設の可能性が指摘される。

D区の土坑は散見される程度の分布であるが、主軸概ねN-40°-W前後の方向に掘り込まれる。

SK-315・317・322は何れも長方形であり、主軸を同じに概ね南北に位置する。遺構幅が0.5m前後と他の土坑に比べ狭い。

出土遺物は総じて少ないが、縄文土器～現代の工業製品（陶磁器・スレート・瓦・タイル・土管・釘等）までが出土する。多くは近世後半～近代以降の土器類・陶磁器類であるが、遺構への帰属は判然としなが。

(2) 土坑

第204号土坑 (SK-204) (第72図 図版9)

位置 A区P-20グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-762より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。底面の規模は、東西(0.9)m・南北約0.65mである。主軸はN-75°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が観察される。確認面からの深さ0.18m前後、底面レベル29.36m前後である。**覆土** SP-A:2層を確認した。現地調査の所見では埋め戻し土の可能性が指摘される。**付属施設** p4・5が確認される。帰属等詳細は不明である。p4は径約0.17m、p5は径約0.28mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-204・205・SK-763重複部から1片が出土する。SK-204に記載する。礫1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。礫は破砕礫小片1片が出土する。残存面は磨滅し、赤色変化する。

第205号土坑 (SK-205) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-762→SK-205→SK-246の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 方形である。底面の規模は、東西約1.32m・南北約1.28mである。主軸はN-1°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.2m前後、底面レベル29.33m前後である。**覆土** SP-A:1層を確認した。現地調査の所見では埋め戻し土の可能性が指摘される。**付属施設** p6が確認される。帰属等詳細は不明である。径約0.36m、SK-205底面より0.18m掘り込まれるか。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-204・205・SK-763重複部から1片が出土する。SK-204に

記載する。礎1片である。

第208号土坑 (SK-208) (第74図 図版九)

位置 A区Q-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-212と重複するが新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.74m・南北約0.75mである。主軸はN-84°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.6m、底面レベル約28.95mである。**覆土** 4層を確認した。3層はロームブロックを含む黒色土層である。4層はロームブロック主体層。地山崩落土或いは埋め戻し土か。**付属施設** p1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.23m、p2は東西約0.3m・南北約0.38mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第211号土坑 (SK-211) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246・268と重複するが新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底部北辺は不整。底面の規模は、東西約1.7m・南北0.8～0.97mである。主軸はN-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.42m、底面レベル約29.28mである。**覆土** 4層を確認した。1層は攪乱、3層は地山か。現地調査の所見では埋土の可能性が指摘される。**付属施設** p1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.14m、p2は径約0.18mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から磁器1片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。瀬戸・美濃系の碗類か。西洋呉須の染付を施す。近代以降か。

第212号土坑 (SK-212) (第74図)

位置 A区Q-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-208と重複するが新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.8m・南北約0.69mである。主軸はN-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ0.52m前後、底面レベル29.06m前後である。**覆土** 3層を確認した。3層はロームブロック主体層。地山崩落土或いは埋め戻し土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第215号土坑 (SK-215) (第73図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-202より新しい。**形状・規模・主軸** SK-202との重複のより詳細は不明である。概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.53)m・南北(0.9)mである。主軸はN-16°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.63m、底面レベル28.95mである。SD-202底面とほぼ同レベルである。**覆土** 6層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第216号土坑 (SK-216) (第74図 図版九)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.68～0.84m・南北約1.84mである。主軸はN-4°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.2m、底面レベル約29.63m、東壁中段部までの深さ約0.12m・底面レベル約29.74mである。**覆土** 3層を確認した。不整な層序であり、1・2層は攪乱層、3層が本遺構覆土か。**付属施設** 東・西壁際の対になる位置にp1・2が確認される。p1は径約0.17m、深さ約0.12m、底面レベル約29.43mである。p2は径約0.16m、深さ約0.1m、底面レベル約29.65mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** P-218と混在するが、土師

質土器小皿口縁部微細片1片が出土する。ロクロ仕上げである。

第217号土坑 (SK-217) (第64図)

位置 A区R-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-214→SK-217か。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は東西 [2.0] m・南北0.75 m前後、深さ約0.25 m、レベル29.3 m、主軸N-67°-Wである。**覆土** 4層を確認した。1層は擾乱層か。現地調査の所見では人為埋戻しの可能性が指摘される。**付属施設** 底面にp1～5が確認されるが、詳細は不明である。各々の径は、p1・約0.26 m・p2：東西約0.3 m・南北約0.18 m、p3：約0.16 m・p4：約0.2 m・p5：東西約0.24 m・南北約0.16 m、底面レベルは何れも確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第219号土坑 (SK-219) (第73図 図版九)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。底面の規模は東西約1.43 m・南北約0.54 m、主軸N-84°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ約0.38 m、レベル29.23 mである。**覆土** 4層を確認した。1・2層はロームブロック、2・3層は黒褐色土ブロックの堆積が目立つ。**付属施設** 北東隅部の底面にp1が確認される。SK-219底面の規模は、東西約0.22 m・南北約0.16 mである。**覆土・底面レベル**は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第220号土坑 (SK-220) (第74・90図 表54)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** 北半部に本遺構より古い掘り込みが確認されるが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.7 m・南北約2.65 mである。主軸はN-15°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.61 m、底面レベル約29.29 mである。**覆土** 図示し得なかったが、3層を確認した。1層は擾乱層か。2層は暗黄褐色土でローム粒子・ロームブロック、炭化物粒子を含む。3層はロームブロックを主体とする黄褐色土である。

遺物出土状況 覆土中から1片が出土する。石製品とみられる1片である。

出土遺物 1は石製品か。隅部一箇所が残る。図上上面は平滑で磨滅する。側面も磨滅がみられる。下面は破砕面であるが、成形痕か。台石等に利用か。

第221号土坑 (SK-221) (第75・90図 表55 図版九)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東側は調査区外にある。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.62) m・南北(1.8) mである。主軸はN-31°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。確認面からの深さ0.15～0.28 m、底面レベル約29.37～29.27 mである。**覆土** 2層を確認した。**付属施設** 底面にp1が確認される。掃屑等は不明である。径約0.18 mである。**覆土・底面レベル**は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。球形の小礫1点である。

出土遺物 1は球形の小礫である。時期等詳細は不明である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土師質土器小皿20片、内耳土器6片、瓦質土器挿鉢3片である。

土師質土器小皿はロクロ仕上げの微細片であり、口縁部5片、体部8片、底部7片である。底部は回転糸切り未調整である。内耳土器は胎土Cの体部4片、胎土Dの口縁部2片である。挿鉢は9本以上一組の摺り目を施す体部1片・底部1片である。異個体とみられる。

第222号土坑 (SK-222) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.73m・南北(2.54)mである。主軸はほぼ磁北に直交する。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.78m、底面レベル約28.83mである。**覆土** 7層を確認した。2層はロームブロック流れ込むように堆積する。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第223号土坑 (SK-223) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.88m・南北約1.85mである。主軸はN-82°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.6m、底面レベル約28.97mである。**覆土** 8層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第224号土坑 (SK-224) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.71)m・南北(1.04)mである。主軸はN-18°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。確認面からの深さ約0.2m、底面レベル約29.4mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第225号土坑 (SK-225) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形か。底面の規模は、東西(1.37)m・南北(0.8～0.9)mである。主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、小さな凹凸がみられる。確認面からの深さ約0.45m、底面レベル29.15m前後である。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第226号土坑 (SK-226) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 形状は重複により不明である。底面の規模は、東西(1.1)m・南北(0.9)mである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ(0.18)m、底面レベル約29.38mである。**覆土** 1層を確認した。**付属施設** 底面にp1が確認される。帰風等は不詳である。径0.32m前後である。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第227号土坑 (SK-227) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主**

軸 概ね南北に長い長方形。底面の規模は、東西約 0.57 m・南北約 1.49 m である。主軸は N-4°-W である。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約 0.35 m、底面レベル約 29.27 m である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227 周辺から 30 点を確認した。SK-221 に記載する。

第 228 号土坑 (SK-228) (第 73 図)

位置 A 区 P-19 グリッドに位置する。**重複関係** SD-202 と重複するが新旧関係等詳細は不明である。

形状・規模・主軸 やや南北に長い長方形。底面の規模は、東西約 1.0 m・南北約 1.1 m である。主軸は N-15°-E である。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約 0.42 m、底面レベル約 29.18 m である。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面に p 1 が確認される。SK-228 底面の径約 0.3 m・深さ 0.15 m、底面レベル 25.03 m である。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-228 重複部から礫 1 片、鉄滓 1 片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。礫は破砕礫小片 1 片である。赤色変化が観察される。鉄滓は表 91 の記載する。

第 236 号土坑 (SK-236) (第 76 図)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。**重複関係** SK-239 内に位置する。SK-239 より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約 1.05 m・南北約 0.55 m である。主軸は N-74°-W である。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深約 0.2 m 前後、底面レベル 29.4 m 前後である。**覆土** SP-A : 1 層が確認される。**付属施設** 東西壁際の対になる位置に P-232・233 が確認される。P-232 は SP-A : 1 層が堆積し、本遺構に帰属するか、同時開口であったと判断される。P-233 の詳細については判然としない。規模等は表 87 に記載する。**遺物出土状況** 覆土中から 6 片が出土する。また、SK-239 周辺から 12 片が出土する。SK-239 に記載する。

出土遺物 小片のため、図示し得なかった。須臾器裏体部 1 片は焼成不良。平行叩きを施す。土師質土器小皿体部 1 片はロクロ仕上げ。内耳土器体部 1 片は胎土 C。土師質土器体部 3 片は微細片である。

第 237 号土坑 (SK-237) (第 73 図)

位置 A 区 P-20 グリッドに位置する。**重複関係** SK-202 より新しい。**形状・規模・主軸** SK-202 との重複のより詳細は不明である。概ね南北に長い長方形。底面の規模は、東西 (0.52) m・南北 (1.38) m である。主軸は N-16°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.68 m、底面レベル 28.93 m である。SD-202 底面とほぼ同レベルである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 239 号土坑 (SK-239) (第 76・90 図 表 56・92 図版一五)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。**重複関係** SK-236 より古い。また、SK-239→P-299→SE-209 の順に掘り込まれる。周辺に位置する土坑・ピットとの詳細は不明である。P-232 は本遺構に帰属するか。

形状・規模・主軸 東西に長い不定形である。SP-A 付近の壁面は表土 a の堆積によって判然としない。底面の規模は、東西 (6.0) m・南北 1.5～3.5 m である。主軸は N-10°-E ほどか。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が著しい。確認面からの深さ 0.18～0.3 m、底面レベル 29.42～29.3 m である。**覆土** SP-A・B : 11 層が確認される。**付属施設** P-232 は覆土 11 層が堆積する。本遺構に伴うか、或いは、同時期の開口を判断される。南北に位置する 2 穴からなる。南側は径 0.15 m 前後、深さ・覆土等は不明である。北側は、東西約 0.3 m・南北 (0.15) m、確認面からの深さ約 0.33 m、レベル 29.26 m である。**遺物出土状況**

覆土中から22片が出土する。また、SK-239 周辺から12片が出土する。土器類6片、石製品・礫4片、陶器1片、工業化製品釘1片である。

出土遺物 1・2は覆土中から出土する。1は土師質土器小皿。厚手で内湾する。2は土鍾である。

その他、20片が出土する。土師質土器口縁部8片、体部5片、底部3片はロクロ仕上げ。内耳土器は器高8.0cm以上、胎土Cである。土師質土器3片は微細片である。

SK-239 周辺からは以下が出土する。

土器類は土師質土器小皿3片、瓦質土器播鉢1片、内耳土器2片である。土師質土器小皿はロクロ仕上げの口縁部2片、体部1片。播鉢は8本以上1組の摺り目を粗く施す体部片。内耳土器は内耳接合部1片、体部1片、胎土Cである。

石製品・礫は、砥石片1片、凝灰岩片2片、小礫1点である。砥石片は底面1面が残る小片である。凝灰岩片は扁平な切石状であり、石材片か。小礫は三角形の扁平礫であり全面磨滅する。

陶器は、碗・皿類口縁部微細片であり、内外面に灰粘土を施す。近世後半以降か。

第240号土坑 (SK-240) (第73図)

位置 A区P-19グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。底面の規模は、東西2.0m前後・南北0.8m前後である。主軸はN-77°-Wほどか。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が著しい。確認面からの深さ0.55～0.7m、底面レベル29.15～28.99mである。**覆土** 4層が確認される。2・3層はロームブロックの堆積が目立つ。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等、詳細は不明である。SK-240底面における各々の規模は、p1東西約0.3m・南北約0.6m、p2径約0.1mである。覆土・レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第241号土坑 (SK-241) (第74図 図版一〇)

位置 A区Q-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-259より古い。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.95m・南北約0.6m、主軸はN-76°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.42m、底面レベル29.17mである。**覆土** 4層が確認される。層序はやや不整である。黒色土が堆積する2層に以外、ロームブロック主体層である。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。内耳土器2片、小礫1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器は体部片2片(胎土D)である。小礫は、扁平な自然礫小片で、磨滅する。

第242号土坑 (SK-242) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い隅丸形状である。底面の規模は、東西約1.3m・南北約0.61m、主軸はN-18°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、やや播鉢状である。確認面からの深約0.24m、底面レベル29.3mである。**覆土** 2層が確認される。**付属施設** p1が確認される。帰属等詳細は不明である。径約0.16mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礫7片が出土する。本遺構に記載する。

出土遺物 何れも小片であり、図示し得なかった。

土器類は、土師質土器小皿4片、内耳土器7片である。土師質土器小皿は何れもロクロ仕上げ。口縁部1片・体部2片・底部1片。底部片は磨滅する。内耳土器は何れも胎土C。口縁部1片・体部6片である。石製品・

礎は7片が出土する。1片はスコリア質安山岩で石皿状の凹孔が1ヶ残るが詳細は不明である。1片は残存する一面の磨滅・赤色片かが顕著に観察される。SK-332出土第91図-9のような砥石、台石等の可能性があるであろうか。

第244号土坑 (SK-244) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約1.15m・南北0.48m前後、主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦とみられる。確認面からの深さ0.5m前後、底面レベル29.05mである。**覆土** 3層が確認される。層序はやや不整である。黒色土が堆積する2層以外、ロームブロック主体層である。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礎7片が出土する。SK-242に記載する。

第245号土坑 (SK-245) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。東側はSE-243との重複により判然としにくい。底面の規模は、東西[2.45]m・南北約0.58m、主軸はN-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦とみられる。確認面からの深さ約0.33m、底面レベル29.2mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礎7片が出土する。SK-242に記載する。

第246号土坑 (SK-246) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西0.6m前後、南北の長さはSK-211との重複により判然としにくい、[1.2]m前後か。主軸はN-20°Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.4m、底面レベル29.16mである。**覆土** 2層が確認される。現地調査の所見では埋土の可能性が指摘される。**付属施設** SK-211重複部にp3が確認される。帰属等詳細は不明である。東西約0.14m・南北約0.2mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礎7片が出土する。SK-242に記載する。

第247号土坑 (SK-247) (第72・78図 表94 図版一〇)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-248→SK-247の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.62m・南北約0.85m、主軸はN-33°Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.2m前後、底面レベル29.39m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 南西隅部にp1が確認される。帰属等詳細は不明である。径約0.2mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-247覆土中から1片が出土する。また、SK-247・248覆土中から土器類7片・陶器1片が出土する。SK-247に記載する。

出土遺物 第118図-7はSK-247覆土中から出土する。古瀬戸瓶類か。

SK-247・248覆土中の破片は図示し得なかった。土器類は、ロクロ仕上げの土師質土器小皿5片(口縁部1片・体部4片)、内耳土器或いは瓦質土器摺鉢体部1片(胎土C)、瓦質土器摺鉢底部1片(5本以上1組が交差)である。陶器は瓶類体部とみられる微細片であり、外面に灰緑(緑色)を施す。近世後半以降か。

第248号土坑 (SK-248) (第72・90図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-248→SK-247の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西(1.2)m・南北約0.76m、主軸はN-22°Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.22m前後、底面レベル29.4m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** p1～3が確認される。附属等詳細は不明である。p1は径約0.26m、SK-248底面からの深さ約0.2m、レベル29.2mである。覆土1層が堆積するが判然としにくい点が多い。p2は径約0.11mである。p3は2段に掘り込まれる。SK-248底面の東西約0.4m・南北約0.24m、底面の東西約0.1m・南北約0.16m、SK-248底面からの深さ約0.52mである。p2・3の覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-247・248覆土中から土器類7片・陶器1片が出土する。SK-247に記載する。

第249号土坑 (SK-249) (第64・90図 表57)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構もない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約1.25m・南北0.7m前後、主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。確認面からの深さ0.1m前後、底面レベル29.5m前後である。**覆土** 1・2層が確認される。1層は攪乱層か。**遺物出土状況** 覆土中から18片が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿。

この他、土師質土器4片、土師質土器鉢縁口縁部1片、内耳土器3片、土師質土器微細片9片が出土する。土師質土器は何れもロクロ仕上げ。口縁部2片・体部1片・底部1片。底部は回転糸切り未調整。内耳土器は胎土Cの口縁部2片、Dの体部1片である。

第250号土坑 (SK-250) (第72・90図 表58)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-764→SK-250→SK-251の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.8m、南北はSK-251との重複により判然としなが(1.3)m、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.5m前後、底面レベル29.02m前後である。**覆土** 3層が確認される。**付属施設** p1が確認される。径約0.15m、底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-250～252周辺から石製品24片が出土する。SK-250に記載する。

出土遺物 1は砥石片。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は土師質土器小皿16片、内耳土器3片が出土する。土師質土器小皿は何れもロクロ仕上げの微細片。口縁部3片、体部16片。内耳土器は何れも胎土C。体部1片、体～底部2片である。石製品・礫は4片が出土する。3片は破砕した礫小片、1片はやや扁平な円形の小礫である。

第251号土坑 (SK-251) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-764→SK-250→SK-251の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。図中、確認面のプランを1点破線、下ばを2点破線で示した。実線は掘り方を示す。確認面の規模は東西[2.0]m・南北1.0m前後、底面の規模は東西[1.3]m、南北0.8m前後、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。中央部はビット状に凹む。確認面からの深さ0.6m前後、底面レベル29.0m、ビット状の凹みはSK-251底面から0.08mほど下位、レベル29.08mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から4片が出土する。また、SK-250～252周辺から5片が出土する。SK-250に記載する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ仕上げの土師質土器小皿体部1片、内耳土器口縁部1片・体部2片（胎土C）である。

第252号土坑（SK-252）（第72図）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-764→SK-250→SK-251の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 南北に長い長方形である。底面の規模は東西約0.85m、南北（1.4）m、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.6m前後、底面レベル29.02m、である。

覆土 3層が確認される。**遺物出土状況** SK-250～252周辺から5片が出土する。SK-250に記載する。

第253号土坑（SK-253）（第72図）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-253→SK-254の順に掘り込まれる。SK-252と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。底面の規模は、東西（0.2）m・南北（0.5）mである。主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。詳細は不詳である。確認面からの深さ0.33m前後、底面レベル29.3m前後である。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第254号土坑（SK-254）（第72・90図 表59・90）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-253→SK-254の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約1.6m・南北約0.9mである。主軸はN-70°-Wである。

底面 ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.37m前後、底面レベル29.3m前後である。**覆土** 1～5層が確認される。5層はp1覆土である。**付属施設** p1・2が確認される。埴輪等、詳細は不明である。p1は径約0.2m、確認面からの深さ約0.46m、レベル29.17mである。5層が堆積する。p2は径約0.21mである。レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から28片が出土する。土器類22片、陶器1片、鉄製品1片、破砕礫小片4片である。

出土遺物 1の土師質土器小皿。他、土器類は土師質土器小皿13片、内耳土器8片が出土する。土師質土器小皿は何れもロクロ仕上げ。口縁部7片・体部5片・底部1片である。底部は回転系切り未調整。内耳土器は体部片8片（胎土C4片・D4片）。陶器は無軸の甕体部1片である。鉄製品は詳細不明な小片である。表90に記載する。礫は破砕した礫小片4片が出土する。このうち1片は底石片か。

第255号土坑（SK-255）（第77図 図版一〇）

位置 A区P-21グリッドに位置する。**重複関係** SK-266→SK-255の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや東西に長い長方形形状か。底面の規模は、東西（1.44）m・南北約1.1mである。主軸はN-80°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ1.0m前後、底面レベル28.7m前後である。**覆土** 4層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 図示し得なかった。土師質土器小皿口縁部1片。ロクロ仕上げ。内耳土器体部1片（胎土C）、底部1片（胎土D）。

第256号土坑（SK-256）（第77図 図版一〇）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** やや東西に長い形状か。東辺は円形状、西辺は方形形状である。底面の規模は、東西約1.4m・南北約1.35mである。主軸はN-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ0.4m前後、底面レベル29.1m前後である。**覆土** 4層が確認される。1層は表土か。**付属施設** 北西隅部の底面にp1が確認される。径約0.12m、SK-256底面からの深さ約0.1mである。覆土4層が堆積する。**遺物**

出土状況 覆土中から土器類9片、陶磁器2片が出土する。

出土遺物 微細片のため、図示し得なかった。土器類は土師質土器小皿4片、内耳土器5片である。土師質土器小皿は口縁部片。うち1片は灯明皿。内耳土器は体部片(胎土C3片・D2片)。陶器1片は内面灰釉・外面灰釉に鉄軸を施す。磁器1片は染付片であり、肥前系か。いずれも近世後半以降か。

第257号土坑 (SK-257) (第76図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形か。東辺は円形状、西辺は長方形である。底面の規模は、東西約1.62m・南北約0.96mである。主軸はN-79°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.47m、底面レベル約29.08mである。**覆土** 3層が確認される。**付属施設** p1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。p1・2は重複するが新旧関係は不明である。p3は不整形。各々のSK-257底面における規模は、p1:東西約0.4m・南北約0.2m、p2:東西(0.16)m・南北約0.12m、p3:東西約0.29m・約0.24mである。いずれも底面レベルは不明である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第258号土坑 (SK-258) (第64図 図版一〇)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西約3.04m・南北約1.2mである。主軸はN-81°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ピット状の凹凸が著しい。確認面からの深さ0.12～0.3m、底面レベル29.65～29.26mである。東端部が最も浅い。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** p1・2等が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.18m・遺構確認面からの深さ約0.38m、底面レベル29.17m、p2は径0.29m前後・SK-258底面からの深さ約0.35mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から15片が出土する。土器類10片、石製品3片、陶磁器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は土師質土器小皿4片、内耳土器5片、瓦質土器挿鉢1片である。土師質土器を何れもロクロ仕上げ。口縁部1片・体部2片・底部1片である。底部片は灯明皿。内耳土器は胎土Cの体部4片・底部1片。挿鉢は11本以上一組の体部片1片である。石製品は砥石3片が出土する。接合はしないが、同一個体とみられる。陶磁器は陶器1片、磁器1片である。陶器は深緑釉を内外面に施す微細片である。磁器は1.5×2.4cmほどの方形の小皿状である。裏面は無釉で「花〇家」の刻印が施される。弁当等の付属品か。何れも近代以降か。

第259号土坑 (SK-259) (第74・90図 表60 図版一〇)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-241より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.7m・南北約1.0m、主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.32m、底面レベル29.28mである。**覆土** 3層が確認される。下層ほどロームブロックが主体層となる。**付属施設** p1が確認される。径約0.35mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。石製品1片である。**出土遺物** 1は砥石である。断面形は不整な五角形状であるが、使用の結果の形状か。

第260号土坑 (SK-260) (第78図 図版一〇)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。**重複関係** SK-261より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西(1.7)m・南北約0.89m、主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.18m前後、底面レベル29.42m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** p1が確認される。帰属等、詳細は不明である。径約0.22m、SK-

260 底面からの深さ約 0.17 m、底面レベル約 29.59 m である。覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-260 ~ 262・SE-263 周辺から 3 片が出土する。SK-260 に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土師質土器小皿 1 片は回転糸切り未調整の底部片。内耳土器体部 1 片は胎土 D。粘土塊 1 片は土器片か。

第 261 号土坑 (SK-261) (第 78 図 図版一〇)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-260・262 より古い。 **形状・規模・主軸** 形状は重複により不詳である。底面の規模は、東西 (2.08) m・南北 (0.84) m である。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ 0.3 m 前後、底面レベル 29.24 m 前後である。 **覆土** 1 層が確認される。 **付属施設** p 1・2 が確認される。帰属等、詳細は不明である。p 1 は東西約 0.22 m・南北約 0.25 m、SK-261 底面からの深さ約 0.32 m、底面レベル約 29.24 m である。p 2 は東西約 0.18 m・南北 (0.18) m である。覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-260 ~ 262・SE-263 周辺から 3 片が出土する。SK-260 に記載する。

第 262 号土坑 (SK-262) (第 78 図 図版一〇)

位置 A 区 Q-21 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-261・SE-263 より新しい。 **形状・規模・主軸** 不整形である。複数の遺構が重複する可能性も残る。底面の規模は、東西 (1.86) m・南北 [1.1] ~ [1.4] m である。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ 0.4 m 前後、底面レベル 29.24 m 前後で、主軸 N-21°-E である。 **覆土** 1 層が確認される。現地の見解では人為埋没が指摘される。 **遺物出土状況** SK-260 ~ 262・SE-263 周辺から 3 片が出土する。SK-260 に記載する。

第 264 号土坑 (SK-264) (第 78 図 図版一〇)

位置 A 区 Q-21 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** やや東西に長い円形状である。底面の規模は、東西約 1.0 m・南北約 0.7 m である。主軸は N-63°-W である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ 0.3 m 前後、底面レベル約 29.1 m である。 **覆土** 3 層を確認した 1 層は攪乱土か。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 266 号土坑 (SK-266) (第 77・90 図 表 61 図版一〇)

位置 A 区 R-21 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-266 → SK-255 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** やや東西に長い方形か。底面の規模は、東西 (1.0) m・南北 (1.6) m である。主軸は N-15°-E である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ 0.4 m 前後、底面レベル 29.03 m 前後である。 **覆土** 2 層を確認した。自然埋没であるか人為埋没であるか判断としない。 **遺物出土状況** 覆土中から 8 点が出土する。土器類 8 片、石瀬品・礫 4 片である。

出土遺物 1・2 は土師器質土器小皿。2 は見込みは凹状となる。3 は石臼。側面は残存しないが上白か。孔が貫通するが用途不明である。図上下面に観察される顕著な磨滅面を磨り面とした。貫通しない浅い孔が残るが詳細は不明である。予備穴等であれば、石臼側面に近い破片となるか。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器 6 片、石製品・礫 3 片である。

内耳土器は胎土 C 体部 1 片、胎土 D 口縁部 2 片・体部 2 片・底部 1 片である。石瀬品・礫のうち 1 片は磨石状の円形礫片であるが、詳細は不明である。2 片は自然礫片か。

第 268 号土坑 (SK-268) (第 72 図)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-211・246・252 と重複する遺構が詳細は不明である。 **形状・規模・主軸** やや東西に長い方形か。底面の規模は、東西 (1.2) m・南北約 0.55 m である。

主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。SK-211 底面より0.12 m程上位か。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から4片が出土する。土器類2片、陶器1片、礫1片である。**出土遺物** 小片のため、図示し得なかった。土器類はロクロ仕上げの土師質土器小皿体部1片、内土器体部1片(胎土D)である。陶器は碗類口縁部とみられる微細片である。内外面に灰釉を施す。礫は破碎した礫小片1片である。

第270号土坑 (SK-270) (第74図)

位置 A区R-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形状か。底面の規模は、東西(0.5)m・南北約1.08mである。主軸はN-31°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.2m、底面レベル約29.3mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第271号土坑 (SK-271) (第77図)

位置 A区R-20グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判然としない。方位に添った方形状か。開口部の規模は、西辺(1.0)m・北辺(1.1)mである。主軸はN-44°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.4m、底面レベル約29.2mである。**覆土** 2層を確認した。現地調査の所見からは人為埋没とみられる。付属施設 p1が確認される。東西約0.1m・南北約0.32mである。底面レベル・深さ・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第272号土坑 (SK-272) (第78図)

位置 D区F-7グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はないが、掘乱により遺構上半を失う。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状と判断されるが、重複により判然としない。底面の規模は、東西(1.2)m・南北0.65m前後である。主軸はN-49°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が確認される。ビット状の凹みも観察される。確認面からの深さ0.55m前後、底面レベル30.74m前後、ビット状の凹部の深さは遺構確認面から約0.66m、底面レベル30.52mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第273号土坑 (SK-273) (第78図)

位置 D区F-6・7グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。北側は掘乱により不詳な点が多い。底面の規模は、東西約0.66m・南北(1.76)mである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。確認面からの深さ0.37m前後、底面レベル30.9m前後である。**覆土** 5層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第274号土坑 (SK-274) (第79図)

位置 D区G-8グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.5mである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸・傾斜が認められる。確認面からの深さ0.08～0.22m、底面レベル31.03～30.86mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第275号土坑 (SK-275) (第79図)

位置 D区G-8グリッドに位置する。**重複関係** SK-275→P-791の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。底面の規模は、東西[0.64]m・南北0.3mである。主軸はN-42°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。重複等により判然としないが凹凸が認められるか。確認面からの深さ約0.22

m、底面レベル約30.82 mである。**覆土** 1層を確認した。**付属施設** 底面中央部にp1が確認される。SK-275 底面の東西約0.25 m・南北約0.3 m・深さ約0.14 m、底面レベル30.65 mである。覆土1層が堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。内耳土1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器は体部片で胎土Cである。

第314号土坑 (SK-314) (第102図 図版一〇)

位置 D区I-10グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸方形状。底面の規模は、東西約1.7 m・南北0.5 m前後mである。主軸はN-46°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が認められる。部分的にピット状の凹凸が観察される。確認面からの深さ0.43 m前後、底面レベル30.62 m前後である。**覆土** 4層を確認した。1・2層・3層の分層層、2層が4層中唯一の暗黄褐色であることから、1・2層が掘り直しや埋没後の掘り込み等である可能性も考慮し得る。

遺物出土状況 覆土中から1片が出土する。土器類1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類は内耳土器体部片1片が出土する。胎土Cである。

第315号土坑 (SK-315) (第79図)

位置 D区G-6グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形状である。底面の規模は、東西約0.45 m・南北約1.05 mである。主軸はN-38°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦であるが、SPA付近に凹凸が認められる。確認面からの深さ0.3 m前後、底面レベル30.7 m前後である。**覆土** 3層を確認した。1・2層はピット状に落ち込む堆積状況である。

遺物出土状況 覆土中から5片が出土する。土器類1片、土製品1片、陶器2片、工業化製品釘1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類の1片は被熱した土器小片であり、詳細は不明である。土製品1片はSK-485同様の筒状土製品小片である。羽口か。陶器は、内外面に灰釉を施す鉢類1片・碗類微細片1片である。近世後半以降か。

第317号土坑 (SK-317) (第79図)

位置 D区G-6グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南側を攪乱により失っており、不評な点が多いが、南北に長い長方形状とみられる。底面の規模は、東西約0.5 m前後・南北約3.0 mである。主軸はN-40°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦である。確認面からの深さ(0.3) m、底面レベル30.77 mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。土器類6片、礫1片、陶磁器1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は、土師質土器体部1片、須恵質土器体部1片、内耳土器体部2片(対しD)、瓦質土器挿鉢1片、現代の瓦1片である。礫は軽石凝灰岩小片で、残存面に僅かにススが付着する。陶器は陶器体部1片である。

第322号土坑 (SK-322) (第79図 図版一〇)

位置 D区G-6・7グリッドに位置する。**重複関係** SK-322→SE-321の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形状である。底面の規模は、東西約0.25 m・南北約0.42 mである。主軸はN-40°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.25 m、底面レベル約30.78 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第324号土坑 (SK-324) (第79図)

位置 B区M・N-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-327とは不明である。**形状・規模・主軸** 東・南側の攪乱により形状は不明であるが、方形状か。底面の規模は、東西(0.6) m以上・南北(1.17) m以上、

主軸 N-19°-E である。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.13 m、レベル 30.32 m である。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第 325 号土坑 (SK-325) (第 79 図 図版一一)

位置 B区 M-15 グリッドに位置する。調査区北東端部にあり南西隅部のみ確認される。重複関係 SK-326→SK-325 の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 形状は不明であるが方形か。底面の規模は、東西 (1.0) m・南北 (0.83) m、主軸 N-72°-W である。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.12 m、レベル 30.50 m である。覆土 1層が確認される。ロームブロックの堆積が目立つ。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第 326 号土坑 (SK-326) (第 79 図 図版一一)

位置 B区 M-15 グリッドに位置する。調査区北東端部にあり南西隅部のみ確認される。重複関係 SK-326→SK-325 の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 南北の長い長方形か。底面の規模は、東西 0.7 m 前後・南北 (1.0) m、主軸 N-51°-E である。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.05 m、レベル 30.64 m である。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第 327 号土坑 (SK-327) (第 79 図)

位置 B区 M・N-15 グリッドに位置する。重複関係 SK-324 とは不明である。形状・規模・主軸 南側の攪乱により形状は不明であるが南北に長い形状か。底面の規模は、東西 (0.95) m 以上・南北 (1.2) m 以上、主軸 N-20°-E である。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.16 m、レベル 30.232 m である。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第 328 号土坑 (SK-328) (第 67 図)

位置 B区 L-13 グリッドに位置する。重複関係 P-854・855 と重複する。詳細は不明である。形状・規模・主軸 やや南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 1.0 m・南北約 0.5 m、主軸 N-51°-W である。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.12 m、レベル 30.9 m である。覆土 2層が確認される。2層は p1 覆土である。付属施設 p1・2 が掘り込まれる。p1 は 2穴からなる。全長の東西約 0.22 m・南北約 0.16 m、上段部径 0.1 m 前後・下段部径約 0.08 m、SK-328 底面からの深さ約 0.1 m、遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.82 m である。覆土 2層が堆積する。p2 は径約 0.08 m、レベル・覆土は確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第 332 号土坑 (SK-332) (第 83・90・91 図 表 62 図版一五)

位置 B区 M-15 グリッドに位置する。重複関係 SE-862→SK-332→SE-863、SK-332→SK-398 の順に掘り込まれる。SK-352 とは不詳である。形状・規模・主軸 東側に突出した不整形な形状であり、南壁の立ち上がりは不詳である。或いは、東側の突出部は別遺構か。底面の規模は、東西約 2.7 m・南北 (1.3) m 以上か。主軸は N-77°-W、東側突出部は N-71°-W である。底面 ローム層を掘り込む。大きな凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ 0.1～0.5 m、レベル 30.4～30.1 m である。覆土 7層が確認される。1層は後世の掘り込みか。東側突出部が別遺構の場合、1～5層は東側突出部覆土、1層下の凸部が底面の境部か。遺物出土状況 遺物出土状況 覆土中から 51 片が出土する。土器類 18 片、石製品 1 片、製鉄関連遺物 1 片、陶磁器 31 片である。

出土遺物 1 は須恵器短頸壺か。肩部に 1～2 条の沈線が巡る。口縁部付近に棒状器具によると判断される外面からの打突痕が観察される。破断面は磨滅するが詳細は不明である。2 は須恵器高台付き坏か。高台接合部は平行する 2 条の線を切り込む。3～7 は土師質土器小皿。7 は灯明皿。3・5 は見込みが凹状である。

特に4は掘り鉢状となる。4・6は器高が低く、見込みは凸状である。8は陶器裏片。常滑産か。図示し得なかった17片は同一個体とみられる。接合関係はないが、図上で復元し、図示する。口縁部から肩部にかけてオリブ色の自然軸が厚くかかる。口縁部～頸部は小礫を含み肌肌はざらつきがある。頸部から体部上位にかけて濃いオリブ色の自然軸3条以上が8.0cm以上にわたり垂下する。9は表面平滑な礫片。表面半部、及び、側面上位のみが残存するが台石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類11片、製鉄関連遺物1片、陶磁器29片である。

土器類は須恵器1片、土師質土器小皿4片、内耳土器5片、瓦質土器1片が出土する。須恵器は裏体部小片であり、外面平行叩き、内面は磨滅するが同心円状あて具痕が観察される。土師質土器小皿は口縁部2片・体部2片。何れも微細片であるがクロコ仕上げである。内耳土器は口縁部2片・体部3片。何れも胎土Dである。瓦質土器は鉢類底部片か。円形で高さ0.5cm前後の脚を施す。

製鉄関連遺物は、羽口とみられる筒状の土製品小片が出土する。器厚1.0cm前後であり、SD-364等出土の羽口と同形となるか。

陶磁器は、陶器裏19片、陶器鉢類1片、磁器7片が出土する。

陶器裏は、無軸の体部1片、施軸の体部1片、第91図-8と同一個体とみられる17片が出土する。近世後半以降か。施軸の体部片は内外面に無光の褐色軸を施す。同一個体とみられる17片が口縁部1片・口縁部～肩部8片・体上位1片・体部7片である。体部6片を除き自然軸が観察される。陶器鉢類は内外面に白色軸を施す。内面下半はハケ目、外面底部～体下位は無軸である。美濃系か。

磁器は、近世後半以降とみられる肥前系とみられる染付碗類3片、近代以降とみられる瀬戸・美濃系染付(明藍色)碗類2片・内外面白色軸の微細片2片である。

第336号土坑 (SK-336) (第79図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。東半部は調査区外にある。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 南北に長い長方形状か。底面の規模は、東西約0.19m・南北約0.47m、主軸N-67°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.44m、レベル30.09mである。覆土 3層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第341号土坑 (SK-341) (第80図)

位置 B区L・M-14・15グリッドに位置する。重複関係 SK-341→SK-342の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.5m・南北約1.18m、主軸N-52°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12m、レベル30.50mである。覆土 1層が確認される。ロームブロックの堆積が目立つ。遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第342号土坑 (SK-342) (第80図)

位置 B区L・M-14・L-15グリッドに位置する。重複関係 SK-341→SK-342の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 東側は掘削により失われる。形状は重複・掘削により不詳である。東西に長い形状か。底面の規模は、東西(1.1)m・南北約1.2m、主軸N-67°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12m、レベル30.55mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第343号土坑 (SK-343) (第68図 図版一一)

位置 B区L・M-13グリッドに位置する。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.28m・南北0.5m前後、主軸N-82°-Wである。底面

ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ0.3m前後、レベル30.7～30.75mである。

覆土 2層が確認される。**付属施設** 東・西壁寄りにp1・2が掘り込まれる。2基のピットの重複である可能性が残るが確認し得なかった。SK-343底面における径・深さ・遺構確認面からの深さ・底面レベルは、p1:0.2m前後・約0.52m・約0.8m・30.2m、p2:0.5m前後・約0.55m・約0.78m・30.2mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第344号土坑 (SK-344) (第68図)

位置 B区M-13グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形状である。底面の規模は、東西約0.93m・南北約0.67m、主軸N-64°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.39m、レベル30.54mである。**覆土** 2層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第345号土坑 (SK-345) (第80図)

位置 B区M-16グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-346→SK-345の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形状か。底面の規模は、東西(0.74)m以上・南北(0.86)m以上、主軸N-11°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1～0.14m、レベル30.26～30.22mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第346号土坑 (SK-346) (第80図 表90・92)

位置 B区M-16グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-346→SK-345、SK-346→P-868の順に掘り込まれる。SK-347とは不詳である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.65)m以上・南北(0.7)m以上、主軸N-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.05m前後、レベル30.3m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 鉄製品3片、煙管片1片、鉄滓3片が出土する。図示し得なかったが表90・92に記載する。

第347号土坑 (SK-347) (第80図)

位置 B区M-16グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-347→P-869の順に掘り込まれる。SK-346とは不詳である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.6m・南北約1.16、主軸N-13°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.05m前後、レベル30.3m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 底面にp1が確認される。掃屑等、詳細は不明である。径約0.16mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第348号土坑 (SK-348) (第68図 図版一一)

位置 B区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-852→SK-348→SK-349→SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。遺構確認面北側が膨らむが、SK-852の重複によるものか。底面の規模は、東西約2.0m・南北0.7m前後、主軸N-55°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.7m、レベル30.4mである。**覆土** 7層が確認される。層序は不整である。1・2層は後世の掘り込みの可能性が考えられようか。**付属施設** 底面にp1が確認される。掃屑等詳細は不明である。東西約0.18m・南北約0.13mである。レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第349号土坑 (SK-349) (第68図 図版一一)

位置 B区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-852→SK-348→SK-349→SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 円形状である。ピットの可能性も考えられる。底面の規模は、東西約0.46

m・南北約0.57 m、主軸 N-68° -Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.85 m、レベル30.26 mである。覆土 3層が確認される。水平に堆積する。遺物出土状況 遺物の出土はない。

第350号土坑 (SK-350) (第68図 図版一)

位置 B区L-12グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は視乱により不詳である。重複関係 SK-852→SK-348→SK-349→SK-350の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 形状は不詳である。底面の規模は、東西(0.7)m以上・南北(0.5)m以上である。底面 ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ約0.3 m、レベル30.8 mである。覆土 2層が確認される。2層は底面のビット状の凹凸部分に堆積する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第351号土坑 (SK-351) (第80図)

位置 B区M-16グリッドに位置する。西側は調査区外にある。重複関係 P-867とは不詳である。形状・規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.44)m以上・南北(0.77)mである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.2～0.36 m、レベル30.32～30.14 mである。覆土 2層が確認される。2層は1層に対し垂直に堆積する。重複するP-867付随層、或いは、別遺構の可能性も考え得るか。付属施設 底面にp1が確認されるが、帰属等、詳細は不明である。SK-351底面での東西約0.29 m・南北約0.16 mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。視乱穴の可能性も残る。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第352号土坑 (SK-352) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SK-332とは不詳である。形状・規模・主軸 東西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西(0.7)m以上・南北(0.5)m以上である。底面 ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ約0.3 m、レベル30.8 mである。覆土 3層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第354号土坑 (SK-354) (第67図)

位置 B区L-12グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は視乱により不詳である。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 東西に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.8 m・南北約0.55 m、主軸 N-58° -Eである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.17 m、レベル30.63 mである。覆土 1層が確認される。付属施設 底面にp1・2が確認される。帰属等は不詳である。SK-354底面での規模は、p1の東西約0.2 m・南北約0.24 m、p2の径約0.28 mである。レベル・覆土は確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第365号土坑 (SK-365) (第83図 図版一)

位置 B区M-15グリッドに位置する。東端部は調査区外にある。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 東西に長い形状か。レベル30.65 m付近に幅0.1～0.2 mのテラス状の中段部を有する。底面の規模は、東西約1.8 m・南北0.32～0.45 m、主軸 N-66° -Wである。底面 ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.16 m、レベル30.58 mである。北壁東側に沿って6基以上のビットが穿たれるが詳細は不明である。覆土 2層が確認される。現地調査においては、1層に別遺構の可能性を指摘する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第366号土坑 (SK-366) (第67図)

位置 B区M-13グリッドに位置する。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 南北に長い不整な長方形形状か。底面の規模は、東西約0.38 m・南北1.0 m前後、主軸 N-32° -Eである。底面

ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.28 m、レベル30.72 mである。覆土 2層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第367号土坑 (SK-367) (第80図)

位置 B区M-13グリッドに位置する。南西側は調査区外にある。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.9 m・南北(0.4) m、主軸N-37°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.37 m、レベル30.6 mである。覆土 3層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第372号土坑 (SK-372) (第67図)

位置 B区L-13グリッドに位置する。**重複関係** P-853とは不詳である。**形状・規模・軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西0.53 m前後・南北1.25 m前後、主軸N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1 m前後、レベル30.7 m前後である。覆土 1層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第373号土坑 (SK-373) (第67図)

位置 B区L-13グリッドに位置する。**重複関係** SD-364とは不明である。**形状・規模・軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西(2.4) m・南北1.05～1.2 m、主軸N-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.36 m、レベル30.63 mである。覆土 1層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第375号土坑 (SK-375) (第67・91図 表63 図版一五)

位置 B区L-13グリッドに位置する。**重複関係** SK-375→SD-364・376の順に掘り込まれる。**形状・規模・軸** 方形形状か。SD-376・視鏡を挟んだ南側に確認されり三角形の突出部との関連はあるか。詳細は不明である。底面の規模は、東西(1.7) m以上・南北(0.7) m以上、主軸N-65°-Wか。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.37 m、レベル30.43 mである。覆土 1層が確認される。**付属施設** 東・北壁に沿って周溝が巡る。周溝底部の幅は約0.1 m、SK-375底面からの深さ約0.07 m、レベル30.36 mである。覆土は1層が堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から18片が出土する。土器類12点、陶磁器類5点、その他1片である。

出土遺物 1は内耳土器。器高は約5.2 cmである。2は陶器鉢類か。火鉢等か。3は陶器灯明皿。漆が付着か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は内耳土器10片、粘土塊1片、陶器2片、磁器1片、近現代の陶器甕1片が出土する。内耳土器は口縁部5片(胎土C2片・D3片)・体部1片(胎土D)・底部4片(胎土D)である。陶器碗類のうち1片は内面灰釉・外面縞状の鉄軸、1片は内外面に黄白色の釉を施す。近世後半以降か。磁器1片は見込みに重ね焼きとみられる蛇の目風の無軸部がみられる。

第377号土坑 (SK-377) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。

形状・規模・軸 南北にやや長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.6 m・南北約1.17 mである。主軸はN-23°-Eである。**底面** SE-378・SD-379・ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.14 m、レベル30.62 mである。覆土 1層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。瓦質土器挿鉢1片、羽口とみられる筒状の土製品端部1片である。ガラス質溶解・還元色・赤色変化が観察される。

第381号土坑 (SK-381) (第80・92図 表64)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SE-333→SK-381の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北にやや長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.4m・南北約0.43mである。主軸はN-1°-Eであり、ほぼ磁北に平行する。**底面** ローム層を掘り込む。深さ約0.3m、レベル30.29mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。土器類1片である。

出土遺物 1は瓦質土器指跡である。

第382号土坑 (SK-382) (第83・84図)

位置 B区M・N-14グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.47m・南北約0.89mである。主軸はN-20°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。深さ約0.1m、レベル30.24mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第383号土坑 (SK-383) (第67・68図)

位置 B区L-12・13グリッドに位置する。**重複関係** SK-383→SD-376の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約1.85m、主軸N-26°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.63m、レベル30.4mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第385号土坑 (SK-385) (第65図)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SK-385→SK-338(地下式坑)の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 北側を視乱により失うが、南北に長い形状か。底面の規模は、東西約0.77m・南北(1.35)m以上、主軸N-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.65mである。**覆土** 1層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第386号土坑 (SK-386) (第67・68図)

位置 B区L-12グリッドに位置する。東側は調査区外、東側は視乱により不詳である。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(1.75)m以上・南北約0.65mである。主軸N-81°-Wであり、概ね磁北の直交する。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.25m、レベル30.9mである。**覆土** 2層が確認される。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。層序・覆土は確認し得なかった。p1はSK-386底面の東西約0.26m・南北約0.2m・深さ約0.05m、遺構確認面からの深さ約0.3m、レベル30.85mである。p2はSK-386底面の東西約0.12m・南北約0.16mである。後世の掘り込みの可能性が残る。**遺物出土状況** 覆土中から5片が出土する。土器類1片、礫2片、陶磁器2片である。

出土遺物 1は瓦質土器指跡。掘り目の間隔は0.3cm前後と粗め。

この他、図示し得なかった出土遺物は、礫2片、陶磁器2片である。礫は、破砕礫小片1片、スレート片である。陶磁器は碗類2片が出土する。1片は明藍色の染付を施す。1片は透明釉を施す。何れも胎土は薄いグレー色であり、産地不明。

第387号土坑 (SK-387) (第80・81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** P507と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.26m・南北(0.5)m以上、主軸N-26°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.19m、レベル30.56mで

ある。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 覆土中から5片が出土する。土器類1片、碟2片、陶磁器2片である。

第391号土坑 (SK-391) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SK-392→SK-391の順に掘り込まれる。SK-332とは不明である。形状・規模・主軸 南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.95m・南北約1.86m、主軸N-23°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.24m、レベル29.94mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第392号土坑 (SK-392) (第84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SK-392→SK-391の順に掘り込まれる。SK-332とは不明である。形状・規模・主軸 南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.75m・南北約1.13m、主軸N-18°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.18m、レベル30.01mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第394号土坑 (SK-394) (第83図)

位置 B区M・N-15グリッドに位置する。重複関係 SK-395→SK-394の順に掘り込まれる。SD-393とは不明である。形状・規模・主軸 東西に長い小型の長方形か。底面の規模は、東西約0.7m・南北(0.34)m、主軸N-69°-Eである。底面 ローム層・SK-394を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.05m、レベル30.33mである。覆土 1層が確認される。ロームブロックの堆積が目立つ。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第395号土坑 (SK-395) (第83図)

位置 B区M・N-14・15グリッドに位置する。南側は調査区外にある。重複関係 SK-395→SK-394、SK-395→SD-393→SD-379の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 形状は重複により不詳である。底面の規模は、東西(2.4)m・南北(1.4)m、主軸N-39°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.24～30.14mである。4層下は概ね平坦であるが、3層下は凹凸がみられる。覆土 4層が確認される。1層は後世の掘り込みか。4層堆積後、1～3層が堆積するが、底面の状況から堆積時期が異なる可能性も考えられる。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第396号土坑 (SK-396) (第81図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.3m・南北(0.8)m以上、主軸N-29°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。表土下の深さ約0.2m、レベル30.63mである。覆土 3層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第398号土坑 (SK-398) (第84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SK-332→SK-398の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.3m・南北約0.48m、主軸N-68°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.34m、レベル30.1mである。覆土 2層が確認される。上層は攪乱で失われる。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第400号土坑 (SK-400) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.3m・南北約0.52m、主軸N-43°-Wである。底面 ローム層

を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.5 m、レベル30.26 mである。**覆土** 4層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第401号土坑 (SK-401) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南西隅部は調査区外に延びる。**重複関係** SK-402→SK-401の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形状か。底面の規模は、東西[1.0]m・南北約0.45 m、主軸N-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.3～0.42 m、レベル30.38～30.25 mである。**覆土** 3層が堆積する。1層は部分的に確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第402号土坑 (SK-402) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-402→SK-401の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形状か。底面の規模は、東西約0.36 m・南北約0.26 m、主軸N-74°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.6 mである。**覆土** 1層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第403号土坑 (SK-403) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-404とは重複しないか。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.4 m・南北約0.58 m、主軸N-37°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.66 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。磁器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。磁器は染付を施す碗類2片である。肥前系か。近世後半以降か。

第404号土坑 (SK-404) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-404とは重複しないか。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.6 m・南北0.35 m前後、主軸N-84°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.66 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第406号土坑 (SK-406) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。東側は攪乱により失われる。**重複関係** SK-407→SK-406・408の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや東西に長い長方形状か。底面の規模は、東西[1.87]m・南北(0.3)m以上、主軸N-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。底面は不整である。遺構確認面からの深さ0.24～0.5 m、レベル30.48～30.2 mである。**覆土** 4層が堆積する。3・4層掘り方埋土、或いは、1・2層後世の掘り込みの可能性はあろうか。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第407号土坑 (SK-407) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-407→SK-406・408の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西(2.0)m以上・南北(1.6)m以上、主軸N-64°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.44 m、レベル30.24 mである。**覆土** 2層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第408号土坑 (SK-408) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-407→SK-406・408の順に掘り込まれる。SK-408・SK-837とは不詳である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形状か。底面の規

横は、東西(1.85)m以上・南北1.0m前後、主軸N-32°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.23m、レベル30.45mである。覆土 1層が堆積する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第409号土坑(SK-409) (第82図)

位置 C区J-12グリッドに位置する。北側は区外に延びる。重複関係 P-850とは不詳である。形状・規模・主軸 南北に長い形状である。底面の規模は、東西0.7m前後・南北(3.1)m以上、主軸N-28°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m前後、レベル30.5m前後である。

覆土 3層が堆積する。付属施設 東壁南半部、西壁北側はテラス状の突出部が掘り込まれる。帰属等是不詳である。東壁南半部は東西0.3～0.4m・南北約1.93m、遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.6m、SK-409底面との高低差0.1m前後である。西壁北側は東西0.4m以上・南北0.5m以上、深さは東壁南半部と同様か。底面にはp1が穿たれる。帰属等是不詳である。東西約0.13m・南北約0.2m、遺構確認面からの深さ約0.25m、SK-409底面からの深さ約0.05m、レベル30.45mである。覆土は確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第410号土坑(SK-410) (第85・92図 表66・90)

位置 C区J-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。重複関係 SK-411→SK-410→SK-806の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西(2.83)m・南北0.5～0.7m、主軸N-47°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.38m前後、表土下約0.78m、レベル30.25m前後である。覆土 SK-806と似るが、総じて、ロームブロックの堆積が少ない。遺物出土状況 SK-410・411(SK-86も含むか)重複部覆土中から13片が出土する。土器類6片、陶磁器6片、鉄製品1片である。SK-410に記載する。

出土遺物 1は須恵器高台付き坏か。高台端部は欠損する。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類5片、陶磁器6片である。

土器類は、土師質土器4片、現代の瓦1片が出土する。土師質土器4片の詳細は不明である。

陶磁器は、陶器4片、磁器2片が出土する。陶器は素焼き片1片、播鉢1片、碗類2片である。素焼き片は本来は平滑な円形状か。播鉢は播り目を密に配し、柿軸とみられる軸葉を施す。碗類のうち1片は内外面に鉄軸を施す。1片は外面に透明軸がかかる。近世以降か。磁器は明藍色の染付を施す碗類1片(瀬戸・美濃系か)、透明軸を施す瓶類1片である。近代以降か。鉄製品は表90に記載する。

第411号土坑(SK-411) (第85図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。重複関係 SK-411→SK-410→SK-806の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 東西に長い長円形状である。SK-806が遺構東側に重複するため詳細不詳。底面の規模は、東西2.6m以上か、南北0.5m前後、主軸N-47°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.35m前後、レベル30.26m前後か。覆土 ローム塊を含む黒褐色土が主体的に堆積する。遺物出土状況 SK-410・411(SK-806も含むか)重複部覆土中から12片が出土する。土器類6片、陶磁器6片である。SK-410に記載する。

第412号土坑(SK-412) (第85図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。重複関係 SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 南北に長い形状か。東側はテラス状に掘り込まれる。東西の全長(1.06)m以上、底面の東西0.65m前後、南北(1.45)m以上、テラス部分の

底面の東西(0.4)m以上である。主軸N-33°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.65m、テラス部分までの深さ約0.08m、レベル30.56mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第413号土坑(SK-413) (第85・119図 表94)

位置 C区L-11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。重複関係 SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 東西に長い隅丸方形か。底面の規模は、東西(0.4)m以上、南北(0.6)m以上、主軸N-56°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.4mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 覆土中から6片が出土する。土器類1片、陶磁器5片である。

出土遺物 第119図-8は陶器皿類。SD-13や遺構外出土第120図-22などに同種の破片が確認される。概して破片は大きい。

この他、図示し得なかった出土遺物は土器類・陶磁器類である。土器類は内耳土器底部1片が出土する。胎土Cである陶磁器は、陶器3片、磁器1片である。陶器は、柿軸を施す鉢・皿類1片、黄白色釉で円形の文様をかき分ける瓶類1片、内面灰釉とみられる皿類1片である。近世後半以降か。磁器は青磁の鉢類1片が出土する。近代以降とみられる。

第414号土坑(SK-414) (第85図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。西・北側は調査区外に延びる。重複関係 SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 東西に長い形状か。底面の規模は、東西(1.1)m以上、南北(0.35)m以上、主軸N-56°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ0.25～0.37m、レベル30.3～30.22mである。覆土 3層が確認される。層序は不整である。白色粒子が堆積する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第415号土坑(SK-415) (第85図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。重複関係 SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 やや南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.0m、南北約1.16m、主軸N-46°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ0.05～0.1m、レベル30.52m前後である。覆土 1層が確認される。白色粒子が堆積する。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第416号土坑(SK-416) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。重複関係 SK-417→SK-416の順に掘り込まれるか。SK-418とは不明である。形状・規模・主軸 東西に長いやや三角形か。底面の規模は、東西約0.5m・南北0.4m前後、主軸N-65°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m前後、レベル30.65mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第417号土坑(SK-417) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。重複関係 SK-417→SK-416の順に掘り込まれるか。SK-418とは不明である。形状・規模・主軸 東西に長いやや形状か。底面の規模は、東西(0.7)m以上・南北0.4m前後、主軸N-77°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。底面はピット状に掘り込まれる。遺構確認面からの深さ約0.05m・レベル30.7m、ピット底面までの深さ約0.26m・レベル30.5mである。覆土 2層が確認される。ピット状の部分には2層が堆積する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第418号土坑 (SK-418) (第81図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-417→SK-416の順に掘り込まれるか。SK-418とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、径 [0.4] mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.05 m・レベル30.68 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第419号土坑 (SK-419) (第85図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-419→SK-420の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状である。底面の規模は、東西(2.0) m以上・南北0.4 m前後、主軸N-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.03～0.13 m、レベル30.73～30.63 mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 南壁際にp1が確認されるが帰属等は不詳である。SK-419底面の東西約0.12 m・南北約0.22 m・深さ約0.05 m、レベル30.65 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第420号土坑 (SK-420) (第85図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-419→SK-420の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。北側は底面方形形状のテラス状に張り出す。帰属等は不詳であり、別遺構の可能性も考えられる。底面の全長は南北約1.8 m、SK-420の東西約0.7 m・南北約1.4 m、突出部の東西約0.34 m・南北約0.28 m、主軸N-32°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.03～0.13 m、レベル30.73～30.63 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。土器類1片、スレート1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器底部1片(胎土C)である。

第421号土坑 (SK-421) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状である。中段はテラス状、底面はビット状に穿たれる。テラス状の部分の東西約0.62 m・南北0.4 m、底面の径約0.16 m、主軸N-85°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルはテラス状部分まで約0.4 m・30.35 m、底面まで約0.73 m・30.0 mである。**覆土** 3層が確認される。水平に堆積する。**遺物出土状況** SK-421～424 覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。磁器碗類1片である。西洋兵須の染付で文字を描くか。近代以降か。

第422号土坑 (SK-422) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。底面の東西約0.26 m・南北(0.3) m以上、主軸N-64°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.3 m、レベル30.45 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** SK-421～424 覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

第423号土坑 (SK-423) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の東西(0.1) m以上・南北(0.27) mである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ(0.1)m、レベル30.6mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** SK-421～424覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

第424号土坑(SK-424) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の径約0.34mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.22m、レベル305mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** SK-421～424覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

第425号土坑(SK-425) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-425→SK-426の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西約0.6・南北0.45m前後である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.62mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第426号土坑(SK-426) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-425→SK-426の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 三角形の不整形である。底面の規模は、東西約0.43・南北(0.26)m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.05～0.1m、レベル30.64m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第432号土坑(SK-432) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-434→SK-433→SK-432の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長円形状である。底面の規模は、東西約0.7m・南北約0.47m、主軸N-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m前後、レベル30.65m前後である。**覆土** SP-C'-1層を確認した。**付属施設** 南壁付近にp1が確認されるが帰属等是不詳である。径約0.15m前後m、底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 出土遺物は確認されない。

第433号土坑(SK-433) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-434→SK-433→SK-432の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長円形状である。底面の規模は、東西(0.72)m・南北(0.35)m以上、主軸N-67°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.15m、レベル30.57mである。**覆土** SP-C'-C-2層を確認した。**付属施設** p1が確認されるが帰属等是不詳である。SK-432底面の東西約0.2m・南北約0.12m・深さ約0.08m、遺構確認面からの深さ約0.23m、底面レベル30.57mである。SK-433覆土が堆積する。**遺物出土状況** 出土遺物は確認されない。

第434号土坑(SK-434) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-434→SK-433→SK-432の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長円形状である。底面の規模は、東西約0.36m・南北約0.4mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m、レベル30.62mである。**覆土** SP-C'-C-3層を確認した。**付属施設** 南東隅部にp1が確認されるが帰属等是不詳である。SK-433底面の径約0.15mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 出土遺物は確認されない。

第435号土坑(SK-435) (第86図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** P-492→SK-435→SK-436の順に掘り込まれる。**形**

状・規模・主軸 やや東西に方形。底面の規模は、東西1.1m前後・南北0.95m前後である。主軸N-50°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.27m、レベル30.34mである。

覆土 2層を確認した。**遺物出土状況** SK-436重複部覆土中から10片が出土する。縄文土器1片、礫2片、陶磁器6片、現代の瓦1片である。SK-435に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

縄文土器はLRを施文する体部片。加曾利E式後半か。礫は、緑泥片岩片1片・小礫1点である。緑泥片岩は板碑片か。小礫は不整な礫石状で赤褐色である。陶磁器は、陶器1片・磁器5片が出土する。陶器は瓶類であり、外面に灰釉を施す。近世後半以降か。磁器は碗類である。染付を施す肥前系の碗類3片は近世後半以降か。印判手の碗類は近代以降か。

第436号土坑 (SK-436) (第86図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-435→SK-436の順に掘こまれる。SK-492とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長方形である。底面の規模は、東西1.66m前後・南北0.4m前後である。主軸N-47°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.5m、レベル30.13mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** SK-435重複部覆土中から10片が出土する。縄文土器1片、礫2片、陶磁器6片、現代の瓦1片である。SK-435に記載する。

第437号土坑 (SK-437) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘こまれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により形状は判然としないが南北に長い長方形状か。底面の規模は、東西約0.38m・南北(0.3)m以上、主軸N-29°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.5m、レベル30.13mである。**覆土** SP-A・A'-1層が確認される。

遺物出土状況 SK-437～444重複部覆土中から3片が出土する。土器類3片、磁器1片である。SK-437に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は、土師質土器小皿1片、内耳土器2片である。土師質土器小皿はクロコ仕上げの口縁部小片である。内耳土器は体部2片(胎土D)である。磁器は西洋呉須の染付を施す碗類である。瀬戸・美濃系か。近代以降か。

第438号土坑 (SK-438) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘こまれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形状か。底面の規模は、東西(1.18)m・南北約0.52m、主軸N-71°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.34m、レベル30.4mである。**覆土** SP-B・B'-2層が確認される。**遺物出土状況** SK-437～444重複部覆土中から3片が出土する。土器類3片、磁器1片である。SK-437に記載する。

第439号土坑 (SK-439) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘こまれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444とは不明である。**形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西(0.9)m以上・南北(0.83)m以上である。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。遺構確認面からの深さ0.05～0.1

m、レベル 30.7～30.63 mである。**覆土** SP-A - A' 3層が確認される。**付属施設** 西壁中央部付近に p 1 が確認されるが、帰属等詳細は不明である。SK-439 底面での径約 0.12 m、深さ約 0.06 m、遺構確認面からの深さ約 0.16 m、レベル 30.57 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-437～444 重複部覆土中から 3片が出土する。土器類 3片、磁器 1片である。SK-437に記載する。

第 440 号土坑 (SK-440) (第 86 図)

位置 C区 K-11 グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘り込まれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444 とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形か。底面の規模は、東西 0.6 m前後・南北約 1.2 m、主軸 N-32°-E である。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。遺構確認面からの深さ 0.1～0.13 m、レベル 30.6～30.56 mである。**覆土** SP-A - A' 4層が確認される。**付属施設** 南西隅部に p 1 が確認されるが、帰属等詳細は不明である。SK-440 底面での東西約 0.3 m・南北約 0.18 m、深さ約 0.08 m、遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.5 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-437～444 重複部覆土中から 3片が出土する。土器類 3片、磁器 1片である。SK-437に記載する。

第 444 号土坑 (SK-444) (第 86 図)

位置 C区 K-11 グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘り込まれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444 とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約 0.43 m・南北約 1.05 m、主軸 N-29°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.6 mである。**覆土** SP-B - B' 8層が確認される。**付属施設** 南西隅部に p 1 が確認されるが、帰属等詳細は不明である。SK-444 底面での東西約 0.22 m・南北約 0.15 m、深さ 0.1 m前後、遺構確認面からの深さ約 0.3 m、レベル 30.44 m前後である。SK-444 覆土が堆積する。**遺物出土状況** SK-437～444 重複部覆土中から 3片が出土する。土器類 3片、磁器 1片である。SK-437に記載する。

第 446 号土坑 (SK-446) (第 87 図)

位置 C区 K・L-11 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843 は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西約 0.46 m・南北 (0.98) m以上、主軸 N-27°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ 0.18～0.28 m、レベル 30.42～30.32 mである。**覆土** 2層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 447 号土坑 (SK-447) (第 87・92 図 表 67)

位置 C区 K-11 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843 は不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い方形形状である。底面の規模は、東西 0.6 m前後・南北 0.45 m前後、主軸 N-81°-W である。**底面** ローム層を掘り込む。EP-G は模式化したものである。遺構確認面からの深さ約 0.3 m、レベル 30.3 mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から 1片が出土する。石製品 1片である。

出土遺物 1 は砥石。両端部は欠損する。表・裏面はやや凹凸。

第448号土坑 (SK-448) (第87図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形状である。底面の規模は、東西0.42～0.75m・南北(1.85)m以上、主軸N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。EP-Gは模式化したものである。遺構確認面からの深さ約0.38m、レベル30.22mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第449号土坑 (SK-449) (第87図)

位置 C区K-11・12グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、径約0.45mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.58m、レベル29.95mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第450号土坑 (SK-450) (第87図)

位置 C区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-844とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により形状は不詳である。東側はテラス状に掘り込まれるが、幅等、詳細は不明である。全長は東西約1.2m、底面の規模は東西約0.9m・南北約1.0m、テラス状部分の底面の東西(0.3)m・南北[0.6]mである。主軸はN-55°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.15～0.3m、レベル30.2～30.08m、テラス状部分の深さ約0.4m・レベル30.24mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から10片が出土する。土器類3片、陶磁器5片、製鉄関連遺物1片、タイル1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は、土師器環1片、内耳土器1片、瓦質土器1片が出土する。土師器環は6世紀後半とみられる。内面ヨコナデ、外面口縁部ナデ・体部は磨滅するがヘラケズリか。内耳土器は口縁部～体部。器高[4.5]cm、胎土Dである。瓦質土器は手焙りか。外面に5本以上一組の櫛歯状工具で曲線的な文様を施す。

陶磁器は、陶器碗類2片、瓶類1片、磁器碗類2片が出土する。陶器碗類のうち1片は内面黄瀬戸色の釉を施す。近世後半以降か。1片は体部外面は無釉の1片、内外面底部～体部下位灰釉を施す。近代以降か。陶器瓶類は外面に透明釉を施す。胎土は薄いグレー色。近世後半以降か。磁器は染付を施す。肥前系か。近世後半以降か。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品が1片出土する。ガラス質溶解等は観察されない。

第451号土坑 (SK-451) (第86図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-451→452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。現状は不整形。底面の規模は、東西(0.54)m・南北(0.4)mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.05m、レベル30.57mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第452号土坑 (SK-452) (第86図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-451→452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。東西に長い形状か。底面の規模は、

東西(0.8)m以上・南北0.7m前後である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.16m、レベル30.48mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第453号土坑 (SK-453) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.26m、主軸N-76°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12m、レベル30.5mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第454号土坑 (SK-454) (第88図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西約0.23m・南北(0.37)m以上、主軸N-48°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.17m、レベル30.59mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第456号土坑 (SK-456) (第88図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.1m・南北約0.38m、主軸N-57°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.62mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 北側隅部に小ピットが穿たれるが、帰属等詳細は不明である。東西約0.3m・南北約0.1mである。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第457号土坑 (SK-457) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。規模は、遺構確認面の東西約0.47m・南北0.34m、底面の約0.24m、主軸N-36°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.52mである。**覆土** 2層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第458号土坑 (SK-458) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西(0.6)m・南北約0.13m、主軸N-88°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.15m、レベル30.58mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第459号土坑 (SK-459) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.64m・南北(0.38)m以上、主軸N-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.15m、レベル30.6mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第461号土坑 (SK-461) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→

SK-463→SK-464,SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.65 m・南北(0.23) m、主軸N-80°・Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.09 m、レベル30.61 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第462号土坑 (SK-462) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464,SK-461→SK-462→SK-463→SK-464,SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.48 m・南北0.32 m以上、主軸N-40°・Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.13 m、レベル30.56 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第463号土坑 (SK-463) (第88図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464,SK-461→SK-462→SK-463→SK-464,SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状か。底面の規模は、径(0.5) mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.6 mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 底面中央にp1が確認される。覆土1層が堆積する。径約0.2 m、SK-463底面からの深さ約0.18 m、レベル30.43 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第464号土坑 (SK-464) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464,SK-461→SK-462→SK-463→SK-464,SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.48 m・南北約0.3 m以上、主軸N-68°・Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.3 m、レベル30.43 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第465号土坑 (SK-465) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464,SK-461→SK-462→SK-463→SK-464,SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西(0.6) m以上・南北[0.43 m前後]、主軸N-69°・Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.16 m、レベル30.58 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第467号土坑 (SK-467) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-468→SK-467の順に掘り込まれる。SK-485とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.38 m・南北約0.67 m、主軸N-51°・Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.08 m、レベル30.52 m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第468号土坑 (SK-468) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-468→SK-467の順に掘り込まれる。SK-485とは不明である。**形状・規模・主軸** やや南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.33 m・南北約0.43 m、主軸N-35°・Eである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-467よりがビット状に深い。遺構確認面から

の深さ0.2～0.4 m、レベル30.4～30.19 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第469号土坑 (SK-469) (第88・92図 表68)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-485とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形とみられる。底面の規模は、東西約1.38 m・南北約0.55 mである。主軸はN-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦である。確認面からの深さ約0.23 m、底面レベル30.43 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から7片が出土する。土器類1片、石製品・礫4片、陶磁器2片である。

出土遺物 1は扁平な円形状の礫。石製品か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類1片、礫3片、陶磁器2片である。

土器類は、土師質土器微細片1片が出土する。礫は、破砕礫1片、小礫1片が出土する。陶磁器は、陶器2片が出土する。1片は天目茶碗体部片か。1片は外面黒色釉、内面無釉の体部片である。

第470号土坑 (SK-470) (第89図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-485とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状であるが、北東方向に突出する形状である。底面の規模は、東西約0.9 m・南北約1.07 mである。主軸はN-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.2 m、底面レベル30.44 mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第484号土坑 (SK-484) (第87図)

位置 C区K-11・12グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い円形状である。底面の規模は東西約1.36 m・南北0.47 m、主軸N-35°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2 m、レベル30.35 mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第485号土坑 (SK-485) (第89・93図 表70・92 図版一一・一五)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SE-405、SK-467・468・469・470と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 遺構断ち割りのため不詳であるが、遺構確認面は円形状か。開口部のテラス状の掘り込みから筒状の頸部を経て袋状に開く。開口部のテラス状の掘り込みは、径(1.8) m、深さ0.2 m前後であり、床面には小さな凹凸がみられる。頸部は筒状で径0.55 m前後。遺構確認面からの深さ、東側約0.35 m・西側約1.2 mで袋状に開く。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約1.9 m・レベル29.8 m付近で掘削を中止した。**覆土** 5層が確認される。3～5層はローム塊が堆積する。遺構東側、図中トーン部は覆土の堆積はみとめられない。**特記事項** 袋状の部分は地下空間だったもの推察される。廃絶後、閉塞状態で覆土の堆積が遅れたか。遺構確認面と旧地表との差異は判然としなが、開口部のテラス状の部分は閉塞部か。**遺物出土状況** 覆土中から46片が出土する。土器類9片、石製品・礫9片、製鉄関連遺物4片、鉄滓2片、陶磁器23片、鉄製品1片である。

出土遺物 1・2は内耳土器。接合しないが、不掲載の4片とあわせ同一個体か。3は陶器徳利。4・5は羽口か。6・7は磨石。7は磨滅極めて顕著。8は石皿か。9は砥石。第114図・7は鉄製品。

この他、図示し得なかった出土遺物は土器類7片、粘土塊1片、礫5片、製鉄関連遺物2片、鉄滓2片、

陶磁器 21 片である。

土器類は、土師質土器 3 片、内耳土器 4 片が出土する。土師質土器は微細片であり、詳細不明。内耳土器は 1・2 と同一個体か。

礫は、切石状の凝灰岩 2 片、変成岩系の礫 1 点、不整礫 1 点、破砕礫小片 1 片が出土する。凝灰岩は石材か。不整礫は磨滅する。

製鉄関連遺物は羽口 2 片が出土する。うち 1 片は両端部を欠くが、調査区内において最長約 19.0cm が残存する。何れもガラス質溶解等は観察されない。鉄滓 2 片が表 92 に記載する。

陶磁器は、陶器 14 片、磁器 8 片が出土する。

陶器は、近世以降とみられるものは、盃 1 片、瓶類 1 片、甕類 3 片、鉢類 2 片、描鉢 3 片である。盃は内外面に灰釉を施す。瓶類は底部片であり、外面褐色釉に灰釉を施すか。甕類は口縁部 1 片・体部 2 片である。描鉢は口縁部 1 片・体部 2 片であり、同一個体か。鉢類 1 片である。内面は三島手に似る。近代以降とみられるものは、碗類 1 片、鉢類 1 片、瓶類 2 片である。碗類は内外面に灰釉を施す。鉢類は外面に白濁釉を施し、器壁の薄い小型品。瓶類は外面に灰釉を施す。

磁器は、近世後半以降とみられるものは、碗類 4 片、瓶類 1 片である。碗類は染付を施す小片。肥前系か。瓶類は文様等は確認されないが、肥前系か。近代以降とみられるものは、西洋呉須の染付を施す 3 片である。1 片は肥前系の碗類、2 片は瀬戸・美濃系の蓋・瓶類か。

第 487 号土坑 (SK-487) (第 89 図 図版一一)

位置 C 区 K-10 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は、東西 0.4 m 以上・南北 0.4 m 以上である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.3 m、レベル 30.28 m である。 **覆土** 1 層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 488 号土坑 (SK-488) (第 89 図)

位置 C 区 K-10 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西 0.8 m 前後・南北 2.0 m 以上、主軸 N-17°-E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.5 m 前後である。 **覆土** 1 層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 489 号土坑 (SK-489) (第 89・92・119 図 表 69・94)

位置 C 区 K・10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 方形形状であるが南西隅部は南側に突出する。SK-522 との重複に起因するか。底面の規模は、東西約 0.67 m・南北約 0.65 m (突出部 0.8 m 以上) である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.15 m、レベル 30.52 m である。中央部に小孔を穿つ。SK-489 底面での規模は、東西約 0.47 m・南北 0.3 m 前後、深さ 0.22 m 前後、レベル 30.41 m 前後である。 **覆土** 1 層が確認される。小孔部分の層序、覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から 2 片が出土する。鉄関連遺物 1 片、磁器 1 片である。

出土遺物 1 は羽口とみられる筒状の土製品である。底部片であり、ガラス質の垂下がみられる。使用時の下側か。第 119 図・9 は肥前・波佐見系の染付碗類。外面に草花文を配する。近世後葉～近代初頭か。SD-374 など調査区内に同様の文様の中丸碗が出土する。

第490号土坑 (SK-490) (第89図)

位置 C区K・10グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-487→SK-488→SK-490→SK-489、SK-522→SK-489の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西0.5～0.6m・南北約1.4m、主軸N-18°・Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.15m前後、レベル30.5m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第519号土坑 (SK-519) (第89図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-519→P-518の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.76m・南北約0.3m、主軸N-58°・Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.63mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第522号土坑 (SK-522) (第89図)

位置 C区K-10グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-487→SK-488→SK-490→SK-489、SK-522→SK-489の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.45m・南北約0.4m、主軸N-67°・Wである。**底面** ローム層を凹状に掘り込む。遺構確認面からの深さ0.13～0.18m、レベル30.47～30.42mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第561号土坑 (SK-561) (第89図)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.0m・南北0.4～0.46m、主軸N-69°・Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.25m、レベル30.4mである。**覆土** 1層が確認される。埋土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第762号土坑 (SK-762) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東隅部は調査区外に延びる。**重複関係** SK-204・205より古い。SK-763との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 不整形であるが、概ね東西に長い。底面の規模は、東西(1.9)m・南北(1.2)mである。主軸はN-81°・Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.1m前後、底面レベル29.4m前後である。**覆土** SP-A:3層を確認した。現地調査の所見では埋め戻し土の可能性が指摘される。**付属施設** p1～3が確認される。掃屑等詳細は不明である。p1は東西約0.2m・南北約0.14m、p2は径約0.1m、p3は東西約0.16m・南北約0.9mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第763号土坑 (SK-763) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東隅部は調査区外に延びる。**重複関係** SK-222・SK-762との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 東側は調査区外に延びる。底面の規模は、全長(1.4)m。詳細は不明である。**底面** ローム層を3段に掘り込むが詳細は不明である。SK-762と接する面は、SK-762より5.0cmほど低い。か。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-204・205・SK-763重複部から1片が出土する。SK-204に記載する。礫1片である。

第764号土坑 (SK-764) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-250より古い。SE-243より古いとみられる。**形状・**

規模・主軸 形状は重複により不明である。底面の規模は、東西(0.65)m・南北(0.7)mである。底面 ローム層を掘り込むが詳細は不明である。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 SK-250～252 周辺から7片が出土する。SK-250に記載する。

第765号土坑 (SK-765) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。重複関係 SK-252と重複するが詳細は不明である。形状・規模・主軸 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西(0.86)m・南北約3.18mである。底面 ローム層を掘り込む。SK-251底面より0.17m程下位か。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第766号土坑 (SK-766) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。重複関係 SK-248・251と重複するが詳細は不明である。形状・規模・主軸 東西に長い長方形である。底面の規模は、東西(1.0)m・南北(0.7)mである。主軸はN-75°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。SK-248底面より0.04m程下位か。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第806号土坑 (SK-806) (第85図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。重複関係 SK-411→SK-410→SK-806の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 SK-410内に掘り込まれ、東側は調査区外に延びるため形状は不詳である。底面の規模は、東西0.6m以上・南北0.5m以上か。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.35m前後、表土下約0.8m、レベル30.23mである。覆土 4層が確認される。1層は不整である。SK-410と似るが、総じて、ロームブロックの堆積が多い。遺物出土状況 SK-410・411 (SK-806も含むか) 重複部覆土中から12片が出土する。土器類6片、陶磁器6片である。SK-410に記載する。

第808号土坑 (SK-808) (第86図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。重複関係 SK-451→452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。形状・規模・主軸 南北に長いである。底面の規模は、東西1.0m前後・南北約0.25m、主軸N-2°-Eである。概ね磁北に平行する。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.24m、レベル30.36mである。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第809号土坑 (SK-809) (第86図)

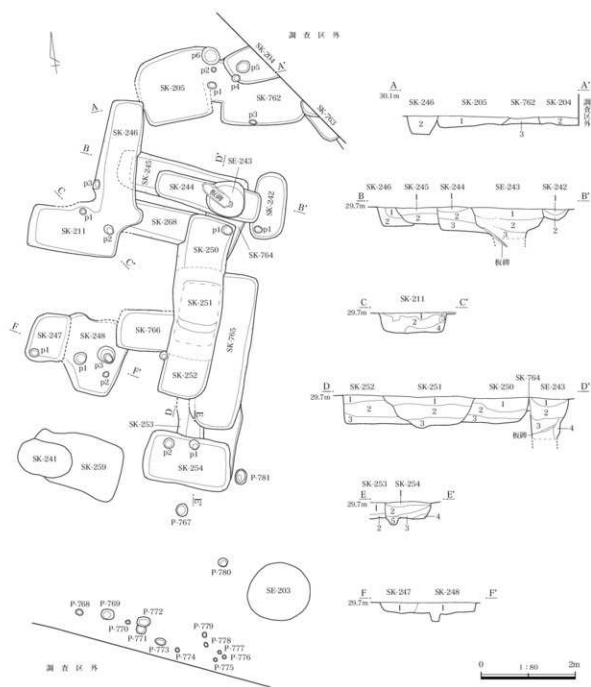
位置 C区J-10・11グリッドに位置する。重複関係 SK-451→452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。形状・規模・主軸 円形状である。底面の規模は、径約0.5mである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.06m、レベル30.54mである。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第810号土坑 (SK-810) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。重複関係 SK-仮③65→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。形状・規模・主軸 SK-465との重複により形状であるが、東西に長い形状か。底面の規模は、東西(0.1)m以上・南北(0.3)m、主軸N-65°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.52mである。覆土 2層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第811号土坑 (SK-811) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。重複関係 SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-



第72図 第204・205・211・242～248・250～254・268・762～766号土坑
第767～781号ピット実測図

463→SK-464,SK-462→SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.32m・南北約0.45m、主軸N-17°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が観察される。遺構確認面からの深さ約0.16m、レベル30.58mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

SK 204		
2	暗黄褐色土	ローム微粒子多量。ロームブロック含む。しまりやや強い、粘性強い。
SK 205		
1	暗黄褐色土	ローム微粒子多量。ローム粒子含む。ロームブロック・炭化物粒子少量。しまりやや強い、粘性強い。
SK 211		
1	暗褐色土	ローム微粒子・ローム粒子・焼土粒子含む。しまり強い、粘性なし。
2	暗黄褐色土	ローム微粒子含む。黒色土少量。しまりなし。粘性やや強い。
3	褐色土	ローム微粒子多量。ローム粒子少量。しまり強い、粘性やや強い。
4	黄褐色土	ローム微粒子含む。ロームブロック主体。しまり強い、粘性やや強い。
SK 242		
1	暗褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 243		
1	暗褐色土	ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
3	暗黄褐色土	ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 244		
1	暗褐色土	ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム粒子少量。ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
3	暗黄褐色土	ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 245		
1	暗黄褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 246		
1	暗黄褐色土	ローム含む。しまりあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 247		
1	暗黄褐色土	ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。

SK 248		
1	暗黄褐色土	ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
SK 250		
1	暗褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム粒子多量。ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
3	暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 251		
1	暗褐色土	ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量。黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
3	暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 252		
1	暗褐色土	ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
3	暗褐色土	ローム粒子少量。ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 253		
1	暗黄褐色土	ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK 254		
1	暗褐色土	ローム粒子含む。しまりあり。粘性ややあり。
2	暗黄褐色土	ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
3	暗黄褐色土	ローム粒子少量。ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
4	暗黄褐色土	ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
5	暗黄褐色土	ローム・ローム粒子少量。
SK 762		
3	暗黄褐色土	ローム微粒子・ロームブロック多量。しまりやや強い、粘性強い。

第814号土坑 (SK-814) (第88図)

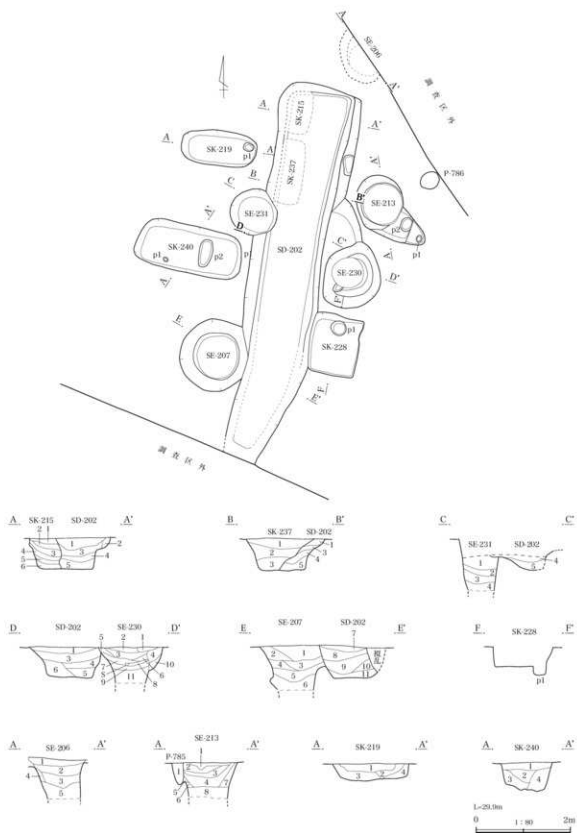
位置 C区J-10グリッドに位置する。重複関係 SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。形状・規模・主軸 東西に長い不整形である。底面の規模は、東西0.75 m以上・南北0.25 m以上、主軸N-81°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.07 m、レベル30.65 mである。覆土 1層が確認される。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第818号土坑 (SK-818) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。重複関係 SK-458と重複するが詳細は不明である。形状・規模・主軸 方形状である。底面の規模は、東西約0.5 m・南北約0.54 mである。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.147 m、レベル30.58 mである。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第831号土坑 (SK-831) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。重複関係 SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘り込まれる。SK-438・SK-831、SK-439・P-830 m・南北(0.32) m以上、主軸N-54°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 SK-437～444重複部覆土中から3片が出土する。土器類3片、磁器1片である。SK-437



第73図 第202号溝状遺構・第206・207・213・230・231号井戸跡・
第215・219・228・237・240号土坑・第785号ビット実測図

SD 202	
1 暗褐色土	ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土	ローム粒子・暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
5 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
6 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
7 暗褐色土	ローム粒子微量、ロームブロック・暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
8 暗褐色土	ロームブロック少量、暗褐色土含む、しまりややあり、粘性ややあり。
9 暗褐色土	ロームブロック含む、暗褐色土や含む、しまりややあり、粘性ややあり。
10 暗褐色土	暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
11 暗褐色土	ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
SE-206	
1 暗褐色土	ローム微粒子含む、炭化物少量、しまりなし、粘性強い。
2 褐色土	ローム微粒子多量、白色粘土粒子少量、しまりなし、粘性なし。
3 褐色土	ローム微粒子多量、ロームブロック少量、しまりなし、粘性なし。
4 明褐色土	ローム微粒子多量、しまりなし、粘性なし。
5 暗褐色土	ローム微粒子含む、ローム粒子多量、しまりなし、粘性強い。
SE-207	
1 暗褐色土	ローム粒子・暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	黄色土・暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土	黄色土含む、しまりややあり、粘性ややあり。
5 暗褐色土	ローム粒子・暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
6 暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
F-785	
1 暗褐色土	ロームブロック少量、しまりややあり、粘性弱い。
SE-213	
1 暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	ローム粒子・暗褐色土少量、白色粘土微量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 黄褐色土	ローム粒子・暗褐色土少量、白色粘土微量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 黄褐色土	ロームブロック多量、白色粘土微量、しまりややあり、粘性ややあり。
5 暗褐色土	ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
6 暗褐色土	ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
7 暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
8 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
SK 215	
1 暗褐色土	黒褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
5 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
6 黄褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。

に記載する。

第 836 号土坑 (SK-836) (第 89 図)

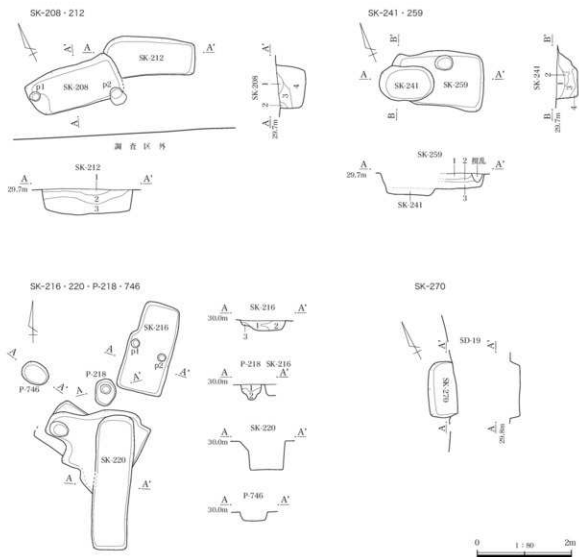
位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長門形状である。底面の規模は、東西約 0.63 m・南北約 0.39、主軸 N-55°-W である。**底面** ローム層を掘り込む。西側はビット状に彫り込まれる。遺構確認面からビット状部分底面までの深さ約 0.29 m、レベル 30.47 m である。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 837 号土坑 (SK-837) (第 81 図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-407→SK-406・408の順

SK 219	
1 暗褐色土	ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	ロームブロック多量、黒色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ロームブロック含む、黒色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
SE-230	
1 黒色土	腐風
2 暗褐色土	ローム粒子多量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ローム・ローム粒子・黒色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土	ローム粒子含む、暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
5 暗褐色土	ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
6 暗褐色土	黒色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
7 暗褐色土	ローム粒子含む、微量、しまりややあり、粘性ややあり。
8 暗褐色土	ローム粒子微量、しまりややあり、粘性ややあり。
9 暗褐色土	ローム粒子・黒色粘土微量、しまりややあり、粘性ややあり。
10 暗褐色土	ローム粒子・黒褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
11 暗褐色土	ローム粒子多量、しまりややあり、粘性ややあり。
SE-231	
1 黒褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック・黒色土少量、しまり弱い、粘性ややあり。
2 黒褐色土	ローム粒子多量、黒色土少量、しまり弱い、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ロームブロック・黒色土少量、しまり弱い、粘性ややあり。
4 黒褐色土	ロームブロック・黒色土含む、しまり弱い、粘性ややあり。
SK-237	
1 暗褐色土	ローム粒子・黒色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ローム多量、しまりややあり、粘性ややあり。
SK-240	
1 暗褐色土	ローム粒子微量、黒色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土	ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
3 暗褐色土	ロームブロック・暗褐色土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土	暗褐色土含む、白色粘土少量、しまりややあり、粘性ややあり。

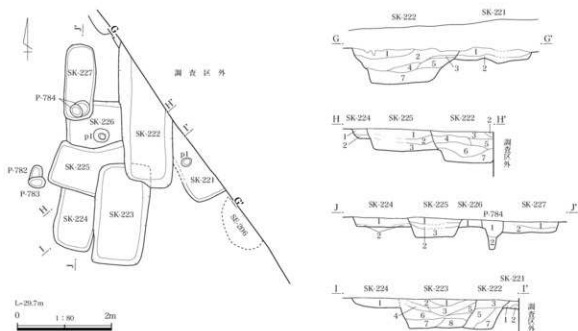
第3章 確認された遺構と遺物



- SK-208
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性強い。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性強い。
 - 3 黒色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性なし。
 - 4 黄褐色土 ロームブロック多量。黒色土少量。しまりなし。粘性なし。
- SK-212
- 1 暗褐色土 ローム微粒子含む。ロームブロック少量。しまりやや強い。粘性やや強い。
 - 2 暗黄褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。粘性やや強い。
 - 3 暗褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。粘性やや強い。
- SK-216
- 1 褐色土 ローム粒子・ローム微粒子含む。ロームブロック少量。しまりやや強い。粘性やや強い。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子少量。ローム微粒子多量。しまりなし。粘性なし。
 - 3 黄褐色土 ローム微粒子含む。しまりなし。粘性なし。

- P-218
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。炭化物粒子微量。しまり強い。粘性やや強い。
 - 2 褐色土 ローム粒子・ローム微粒子多量。しまりなし。粘性なし。
- SK-241
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。暗褐色土少量。しまりあり。粘性ややあり。
 - 2 黒色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 4 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-259
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

第74図 第208・212・216・220・241・259・270号土坑・第218・746号ピット実測図



SK-221

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-222

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む、暗褐色土少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 黒色土多量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック・黒褐色土少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子含む、ロームブロック多量、黒色土微量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 6 暗褐色土 ロームブロック含む、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 7 明褐色土 ローム粒子少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-223

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む、暗褐色土少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土・暗褐色土少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子含む、ロームブロック多量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子含む、ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 7 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり強い、粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、しまり強い、粘性ややあり。

SK-224

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土少量、黒粒砂少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-225

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-226

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-227

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量、しまりや中あり、粘性ややあり。

P-784

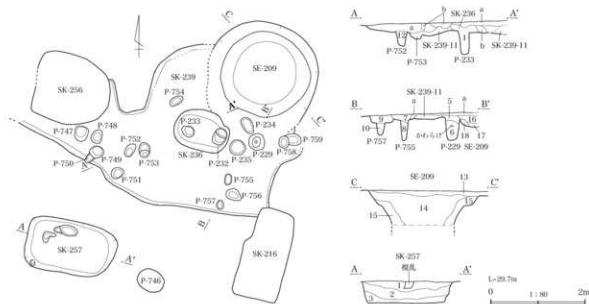
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

第75図 第221～227号土坑・第782～784号ピット実測図

に掘り込まれる。SK-408・SK-837とは不詳である。形状・規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.36、主軸N-47°-Wである。底面 ローム層を掘り込む。底面はピット状に穿たれる。径約0.3m前後の不整な円形状である。遺構確認面からの深さ約0.24m、レベル30.52mである。覆土 確認し得なかった。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第839号土坑 (SK-839) (第87図)

位置 C区K-11・L-11・12グリッドに位置する。重複関係 SK-839→SK-449、SK-844・845とは不明である。北側は区外に延びる。形状・規模・主軸 方形形状か。西側は判然としなない。底面の規模は東



表土	
a 褐色土	ローム微粒子・ローム粒子含む。ロームブロック・炭化物粒子少量。しまり強い、粘性なし。
b 暗褐色土	ローム微粒子・ローム粒子少量。しまり強い、粘性なし。
SE 209	
13 暗褐色土	ローム微粒子含む。しまりや中強い、粘性なし。
14 褐色土	ローム微粒子や中多量。ローム粒子・炭化物少量。しまりなし、粘性や中強い。
15 暗褐色土	ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロックや中多量。しまりや中強い、粘性や中強い。
16 13 層に対応。	
17 15 層に対応。	
18 15 層に対応。	
P-229	
5 暗褐色土	ローム微粒子多量。ローム粒子少量。しまり強い、粘性なし。
6 暗褐色土	ローム微粒子多量。灰白色粘土微粒子含む。しまりや中強い、粘性や中強い。
P-233・SK-236	
i 暗褐色土	ローム微粒子・ローム粒子含む。しまりなし。粘性や中強い。

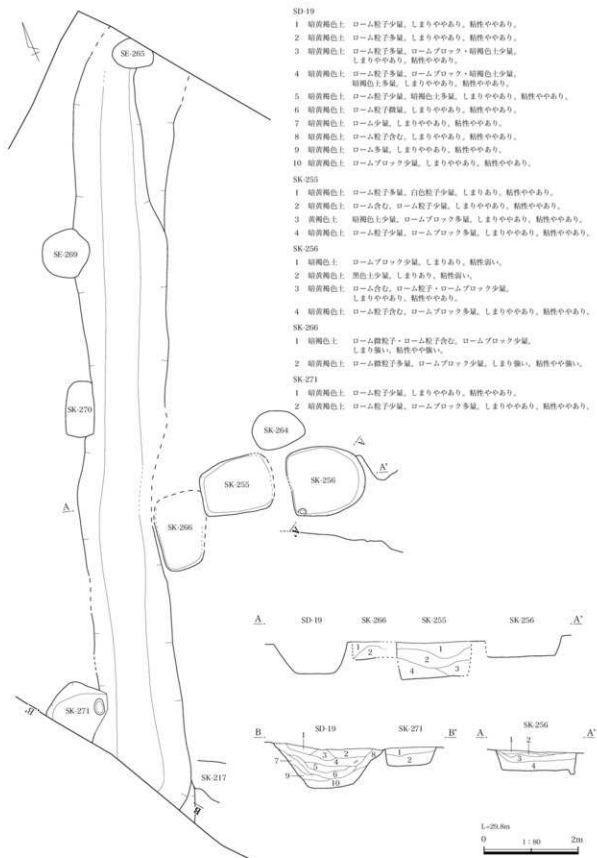
SK 239	
11 黄褐色土	ローム微粒子多量。ロームブロック含む。しまりなし、粘性や中強い。
SK 257	
1 暗褐色土	ローム粒子多量。しまりあり、粘性や中あり。
2 黄褐色土	ローム・ロームブロック多量。しまりや中あり、粘性や中あり。
3 暗褐色土	ロームブロック多量。しまりや中あり、粘性や中あり。
P-752	
12 暗褐色土	ローム微粒子多量。しまりなし、粘性や中強い。
P-755	
7 褐色土	ローム微粒子多量。ローム粒子含む。炭化物粒子微量。しまり強い、粘性なし。
8 暗褐色土	ローム微粒子多量。しまりなし、粘性や中強い。
P-757	
9 暗褐色土	ローム微粒子多量。ローム粒子少量。ロームブロック含む。しまり強い、粘性なし。
10 暗褐色土	ローム微粒子・ロームブロック含む。しまりなし、粘性強い。

第76図 第209号井戸跡・第236・239・257号土坑・第229・232～235・747～759号ピット実測図

西 (3.1) m・南北 (1.8) m以上、主軸はN-39°-Eか。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル 30.33 mである。覆土 1層が確認される。焼土粒子を含む。重複するSK-845の硬化面に関連するか。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

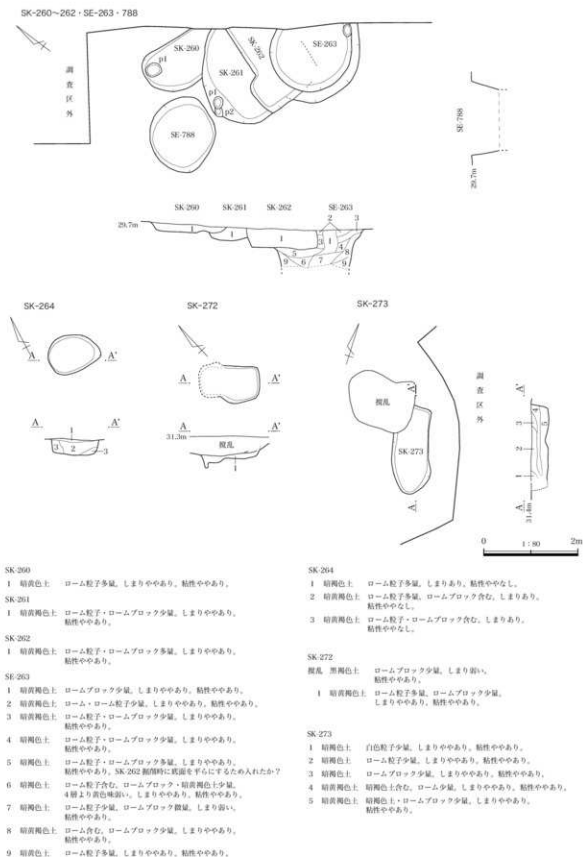
第841号土坑 (SK-841) (第87図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。重複関係 SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。形状・規模・主軸 南北に長い形状である。底面の規模は、東西約0.32m・南北 (0.7) m以上、主軸N-27°-Eである。底面 ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.2～0.28m、レベル 30.34～30.26 mである。覆土 1層が堆積する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

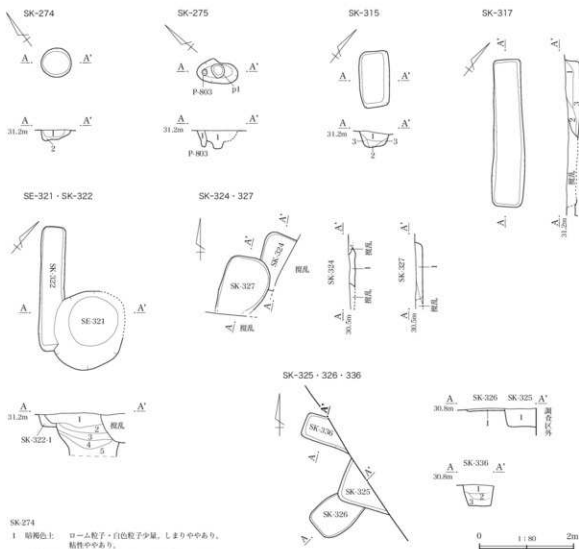


第77図 第19号溝状遺構・第255・256・266・271号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



第78図 第263・788号井戸跡・第260～262・264・272・273号土坑実測図



SK-274

- 1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 黄色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-275

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
P-803

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-315

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-317

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。

SE-321

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 白色シルト含む。ローム粒子少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 暗褐色土含む。しまり弱い。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 白色シルト含む。ローム粒子微量。しまり弱い。
粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 暗褐色土少量。しまり弱い。粘性ややあり。

SK-322

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。
粘性ややあり。

SK-324

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・暗褐色土少量。
しまりややあり。粘性ややあり。

SK-327

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
しまりややあり。粘性ややあり。

SK-325

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。
粘性ややあり。

SK-326

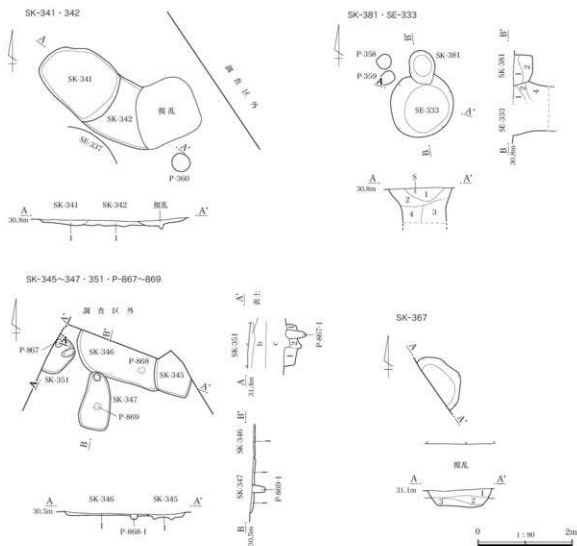
- 1 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
(1層より黄色塊層びる)

SK-336

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。
粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりやや弱い。
粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりやや弱い。
粘性ややあり。

第79図 第274・275・315・317・322・324～327・336号土坑・第321号井戸跡実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SE-333

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、白色粘土少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム少量、ローム粒子微量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりや中あり、粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-341

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-342

- 1 暗黄褐色土 ローム含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-345

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-346

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-347

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-351

- b 砂層
- c 暗褐色土

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量、暗褐色土含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-367

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりや中あり、粘性ややあり、2層より黄色味帯びる。

- 2 暗褐色土 ローム粒子微量、しまりや中あり、粘性ややあり。

- 3 暗黄褐色土 ローム粒子含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

SK-381

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

- 2 暗褐色土 ロームブロック含む、しまりや中あり、粘性ややあり。

P-867

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

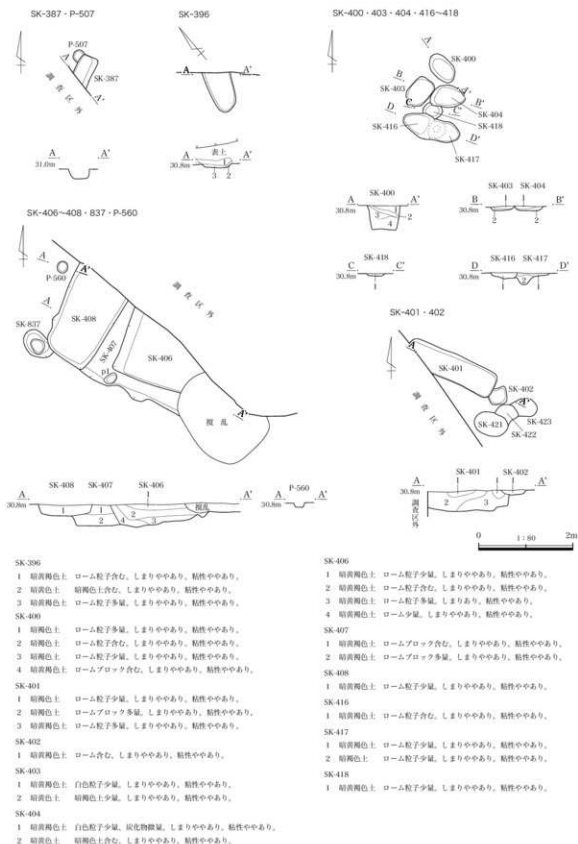
P-868

- 1 暗褐色土 ローム少量、白色粘土微量、しまりや中あり、粘性ややあり。

P-869

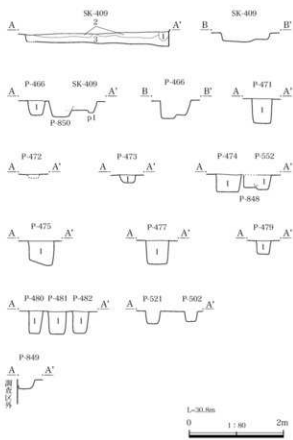
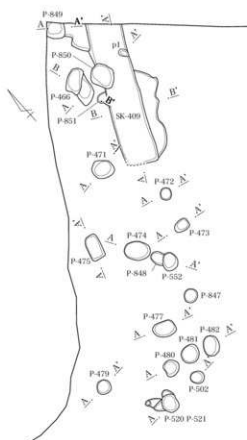
- 1 暗黄褐色土 暗黄褐色土少量、しまりや中あり、粘性ややあり。

第80図 第333号井戸跡・第341・342・345～347・351・367・381号土坑・第867～869号ヒット実測図



第81図 第387・396・400～404・406～408・416～418・837号土坑・
第507・560号ビット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-409

- 1 暗灰褐色土 ローム微量。しまりややあり。粘性ややあり。
(1は別の土質か?)
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。

P-471

- 1 暗褐色土 白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-472

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-473

- 1 暗灰褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-474

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-475

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-477

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-479

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-480

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-481

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

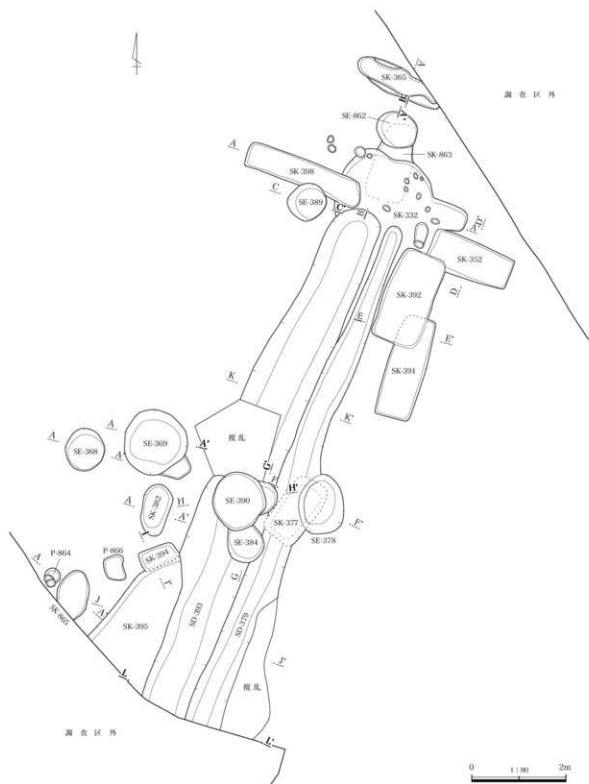
P-482

- 1 暗灰褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-552

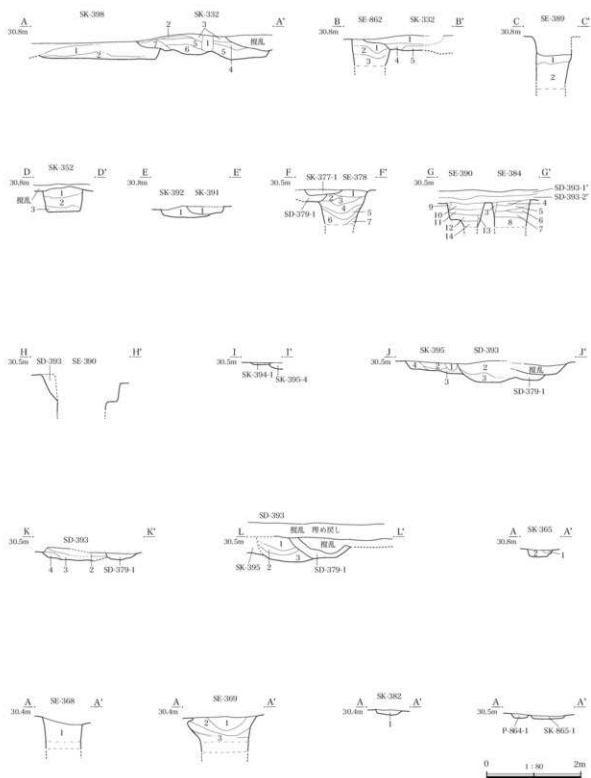
- 1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。

第82図 第409号土坑・第466・471～475・477・479～482・502・520・552・
847～851号ピット実測図



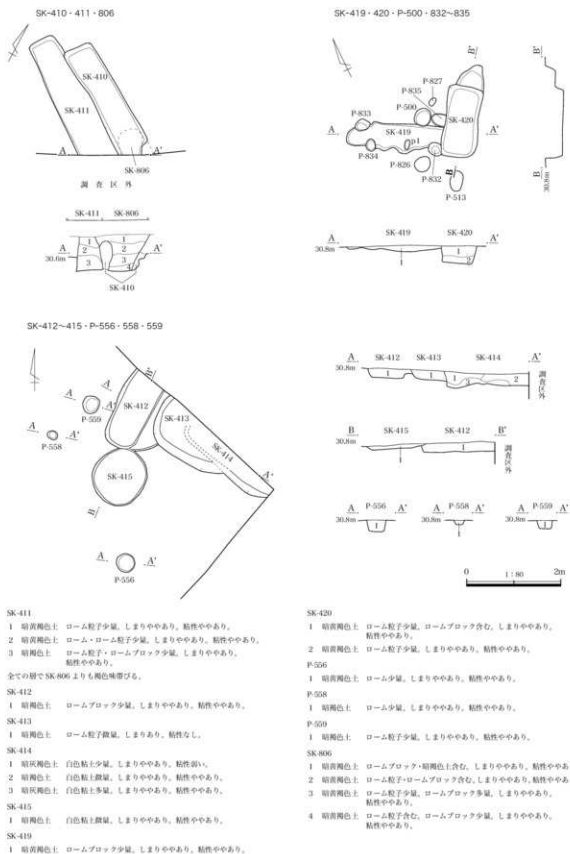
第83図 第379・393号溝状遺構・第368・369・378・384・389・390・862号井戸跡・
 第332・352・365・377・382・391・392・394・395・398・863・865号土坑・
 第864・866号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物

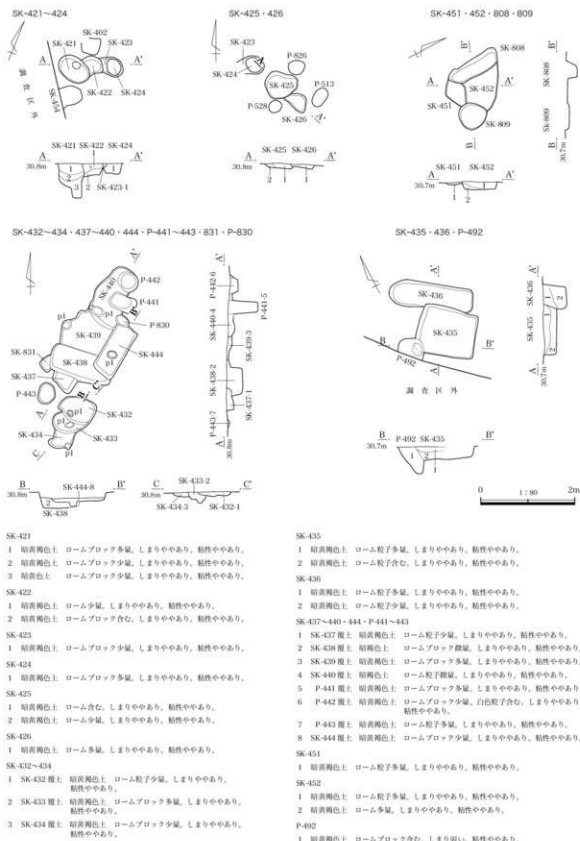


第 84 図 第 379・393 号溝状遺構・第 368・369・378・384・389・390・862 号井戸跡・
 第 332・352・365・377・382・391・392・394・395・398・865 号土坑・
 第 864 号ピット実測図

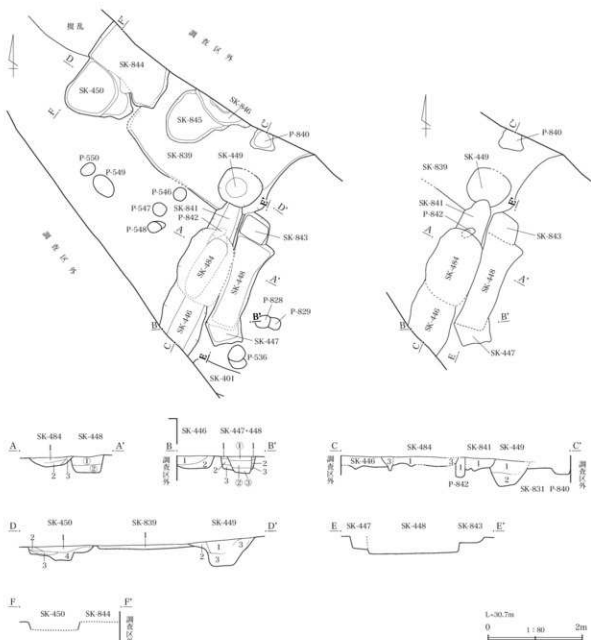
第3章 確認された遺構と遺物



第85図 第410～415・419・420・806号土坑・第500・556・558・559・832～835号ピット実測図



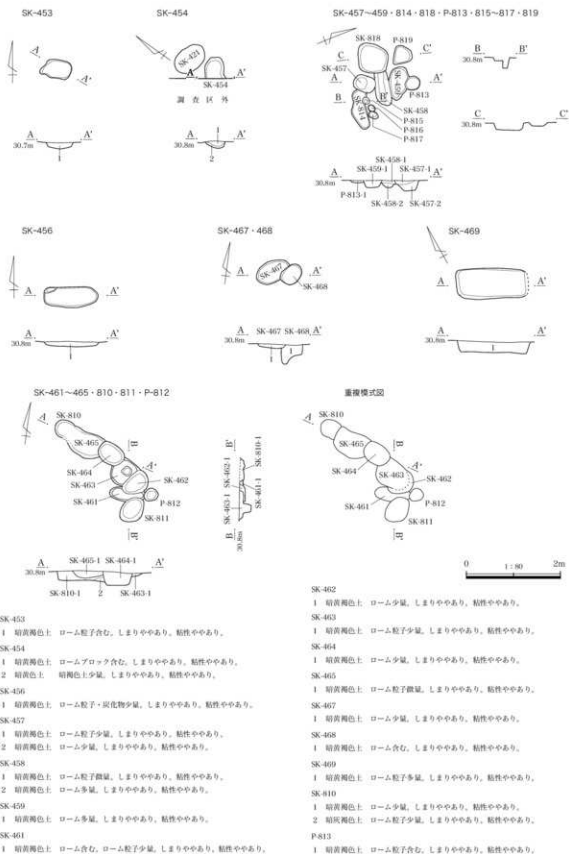
第86図 第421～426・432～440・444・451・452号土坑・第441～443・492・830号ピット実測図



- SK-446
- 1 黒褐色土 ローム少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- SK-447
- 1 暗褐色土 ローム粒子含む、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
- SK-448
- ① 暗褐色土 ローム粒子多量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - ② 暗褐色土 ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - ③ 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- SK-449
- 1 暗褐色土 ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。

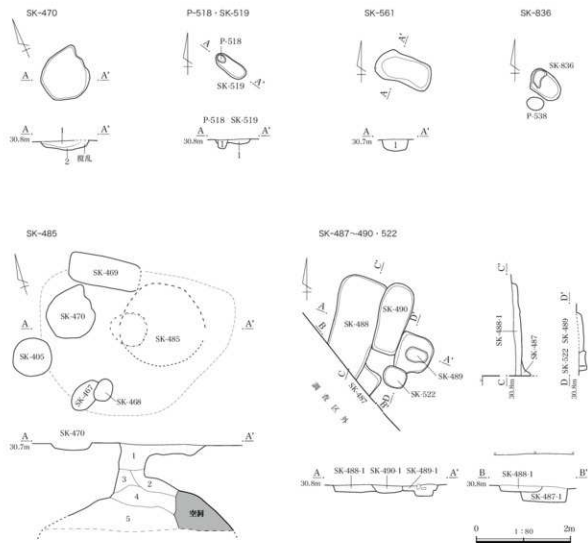
- SK-450
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 白色粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土 白色粘土多量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 4 暗褐色土 暗褐色土多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- SK-484
- 1 暗褐色土 ローム粒子含む、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- SK-839
- 1 暗褐色土 赤色(黄土)粒子・白色粘土粒子少量、しまりややあり、粘性弱い。
- SK-841
- 1 暗褐色土 ロームブロック多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- P-842
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。

第87図 第446～450・484・839・841・843～846号土坑・第840・842号ピット実測図



第88図 第453・454・456～459・461～465・467～469・810・811・814・818号土坑・
第812・813・815～817・819号ビット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-470

- 1 暗褐色土 白色粘土粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-485

- 1 暗灰褐色土 ローム粒子含む。ローム・炭化物少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗灰褐色土 ローム粒子少量。炭化物含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗灰褐色土 ロームブロック・白色粘土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗灰褐色土 ローム粒子少量。礫(φ10.0~20.0cm大)含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 ロームブロック含む。白色粘土・白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-487

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-488

- 1 暗黄褐色土 ローム含む。ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-489

- 1 暗褐色土 ロームブロック・礫(φ20.0cm大)少量。しまりややあり。粘性ややあり。(近世の磁器出土)

SK-490

- 1 暗灰褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-518

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-519

- 1 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-522

- 1 黒褐色土 ローム・白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-561

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

第89図 第470・485・487～490・519・522・561・836号土坑・第518号ビット実測図

第843号土坑 (SK-843) (第87図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。底面の規模は、東西(0.14)m以上・南北約0.56m、主軸N-23°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。EP-Gは模式化したものである。遺構確認面からの深さ約0.13m、レベル30.46mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第844号土坑 (SK-844) (第87図)

位置 C区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-450とは不明である。北側は区外に延びる。**形状・規模・主軸** 方形か。南東隅部は不整である。底面の規模は東西1.6m前後・南北(0.9)m、主軸はN-53°Wか。**底面** ローム層を掘り込む。東側に凹凸が確認される。EP-Gは模式化したものである。遺構確認面からの深さ0.28m前後、レベル30.38mか。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第845号土坑 (SK-845) (第87図 表90)

位置 C区K・L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-839・846とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は東西(0.9)m以上・南北0.84m前後、主軸はN-63°Eか。**底面** ローム層を掘り込む。硬化面が認められる。遺構確認面からの深さ約0.39m、レベル30.27mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 鉄製品2片が出土する。表90に記載する。

第846号土坑 (SK-846) (第87図)

位置 C区K・L-12グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-839・845とは不明である。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は東西(1.1)m・南北(0.3)mである。**底面** ローム層を掘り込む。底面に掘り込みが観察される。北側は区外にあり形状は不詳である。遺構確認面からの深さ約0.27m、レベル30.39mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第852号土坑 (SK-852) (第67・68図)

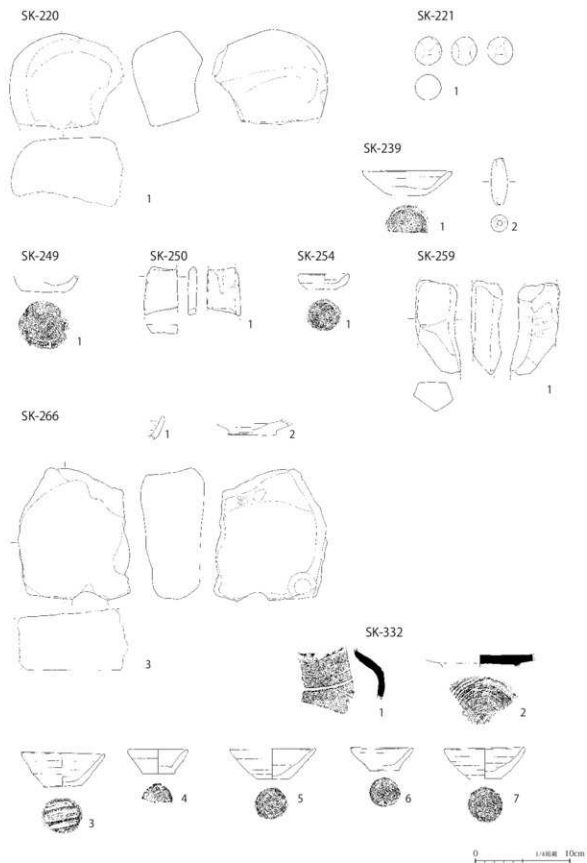
位置 B区L-12グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** SK-852→SK-348→SK-349→SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は、東西(0.56)m以上・南北(0.25)m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.33m、レベル30.79mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第863号土坑 (SK-863) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** SE-862→SK-332→SE-863の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳であるが、図中に破線で示したような南北に長い長方形と推察される。規模は、東西[0.6～0.85]m・南北[1.87]mか。**底面** SK-332覆土を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.4mである。**覆土** 確認されなかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

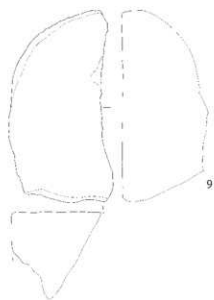
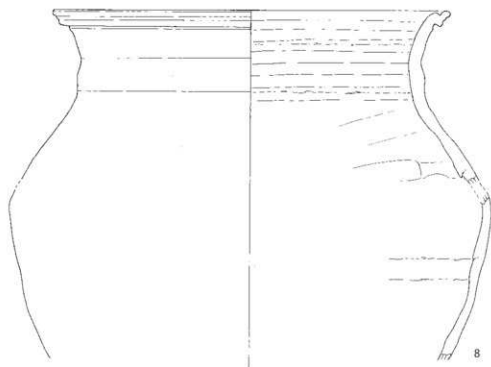
第865号土坑 (SK-865) (第83図)

位置 B区N-14・15グリッドに位置する。南は調査区外にある。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・**



第90図 第220・221・239・249・250・254・259・266・332号土坑出土遺物実測図

SK-332



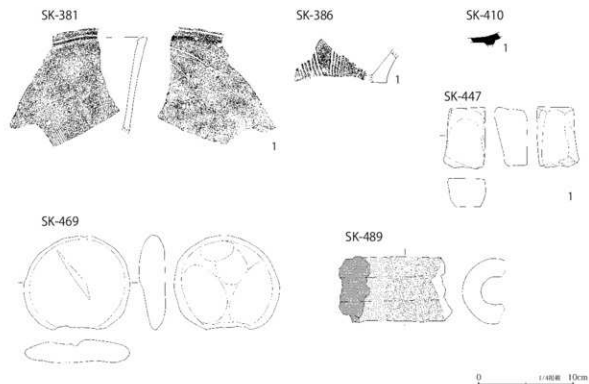
SK-375



0 1/40 10cm

第91図 第332・375号土坑出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物



第 92 図 第 381・386・410・447・469・489 号土坑出土遺物実測図

表 54 第 220 号土坑出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	備考
1 石製品か	長：10.1 厚：2.4 幅：12.1 重：1214.35	一端に片存 上面平造 表面磨滅 下面 破損面であるが磨滅 存在等に利用の成形痕跡	表 黒褐色 裏 灰黄色	火山礫質灰岩	1/351	09183 5-220

表 55 第 221 号土坑出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	備考
1 小罐	長：15.0 厚：2.7 幅：12.9 重：24.25	罐形状の小罐 磨滅	表裏 暗灰黄色	安山岩片	ほぼ完全	09183 5-221-225

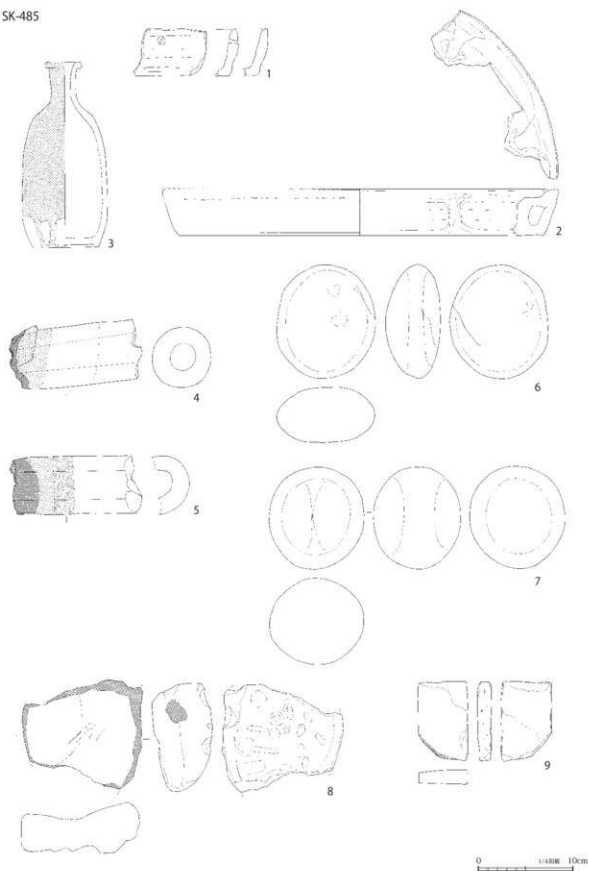
表 56 第 239 号土坑出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小片	口径：9.2 底径：3.4 器高：13.5	口ノリ仕上げ 厚中で内湾する 底面 割断面あり全磨滅	内外 浅黄褐色	土師質土器土群 Ⅱ	小片	09183 SK239・239
2 土師 土器	長：15.0 厚：1.8 幅：11.8 重：15.50	全面磨滅 口ノリか 孔 ほぼ円形であるが、工具は鋭角形のものを使用	内外 口ノリ・底褐色 内 浅黄褐色	赤鹿土・土師器 Ⅱ群Ⅰ-2	ほぼ完全	09183 SK238・239

表 57 第 249 号土坑出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小片	口径：— 底径：4.4 器高：1.9	口ノリ仕上げ 厚中で内湾する 底面 割断面あり全磨滅	内 灰白色 外 浅黄褐色	土師質土器土群 Ⅱ	小片	09183 SK249

SK-485



第93図 第485号土坑出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 58 第 250 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	単位	備考
1 磁石	長：5.1 厚：0.9 幅：3.4 重：26.72	中央部のみ残存 土坑面は赤・黄褐色か 裏面は黄褐色・	黄赤 緑・黄褐色	赤褐色	焼結面	01A03 S-250-252	

表 59 第 254 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	単位	備考
1 土師質土器 小皿	口径：— 底径：(3.6) 器高：—	口が口仕上げ 器中で内湾する 底面 凹形・凹切り土器類	内外 緑・黄褐色	土師質土器に群 属	ほぼ残存	01A03 S254	

表 60 第 259 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	単位	備考
1 磁石	長：19.9 厚：3.3 幅：15.9 重：128.45	上面・下端面欠損 断面：平型な五角形状 断面は残存する多面であるが、土坑面は断面以外の4面 欠損 断面は凹形・凹切りの痕跡が残る	黄赤 黄褐色	赤褐色	焼結面	01A03 S259	

表 61 第 266 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	単位	備考
1 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：(2.3)	口が口仕上げ	内外 黄褐色	土師質土器に群 属	小片	01A03 S-266	
2 土師質土器 小皿	口径：— 底径：(3.0) 器高：(1.6)	口が口仕上げか 断面 見込み凹形	内外 褐色	土師質土器に群 属	小片	01A03 S-266	
3 磁石	長：14.0 厚：6.7 幅：11.9 重：1267.40	上面のみ 断面は残存しない 断面は凹形・凹切りの痕跡あり 断面 凹形・凹切りの痕跡あり 残存面は凹形・凹切りの痕跡あり	黄赤 黄褐色	赤褐色	焼結面	01A03 S-266	

表 62 第 332 号土坑出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 地成	残存 状況	単位	備考
1 磁器類 短冊筒	口径：— 底径：— 器高：(8.0)	口が口成型 口縁部欠損するが、口縁部の立ち上がりは凹形・凹 形 1 本ある以外2本の沈線模様 立ち上がり部、断面から打痕あり	内 黄褐色 外 灰白色	土師質土器に群 属	2/3	01A03 S8-332	
2 磁器類 糸巻付付片	口径：— 底径：— 器高：(1.4)	口が口成型 凹形・凹形 高台部断面は凹形・凹切りの沈線模様	内外 灰白色	赤褐色・土師質 土器に群属	小片	01A03 S8332	
3 土師質土器 小皿	口径：(8.8) 底径：(4.0) 器高：(3.9)	口が口仕上げ 見込み凹形 底面 凹形・凹切り土器類	内 緑・黄褐色 外 緑・黄褐色	土師質土器に群 属	2/3	01A03 S8332	
4 土師質土器 小皿	口径：(6.4) 底径：(3.3) 器高：(2.5)	口が口仕上げ 見込み凹形 底面 凹形・凹切り土器類	内外 緑・黄褐色	土師質土器に群 属	1/6	01A03 S8332	
5 土師質土器 小皿	口径：(8.6) 底径：(2.4) 器高：(3.3)	口が口仕上げ 見込み凹形 内外面 表下の赤色変化	内 褐色 外 灰白色	土師質土器に群 属	1/2	01A03 S8332	
6 土師質土器 小皿	口径：(8.6) 底径：(3.3) 器高：(3.3)	口が口仕上げ 見込み凹形 底面 凹形・凹切り土器類 断面	内外 緑・黄褐色	土師質土器に群 属	2/3	01A03 S8332	
7 土師質土器 小皿	口径：(4.2) 底径：— 器高：(37.6)	断面のみ 口径 約 1.25cm前後の工具で長く ハツナゲを施す 断面は2.6cm以上の工具か 断面は断面に凹形 口縁部 凹形 オリーブ色の自然釉が厚く付く 口縁部 凹形 自然釉に少量を含み、跡はほとんど 残らない自然釉が厚く付く	内 緑・黄褐色 外 緑・黄褐色	陶器に群 属	1/6か	01A03 S8332 S8332	
8 磁石	長：20.3 厚：9.2 幅：(11.0) 重：2130.79	面：上 表面平直、断面上部のみ残存 表面 極めて平直、凹線や凹切り 断面 断面か、磁石の可能性も残る	黄 緑・黄褐色 黄 灰褐色	砂質	1/2 ある	01A03 S8332	

表 63 第 375 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 西耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: 15.30	ヘラナゲ 外底ヌス付着	内 濃い黄褐色 外 灰褐色	灰質土器C群 良	小片	05483 SK275
	口径: 一 底径: 一 器高: 15.20	3角一組の糸織で表裏の穴紋様も配する	内 濃い黄褐色 外 赤褐色	灰質土器B群 良	小片	05483 SK275
3 陶器 打明敷	口径: 14.4 底径: 4.2 器高: 5.1	足1組のみ 浅キリブ色線を内外面に施す 口縁部内面一帯の一部・底面 うるし付着か	内赤 キリブ色	陶器B群 良	2/3	05483 SK275

表 64 第 381 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰質土器 埴輪	口径: 一 底径: 一 器高: 18.30	内 口縁部・つまみあげ 日本一組の器目を施す 外 ヘラナゲを突き出す	内 濃い黄褐色 外 褐色	灰質土器A群 良	小片	05483 SK381

表 65 第 386 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰質土器 埴輪	口径: 一 底径: 一 器高: 13.40	6本以上の器目を施すに施す 器目の間隔10.3cm前後で粗目	内赤 灰色	灰質土器A群 良	小片	05483 SK386

表 66 第 410 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰質土器 高台付灯	口径: 一 底径: 一 器高: 11.40	腰縁のため不詳 口リ成り部 底面 刻線(ヘラナゲ)	内 灰キリブ色 外 灰色	灰質土器A群 良群1-2-5 良	小片	05483 SK410-411

表 67 第 447 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰石	長: 6.5 宽: 3.4 幅: 5.4 重: 126.42	内面底面無 底面に付する4面か ガラス片の 上: 右側面に割傷甚多 底: 裏土も半面剥落	灰黄 浅黄色	西紋岩	壊滅欠損	05483 SK447

表 68 第 469 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 不明な製品	長: 10.0 宽: 2.7 幅: 11.2 重: 249.40	腰縁 口内にあるが扁平 表裏 腰縁の穴欠損あり 器脚不明	灰黄 灰褐色	赤孔質輝石安山岩	ほぼ完全	05483 SK469

表 69 第 489 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土製品 器口	長: 12.0 宽: 4.5 幅: 7.0	高さ分 ガラス質細粒 褐色 赤色変化がみられる ガラス質が垂下した状態であり、使用時の下側か 内面 赤色変化顕著	内 褐色 外 濃い黄褐色	中々細粒 1-2-6 良	壊滅残存	05483 SK489

表 70 第 485 号土坑出土土器観察表

[単位: cm, g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 西耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: 15.00	口縁部: コナナゲ 体部: ヘラナゲ 縁部孔を穿つ 孔周辺に彫刻部 2穴・対とみられ、 外底の孔を穿つて半分の高脚状にヌスの付着がみられる 外底ヌス付着	内 黄褐色 外 濃い黄褐色	灰質土器C群 良	小片	05483 SK485
	口径: 14.40 底径: 36.40 器高: 4.8	内耳 2部一対か 内 コナナゲ 西耳周辺に彫刻部 外 口縁部: コナナゲ 体部: ヘラナゲ	内 灰黄色 外 濃い黄褐色	灰質土器C群 良	小片	05483 SK485
3 陶器 埴輪	口径: 3.8 底径: 7.1 器高: 19.5	口リ成り部 刻線(ヘラナゲ) 外底 灰黄 縁下部~底面: 裏地が見える	内赤 灰キリブ色	陶器B群 良	完全	05483 SK485

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, ㎡)

番号 名称	寸法	特徴	色調	出土 状況	残存 状況	備考
4 窪田	長: 14.1 厚: 7.4 幅: 6.2 重: 460.23	陶磁 ガラス質陶器 厚変化	内 褐色 外 濃い褐色	今中線直 1-2-6 直	片断確認	01A03 0A05
5 窪田	長: 14.0 厚: 4.0 幅: 6.2 重: 225.37	陶磁 ガラス質陶器 薄灰色 赤色変化がみられる	内 濃い黄褐色 外 黄褐色	今中線直 1-2-6 直	片断確認	01A03 0A05
6 礎石	長: 12.1 厚: 5.8 幅: 10.4 重: 427.03	全面磨滅 図 上: 下端 / 今中線直 図 上: 表面の残った層状のものか	表面 黄褐色	多孔質輝石定山岩	欠存	01A03 0A05
7 礎石	長: 10.0 厚: 0.2 幅: 10.0 重: 1156.83	全面磨滅跡 上面中央今中線直する	表面 黄褐色	伊波	欠存	01A03 0A05
8 石礎	長: 11.5 厚: 6.1 幅: 12.0 重: 500.02	両端欠損 残存部磨滅 図 上: 表面: 右側から左側に沿って 磨滅: 磨滅して平滑 磨滅: 凹み多い 表裏面: 磨滅の欠損あり	表面 濃い黄褐色	スクリア質 輝石定山岩	1/4	01A03 0A05
9 礎石	長: 8.4 厚: 1.1 幅: 5.5 重: 111.80	片面欠損 図 上: 表面上部、裏面上: 下部非直 断面は残存する断面 表面: やや凸状	表 黄褐色 裏 濃い黄色	粘板岩	1/2	01A03 0A05

規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は東西約 0.58 m・南北 (1.0) m、主軸 N-20°-E である。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.1 m、レベル 30.04 m である。 **覆土** 1 層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

4. 井戸跡

(1) 調査の概要

3次調査区からは 29 基が確認される。A 区 10 基、B 区 12 基、C 区 4 基、D 区 3 基である。何れもの区においても土坑や溝状遺構に重複する分布が確認される。

井筒は円形で、断面形はロート状かまたは直線的なものが多い。何れも、湧水、或いは、安全のため、掘り込みの途中で掘削を中止する。

湧水レベルは、B 区 SE-333:29.81 m、SE-337:29.51 m、SE-353:29.7 m、SE-368:29.65 m、SE-369:29.45 m、SE-378:29.5 m SE-380:29.9 m、SE-389:29.48 m、D 区 SE-321:30.15 m である。

B 区においては、M-14 ~ M-15 にかけての N-70°-W の軸線上に、東から SE-337・333・378・390・369・368 が並ぶ。SE-390 を除き、湧水のため掘削を中止する。湧水レベルは概ね 29.5 m 前後であり、水脈に関連するものとみられる。

B 区 SE-337 は付随する p 1・2 は釣瓶等の痕跡か。また、覆土 5・7 層は埋土か。7 層を差し込むような棒状堆積の 5 層は、埋没に関わる標柱等の可能性はあろうか。

SE-340-2・5 層はテラス状の施設か。別遺構の可能性も残る。

遺物の出土は総じて多くはない。また、SE-209・269・332・405・495 からは縄文土器・須恵器・土師器から近世後半の陶磁器まで、SE-269・332・339・340・368・386 からは近代以降とみられる施輪陶器・磁器までを含み、その時期幅は大きい。

(2) 井戸跡

第 203 号井戸跡 (SE-203) (第 94 図 図版一二)

位置 A 区 P-19 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、ロート状に立ち上がる。遺構確認面の規模は径約 1.3 m、井筒径約 0.8 m である。 **底面** 遺構確認面からの深さ約 0.9 m、図中破線で示したレベル 28.7 m 付近で掘削を中止した。 **覆土** 6 層を

確認した。総じてロームの堆積が多い。1・5層は白色粘土塊が堆積する。埋土と判断される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第206号井戸跡 (SE-206) (第73図 表90)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東側は調査区外に位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、緩やかなルート状に立ち上がる。遺構確認面の規模は径約1.2m・井筒状端部径約0.9m・井筒径約0.7mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.85m、図中破線で示したレベル28.85m付近で掘削を中止した。 **覆土** 5層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。瓦質土器挿鉢1片、鉄製品1片、礫1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

瓦質土器挿鉢は、10本一組の摺り目を疎らに施す体部片である。鉄製品は刀子状の小片である。表90に記載する。礫は1片が出土する。尖頭形状の破砕礫小片であり、磨滅が顕著に観察される。

第207号井戸跡 (SE-207) (第73・90図 表71)

位置 A区P-19グリッドに位置する。 **重複関係** SE-207→SD-202→SE-230の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。断面形は緩やかなルート状であるが横穴状の掘り込み等が観察される。遺構確認面の規模は径約1.5m・井筒状端部径約0.95m・井筒径約0.9mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.9m、図中破線で示したレベル28.7m付近で掘削を中止した。 **覆土** 6層を確認した。 **遺物出土状況** SD-202重複部覆土中から5片が出土する。石製品・礫5片である。

出土遺物 1は硯片。時期等不詳であるが、近・現代の可能性も否めない。墨とみられる黒色の付着物が疎らにみられる。

この他、図示し得なかった出土遺物は礫4片である。何れも破砕した小片であり、残存面は磨滅する。

第209号井戸跡 (SE-209) (第76・96・119図 表72・90・94 図版一二)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。 **重複関係** SK-239→P-229→SE-209か。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状、断面形はルート状である。遺構確認面の規模は径2.34m前後、段部分径1.77m前後・井筒径1.33m前後である。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.7m、図中破線で示したレベル28.9m付近で掘削を中止した。 **覆土** SP-B:16・17層、SP-C:13～15層を確認した。16層-13層・17・18層-15層に対応するか。壁面にロームの堆積が覆い。 **遺物出土状況** 覆土中から14片が出土する。土器類4片、石製品・礫6片、陶磁器4片、鉄製品1片である。

出土遺物 1は須恵器裏体部片。2は砥石片。3は硯片であるが、近・現代である可能性は否めない。第119図-10は天目碗か。16世紀後半か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は土師質土器小皿底部3片が出土する。2片はロクロ成形で盃形に開くか。1片は底部回転糸切り未調整。礫は4片が出土する。破砕礫小片3片、棒状の小礫1点である。破砕礫のうち1片と小礫は磨滅する。

陶磁器は陶器2片、磁器1片が出土する。何れも近世後半以降か。陶器は血頸1片、碗・血頸1片が出土する。血頸は内外面に灰釉を施す折縁血か。碗・血頸は内外面に灰釉を施す。磁器は碗頸1片が出土する。文様は確認されない。肥前系か。

鉄製品は詳細不明な小片である。表90に記載する。

第213号井戸跡 (SE-213) (第73・119図 表94)

位置 A区P-19グリッドに位置する。 **重複関係** SE-213→P-785の順に掘り込まれる。また、南東側

のテラス状の掘り込みとの関連は不明であり、付属施設として記載する。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、緩やかなロート状に立ち上がる。遺構確認面の規模は径1.0～1.1m・井筒上端部0.9m前後・井筒径約0.85mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.7m、図中破線で示したレベル28.9m付近で掘削を中止した。**覆土** 1～8層が確認される。5層はテラス状の掘り込みの堆積土か。5・6層が水平に分層される点、5層を切るように4層が堆積する点など留意されるが、詳細は判然としない。**付属施設**

SE-213南東側に底面不整な掘り込みが確認される。東西に長く、2段に掘り込まれる。東西の全長約0.75mである。西側の掘り込みの深さはSP-A5層が堆積層とした際、遺構確認面下約0.4m・レベル29.2mである。覆土、東側の掘り込みの詳細等は確認し得なかった。p1は東側の掘り込み底面に確認される。径0.13m前後・遺構確認面からの深さ約0.18mである。p2は西側の掘り込みに確認される。東西約0.24m・南北約0.3m、底面レベル等は確認し得なかった。p1・2ともSE-213、テラス状の掘り込みとの帰属等は不詳である。

遺物出土状況 覆土中から陶器1片が出土する。

出土遺物 第119図-11は陶器皿類か。志野様式。美濃系か。近世前半か。

第230号井戸跡 (SE-230) (第73図)

位置 A区P-18グリッドに位置する。**重複関係** SE-207→SD-202→SE-230の順に掘り込まれる。北側に東西(0.65)m・南北(1.0)m・深さ約0.2mほどの平坦な掘り込みが確認されるが、帰属・本遺構南側の掘り込みの有無等、詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状、断面形は緩やかなロート状である。遺構確認面の規模は東西約1.2m・南北約1.45m、井筒状端部径約0.76m、井筒径約0.68mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.85m、図中破線で示したレベル28.82m付近で掘削を中止した。**覆土** 11層を確認した。4・6層は別遺構である可能性も残る。**遺物出土状況** 覆土中から土師質土器小皿1片、礫1片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土師質土器小皿はロクロ仕上げの口縁部片である。礫はスコリア質安山岩片である。残存面のない小塊である。

第231号井戸跡 (SE-231) (第73図)

位置 A区P-18・19グリッドに位置する。**重複関係** SE-207→SD-202→SE-230の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状、断面は緩やかな傾斜をもって直線的に掘り込まれる。遺構確認面の規模は径約1.5m・井筒径約0.7mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約1.05m、図中破線で示したレベル28.5m付近で掘削を中止した。**覆土** 4層を確認した。総じて黒褐色土ブロックの堆積が目立つ。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第243号井戸跡 (SE-243) (第97図 表73 図版一二)

位置 A区P-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、段をもって立ち上がる。遺構確認面の規模は径[1.5]m、井筒径約0.75mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.65m、図中破線で示したレベル28.9m付近で掘削を中止した。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から1点を確認した。この他、SK-242周辺から、石製品・礫7片が出土する。SK-242に記載する。

出土遺物 1は板碑である。3～3層下にかけて出土する。

第263号井戸跡 (SE-263) (第78・96図 表73・92)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。**重複関係** SK-262より古い。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、段をもって立ち上がる。遺構確認面の規模は径[2.16]m、井筒径[1.46]mである。**底面** 遺構

確認面からの深さ約0.8m、箇中破線で示したレベル28.65m付近で掘削を中止した。**覆土** 9層を確認した。1層は攪乱層か。7層下部に空洞が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から21片が出土する。土器類16片、鉄滓2片、礫2片、工業化製品針金1片である。また、SK-260～262・SE-263周辺から3片が出土する。SK-260に記載する。

出土遺物 1・2は内耳土器である。1は内面に「×」状のへら記号が施される。1は器高6.0cm以上か。この他、図示し得なかった遺物は以下のとおりである。

土器類は土師質土器小皿、内耳土器、瓦質土器挿鉢が出土する。土師質土器小皿は口縁部3片・体部3片。ロクロ仕上げ。内耳土器体部片は胎土C1片・D2片。挿鉢は同一個体5片か。7本以上の摺り目を疎らに施す。鉄滓2片は表92に記載する。礫2片は、破砕した小礫で、破断面を含む被熱シスが附着する。残存面は磨滅面が残るが詳細は不明である。

第265号井戸跡 (SE-265) (第94図)

位置 D区Q-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** SD-19底面に確認した井筒は円形状である。SD-19底面における規模は、東西約0.85・南北約0.64mである。**底面** 確認面からの深さ約0.8m、レベル28.8m付近で安全のため掘り下げを中止した。

覆土 確認し得なかった。表土下は黒色土、掘削中止最上面は暗黒褐色土である。**遺物出土状況** SD-19重複部から内耳土器内耳部片1片が出土する。胎土Dである。

第269号井戸跡 (SE-269) (第94・93図 表75)

位置 D区R-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。遺構確認面の規模は、径1.0m前後である。**底面** 深さ約0.4m、レベル29.12m付近で安全のため掘り下げを中止した。**覆土** 確認し得なかった。掘削中止最上面は黒色土である。**遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。土器類2片、石製品・礫3片、陶磁器3片ある。

出土遺物 1は本来土師器喪体部片とみられる。円形状の東辺を除き磨滅する。東辺は2度の打ち欠き痕か。土製円盤状であるが、詳細は不明である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類1片、石器・礫3片、陶磁器3片である。

土器類は須恵器喪体部小片である。石製品・礫のうち1片は緑色片岩であり、板破片と考えられる。3片は自然礫小片か。陶磁器は微細片3片が出土する。何れも器種は不明であるが、内外に施軸することから碗・鉢類か。陶器は灰釉片1片、磁器は淡緑色釉1片・染付1片である。近世後半以降か。

第321号井戸跡 (SE-321) (第79図)

位置 D区G-6・7グリッドに位置する。**重複関係** SK-322→SE-321の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 北側を攪乱により失う。図上の破線は復元線である。井筒は円形状である。遺構確認面の規模は、径(1.6)m、井筒径1.0m前後である。**底面** 深さ約0.9m、レベル30.15m付近で湧水のため掘り下げを中止した。**覆土** 5層が確認される。4層の黒色土を挟み、3・5層に白色粘土ブロックが流れ込むように堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第333号井戸跡 (SE-333) (第80図)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SE-333→SK-381の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状であり、断面形はロート状である。遺構確認面の規模は径1.35m前後、井筒径0.95m前後である。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.8m、箇中破線で示したレベル29.91m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 遺構確認面からの深さ約0.6m、レベル30.0m付近までに4層

が確認される。1層は白色土ブロックが堆積する。 **遺物出土状況** 覆土中から土器類2片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器2片である。内耳1片（胎土D）・体部1片（胎土C）。

第337号井戸跡（SE-337）（第69図 図版一二）

位置 B区M・L-14グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状であり、断面形はロート状である。遺構確認面の規模は径2.1m前後、井筒径約1.35mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約1.25m、図中破線で示したレベル29.51m付近で湧水のため掘削を中止した。 **覆土** 遺構確認面からの深さ約0.8m、レベル30.8m付近までに9層が確認される。1層、2～4層は後世の掘り込みか。詳細は不明である。5・7層はロームブロック堆積層である。崩落層とするれば、断面形はロート状よりも直線的である可能性が考えられる。埋土の可能性も残る。6層は、7層・5層中位までを切り込む棒状の堆積である。5層堆積途中まで、杭等が存在したか。 **付属施設** p1・p2が確認される。p1は遺構南東部、p2は遺構南西部の壁際に穿たれる。掃蕪等は判然としませんが、上屋や釣瓶等の施設の可能性を考え得る。p1は東西約0.24m・南北約0.4m、p2は東西約0.27m・南北約0.5mである。底面レベルは不詳であるが、遺構確認面からの深さはp1：0.6m前後、p2：0.3m前後か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第339号井戸跡（SE-339）（第69図）

位置 B区M-14グリッドに位置する。西側は調査区外にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状であり、直線的に立ち上がる。遺構確認面の規模は径（1.0）m、井筒径（0.73）mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル30.05m付近で掘削を中止した。 **覆土** 4層を確認した。2層はロームブロックの堆積が目立つ。 **遺物出土状況** 覆土中から4片が出土する。土器類2片、陶器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類2片、陶器2片である。

土器類は瓦質土器2片が出土する。内耳土器体部1片（灰色・胎土C）、播鉢1片である。播鉢は9本以上1組の摺り目を疎らに施す。内面体下半はスガが付着する。

陶器は、近世後半以降とみられる灰軸を施す碗類1片、近代以降とみられる青緑軸を施す鉢類1片である。

第340号井戸跡（SE-340）（第67・68図）

位置 B区M-13グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面はテラス状に掘り込まれるが詳細は不明である。別遺構の可能性も残る。井筒は円形状であり、ロート状である。遺構確認面は南北約2.1mのテラス状であり、概ね中央部に井筒が掘り込まれる。井筒上端部は径約1.4m、井筒は径0.6～0.7mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.8m、図中破線で示したレベル30.2m付近で掘削を中止した。 **覆土** 9層を確認した。1層はピットの可能性残る。2・5層はテラス状の施設、或いは、別遺構か。詳細は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。陶器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。陶器2片である。1片は向付碗か。餡釉を施す。近世後半以降か。1片は筒型か。外面に明藍色の染付を施す。近代以降か。

第353号井戸跡（SE-353）（第69図）

位置 B区M-16グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は緩やかなロート状である。遺構確認面の東西約1.12・南北約0.93m、井筒の東西約0.83m・南北約0.8mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.7m、図中破線で示したレベル

29.7 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 湧水による蓄水のため、図中一点破線で示した遺構確認面からの深さ約0.6 m・レベル29.8 m付近までの4層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第368号井戸跡 (SE-368) (第83・84図)

位置 B区N-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は緩いロート状である。遺構確認面の径約0.85 m、井筒の径0.7～0.76 mである。

底面 遺構確認面からの深さ約0.7 m、図中破線で示したレベル29.51 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 湧水による蓄水のため、図中一点破線で示した深さ約0.55 m・レベル29.51 m付近までの1層を確認した。ロームブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から24片が出土する。土器類16片、礫3片、磁器8片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類16片、礫磁器8片である。

土器類は、土師質土器小皿1片、内耳土器13片、瓦質土器播鉢2片が出土する。

土師質土器小皿は口縁部片であり、ロクロ仕上げ。内耳土器は胎土C 8片（口縁部1片・内耳1片・体部3片・底部2片）、胎土D 6片（内耳1片・体部2片・底部3片）である。器高は8.0cm以上あるものを含む。瓦質土器は播鉢体部2片。8本以上一組・四本以上一組の掘り目を疎らに施す。

礫は、緑泥片岩2片、スレート1片が出土する。緑泥片岩は板碑片か。

磁器は、近世後半以降とみられる染付碗類2片。近代以降とみられる印判手の碗類1片。近代以降の染付(プリント)碗類1片・青色釉をかき分ける碗類2片・透明釉の碗類1片・青磁色の鉢類1片が出土する。

第369号井戸跡 (SE-369) (第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は緩いロート状であるが、西壁にオーバーハングする部分が認められる。遺構確認面の径約1.37 m、井筒の径0.9～1.0 mである。南東部にテラス状の突出部が掘り込まれる。幅等は不詳である。幅(東西)約0.57 m・奥行き(南北)約0.3 m・遺構確認面からの深さ0.1 m程度か。

底面 遺構確認面からの深さ約0.75 m、図中破線で示したレベル29.45 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 湧水による蓄水のため、図中一点破線で示した深さ約0.5 m・レベル29.65 m付近までの3層を確認した。3層中、炭化物・焼土の帯状の層が、西壁オーバーハング部から概ね水平に堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第378号井戸跡 (SE-378) (第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形はロート状か。遺構確認面の東西約1.0 m・南北約1.2 m、井筒の東西約0.65 m・南北約0.94 mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.75 m、図中破線で示したレベル30.5 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 7層を確認した。総じて白色粒子の堆積が目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。土器類1片、陶磁器 片である。

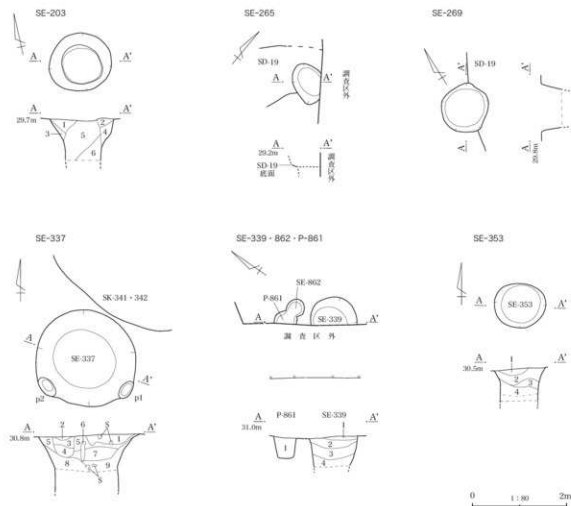
出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類1片である。

土器類は、内耳土器底部1片(胎土C)が出土する1片が出土する。

第380号井戸跡 (SE-380) (第95図 図版一二)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は下位に向かってオーバーハングする。遺構確認面の径約0.7 m、井筒

第3章 確認された遺構と遺物



SE-203

- 1 硝灰土 硝灰土少量、しまりあり、粘性強い。
- 2 硝灰土 硝灰土含む、しまりあり、粘性強い。
- 3 硝灰褐色土 硝灰土含む、しまりあり、粘性強い。
- 4 硝灰褐色土 ロームブロック多量、しまりあり、粘性強い。
- 5 硝灰土 硝灰土少量、白色粘土多量、しまりあり、粘性強い。
- 6 硝灰褐色土 黄ローム多量、しまりあり、粘性強い。

SE-337

- 1 硝褐色土 ローム・ローム粒子少量、礫(φ5.0~10.0cm大)含む、しまりややあり、粘性ややあり。
- 2 硝灰褐色土 ローム多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 3 硝褐色土 ローム粒子含む、しまりややあり、粘性ややあり。
- 4 硝灰褐色土 ローム粒子多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 5 硝褐色土 硝灰土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 6 硝灰褐色土 硝灰土少量、しまり高い、粘性ややあり。
- 7 硝褐色土 ロームブロック少量、硝灰土多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 8 硝灰褐色土 ロームブロック・硝灰土少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 9 硝褐色土 ロームブロック少量、礫(φ3.0~5.0cm大)含む、しまりややあり、粘性ややあり。

SE-339

- 1 硝灰褐色土 ローム少量、ロームブロック微量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 2 硝褐色土 ローム含む、ロームブロック少量、硝灰褐色土多量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 3 硝灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 4 硝灰褐色土 ロームブロック少量。

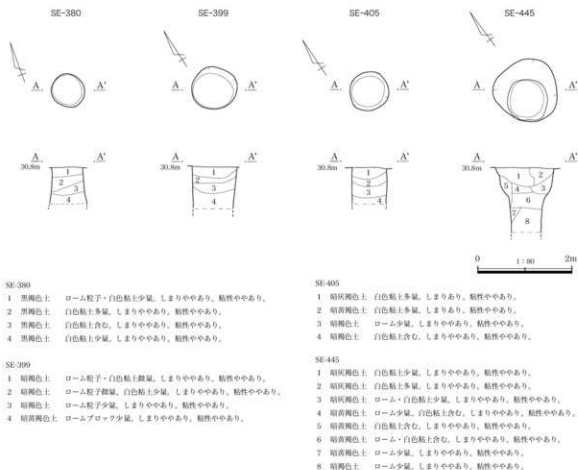
SE-353

- 1 硝灰褐色土 ローム粒子少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 2 硝灰褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。
- 3 硝灰褐色土 ロームブロック多量、しまりやや弱い、粘性ややあり。
- 4 硝灰褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、しまりややあり、粘性ややあり。

P-861

- 1 硝灰褐色土 ロームブロック含む、しまりややあり、粘性ややあり。

第94図 第203・265・269・337・339・353・862号井戸跡・第861号ビット実測図



第95図 第380・399・405・445号井戸跡実測図

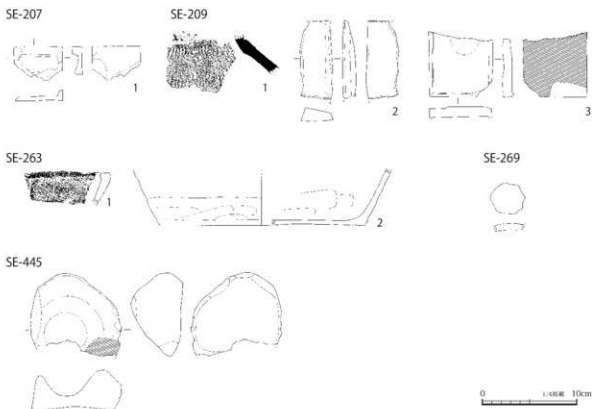
径(0.8)m、である。底面 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル29.9m付近で湧水のため掘削を中止した。覆土 4層を確認した。総じて白色粒子の堆積が目立つ。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第384号井戸跡(SE-384)(第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SE-384→SE-390→SD-393→SD-379、SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 SD-393下・井筒は円形状である。断面形は直線的に垂下する。SD-393下の東西約0.75m・南北約0.7m、井筒の東西約0.62m・南北約0.64mである。底面 SD-393下からの深さ約0.78m、図中破線で示したレベル29.45m付近で湧水のため掘削を中止した。覆土 SP-G:3~8層を確認した。3層は壁面等の崩落層か。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第389号井戸跡(SE-389)(第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SK-398とは不詳である。形状・規模・主軸 遺構確認面・井筒は円形状である。遺構確認面の東西約0.8m・南北約0.7mである。底面 遺構確認面からの深さ約1.1m、図中破線で示したレベル29.48m付近で湧水のため掘削を中止した。覆土 上層は確認



第96図 第207・209・263・269・445号井戸跡出土遺物実測図

し得なかったが、2層が確認される。 **遺物出土状況** 覆土中から14片が出土する。土器類14片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類14片である。

土器類は、土師質土器小皿1片、内耳土器10片、瓦質土器播鉢3片が出土する。

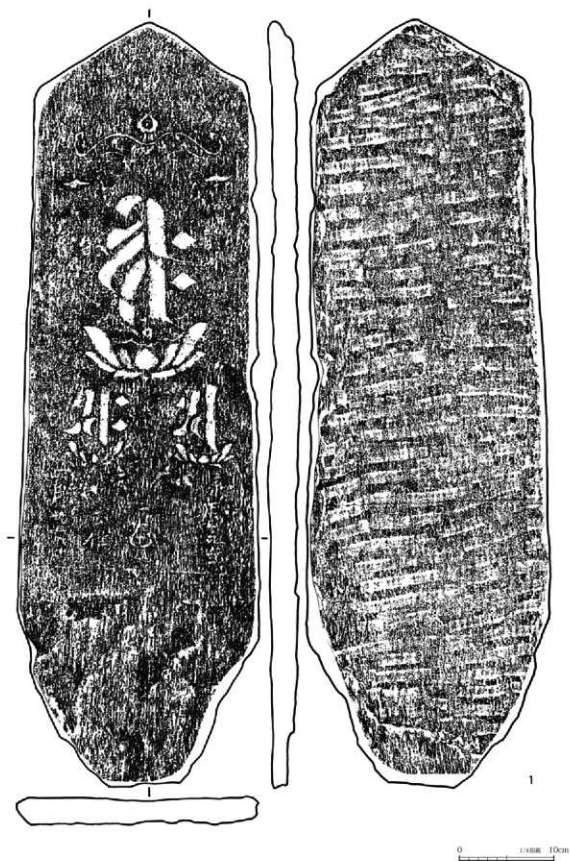
土師質土器小皿は体部微細片で磨滅が著しいがロクロ仕上げか。内耳土器は体部10片(胎土C 8片・D 2片)が出土する。瓦質土器播鉢は口縁部1片・体部2片が出土する。口縁部は播り目は残存しないが、内面口端部をつまみ上げがSK-381-1に似る。体部のうち1片は4本以上一組の播り目を施す。播り目の間隔は粗く、SK-386と似る。1片は7本以上一組の播り目を施す。

第390号井戸跡 (SE-390) (第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。 **重複関係** SE-384→SE-390→SD-393→SD-379、SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** SD-393下・井筒は円形状である。南東側はテラス状に掘り込まれる。断面形は直線的に垂下する。SD-393下の東西の全長約1.4m、井筒径約1.2m・南北約0.7m、テラス状の部分の奥行き約3.2m・幅約0.55mである。 **底面** SD-393下からの深さ約0.78m、図中破線で示したレベル29.45m付近で湧水のため掘削を中止した。 **覆土** SP-G: 9～14層を確認した。9層は壁面等の崩落層か。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第399号井戸跡 (SE-399) (第95図)

位置 C区K-10グリッドに位置する。SE-405と隣接する位置関係にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 開口部は円形状、井筒は円形状であり、直線的に垂下する。遺構確認面の規模



第97図 第243号井戸跡出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 71 第 207 号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 石製品 環	長：3.6 厚：1.1 幅：5.1 重：86.88	端部のみ残存 端部裏が深く、土曜か 藍色の付着物が残りにみえる 磨か	西内 灰色	粘板層	小片	09A3 5-202 207

表 72 第 209 号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 漆器跡 盤	口径：一 底径：一 周高：13.22	内 ヘウナギド：磨滅 外 平均磨きか：磨滅	西内 灰色	粘板層・土曜層 胎土1・2・6	小片	09A3 5-209
2 砥石	長：8.3 厚：1.4 幅：3.4 重：84.80	下底欠損 左側面は欠損後も使用か 砥石は表・裏・両側面 左側面の磨滅は深い。 表面 右側面は磨滅薄く、磨られたか 磨滅 中央部：磨滅が浅く	西内 褐色	粘板層	1/3	09A3 5209
3 石製品 環	長：6.9 厚：1.4 幅：6.9 重：180.44	上半部欠損 中央付近に中央部が 磨滅が浅くするが、残存部に磨滅が	西内 灰色	粘板層	端部欠損	09A3 5-209

表 73 第 243 号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 磁碑	長：89.5 厚：3.1 幅：3.1 重：1180.0	表面を山型に磨削 底面は中央山型に成形 欠損部は縁部の下の種子は阿波陶器二層 （6リブ（阿波陶器）・サ（整備済香取）・サ（粉足 香取））か、種子部は阿波陶器一層か寸法：色調は阿波陶器の記号 記号：中央左側に「唐」の磨滅は両面 表面磨滅も欠損、且日と磨滅されたものと判断される	表裏 明褐色	粘板片層	端部欠損	09A3 A3C 58-243

表 74 第 263 号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径：一 底径：一 周高：13.52	口縁部小片 内面「フ」裏のヘウナギドあり	内 白・褐色 外 黄褐色	五葉土胎土層 片	小片	09A3 5-263
2 内耳土器	口径：一 底径：121.45 周高：16.49	内 ナギ 外 ナギ ※外付着	内 白・褐色 外 黄褐色	五葉土胎土層 片	1/3以下	09A3 5-263

表 75 第 269 号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 土製品 円盤か	長：3.3 幅：3.6 厚：0.9 重：18.9	裏面を除き磨滅か 裏面は打ち欠損か 表面は土曜層とみられ、性格等不詳	西内 褐色	粘板層・土曜層 胎土1・2・6	ほぼ完全	09A3 5-269

表 76 第 445 号井戸跡出土遺物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 二枚板か	長：8.8 厚：3.5 幅：8.6 重：275.26	図 上：左側面は平直 表面 平直で中央部が 磨滅部、右側面中央に欠損部	西内 褐色	ネコリア質 硬砂岩片層	1/2	09A3 D445

は径 0.9～0.95 mである。底面 遺構確認面からの深さ約 0.9 m、図中破線で示したレベル 29.8 m付近で掘削を中止した。覆土 4層を確認した。2層に白色粘土ブロックが堆積する。遺物出土状況 覆土中から2片が出土する。土器類2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類2片である。

土器類は内耳土器2片（胎土C1片・D1片）が出土する。

第 405 号井戸跡（SE-405）（第 95 図）

位置 C区K-10グリッドに位置する。SE-405と隣接する位置関係にある。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 遺構確認面は円形状、井筒は円形状であり、直線的に垂下する。遺構確認面の規模は径0.83m前後である。底面 遺構確認面からの深さ約0.8m、図中破線で示したレベル29.9m付近で掘削を中止した。覆土 4層を確認した。1・2層に白色粘土ブロックが堆積する。1層よりブロック径は大きく、量も多い。遺物出土状況 覆土中から12片が出土する。土器類3片、碟3片、陶磁器6片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類3片、礫3片、陶磁器6片である。

土器類は、縄文土器1片、粘土塊2片が出土する。縄文土器はLR縦方向に施文か。

礫は、凝灰岩2片、小礫1片が出土する。凝灰岩片は切石状ともみえる。石材か。小礫は自然礫片とみられる。

陶磁器は、陶器碗類2片・瓶類1片・鉢類2片、磁器瓶類1片が出土する。近世後半以降か。

陶器碗類は黄白色の釉を施し貫入の入る1片・黄白色の釉を施す1片である。瓶類は黄瀬戸釉に似た色調を施軸する。鉢類の1片は内外面に灰釉を施す。1片は暗褐色釉を施すが器種は判然としない。磁器は透明釉を施す。

第445号井戸跡 (SE-445) (第95・96図 表76 図版一五)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒の平面形は円形状である。断面はロート状であるが、南西部は垂直気味に立ち上がる。遺構確認面の規模は径約1.3m、井筒径約0.85mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.35m、図中破線で示したレベル29.3m付近で掘削を中止した。**覆土** 8層を確認した。1～6層は白色粒子が堆積する。6層下面は水平に堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。土器類6片、石製品1片、陶器1片である。

出土遺物 1は捏ね鉢か。見込みは深く、図上左側面・裏面は極めて平滑である。

図示し得なかった出土遺物は、土器類6片、陶磁器1片である。

土器類は、土師器裏腹口縁部1片、土師質土器小皿体部2片(ロクロ仕上げ)、土師質土器体部2片、内耳土器体部1片(胎土D)である。

陶器は皿類1片が出土する。灰釉を施す。見込みに重ね焼の痕跡が残る。外面底部～体下位は無軸である。近世後半以降か。

第788号井戸跡 (SE-788) (第78図)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。遺構確認面の規模は、東西約1.6m・南北約1.4mである。**底面** 深さ約0.6m、レベル29.05m付近で掘り下げを中止した。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第862号井戸跡 (SE-862) (第83・84・94図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SE-862→SK-332→SK-263の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 遺構確認面は円形状、井筒は円形状であり、直線的に垂下する。遺構確認面の規模は東西約0.73m・南北約0.85m、掘削最下面の東西約0.67m・南北約0.77mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル29.95m付近で掘削を中止した。**覆土** 3層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

5. 溝状遺構

(1) 調査の概要

3次調査区からは12基の溝状遺構が確認される。A区5基、B区5基、C区0基、D区2基である。

覆土は、いずれも、黒褐色・暗褐色・暗黄褐色土が堆積する。覆土の観察からは、長期間の流水・蓄水の痕跡は極めて薄いと判断される。

各区において留意される遺構の特徴は以下のとおりである。

A区SD-19は2次調査区Ⅱ区SD-19と位置・形状・主軸など特徴が極めて近い。このため、同一遺構と判

断し、現地調査時より同一の遺構番号を付した。但し、底面の傾斜は、2次調査区SD-19では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区SD-19の底面レベルからは傾斜は読み取れない。

D区にはSD-12・13・14・276の4条が位置する。D区SD-12・13・14は位置・主軸・底面の傾斜等、1次1区SD-12・13・14と特徴が似ることから、同一遺構と判断し、現地調査時より同一の遺構番号を付した。SD-13・14については、1次調査の成果として、中世の葉研堀との指摘がある。今回の調査においては、断面形状は葉研堀状はあるが、出土遺物の時期は幅や出土状況からは、遺構の時期を明確にし得なかった。1次調査においても図化し得た遺物はなく、断面形状からの判断であることから、遺構に時期については再考の余地があるものと考えられる。

SD-13・14・276は、概ね北東-南西方向に主軸をもつが、SD-12は概ね東西方向に主軸を持つ。

SD-12は、1次調査における報告はないが、2時期の可能性が残る。

SD-13・14の新旧関係については、1次調査ではSD-13→SD-14であるが、本調査では遺構の重複は確認されない。平行かつ近接する位置関係、葉研状に近い断面形、SD-13の覆土堆積状況から、重複、或いは、掘り直しの可能性が指摘でき、同様の性格を持つ溝状遺構である可能性が考えられる。

出土遺物については、SD-379以外の溝状遺構から確認される。何れも、他の遺構同様、縄文時代から現代の工業製品（陶磁器・スレート・瓦・土管・ガラス等）までが出土し、多くは後世の混入遺物と判断される。遺構への帰属は判然としにくい。

B区SD-364・SK-374（地下式坑）重複部から出土する遺物については、後出するSD-364に帰属する遺物が多いものと推察されるが、SK-374底面までは重複が及んでおらず、その帰属を明確にし得なかった。このため、重複部の出土遺物については、現地の所見に従い、SK-374に記載する。

その他、留意される点は以下のとおりである。

A区SD-19からは、14世紀代とみられる古瀬戸瓶類（灰釉）や瀬戸窯登窯期（17世紀以降）の瓶類とみられる破片、銭貨「祥符通宝」が出土する。

A区SD-202からは、銭貨「永楽通宝」が出土する。

B区SD-364からは第71図-37の陶器環と形状、軸調の似た不掲載11片（3個体以上分）、38と軸調、形状の似た不掲載4片（3個体分）が出土する。組揃の飲食器か。

B区SD-371から出土する底部微細片は天目碗底部か。

B区SD-376から出土する粘土塊にはサ状の痕跡が残る。僅かな残存面からは羽口の可能性も考え得る。また、磨石状の礫の出土が確認されるが、C区SK-485出土の磨石状の礫とあわせ、製鉄関連遺物の可能性の有無を考慮すべきか。

D区SD-12出土の破断面の一部が磨滅する円形状の破片は円盤状の土製品か。用途等の推定は難しい。

D区SD-13については、小片で器面の剥落する土師器壺片など、破砕後、廃棄された可能性が考えられる遺物が出土する。遺構の時期については、近世末～近代初頭とみられる陶磁器小片の出土が多く、近世後半以降と考えたいが、下層から須恵器環・土師器壺・内耳・工業化製品（土管）が出土しており、明確にし得ない。

D区SD-14については、近世後半以降の遺物が半数を占める。SD-13同様、近世後半以降の時期を考慮したいが、他遺構同様に、縄文時代から工業化製品（瓦）までが小片で出土し、後世の混入や廃棄の可能性が高いと判断される。遺構内の攪乱からも同様の遺物出土状況が確認され、SD-14帰属の遺物の再流入の可能性、或いは、覆土自体が攪乱を繰り返す堆積である可能性等が考えられよう。

SD-14 出土遺物は、須恵器・内耳土器も目立つ。須恵器のうち、時期の判別が可能であるのは第104図-1 蓋片（7世紀第3半期か）・4 坏片（9世紀前半）である。内耳土器はがSP-B-C間に集中する傾向にあるが、同一個体とは判断しがたい。小片のため判然としなが、器高5.0cm弱・3.0cmのものが多いとみられる。第119図-12は常滑産と記載するが判然としなが、内部にベンガラとみられる付着物が観察される。

（2）溝状遺構

第12号溝状遺構（SD-12）（第98・103図 表77・92 図版一三）

位置 D区F・G-6グリッドを概ね東西方向に延びる。1次調査区1区SD-12と同一遺構か。**重複関係** 調査区北端部付近で方形の掘り込みと重複するが詳細は不明である。**形状** 南・北側は調査区外に延びる。概ね北東・南西方向に延びるが、やや北側に膨らむ弧状である。北辺にテラス状の中段部が確認される。1次調査区SD-12における確認はないが、南辺の遺構底面と北辺のテラス状の部分とを底面とする2時期の重複、或いは、掘り直しの可能性が残る。**規模・主軸** 長さ（9.6）mを確認した。遺構確認面の溝幅は、1.3～1.8mであり、調査区北側が狭く、調査区南側が広い。2時期の可能性を考慮した際、テラス状部分に堆積する覆土1層が新しく（A期）、遺構底面の深い部分に堆積する覆土2・3が古い（B期）。A期の底面の幅はSP-A付近：約1.53m・SP-B付近：約1.6mであり、B期の底面の溝は0.11m～0.37mである。A・B期とも、遺構確認面の溝幅同様、北側が狭く、南側が広い傾向にある。断面形状は概ね台形状と捉えられる。主軸はN-78°-Eであり、1次調査区の主軸に近い。**底面** ロームを掘り込む。小さな凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ・底面レベルは、A期では約0.22m、底面レベルはSP-A付近：31.0m・SP-B付近：30.9mである。B期ではSP-A付近：0.45m・SP-B付近：0.36m、底面レベルは、SP-A北側：30.86m・SP-A付近：30.72m・SP-B付近：30.77mである。A・B期とも、僅かながら北～南方への傾斜が観察される。1次調査においても同様方向への傾斜が観察されており、溝の特徴を示すものと考えられる。**覆土** 3層が確認される。何れも暗褐色土であり、1層に比べ2・3層にロームの堆積が目立つ。覆土の堆積からは、長期間における流水や蓄水の痕跡は窺えない。**付属施設** 遺構内にp1～4、北側調査区境付近に複数の掘り込みが確認されるが、帰属等詳細は不明である。p1は東西約0.31m・南北約0.4m、遺構確認面からの深さ約0.08m、底面レベル31.08mである。p2は東西約0.43m・南北約0.16m、p3は径約0.17m、p4は径約0.11mである。**遺物出土状況** 覆土中から78片が出土する。土器類30片、石製品3片、鉄滓1片、陶磁器類30片、近・現代とみられるスレート・ガラス・瓦片を含む小片14片である。

出土遺物 1は須恵器底部。底部に木口状の工具痕が残る。2は内耳土器片。口縁部から底部にかけて残存するのは本片のみである。3は円孔が近接する。脚部の透かし部分か。4は播鉢小片。円形状の小片であり、判断面は一部に磨滅が観察される。円盤状の土製品か。5は大囊体部片か。6・7は砥石か。

その他、図示し得なかった出土遺物は、土師器坏2片、須恵器裏1片、土師質土器小皿3片、内耳土器13片、土師質土器2片、瓦質土器4片、小礫1片、陶磁器19片、鉄滓1片である。

土師器坏は1片はヨコナデ、1片は内面にミガキを施す。須恵器裏は内面に微かにあて具痕が残る。同心円状か。土師質土器小皿は1片は口縁部微細片、1片は体部片である。何れもロクロ仕上げである。内耳土器は口縁部2片（胎土C・D）、内耳周辺2片（胎土C・D）、体部1片（胎土C）、体～底部4片（胎土C3片・D1片）、底部4片（胎土C）のうち1片は厚手である。

小礫は、1面のみ残存する小片が出土する。残存面は平滑で磨滅する。石材はチャートであり、6同様の砥石の可能性も残る。

陶器は無軸2片・施軸17片が出土する。無軸片は斐類口縁部1片、摺鉢体部1片である。施軸片は、内外面に白色軸を施す体部片1片・内外面に柿軸を施す体部片1片・外面に鉄軸を施す鉢類体部1片・透明軸を施す同一個体とみられる体部片3片である。近代以降か。この他、明らかに近代以降が見られる11片である。

磁器は11片が出土する。7片は西洋呉須を施す碗類体部。瀬戸・美濃系6片、肥前系1片か。近代以降か。この他、近代以降の工業化製品とみられる4片が出土する。

鉄洋は表92に記載する。

第13号溝状遺構 (SD-13) (第99・100・103図 表78・90 図版一二)

位置 A区H・I・7・8・9グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。1次調査区1区SD-13と同一遺構か。**重複関係** P-792～802と重複する。P-795・799→SD-13の覆土の堆積が観察される。これら以外の帰属等、詳細は不明であるが、P-798・800-P-796・797の東・西辺にあって、底面を挟んで対になる位置関係、P-799・802の東辺に沿う位置関係などから、SD-13に付随する施設の想定が可能と考えられる。また、P51・52-P-53・55とSD-13東岸SP-54・57のP-277～287とは、P-282・285・286の直線上に位置するSK-274に向けた位置関係にあることなどから、相互に関連する施設とも考えられよう。1次調査ではSD-13→SD-14の重複が確認されるが、本調査では重複は確認されない。**形状** 南・北側は調査区外に延びる。概ね北東から南西方向に直線的に延びるが、遺構確認面の形状は、視乱により、不整である。断面形状は逆台形状であるが、壁面の屈曲は鋭く、極めて稜研状に近い。**規模・主軸** 長さ(18.6)mを確認した。遺構確認面の溝幅は2.4～2.9m、底面の溝幅は0.78～1.0mである。一方への広がり等は観察されず、規格性・統一性は確認されない。主軸はN-38°-Eであり、1次調査SD-13と一致する。**底面** ロームを掘り込む。底面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さは、北側から、SP-A付近約0.93m・SP-B付近約1.0m・SP-C付近約1.0m・SP-D付近約0.97mである。底面レベルは、北側から、SP-A付近約30.13m・9グリッドライン付近約30.03m・SP-B付近約30.07m・SP-C付近約30.0m・SP-D付近約30.02m・調査区南端部約29.97mである。多少の凹凸が確認されるが、概ね北から南に向けて僅かに傾斜する。1次調査区1区も同様の傾斜が確認されている。**覆土** 8層を確認した。最上層の1層はSP-Dにおいて遺構確認面上の堆積が観察され、表土或いは視乱である可能性が考えられる。層序関係をみると、2～4層：5～8層に大別が可能とみられ、掘り直し或いは埋没後の重複である可能性を考え得る。覆土は暗褐色土・黒色土・暗黄褐色土であり、長期間における流水・蓄水の痕跡は窺えない。**遺物出土状況** 覆土中から129片、覆土下層21片が出土する。図示した遺物は何れも覆土中から出土する。覆土中からは、図示した遺物を含み、須恵器1片、土師器60片、内耳土器12片、土師質土器3片、陶磁器35片、砥石2片、礫2片、現代の土管5片・瓦8片が出土する。覆土下層からは、須恵器3片、須恵器或いは土師器1片、土師器14片、内耳土器1片、陶器1片、鉄製品1片、土管1片が出土する。

出土遺物 1は須恵器環。2・3は土師器環。3はヘルメット形か。4は土師器壺か。3・4はSP-A-B間から出土する。不掲載の土師器片も同地区からの出土である。何れも、破片は小さく、器面が剥落する。詳細な出土状況は確認し得なかったが、これらは同一個体であり、破碎後遺棄された可能性も考え得る。しかし、覆土下層から土管片が出土することから、SD-13との関連は不詳である。5・6は内耳土器である。何れも器高は5.0cm前後である。器高が確認される破片は5・6のみである。7・8は陶器である。何れも近世後半か。7は遺構外出土第114図-20と似る。9・10は砥石である。11は石籤である。押圧割離を細かに施す。長さ：4.2cm・最大幅：1.6cm・最大厚：0.4cm・重さ：2.4gである。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

覆土中から出土し、図示し得なかった遺物は、土師器環2片、土師器小型壺55片、内耳土器10片、土師質土器3片、陶器31片、礫2片、現代の土管5片・瓦8片である。出土位置の状況は、SP-A・B間：土師器環3片、土師器小型壺55片（体部片・うち微細片34片）、SP-B・C間：内耳土器7片・陶磁器6片、SP-C・D間内耳土器1片・土師質土器2片・陶器18片・礫2片・土管4片・瓦8片が出土する。

土師器壺片は4の同一個体とみられる。また、土師器環片は体部から口縁部にかけて内湾しつつ立ち上がり、口縁端部は細くなる形状である。体部片の積み上げ痕から剥落した破片の可能性もあり、土師器壺片ともに4同一個体の可能性が残る。また、これらの破片の中には、同地区から出土する3の破片が混在する可能性が考えられる。

内耳土器は口縁部1片（胎土C）・体部1片（胎土D）・底部8片（胎土C 6片・D 2片）である。土師質土器は裏とみられる体部片3片が出土する。陶器1片は裏体部とみられる。礫2片は何れも残存する両側面が裁断されたような鋭利な平滑面であり、何らかの石材と判断される。

陶器は、無軸1片、施軸5片である。無軸は裏類口縁部1片である。施軸は何れも碗・鉢類とみられ、褐色軸を施す連房式登窯期の小片である。磁器は26片が出土する。2片はクロム軸の碗類小片で近・現代か。残る24片は瀬戸・美濃系碗類2片・肥前系碗類6片を含む。肥前系とみられる小片のうち1片は内面見込み部に五弁花文を施し、1片は見込みに文様不明の小温容を施し、外面の施軸に凹凸がみられる。また、印判手の碗類3片・瓶類1片が出土する。

鉄製品は鋳造品か。表90に記載する。

覆土下層から出土し、図示し得なかった遺物は、須恵器環口縁部1片・体部2片、須恵器あるいは土師器環口縁部1片、土師器口縁部環1片・裏体部12片、内耳土器底部1片、陶器1片、土管1片である。

須恵器環・須恵器あるいは土師器環口縁部片は1に似る。土師器環口縁部はフタ或いは身模倣。土師器裏体部12片は同一個体とみられる。内耳土器底部片は胎土Cである。陶器は器厚の薄い鉢類であり、内外面に白色軸を施す小片である。内面の軸は薄くハケとみられる痕跡がみられる。

第14号溝状遺構 (SD-14) (第99・101・103～105・119 図 表79・90・92・94 図版一・二・一五・一六)

位置 A区H・I・7・8・9グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。1次調査区1区SD-14と同一遺構か。

重複関係 P-789・790と重複するが詳細は不明である。1次調査ではSD-13→SD-14の重複が確認されるが、本調査では重複は確認されなからず。 **形状** 南・北側は調査区外に延びる。概ね北東から南西方向に延びるが、やや西側に膨らむ弧状である。断面形状は概ね「V」字状であるが、壁面の屈曲は鋭く、極めて葉研状に近い。また、SP-A・B付近の底面には逆台形状に掘られ、浅い葉研状となる。東辺上位SP-D北側以南の東辺には遺構確認面下0.4m付近に中段部が確認される。1次調査区1区の形状に繋がるものか。

規模・主軸 長さ(12.0)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、北側から、SP-A付近約4.35m・SP-B付近約4.55m・SP-C付近約5.0m・SP-D付近約5.67m・南側約5.42mであり、北から南に向けて広がる傾向にある。D区南側に位置する1次調査区1区の溝幅は5.9mであり、この傾向に準じるもの判断される。底面の溝幅は、北側から、SP-A付近約0.33m・SP-B付近約0.56m・SP-C付近約0.7m・SP-D付近約0.76m・南側約0.6mである。最大幅はSP-D付近にあるが、遺構確認面同様、北から南に向けて広がる傾向にある。主軸はN-37°・Eである。1次調査区1区ではN-38°・Eであり、ほぼ一致する。 **底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さは、北側から、SP-A付近約1.62m・SP-B付近約0.72m・SP-C付近約1.58m・SP-D付近約1.62mである。底面レベルは、北側から、SP-A付近約29.4m・SP-B付

近約 30.22 m・SP-C 付近約 30.28 m・SP-D 付近約 30.3 mである。多少の凹凸が確認されるが、概ね北から南に向けて傾斜する。1次調査区1区も同様の傾斜が確認されている。覆土 9層を確認した。上～中層の1～6層は黒褐色土・暗褐色土が堆積する。下層・壁際の7～9層は暗黄褐色土が堆積する。1次調査区1区では中層・下層に暗黄褐色土が堆積する点、特徴を違える。特記事項 夏季に、遺構中位付近から湧水が認められる。地下水の流出とみられ、一定レベルの水位が認められる。夏季には溝に水が入った状態であろうことが推測されるが、覆土の堆積からは長期間における流水・蓄水の痕跡は窺えない。遺物出土状況 覆土中から240点が出土する。土器類141点、石製品・礫40点、陶磁器類53点、鉄製品2片、鉄滓1片、ガラス片3片・鉄製針金1片である。

内耳土器がSP-B-C間から出土する。何れも小片であり、個体数は不明であるが、器高5.0cm前後・約3.0cmの個体が多い。陶磁器の中には近代以降の工業生産とみられる6片を含む。また、ガラス片も工業生産と判断される。SD-14はSP-B-C間や北西部の攪乱内から同種の陶磁器・ガラス片等の出土が確認されている。SD-14出土陶磁器も攪乱に関連する出土の可能性が含まれよう。

出土遺物 1～5・7～13は須恵器片。出土が集中する箇所はなく、遺構から万遍なく出土する。1は蓋、2・4は環、3は高台付き環、4・5・7・8・13は瓶類か、9～12は壺とみられる。1は中央部に自然軸がかかる。7世紀中葉か。4は須恵器であれば9世紀前半の坏か。6は自然軸が厚く垂下するが端部は剥落する。5は須恵系陶器か。瓶類底部とみられるが判然としない。14は常滑産片口鉢か。15は土師質土器小皿。SP-C-D間からは土師質土器小皿片4片が出土するが、同一個体となるか不明である。16～19は内耳土器。16・17は器高5.0cm弱、18・19は器高3.0cmほどである。20・21・23は播鉢。20・21は瓦質土器、23は陶器である。22・24は陶器裏である。

第119図-12は小型の壺か。内部にベンガラとみられる赤色の付着物が観察される。第119図-14・15は染付の碗類。15は中丸碗。篋・竹・菊の文様を描く。14は半筒碗。丸菊文を描く。

この他、図示し得なかった土器類は、須恵器8片、土師器14片、土師質土器小皿5片、内耳土器67片、瓦質土器播鉢1片、土師質土器4片、陶器52片、粘土塊1片、被熱により炭化した竹片5片、現代の瓦片12片である。内耳土器・陶器播鉢は19・21の同一個体を含む。

遺物の出土位置をみると、SP-A-B間からは須恵器裏体部片2片、土師器環3片、内耳土器口縁部片1片(胎土D)・体部片2片(胎土D)、陶器裏口縁部3片が出土する。土師器環のうち1片はヘルメット形か。

SP-B-C間からは須恵器裏体部2片、土師質土器体部1片、内耳土器43片、陶器13片、磁器7片、粘土塊1片、竹5片、瓦6片・ガラス片1片が出土する。内耳土器43片の内訳は、器面の色調が赤褐色の口縁部6片(胎土C2片・D4片)・内耳1片(胎土C)・体部6片(胎土D)体～底部5片(胎土C)・底部13片(胎土C12片・D1片)、器面の色調灰色の口縁部5片・体部7片(胎土C)である。

陶器は無軸4片、施軸片9片である。無軸片は、裏口縁部3片・播鉢1片である。播鉢は23の同一個体か。施軸片は、灯明皿片1片(褐色軸)、灰軸4片(碗類3片・瓶類1片)、透明軸に鉄軸を施す鉢類1片、黄色軸(瓶類)1片、緑色軸(器種不明)1片、白色軸(つまみ)1片である。何れも近世後半以降か。

磁器は染付碗類7片である。近世後半～近代初頭とみられる小片は5片は肥前系か。近代とみられる西洋呉須の小片2片は産地不明。

SP-C-D間からは須恵器裏1片、土師器環6片、土師器裏2片、土師質土器小皿4片、内耳土器9片、土師質土器3片、陶器7片、磁器3片、瓦1片、鉄製品2片、鉄滓1片が出土する。土師質土器小皿はロクロ仕上げである。陶器は無軸の裏2片、灰軸を施す盃片1片、透明軸を施す筒型の体部片1片、褐色軸の播鉢2

片、褐色釉の瓶1片である。何れも近世後半以降か。磁器は肥前系とみられる染付碗類3片。近世後半～近代初頭か。うち1片は笹・竹・菊文様であり、第119図-14、SK-374など調査区内で出土例がある。鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。

SP-D調査区境間からは須恵器裏2片、土師質土器小皿1片、内耳土器4片、土師質土器1片、陶器5片、磁器8片、瓦5片が出土する。土師質土器小皿は手捏ねである。陶器はヘラナデを施す常滑産とみられる大甕体部1片が出土する。この他、灰釉を施す鉢類1片・透明釉を施す盃2片であり、近世後半以降か。磁器は近世後半以降とみられる染付の碗類1片、近代以降とみられる印判手の碗類2片・染付の碗類2片が出土する。この他、近代以降の工業製品とみられる碗類4片が出土する。

覆土中から須恵器裏1片、土師器裏1片、陶器1片、鉄製品1片、ガラス1片が出土する。

また、攪乱内から内耳土器口縁部4片(胎土C)・底部6片(胎土C3片・D3片)が出土する。

25・26は磨石。25は上端部、26は下端部に敲打痕が観察されるが使用に伴うかものか判然としない。30は礫石器か。図下部は平滑な磨滅面である。27・28・34はこね鉢か。27・28は見込みが浅く、石皿の可能性が残る。34の底部の脚は3カ所か。31・32は石臼。何れも下臼とみられるが、異個体か。31はもの入れとみられる孔が残る。穀物用か。32は茶用であるか穀物用であるが不明である。29・33・41は石製品・石材か。36～40は砥石。36・39には平行する条線が残る。

この他、出土し得なかった石製品・礫は22点である。出土位置の状況は以下のとおりである。

覆土中からは11片が出土する。破砕した小礫7片、緑泥片岩4片であり、緑泥片岩片は板碑片とみられる。SP-B-C間からは4片が出土する。何れも破砕した小礫であるが、このうち1片は磨石片とみられる。SP-A-B間からは7片が出土する。このうち1片は金色ガラス質粒子を多量に含む砂岩である。

第19号溝状遺構 (SD-19) (第77・106・115・119図 表80・90・94 図版一三・一五・一六)

位置 A区Q-21・R19グリッドを概ね南北に延びる。2次調査区Ⅱ区SD-19と同一遺構か。 **重複関係** SK-270・271、SE-265・269と重複するが詳細は不明である。 **形状** 南・北側は調査区外に延びる。断面形状は「V」字状であるが壁面に段を有する。 **規模・主軸** 長さ(12.0)mを確認した。遺構確認面の溝幅は1.4～2.0m、中段部の溝幅は、調査区南端部付近で約1.8mである。主軸はN-25°Eである。

底面 ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。底面のレベルは遺構南端部約28.79m、SK-266付近約28.91m、SK-269-270間約28.83m、北端部約28.95mである。各所で区々であり、明確な傾斜は認められない。 **覆土** 調査区南端部において10層を確認した。2次調査区SD-19の覆土との類似性は薄い。1・2層は攪乱土か。遺構上半部の3～5層はロームブロック、黒色土ブロックを含む。遺構下半部の6-10層は、ロームブロックを多量に含む9層を挟んで堆積する。掘り直し等が考慮されるか。 **遺物出土状況** 覆土中から66点が出土する。土器類21点、石製品・礫33点、陶磁器類9点、鉄製品2片、銭貨1点である。また、SE-265重複部から内耳土器内耳部片1片が出土する。胎土Dである。

出土遺物 1・2は須恵器裏。三倉産の可能性も残る。3は内耳土器。器高不明。4は瓦質の掃鉢。5は瓦質の手焙りか。6は土甕。7～9は礫石か。何れも円形状で平滑、光沢を有する。9の平面形はやや不整形。10は扁平な1小礫。方形で磨滅し、図上、表面は光沢を有する。遊具或いは砥石の可能性があろうか。11は砥石。裏面・下半部欠損。表面は凹凸を有する。12は石臼片。13～15は板碑か。13・14は種子の一部が残るが、詳細は不明。13はキリークの一部、14は種子下の文様の一部か。15は山形の頭部か。無地で平滑な面が表面か。16は古瀬戸、瓶類か。第119図-13は陶器碗類か。瀬戸、登窯明か。第115図-8は「祥符通宝」である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器9片、播鉢3片、瓦質土器2片、鉢類1片、石製品・礫24片、陶磁器7片、鉄製品2片である。

内耳土器は胎土C口縁部4片・体部2片・底部1片、胎土D口縁部1片・体部1片である。瓦質土器は内耳土器か。色調は灰色、胎土Cである。播鉢は10本一組の摺り目を施す体部片1片、5本一組の摺り目を疎らに施す体部片1片、深い摺り目を密に施す体部片1片である。鉢類は手埴り等の口縁部片。

石製品・礫は、玉階2片、磨石1片、石臼3片、砥石4片、碁石4点、板碑9片、小礫1片、礫片1片等である。玉階は、1片は剥片とみられる小片、1片は目立った加工痕は観察されない。磨石は球形状の破片であるが時期・種別等判然としない。石臼のうち1片は高さ約8.2cmであり12とは異個体とみられる。2片は小片であり詳細不明。自然礫片の可能性も残る。砥石は何れも小片である。自然礫片の可能性も否めない。碁石は7・8のような整った形状ではない。2片は7・8に、1片は9に外見が似る。板碑片は13・14同様の石材片。小礫は不整は円形状で扁平、黄白色である。

陶磁器は、陶器4片、磁器3片が出土する。陶器は甕類2片、碗・皿類2片である。甕類は口縁部1片・体部1片であり、何れも施軸。口縁部は須恵器自然軸の可能性も残る。碗皿類の1片は内外面に灰釉を施す。折縁皿か。1片は内外面に胎釉を施す。近世後半以降か。磁器3片は瀬戸・美濃系の碗類か。染付を施すが、1片は近世後半以降、2片は近代以降か。

鉄製品は詳細不明の小片である。表90に記載する。

第201号溝状遺構 (SD-201) (第98・107図 表81)

位置 A区P-19グリッドを概ね南北に延びる。南・北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状** 南端部確認面付近は調査区外に延びる。断面形はV字状に掘り込まれる。**規模・主軸** 長さ(2.35)m、幅4.4～5.0mである。溝幅はp3付近が最大幅となる。主軸はN-16°Eである。**底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さ0.3m前後・表土下0.72m、底面のレベルは29.1m前後である。底面の傾斜は確認し得なかった。**覆土** 6層を確認した。2層は後世の掘り込みか。**付属施設** p1～p3が確認される。p1・2西壁確認面付近、p3は東壁底面立ち上がり付近に確認される。p1は径約0.17m、p2は径約0.2m、p3は径約0.18mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から9片が出土する。土器類4片、石製品・礫4片、磁器1片である。

出土遺物 1は砥石、2は台石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は内耳土器4片である。口縁部2片、内耳1片、体部1片であり、口縁部の1片は胎土D、これ以外は胎土Cである。

礫は4片が出土する。破砕礫小片であり、このうち1片は扁平な円形状である。

磁器は折り縁鉢系の体下部小片。肥前系とみられる。内外面無文。外面に染付ともみえるシミ状の部分が観察される。

第202号溝状遺構 (SD-202) (第73・107・115図 表82・90・92 図版一三)

位置 A区P-18・19グリッドを概ね南北に延びる。**重複関係** SK-215・SK-237・SE-207・SE-231→SD-202→SE-230の順に掘り込まれる。**形状** 南端部確認面付近は調査区外に延びる。断面形は東側壁面、遺構確認面下0.2～0.25m、レベル29.4～29.35mに中段部が観察される。付近底面北端部から南へ6.4m付近、SK-228南側付近で北西方向にやや向きを変える。同様付近以南においては、断面形に観察される

中段部が確認されなくなることや、SP-A～DとSP-Eの覆土の堆積状況に対応関係がみとめられなくなることなどは指摘できる。掘り直し、別遺構の重複等の可能性が考慮される。 **規模・主軸** 底面の長さ約8.65mを確認した。遺構確認面の溝幅は北端部～SK-228南側付近1.75～1.6m、SK-228南側～南端部1.2～0.95m、中段部の溝幅は北端部～SK-228南側付近1.3～1.1m、底面の溝幅は北端部～SK-228南側付近1.15～1.1m、SK-228南側～南端部1.0～0.5mである。主軸は北端部～SK-228南側付近N-10°-E、SK-228南側～南端部N-125°-Eである。 **底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さ0.65m前後、底面のレベルは28.95m前後であり、傾斜等は確認されない。

覆土 11層を確認した。SP-A～Dに1～6層、SP-Eに7～11層が観察される。1～6層・7～11層は対応関係は認められない。 **遺物出土状況** 覆土中から11片が出土する。播鉢片1片、石製品・礫7片、鉄製品1片、銭貨1点、鉄滓1片である。この他、SE-207重複部から砥石5片、SK-228重複部から礫1片、鉄滓1片が出土する。重複遺構に記載する。

出土遺物 2は瓦質土器播鉢。1は長円形の扁平礫。磨滅し被熱する。第115図-9は「永楽通宝」である。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

礫は6片が出土する。3片は破砕礫片である。2片は小礫であり、1片は不整形、1片は極めて扁平な黄白色の不整形の小礫である。1片は玉階片である。自然面或いは風化面を残すが剥片か。鉄製品は釘状の小片である。表90に記載する。鉄滓は表92に記載する。

第276号溝状遺構 (SD-276) (第102図 図版一三)

位置 D区H・I-7・8・9グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。

形状 南側は調査区外に延びる。SP-B・C間で遺構が立ち上がるが、主軸、覆土の堆積状況から同一遺構と判断される。断面形は浅い逆台形状である。 **規模・主軸** 底面の長さ(17.08)mを確認した。遺構確認面の溝幅は立ち上がり部を除き0.7～1.1m、立ち上がり部の溝幅0.45m前後である。主軸はN-37°-Eである。 **底面** ロームを掘り込む。底面は凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.15～0.2mである。底面のレベルは、北端部30.84m前後・SP-A付近30.9m前後・SP-A・B間30.93m前後・SP-B付近30.94m前後・立ち上がり部30.84m前後・SP-C付近30.85mである。SP-A・B間が浅く、溝としての底面の傾斜は現状では確認されない。 **覆土** 1層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第364号溝状遺構 (SD-364) (第67・68・107・120図 表83・90・94 図版一三)

位置 B区L-13・14グリッドを概ね北東・南西方向に延び、L-13グリッドラインでほぼ直角(N-88°-W)に北西方向に屈曲する。延長線上にあたるⅢ-2区M・N-12グリッドにおける遺構の確認はない。

重複関係 SK-374(地下式坑)→SD-376→SD-364の順に掘り込まれる。SK-373とは不詳である。 **形状** 西・北側は調査区外に延びる。断面形は明瞭ではないが、底面から0.3～0.4m上位で遺構確認面に向けて開く葉研堀状である。 **規模・主軸** 底面の長さは東西(5.0)m・南北(14.0)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、調査区北側境付近～SP-A付近まで0.8m前後、SP-A-B間で1.1～1.4mに広がり、これより1.6m前後で調査区西側端部に至る。底面の溝幅は、調査区北側端部～SP-B付近は0.4～0.5m、SP-B付近0.5m前後、屈曲部約0.68m、屈曲部西側付近約0.4m、SK-374東側約0.3mである。屈曲部にむけて広がる傾向にある。遺構確認面の溝幅の狭い調査区北側の底面より、遺構確認面の溝幅の広い調査区西側の底面の方が狭い。主軸はN-19°-E・N-68°-Wである。 **底面** ロームを掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルは、SP-A付近:約1.05m・30.0m、SP-B付近:約0.98m・29.9m、SP-C付近:0.91m・29.83m、SP-E付近約1.2m・29.76mである。概ね、北方向から南方向への傾斜が確認される。 **覆土** SP-A～L

に1～8層、SP-Dに9～16層が確認される。屈曲部に近いSP-Cには7・8層の堆積は確認されない。7層は暗褐色粒子、8層はロームブロックの堆積が観察される。SP-C最下層の6層とSP-D13層は対応するか。

遺物出土状況 覆土中から150片が出土する。土器類84点、石製品・礫11片、陶磁器類50点、鉄関連遺物1片、鉄製品1片、工業製品のタイル2片・スレート1片・鉄製釘1片である。(遺構図No.1)は自然堆積3層中から出土する。不掲載遺物のうち内耳土器底部(胎土C)である。(遺構図No.2)9はSP-D上層の11層中から出土する。(遺構図No.3)第1カ図・4・8からは不掲載遺物のうち内耳土器口縁部1片(胎土D)・体部1片(胎土C)・底部4片(胎土C)の出土も確認される。

SK-374出土の689片は本遺構に帰属する可能性が高いが、SK-374の可能性を否定仕切れず、SK-374に記載する。また、第69図・19はSD-364・374出土の破片が接合する。接合破片の1片を除きSK-374出土であり、SK-374に記載する。本遺構15はSD-364・374重複部からの出土が確認される。本遺構に記載する。

出土遺物 1は弥生土器か。2は須恵器盤か。3は須恵器甕か。4は土師質土器鉢類か。器種は不明であるが筒状か。5は瓦質土器鉢類か。火鉢等か。6～10は内耳土器。11は陶器甕口縁部。不掲載遺物の1片は同一個体か。12・13は砥石。13はほぼ完存する。使い減りしたものか。第120図・16は天目碗。17世紀後半の可能性があろうか。産地不明。17は陶器皿。産地不明。18は染付の半高碗。産地不明。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は、須恵器3片、内耳土器33片、粘土塊微細片14片、近現代とみられる瓦3片、土管21片である。須恵器は甕体部片であり外面に格子目叩きを施す。内耳土器は口縁部8片(胎土C4片・D4片)・体部9片(胎土C2片・D7片)・体～底部3片(胎土C1片・D3片)・底部13片(胎土C12片・D1片)である。器高の判る3片は、4.0cm・5.0cm・6.0cmである。

石製品・礫は9片が出土する。砥石1片、礫8片である。

砥石は中央部の残る小片であり、残存する4面を砥面とする。礫は、3点は小礫であり、このうち2点は径約1.5cmの不整な球形状である。5片は破砕礫小片である。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品が1片出土する。ガラス質溶解等は観察されない。

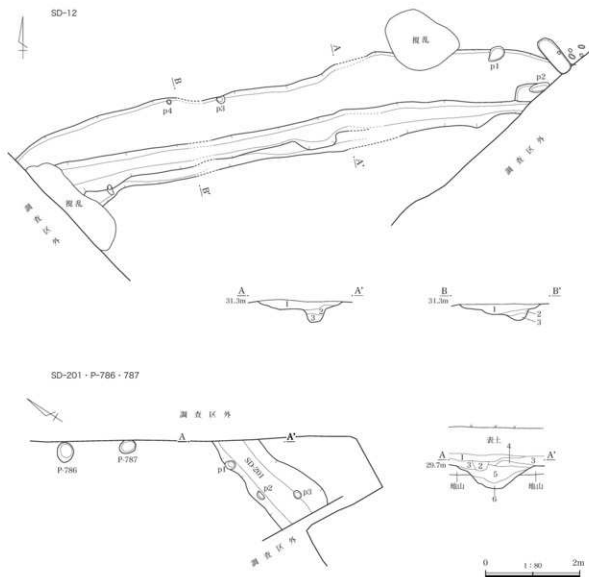
陶磁器は、陶器が28片、磁器17片が出土する。

陶器は、碗類8片、碗・皿類10片、皿類2片、耳皿片1片、鉢類2片、瓶類4片、甕類1片が出土する。多くは近世後半以降とみられるが、甕類1片は近代以降か。

碗類は染付2片、灰釉5片、鼠志野風の釉1片が出土する。灰釉のうち明藍色の釉で文様を施す1片は近世末葉～近代初頭か。染付2片は同一個体か。灰釉のうち1片は鉄釉の付着がみられる。意匠か。碗・皿類は何れも灰釉を施す。3片は同一個体とみられる。美濃産か。2片は外面無釉。体下部位か。美濃産か。2片は内面灰釉・外面鉄釉。1片は内外面柿釉。壺・甕類とするには器壁が薄い。1片は暗黄褐色の釉を施す。皿類は灰釉を施す。1片は白濁色の向付碗か。瀬戸産か。1片は無釉の底部で粘土小塊を挿んだ脚を付す。美濃産か。耳皿は暗褐色釉を内外面に施す口縁部小片はであり、器種は可能性を示す。鉢類は外面に灰釉を施す。小型の香炉等か。瓶類は灰釉2片、柿釉1片、瀬戸黒1片である。灰釉のうち1片は暗緑色。柿釉は灰釉をかき分ける。小型の壺類の可能性もある。

磁器は、碗類17片が出土する。10片は染付である。このうち、8片は肥前系か、3片は瀬戸・美濃系か、4片は産地不明である。7片は近代以降か。

鉄製品は釘状の小片である。表90に記載する。



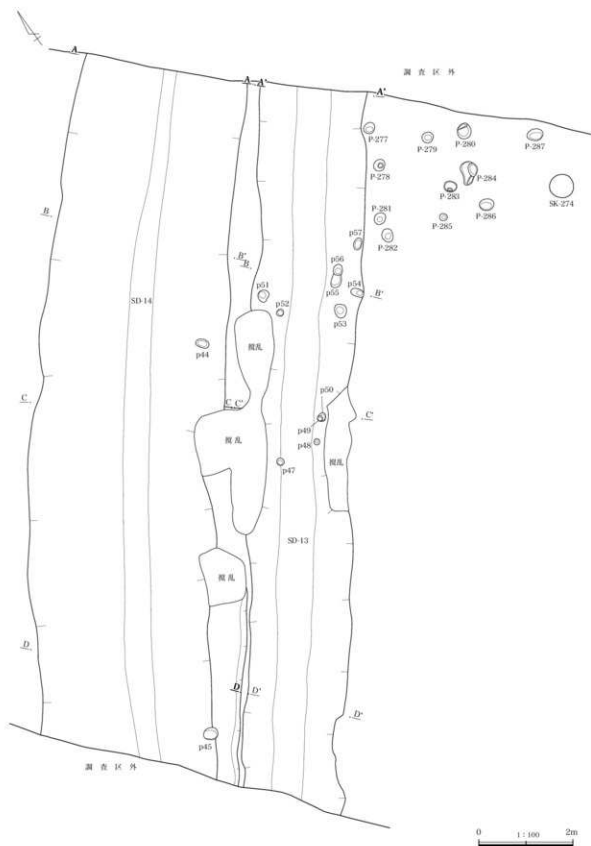
SD-12

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。しまり強い。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

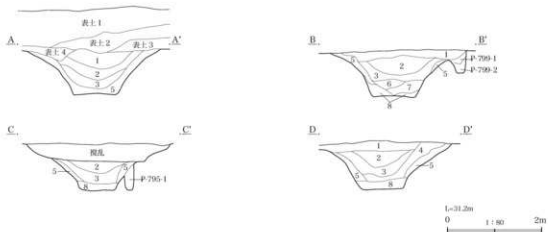
SD-201

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。ロームブロック含む。しまり強い。粘性なし。
- 2 褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック含む。しまりやや強い。粘性なし。
- 3 暗褐色土 ローム微粒子含む。ローム粒子少量。しまりやや強い。粘性なし。
- 4 褐色土 ローム微粒子・ローム粒子含む。しまりあり。粘性あり。
- 5 明褐色土 ローム微粒子多量。しまりなし。粘性強い。
- 6 黄褐色土 ローム微粒子多量。ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。

第98図 第12・201号溝状遺構・第786・787号ピット実測図



第99図 第13・14号溝状遺構・第277～287号ピット実測図



SD-13

表土3 暗褐色土

表土4 黒褐色土 黒色土を含む。ローム粒子・白色粒子微量。しまりや中あり。粘性中やあり。

- 1 黒褐色土 ローム粒子・白色粒子微量。しまりや中あり。粘性弱い。
 2 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子少量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 4 暗褐色土 ローム粒子多量。暗褐色土少量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 5 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 6 黒色土 ローム少量。ローム粒子多量。しまりや中あり。粘性中やあり。

- 7 暗褐色土 ローム粒子含む。5層よりも黄色味帯びる。しまりや中あり。粘性中やあり。
 8 暗褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりや中あり。粘性中やあり。

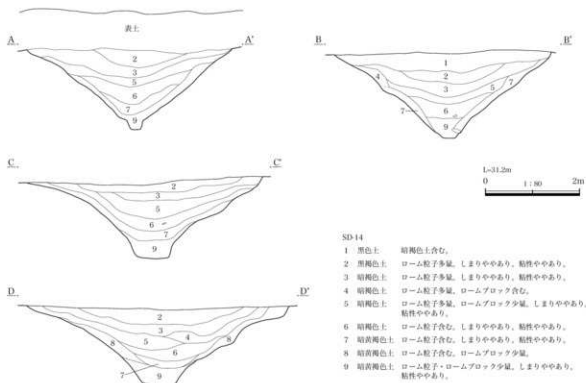
P-795

1 暗褐色土 暗褐色土を含む。しまりや中あり。粘性あり。

P-799

- 1 暗褐色土 暗褐色土を含む。しまりや中あり。粘性中やあり。
 2 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりや中あり。粘性弱い。

第100図 第13号溝状遺構・第795・799号ピット実測図



SD-14

- 1 黒色土 暗褐色土を含む。
 2 黒褐色土 ローム粒子多量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 4 暗褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック含む。
 5 暗褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりや中あり。粘性中やあり。
 6 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりや中あり。粘性中やあり。
 7 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりや中あり。粘性中やあり。
 8 暗褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。
 9 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりや中あり。粘性中やあり。

第101図 第114号溝状遺構実測図

第371号溝状遺構 (SD-371) (第67・68・108図 表94・92)

位置 B区K-13グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。南側の延長線上となるC区L-12グリッド南東部付近における関連遺構の確認はない。**重複関係** SD-371→SK-370(地下式坑)の順に掘り込まれる。

形状 東・南・北側は調査区外に延びる。断面形は逆台形状である。**規模・主軸** 底面の長さ(2.5)mを確認した。遺構確認面の溝幅は1.1m以上、壁面の屈曲点となる30.48m付近の溝幅0.65～0.85m、底面の溝幅0.3～0.5mである。主軸はN-23°-Eである。**底面** ロームを掘り込む。表土下からの深さ約0.1mである。底面のレベルは、北側30.3m前後・中間部30.26m前後・南側30.215mである。現状においては、北方から南方への底面の傾斜が確認されるが、溝の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** 7層を確認した。1～5層は掘り直しを示すものか。**遺物出土状況** 覆土中から20片が出土する。土器類4点、石製品1片、陶器6片、磁器7点、鉄滓1片、スレート2片である。

出土遺物 1は内耳土器。2は砥石。使い減りか。

この他、図示し得なかった出土遺物は土器類3片、陶器6片、磁器7片、鉄滓1片である。

土器類は、内耳土器1片、瓦質土器1片、土師質土器1片が出土する。

内耳土器は底部片(胎土C)。瓦質土器は鉢縁か。SD-375・2同様の意匠を施す。土師質土器は裏頭部へ底部片か。外面は荒いヘラナデを施す。

陶器は6片が出土する。1片は天目碗底部か。内面黒褐色釉、外面無釉部。内面の釉調から天目碗でない可能性も残る。1片は碗類底部。内面灰釉・外面鉄釉を縞状に施す。近世後半か。1片は鉢類底部。高台等は付されない。内面オリーブ釉(灰釉か)・外面無釉部。近世後半以降か。1片は筒型の香炉片。内外面に黄褐色釉(灰釉か)を施す。近世後半以降か。1片は壺口縁部。内外面に灰釉かを施す。近代以降か。1片は仏しよう片か。小型の碗類か。近代以降か。

磁器は、碗類4片、瓶類1片、把手2片が出土する。碗類は肥前系とみられる染付小片である。瓶類はき厚0.9cm前後、外面に灰釉を施す。把手は詳細不明。耳・吊り手の可能性もある。胎釉・黄白色釉を施す。何れも近世後半以降か。

鉄滓は表92に記載する。

第376号溝状遺構 (SD-376) (第67・68・108図 表85・92 図版一三・一五)

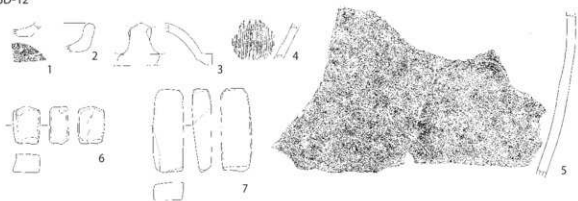
位置 B区L-12・13、M-13グリッドを概ね南東・北西方向に延びる。延長線上のⅢ-2区M・L-12グリッド、C区J-11・12グリッドにおける遺構の確認はない。**重複関係** SK-376・383→SD-376→SD-364、SK-374→SD-364の順に掘り込まれる。**形状** 東・西側は調査区外に延びる。断面形は不明瞭ではあるが葉研堀状か。**規模・主軸** 底面の長さ[9.65]mを確認した。遺構確認面の溝幅は1.1～1.2m、底面の溝幅は0.32～0.65mであり、調査区東端部付近が広い。攪乱以西は不詳である。主軸はN-69°-Wである。

底面 ロームを掘り込む。底面レベルが確認し得るのはSK-375以東である。調査区東側端部30.24m・SK-383付近30.28m・SK-375付近30.3mであり、西方向から東方向への傾斜が確認される。高低差は約0.06mであり、溝状遺構底面の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** AP-E・Fに1～4層、SP-Dに5・6'が確認される。2・4層・6'層は対応するか。**遺物出土状況** 覆土中から73片が出土する。土器類48点、石製品・碟9片、鉄関連遺物1片、陶磁器類12点、鉄滓3片である。

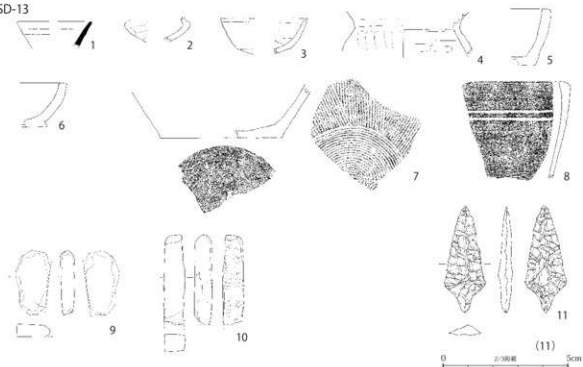
出土遺物 1は須恵器高台付き坏片か。2は瓦質土器摺鉢片。3・5は内耳土器。4は陶器壺口縁部。6は磨石か。7・8は砥石。

この他、図示し得なかった出土遺物は土器類44片、石製品・碟6片、製鉄関連遺物1片、陶磁器12片である。

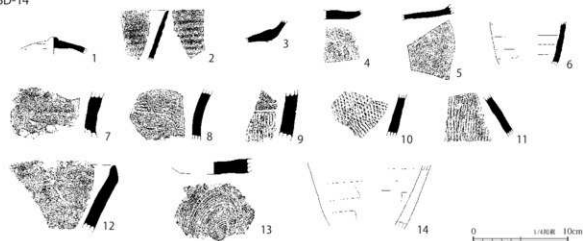
SD-12



SD-13

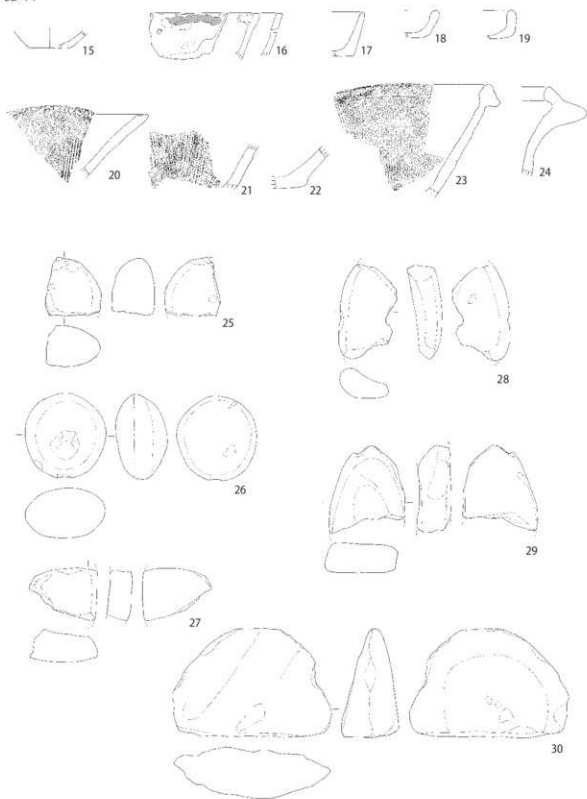


SD-14



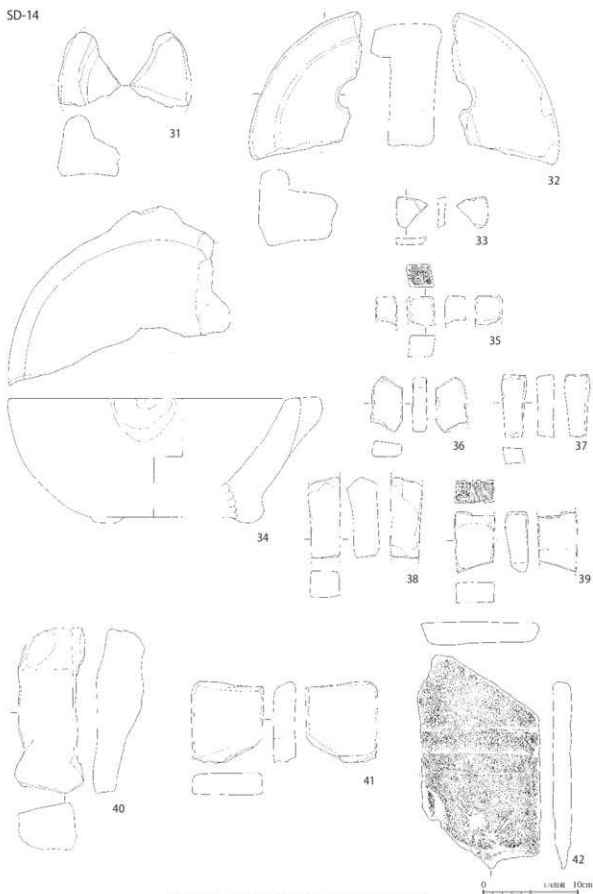
第103図 第12～14号溝状遺構出土遺物実測図

SD-14



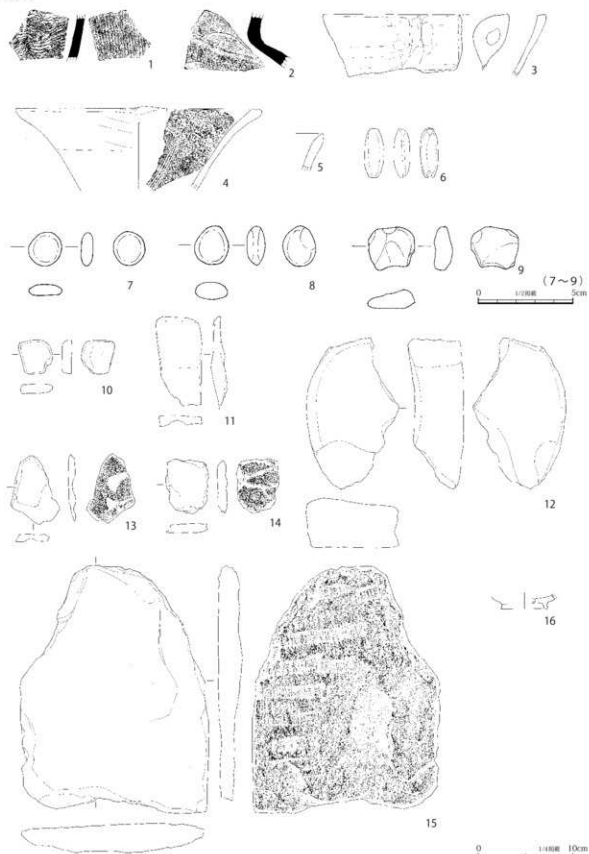
第104図 第14号溝状遺構出土遺物実測図(2)

SD-14



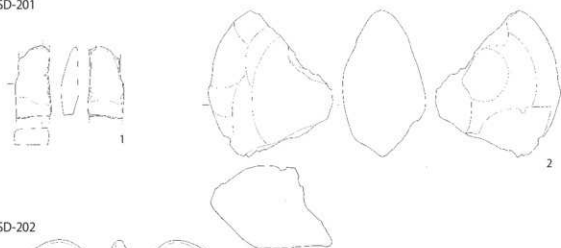
第105図 第14号溝状遺構出土遺物実測図(3)

SD-19

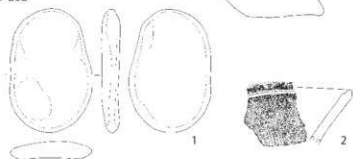


第106図 第19号溝状遺構出土遺物実測図

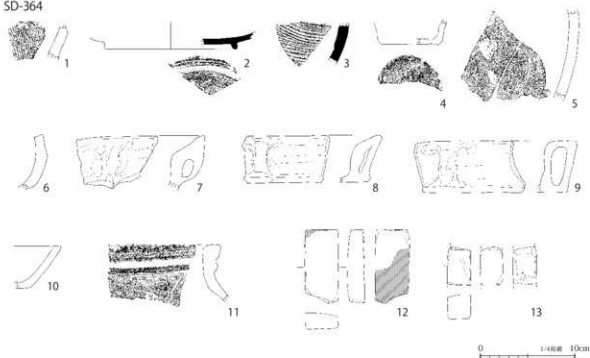
SD-201



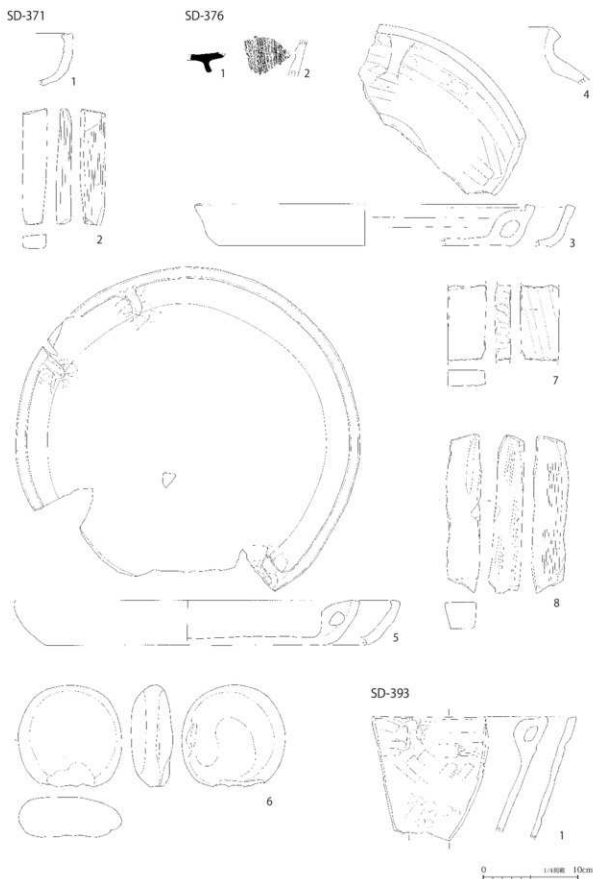
SD-202



SD-364



第107図 第201・202・364号溝状遺構出土遺物実測図



第108図 第371・376・393号溝状遺構出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 77 第12号溝状遺構出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：11.5(1)	内外面 ヘラナゲか 底面 ヘラナゲの裏に付の工具痕が見える。	西赤 緑灰黄色	赤煎器・土煎器 目録1-2-2 頁	小片	01K3 01I2
2 内瓦土煎 部種	口径：一 底径：一 部高：13.0(1)	内 ココナゲ 外 ココナゲ スリ付着 底面 瓦色	西 緑褐色 赤 に白・褐色	赤煎器・土煎器 目録	小片	01K3 01-12
3 瓦質土煎 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：14.5(1)	内外面ともヘラナゲか 底面に内煎器の透かし部分か	内 褐色 赤 に白・褐色	瓦質土煎目録	小片	01K3 01-12
4 瓦質土煎 部種	口径：一 底径：一 部高：14.5(1)	底に磨粒を配する 腹面・内煎器・底面は部分的に磨面	赤 に白・赤褐色 赤 赤褐色	瓦質土煎目録	破片	01K2 01-12
5 瓦質土煎 部種	口径：一 底径：一 部高：17.7(1)	内外面 ヘラナゲ	西赤 緑褐色	瓦質土煎目録	破片	01K2 01-12
6 底石か	長：4.9 厚：2.0 幅：2.9 重：44.18	両側面欠損 縦面に上・下・両側面の4面か、上縦面に上面 両側面も欠損する	西赤 に白・褐色	チャート	存在か	01K3 01-12
7 底石	長：8.9 厚：2.0 幅：3.2 重：69.63	腰部分の縦面に全面か、上縦面に片側面 側 上・左側面にヒラキ部分の磨粒がみえる。部分的に割傷する 右側面に磨粒が見える。左側面に比・使用痕跡がみ え上表面は割傷する	西赤 に白・黄色	粘板目	ほぼ存在か	01K3 01-12

表 78 第13号溝状遺構出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：17.7(1)	ロクロ成形	西赤 灰色	赤煎器・土煎器 目録1-2-6 頁	小片	01K3 01I3 底下層
2 土煎器 部種	口径：一 底径：一 部高：13.6(1)	口縁部底 外煎欠損 内 底面：ココナゲか うるし仕上げか 外 底面：ヘラナゲ(ヒコ) → 口縁部はココナゲか	西赤 に白・褐色 赤 褐色	赤煎器・土煎器 目録1-2 頁	小片	01K3 01I3 (01-13遺土)
3 土煎器 部種	口径：一 底径：一 部高：13.6(1)	内 磨面 口縁部：ココナゲ 外 磨面 口縁部：ココナゲ 底面：ヘラナゲ	内 に白・褐色 赤 褐色	赤煎器・土煎器 目録1-2 頁	小片	01K3 01I3 01-12 01-14
4 土煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：14.7(1)	内 口縁・両側部：ココナゲ 底面：ヘラナゲ(ヒコ) 外 口縁部：ココナゲ 底面：ヘラナゲ(ヒコ) (ヒコ一割)	内 褐色 赤 に白・黄褐色	赤煎器・土煎器 目録1-2 頁	小片	01K3 01I3 01-12
5 内瓦土煎 部種	口径：一 底径：一 部高：14.9(1)	内 ココナゲ 外 ココナゲ 底面下部一底面欠損	赤 緑灰黄色 赤 緑灰黄色	瓦質土煎目録	1/362下	01K2 01I3 (01-13-2 磨面(01))
6 内瓦土煎 部種	口径：一 底径：一 部高：14.7(1)	口径と底面の接合部が割断する 内 ココナゲ 外 ココナゲ スリ付着	内 に白・褐色 赤 灰褐色	瓦質土煎目録	1/362下	01K3 01I3 01-13 (01-13遺土)
7 陶器 部種 別名	口径：一 底径：13.6 部高：13.7(1)	底面 片割・磨面 口径 断面ヘラナゲ 底面 断面ヘラナゲ	西赤 緑灰黄色	陶器目録	小片	01K3 01-13
8 陶器 部種	口径：一 底径：一 部高：10.7(1)	断面軸心内外面に均一に磨す 口縁部下 洗滌と染傷	西赤 緑赤褐色	陶器目録	小片	01K3
9 底石	長：7.8 厚：1.5 幅：3.7 重：43.27	両側面 左側面欠損する 残存する右側は縦面	内 に白・黄褐色 赤 黄褐色	砥石目録	2/30	01K3 01I3 底石-3 (01-13遺土)
10 底石	長：9.5 厚：1.9 幅：2.2 重：66.34	右側面に1面欠損する 縦面に欠損する下腹以外の5面か 上縦面に表面 磨面4面は縦磨面は縦磨面	内 に白・黄色 赤 オリーブ褐色	砥石目録	ほぼ存在か	01K3 01I3

表 79 第14号溝状遺構出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：11.6(1)	ロクロ成形 つまみ欠損	西 灰褐色 赤 灰黄褐色	赤煎器・土煎器 目録1-2-6 頁	小片	01K3 01I4 底石-5
2 底煎器 部種	口径：一 底径：一 部高：15.3(1)	ロクロ成形 外面の本列面が磨	西 灰オリーブ色 赤 灰色	赤煎器・土煎器 目録1-2-7 頁	小片	01K3 01I4
3 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：17.7(1)	内外 ヘラナゲか	西赤 灰黄色	赤煎器・土煎器 目録1-2-7 頁	小片	01K3 01I4 底石-4
4 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：11.0(1)	ロクロ成形 底面 丸磨面を以て立ち上がる 底面 片割未施	西赤 緑灰黄色	赤煎器・土煎器 目録1-2-6 頁	小片	01K3 01I4
5 陶器 部種	口径：一 底径：一 部高：11.2(1)	底面が 歪みあり 底面に立ち上がりみられる磨面は、 縦面に丸みがある部分より上・磨面がある	西赤 褐色	赤煎器・土煎器 目録1-2-6 頁	小片	01K3 01I4
6 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：14.6(1)	内 ヘラナゲ 外 ヘラナゲ 自然磨が著しく磨下するが、磨面は割傷する	西赤 灰色	赤煎器・土煎器 目録1-2-6 頁	小片	01K3 01I4
7 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：14.7(1)	ヘラナゲか	西 灰オリーブ色	赤煎器・土煎器 目録1-2-7 頁	小片	01K3 01I4 底石-2
8 底煎器 部種 別名	口径：一 底径：一 部高：15.3(1)	ヘラナゲか	赤黒 灰オリーブ色	赤煎器・土煎器 目録1-2-7 頁	小片	01K3 01I4 底石-1

第3節 3次調査

[単位: cm, g]

番号	調査	手法	特徴	色調	粘土	残存	備考
9	前庭部	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	体部小片 片断 1/20mm×10mm×10mm	内外 灰色	新石器・土器類 目群: 1-2-7 Ⅱ	小片	0583 SH4 高0-0.4
10	前庭部	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	体部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 灰黄色 外 灰色	新石器・土器類 目群: 1-2-7 Ⅱ	小片	0583 SH4
11	前庭部	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	体部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内外 灰色	新石器・土器類 目群: 1-2-6 Ⅱ	小片	0583 SH4 高0-0.3
12	前庭部	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	口縁部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内外 灰色	新石器・土器類 目群: 1-2-7 Ⅱ	小片	0583 SH4 高0-0.4
13	前庭部	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	口縁部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内外 灰色	新石器・土器類 目群: 1-2-6 Ⅱ	小片	0583 SH4 高0-0.4
14	前庭部	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	口縁部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内外 灰黄色	新石器・土器類 目群: 1-2-6 Ⅱ	小片	0583 SH4
15	土師質土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	口縁部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 に近い褐色 外 褐色	土師質土器目群	小片	0582 SH4 高0-0.2
16	西耳土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内耳欠陥 小孔を穿つ 縦線状 内 ヘラナゲ 内耳周辺にナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 に近い褐色 外 褐色	瓦質土器目群	小片	0583 SH4 高0-0.3
17	西耳土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内耳欠陥 小孔を穿つ 縦線状 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 に近い褐色 外 褐色	瓦質土器目群	小片	0583 SH4(97%) 老西方区
18	西耳土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内耳欠陥 小孔を穿つ 縦線状 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 に近い褐色 外 褐色	瓦質土器目群	小片	0583 SH4(97%) 老西方区
19	西耳土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内耳欠陥 小孔を穿つ 縦線状 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内外 に近い褐色 外 褐色	瓦質土器目群	小片	0583 SH4 高0-0.3
20	瓦質土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	口縁部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 褐色 外 褐色	瓦質土器目群	小片	0583 SH4 高0-0.4
21	瓦質土器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	口縁部小片 内 ヘラナゲ 片断 1/20mm×10mm×10mm	内 褐色 外 褐色	瓦質土器目群	小片	0583 SH4 高0-0.3
22	陶器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内面 自然釉 内 灰黄色 外 に近い褐色	陶器目群	小片	0583 SH4 高0-0.4	
23	陶器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内面 自然釉 内 灰黄色 外 に近い褐色	陶器目群	小片	0583 SH4(97%) 南小川	
24	陶器	口縁: 1 底縁: 1 器高: 14.9	内面 自然釉 内 灰黄色 外 に近い褐色	陶器目群	小片	0583 SH4 高0-0.2	
25	磨石	長: 6.2 厚: 5.0 幅: 5.9 重: 396.77	両面に小片断 表面面に浅い凹孔状の跡 上面 縦行肌	表裏 灰白色	安山岩	1/4	0582 SH4 高0-0.3
26	磨石	長: 9.0 厚: 5.5 幅: 6.5 重: 487.66	面 上 裏面: やや平直 中央部に浅い凹み 面 上 裏面: やや平直	表裏 黄褐色	砂岩	残存	0583 SH4 高0-0.4
27	二枚鉢	長: 2.3 厚: 3.5 幅: 5.5 重: 125.70	小片 断面は上面で薄縁部 研製し平直な面 磨滅する下部は整形部	内外 灰色	安山岩	1/60	0583 SH4 高0-0.3
28	二枚鉢	長: 10.9 厚: 3.8 幅: 6.0 重: 164.23	小片 断面は上面 両縁部は整形による断面 両縁部は丸みを帯びる 断面の平坦な断面部によって作製される	表裏 灰黄色	輝石安山岩	小片	0582 SH4
29	空石(製品)	長: 9.7 厚: 5.7 幅: 6.0 重: 127.66	断面は整形断面 外に尖 断面は整形断面 軽	表裏 セラミック質	スコリア質安山岩	約1/25	0583 SH4 高0-0.3
30	磨石	長: 11.5 厚: 6.4 幅: 16.4 重: 909.13	面 上 裏面: 磨滅 中央部により磨滅 下部磨滅して平直	表裏 褐色	安山岩	1/2	0583 SH4 高0-0.2
31	石臼	長: 2.8 厚: 6.4 幅: 6.4 重: 258.76	上臼 小片	表裏 暗灰黄色	輝石安山岩	1/6	0583 SH4
32	石臼	長: 16.9 厚: 2.5 幅: 11.7 重: 3336.99	下臼 断片	表裏 灰黄色	輝石安山岩	小片	0582 SH4
33	空石(製品)	長: 3.4 厚: 0.9 幅: 3.3 重: 19.89	薄平断面 やや凹状 断面 断面による赤色変色化	表裏 に近い黄褐色	砂岩	1/43	0583 SH4 高0-0.3
34	二枚鉢	口縁: 1 底縁: 1 器高: 13.2 高さ: 13.2	口縁部 突出部は持ち手か 底縁 凹形状の跡は3ヶ所か 断面 断面に磨滅	表裏 灰色	安山岩	1/3	0583 SH4 高0-0.4
35	砥石	長: 3.1 厚: 2.3 幅: 3.0 重: 28.40	断面の凹部 砥石は存在する断面 断面は整形断面 存在は平行する条線状の痕跡 上面部は凹部の痕跡	表裏 に近い黄褐色	両状岩	断面欠陥	0583 SH4 高0-0.3
36	砥石	長: 5.8 厚: 1.5 幅: 3.4 重: 45.35	断面の凹部 砥石は存在する断面 断面は整形断面 存在は平行する条線状の痕跡 上面部は凹部の痕跡	表裏 に近い黄褐色	両状岩	断面欠陥	0583 SH4 高0-0.2
37	砥石	長: 6.2 厚: 2.0 幅: 3.7 重: 48.29	断面の凹部 砥石は存在する断面 断面は整形断面 存在は平行する条線状の痕跡 上面部は凹部の痕跡	表裏 黄褐色	両状岩	断面欠陥	0582 SH4 高0-0.4

第3章 確認された遺構と遺物

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
28 砥石	長：8.5 厚：2.1 幅：3.3 重：140.11	上・下平欠削 上表面は内寸寸4面 右側面、垂直方向に磨削痕、金属屑磨痕少	黒黒 褐色	赤鉄質	埋込欠削	01A03 01A 遺3-0-2
29 砥石	長：6.4 厚：2.4 幅：4.2 重：106.69	下平部欠削、砥面は内寸寸5面、上砥面は赤・左側面 側面、頂上高部平欠削の跡あり、上出の跡は僅く凹みあり 上表面は左側面短く平行する条線状の磨痕 欠削痕のついたものか	黒黒 黄褐色	赤鉄質少	埋込欠削	01A03 01A 遺3-0-3
40 砥石	長：17.5 厚：5.7 幅：7.3 重：639.31	表面のみ存存 上・下端は欠削 表面は砥面 中央部は平欠削の跡あり 左側面、垂直的に平行する磨削痕が観察されるが磨痕不明	黒黒 に白・褐色	砂質	埋込欠削	01A03 01A 遺3-0-3
41 平研盤	長：8.7 厚：2.3 幅：7.9 重：278.43	方形形の磨削痕 磨平で残存面は磨減する 砥石との付着も、金属屑少	黒黒 緑灰色	砂質	小片	01A03 01A 遺3-0-4
42 砥石	長：22.4 厚：2.9 幅：12.9 重：1014.39	砥面は、平欠削 二条線、磨子が残る	黒黒 緑灰色	緑泥片質	埋込1/2	01A03 01A

表 80 第 19 号溝状遺構出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 灰土層 壁	口径：— 底径：— 深さ：14.6	内 同心円状にて表側 外 平行円錐 二面磨削	西赤 灰色	赤褐色、土砂混 入層1+2 頁	小片	01A03 01A-19
2 灰土層 壁	口径：— 底径：— 深さ：15.9	内 平行円錐 外 以線状にコウゴク 條状、平行円錐 二面磨削	西 灰色 外 オリーブ灰色	赤褐色、土砂混 入層1+2+6 頁	小片	01A03 01A-19
3 内瓦土層 部	口径：— 底径：— 深さ：16.6	内 内径縁部、胎土平 外 磨減、内径縁部、胎土	西 灰褐色 内 に白・褐色 頁	瓦質土層1層 頁	1/8	01A03 01A-19
4 瓦質土層 瓦片1	口径：126.6 底径：— 厚さ：16.6	内外 磨減 8本ごとに一組の磨子を確らに施す	西 黄灰色 内 に白・褐色	瓦質土層1層 頁	小片	01A03 01A-19
5 瓦質土層 部	口径：— 底径：— 深さ：15.0	内外 磨減	西 黄灰色 内 に白・褐色	瓦質土層1層 頁	小片	01A03 01A-19
6 土層 壁	長：5.2 厚：1.9 幅：2.6 重：17.60	内外 磨減 孔は肉厚の縁状で高で磨削少 條状は胎土が粘土を塗り磨げたか	西赤 灰色	中々緻密 1+4 頁	残存	01A03 01A
7 砂土層 基石	長：1.9 厚：0.4 幅：1.9 重：2.37	解つて平滑 灰泥あり	西赤 褐色	粘鉄質	残存	01A03 01A
8 砂土層 基石小	長：2.1 厚：0.9 幅：1.9 重：4.09	解つて平滑 灰泥あり	西赤 褐色	粘鉄質	残存	01A03 01A
9 砂土層 基石小	長：2.3 厚：1.0 幅：2.5 重：6.30	円形状、扁平、全面磨減、中々灰泥あり	西赤 緑オリーブ色	チャート	残存	01A03 01A
10 平研盤	長：3.6 厚：1.0 幅：3.6 重：21.47	表面は磨削 上・下、側面平滑 表面光沢あり	西赤 オリーブ褐色	頁質	残存少	01A03 01A
11 砥石	長：9.9 厚：1.7 幅：4.9 重：107.98	表面：下平部欠削 上端部は側面にのみ平に存存 砥面に残存面4面 表面は凸磨 残存面は平滑	内 黒褐色 内 に白・黄褐色	空山質	残存少	01A03 01A
12 石臼	長：16.9 厚：5.9 幅：9.9 重：890.57	下平部、中々凹 上・下、側面磨減	黒黒 灰オリーブ色	礫石交代層	小片	01A03 01A
13 砥石	長：7.3 厚：16.8 幅：5.1 重：29.55	磨子とみらるる磨削が施されるか 砥石の上下等平削 磨子の一紙か	黒黒 緑灰色	緑泥片質	小片	01A03 01A
14 砥石	長：5.9 厚：1.0 幅：4.5 重：42.10	磨子とみらるる磨削が施されるか 砥石の上下等平削 磨子の一紙か	黒黒 緑灰色	緑泥片質	小片	01A03 01A
15 砥石	長：26.2 厚：2.6 幅：26.9 重：2295.30	小形の磨減少 径 上：表面は磨減し平滑 表面は縦方向の磨減がみられる 磨削痕少	黒黒 緑灰色	緑泥片質	遺痕付	01A03 A2C 5019

表 81 第 201 号溝状遺構出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 砥石	長：7.7 厚：1.9 幅：3.9 重：67.09	砥面 上・下・両側面 上表面は上・下面少 側面は凹削 凹1・傾り少	黒黒 に白・黄褐色	赤鉄質	1/25	01A03 A2C 50201
2 石盤小	長：15.5 厚：0.8 幅：12.3 重：976.81	上面 磨減 下面 凹削少	黒黒 褐色黄色	コウゴク質 礫石交代層	1/25	01A03 A2C 50201

表 82 第 202 号溝状遺構出土遺物観察表

番号 部種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 礫石	長：13.1 厚：1.9 幅：8.9 重：312.87	全面磨減 微熱により赤色変化（砥土表面に磨削）	黒黒 に白・褐色	礫質砂質	残存	01A03 0-302

番号 図種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
3 瓦質土器 平丸鉢	口径：— 底径：— 部高：16.3	内外面 黄緑 内 口唇部は鉄灰。5本一組の群を縁の上に施す	内 黄褐色	瓦質土器群	小片	0343 5-202

表 83 第 364 号溝状遺構出土土物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 粘土土器 壺小	口径：— 底径：— 部高：13.8	2段の溝文を横方向に凹削す	内 灰 外 黄褐色	灰赤器・土師器 B群+1-2-6	小片	0343 5004
2 灰赤器 壺小	口径：— 底径：14.9 部高：13.0	ロケリ成形	内 灰 外 黄褐色	灰赤器・土師器 B群+1-2-1 片	小片	0343 5004
3 灰赤器 壺	口径：— 底径：— 部高：14.0	内 同心円状あて痕あり 外 木口状工具による「ヘラナデ」	内 灰 外 黄褐色	灰赤器・土師器 B群+1-2-4 片	小片	0343 5004
4 土師質土器 鉢類小	口径：— 底径：16.9 部高：15.5	ロケリ成形 底面 刻線法刻す	内 灰 外 黄褐色	土師質土器C群	小片	0343 5004 Nd
5 瓦質土器 鉢類小	口径：— 底径：— 部高：19.6	5条一組の条線を曲線的に配す	内 黄褐色 外 褐色	瓦質土器群	小片	0343 5004
6 内耳土器	口径：— 底径：— 部高：15.9	体面両面 ヘラナデ小	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	小片	0343 5004
7 内耳土器	口径：— 底径：— 部高：15.9	ヘラナデ 内耳部合部；取手が残ら 内外面×ス付着	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	1/3以下	0343 5004
8 内耳土器	口径：— 底径：— 部高：15.9	ヘラナデ 内耳部合部；取手が残ら 内外面×ス付着	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	1/3以下	0343 5004 Nd
9 内耳土器	口径：— 底径：— 部高：15.9	ヘラナデ 内耳部合部；下縁を中心に磨子 痕跡が体面に斜めに立ち上がる	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	1/3以下	0343 5004 Nd
10 内耳土器	口径：— 底径：— 部高：14.0	ヘラナデ 体面 刻線部；ス付着 底一底面；丸棒をもって立ち上げる	内 灰 外 黄褐色	瓦質土器群	1/3以下	0343 5004
11 陶器 壺	口径：— 底径：— 部高：16.1	ヘラナデ 口縁部 刻線的に立ち上がる	内 黄褐色	陶器類D型	小片	0343 5004
12 磁石	長：7.8 厚：1.8 幅：3.5 重：71.9	片側溝状欠陥 磁面は残存する5面 裏面刻痕 磁石の全面に金箔の入れ	内 黄褐色	青磁	溝状欠陥	0343 5004
13 磁石	長：4.9 厚：2.3 幅：2.1 重：48.13	ほぼ方形 磁面は6面 上面は中央縦行痕がみられる 残る5面は刻痕の痕跡がみられる 使用のためすり減ったものか	内 黄褐色	青磁	ほぼ方形	0343 5004

表 84 第 371 号溝状遺構出土土物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 内耳土器	口径：— 底径：— 部高：15.0	体一底面 黄褐色につや立ち上がる 体中位 ス付着	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	1/3以下	0343 5007
2 磁石	長：12.4 厚：1.6 幅：2.6 重：76.35	片側溝状欠陥 磁面は残存する4面 裏面刻痕は平行する条線がみられる 裏面は凹削に黄褐色する	黄褐色	青磁	ほぼ方形	0343 5007

表 85 第 376 号溝状遺構出土土物観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	粘土 構成	保存 状況	備考
1 灰赤器 丸付付着	口径：— 底径：— 部高：13.3	ロケリ成形	内 灰 外 黄褐色	灰赤器・土師器 B群+1-2-5 片	小片	0343 5007
2 灰赤器土器 鉢類	口径：— 底径：— 部高：13.9	4本以上一組の群を側面もつて磨すか 磨きの痕跡がみられる	内 灰 外 オリーブ黄褐色	瓦質土器群	小片	0343 5007
3 内耳土器	口径：136.9 底径：131.2 部高：4.8	ヘラナデ 内面 底面両面を中心にス付着 内外面を中心に磨ナデ	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	1/3	0343 5007
4 陶器 壺	口径：— 底径：— 部高：16.3	ヘラナデ小 内面 刻線し赤色変化	内 黄褐色 外 黄褐色	陶器類D型	小片	0343 5007
5 内耳土器	口径：136.3 底径：129.2 部高：4.8	ヘラナデ 内耳部合部；取手が 内耳は「フット」が反対側に残される 内外面×ス付着	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土器群	1/4	0343 5007
6 磨石小	長：10.8 厚：4.3 幅：13.9 重：488.05	金剛砂類 面 上 表面：上・下面に中央縦線 裏面：丸・三角の凹削	内 黄褐色 外 灰褐色	スリッパ質安山岩	完全	0343 5007
7 磁石	長：9.0 厚：1.6 幅：4.0 重：96.46	両側溝状欠陥 磁面は残存する4面か、主磁面は赤・黄褐色 右側面 裏面；底面の痕跡が平行する 磁面は凹削下方に中央縦線	内 灰 外 黄褐色	青磁	溝状欠陥	0343 5007
8 磁石	長：16.8 厚：3.9 幅：3.6 重：290.37	面 上・下縁に中央縦線 磁面は上縁面を除く4面か 主磁面は赤褐色、両側面 裏面は平行する縦線が 底面上部に連続の痕跡が欠陥あり。刻線等の痕跡あり	黄褐色	青磁	溝状欠陥	0343 5007

表 86 第 393 号溝状遺構出土遺物観察表

遺物 品類	寸法	特徴	色調	胎土 構成	焼成 状況	(単位: cm, 計)	備考
1 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (13.6)	西 本口部工具によるヘラナゲ→胎土デコヘラナゲ 内耳縁合部はヘラナゲ 胎土中に胎土デコ 胎土構成 西 胎土中に胎土デコ 胎土中に胎土デコ (寛くヘラナゲが 残った文脈あり)	西赤 灰色	灰質土胎土	1/800 T	00AK3 00B3	

土器類は、須恵器 3 片、土師器 1 片、内耳土器 17 片、土師質土器 2 片、粘土塊 18 片、スレート 3 片が出土する。須恵器は甕体部片か。3 片のうち 1 片は内面に自然軸がかかる。1 片は外面に平行叩きを施す。土師器は長胴甕体部片か。内耳土器は口縁部 7 片 (胎土 D)・体～底部 6 片 (胎土 C 2 片・D 4 片)・底部 4 片 (胎土 D) である。土師質土器は異個体とみられる体部片 2 片である。粘土塊はスサの痕跡が確認されるものがあり、羽口の破片である可能性が考えられる。

石製品・礫は、砥石片 1 片、破砕礫 5 片が出土する。砥石は厚さ約 0.3cm の小片。使い減りか。破砕礫のうち 2 片は被熱する。2 片は同じ石材とみられるが、このうち 1 片の形状は素形作出途中に破砕した打製石斧未製品状である。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品 1 片が出土する。器厚 2.5cm 前後であり、SD-364 等から出土する筒型の土製品とは異なる形状である。また、土器類で記したが、粘土塊に羽口の可能性が考えられる。

陶器は、陶器碗・皿類 7 片・鉢類 1 片が出土する。碗・皿類は、灰赤 3 片 (うち 2 片重ね焼きの痕跡か)・灰釉に鉄軸を縞状に施す 1 片・灰釉に鉄絵を施す 1 片・黄白色釉 1 片・暗い青磁片 1 片である。鉢類は外面に鉄軸か。何れも近世後半以降か。

磁器は碗類 4 片が出土する。1 片は肥前系の染付か。近世後半以降か。2 片は明藍色の染付を施す。2 片は透明釉を施す。近代以降とみられるが、透明釉 1 片は更に時代が下るか。

鉄滓は表 92 に記載する。

第 379 号溝状遺構 (SD-379) (第 83・84 図 図版一三)

位置 B 区 M・14・15 グリッドを概ね南北方向に延びる。南側は調査区外に延びる。南側の延長線上となるⅢ-2 区 N-13 グリッド付近における関連遺構の確認はない。**重複関係** SE-384 → SE-390 → SD-393 → SD-379、SE-378 → SD-349 → SK-377、SK-395 → SD-393 → SD-379 の順に掘り込まれる。**形状** 東壁南側は掘乱により失われる。北側は立ち上がる。断面形は逆台形状、或いは皿状である。**規模・主軸** 底面の長さ (11.1) m が確認される。遺構確認面の幅は、北端部付近が最も狭く約 0.37 m、SP-G 付近が最も広く約 0.8 m、平均 0.6 m 前後である。底面の幅は、北端部が最も狭く約 0.2 m、SP-K 付近が最も広く約 0.4 m、平均 0.3 m 前後である。主軸は N-22°-E である。**底面** ローム面・SK-377・SE-378 を掘り込む。遺構確認面からの深さ・底面レベルは、SP-K 付近約 0.15 m・30.0 m、SP-F 付近約 0.24 m・29.928 m、SP-J 付近約 0.4 m・30.0 m、SP-L 付近約 0.46 m・30.026 m である。SP-K 以北は確認し得なかった。僅かではあるが南方向→北方向への傾斜がみられるが、溝の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** 1 層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 393 号溝状遺構 (SD-393) (第 83・84・108 図 表 86・90 図版一三)

位置 B 区 M・N-14・15 グリッドを概ね南北方向に延びる。南側は調査区外に延びる。南側の延長線上となるⅢ-2 区 N-13 グリッド付近における関連遺構の確認はない。**重複関係** SE-384 → SE-390 → SD-393 → SD-379、SE-378 → SD-349 → SK-377、SK-395 → SD-393 → SD-379 の順に掘り込まれる。SK-394 とは不明である。**形状** 東壁南側は掘乱により失われる。北側は立ち上がる。断面形は逆台形状、

或いは皿状である。**規模・主軸** 底面の長さ(11.17)mが確認される。遺構確認面の幅は、北端部付近が最も狭く約1.0m、SP-H付近が最も広く約1.5m、南側の調査区端部付近[1.2]mである。底面の幅は、SP-Gが最も狭く約0.47m、SP-K付近が最も広く約0.67m、平均0.6m前後である。主軸はN-22°Eである。**底面** ローム面・SK-395を掘り込む。遺構確認面からの深さ・底面レベルは、SP-K付近約0.18m・30.19m、SP-G付近0.4m前後・29.938m、SP-J付近29.97m、SP-L付近0.55m前後・29.92mである。SP-K以北は確認し得なかった。僅かではあるが北方向→南方向への傾斜がみられるが、溝の傾斜を示すものか判断としない。**覆土** 4層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から11片が出土する。土器類6片、陶磁器類4片、鉄製品1片である。

出土遺物 1は内耳土器口縁部片。内面体部に木口状の工具痕や指ナデ・指頭痕が観察される。内耳部分には指ナデ後へラナデか。

その他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は内耳土器5片が出土する。口縁部2片(胎土C)・体部3片(胎土C2片・D1片)である。

陶磁器は、陶器2片、磁器2片である。陶器は裏類口縁部微細片。何れも褐色釉を内外面に施す。磁器は碗頭2片。何れも明藍色の染付を施す。近代以降か。

鉄製品は釘状の小片である。表90に記載する。

6. ビット

(1) 調査の概要

ビットは238基が確認される。特に、C区K-11グリッド、D区G・H-7～9グリッドに多い。

各区において留意された点は以下のとおりである。

A区P-787は深さ0.9mと他のビットと比べ深いものの、底面レベル・覆土等を確認し得ず、詳細は判断としない状況にある。

C区は調査区西部J・K-11グリッドにビットが多く確認される。しかし、建物跡や柵列等を推定し得る明確な位置関係は確認し得なかった。しかし、柱間の不規則な建物跡などの推定は可能と判断される。簡易な建物や柵列等が繰り返し設置された結果の遺構分布、或いは、標柱等の可能性を念頭にすべきか。

先述のおおりに、K-11グリッドは遺構密集区であり、直交方向に重複する方形の土坑とビットの分布が重なる。P-441・442・830・SK-432・p1・SK-433・p1・SK-434・p1・SK-439・p1・SK-440・p1・SK-444・p1など、遺構内に位置するビットは、遺構に帰属するものでは無く、ビット群に付随する可能性も考えられる。また、K-11グリッド東側のSK-432付近は、主軸の直交する方形の土坑SK-438・444と、浅い掘り込みであるP-443・SK-437・439・440、ビット状のP-441・442は前後して掘り込まれる。近い時期の遺構とみられるか。

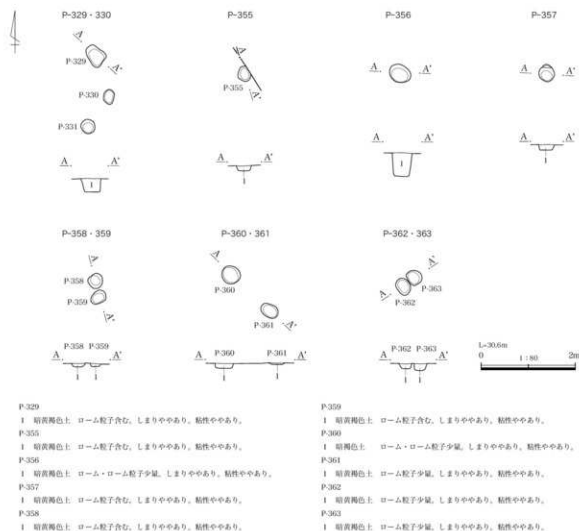
また、J-11グリッドSK-400・403・404・416・417は形状・大きさの似た土坑が集中する。深さは0.1m前後と浅めの土坑が多いが、SK-400は深さ約0.5m、SK-417の底面はビット状に掘り込まれ、深さ約0.26mである。SK-418は深さ約0.05mと浅いが円形状、同様の性格の土坑・ビットが繰り返し掘り込まれたか。

K-11グリッド、P-483・493～495・551は径0.3m・深さ0.1m前後のビットが集まる点、留意される。

D区はSD-13北半部、及びその東岸にP-47～57、P-277～287が位置する。

P-47～57はSD-13中央部から北半部に位置する。P-53・55・P-51・52は東・西辺にあって、底面を挟んで対になる位置に穿たれる。また、P-54・57は東辺に沿って穿たれる。SD-13との帰属等、詳細は判断

第3章 確認された遺構と遺物

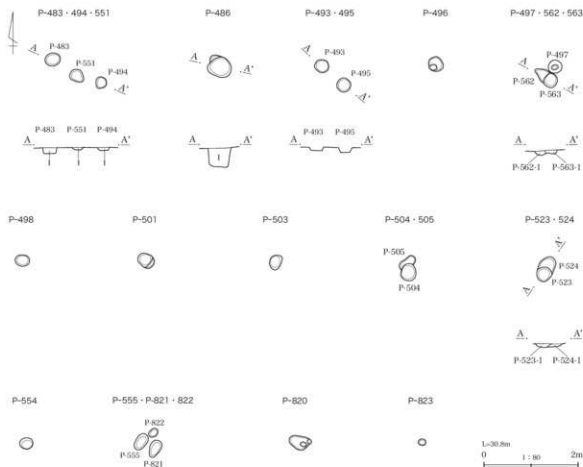


第109図 第329～331・355～363号ピット実測図

としなが、SD-13に付随する施設の想定が可能と考えられる。

P-277～287はSD-13北半部の東岸、G-7・8グリッド境界部に纏まって位置する。遺構確認面からの深さは0.2m前後とさほどの掘り込みは持たないが、浅深に突出したピットが確認されない点、同一用途である可能性が考慮される。各々の位置的關係からは、整然とした間尺はとれないが、P-277・278・281・282、P-278・279・280、P-281・293・284、P-282・285・286、P-280・284・286、P-281・283・284・287など、直線的な配置がみてとれる。また、P-277・279・281・286、P-278・280・282・286を繋ぐ方形の配置も推定される。明確には判断し得ないが、標柱などのピット単体の遺構よりも、柵列や間尺の不均等な掘立柱建物跡などの複数ピットからなる遺構が想定されようか。ただし、D区内の土坑や溝状遺構とは主軸を異にする。

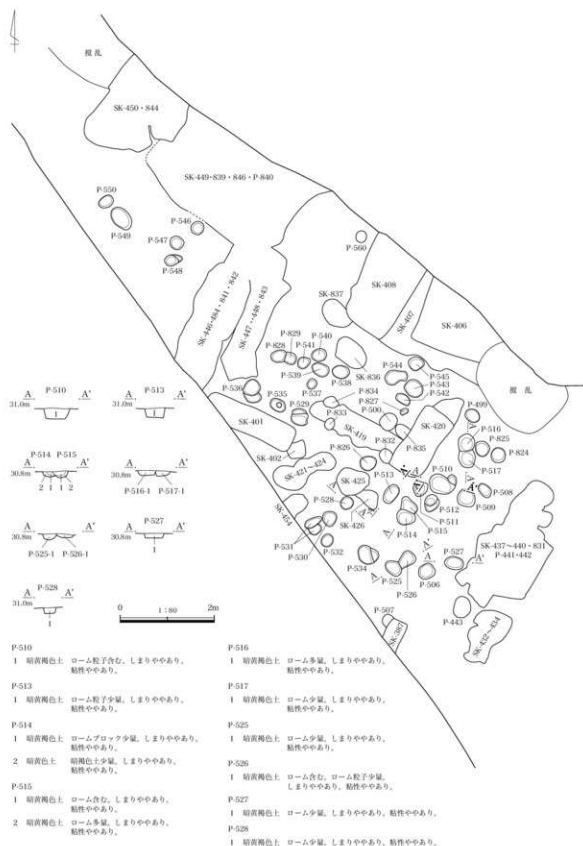
SD-13内のP51・52・P-53・55、SD-13東岸SP-54・57のP-277～287は、P-282・285・286の直線上に位置するSK-274に向けた位置關係にあることなどから、相互に関連する施設とも考えられよう。



第110図 第483・486・493～498・501・503～505・523・524・551・554・555・562・563・820～823号ビット実測図

G・H・7グリッド付近にP-288～313・318～320・803が纏まって位置する。遺構確認面からの深さは、0.3m前後を中心に、P296:約0.06m～P297・298・803:約0.53mであり、規格外に欠ける。また、P-308・310・312、P-296・298・313などビット間が等距離に近い直線的な配置や、P-311・318・319・320など平行四辺形に繋がる配置などがみられるが、整然とした間尺がとれるものは確認されない。しかし、ビットの群在する範囲に纏まりがあることなどから、SD-13東岸のビット群同様、間尺の不均等な建物跡や簡易な施設の重複である可能性が想定されよう。また、南東に近接するSE-321との関連を考慮すべきか。

第3章 確認された遺構と遺物



第111図 第499・506・508～517・525～532・534～550・824～829号ビット実測図

(2) ビット

【ビット内出土遺物】

P-218からはSK-216と混在するが、土師質土器小皿口縁部微細片1片が出土する。ロクロ仕上げである。

P-229は覆土中から土師質土器小皿1点が出土する。ロクロ仕上げの小型品である。16世紀半ば以降とみられるが、遺構への帰属は判然としない。

P-232～239周辺から12片が出土する。SK-239に記載する。

P-232からは内耳土器体部2片が出土する。胎土C1片・D1片である。

P-233は覆土中から2片が出土する。内耳土器体部片1片、小礫1点である。内耳土器は胎土Cである。小礫は扁平な長円形であり、磨滅する。

P-442は覆土中から鉄製品2片が出土する。詳細は不明である。表89に記載する。

P-492は覆土中から3片が出土する。磁器1片、ガラス2片である。磁器は、染付を施す碗類小片であり、肥前系か。近世後半以降とみられる。ガラス片は工業製品である。

P-529・530は覆土中から陶器1片が出土する。鉢類とみられ、体部は内湾する。外面は細い平行線がみられる。叩き目或いは文様か。手焙り等か。

P-535は覆土中から陶磁器2片が出土する。陶器は皿類で、内面～外面口縁部の灰釉を施す。近世後半以降か。磁器は碗類小片。外面にコバルト呉須で文様を施す。瀬戸・美濃系か。近代以降か。

P-546)は覆土中から磁器1片が出土する。色絵を施す碗類小片であり、花蝶文様を施す。産地不明。近代以降か。

P-560は覆土中から土器片1片が出土する。内耳土器口縁部であり、胎土Dである。

表 87 3次調査区確認ビット表

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ビット	K	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重層	特記	確認
218	A	Q-20	0.42×0.58	0.33	28.52	2層	—	中段部から 深さ約0.22mレベルから約29.78m SK-216と混在するが遺物1片出土	122
229	A	Q-20	0.33	0.59	29.85	2層	SE-209→P-229→SK-239	土師質土器出土 遺構中位(SI-B6層中)	76
232	A	Q-20	0.2	—	—	—	SK-236・239	SK-236内 覆土中・SK-239周辺から遺物出土	76
233	A	Q-20	0.23	0.7	28.93	—	SK-236・239	SK-236縁部(ほぼS-238) SK-239周辺から遺物出土	76
234	A	Q-20	0.23×0.38	—	—	—	SK-239・SE-2097	SK-239周辺から遺物出土	76
235	A	Q-20	0.32	—	—	—	SK-239	SK-239周辺から遺物出土	76
277	D	G-9	0.3×0.18	0.22	30.88	—	—	—	99
278	D	G-9	0.32前後	0.36	30.72	—	—	径約0.14mの中段を持つ	99
279	D	G-9	0.3	0.18	30.92	—	—	—	99
280	D	G-9	0.28×0.42	0.17	30.93	—	—	北東側に張り込みを持つが詳細不明	99
281	D	G-9	0.31前後	0.24	30.86	—	—	—	99
282	D	G-8・9	0.3×0.4	0.27	30.83	—	—	—	99
283	D	G-8・9	0.32前後	0.14	30.96	—	—	径約0.12mの中段を持つ	99
284	D	G-8・9	0.42×0.62	0.17	30.93	—	—	3次区となる しゃもたりの2点とみられる 深さレベルは2aの層	99
285	D	G-8	0.12	0.21	30.89	—	—	—	99
286	D	G-8	0.4×0.32	0.17	30.93	—	—	—	99
287	D	G-8	0.43×0.22	0.26?	30.84?	—	—	深さ・レベルは判然としない	99

第3章 確認された遺構と遺物

[括弧内:東西・南北 深さ:遺構断面図 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	層土	重複	特記	所属
288	D	H-7	0.3-0.35 中段0.12	0.32	30.58	-	-	中段部あり	125
289	D	H-7	0.42 中段部0.15-0.25	0.44	30.46	-	-	中段部あり	125
290	D	H-7	0.25-0.32	0.28	30.62	-	-		125
291	D	H-7	0.28-0.38	0.26	30.64	-	-		125
292	D	H-7	0.5-0.43	0.33	30.57	-	-		125
293	D	H-7	0.35前後	0.13	30.77	-	-		125
294	D	H-7	0.35-0.19	0.48	30.42	-	-		125
295	D	H-7	0.23前後	0.21	30.69	-	-		125
296	D	H-7	0.2-0.25	0.06	30.84	-	-		125
297	D	H-7	0.28	0.53	30.43	-	-		125
298	D	H-7	0.3	0.53	30.43	-	-		125
299	D	H-7	0.25前後	0.33	30.63	-	-		125
300	D	H-7	0.26	0.34	30.62	-	-		125
301	D	G-8	0.3前後	0.33	30.57	-	-		125
302	D	G-8	0.3	0.33	30.57	-	-		125
303	D	G-7	0.33-0.12	0.46	30.44	-	-		125
304	D	G-7	0.3	0.2	30.7	-	-	不整形	125
305	D	G-7	0.23-0.29	0.33	30.57	-	-		125
306	D	G-7	0.27-0.34	0.12	30.78	-	-		125
307	D	G-7	0.28	0.33	30.57	-	-		125
308	D	G-7	0.25-0.32	0.33	30.57	-	-		125
309	D	G-7	0.27-0.32	0.12	30.78	-	-		125
310	D	G-7	0.3-0.21	0.23	30.67	-	-		125
311	D	G-7	0.45	0.11	30.82	-	-		125
312	D	G-7	0.3前後	0.11	30.79	-	-		125
313	D	G-7	0.23-0.19	0.09	30.82	-	-		125
318	D	G-7	0.35-0.45	0.21	30.72	-	-		125
319	D	G-7	全長0.43-0.26 西穴0.26	西穴0.15	西穴30.95	-	-	2穴からなる 西穴が主穴か	125
320	D	G-7	0.43-0.35	0.22	30.88	-	-		125
323	D	G-6	0.12	0.12	30.98	-	-		125
329	B	N-15	0.22-0.47	0.28	30.25	1層	-		109
330	B	N-15	0.42-0.32	-	-	-	-		109
331	B	N-15	0.3	-	-	-	-		109
333	B	N-15	0.4	0.43	30.08	3層	SN-334 詳細不詳		109
355	B	L-15	0.33	0.11	30.62	1層	-		109
357	B	M-14	0.34	0.11	30.62	1層	-		109
358	B	M-14	0.3	0.07	30.66	1層	-		109
359	B	M-14	0.25-0.35	0.07	30.66	1層	-		109
360	B	L-14	0.4	0.11	30.62	1層	-		109
361	B	L-14	0.28前後	0.03	30.62	1層	-		109

第3節 3次調査

[経:東西・南北 深さ:遺構横断面 単位:m]									
ピット	K	グラッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	深さ
362	B	L-14	0.26*0.29	0.11	30.62	1層	-	P-363重複	109
363	B	L-14	0.32	0.15	30.58	1層	-	P-362重複	109
441	C	K-11	0.58*0.32	0.62	30.08	1層	SK-440-P-4415*	長方形状	86
442	C	K-11	0.44	0.18	30.5	1層	SK-440-P-4425*	鉄製品1片出土 第14層-8 表90	86
443	C	K-11	0.37*0.44	0.08	30.72	1層	-	鉄製品1片出土 第14層-8 表90	86
466	C	J-12	約0.7*(0.45)	南0.3 北0.36	南30.4 北30.54	南1層	-	埋戻穴 別遺構の可能性あり 埋戻面(0.4)*0.4北(0.32)*0.5	82
471	C	J-11	0.42*0.5	0.31	30.44	1層	-		82
472	C	J-11	0.25	0.17	30.68	1層	-		82
473	C	J-11	0.31*0.24	0.17	30.58	1層	-		82
474	C	J-11	0.4*0.54	0.37	30.38	1層	-		82
475	C	K-11	0.32*0.58	0.4~0.5	30.55~ 30.43	1層	-	方形 底面傾斜	82
477	C	J-11	0.5*0.34	0.49	30.26	1層	-		82
479	C	J-11	0.3	0.18	30.58	1層	-		82
480	C	J-11	0.32*0.35	0.46	30.29	1層	-		82
481	C	J-11	0.35	0.48	30.27	1層	-		82
482	C	J-11	0.35*0.45	0.45	30.3	1層	-		82
483	C	J-11	0.3	0.13	30.62	1層	-		110
486	C	J-11	0.45前後	0.4	30.32	1層	-	西側約1mの突出部	110
492	C	J-10	0.55	0.57	29.96	1層	P-492-SK-435	出土遺物あり	86
493	C	J-11	0.32	0.07	30.68	1層	-		110
494	C	J-11	0.23	0.1	30.7	1層	-		110
495	C	J-11	0.23	0.1	30.7	1層	-		110
496	C	J-11	0.32	-	-	1層	-	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり	110
497	C	J-11	0.3	0.08	30.6	1層	-	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり	110
498	C	J-11	0.3*0.25	0.06	30.6	1層	-	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり	110
499	C	K-11	0.33	-	-	1層	-	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり	111
500	C	K-11	0.25	0.36	30.49	-	SK-419 詳細不明	暗灰色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	85
501	C	J-11	0.3	0.22	30.5	1層	-	東側プラスチック 暗灰色土:ローム粒子含む。白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
502	C	J-11	0.3	0.25*	30.55*	1層	-		82
503	C	K-10	0.25*0.33	-	-	1層	-	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
504	C	K-10	0.32	0.33	30.44	1層	P-505 詳細不明	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
505	C	K-10	0.2*0.4	-	-	1層	P-504 詳細不明	暗灰色土:白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
506	C	K-11	0.24	-	-	1層	-	暗灰色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
507	C	K-11	0.27	-	-	1層	SK-387 詳細不詳	暗灰色土:白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	81
508	C	K-11	0.24*0.2	-	-	1層	-	暗灰色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	111
509	C	K-11	0.4	-	-	1層	-	暗灰色土:白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	111
510	C	K-11	0.54*0.39	0.22	30.56	1層	-		111
511	C	K-11	0.3	0.18	30.6	1層	-	暗黄色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
512	C	K-11	0.3*0.4	東0.15	東30.63	1層	-	暗黄色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
513	C	K-11	0.27*0.43	0.19	30.6	1層	-		111

第3章 確認された遺構と遺物

[図：東西・南北 深さ：遺構断面図 単位：m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	層土	重複	特記	確認
514	C	K-11	0.4-0.28	0.12	30.58	2層	F-514-4-515		111
515	C	K-11	0.26-0.22	0.12	30.58	2層	F-514-4-515		111
516	C	K-11	0.34	0.1	30.62	1層	F-517-4-516		111
517	C	K-11	0.34	0.12	30.6	1層	F-517-4-516		111
518	C	J-K-11	0.2	0.18	30.53	1層	SK-519-4-518		89
520	C	J-11	南0.7 北0.2	-	-	1層	F-521-4-520	2穴 障黄褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	82
521	C	J-11	南0.4-0.36 北(0.1-0.27)	南0.26	南30.49	1層	F-521-4-520	2穴 障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	
523	C	K-10	0.32	0.08	30.6	1層	F-524-4-523		110
524	C	K-10	[0.32]	0.07	30.61	1層	F-524-4-523		110
525	C	K-11	0.4-0.3	0.12	30.62	1層	F-526-4-525		111
526	C	K-11	0.32-0.4	0.09	30.65	1層	F-526-4-525		111
527	C	K-11	0.4-0.3	0.1	30.67	1層	-		111
528	C	K-11	0.27	0.08	30.7	1層	-		111
529	C	K-11	0.36	-	-	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	111
530	C	K-11	0.3	-	-	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	111
531	C	K-11	東(0.27-0.28 西(0.18)-0.4	-	-	1層	-	2穴 障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	111
532	C	K-11	0.24	-	-	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
534	C	K-11	東(0.16)-0.3 西(0.18)-0.44	西0.05	西30.64	1層	-	2穴 障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
535	C	K-11	0.34	-	-	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	124
536	C	K-11	北0.36-南0.36	-	-	1層	-	2穴 障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
537	C	K-11	0.2	0.11	30.68	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
538	C	K-11	0.35-0.26	0.15	30.63	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
539	C	K-11	0.36-0.27	0.18	30.66	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
540	C	K-11	0.32	0.3	30.46	1層	-	障褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
541	C	K-11	0.28	0.3	30.46	1層	-	障褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
542	C	K-11	0.32-0.2	0.05	30.72	1層	-	障褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
543	C	K-11	0.4-0.34	0.05	30.72	1層	-	障褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
544	C	K-11	0.42-0.2-0.3	0.04	30.71	1層	-	障褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
545	C	K-11	0.31前後	0.05	30.72	1層	-	障褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
546	C	K-11	0.28	0.12	30.53	1層	-	障褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	124
547	C	K-11	0.29	0.34	30.31	1層	-	障褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
548	C	K-11	0.36-0.13	0.22	30.43	1層	-	障褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
549	C	K-11	0.37-0.37	0.11	30.54	1層	-	障褐色土・ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
550	C	K-11	0.34-0.25	0.18	30.47	1層	-	障褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
551	C	J-11	0.30前後	0.05	30.7	1層	-	不整形	110
552	C	J-11	0.3-0.35	0.42	30.33	1層	P-548&不明		82
554	C	J-10	0.35	0.47	30.16	1層	-	障黄褐色土・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
555	C	J-11	0.24-0.38	0.23	30.49	1層	-		110
556	C	L-10	0.37	0.23	30.42	1層	-		85
558	C	L-11	0.2	0.1	30.60	1層	-		85

第3節 3次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構断面 単位:m]

ビット	K	グランド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	深さ
559	C	L-11	0.36前後	0.250+	30.485+	1層	-		85
560	C	K-11	0.14	0.12	30.64	1層	-	出土遺物あり	81
562	C	J-11	0.30	0.1	30.6	1層	P-562-I-P-563		110
563	C	J-11	0.28	0.08	30.58	1層	P-562-I-P-563		110
746	A	Q-20	0.54+0.46	0.2	29.66	-	-		74
747	A	Q-20	0.3	0.59	29.01	-	SK-239	やや方形状	76
748	A	Q-20	0.23+0.3	-	-	-	SK-239		76
749	A	Q-20	0.26	0.58	29.02	-	SK-239		76
750	A	Q-20	0.16+0.2	-	-	-	SK-239		76
751	A	Q-20	0.26	0.36	29.24	-	SK-239		76
752	A	Q-20	0.2+0.3	0.46	29.12	1層	SK-239	SP-A-12層	76
753	A	Q-20	0.35+0.32	0.34	29.37	-	SK-239	SK-239埋戻し 2穴からなる 南側穴詳細不明	76
754	A	Q-20	0.16+0.3	-	-	-	SK-239		76
755	A	Q-20	0.16+0.24	0.57	29.03	2層	SK-239	SP-B-7層(北穴径5寸)・8層(柱径5寸)	76
756	A	Q-20	0.32+0.24	0.06	29.54	-	SK-239		76
757	A	Q-20	0.14+0.2	0.42	29.15	2層	SK-239	SP-B-9層(北穴径5寸)・10層(柱径5寸)	76
758	A	Q-20	0.2	-	-	-	SK-239		76
759	A	Q-20	0.27+0.13	-	-	-	SK-239		76
760	A	R-20	0.22+0.3	-	-	-	SK-239-SE-2097		64
761	A	R-20	0.37	-	-	-	SK-214		64
767	A	Q-19	0.24	0.5	-	-	-		72
768	A	Q-19	0.13	-	-	-	-		72
769	A	Q-19	0.26+0.21	-	-	-	-		72
770	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
771	A	Q-19	0.12+(0.16)	-	-	-	-		72
772	A	Q-19	0.29+0.2	-	-	-	-		72
773	A	Q-19	0.22+0.14	-	-	-	-		72
774	A	Q-19	0.08	-	-	-	-		72
775	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
776	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
777	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
778	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
779	A	Q-19	0.1	-	-	-	-		72
780	A	Q-19	0.2	0.25	-	-	-		72
781	A	P-20	0.25+0.32	-	-	-	-	2段に厚の差がある	72
782	A	P-20	0.26+0.24	-	-	-	P-783	P-783と新旧関係等不明	75
783	A	P-20	0.36+0.22	0.6	29.00	-	P-782	P-782と新旧関係等不明	75
784	A	P-20	縦2.1+0.3 径0.3	径0.3 底0.6	底28.93	2層	SK-226+227	SK-226+227より後に埋没 関連不明 2穴からなる 中段面に1層が厚積 中段は掘り直し	75
785	A	P-20	0.22	0.45	29.15	1層	SE-213		102
786	A	P-20	0.43	0.43	-	-	-		122

第3章 確認された遺構と遺物

[注：東西・南北 深さ：遺構確認面 単位：m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	層土	重複	特記	坪図
787	A	P-19	0.37	0.9	-	-	-	詳細不明	122
789	D	I-9	0.4-0.22	0.9	-30.10	-	-	大き25D-14底面 深さ推定	125
790	D	H-8	0.38-0.22	-	-	-	-	大き25D-14底面	125
791	D	G-6	0.32-0.4	0.09	31.01	-	-		125
792	D	H-8	0.2	1.13	29.87	-	SD-13	SD-13底面から西壁 底面からの深さ0.13m	125
793	D	H-8	0.16	-	-	-	SD-13	SD-13東壁	125
794	D	H-8	0.14前後	-	-	-	SD-13-P-795	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
795	D	H-8	0.2-0.24	0.98	30.02	1層	SD-13-P-794	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
796	D	H-9	0.3前後	0.63	30.37	-	SD-13	SD-13西壁 不整形	125
797	D	H-8	0.2	-	-	-	SD-13	SD-13西壁	125
798	D	H-8	0.33-0.38	0.76	30.24	-	SD-13	SD-13東壁	125
799	D	H-8	0.2-0.36	0.4	30.60	2層	SD-13	SD-13東壁 遺構確認面付着	125
800	D	H-8	0.27-(0.35)	-	-	-	SD-13-P-801	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
801	D	H-8	0.26-0.3	0.64	30.36	-	SD-13-P-800	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
802	D	H-9	0.22-0.32	-	-	-	SD-13	SD-13東壁	125
803	D	G-8	0.15	0.34	30.70	1層	SK-275内	SK-275より新しい、やや斜方向に掘り込まれる	125
804	D	G-7	0.21前後	0.43	30.57	-	-		125
807	C	J-11	0.23前後	-	-	-	-		124
812	C	J-10	0.28前後	-	-	-	SK-461	SK-461重複 詳細不明	88
813	C	J-11	0.3	0.05	30.69	-	SK-457	SK-457重複 詳細不明	88
815	C	J-11	0.15	0.24	30.48	-	SK-814	SK-814重複 詳細不明	88
816	C	J-11	0.15	-	-	-	P-817	P-817重複 詳細不明	88
817	C	J-11	0.2-0.15	-	-	-	P-816	P-816重複 詳細不明	88
819	C	J-11	0.4	0.07	30.65	-	-	不整形	88
820	C	J-11	0.5-0.3	0.03	30.75	-	-	三角形状	110
821	C	J-11	0.24-0.38	-	-	-	-		110
822	C	J-11	0.16-0.24	0.14	30.58	-	-		110
823	C	J-11	0.15	-	-	-	-		110
824	C	K-11	0.3	-	-	-	-		111
825	C	K-11	0.3	0.26	30.52	-	-		111
826	C	K-11	0.32	0.08	30.70	-	-		111
827	C	K-11	0.2-0.12	-	-	-	-		111
828	C	K-11	0.32	0.14	30.64	-	P-829	詳細不明	111
829	C	K-11	0.25前後	-	-	-	P-828	詳細不明	111
830	C	K-11	0.31-0.23	-	-	-	SK-440-441	詳細不明	96
832	C	K-11	0.3	-	-	-	SK-419-420	詳細不明	85
833	C	K-11	0.5-0.25	0.05	30.67	-	SK-419	詳細不明	85
834	C	K-11	0.2-0.4	0.07	30.65	-	SK-419	詳細不明	85
835	C	K-11	(0.22)-0.22	(0.15)	(30.62)	-	SK-420	詳細不明	85
840	C	K-12	0.35	0.4	30.20	-	-	遺構確認面不整形・底面三角形状 北側区外	87

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	施設
842	C	K-11	0.27×0.16	0.43	30.14	1層	SX-841→P-842→ SK-484		87
847	C	J-11	0.3	0.11	30.65	—	—		82
848	C	J-11	0.24×(0.24)以上	0.30	30.47	—	P-552 詳細不詳		82
849	C	J-12	[0.4]	0.18	30.52	—	—	西・南側区外	82
850	C	J-12	0.45×0.53	0.33	30.37	—	SK-409 詳細不詳		82
851	C	J-12	0.24×0.2	—	—	—	SK-409 詳細不詳		82
853	B	L-13	0.25	0.15	30.66	—	SK-372 詳細不詳		67
854	B	L-13	0.16×0.32	0.13	30.92	—	SK-328 詳細不詳		67
855	B	L-13	0.23	—	—	—	SK-328 詳細不詳		67
856	B	M-13	0.4	0.3	30.7	1層	—		67
857	B	M-13	0.36×0.27	0.25	30.76	—	—		67
858	B	M-13	0.08	—	—	—	—		67
859	B	M-13	0.4×0.24	—	—	—	—		67
860	B	M-13	0.4×0.33	0.4	30.6	—	—		67
861	B	M-14	0.36	0.28	30.44	—	P-862 詳細不詳		94
864	B	N-15	全長0.4 北0.24 中0.18 南0.2	北0.1 南0.19	北30.26 南30.19	北1層	—	3穴、南が深い	83
866	B	N-15	0.45×0.53	—	—	—	—		83
867	B	M-16	0.17	表土下 0.13	30.11	1層	SK-351 詳細不明	SK-351は付属層か	80
868	B	M-16	SK-340底面0.14	0.32	30.08	1層	SK-346→P-868		80
869	B	M-16	SK-347底面0.17	0.17	30.21	1層	SK-347→P-869		80
870	B	N-15	0.2	0.1	30.40	1層	SX-334 詳細不詳		80

7. 性格不明遺構

(1) 調査の概要

性格不明遺構は2基が確認される。B区1基、C区1基である。

B区SX-491は3土坑の重複の可能性が残る。

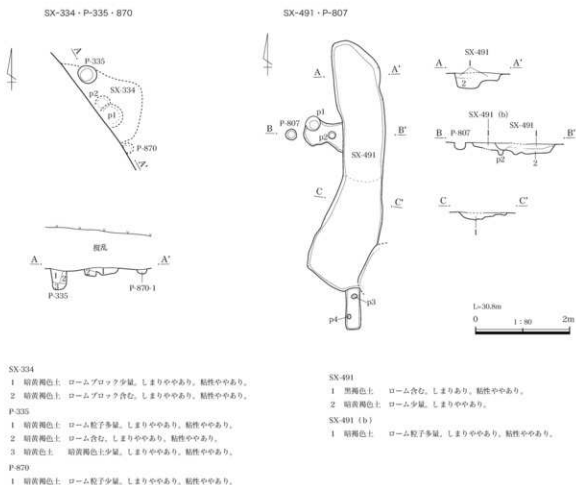
C区SX-334は攪乱下に確認される。現地調査では図中破線で示した方形の範囲内を掘り下げることができ、セクション図のとおり、地山であるローム面の露出がみられる。SX-334p1・2としたピット状の掘り込みのみが遺構か。また、P-870については、現地調査ではSX-334と同じ遺構番号が付されるが、掘り込みの範囲外であり、別番号を付した。

(2) 性格不明遺構

第334号性格不明遺構 (SX-334) (第112図)

位置 B区N-15グリッドに位置する。**重複関係** P-335とは不詳である。**形状・規模・主軸** 攪乱下の東西(1.6)m・南北(1.2)mの方形の範囲を示す。遺構確認面において地山であるローム面の露出がみられ、方形の範囲内が遺構であるか判断としない。セクション図からp1・2が推定される。p2→p1の順に掘り込まれる。p1は径[0.5]m・深さ約0.16m・レベル30.37mであり、覆土1層が堆積する。p2は径[0.28]m・深さ約0.18m・レベル30.34mであり、覆土2層が堆積する。**遺物出土状況** 出土

第3章 確認された遺構と遺物



第112図 第334・491号性格不明遺構・第335・807・870号ピット実測図

遺物は確認されない。

第491号性格不明遺構 (SX-491) (第112図)

位置 C区J・10・11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。西壁中央部・南東隅部が突出するが詳細は不明である。遺構の主軸・深さなどから、遺構北半(a)・遺構南半(b)・遺構南東隅部(c)の3土坑の重複の可能性も考え得る。底面の全長(突出部を含まず)東西0.9~1.4m・南北5.45m、主軸N-2°-Eである。概ね磁北に平行する。西壁突出部底面の東西(0.8)m以上・南北0.32~0.6mである。南東隅突出部底面の東西0.14m前後・南北(0.86)m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12~0.58m、レベル30.12~30.58mである。西壁突出部の深さ0.08~0.15m、レベル30.62~30.55mである。南東隅突出部に深さ0.09m前後・レベル30.61前後である。**覆土** 2層が確認される。**付属施設** p1~4が穿たれる。帰属等詳細は不明である。p1・2は西壁突出部、p3・4は南東隅突出部に確認される。p1は径約0.3m、遺構確認面からの深さ約0.13m、遺構床面との段差は僅かか。レベル30.57mである。p2は径約0.15m、遺構確認面からの深さ約0.46m、遺構床面からの深さ約0.08mである。p3は径0.9m前後、p4は径0.04m前後であり。**特記事項** a・b・cである場合の詳細配下のとおりである。aの底面の東西[3.0]m・南北0.8m前後、深さ0.21~0.26m、レベル30.44~30.49m、主軸N-2°-Eである。概ね磁北に平行する。

bの底面の東西1.1m前後・南北(1.3)m以上、深さ約0.12m、レベル30.58m、主軸N-22°-Eである。
cは深さ約0.58m、レベル30.12mであり、bを掘り込む状況にある。さらに東側に延びる可能性が残る。

遺物出土状況 出土遺物は確認されない。

8. 3次調査遺構外出土遺物

(1) 調査の概要

遺構確認面上や攪乱など遺構外から出土した遺物は402片である。土器類116片、石製品・礫24片、陶磁器242片、鉄製品11片、鉄滓6片、製鉄関連遺物3片、銭貨5点である。

D区攪乱(SD-14内・SK-272付近)からの出土遺物は、近世後半以降の器壁の浅い内耳土器や染付を主体に、須恵器、工業化製品の出土も確認され、溝状遺構等の遺構外出土物の構成と似る。

留意された出土遺物は以下のとおりである。

D区SD-14内攪乱出土の小片は、不掲載としたが、茶入れの可能性が考えられる。内面に円形のかき分けを施す陶器鉢は、SD-13・D区・もう一つありに別個体の類似品が出土する。

灰釉に鉄軸を竊状に施す碗類もD区表採・D区SD-14内攪乱不掲載等、出土割合は高い。

D区SK-272付近攪乱から出土する第113図-19施軸陶器小型壺片、D区一括不掲載の施軸陶器壺類部片(産地不明)の内面に漆の付着が観察される。

(2) 遺構外出土遺物(第113・115・120・121図 表88・90・94 図版一六)

【A区】

A区からは鉄製品3片が出土する。詳細は不明である。表90に記載する。

【B区】

B区からは、土器類22片、石製品・礫14片、陶磁器39片、鉄製品2片、鉄滓3片が出土する。北西部の攪乱穴、西部の攪乱穴からの出土が多い。ガラス等の20世紀の工業製品も出土する。

土器類は、第114図-9・10・12・14・15の他17片が出土する。9・10は須恵器裏小片。9は櫛描波状文が施される。12は土師質土器小皿。14・15は瓦質土器手焙りか。

図示し得なかった17片は、須恵器3片、内耳土器12片、瓦質土器鉢鉢2片である。須恵器は環口縁部1片(ロクロ成形)・裏体部片2片(うち1片は外面自然軸か)、内耳土器は口縁部3片(胎土C2片(器高3.0cm前後)・D1片)・体部7片(胎土C2片・D5片)・体~底部2片(胎土D)、瓦質土器は鉢鉢2片(描り目重複)である。

石製品・礫は、第114図-1~3・6・7の他、9片が出土する。1~3は砥石である。6・7は白色の小礫であり、碁石の可能性が考慮される。図示し得なかった9片は、砥石小片1片、小礫4点、破砕礫小片4片である。小礫のうち1点は扁平な円形状である。

陶磁器は、第120図-21の他、陶器16片、磁器22片が出土する。21は天目碗か。詳細は判然としない。肩部に張りがあるか。近世前半か。特徴の似た体部1片・底部1片が出土するが、内面は褐色釉である。

陶器は、無軸の裏類口縁部3片、灯明皿とみられる1片、碗・皿類とみられる5片、香炉1片、瓶類1片、鉢鉢1片、鉢類1片、微細片1片が出土する。灯明皿は耳部を欠損する。内面から外面口縁部を施軸する。碗皿類は内外面柿軸1片、内面灰釉・外面柿軸1片、内外面灰釉1片、内面灰釉・外面鉄軸の底部1片、内面灰釉・外面無軸部底部1片である。香炉は内面口縁部~外面に灰釉を施す。器壁は薄い。瓶類は内面無軸・

外面柿軸の徳利とみられる1片である。摺鉢は体部1片であり、摺り目は重複、内面は施軸される。鉢類は内外面に柿軸を施す。何れも近世後半以降か。

磁器は碗類4片、皿類10片、瓶類2片、器種不明微細片6片であり、何れも染付である。近世後半とみられる碗類1片・皿類1片である。碗類は内面見込みに文様を配する。判然としなが「寿」か。肥前系である。皿類は内面見込みに五弁花文、外面底部に渦巻き状の文様を配する。肥前系か。近世後半以降とみられるのは碗・皿類微細片3片、器種不明微細片6片、瓶類1片であり、何れも染付である。碗・皿類は内面に二重格子を描く1片、内面に花状の文様を描く1片、外面に菊花文を描く1片である。何れも産地不明。瓶類はつる首形。肩部に半菊文状の文様を施す。肥前系か。近世後半～近代初頭とみられるのは小碗類の1片である。外面に笹や千鳥状の文様を簡素に施す。産地不明。近代以降とみられるのは、碗・皿類4片、瓶類1片であり、何れも染付である。碗・皿類は半菊文状の文様1片・蛸唐草1片・文様不詳2片である。産地不明。瓶類はつる首形の首部か。蛸唐草を施す。プリントの染付を施す碗・皿類4片は近代以降、20世紀の工業製品か。

鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。

【C区】

C区からは、石製品・礫3片、陶器5片、磁器4片、鉄製品1片、鉄滓1片、銭貨1点が出土する。その他、工業化製品とみられる磁器7片が出土する。

石製品・礫は、小礫3点が出土する。うち1点は表面滑らかで光沢を持つ。

陶器は、皿類2片、耳付き皿片（耳部欠損）1片、甕類（内面柿軸・外面柿軸に鉄軸が垂下）1片、器種不明体部（内面無軸・外面灰軸）1片である。何れも近世後半以降か。皿類は、内外面灰軸1片、内外面灰軸、内面重ね焼痕、外面底部無軸である。

磁器は、近世後半以降の染付片2片、近代の染付の微細片2片が出土する。近世後半以降の2片は、肥前系の碗類・産地不明の碗類である。近世後半以降の近世微細片のうち1片は印半手。内面環珞文、外面の文様不詳。瀬戸・美濃系か。残る1片は文様不詳。産地不明。

第115図-5は「寛永通宝」である。鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。

【D区】

SD-14内の掘乱穴、D区北東部SK-272付近の掘乱穴、D区南東部SK-321・322付近の掘乱穴、D区内から遺物が確認される。

・SD-14内の掘乱穴

須恵器1片、陶磁器63片、銭貨1点が出土する。その他、ガラス片等20世紀の工業製品が出土する。

土器類は第114図-11の須恵器壺か。8世紀後半以降か。第115図-4は「文久永宝」、第115図-5は「寛永通宝」である。

陶器は43片が出土する。

近世後半以降とみられる破片は30片が出土する。第114図-16は灯明皿。内面の一部、外面にススが厚く付着する。第120図-22は鉢類。SD-13・D区出土と同種であるが、底面等に違いがみられる。碗類は3片が出土する。1片は小丸碗。内外面に灰軸を施す。底部無軸。2片は半筒型で、内面灰軸・外面灰軸に鉄軸を筒状に施す。灯明皿片1片は耳部が欠損する。折縁皿片1片は灰軸を施し、外面は呉須で絵付けか。皿類は2片が出土する。内外面白濁色軸の口縁部1片、内面灰軸・底部無軸部の1片である。内面柿軸・底部無軸で底部回転系切りの底部小片は茶入れの可能性があろうか。香炉片は6片が出土する。3片は同一個体

か。外面黄褐色釉。口縁部上端は受け口状。2片は外面に灰釉を施す体部片。このうち1片は内面にスガが付着する。1片はうのふ軸を施すか。内面にスガが付着する。播鉢1片は14本或いは7本以上一組の播り目を施す。内外面褐色釉を施す。鉢類は3片が出土する。1片はSD-13等と同種で、内面に円形のかき分けを施す。2片は播り鉢状に開く器形で内外面に灰釉を施す。内面にトチンが残る。瓶類は徳利とみられる1片が出土する。外面柿軸。内面はハケで柿軸を施すか。鉢類は手焙りとみられる6片が出土する。5片は同一個体か。内外面とも褐色釉をハケ塗りか。1片は内面斑な褐色釉・外面褐色釉。甕類は3片が出土する。寸胴形の1片は内外面に褐色釉。甕口縁部は内外面に柿軸を施す。1片は常滑産の体部か。

近代以降とみられる破片は13片が出土する。

碗類は筒型1片が出土する。内面～外面口縁部黒褐色釉・外面平行する刺突列を帯状に配し灰釉を施す。碗・皿類は3片が出土する。体部黄褐色釉の1片・内面灰釉・平行叩き状の刺突後灰釉を施す体部1片・白濁色釉の底部1片である。白濁色釉の底部片はガラス化が顕著である。瓶類は7片が出土する。5片は同一個体か。肩部の張る壺形の可能性も残る。内面無軸・外面薄いオリーブ軸。その他、内面無軸・首～肩部片褐色釉、体部灰釉の器壁0.2cm前後の1片、内面無軸・外面柿軸の体部片1片である。蓋とみられる1片は、内面無軸・外面透明釉で西洋須貝で文字或いは文様か。0.2cmほどの焼成前の小孔と中央部つまみとみられる欠損部が観察される。器壁は極めて薄い。急須の蓋か。

磁器は染付23片が出土する。肥前系とみられる6片のうち、近世後半2片、近世末葉1片、近世後半以降3片か。近世後半の2片のうち、1片は丸碗片。見込みに五弁花文を配する。1片は半筒碗片。見込みにダミで五弁花文を配する。近世末葉の1片は広東碗片か。見込みに文様を付すが判然としない。近世後半以降の3片は口縁部1片、体部2片。産地不明の11片のうち、近世後半以降2片、近代以降9片か。近世後半の2片は皿類か。1片は内面にカゴメ文を配する口縁部片、1片は見込みに文様を配す判別は難しい。底部は蛇の目高台か。近代以降とみられる9片は手書き6片、印判手3片である。手書きの6片は蓋、盃、半筒碗、徳利、瓶類か。何れも文様不詳。印判手は、内面瓔珞文・外面文様不詳の口縁部1片、内面見込み松竹梅文・外面松葉文とみられる碗類1片、内面見込み松竹梅文の碗類底部片1片、残る瓶類3片は銅板か。唐草文に世を配する1片はやや角張るか。2片は徳利板か。1片は雷文と菱形文を帯状に配する。菱形文内部は松葉等が充填される。1片は雷文を帯状に配する。

・SK-272 付近の攪乱穴

須恵器1片、内耳土器1片、石製品1片、陶磁器26片、鉄滓1片が出土する。須恵器はロクロ成形の壺類体部か。三倉古窯跡群産か。内耳土器は第114図-13が出土する。石製品は第114図-5の砥石片が出土する。陶器は15片が出土する。第114図-18は近世中期とみられる徳利片。美濃系か。19は近世後半の壺か。美濃系か。内面に漆膜が付着する。漆の流通に利用か。

13片は近世後半以降とみられる。蓋は2片が出土する。無軸のつまみ付きの蓋は、下面に回転系切り痕を残し、二文字の筆書きが施される。無紐の1片は内面無軸・外面灰釉。蓋ではない可能性も残る。大丸碗1片は内～外面上半灰釉・外面下半～底部鉄軸。碗・皿類は2片が出土する。内外面に灰釉を施す体部片、内外面の所々に灰釉が付着する底部片である。底部片の内面は重ね焼きの無軸部、底面は無軸の蛇の目高台か。皿類は2片が出土する。折縁皿1片・輪花皿1片であり、何れも内外面に灰釉を施す。瓶類は3片が出土する。何れも内面無軸。1片はつる首形の首部か。緑褐色釉。1片は黒褐色釉の体部片。1片は柿軸を施す、器厚0.2cm前後体部片。播鉢1片は無軸か。10本一組の播り目を密に配する。内面は自然軸か。鉢類は底部1片か。内面褐色釉・底部無軸。内面はトチンが残る。器種不明1片。内外灰釉の器厚1.4cm前後の体部片。

磁器は染付11片が出土する。

近世後半以降とみられるのは肥前系3片・産地不明6片である。肥前系の小型の御神酒徳利は五弁花文と竹笹文を対角面に配する。近世後葉か。肥前系の皿類1片はSD-373不掲載の皿と同形・同柄か。内面に重ね焼きの無軸部を残す。内面に簡素な文様を付す。肥前系の皿・鉢類は高台に一重圓線を施す底部片。産地不明の丸碗は草花文か。底部に文様付すが判別は難しい。産地不明の半筒碗は2片。笹文とみられる1片、内面に圓線を配する1片である。碗類は3片内面に圓線を施す。このうち1片は外面に草花文か。近代とみられる皿類1片は西洋兵須でダミタ文様を付す。1片は赤褐色釉を帯状に配する。近代以降か。

鉄滓は表92に記載する。

・SK-321・322付近掘乱穴

第114図-8須恵器裏口縁部片の他、磁器染付2片が出土する。産地不明の碗類微細片である。何れもダミタ文様が施される。近世後葉以降か。

・D区

D区からは、土器類15片、石製品1片、陶磁器70片が出土する。この他、工業製品とみられる磁器類・ガラスが多数出土する。

土器類は、15片が出土する。須恵器1片、土師質土器1片、内耳土器13片である。須恵器は坏口縁部片であり、ロクロ成形。土師質土器は体部片。内耳土器は口縁部4片（胎土C3片・D1片）・体部11片（胎土C7片・D2片）である。

石製品1片は、図示し得なかったが砥石片である。方形状の隅部1箇所が残る。近・現代か。

陶磁器は、陶器39片、磁器31片が出土する。

陶器は無軸3片、施軸17片が出土する。何れも近世後半以降か。

無軸の破片は、裏頸口縁部、播鉢口縁部・底部である。播鉢底部の見込みは同心円状の播り目内部に平行線の播り目を配する。

施軸の破片は、第114図-17・20・21・22、第115図-23・24の他、灯明皿片1片、鉢類7片、壺類1片、襖類2片・播鉢2片が出土する。灯明皿は耳部を欠損する口縁部微細片。鉢類は内外面灰釉の体部3片・内面オリブ釉でトチンの残る底部片1片・内外面褐色釉の微細片3片である。壺類は濃いオリブ色釉の体部小片であるが、第120図-19同様、内面に漆膜の付着がみられる。産地は不明である。襖類は内外面褐色釉の体部片、内面無軸・外面褐色釉の底部片である。播鉢は口縁部2片である。20に似るが接合せず、詳細は不詳である。

磁器は第121図-26の他、31片が出土する。26は印判手の皿。瀬戸・美濃系か。

肥前系とみられる染付破片は5片が出土する。近世後半とみられる破片は皿2片。1片は内面「寿」と松葉を組み合わせた文様か。見込みに五弁花文を付す。外面は唐草文。底部は「満福」と「寿」を組み合わせるか。1片は内面見込みに松竹梅文を付す。近世後葉とみられる破片は小型の御神酒徳利片。外面は松竹梅文か。近世後半以降とみられる破片は丸碗片。外面に簡素な文様を付す。近世後葉～近代初頭とみられる破片は丸碗片。草花文か。底部に文様を付すが不詳。

産地不明の染付破片は19片が出土する。近世後半とみられる破片は丸碗片。内面見込みの文様が僅かに残る。外面は蕨芝文か。近世後半以降とみられる破片は丸碗片2片、半筒碗1片、皿類1片である。丸碗片は内面四方薄文の1片、外面笹竹文の1片。半筒碗は菊花文。皿類は輪花文。内面に兵須がみえるが文様不詳。近世末葉～近代初頭とみられる破片は蓋1片、皿1片、碗類1片、碗・皿類1片、瓶類1片である。蓋は放

射状の染付を施す。皿は内面笹竹文・外面唐草文。唐草文は間延びする。碗類は内面四方禪文。碗・皿類は草花文か。瓶類は僅かな文様が見える。近代以降とみられる破片が、皿類1片、碗・皿類8片である。皿類は、西洋呉須をダミで描く文様間に淡緑色を施す。

印判手は第121図-26と皿類2片、碗・皿類2片、銅版摺り皿類3片が出土する。皿類2片は同一個体とみられる。内面微唐草に栗・紅葉を配す地文に丸文を配する。丸文内部は重むろを中心に青海波を配する。碗・皿類は、内外微唐草文の口縁部片、内面微唐草文に菊花、瓢を配する。瓢内部は文書体。銅版摺り皿類は、内面連弁に草花文（或いは桐か）、唐草を配し外面無文の小片。内外面微唐草文の微細片。内面無文・外面文様不詳の微細片。

【D-2区】

D-Ⅱ区からは土器類21片、陶磁器7片が出土する。

土器類は、土師質土器2片、内耳土器18片、瓦質土器1片が出土する。土師質土器は土師器長胴狭口縁部片か。内耳土器は体部10片（胎土C3片・D7片）・底部8片（胎土C5片・D3片）である。

陶磁器は、陶器3片、磁器4片が出土する。

陶器は、甕類口縁部片・体部片、外面柿軸とみられる碗類片である。

磁器は、近世末葉以降とみられる碗類3片、近代以降とみられる1片である。

【3次調査区】

3次調査区からは、土器類54片、石製品・礫5片、製鉄関連遺物3片、陶器15片、磁器11片、鉄製品4片、鉄滓3片が出土する。

土器類は、土師質土器小皿33片、内耳土器20片、土製品1片が出土する。土師質土器は何れもロク口成形。口縁部6片・体部21片・底部6片。底部は回転糸切り未調整。内耳土器は口縁部5片（胎土C）・体部14片（胎土C7片・D7片）・底部1片（胎土C）である。

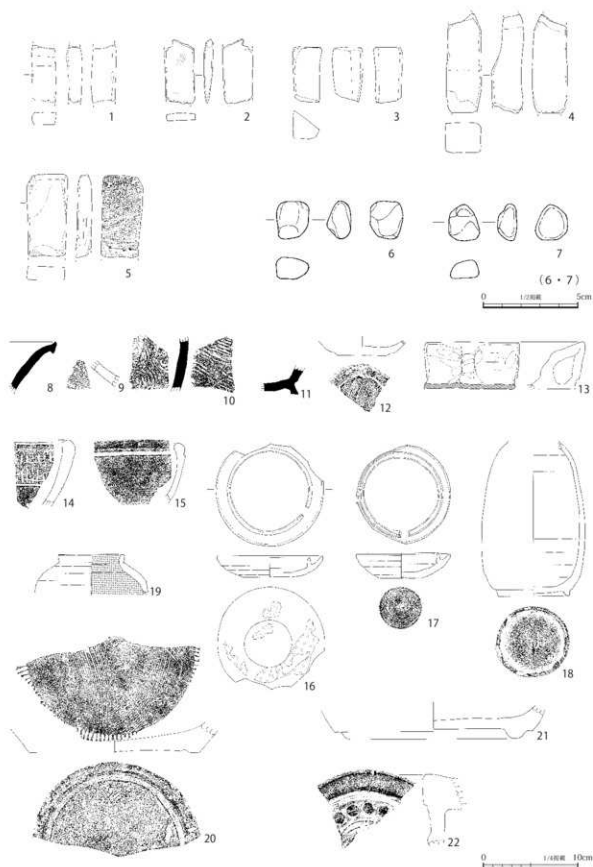
石製品・礫は、第114図-4の他、5片が出土する。4は砥石である。図示し得なかった5片のうち1点は表面滑らかで光沢を持つ。

鉄関連遺物は、羽口とみられる筒状の土製品3片が出土する。何れもガラス質溶解等は観察されない。

陶器は15片が出土する。第120図-28は志野様式。美濃系。器種は判然としない。近世後半以降とみられる破片は、甕類2片、皿類1片、鉢類1片、香炉1片、微細片8片である。甕類は口縁部である。うち1片は透明釉がかかる。皿類は内外面に灰釉を施す口縁部。鉢類は白濁色釉がかかる体下部である。香炉は口縁部から外面に灰釉を施す。筒型。微細片は詳細不明。内外面柿軸の器壁の薄い体部片、内外面暗褐色釉の体部片、内面灰釉の口縁部片2片・体部片2片・底部片1片、内面灰釉・外面無釉の体部1片である。近代以降とみられる1片は工業製品の碗類か。

磁器は9片が出土する。第120図-19は青磁微細片。龍泉窯系の鎔連弁文か。25は半筒碗か。SD-374出土不掲載遺物のうち、肥前系の1片と同柄か。SD-374の破片は四方禪を意図したとみられる帯状の斜格子文に花菱状の文様を配するが、本遺物は対角線上の短い線4本が描かれる。近世後葉か。近世後半以降とみられる破片は2片であり、肥前系か。1片は筒型の碗類の体下部微細片は染付を施すが詳細不詳。1片は詳細不明の微細片。近代以降とみられる破片は2片であり、西洋呉須の染付である。1片は蓋片でダミで桐を描くか。1片は丸碗類でダミで松を描くか。碗・皿類微細片2片は詳細不明であるが、無文の口縁部1片、底部とみられる1片である。仏しょう具（花立て）とみられる3片は工業製品か。

鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。



第113図 遺構外出土遺物実測図

表 88 遺構外出土遺物観察表

番号 品類	寸法	特徴	色調	出土 状況	残存 状況	備考
1 磁石	長:6.1 厚:1.7 幅:3.6 重:34.34	両端は欠損 磁石は残存する4面。主磁面は表・右側面 表面、裏面に傾斜する。	表裏 黄褐色	瓦葺居	磁石欠損	05483 9330付近110F
2 磁石	長:9.9 厚:1.9 幅:3.2 重:28.45	同上。主磁面欠損。下磁面欠損。 磁石は表裏・右・両側面の4面。主磁面は表裏のみ 欠損する。	表裏 濃い黄褐色	軽石層瓦葺	欠損小	05483 9330付近 47 110F
3 磁石	長:5.8 厚:1.3 幅:3.2 重:45.25	下方欠損。磁面、2角部欠損で使用小。 磁石は残存する4面。	表裏 暗褐色	瓦葺居	磁石欠損	05483 9333F
4 磁石	長:10.3 厚:1.4 幅:3.7 重:178.48	上部磁面欠損。下磁面は3面に残存 磁石は残存する3面小。主磁面は表・裏面 面。裏面は磁面、下磁面欠損。 裏面、左側面。上部磁面に傾斜。裏面の磁面とする。	表裏 濃い黄褐色	瓦葺居	磁石欠損	05483
5 磁石	長:6.8 厚:1.7 幅:4.3 重:99.88	下方欠損する。磁面は表・両側面の3面に欠損 磁石は上部面を欠き表面。上部磁面は平行する線状磁 面。下部磁面は平行する。	表裏 灰色	和瓦葺	磁石欠損	05483 9327付近41F
6 磁石 磁石小	長:2.0 厚:1.3 幅:1.7 重:5.46	白色。小磁 表面 磁石小で表裏あり	表裏 淡黄色	石瓦	欠損	05483 9330付近17F
7 磁石 磁石小	長:1.9 厚:1.0 幅:1.6 重:3.85	白色。小磁 表面 磁石小で表裏あり	表裏 淡黄色	石瓦	欠損	05483 9330付近17F
8 鉄器 鍔	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	コソナダ	内外 黄灰色	新巻器・土師器 口径:1.2-1.7 底径:1.1	小片	05483 321-322付近37F
9 鉄器 鍔	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	外周 6本線の縞線状文か	内 黄灰色 外 暗灰色	新巻器・土師器 C群:1-2-7 底径:1.1	小片	05483 9330付近17F
10 鉄器 鍔	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内 同心円状文で表裏 外 平行筋か	内 灰黄色 外 濃い黄褐色	新巻器・土師器 B群:1-2-6 底径:1.1	小片	05483 9333F
11 鉄器 鍔小	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	コソナダ。底面、両側ヘラナダ 底面 磁石にコソナダ磁石を付す	内外 灰ナリゾロ色 底面 新巻器・土師器 B群:1-2-4 底径:1.1	小片	05483 9333F	
12 土師質土師 土師	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	コソナダ上打 底面 磁石を貼付	内外 濃い黄褐色	土師質土師群 底径:1.1	小片	05483 9333F
13 内瓦土師 土師	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内 コソナダ。内瓦は底面・側面 外 底面はコソナダ 底面:ヘラナダ 底厚:0.5	内 黄褐色 外 濃い黄褐色 底面 黄褐色	瓦質土師C群 底径:1.1	3/8以下	05483 9327付近37F
14 土師質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内瓦土師。底面・側面 底面:コソナダ	内外 黄褐色	瓦質土師A群 底径:1.1	小片	05483 9333F
15 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内 コソナダ 外 底面は底面 底面:底面	内 赤褐色 外 黄褐色	瓦質土師群 底径:1.1	小片	05483 9333F
16 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内瓦土師。底面・側面 底面:コソナダ	内 赤褐色 外 黄褐色	瓦質土師群 底径:1.1	口縁部	05483 9334付近37F 南から
17 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	1→底面はコソナダ。底面は底面 底面:底面	内 赤褐色 外 黄褐色	瓦質土師群 底径:1.1	口縁部	05483 9333F
18 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内 無紋 外 底面 底+磁石 底面:底面:ヘラナダ	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土師群 底径:1.1	1/2	05483 9327付近41F
19 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内 底面の底+黄褐色磁石 磁石は底面から上りし付着 外 黄褐色	内 黄褐色 外 黄褐色	瓦質土師群 底径:1.1	小片	05483 9327付近41F
20 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	底面は底面から上りし付着 外 黄褐色	内 赤褐色 外 オリーブ褐色	陶器群 底径:1.1	小片	05483 9333F
21 瓦質土師 鉢	口径:1.1 底径:1.1 底厚:0.5	内 コソナダ。底面は底面から上りし付着 外 黄褐色	内 赤褐色 外 黄褐色	瓦質土師群 底径:1.1	小片	05483 9333F
22 瓦	長:7.5 厚:4.8 幅:10.9 重:143.47	文様不詳	表 暗灰色 裏 黄褐色	中巻磁器	小片	05483 9333F

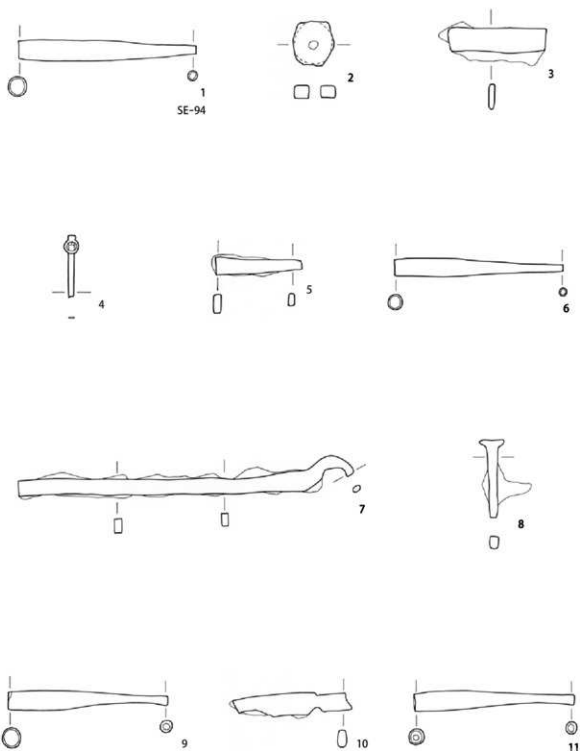
第4節 金属器・鉄滓・陶磁器

1. 金属器

2次・3次調査において出土した金属器を一括する。

2次調査区からは、鉄製品34片、銅製品4片、銭貨7片が出土する。3次調査区からは、鉄製品49片、銅製品5片、銭貨6片が出土する。鉄製品は種別・時期等に判別が明瞭でない小片が多い。銅製品は、2次調査区から出土する飾り金具状の1片以外は煙管である。銭貨は唐代とみられる渡来銭から「文久永宝」など近世後半に流通する銭貨までが確認される。詳細不明の2片を除き、ほぼ完存するものが多いが、脆弱である。各々の出土状況等は各遺構に記載する。

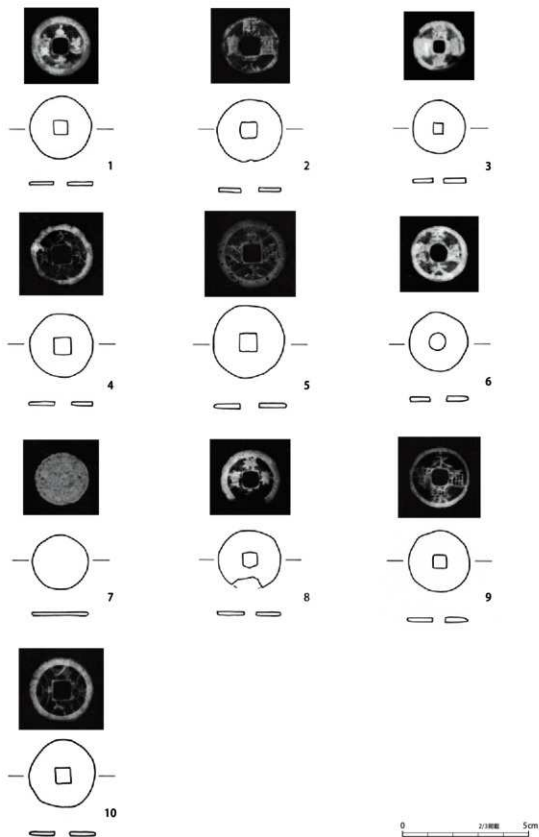
金属器



第114図 金属器実測図

0 1/2(縮) 5cm

古銭



第 115 図 古銭実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 89 2次調査区出土金属器観察表

種別	番号	調査区	区	遺構	金属	種別	長さ	幅	厚	重	特記事項
		2次	Ⅱ-2	SK-705	鉄	目釘か	2.9	3.4	2.0	7.89	地下式孔
115	1	2次	Ⅱ	SK-24	銅	鏡貨	2.4	2.4	0.1	2.75	「至道元定」 方形鑿穴遺構
115	3	2次	Ⅱ-1	SK-37	銅	鏡貨	2.1	2.1	0.2	2.97	「洪武遺宝」
		2次	Ⅱ-1	SK-43	鉄	刀子か	1.3	2.5	0.6	2.12	
		2次	Ⅱ-1	SK-47	鉄	釘か	2.6	1.1	1.0	2.31	
		2次	Ⅱ-1	SK-47	鉄	釘か	4.1	0.6	0.5	1.43	
		2次	Ⅱ-1	SK-47	鉄	釘か	3.0	2.6	2.5	10.34	
		2次	Ⅱ	SK-51	鉄	釘か	4.8	1.5	1.3	8.41	
		2次	Ⅱ-3	SK-86	鉄	釘か	2.5	1.0	0.7	1.76	遺部 形状不明
		2次	Ⅱ-3	SK-86	鉄	釘か	2.6	1.1	0.8	1.63	
		2次	Ⅱ-3	SK-86	鉄	不明	8.2	1.7	1.2	29.60	棒状
114	3	2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	刀子か	4.6	1.4	1.3	8.12	
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	釘か	3.9	1.3	1.0	5.72	
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	釘か	2.8	1.4	1.1	3.76	
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	釘か	4.2	1.2	1.0	6.18	
114	2	2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	不明	2.6	2.6	0.7	5.32	円盤状 小孔あり
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	不明	4.9	2.2	1.7	21.73	棒状
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	不明	6.5	3.3	1.2	19.41	板状
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	不明	12.2	2.3	1.3	80.40	かすがいの楎びたものか
		2次	Ⅱ-3	SK-94	鉄	不明	—	—	—	—	板状
114	1	2次	Ⅱ-3	SK-94	銅	煙管	9.3	1.1	1.1	15.00	
		2次	I	SK-104	鉄	釘か	3.9	1.2	0.8	3.50	
		2次	I	SK-104	鉄	釘か	2.5	2.0	1.7	6.78	
		2次	I	SK-104	鉄	釘か	4.6	1.8	1.9	11.20	
		2次	Ⅱ	SD-19	銅	鏡貨	—	—	—	—	「元豊遺宝」 銅片6片
		2次	Ⅱ	SD-19	銅	鏡貨	1.7	1.7	0.1	0.89	ニッケル鏡貨 一銭
114	4	2次	Ⅱ	SD-19	銅	飾り金具か	3.3	0.7	0.6	1.03	
		2次	I	遺構外	鉄	不明	9.9	2.0	1.2	23.14	棒状 フィルム47・63接合
		2次	I	遺構外	鉄	釘か	4.4	2.0	1.4	15.03	棒状
		2次	I	遺構外	鉄	不明	6.0	2.5	2.3	27.73	釘か
		2次	I	遺構外	鉄	不明	5.6	4.6	1.7	68.28	鑄造品
		2次	I	遺構外	鉄	不明	7.0	3.6	1.6	49.42	板状
115	6	2次	I	遺構外	銅	鏡貨	2.3	2.4	0.2	3.26	「至道遺宝」
114	9	2次	I	遺構外	銅	煙管	7.8	1.1	1.1	6.14	
		2次	I	遺構外	銅	鏡貨	—	—	—	—	不明 5片
114	10	2次	Ⅱ-1	遺構外	鉄	不明	3.5	1.6	1.0	5.24	刀子か 2片接合
		2次	Ⅱ-3	遺構外	鉄	釘か	3.6	1.6	1.5	6.88	遺部 形状不明
		2次	Ⅱ-3	遺構外	鉄	釘か	4.5	0.8	0.7	2.11	
114	11	2次	Ⅱ-3	遺構外	銅	煙管	8.3	1.0	1.0	6.96	
		2次	調査区内		鉄	釘か	3.4	0.8	0.5	1.39	
		2次	調査区内		鉄	煙管	5.5	1.7	0.9	8.56	
		2次	調査区内		鉄	不明	9.3	3.8	1.6	39.85	棒状 フィルム72・73接合
		2次	調査区内		鉄	不明	9.9	2.0	1.2	25.11	棒状 調査区内出土フィルム47・63接合
		2次	調査区内		鉄	鏝	17.7	10.4	2.0	198.38	時刻不明 鑄造品の可能性残る
115	2	2次	調査区内		銅	鏡貨	2.5	2.5	0.1	2.44	「開元遺宝」

表 90 3次調査区出土金属器観察表

種別	番号	調査区	区	遺構	金属	種別	長さ	幅	厚	重	特記事項
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.0	0.9	0.5	0.89	刀子か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.9	1.9	1.0	5.31	刀子か 地下式孔
114	5	3次	B	SK-374	鉄	不明	4.8	1.8	0.9	9.14	刀子か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.6	1.1	0.9	3.84	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	3.1	0.9	0.7	2.43	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.0	1.2	1.2	6.38	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	3.1	1.5	1.1	4.00	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	3.8	1.0	0.7	3.02	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.5	1.0	1.1	4.90	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.9	1.1	1.1	4.44	釘か 地下式孔

調査区	調査区	区	遺構	金属	種別	長さ	幅	厚	重	特記事項	
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.5	2.5	0.6	2.32	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.1	0.8	0.6	1.95	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.1	0.9	0.7	(5.46)	釘か 地下式孔 小礫が埋着
		3次	B	SK-374	鉄	不明	6.0	1.2	1.1	7.47	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.8	1.2	0.8	2.57	棒状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	5.8	1.3	1.1	9.40	棒状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.0	3.1	0.7	7.99	円盤状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	6.3	1.4	1.2	12.31	棒状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	(20.0)	2.6	1.0	78.56	地下式孔 60号
114	6	3次	B	SK-374	銅	管	8.8	1.0	1.0	8.30	地下式孔
		3次	B	SK-374	銅	管	3.0	1.2	1.1	1.27	地下式孔
		3次	A	SK-254	銅	不明	3.4	2.9	1.0	16.56	
		3次	B	SK-346	鉄	不明	2.6	1.3	1.0	3.09	釘か
		3次	B	SK-346	鉄	不明	3.1	0.7	0.5	0.90	釘か
		3次	B	SK-346	鉄	不明	—	—	—	—	
		3次	B	SK-346	銅	管	3.5	1.0	0.6	1.67	
		3次	C	SK-410・411	銅	不明	4.2	1.6	0.6	8.85	板状
114	7	3次	C	SK-485	鉄	不明	(17.8)	2.0	1.5	46.72	棒状 3片接合
		3次	C	SK-845	鉄	不明	2.6	2.0	0.9	4.51	円筒球状 酸化面出土
		3次	C	SK-845	鉄	不明	4.4	3.6	0.8	9.40	板状 酸化面出土
		3次	C	SE-206	鉄	不明	2.1	1.7	0.5	2.88	刀子か
		3次	A	SE-209	鉄	不明	6.1	2.2	1.5	16.90	
		3次	D	SD-13	鉄	不明	3.2	2.6	0.6	6.56	陶磁器
		3次	D	SD-14	鉄	不明	—	—	0.5	5.14	板状 SP-C-D間 13片
		3次	D	SD-14	鉄	不明	—	—	1.4	23.28	陶磁器 4片
		3次	A	SD-19	鉄	不明	2.7	1.8	1.0	4.52	釣り針状の細曲
		3次	A	SD-19	鉄	不明	1.3	1.3	0.4	0.61	陶磁器
115	8	3次	A	SD-19	銅	鏡	2.5	(1.9)	0.1	1.91	「祥符遺宝」
		3次	A	SD-202	鉄	不明	7.7	1.2	0.9	22.89	陶磁器
115	9	3次	A	SD-202	銅	鏡	2.5	2.5	0.1	2.23	「水滸遺宝」
		3次	B	SD-364	鉄	不明	5.6	1.0	1.0	7.55	釘か
		3次	B	SD-393	鉄	不明	6.1	1.4	1.2	8.56	釘か
114	8	3次	C	P-442・443	鉄	釘	4.5	3.0	0.9	6.77	
		3次	C	P-442・443	鉄	不明	4.1	1.9	1.2	20.39	L字状
		3次	A	遺構外	鉄	不明	3.3	1.7	1.4	6.06	管状 2片接合
		3次	A	遺構外	鉄	釘か	2.0	1.5	1.1	3.30	
		3次	A	遺構外	鉄	不明	2.1	0.9	0.4	1.46	
		3次	B	遺構外	鉄	不明	7.6	1.6	1.4	11.63	釘か SE-368間近
		3次	B	遺構外	鉄	不明	5.7	3.7	1.0	18.84	板状 SE-368間近
115	10	3次	C	遺構外	鉄	不明	4.4	2.3	1.4	13.85	
		3次	C	遺構外	銅	鏡	2.7	2.7	0.2	3.08	「寛永遺宝」
115	7	3次	D	遺構外	銅	管	3.6	0.8	0.9	5.28	
115	4	3次	D	SD-14種丸	銅	鏡	2.2	2.2	0.1	3.16	不明
115	5	3次	D	SD-14種丸	銅	鏡	2.6	2.6	0.1	2.44	「文久永宝」
		3次	D	SD-14種丸	銅	鏡	2.9	2.9	0.2	4.16	「寛永遺宝」
		3次	D	遺構外	鉄	不明	3.5	3.1	0.8	6.50	板状 陶磁器 SP-C-D間
		3次	調査区内		鉄	不明	3.0	1.7	1.3	4.85	板状
		3次	調査区内		鉄	不明	3.2	1.4	1.2	4.61	刀子か
		3次	調査区内		鉄	不明	4.0	0.9	0.7	2.49	刀子か
		3次	調査区内		鉄	不明	4.4	2.0	1.4	11.26	

2. 鉄滓

2次・3次調査において出土した鉄滓を一括する。

2次調査区からは10片、3次調査からは31片が出土する。小塊・小片が多い。碗形とみられるものや、砂粒の付着や鉄製品とみられる小片や小礫、スザ状の混入物等が確認されるものがある。各々の出土状況等は各遺構に記載する。

第3章 確認された遺構と遺物

表 91 2次調査区出土鉄滓器観察表

調査区	区	遺構	タテ	ヨコ	厚	重	特記事項
2次	Ⅱ-1	SK-41	6.1	4.4	2.3	35.4	小塊 不整形 下面平坦
2次	Ⅱ-1	SK-42	8.3	5.2	3.3	71.0	小塊 不整形 碗形か
2次	Ⅱ-1	SK-46	3.8	3.2	1.4	5.8	小塊 不整形 碗形か
2次	Ⅱ-1	SK-47	4.0	3.8	2.5	10.5	小片 不整形 狭小な空胴部分あり
2次	I	SK-105	4.8	4.0	2.8	26.1	小塊 不整形 下面平坦 小礎段入
2次	I	SK-105	5.4	4.0	2.5	28.5	小塊 不整形 下面平坦
2次	Ⅱ	SD-19	5.2	4.2	2.6	35.9	小塊 不整形 碗形か
2次	Ⅱ	SD-19	4.8	4.4	1.2	8.9	小片 不整形 碗形か
2次	I	遺構外	5.8	5.6	3.8	67.6	小片 不整形 碗形か 下面砂状の付着物
2次	調査区内		2.6	1.7	1.1	2.2	小片 不整形 狭小な空胴部分あり

表 92 3次調査区出土鉄滓器観察表

調査区	区	遺構	タテ	ヨコ	厚	重	特記事項
3次	B	SK-374	1.7	2.2	0.7	1.2	地下式孔 不整形 筒脚機
3次	B	SK-374	4.3	3.8	3.0	35.1	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.0	4.1	2.2	29.1	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.5	4.0	3.0	39.4	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.0	3.0	1.8	16.0	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	3.3	2.9	2.1	13.4	地下式孔 小片 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.8	3.4	2.5	37.3	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	A	SK-239	3.7	2.4	1.3	6.1	地下式孔 小片 不整形 碗形か
3次	B	SK-346	8.9	6.6	3.2	121.4	碗片 碗形鉄滓か 下面砂・小礎付着 戸筒状の筒脚機製品段入
3次	B	SK-346	2.8	2.2	1.4	6.9	小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-346	2.6	1.6	1.6	4.9	小塊 不整形 碗形か
3次	C	SK-485	4.1	2.3	1.4	12.3	小片 不整形 平坦 碗形か
3次	C	SK-485	4.3	3.1	1.6	18.1	小片 不整形 平坦 碗形か
3次	A	SE-263	4.4	3.6	2.9	23.0	小片 不整形
3次	A	SE-263	3.1	2.2	1.9	4.2	小片 不整形
3次	D	SD-12	7.4	4.2	2.9	82.2	碗形鉄滓か 小塊1点・筒脚片2片 接合しない 植物繊維製品段入
3次	D	SD-14	4.4	4.4	3.0	77.0	SP-C型 小塊 下面碗形状
3次	A	SD-202	2.6	2.1	1.7	7.2	筒脚機
3次	A	SD-202・SK-228	5.1	3.6	3.0	66.8	小塊 不整形 碗形か
3次	B	SD-371	7.9	7.0	3.3	199.4	小塊 碗形か 上面平坦で緻密
3次	B	SD-376	4.2	2.4	2.0	14.3	小塊 平坦
3次	B	SD-376	5.2	4.2	2.5	34.7	小塊 碗形か
3次	B	SD-376	2.5	2.0	1.9	7.5	筒脚機 棒状
3次	B	遺構外	9.2	7.0	2.6	100.1	破砕片 浅い皿状
3次	B	遺構外	1.4	0.9	1.4	0.5	破砕片
3次	B	遺構外	7.6	4.8	2.4	60.1	小片 小礎段入
3次	C	遺構外	5.2	2.8	2.0	11.3	小片 不整形
3次	D	遺構外	7.4	6.2	2.6	120.8	SK-272付着 破砕片 碗形鉄滓か
3次	調査区内		3.8	2.5	2.6	19.0	小塊 碗形か
3次	調査区内		3.9	2.5	2.6	17.5	小片 碗形か
3次	調査区内		3.2	2.2	1.5	9.0	小片

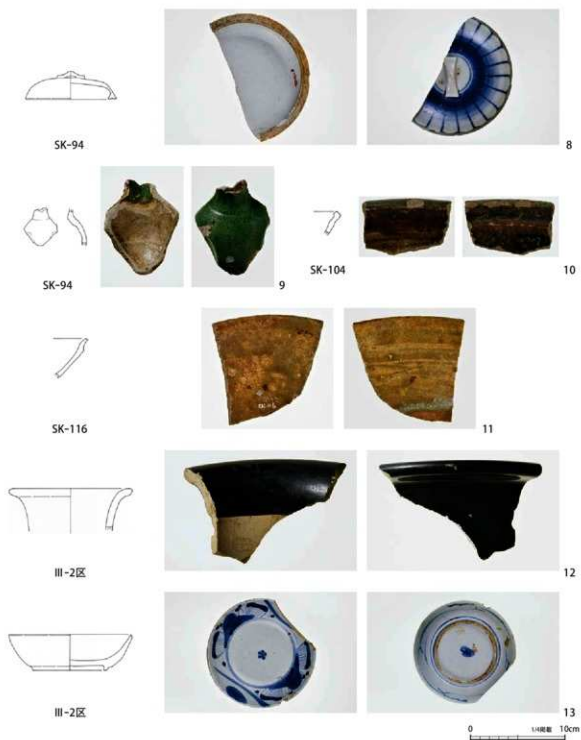
3. 陶磁器

2次・3次調査において出土した陶磁器の詳細については各遺構に記載する。近世後半以降の陶器・磁器が主体をなすが、古瀬戸や龍泉窯産とみられる青磁の出土も確認される。本節では、実測図とあわせ写真を掲載する。

2次調査区出土陶磁器



第116図 2次調査区出土陶磁器実測図(1)

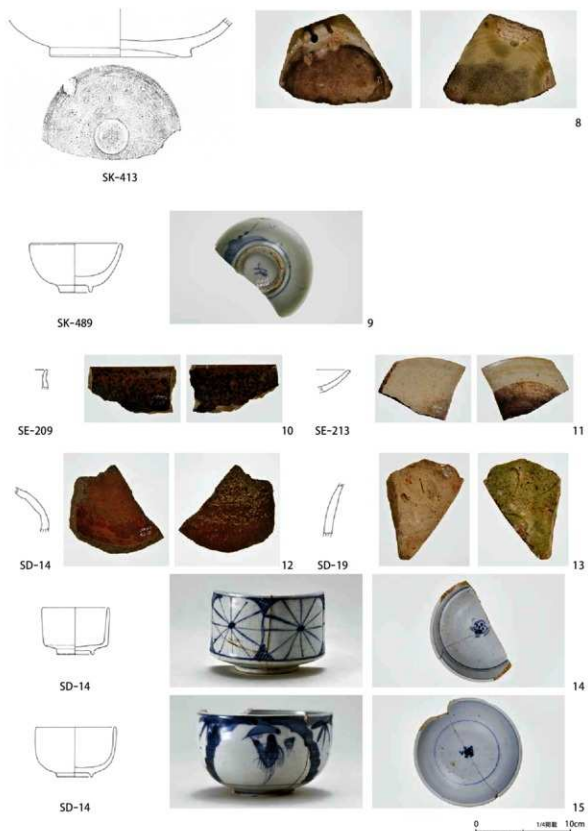


第117図 2次調査区出土陶磁器実測図(2)

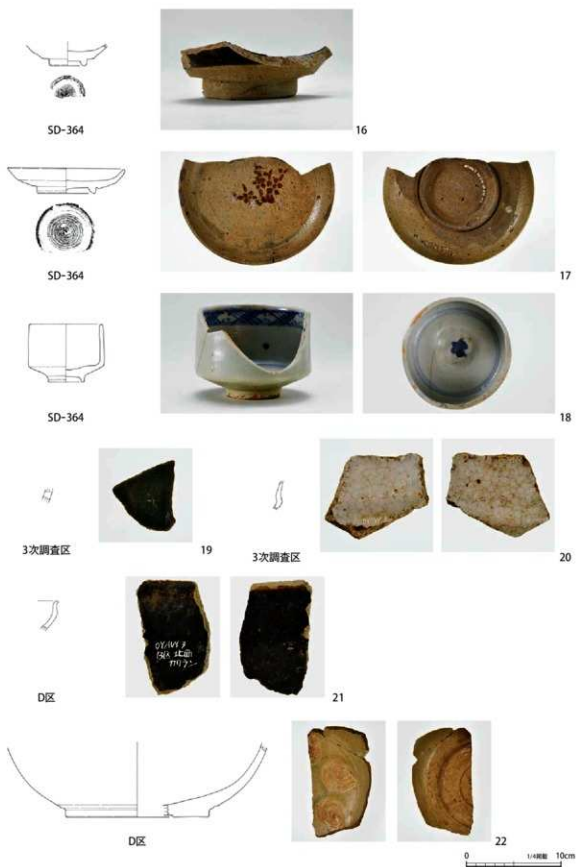
3次調査区出土陶磁器



第118图 3次調査区出土陶磁器実測図(1)



第119図 3次調査区出土陶磁器実測図(2)



第120图 3次調査区出土陶磁器実測図(3)



第 121 図 3 次調査区出土陶磁器実測図 (4)

表 93 2 次調査区出土陶磁器観察表

番号 図種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 碗部 平底型	口径：36.5 底径：— 器高：14.9	内面 四方六字文 外面 無文	内外 明緑灰色	磁器土胎 白	小片	01A1 0K-41
2 碗部 大瀬戸 碗型小	口径：— 底径：— 器高：12.0	口径成型 内面口縁部一帯面口縁部底片無	内外 淡黄色	磁器胎土胎 研質	口縁部小片	01A2 0K-46 下上同一個体小
3 碗部 大瀬戸 碗型小	口径：— 底径：— 器高：12.0	口径成型 内面口縁部一帯面口縁部底片無	内外 淡黄色	磁器胎土胎 研質	口縁部小片	01A2 0K-48 上上同一個体小
4 碗部 委付 碗	口径：— 底径：— 器高：13.1	平岡焼小 内 夏山及び五字文 外 草堂文小	内外 灰白色	磁器土胎 白	底部小片	01A2 0K-76 江戸中期以降小
5 碗部 碗型	口径：12.6 底径：7.6 器高：12.6	内面小凸形面中の直線 内面見込に面縁口無 内面見込に面縁口無 底片残存小 口径成型 底有口縁中出し小	内外 灰白色	磁器胎土胎 白	1/2	01A2 0K-94 トロコノ字 管基陶磁小

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
6 陶器 鉢型	口径：10.8 底径：7.6 器高：8.0	内外面向付小。口縁部から外面施釉。口縁部・竹葉又は赤褐色染付	内 黄褐色 外 灰白色	陶器胎土C型 良	1/2	0182 SK-94 トロンチ ン・現代陶器
7 陶器 甕か 壺か	口径：10.0 底径：5.7 器高：3.0	外面輪郭状の文様 内面中央は花か	内外 灰白色	陶器胎土C型 良	3/4	0182 SK-94 トロンチ ン・現代陶器
8 陶器 甕か	口径：9.5 底径：— 器高：3.0	外面青花文 つまみを付す。内面施釉	内外 灰白色	陶器胎土C型 良	1/2	0182 SK-94 トロンチ ン・現代陶器
9 陶器 小型甕型	口径：— 底径：— 器高：4.0	内 赤褐色 外 赤褐色縁部 赤褐色をもつて認め 文様か 内面一内面に緑褐色施	内 浅黄褐色 外 赤や小の緑色	陶器胎土B型 良	小片	0182 SK-94 トロンチ ン・現代陶器
10 陶器 甕か	口径：— 底径：— 器高：12.40	鉄線も盛す 小片のため判別としないが「書」類か	内外 緑褐色	陶器胎土C型 良	口縁部小片 良	0182 SK-104
11 陶器 甕か	口径：10.00 底径：— 器高：4.00	口ツク成形か 内一内面下位 灰線か、外面下位無釉	内 浅黄褐色 外 に小の黄褐色	陶器胎土B型 良	口縁部小片 良	0182 SK-108
12 陶器 甕型 甕か	口径：13.00 底径：— 器高：(4.2)	内面口縁部一外面施釉 鉄線施釉一	内 浅黄褐色 外 黄褐色	陶器C群 良	口縁部片 良	注記：器一 器一2区
13 陶器 甕型 甕か	口径：12.0 底径：7.6 器高：3.8	内 赤や鉄線の文様 見込み：玉串文文 外 赤や文様 中央部意匠不明	内外 灰白色	陶器C群 良	一断面 良	器一2区 肥前・佐賀共作例

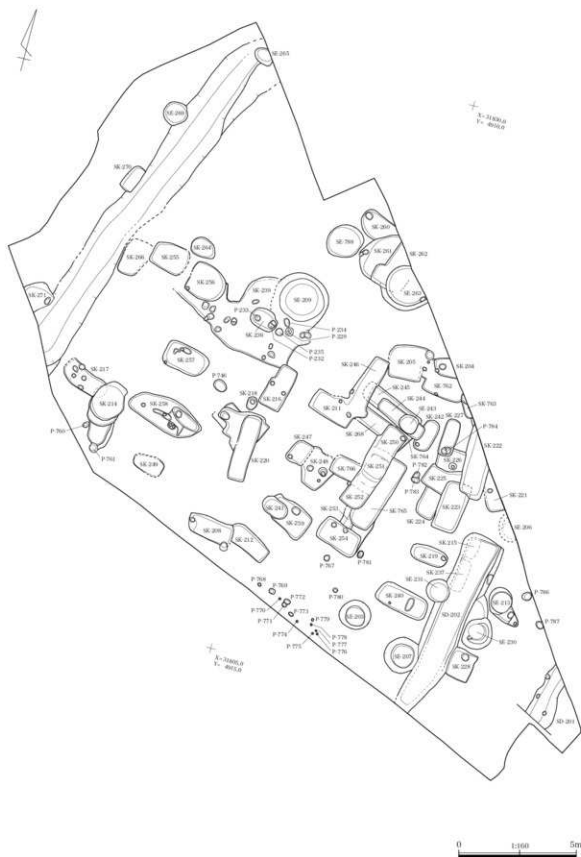
表 94 3次調査区出土陶磁器観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 構成	残存 状況	備考
1 陶器 中丸甕	口径：8.0 底径：2.8 器高：3.6	山本型	内外 灰白色	陶器D群 良	残存	0183 SK274
2 陶器 甕	口径：9.5 底径：3.8 器高：5.4	伊文文 底径 文様下位 胴部とみられる小片 口縁一腰部（うちうは底径文様なし 底-492と同じ） 底一腰部（口縁部） 底部：8	内外 灰白色	陶器D群 良	2/3	0183 SK274
3 陶器 甕	口径：10.0 底径：3.8 器高：4.8	底付 筒物か 内 口縁部・腰部 一外面施釉文様 黄褐色か 外 黄や文 赤褐色 高台一外面施 黄褐色を伴って配する	内外 灰白色	陶器D群 良	ほぼ残存	0183 SK274
4 陶器 甕付 中丸甕	口径：7.2 底径：3.7 器高：5.5	内 口縁部：二条線施 底部：一条線施 玉串文文 外 丸型文 高台：施釉	内外 灰白色	陶器D群 良	ほぼ残存	0183 SK274
5 陶器 甕 甕	口径：12.2 底径：7.0 器高：3.0	内 赤竹物文か 見込み：文様不明 外 黄や文か 二条線施 底部：十字文	内外 灰白色	陶器C群 良	1/2	0183 SK274
6 陶器 甕 甕	口径：10.2 底径：5.3 器高：2.5	内 玉串文か 二条線施 玉串文文 外 黄や文か 一条線施 高台二条線施 底部：「寿」か	内外 灰白色	陶器C群 良	1/2	0183 SK274
7 陶器 甕 甕か	口径：— 底径：— 器高：(1.40)	口縁部片 内外面に鉄線を盛す 外面下位 筒物施釉に赤褐色の盛り上げがみられるが文様か 器入がみられ、外面が輪は現存	内外 浅黄褐色	陶器D群 良	小片	0183 SK27
8 陶器 甕型 甕か	口径：— 底径：15.0 器高：(4.2)	内外面 灰線 内面 四角の小の赤けを胴部をもつて配する 外 底一腰部下位：無釉 部分の輪が盛る	内 浅黄褐色 外 灰褐色	陶器D群 良	底面片 良	0183 SK13
9 陶器 甕 甕	口径：9.8 底径：3.4 器高：5.5	外面 草文文 高台二条線施 底部 文様判別不明	内外 黄や緑・灰色	陶器C群 良	1/2	0183 SK-469
10 陶器 甕 天目茶碗	口径：— 底径：— 器高：(1.30)	口ツク成形 内外面 褐色染、黄褐色が底に小の赤	内外 緑褐色	陶器D群 良	小片	0183 S-209
11 陶器 甕型 甕か	口径：— 底径：— 器高：(3.5)	内一外 口縁部に白濁線を盛す	内外 緑褐色	陶器D群 良	小片	0183 S-213
12 陶器 小型甕型	口径：— 底径：— 器高：(2.2)	内面 ヘン・ゴウ持者 外面 赤褐色花 自然釉 黄褐色か	内 に小の赤褐色 外 灰褐色	陶器D群 良	小片	0183 SK14
13 陶器 甕型 甕か	口径：— 底径：— 器高：(3.0)	内 ヘン・ゴウ 外 灰線（緑色）も盛す 赤褐色の底部は草文文か	内外 に小の黄褐色	陶器D群 良	小片	0183 SK-18
14 陶器 甕型 甕か	口径：7.0 底径：3.4 器高：3.0	内 口縁部：二条線施 底部：一条線施 玉串文文か 外 丸型文か	内外 灰白色	陶器D群 良	1/2	0183 SK14 甕か-3
15 陶器 甕型 中丸甕	口径：6.5 底径：3.8 器高：5.3	内 一条線施 玉串文文か 外 竹・器・黄や文 底部下位	内外 灰白色	陶器D群 良	ほぼ残存	0183 SK-18 SK-14 甕か-2

第3章 確認された遺構と遺物

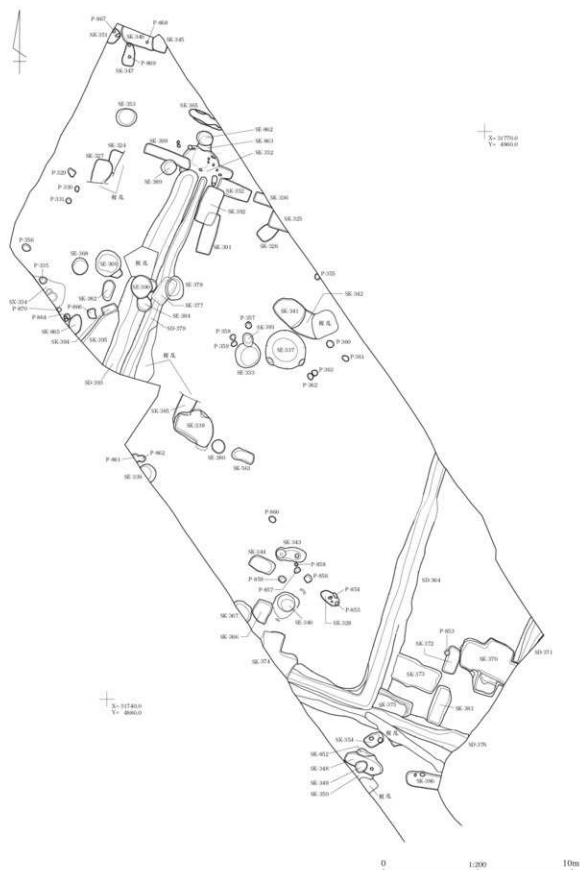
(単位：cm、g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 状況	保存 状況	備考
16 陶器 文付細小	口径：— 底径：— 器高：— 器口径：— 器底径：— 器高：—	体下部の縁部明確 行け高行	内 無彩色 外 灰黄色	陶器口群 良	底面	01A03 3D-264
17 陶器 壺形	口径：11.2.1 底径：6.6 器高：2.7	内 灰緑 立ち上がり部に縁が磨れる。中央部：垂線状の筋線 外 口縁一珠部・中央：灰緑 底面縁合時、工具が体部に食い込むか 底面 凹陥ヘリナデ	内 白・黄緑 外 緑灰黄色	陶器口群 良	1/2	01A03 0204 0K374 No.2
18 陶器 平盤類	口径：7.8 底径：3.7 器高：5.1	内 二重縁線 見込み：五弁花文を意図小 外 無文	内外 灰白色	陶器口群 良	一底欠損	01A03 0204
19 陶器 平皿	口径：— 底径：— 器高：(1.8)	縁部磨面小 縁線意図小	内外 オリーブ灰色	陶器口群 良	小片	01A03
20 陶器 平皿	口径：— 底径：— 器高：(3.0)	志野様式	内外 灰白色	陶器口群 良	小片	01A03
21 陶器 文付細小	口径：— 底径：— 器高：(3.1)	口縁部下に張りのある形状小	内外 淡黄色	陶器口群 良	小片	01A03 01区表層 0D14P1711 産2-G-3
22 陶器 鉢形	口径：— 底径：15.2 器高：7.7	内 灰緑 四角状の小き分けを器口部に配する 外 灰緑 底面縁線 靴の目高行 中央に磨面あり	内外 淡黄色	陶器口群 良	底面片	01A03 01区表層 0D14P1711 産2-G-3
23 陶器 丸瓶	口径：8.4 底径：4.2 器高：15.9	内面一外面 口縁部：灰緑 外面 珠部：磨面を縁部に配する	内 灰黄色 外 灰白色	陶器口群 良	一底欠損	01A03 01区一底
24 陶器 鉢形	口径：— 底径：12.8 器高：7.5	内外面 灰緑 内面 四角状の小き分けを配する	内外 淡黄色	陶器口群 良	底面片	01A03 01区一底
25 陶器 平盤類	口径：7.9 底径：3.6 器高：6.1	内 口縁部に斜線子文を帯状に施す 0D-374平盤類と似る 0D-374は斜線子文の間に花意文状の文様を施すが、対角線上に 4本の短い線を施す 見込みにデコで五弁花文 外 無文	内 灰白色 外 オリーブ灰色	陶器口群 良	一底欠損	01A03
26 陶器 高脚平 輪形皿	口径：15.0 底径：(9.6) 器高：(4.3)	内面 見込み：御流土内に白付無文 外面 唐草文を帯状に配する 高行に磨面	内外 灰白色	陶器口群 良	2/3	01A03 01区表層

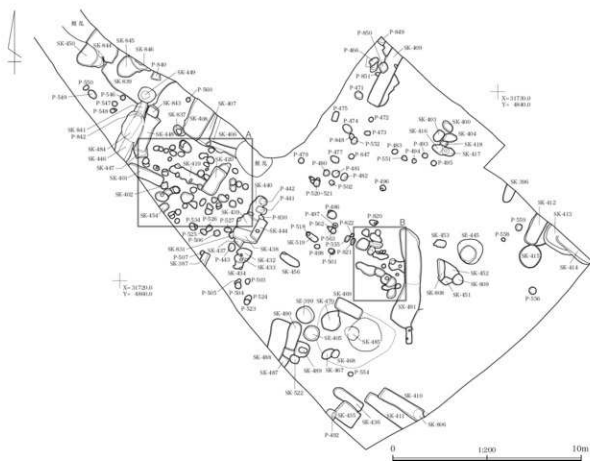


第122图 3次調査 A区 遺構配置図

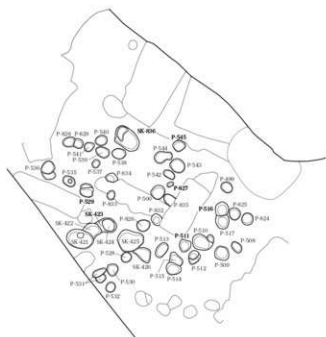
第3章 確認された遺構と遺物



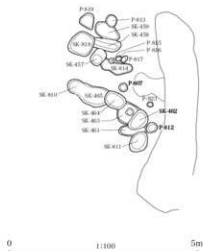
第123図 3次調査 B区 遺構配置図



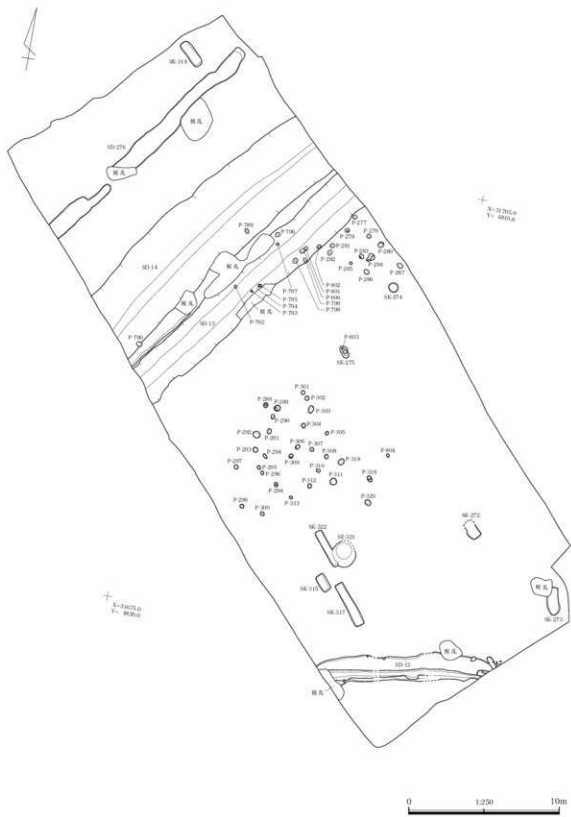
拡大図 A



拡大図 B



第124图 3次調査 C区 遺構配置图



第125図 3次調査 D区 遺構配置図

第4章 まとめ

第1節 調査の概要

遺構は、2次調査においては地下式坑10基・方形竪穴遺構5基・土坑185基・井戸跡14基・溝状遺構7条・柵列1列・ピット154基、3次調査においては地下式坑4基・土坑186基・井戸跡29基・溝状遺構12条・ピット238基・性格不明遺構2基が確認される。

遺物は2次・3次調査を併せ、遺物収納箱約50箱が出土する。遺構数に準じ、量的には3次調査の遺物量が多い。遺物は縄文時代前期から現代の工業化製品まで出土する。縄文時代から工業化製品までの年代幅の大きい遺物が出土する遺構が多く、同様の傾向が下層から出土する遺物についても認められる。

以下、整理作業に伴い、遺構・遺物について留意された点を記載し、まとめとする。

第2節 遺構

1. 地下式坑

主室に突出部が付随する、所謂、地下式坑は、2次調査で10基、3次調査で4基を報告する。中には、SK-142などのように、重複や調査区外に遺構があることから全容を確認し得なかった遺構や、SK-214のようにテラス状の部分が竪坑とは判断しづらい遺構を含む。また、SK-1・10・17・106・114基は、竪坑とみられる突出部が平面形状では観察されるものの底面の境が不明瞭であったり、平面形状の竪坑の観察が不明瞭であったり、定型的な地下式坑の形状が観察されない点留意される。しかし、土坑の密集する外縁部に位置する点、通例的な地下式坑の特徴を備える。

SK-12・25は竪坑の壁面にオーバーハングが観察される。SK-110・115は、長方形の短辺にポケット状の小土坑を穿つ。地下式坑とした遺構の中で、竪坑の壁面に挟り込みの確認されるものは、この類の掘り込みの可能性が考えられようか。オーバーハングという形状からは、出入口部の想定は難しいと判断される。SK-106の二瘤状の突出部を含め、本調査においては貯蔵用の小土坑である可能性、遺構自体が貯蔵穴である可能性を指摘しておきたい。

2. 土坑

2次調査では185基、3次調査では186基を報告する。調査区を総じて、形状・大きさ・主軸などが似る土坑の重複・近接が目立つ。形状は方形のもの为主体である。幅は総じて1.0m前後であるが、長さは1.5m前後を中心に長・短がみられる。主軸は、北東-南西方向（概ね南北軸）、及び、これに直交する北西-南東方向（概ね東西軸）の土坑が主体となる。共通の意識をもって、連続と掘り込まれたものと考えられる。これとは反対に、SK-31・216・217など、土坑の形状・規模はほぼ同様でありながら、主軸を異にする土坑も散見される。同様の性格を持つ土坑の時期差の可能性も考えられよう。位置関係については、①同様の形状・規模・主軸を持つ土坑の近接、②土坑の重複、③小土坑の重複、④掘り直し状に分割される覆土の堆積状況、など、遺構間の距離の有無に差異はあるものの、群在する傾向が看取される。①については、I区-SK-5周辺、I区SK-3周辺、II区SK-22・23・28（158）・601・602などにみられる。II区SK-22・23・601・602は、約3.0mの距離をもって南北に位置する。ただし、SK-158はやや深いこと、SK-23・158は底面のピットが穿たれることなど、異なる点については留意される。②については、I区SK-8・126～128、SK-5・6・125、SK-41・635～639、III-3区-SK-94・711～714・716～733などに、

主軸や形状の似るものの群在が認められる。Ⅱ区SK-111・154～159は底面レベル29.8m前後の土坑が重複する。同一遺構を含む可能性は残る。③についてはⅠ区SK-3・123、SK-4・124、SK-104などにみられる。何れも、小土坑が深く、新しい。④については、Ⅰ区SK-104等にみられる。SK-104は西壁沿いに位置する小ピットを含め、掘り直された可能性を考え得る。③・④の特徴を持つSK-104については、a：13層で埋め戻して平坦な底面を作出する可能性、b：B部短軸が南西から北西に狭まる形状からA～C部の3部分ではなく4部分に大別される可能性も考えられる。aの場合、A～C部分は時間をおかずで使用されるか。bの場合、堆積が分割される事由は不明であるが、平面形が狭まる形状の他遺構の成立要因も同様である可能性が示唆される。

SK-104には、西壁際や出入口部想定可能箇所にピットが確認される。前述のとおり、遺構覆土は重複状に分割して観察され、ピットもこれに伴う可能性が示唆される。南東辺にはピットの確認はないが、壁際の底面に凹凸が確認され、壁際に柱穴を持つ竪穴建物の想定も可能と判断される。

SK-37については底面中央部付近にピットが確認される。ピットが屋根を支える柱穴である可能性から、方形竪穴遺構の可能性も残る。また、遺構覆土の1層をきってピット覆土の2・3層が堆積することや、銭貨『洪武通宝』が出土することからは、墓標等の可能性が考慮される点、指摘しておきたい。円形状の土坑であるSK-107については、覆土・底面・壁面・遺構周囲に焼土・炭化物が認められる。しかし、ローム等への火熱の痕跡は薄く、遺構内外における燃焼の可能性は低いとみられる。遺構底面に半部にススの付着した小礫が出土することから、火葬墓およびその標石である可能性が考慮される点、併せて指摘しておきたい。

SK-485は安全のため掘削を中止したため底面は確認し得なかったが、袋状の空間を有する。貯蔵穴の可能性を考慮したが、覆土は水気を帯び、井戸の可能性も残る。湧水レベルが低いエリアとみられ、近接するSE-399・405は安全面を考慮し湧水の前に掘削を中止している。用途は判然としませんが、調査区内に確認される地下式坑、土坑、井戸跡とは形状を異にする点留意される。

3. 井戸跡

2次調査では14基、3次調査では29基が確認される。

2次・3次調査で確認された井戸跡のうち、底面まで掘削し得たSE-100以外は、湧水、及び、作業の安全のため、掘削を中止した。

2次調査における、湧水のため掘削を中止した井戸跡の湧水レベルは、Ⅱ区SE-26：29.25m・SE-27：29.25m・SE-30：29.25m・SE-118：29.84m・SE-604：29.4m、Ⅲ-2区SE-93：29.3mである。概ね29.3m前後が湧水レベルとみられる。29.3m前後で湧水の観察されなかった井戸跡は水脈の流路等、何らかの理由で湧水しない、或いは湧水しづらい環境にあり、早い段階で他地点への掘り直し等がなされた可能性を考え得る。3次調査における、湧水のため掘削を中止した井戸跡の湧水レベルは、B区SE-333：29.81m、SE-337：29.51m、SE-353：29.7m、SE-368：29.65m、SE-369：29.45m、SE-378：29.5m、SE-380：29.9m、SE-389：29.48m、D区SE-321：30.15mである。概ね、29.5～30.0m前後の湧水レベルが看取される。0.3m程度の近距離に隣合うSE-333・337、0.4m程度の近距離に隣り合うSE-368・369の湧水レベルが異なる点留意される。

遺物の出土は総じて多くはない。また、SE-209・269・332・405・495からは縄文土器・須恵器・土師器から近世後半の陶磁器まで、SE-269・332・339・340・368・386からは近代以降とみられる施釉陶器・磁器を含む。出土遺物の時期幅は大きい、近世後半から近代以降の井戸跡の可能性が高いか。

B区の井戸跡の配置については、M-14～N-15にかけてN-70°-Wの軸線上に、東からSE-337・333・378・390・369・368が並ぶ。SE-390を除き、湧水のため掘削を中止している。湧水レベルはSE-333の29.81m～SE-369の29.45mであり、概ね29.5m前後であり、水脈の深さと判断される。各井戸跡の時間的な推移は明確ではない。1基の使用期間が長かった場合、総じて長期間にわたり水場として利用されたことを示し、水量が豊富であるか、或いは水質が高いことが推測される。反対に、1基の使用期間が短かった場合、水量が乏しいか、或いは水質が悪く、短期間で水場が放棄された結果と推測される。

4. 溝状遺構

2次調査では8条、3次調査では13条が確認される。SD-19は2次調査Ⅱ区から3次調査A区にかけて確認される。位置・形状・主軸が似るため、現地調査時より同一の遺構番号を付した。但し、底面の傾斜は、2次調査区SD-19では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区SD-19の底面レベルからは傾斜は読み取れない。また、覆土の堆積状況も類似性は薄い。

遺構の主軸は、北東-南西方向に延びる溝状遺構と東西に延びる溝状遺構とに大別される。2方向の主軸は、SD-19・21の重複関係から明らかなように、概ね直交する。

底面の傾斜は、2次調査では、明確な傾斜が観察されるのはSD-19（南→北）のみである。SD-64・89・269のように、傾斜は確認されるものの僅かな高低差であるもの、溝長が短いもの、SD-21・260のように傾斜が観察されないものが主体をなす。SD-19については、3次調査において明確な傾斜は認められず、判然としない状況にある。3次調査においては、SD-12・13・14・364北から南方向への傾斜が確認される以外、判然としない。SD-12・13・14については1次調査において、同様の傾斜が確認される。

各遺構は概ね北西-南東方向に延びるが、D区SD-12は北東-南西方向、或いは円形状ともみえる。時期や性格を異にするものと判断される。

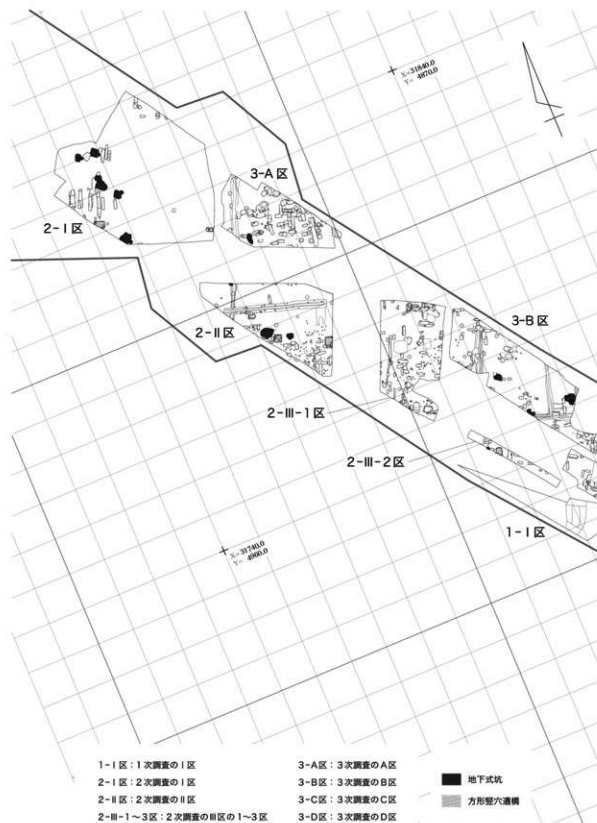
5. ピット

2次調査では154基、3次調査では238基が確認される。また、直線的に位置するSA-120が確認される。詳細は調査概要に記載するが、SA-120など直線的な位置関係が考慮されるピットの配置は北東-南西方向、或いはこれに直交する北西-南東方向に主軸を持つ遺構が多い。

6. 遺構配置

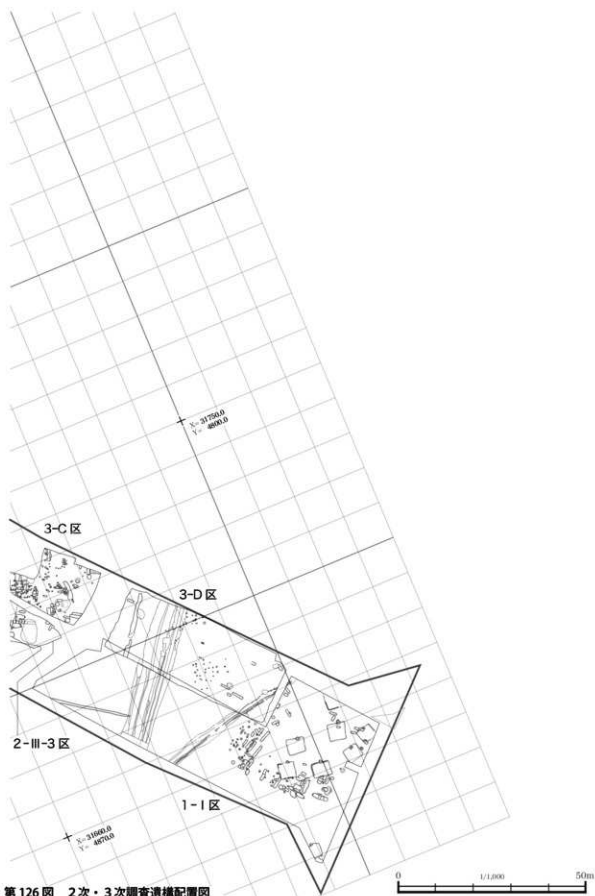
土坑・溝状遺構・柵列など主軸のとれる遺構については、同様或いは直交する遺構配置にある傾向が看取される。また、2次・3次調査各区の遺構の分布をみると、遺構が集中する傾向にあることが見て取れる。2次調査Ⅰ区は調査区西西部に主軸を同じにする長方形土坑が集中する。Ⅱ区はSD-21南側に主軸の直交する方形土坑が集中する。Ⅲ-1区は調査区北壁付近及び南西部に集中する傾向がみられる。Ⅲ-2区は調査区内に散在する。Ⅲ-3区は調査区中央部に主軸の直交する長方形の土坑が群在する。3次調査A区はSD-19・202間に主軸の直交する方形土坑と井戸跡の重複がみられる。井戸跡はSD-202に重複するものが多い。B区はSD-364・376SD-378・393を東西に配し、溝状遺構周辺に方形土坑・井戸跡が近接する。C区はK-11グリッドに直交する方形土坑とピットが重複する。D区はSD-13・14SD-12間に土坑・ピットが散在するが遺構の密度は薄い。

巨視的な遺構の配置をみると、調査区西端部のⅠ区の長方形土坑集中区からⅠ区東部の遺構空地を挟み、



- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1-1区：1次調査のI区 | 3-A区：3次調査のA区 |
| 2-1区：2次調査のI区 | 3-B区：3次調査のB区 |
| 2-II区：2次調査のII区 | 3-C区：3次調査のC区 |
| 2-III-1～3区：2次調査のIII区の1～3区 | 3-D区：3次調査のD区 |

地下式坑
 方形型穴遺構



第126図 2次・3次調査遺構配置図

3次調査A区SD-19・202、2次調査Ⅱ区SD-21間に東・西・南を区画されたA区土坑集中区と、SD-21（Ⅲ-1区SD-72）に北（東）を区画された2次調査Ⅱ区遺構集中区とに至る。東側には、A区SD-202・SD-201（Ⅲ-1区SD-72）間を挟み、2次調査Ⅲ-1区の遺構集中区が位置するが、A区SD-201（Ⅲ-1区SD-72）B区SD-393・379間の配置と推察される。B区SD-393・379・SD-364の土坑の希薄なエリアを挟み、B区SD-364・SD-371・SD-375に東・西・南を区画された土坑配置と、その南側のSD-375に北側を区画されるC区遺構集中区・Ⅲ-3区中央土坑群（K-11グリッド）との連続した遺構配置となる。Ⅲ-2区はK-11グリッドの遺構配置に類するものか。SD-375のB区以東の位置は不明であるが、K-11グリッド遺構集中区の東側はD区SD-276或いはSD-14・13に区画されるか。

巨視的な遺構配置からは、溝状遺構によって構成される複数の区画が認められる。A区SD-202-201間やB区SD-364-371間など遺構の希薄なエリアもみられるため、必ずしも、遺構が溝状遺構に区画されるとは限らない。しかし、エリアを区画する溝状遺構の付け替え等の位置の移動によって、例えば、小区画状に見えるA区SD-202-201間が本来A区土坑群の一角である等の可能性も考え得る。いずれにせよ、遺構の重複や出土遺物による時期的な変遷は不明確であり判断としない。

溝状遺構による区画が特に明確であるのは、SD-19・202・21を東・西・南に配するA区土坑群である。北側を区画する溝状遺構の有無は現状では不明である。土坑の群在する様相からはⅢ-3区中央土坑群を含むK-11グリッドの遺構集中区も溝状遺構区画内の配置となるか。

各遺構の配置をみると、地下式坑・方形竪穴遺構は群在・集中する遺構の外縁部、井戸跡は溝状遺構に重複、ピットは土坑群に併存する事例が多い。溝状遺構に区画された長方形土坑群とその外縁部に位置する地下式坑・井戸跡という配置は、中世墓域に類例をひくことができよう。墓域である明確な遺物や分析はないが、A区土坑群に重複するSE-243からは「康暦元年〔北朝 後円融天皇1379年〕」と認める紀年銘を線刻する板碑が出土する。その他、SD-14からは線刻のある板碑片や、複数の遺構から板碑片とみられる緑泥片岩片が出土する。墓域に遺立されたものが、後年、混入した可能性が示唆される。井戸跡が溝状遺構に重複する例が多いことから、土坑群・溝状遺構と時期差を持つ井戸跡の存在がうかがわれよう。調査時においても湧水が確認される井戸跡が多いことや、近世後半～近代の陶磁器の出土量が多いこと、栗宮宮内遺跡の西端部にあたる位置であることから（第6図）、近世村落を形成する井戸跡を含む可能性を考えておきたい。ピットについては、中世の墓域と推察される土坑群・溝状遺構に併存し、SA-120の主軸が土坑群・溝状遺構に沿うことから、関連性が考慮されよう。

第3節 出土遺物

1. 出土遺物の概要

各区を通じて、縄文時代から現代の工業化製品までが出土する。縄文時代の遺物は、黒浜式（SK-105・106・4・48など）・阿玉台式（SK-105・374）・称名寺式（SK-374）とみられる縄文土器小片や剥片石器（SK-1・SK-46・SD-13など）、磨石（SD-19・SK-485・SD-14など）、石皿片（SD-21・SK-485など）等が出土する。弥生時代は可能性のある土器片（SD-364）が出土するが判断としない。古墳時代はヘルメット形とみられる土師器坏片（SD-13・SD-14不掲載）や高坏接合部片（SD-21）、埴輪片（SK-104）等が出土する。古代以降は須恵器片の出土が多い。古墳時代に遡る可能性もあるが、蓋（SD-14）、小型壺（SD-14）、高台付き杯（SD-14）、甕（SD-14など）などがみられる。何れも小片であり詳細は不明である。中世は土師質土器小皿（SK-105など）、内耳土器（SK-41など）、古瀬戸中期（14世紀前半か SK-214・SD-21など）とみられる瓶類（3次調査

SD-19)や龍泉窯系とみられる青磁片(遺構外)などが出土する。土師質土器小皿(非ロクロ成形)や常滑産壺(SK-44出土 常滑8型式か)、板碑(SE-243出土「康暦元年(北朝1379年)」銘)など14世紀以降の年代が確認される。近世後半から近代初頭の内耳土器、陶磁器は最も出土量が多い。SK-31などのようにスレート片のみが出土する遺構もある。

以下、報告書作成の過程で留意された点について記載しまとめとする。

2. 遺物の出土状況

遺物の出土状況を見ると、同一遺構からの時代幅の大きい遺物の出土が目立つ。SK-105のような阿玉台式土器小片から非ロクロ成形の土師質土器小皿までの出土や、SE-332のような須恵器高台付き杯・壺小片、土師質土器小皿5個体以上(うち1個体は灯明皿)、常滑産大壺片19片、羽口片1片、台石とみられる礎等の出土は、埋没の過程での混入とみられよう。SK-42-4(内耳土器深鍋)はSK-42下層出土をSK-613上層出土が接合する。また、完形となるものはなく、複数個体が破片で出土する。器種も、須恵器・土師質土器・内耳土器・鉄製品・陶磁器等、多岐に亘る。SD-21は覆土中から土師器高杯(6世紀代か)・杯・羽口・古瀬戸・ロクロ成形土師質土器小皿(15世紀代か)・内耳土器(16世紀後半)・陶器壺(17世紀前後か)・近現代の磁器が出土が出土する。取り上げ番号を付した遺物は6世紀代～17世紀代と判断されるが、最下部からの出土は5層中の16世紀前後とみられる内耳土器である。近・現代磁器の出土層位が判然としないが、遺構配置から中世墓域の区画溝である可能性が示唆される点からも不詳な点が多い。時代幅の大きい遺物の出土については、現地調査の所見を鑑み、遺構に伴出するものではなく、何らかの事由により混入したものと判断されるに留まる状況にある。ただし、D区覆土(SD-14内・SK-272付近)からの出土遺物は、近世後半以降の陶磁器を主体とするが、須恵器、工業化製品の出土も確認され、溝状遺構等の遺構出土遺物の構成と似る点留意される。いずれにしても、各遺構の遺物出土状況については、遺物により遺構の時期を明確に判断し得ない。

3. 出土遺物

年代の明確な遺物は紀年銘のある板碑、銭貨である。遺物の編年から時期が推定されるのは、土師質土器小皿、内耳土器などである。調査区内を通じて出土割合が高い遺物は近世の陶磁器である。近世前半とみられるSE-213出土志野焼の皿や近世中期とみられる3次調査遺構外出土美濃焼の徳利なども出土するが、近世後半の陶磁器主体をなす。

各遺構から出土する個々の遺物の中で留意された点をは以下のとおりである。

〈板碑〉

板碑はSE-243から出土する。天蓋、種子(阿弥陀三尊)、蓮座の線刻下に「康暦元年(北朝1379年)」とみえる紀年銘、線刻が薄れ判然としないが、「○月」・「佛」の線刻から供養者名、願文等が明示されていたものとみられる。SD-19から出土する種子を線刻する板碑片と比べ、手が込んだ作りとみられることなどから、身分的に上層階級の造立が推察される。小支谷を挟んで隣接する千駄塚浅間遺跡内には小山氏に関連する氏族の居館とみられる仮称「十二所館」が位置する。地域性や時代性を鑑み、小山氏との関連を念頭におくべきか。また、奥大道推定ルート(第6図)から、街道を視野にした板碑の造立も考え得る。本節では、溝状遺構に区画された墓域に造立されたものが、年代を経て、「井戸鎮め」或いは湧水を祈念する習俗的祭祀に関わるなどして井戸跡に混入したものと判断しておきたい。

〈銭貨〉

銭貨は13枚が出土する。渡来銭7枚・詳細不明の3枚を含む。年代の判別が可能であるのは、2次調査遺構外出土「開元通宝」（唐代621年から約300年間）、SD-19出土「元豊通宝」（北宋1078年～）、SK-24出土「至道元宝」（北宋960-1127年）、3次調査SD-19出土「祥符通宝」（北宋1009年～）、2次調査遺構外出土「至大通宝」（元1310年頃）、SK-37出土「洪武通宝」（明1368年～）、SD-202出土「永楽通宝」（明1411年～）、3次調査遺構外から「寛永通宝」2枚・「文久永宝」、2次調査遺構外出土ニッケル硬貨「一銭」である。中世に流通したと考えられる渡来銭については、遺構配置から墓域に埋納された冥銭など埋葬儀礼に関わる可能性が考えられよう。

「至道元宝」の出土するSK-24、「洪武通宝」の出土するSK-37は方形竪穴遺構、方形竪穴遺構の可能性を残す土坑である。時期は判然としませんが、方形竪穴遺構であるSK-105から非ロクロ成形の土師質土器小皿が出土することから、SE-243出土板碑（「康暦元年」1379年）銘の板碑と同時代（13～14世紀代）の遺構である可能性が残る。方形竪穴遺構の性格を断定することは難しいが、遺構の配置をみると、地下式坑と近接して方形土坑群の外縁部に確認されることから墓域に関わる遺構とみられる。地下式坑との時期差は明確ではないが、形状による用途の分化はあろう。遺構の確認状況からは、堅固な施設は想定し辛く、簡易な上屋を設えた半地下式の施設である可能性が高い。前述のとおり、地下式坑については貯蔵穴の可能性を指摘した。方形土坑を墓域とすれば、この他に埋葬地にあるべきは供養をなす施設であろうか。

SK-24・37の出土遺物をみると、何れも砥石が伴出する。2次・3次調査においては、砥石の出土割合が高いが、銭貨とともに、埋葬儀礼に関わる遺物と考えられようか。

「寛永通宝」・「文久永宝」については、近世村落に関わる日常生活的な遺物の可能性が高いか。

〈土師質土器小皿〉

土師質土器は非ロクロ成形（SK-105）、ロクロ成形の土師質土器が出土する。小片が多いことや、遺物出土状況が不確かな遺構が多いことなどから、詳細の判然としない点が多いが、遺構配置等から中世墓域に関わる遺物と捉えるべきか。

〈内耳土器〉

内耳土器も破片が多く不詳な点が多いが、器高の高・低・中間の形状の出土が認められる。器高の高い形状はSK-41・42・240にみられる。口縁部下に屈曲がみられることから、16世紀代前後の所産か。器高の高・低中間の形状はSD-21にみられる。器高の低い形状はSK-374・SK-485・SD-376に残存状況の良い資料が出土する。既出のように、遺物の出土状況から遺構を推察することは難しいが、中世末～近世にかけての遺物とみられるか。

内耳土器の中には、補修孔とみられる小孔や、小孔を紐状のものでつないだとみえる痕跡が観察される。また、スズ状の付着物が顕著な例が多いことから、用途は日用雑記と判断される。土器の色調は赤褐色と灰色とに、胎土は雲母粒子を含むものと含まないものに大別される。色調の灰色の内耳土器については胎土に雲母粒子は含まない。

〈組揃え陶磁器〉

調査区内からは、形状・施軸の似た陶器、文様の似た磁器の出土がみられる。

SD-364からは第71図-37の陶器坏と形状・軸調の似た不掲載11片（3個体以上分）、38と軸調・形状の似た不掲載4片（3個体分）が出土する。

SK-374（重複するSD-364の遺物が主体か）から出土する磁器80片ほどの中に7種の同柄が認められる。

第118図-2と同柄の中丸碗（近世末葉～近代初頭か）は2を含め6個分以上、竹・笹・菊・人物文を描く中丸碗（近世後葉）は2個体分、網目文様を描く中丸碗（近世後半以降）は4個体分、網目文様を描く半筒碗（近世後半以降）は3個体分、草花文を描く半筒碗（近世後半以降）は4個体分、草花文（立花）を描く半筒碗（近世後半以降）は2個体分が出土する。

同一遺構内に留まらず、他所から同柄の陶磁器の出土も確認される。

SK-374の第118図-2と同柄の中丸碗は遺構内の6個体分の他、SK-489からも出土する。同じくSK-374から出土する外面無文・内面四方禪状の文様の半筒碗（近世後半）は、3次調査内出土第121図-25を含め2個体分、菊花文を描く皿は、2次調査遺構外出土を含め2個体分が出土する。内面に数個の円形を掛け合わせる陶器灰釉の皿は、SK-413、3次調査SD-13、3次調査遺構外出土（2片）に出土する。

何れも、粗拙な廉価品の類とみられる。調査区内出土の同柄が一組であったかは判然としないが、遺跡周辺に多くの流通があったものと判断できよう。

〈茶道具〉

近世とみられる遺物の中には茶道具の出土も確認される。

天目碗は4片が確認される。SE-77出土の天目碗は第4段階（第7～8小期 16世紀後葉～17世紀前葉）の美濃系か。SE-209出土の口縁部小片は第5段階（第9小期 17世紀前半か）の瀬戸・美濃系か。3次調査B区遺構外出土口縁部小片、SK-254出土体部小片、SD-364出土底部小片は近世の国内産か。

小片のため図示し得なかったが、3次調査遺構外（SD-14内掘乱）から出土する底部小片は茶入れの可能性がどうか。内面に軸軸が施されており、皿類の可能性も高いが、外面の無軸部の状況や底部から体部の立ち上がり、作り出し、大きさは肩衝き茶入れの底部に酷似する。仮に、茶入れであるとなれば、村落内において抹茶法による飲茶が行われていた可能性が高まる。

抹茶法による飲茶の要件としてあげられる茶筥・茶杓・建水等の調査区内における出土は確認されない。SD-14からは節を有する竹片（不掲載）が出土するが、茶筥の想定は難しい。また、残存状況からは比較的年新しい年代が想定され、近世のものとは判断されない。

石臼の出土はSD-14・19などに確認されるが、穀物用と判断されるものが多く、茶臼と確認できるものはない。茶臼が村落に具えられるようになるのは15世紀後半以降との論説や、挽き茶をなりわいとす挽き屋の登場など、茶臼の有無は飲茶の文化深度、ひいては村落の文化的環境を推察する手がかりとなろう。

〈容器〉

SD-21-28、D区遺構外（SK-272付近掘乱）出土する小型壺（美濃産）、3次調査D区遺構外出土不掲載の施軸陶器壺類体部（産地不明）の内面に漆の付着が観察される。漆の流通に使用されたものと考えられる。産地に拘らず容器が選定されたものか、容器の違いによって産地・品質等の違いがあった可能性などが考えられる。

SD-14第119図-12は常滑産と記載するが判然としない。内部にベンガラとみられる付着物が観察される。容器への利用は判然としない。

〈碁石〉

時期は判然としないが、SD-19-7・8など可能性のある小礫が出土する。比較的形状の整った平滑な小礫であり、表面は黒色で光沢を持つ。この他、石材・色調・形状・重さなどが似ることから、碁石、或いは遊具の可能性が考えられるものに、SK-114-3、SK-374-33、SK-41-17、SK-94-8、SK-104-2、SK-113-2、SK-221-1、SD-19-9・10 遺構外6・7がある。遺構配置などから、近世の可能性が推測される。

〈製鉄関連遺物〉

時期は判然としませんが、羽口とみられる筒型の土製品、鉄滓が出土する。

羽口とみられる土製品はSD-21、SK-485、SK-489などから出土する。何れも、被熱が観察され、片側端部にガラス質の溶解が観察される。径6.0cm前後、長さ15.0cm以上とみられる。鉄滓は表90・91のとおりである。工房等の痕跡が明確な遺構はないが、SK-845の硬化面については、現地調査の過程から、調査区内から出土する製鉄関連遺物（羽口・鉄滓等）を鑑み、鍛冶施設の可能性が指摘される。また、SK-374やSE-445から出土する石製品については、被熱や焼成の痕跡は観察されず、こね鉢と報告したが、あるいは坩堝等の可能性はあろうか。

〈用途不明の遺物〉

用途・時期の判然としない遺物は少なくないが、SK-94・SK-105（不掲載）出土の球形礫、SK-374出土の脚状の土製品をあげておきたい。

第4節 粟宮宮内遺跡2次・3次調査

2次・3次調査区は周知の遺跡である粟宮宮内遺跡の北西部（第6図）にあたる。遺跡の中心は、現4号国道（奥州街道・日光街道）を挟んだ東側にある。

今回の調査においては、溝状遺構に区画される方形土坑群、その外縁に位置する地下式坑・方形竪穴遺構などが確認され、中世の墓域が推定される。遺物の出土状況からは判然としませんが、板碑・土師質土器小皿・古瀬戸などの各遺物の時期からは14世紀以降の時期が推定される。「康暦元年（北朝1379年）」銘の板碑は井戸跡（SE-243）から出土するが、「井戸鎮め」或いは湧水祈念の習俗的祭祀に関わる可能性が考えられ、井戸跡との時期差が想定される。16世紀前後する時期には日用品とみられる内耳土器の出土がすることから、16世紀頃には墓域の意識、或いは、供養者への意識が希薄であった可能性を考え得る。14世紀から16世紀は、調査区以北に推定ルート（第6図）を持つ「奥大道（鎌倉街道中道）」の使用年代にあたる。調査区北西のお鍋塚墓地は「奥大道」ルート沿いにあたり、層塔・板碑五輪塔などの中世の石遺物が現存する。前述のとおり、遺跡の中心は現4号国道（奥州街道・日光街道）を挟んだ東側にあるが、中世墓域と推定される遺構配置からは、調査区以北の「奥大道」推定ルートとの関連を重視すべきであろう。調査区内からは、小片ではあるが龍泉窯系とみられる鎔蓮弁を除刻するとみられる青磁片の出土が確認される。小支谷を挟んで隣接する千駄塚浅間遺跡内には小山氏に関連する氏族の居館とみられる仮称「十二所館」が位置する。時代性・地域性を鑑み、1次調査の成果を併せ、小山氏や「奥大道」などとの関連を精査する必要がある。

出土遺物の主体は近世以降の時期にある。同一遺構の年代幅の大きい遺物の出土状況からは、帰属する遺構は判然としない。遺物の割合は近世後半以降の遺物量が多く、組揃えの廉価品とみられる陶磁器の出土が目立つほか、天目碗などの出土も確認される。調査区東側に近接する現4号国道は、近世においては「日光街道」であり、調査区は間々田宿-小山宿間に位置する。間々田宿助郷に制定された「粟宮」は粟宮宮内遺跡を含むものと考えられ、本調査区において近世以降の遺物が出土の主体をなすことに、日光街道に起因する人・物質の流通や消費・人の往来が大きく関与すると考えられる。前述のとおり、本調査区は、粟宮宮内遺跡の北西部にあたり、遺跡の中心からはやや外れるが、近世においては、街道沿いに集落が形成されたと推測され、遺跡全域における近世の遺構配置等から、本調査区を再考する必要がある。

附章 自然科学分析

栗宮宮内遺跡発掘調査に係る岩石肉眼鑑定業務

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

栃木県小山市に所在する栗宮宮内遺跡では、中世の年代を示す地下式坑や方形竈穴などの遺構が検出されている。今回の調査では、それらの遺構から出土した石器、石製品を中心として、石材鑑定を実施し、石材の産地について検討した。以下にその結果を報告する。

1. 試料

鑑定の対象とした試料は、石鏃 2 点、石鏃未製品 1 点、剥片 6 点、打製石斧 1 点、磨石 12 点、磨石? 2 点、石皿 6 点、石皿? 4 点、石棒 1 点、耳環? 1 点、石臼 4 点、石臼? 1 点、石鉢 1 点、砥石 48 点、砥石? 26 点、硯 6 点、碁石 9 点、碁石? 6 点、紡錘車? 1 点、板碑 22 点、板碑? 3 点、石材 3 点、被熱した礫 6 点、礫 52 点、礫? 3 点、小礫 97 点、小礫? 2 点、器種不明 19 の計 345 点である。出土遺構を鑑定結果とともに表 1 に示した。

2. 分析方法

平成 28 年 11 月 7 日および 12 月 8 日に、当社技師一名が栃木県埋蔵文化財センターに赴き、岩石肉眼鑑定を行った。岩石肉眼鑑定は、野外用ルーペを用いて行い、資料表面の鉱物や組織を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には、岩石薄片作成観察や、蛍光 X 線分析、X 線回折分析などを併用するが、今回は実施していないため、鑑定された岩石名は概率的な岩石名である点に留意されたい。

3. 結果

鑑定結果を表 1 に、器種別の石質組成を表 2 に示した。

鑑定の結果、石英斑岩 (奥日光)、流紋岩、安山岩 (第四紀)、スコリア質安山岩 (第四紀)、軽石凝灰岩、砂岩、シルト岩、チャート、鉱物の玉髓などが出土している。砥石に多用される流紋岩、板碑に使用される緑色片岩が出土点数の多い石材として認められた。また、礫および小礫では、軽石凝灰岩や砂岩、チャートが多い。試料については、写真撮影を行い、図版に代表的な岩石を示した。

4. 考察

思川流域には段丘堆積物が広く分布し、段丘堆積物を構成する礫・砂・シルトを主体とし、鬼怒川、思川水系に分布する地質を反映した礫が河床礫もしくは段丘礫として採取可能であると考えられる。以下の地質の概要は、日本の地質『関東地方』編集委員会編 (1986)、須藤ほか (1991)、山元ほか (2000) の記述に基づく。

足尾山地には中・古生層の年代を示す足尾帯が分布している。足尾帯を構成する地質は、足尾層群で、堅硬な頁岩、砂岩、チャートなどの堆積岩類を主要岩相とし、石灰岩や緑色岩類を伴う。

一方、鬼怒川流域には、白亜系～古第三系、新第三系、第四紀火山などの地質が分布している。上流域では、

前期白亜紀 - 古第三紀にかけて活動した珪長質火砕岩類が分布する。これらの活動時期は、前期白亜紀、後期白亜紀末から古第三紀前半の2つに分けられる。前期白亜紀の珪長質火成岩類としては、松木型花崗閃緑岩が栃木県足尾町に分布する。後期白亜紀末から古第三紀前半の珪長質火成岩類は、中禪寺湖周辺から南東部の栃木県塩谷町周辺に分布する奥日光流紋岩類と各地に分布する花崗岩、花崗閃緑岩、花崗斑岩および花崗閃緑斑岩などの貫入岩からなる。奥日光流紋岩類は膨大な流紋岩 - デイサイト溶結火砕流堆積物からなり、流紋岩溶岩、礫岩および砂岩を伴っている。このほか、花崗岩や花崗閃緑岩からなる沢入型花崗岩が分布している。

新第三系としては、下部中新統が認められ、栃木県塩原町周辺から宇都宮市周辺に分布する。この時代の地層は、大部分は珪長質の溶岩・火砕岩からなり、少量の玄武岩・安山岩火砕岩と非火山性の礫岩、砂岩および泥岩を伴っている。

第四紀火山は、鬼怒川流域に数多く分布し、女峰赤嶺火山、男体火山などの日光火山群や、高原山といった、玄武岩・安山岩 - デイサイト溶岩・火砕岩を構成物とする火山が点在している。他方、群馬県下では、赤城火山や武尊山の活動が知られている。赤城火山は、輝石安山岩およびデイサイトからなり、武尊山は前期更新世の安山岩溶岩・火砕岩からなる。

上記の地質背景をもとにして、今回鑑定対象とした岩石および鉱物について記述する。

半深成岩類の石英斑岩（奥日光）は、被熱した礫、礫、小礫に認められる。鬼怒川上流域の奥日光流紋岩類に類似する石英斑岩が散在する岩相を示し、堅硬緻密質である。硬質な岩相のため、下流域においても礫として採取可能であり、遺跡周辺でも容易に入手できると考えられる

火山岩類の黒曜石は、割片などに認められる。黒曜石は、高原山、神津島、和田峠などの産地が想定されるが、産地を正確に特定するには、成分分析を併用することが望まれる。流紋岩（奥日光）は、半深成岩類の石英斑岩（奥日光）と同様の産地が推定される。石英斑岩に伴って産するものとみられる。流紋岩は、砥石に多用されている（図版 1-2）。斜長石英斑岩が表面に散在し、緻密な岩相を示し、鬼怒川の中新統～鮮新統の流紋岩類に由来すると考えられる。デイサイトおよび輝石デイサイトは、磨石、礫などに認められる。新第三紀～第四紀の岩相を示す。新第三紀のデイサイトおよび輝石デイサイトは、上述の流紋岩と同様の地質に由来すると考えられる。第四紀の岩相を示すものは、北関東の第四紀火山に由来すると考えられる。多孔質輝石安山岩（第四紀）、輝石安山岩（新第三紀）、輝石安山岩（第四紀）、角閃石輝石安山岩、安山岩（新第三紀）、安山岩（第四紀）は、磨石、石皿、石臼、礫などに認められる。新第三紀の輝石安山岩および安山岩は、石基が変質しており、鬼怒川上流～中流域にかけて分布する新第三系に由来すると考えられる。第四紀の多孔質輝石安山岩、輝石安山岩、安山岩は未変質で新鮮な火山ガラスが認められ、北関東の第四紀火山の噴出物に由来するとみられる。スコリア質輝石安山岩（第四紀）、スコリア質安山岩（第四紀）、スコリア質安山岩は、磨石、石皿？、礫などに認められる。図版 1-3 に示すようにスコリア質で、同一火山を給源とする岩石の可能性が示される。

火山砕屑岩類の軽石凝灰岩は、礫および小礫などに多量に認められる。被熱しているものが多く、ベージュ色～緑色を帯び、中～多量の軽石を含むという岩相を示す（図版 1-4）。栃木県宇都宮市大谷地区から採石された大谷石に類似している。火山礫凝灰岩（大谷石）も同様の地質に由来する。結晶質凝灰岩（奥日光）、火山礫凝灰岩（奥日光）、溶結凝灰岩（奥日光）は、ソロバン玉状を示す石英斑岩が散在する岩相を示すことが多く、レンズ状に引き伸ばされている軽石が観察されるものが認められる。鬼怒川の上流域に分布する、奥日光流紋岩類に由来すると推測される。凝灰岩（古期）は、紡錘車？に使用され、奥日光流紋岩類に由来する

と考えられる。流紋岩質凝灰岩および凝灰岩（新第三紀）は、砥石？、礫、小礫に認められる。鬼怒川の中新統～漸新統に由来すると考えられる。軽石（角閃石）、スコリア（輝石）およびスコリアは、多孔質な岩相を示し、斑晶鉱物として角閃石や輝石が観察されるものもある。第四紀に活動した火山噴出物に由来するとみられる。

堆積岩類は、砥石、礫、小礫などに多量に認められる。このうち、礫質砂岩、砂岩（新第三紀）、砂岩、砂質頁岩、頁岩、泥質チャートおよびチャートは、足尾帯の主要岩相であり、堅硬緻密質である（図版1-5）。新第三紀の含礫砂岩および砂岩、凝灰質シルト岩、シルト岩は、礫および小礫などに使用されている。新第三紀の地質に由来すると考えられる軟質な岩相を示し、原産地近傍で採取された可能性が示唆される。

変成岩類のホルンフェルス、粘板岩、緑色片岩は、砥石、硯、碁石、板碑などに使用されている。ホルンフェルスは、一般には泥岩を源岩とし、地下深所で、花崗岩などの貫入による接触変成作用により生じた岩石である。足尾帯を構成する頁岩と花崗岩の接触変成部に存在する。粘板岩は、砥石や硯などに使用されているが、図版1-6に示されるように碁石などに使用されるものは、良質な岩相を示す。良質な粘板岩の著名な産地としては、宮城県雄勝町、滋賀県高島郡が挙げられる。緑色片岩は、板碑に使用されている。図版1-7に示されるように緑色片岩は、斜長石の点紋が散在する岩相を示し、荒川源流域に分布する三波川変成岩類に由来すると考えられる。

変質岩類の変質流紋岩、珪化流紋岩は、礫および砥石？に認められる。いずれも流紋岩の変質部～珪化部に生じる岩石で、小規模な分布を示す。

鉱物の石英および玉髄は、剥片や小礫に認められ、一般的には花崗岩や流紋岩などの細脈や晶洞部に充填して生じる鉱物である（図版1-8）。鬼怒川水系に分布する流紋岩類に随伴するものに由来している可能性が考えられる。

引用文献

- 日本の地質「関東地方」編集委員会編、1986、日本の地質3 関東地方、共立出版株式会社、335p。
 須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男、1991、20万分の1地質図幅「宇都宮」、地質調査所。
 山元孝広・滝沢文教・高橋 浩・久保和也・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久、2000、20万分の1地質図幅「日光」、産業技術総合研究所地質調査総合研究センター。

表1. 岩石肉眼鑑定結果 (1)

No.	遺構・出土位置	種類	石材	No.	遺構・出土位置	種類	石材
1	SK-1	打製石斧	輝石安山岩(第四紀)	82	P-692	礫	輝石凝灰岩
2	SK-1	小礫	輝石デイサイト(新第三紀)	83	SD-19	板碑	緑色片岩
4	SK-37	小礫	凝灰岩	84	SD-19	板碑	緑色片岩
4	SK-37	小礫	礫質砂岩	85	SD-19	板碑	緑色片岩
5	SK-37	小礫	凝灰質シルト岩	86	SD-19	板碑	緑色片岩
6	SK-41	削片	黒曜石	87	SD-19	板碑	緑色片岩
7	SK-41	削片	玉髄	88	SD-19	板碑	緑色片岩
8	SK-42	紡錘車?	凝灰岩(古期)	89	SD-19	板碑	緑色片岩
9	SK-43		チャート	90	SD-19	板碑	緑色片岩
10	SK-49	砥石?	流紋岩	91	SD-19	板碑	緑色片岩
11	SK-83	小礫	安山岩(新第三紀)	92	SD-19	板碑	緑色片岩
12	SK-83	礫?	粘板岩	93	SD-19	板碑	緑色片岩
13	SK-94		輝石凝灰岩	94	SD-19	削片	玉髄
14	SK-94	小礫	凝灰岩(新第三紀)	95	SD-19	砥石	安山岩(新第三紀)
15	SK-94	小礫	砂岩	96	SD-19	砥石	チャート
16	SK-104	基石	頁岩	97	SD-19	砥石	砂岩
17	SK-114	基石?	石英凝灰(奥日光)	98	SD-19	砥石	頁岩
18	SK-114	礫	石英凝灰(奥日光)	99	SD-19	砥石	砂岩
19	SK-114	礫	安山岩(新第三紀)	100	SD-19	基石	頁岩
20	SD-19	磨石	輝石デイサイト(新第三紀)	101	SD-19	砥石	チャート
21	SD-21	板碑	緑色片岩	102	SD-19	基石	粘板岩
22	SD-21	石皿	輝石安山岩(第四紀)	103	SD-19	基石	粘板岩
23	SD-21	礫	石英凝灰(奥日光)	104	SD-19	基石	チャート
24	SD-21	砥石	流紋岩	105	SD-19	基石	粘板岩
25	SD-21	砥石	石英凝灰(奥日光)	106	SD-19	砥石	石英凝灰(奥日光)
26	OYAW2_1	砥石?	凝灰岩(新第三紀)	107	SD-19	砥石	石英凝灰(奥日光)
27	OYAW2_1	礫	砂岩	108	SD-19	削片	玉髄
28	OYAW2_1	小礫	砂岩	109	SD-19	石臼	輝石安山岩(第四紀)
29	SE-77	石臼	輝石安山岩(第四紀)	110	SD-19	礫	輝石角閃石
30	SE-92	砥石	流紋岩	111	SD-19	石皿	輝石安山岩(第四紀)
31	SA-120	砥石	流紋岩	112	SD-19	石皿	輝石安山岩(第四紀)
32	OYAW2_1	砥石?	流紋岩	113	P-575	砥石	凝灰砂岩
33	OYAW2_1	板碑?	緑色片岩	114	P-575	被熱した礫	石英凝灰(奥日光)
34	II-3	礫	頁岩	115	P-575	被熱した礫	石英凝灰(奥日光)
35	III-1	削片	玉髄	116	P-575	被熱した礫	溶結凝灰岩(奥日光)
36	III-3	礫	頁岩	117	P-575	砥石?	頁岩
37	2区一拵	砥石?	頁岩	118	P-575	削片	玉髄
38	SD-19	板碑	緑色片岩	119	P-575-SK-601	礫	砂岩
39	SK-565	砥石	流紋岩	120	P-575-578	礫	砂岩
40	SK-565	砥石	チャート	121	P-575-580	砥石	チャート
41	SK-565	砥石	チャート	122	P-575-580	礫	粘板岩
42	SK-566	砥石	流紋岩	123	P-575-580	礫	粘板岩
43	SK-566	砥石	泥質チャート	124	P-575-580	礫	チャート
44	SK-566	石材	粘板岩	125	P-575-580	砥石	チャート
45	SK-566	石材	粘板岩	126	P-579	砥石?	安山岩(新第三紀)
46	SK-566	砥石	流紋岩	127	P-582	砥石?	砂岩
47	SK-567-568	石材	砂岩	128	P-582	砥石?	溶結凝灰岩(奥日光)
48	SK-567-568	石臼	輝石安山岩(第四紀)	129	P-582	小礫	デイサイト
49	SK-567-568	石皿	輝石安山岩(第四紀)	130	P-582	礫	粘板岩
50	SK-567-568	板碑	緑色片岩	131	P-582	砥石	流紋岩
51	SK-567-568	板碑	緑色片岩	132	P-582	砥石	柱状流紋岩
52	SK-567-568	板碑	緑色片岩	133	P-582	礫	凝灰岩(新第三紀)
53	SK-567-568	板碑	緑色片岩	134	P-587	板碑	緑色片岩
54	SK-567-568	石皿	安山岩(第四紀)	135	P-587	砂岩	砂岩
55	SK-567-568	砥石	流紋岩	136	P-593	被熱した礫	火山凝結灰岩(奥日光)
56	SK-567-568	砥石	石英凝灰	137	P-594-SK-598	小礫	安山岩(第四紀)
57	SK-567-568	磨石	石英凝灰(奥日光)	138	SE-230	礫	スコリア質安山岩
58	SK-567-568	磨石	輝石安山岩(新第三紀)	139	P-611-SK-612	砥石?	チャート
59	SK-567-568	砥石	砂岩	140	P-611-SK-612	礫	流紋岩
60	SK-567-568	磨石	スコリア質安山岩	141	P-611-SK-612	礫	輝石凝灰岩
61	SK-567-568	磨石	角閃石輝石安山岩	142	P-611-SK-612	礫	輝石凝灰岩
62	SK-567-568	石皿	安山岩(第四紀)	143	SK-615-619	礫	スコリア質安山岩
63	SK-567-568	礫	砂岩	144	SK-615-619	礫	デイサイト(新第三紀)
64	SK-567-568	磨石	砂岩	145	SK-615-619	礫	砂岩
65	SK-567-568	磨石	砂岩	146	SK-615-619	礫	チャート
66	SK-567-568	石鉢	安山岩(第四紀)	147	SK-615-619	礫	石英凝灰(奥日光)
67	SK-567-568	磨石	安山岩(第四紀)	148	SK-615-619	砥石?	流紋岩
68	SK-567-568	砥石	砂岩	149	SK-615-619	砥石?	砂岩
69	SK-567-568	砥石	砂岩	150	SK-241	礫	砂岩
70	SK-567-568	砥石	流紋岩	151	SK-623-625	礫	砂岩
71	SK-567-568	磨石	輝石安山岩(新第三紀)	152	SK-623-625	礫	粘板岩
72	SD-19	石臼?	安山岩(第四紀)	153	SK-623-625	砥石	流紋岩
73	SD-19	小礫	石英凝灰(奥日光)	154	SK-623-625	基石	粘板岩
74	P-611	礫	ホルンフェルス	155	SK-623-625	基石	粘板岩
75	SK-639	磨石	輝石デイサイト(第四紀)	156	SK-623-625	小礫	デイサイト(新第三紀)
76	SK-639	礫	頁岩	157	SK-627	砥石?	玉髄
77	SK-639	礫	石英凝灰(奥日光)	158	SK-627	砥石?	チャート
78	SK-639	石臼	輝石安山岩(第四紀)	159	SK-627	チャート	チャート
79	SD-642	砥石	泥質チャート	160	SK-627	礫	粘板岩
80	SD-642	板碑	緑色片岩	161	P-631	砥石	流紋岩
81	SK-645	砥石	粘板岩	162	P-632	砥石	流紋岩

表1. 岩石肉眼鑑定結果 (2)

No.	遺構・出土位置	種類	石材	No.	遺構・出土位置	種類	石材
163	SK-636	焼熱した礫	火山礫凝灰岩(奥日光)	244	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
164	SK-636	焼熱した礫	ホルンフェルス	245	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
165	OYAW3	基石?	スコリア質火山岩(第四紀)	246	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
166	OYAW3	基石?	チャート	247	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
167	OYAW3	基石?	チャート	248	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
168	OYAW3	基石?	チャート	249	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
169	SK-51	基石?	粘板岩	250	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
170	SK-66-1	石礫	砂岩	251	SD-374	小礫	火山礫凝灰岩(大谷石)
171	SK-41	基石?	流紋岩(奥日光)	252	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
172	SK-113	基石?	スコリア質火山岩(第四紀)	253	SD-374	石塊?	スコリア質火山岩(第四紀)
173	Ⅲ区	基石?	スコリア質火山岩(第四紀)	254	SD-374	石塊?	スコリア質火山岩(第四紀)
174	Ⅲ区	基石?	砂岩	255	SD-374	小礫	軽石凝灰岩14点
175	Ⅲ区	基石?	流紋岩	255	SD-374	小礫	シルト岩
176	Ⅲ-1	基石?	砂岩	255	SD-374	小礫	流紋岩
177	Ⅲ-1		頁岩	255	SD-374	小礫	土塊9点
178	C区 SD-13	石礫	流紋チャート	255	SD-374	小礫	シルト岩
179	SK-41	基石?	流紋岩(奥日光)	256	SD-376	小礫	シルト岩
181	SK-41	礫?	頁岩	257	SD-376	小礫	流紋岩
182	SK-43	基石?	ホルンフェルス	258	SD-376	小礫	流紋岩
183	SK-941	石礫 木製品	頁岩	259	SD-376	小礫	頁岩
184	SK-737	基石	流紋岩	260	SD-376	磨石?	スコリア質火山岩(第四紀)
185	SK-737	基石	流紋岩	261	SD-376	板碑?	砂岩
186	SK-737	基石	流紋岩	262	SD-376	板碑?	砂岩
187	SK-737	小礫?	流紋岩	263	SD-376	小礫	土塊
188	SK-737	小礫	チャート	264	SD-376	小礫	軽石凝灰岩
189	SK-737	小礫	スコリア(礫石)	265	SD-376	小礫	土塊
190	SK-737	小礫?	チャート	266	SD-376	小礫	土塊
191	SK-737	小礫	流紋岩?	267	SD-376	小礫	凝灰砂岩
192	SK-737	小礫	チャート	268	SD-376	小礫	シルト岩
193	SK-737	小礫	流紋岩	269	SD-376	小礫	石英凝灰岩(奥日光)
194	SK-737	小礫	流紋岩	270	SD-376	小礫	土塊
195	SK-737	礫	砂岩	271	SD-376	小礫	土礫片?
196	SK-737	礫	砂岩	272	SD-376	小礫	土礫片?
197	SK-737	礫	含礫砂岩(新第三紀)	273	SD-376	小礫	土礫片?
198	SK-737	礫	シルト岩	274	SD-376付皮	小礫	流紋岩
199	SK-737	礫	軽石凝灰岩	275	SD-376付皮	小礫	頁岩
200	SK-737	礫	軽石凝灰岩	276	SK-705	小礫	砂岩
201	SK-737	礫	軽石凝灰岩	277	SK-739付皮	小礫	チャート
202	SK-737	礫	軽石凝灰岩	278	P-741	板碑	緑色片岩
203	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	279	P-741	板碑	緑色片岩
204	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	280	P-741	砂岩(新第三紀)	砂岩(新第三紀)
205	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	281	SK-386	小礫	流紋岩
206	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	282	SK-386	小礫	粘板岩(足尾帯?)
207	SK-737	礫	軽石凝灰岩	283	SK-386	小礫	砂岩
208	P-744	基石	流紋岩	284	SE-405	小礫	軽石凝灰岩
209	SD-374	基石	流紋岩	285	SE-405	小礫	軽石凝灰岩
210	SD-374	基石	流紋岩	286	SE-405	小礫	砂岩
211	SD-374	基石	流紋岩	287	SK-435+436	小礫	チャート
212	SD-374	基石	流紋岩	288	P-741付皮	小礫	凝灰岩(新第三紀)
213	SD-374	基石?	チャート	289	P-741付皮	小礫	含礫砂岩(新第三紀)
214	SD-374	基石	流紋岩	290	SK-374	小礫	砂岩
215	SD-374	基石	流紋岩	291	SK-374	小礫	軽石凝灰岩
216	SD-374	基石	流紋岩	292	SK-374	小礫	軽石凝灰岩
217	SD-374	基石?	チャート	293	SK-374	頁岩?	火山岩(第四紀)
218	SD-374	基石	頁岩	294	SK-374	小礫	砂岩
219	SD-374	礫	粘板岩	295	SK-374	小礫	流紋岩
220	SD-374	小礫	砂岩	296	SK-374	小礫	砂岩(新第三紀)
221	SD-374	礫?	砂質頁岩	297	SK-374	小礫	砂岩
222	SD-374	石礫	砂岩	298	SK-374	小礫	頁岩
223	SD-374	礫?	流紋岩	299	SK-374	小礫	流紋岩
224	SD-374	小礫	シルト岩	300	SK-374	小礫	流紋チャート
225	SD-374	小礫	土塊	301	SK-374	小礫	砂岩
226	SD-374	礫	軽石凝灰岩	302	SK-374	小礫	砂岩(新第三紀)
227	SD-374	礫	軽石凝灰岩	303	SK-374	小礫	流紋岩
228	SD-374	小礫	玉髓	304	SK-374	小礫	シルト岩
229	SD-374	小礫	土塊	305	SK-374	小礫	シルト岩
230	SD-374	小礫	土塊	306	SK-374	小礫	頁岩
231	SD-374	小礫	土塊	307	SE-445	石塊?	スコリア質輝石火山岩(第四紀)
232	SD-374	小礫	土塊	308	SK-377	礫	流紋岩
233	SD-374	小礫	土塊	309	SK-469	礫	チャート
234	SD-374	小礫	結晶質凝灰岩(奥日光)	310	SK-469	礫	流紋質凝灰岩
235	SD-374	小礫	硬化流紋岩	311	SK-469	小礫	多孔質輝石火山岩(第四紀)
236	SD-374	礫	軽石凝灰岩	312	SK-485	基石?	粘板岩
237	SD-374	礫	軽石凝灰岩	313	B区カクラン	基石?	流紋岩
238	SD-374	礫	軽石凝灰岩	314	B区南カクラン	小礫	砂岩
239	SD-374	礫	軽石凝灰岩	315	B区北西カクラン	小礫	砂岩
240	SD-374	礫	軽石凝灰岩	316	B区北西カクラン	小礫	砂岩
241	SD-374	礫	軽石凝灰岩	317	B区北西カクラン	小礫	石英
242	SD-374	小礫	軽石凝灰岩	318	B区北西カクラン	小礫	石英
243	SD-374	小礫	軽石凝灰岩	319	B区北西カクラン	小礫	チャート
				320	B区北西カクラン	小礫	シルト岩

図版 1 岩石



1. 334 SK-485 礫 石英斑岩(奥日光)



2. 214 SD-374 礫石 流紋岩



3. 331 SK-485 石皿? スコリア質輝石安山岩(第四紀)



4. 199 SD-364 礫 軽石凝灰岩



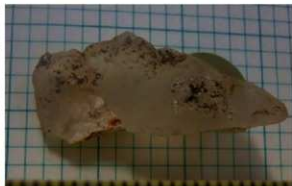
5. 261 SD-376 板碑? 砂岩



6. 154 S-250~252 礫石 粘板岩



7. 335 A区SE-243 板碑 緑色片岩



8. 94 SD-19 剥片 玉髓

写真図版



調査区遠景 - 思川をのぞむ (3次調査 A 区) - (西上空から)



調査区遠景 - 安房神社をのぞむ (3次調査 D 区) - (南上空から)

図版二
遺構



1～3次調査区全景



2次調査Ⅲ-2区全景（北西から）



2次調査Ⅲ-3区全景（北西から）



SK-1（地下式坑）・SK-2・3・16・122・123（東から）



SK-9（地下式坑）・10（地下式坑）（南から）



SK-15-17（地下式坑）（西から）



SK-25（地下式坑）（北東から）



SK-106（地下式坑）（北西から）



SK-114（地下式坑）（北東から）



SK-142 (地下式坑)・SK-144・SD-19 (南から)



SK-565 (地下式坑) (西から)



SK-705 (地下式坑)・SK-707 (方形竪穴)・SK-95・706 (北から)



SK-24 (方形竪穴)・SE-603・604 (南西から)



SK-105 (方形竪穴)・SK-101 (西から)



SK-109 (方形竪穴) (南西から)



SK-567 (方形竪穴) (南から)



SK-4・104 ((北東から)



SK-20 (南から)



SK-23 (南から)



SK-33・35・44・52・SD-64 (北東から)



SK-41 (南から)



SK-42・43 付近 (南から)



SK-42・43 付近遺物出土状況 (南から)



SK-46 (南から)



SK-47 (南東から)



SK-61 (北西から)



SK-82 (北東から)



SK-85 (北から)



SK-107 (南西から)



SK-111・155～159 (東から)



SK-113・228・229・P-189 (北から)



SK-115・137～139 (南東から)



SK-121 (北東から)



III-3区 L-10 グリッド付近土坑群 (北東から)



SE-13 (北東から)



SE-26 (南から)



SE-87 (西から)



SE-93 (南西から)



SE-118 (北東から)



SK-145-SE-110 (北東から)



SA-120 (北東から)



SD-19・21 (南東から)



SD-21 遺物出土状況 (西から)



SD-21 遺物出土状況 (東から)



SD-64 (北東から)



3次調査A区調査風景 (南西から)



3次調査D区全景 (西から)



SK-214 (地下式坑) (南から)



SK-370 (地下式坑) (南東から)



SK-338 (地下式坑) (北東から)



SK-338 (地下式坑) (南東から)



SK-374 (地下式坑)・SD-364 (北東から)



SK-204・762 (北東から)



SK-208 (西から)



SK-216 (西から)



SK-219 (西から)



P-19 グリッド SK-221 付近土坑群 (北から)



SK-241・259 (南西から)



Q-19 グリッド SK-211 付近土坑群 (北東から)



Q-19 グリッド SK-247 付近土坑群 (北から)



SK-255・256・264・266・SD-19 (北から)



SK-258 (南西から)



SK-260～262・SE-263 (北西から)



SK-314 (南東から)



SK-322・SE-321 (北東から)



SK-325・326 (西から)



SK-343 (北から)



SK-348～350 (北西から)



SK-365 (西から)



C区 L-11 グリッド付近 SK-418 周辺 (北西から)



SK-438 周辺 (南東から)



SK-485 (南西から)



SK-487 周辺 (南西から)



SE-203 (北から)



SE-209 (北西から)



SE-243 (東から)



SE-337 (北から)



SE-380 (南西から)



SD-13・14 全景 (北東から)



SD-14 湧水状況 (北東から)



SD-14 調査風景 (北東から)



SD-12 全景 (西から)



SD-19 (北から)



SD-202 (南西から)



SD-276 (北から)



SD-364・376 (南東から)



SD-379・393 (北から)

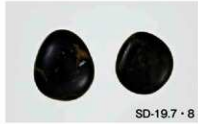


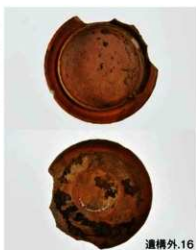
SX-491 (南から)



P-229 遺物出土状況 (南東から)







遺構外.16



遺構外.17



遺構外.19



SD-14.37



SD-19.15



SE-243.1

報告書抄録

ふりがな	あわのみやみやうちいせき
書名	粟宮宮内遺跡
副書名	快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第386集
編著者名	篠原浩恵
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市葉474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2017年3月30日（平成29年3月30日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 東 経		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
あわのみやみやうちいせき 粟宮宮内 遺跡	小山市 粟宮地内	小山市 57	16865	36° 17' 11"	139° 46' 50"	2次調査 20150803～ 20151130 3次調査 20160601～ 20170330	2次調査 3601.5㎡ 3次調査 2559㎡	道路整備事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
粟宮宮内 遺 跡	集 落 跡	中世・近世 ～ 近 代	地下式坑 14 方形竪穴遺構 5 土坑 371 井戸跡 43 溝状遺構 19 柵列 1 ピット 392 性格不明遺構 2	土師質土器小皿・内耳土 器・陶磁器・石製品・板碑・ 金属器・古銭 等	中・近世の 集落跡

要 約	<p>粟宮宮内遺跡は思川の東岸に位置する。官衙関連遺跡である千駄塚浅間遺跡は小枝谷を挟んで近距離に位置する。今回の調査では地下式坑・方形竪穴遺構・土坑等を複数確認した。特に、土坑は形状や主軸に共通性を持ち、重複、近接して群在する。周辺に位置する溝状遺構は群在する土坑群の区画溝とみられる。土坑と重複する井戸跡からは「康暦元年」銘の板碑が出土する。土坑に関連したものの混入と判断される。この他、「開元通宝」などの渡来銭や、中・近世の土師質土器、近世後半以降の陶磁器などが出土する。</p>
-----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 386 集

粟宮宮内遺跡

—快速で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線開中工区に伴う発掘調査—

発 行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田 1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

T E L 028 (643) 1011

編 集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

発行日 平成 29 年 3 月 30 日発行

印 刷 株式会社松井ビ・テ・オ・印刷
